PDFスタジオへようこそ2021年

PDF Studio-Windows、Mac、およびLinux用の手頃な価格の強力なPDFソフトウェア。

PDFStudio™はオールインワンで使いやすいPDFエディターであり、Adobe®Acrobat®やその他のPDFエディターの数分の1のコストで必要なすべてのPDF機能を提供します。 PDF Studioは、PDF標準との完全な互換性を維持します。

PDF Studioでは、次のことができます。

- PDFを作成する ゼロから、スキャンしたドキュメント、MS Word、MS Excel、MS PowerPoint、テキスト、および画像ファイル
- マージ、分割、組み立て ドキュメント
- PDFに注釈を付けるコメントとテキストマークアップ
- 記入して保存PDFフォーム
- でドキュメントを保護するパスワードと権限
- 追加ブックマーク、透かし、ヘッダーとフッター
- 作成および編集フォームフィールド Pro
- を使用してドキュメントにテキストを追加するOCR （テキスト認識）
- PDFコンテンツを編集する 直接（テキスト、画像、図形）Pro
- デジタルでPDFに署名する Pro
- 墨消し 画像を含む任意のドキュメントのコンテンツPro
- バッチ処理 一度に複数のPDFPro
- 精度測定ツール 距離、周囲長、面積を含む
- 満たすためにPDFドキュメントを検証および変換しますPDF /AISO規格 Pro
- とはるかに！

PDF Studioは、Qoppa Software独自のテクノロジーを使用して、PDFファイルを表示および変更します。プラットフォームに依存せず、Windows、Mac OS X、およびLinuxで実行できます。単にダウンロード、インストールして、すぐにPDFファイルの操作を開始します。

顧客サポート

PDF Studioを購入したユーザーは、無料のオンラインおよび電子メールのみのテクニカルサポートを受けられます。

オンライン

PDFStudioオンラインナレッジベース また**[ヘルプ]タブ>[ナレッジベース]**

ステップバイステップのチュートリアルと、PDFStudioに必要なほぼすべてのものに関する最も一般的な質問への回答が含まれています。

PDFStudio内

PDF Studio内から、にアクセスしてお問い合わせください**[ヘルプ]タブ>[メールサポート]**メールや質問を送ってください。これは、PDF Studioエラーログのコピーを提供してくれるので、私たちがあなたを支援するための最も効果的な方法であり、あなたが抱えている問題を解決するのに役立ちます。

Eメール

studiosupport@qoppa.com

PDF Studioの使用中に問題が発生し、上記のようにPDF Studio内から電子メールを送信できない場合にのみ、テクニカルサポートに直接電子メールを送信してください。お問い合わせの際は、問題の明確な説明、PDF Studioのバージョン、オペレーティングシステムの名前とバージョン、および問題を示すドキュメントやスクリーンショットを含めてください。
PDF Studioのバージョンとシリアル番号を確認するには、PDF Studioを起動し、[ヘルプ]タブから[PDFStudioについて]を選択します。

リリースノート

ドキュメントの更新とリリースノートについては、こちらのナレッジベースを参照してください（PDFStudio2022変更ログ）。

システム要求

インストール要件

- 400 MBのハードディスク空き容量（OCR言語パックには追加の容量が必要です）
- 製品のアクティベーション、インターネットサービス（Googleドライブ、DocuSignなど）、OCR言語、および製品の更新のためのインターネット接続
- ポインティングデバイスとキーボード

最小ハードウェア要件

- 1024 MBの空きRAM（システムメモリ）
- 画面解像度の最小値1024x768（高い方を強くお勧めします）

オペレーティングシステム

	プラットホーム	ダウンロード	指示
	Windows 11、Windows 10、Windows 8および8.1、Windows 7	Windows64ビット	Windowsの説明
	11（ビッグサー）、 macOS X：10.15（カタリナ）10.14、10.13	MacOSダウンロード	MacOSXの手順
	Mint、Ubuntu、Elementary OS、Fedora、Arch Linux、Debian、OpenSuse、CentOSなど… どのLinuxかわからない？	Linux64ビットダウンロード	Linuxの説明
	Linux32ビットおよびその他のUnix*- Raspbian（Raspberry Pi）、AIX、Solaris Intel、Solaris Sparc、HP-UX *ネイティブ機能（OCR、スキャン）はUnixでは使用できません。	Unixダウンロード	Unix命令

PDFStudioのインストール手順

以下の手順に従って、特定のオペレーティングシステムに基づいてPDFStudioをインストールしてください。

ノート：インストーラーは、マップされた/共有されたドライブではなく、実際のマシンに配置することをお勧めします。

Windowsの説明：

- 指示
  - ダウンロード後、PDFStudio_win64.exeをダブルクリックします。

Mac OS Xの手順：

- 指示
  - インストールファイルPDFStudio_mac64.dmgをダブルクリックしてディスクイメージをマウントしてから、マウントされたイメージをダブルクリックします
  - 最後に、インストーラーPDFStudioインストーラーをダブルクリックします。

Linuxの説明：

- 指示
  インストーラーをダウンロードした後、ターミナルウィンドウを開き、次の2つのコマンドを入力します。
  - 「cdDownloads」または「Downloads」をインストーラーをダウンロードしたディレクトリに置き換えます
  - sh./PDFStudio_linux64.sh。
  - これにより、インストーラーが起動します。

その他のUnix命令：AIX、Solaris、HP-UX

- 指示
  - インストーラーをダウンロードした後、シェルを開き、インストーラーをダウンロードしたディレクトリにcdします。
  - プロンプトで次のように入力します：sh./PDFStudio_unix.sh。これにより、インストーラーが起動します。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

登録/登録解除/転送

デモ版で実行する場合、ドキュメントを保存すると透かしがドキュメントに追加されます。フルプロダクションモードで実行するには、購入後に電子メールで送信されるライセンスキーを使用してPDFStudioをアクティブ化する必要があります。

登録/アクティベーション

以下のいずれかの方法を使用して、PDFStudioを登録/アクティブ化します

- PDF Studioを起動すると、試用ダイアログが表示され、クリックできる場所が表示されます。**アクティベート** ボタン。
- PDF Studioがすでに起動されている場合は、**ヘルプタブ>** **アクティベート**。

次に、ライセンスキーを入力し、指示に従ってソフトウェアをアクティブ化します

> **注意：***コンピューターがオフラインの場合は、一時的にオンラインにしてソフトウェアをアクティブにします。コンピュータをオンラインにできない場合は、PDFStudioカスタマーサポート 助けを求めて。*

デバイスの登録解除/非アクティブ化

PDF Studioをコンピューターからアンインストールしても、自動的に非アクティブ化されるわけではありません。コンピューターを移動する場合は、新しいコンピューターでアクティブ化する前に、まず古いコンピューターからPDFStudioを非アクティブ化します。

ライセンスで許可されているアクティベーションの最大数に達した場合は、使用しなくなったコンピューターでPDF Studioを非アクティブ化してから、別のコンピューターでアクティブ化する必要があります。

単一のデバイスの登録を解除する方法

に移動**ヘルプタブ>** **ライセンス情報** 「**登録解除**」ボタン。

> **注意：***コンピューターがオフラインの場合は、一時的にオンラインにしてソフトウェアをアクティブにします。コンピュータをオンラインにできない場合は、PDFStudioカスタマーサポート 助けを求めて。*

キー管理ツールにアクセスするには：

ライセンスキー管理ツールを使用して、ライセンスキーに登録されている現在のユーザーとマシンを表示または削除できます。

1. 現在登録されているマシンのいずれかでPDFStudioを起動します
2. に移動します**ヘルプタブ>** **ライセンス情報**ツールバー上

3. クリック**管理する** キーに関連付けられている登録済みユーザーとデバイスの現在のリストを表示するには
    - **注意**：*このオプションは、ユーザー数が10人以下のライセンスキーでのみ使用できます。*
4. 登録を解除する各ユーザー/デバイスの横にあるチェックボックスをオンにします
5. 「登録解除」ボタンをクリックしてください

ライセンスキーの転送

コンピューターを移動する場合、またはライセンスで許可されているアクティブ化の最大数に達した場合は、使用しなくなったコンピューターでPDF Studioを非アクティブ化してから、別のコンピューターでアクティブ化する必要があります。

1. 上記の指示に従って、スポットを解放する必要がなくなったユーザー/デバイスを非アクティブ化します
2. 非アクティブ化されたら、新しいデバイスにPDFStudioをダウンロードしてインストールします
3. ライセンスキーを使用して、新しいユーザー/デバイスをアクティブ化します

現在登録されているユーザー/デバイスを取得する

ユーザー数が10人以下のキーの場合は、新しいライセンスキー管理ツールを使用して、ライセンスキーに登録されている現在のユーザーとマシンのリストを表示します。

キー管理ツールにアクセスするには：

1. 現在登録されているマシンのいずれかでPDFStudioを起動します
2. [ヘルプ]タブに移動し、[ライセンス情報]をクリックします
3. [管理]をクリックして、キーに関連付けられている登録済みユーザーとデバイスの現在のリストを表示します

    注意：*このオプションは、ユーザー数が10人以下のライセンスキーでのみ使用できます。*

ボリューム（マルチユーザー/マルチキー）ライセンスのライセンスキー管理

10を超えるライセンスをお持ちのお客様には、新しいライセンスキーポータルにアクセスするためのサポートおよびアップグレード契約を提供しています。この機能は現在、リクエストがあった場合にのみ利用できます。

PDF Studio Support＆Upgrades契約の見積もりを受け取り、この新しいツールにアクセスするには、次の連絡先に連絡してください。 sales@qoppa.com。

アカウントがアクティブ化されると、新しいサービスにアクセスできるようになります ここに

ライセンスキー管理ツールの機能

新しいライセンスキー管理ダッシュボードにより、ITおよび管理者はユーザー登録を簡単に追跡および管理できます。また、必要に応じてユーザーを追加するための簡単なアクセスも提供します。新しいツールには次の機能があり、将来的にはさらに計画されています。

- 主要な管理およびサポートツールへのクイックリンクを備えたダッシュボード
- 1回のログインで複数のキーを要求する機能
- 次のようなライセンスキーの詳細を表示します：ユーザー数、トランザクションID、サブスクリプションステータス
- ライセンスキーごとにすべてのユーザー登録の詳細を表示/エクスポートする
- ユーザーを個別にまたはバッチで登録解除/非アクティブ化します

追加のライセンスキー管理機能のリクエストをに送信してくださ
い。 studiosupport@qoppa.com

デモ透かしの削除

デモ版で実行する場合、ドキュメントを保存すると透かしがドキュメントに追加されます。PDF Studioがデモモードで実行されているときにドキュメントを保存した場合は、PDFStudioがアクティブ化されたらデモの透かしを削除できます。

デモ透かしを削除する方法

に移動**ヘルプタブ>** **デモ透かしを削除する** 透かしを削除するには、以下のオプションのいずれかを使用します。

- **現在のドキュメント** -現在開いているドキュメントからPDFStudioデモの透かしを削除します
- **バッチ** -このオプションを使用して、バッチプロセスを開始し、複数のドキュメントからPDFStudioデモの透かしを削除します。見るバッチファイルの選択 バッチダイアログの使用方法については。

PDFStudio入門

PDFスタジオの使用を開始するには、アプリケーションを起動し、を使用してPDFドキュメントを開くだけです。ウェルカム画面、に行くことによって**[ファイル]タブ>[開く]**、またはOpenを使用する ツールバーのボタン。ドキュメントが読み込まれると、必要に応じてドキュメントをナビゲート、編集、印刷、または保存できます。

トップツールバー

メインツールバーは、PDFStudioウィンドウの上部にあります。リボンタブを使用して、PDFStudioで使用可能なツールの各セット間を移動します。オフィススタイルリボンツールバーはデフォルトのレイアウトであり、PDFStudioのすべての機能があります。必要に応じて、に切り替えることができますクラシックツールバー のツールバーの設定。

ドキュメントビューエリア

メインの中央フレームは、ドキュメントを表示するために使用されます。デフォルトでは、ドキュメントはタブ付きインターフェイスを使用して表示され、一度に複数のPDFを表示します。開かれた新しいPDFはそれぞれ、同じアプリケーションフレームの新しいタブでのみ開きます。タブ名には、そのタブで開いたPDFドキュメントの名前が表示され、表示するファイルの名前をクリックしてタブを切り替えることができます。

タブ付きドキュメントビューを無効にするには、に移動します一般的な設定。

ウェルカム画面

Theウェルカム画面 PDF Studioのメインフレームにあり、現在開いているドキュメントがない場合にのみ表示されます。ウェルカム画面では、最近の新しいファイルをすばやく開いたり、さまざまなソースからPDFを作成したり、ユーザーガイドやナレッジベースにアクセスしたりできます。

ペイン

ペインは、現在のドキュメントに関する追加のツールや情報を見つける場所です。これらのペインは、ペインの端をクリックしてドラッグすることでサイズを変更できます。ペインは、ペインの右上にある[x]をクリックするか、PDFStudioウィンドウの左側にあるトグルボタンを使用して完全に閉じることもできます。。

各パネルの詳細を以下に示します。

左ペイン

左側のペインには、4つの異なるビューのいずれかを表示できます。ビューは、画面の左側にあるそれぞれのボタン、または[表示]メニューから切り替えることができます。次のビューを使用できます。

ページ-ドキュメント内のすべてのページのミニチュアバージョンを表示します。サムネイルをクリックして、そのページに移動します。サムネイルは、ドキュメント内でドラッグアンドドロップしてページを移動したり、ドキュメント間でドラッグアンドドロップしてページを別のドキュメントにコピーしたりできます。ドラッグすることもできますサポートされているファイルタイプ サムネイルペインに追加して、PDFページとして追加します。

ブックマーク-ブックマークまたはドキュメントの目次（存在する場合）を表示します。ブックマーク ブックマークされた領域をナビゲートできるようにします。

目的地-表示、作成、管理PDFの宛先

添付ファイル-PDFドキュメントに添付されているファイルがある場合は、それを表示します。添付ファイルは閲覧、保存しました、 また削除。

レイヤー - 見るPDFレイヤー ドキュメントに含まれている場合。レイヤーのオンとオフを切り替えることで、レイヤーを切り替えることができます。

署名- 見るデジタル署名 ドキュメントに適用されている

権限 - 見るドキュメントのセキュリティ ドキュメントに適用されている

コンテンツ -cオンテントエクスプローラー PDFの内部構造を構成するコンテンツオブジェクトのリストを提供します

タグ-表示、作成、管理PDFドキュメントタグ

右ペイン

コメントコメント-ドキュメント内のコメント/注釈を表示します。リストから特定のコメントを選択して、特定のコメントに移動します。

私のコメントツールチェスト -頻繁に使用および保存されたコメントを表示します。コメントのいずれかをクリックすると、以前の注釈または保存した注釈を1回クリックするだけですばやく再利用できます。

下部ツールバー

下部のツールバーには、基本的なドキュメント情報と、ドキュメントのナビゲーションおよびページビューオプションが含まれています。

ページ情報

ページサイズ：表示中の現在のページのサイズ

カーソル座標：プリファレンスで設定された単位を使用した、カーソルのページ上の現在のXとYの位置

ナビゲーション

先頭ページ： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

ページ番号： 現在表示されているページと総ページ数を表示します。フィールドに数字を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。を使用したドキュメントページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

ページフィット

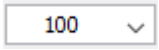
独身： 一度に1つの個別のページのみを表示します

シングル連続： 連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します

直面している： 一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

継続的に直面している： すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

 **ズーム先/現在のズーム：** 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ウェルカム画面

ウェルカム画面はPDFStudioのメインフレームにあり、現在開いているドキュメントがない場合にのみ表示されます。ウェルカム画面では、最近の新しいファイルをすばやく開いたり、さまざまなソースからPDFを作成したり、ユーザーガイドやナレッジベースにアクセスしたりできます。

ウェルカム画面オプション

最近のドキュメント

最近のドキュメントセクションには、PDFStudioで開いた最新の5つのPDFファイルが表示されます。このリストでファイルを開くには、開きたいファイルの名前をクリックするだけです。

ファイルを開く： 開くPDFドキュメントを選択するためのファイルチューザーを表示します

PDFを作成する

Create PDFを使用すると、PDFStudio全体で利用できる多くのPDF作成機能にすばやくアクセスできます。ツールを起動するために使用する機能をクリックするだけです。

イメージから：単一の画像ファイルをPDFに変換します のいずれかを使用してサポートされているファイルの種類

MSOfficeから：MicrosoftOfficeを変換します語、Excel ＆パワーポイント からPDFへのファイルサポートされているファイルの種類

複数のファイルから：複数のファイルをマージ/変換します 一度に1つのPDFを作成するPro

スキャナーから：起動しますスキャンダイアログ新しいPDFを作成するには

情報

オンラインナレッジベース -追加情報とチュートリアルを含むPDFStudioのオンラインナレッジベースを開くリンク

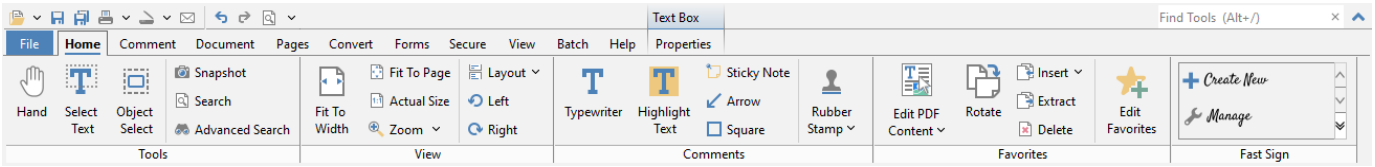
PDFStudioユーザーガイド -オンラインPDFStudioユーザーガイドを開くリンク

オプション

起動時にウェルカム画面を表示する -起動時にこのダイアログを表示したくない場合は、このオプションのチェックを外してください。この設定は、一般的な設定

PDFStudioリボンツールバー

ツールバーは、PDFStudioウィンドウの上部にあります。リボンタブを使用して、PDFStudioで使用可能なツールの各セット間を移動します。 Officeスタイルのリボンツールバーはデフォルトのレイアウトであり、PDFStudioのすべての機能があります。必要に応じて、に切り替えることができますクラシックツールバー のツールバーの設定。デフォルトのツールバーは、以下に示すように設定されています（Proバージョン）。



ツールバーの設定

あなたはアクセスすることができますツールバーの設定 に移動してダイアログ**[ファイル]タブ>[設定]** ツールバーを選択します。

リボンツールバーの説明

ファイル

プロパティ

を開きますドキュメントのプロパティ 現在開いているドキュメントの

作成

Create PDFを使用すると、PDFStudio全体で利用できる多くのPDF作成機能にすばやくアクセスできます。ツールを起動するために使用する機能をクリックするだけです。

イメージから：単一の画像ファイルをPDFに変換します のいずれかを使用してサポートされているファイルの種類

MSOfficeから：MicrosoftOfficeを変換します語、Excel ＆パワーポイント からPDFへのファイルサポートされているファイルの種類

複数のファイルから：複数のファイルをマージ/変換します 一度に1つのPDFを作成するPro

スキャナーから：起動しますスキャンダイアログ新しいPDFを作成するには

空白のページから：空白のPDFを作成します コンテンツなし

開ける

PDFドキュメントを開くか、サポートされているファイルタイプのいずれかをPDFに変換します。

最近のドキュメント：最近開いた200個のドキュメントのリストを表示します。右上の検索フィールドを使用すると、特定のドキュメントをより簡単に見つけることができます。

セッション：セッションマネージャを使用すると、最後に使用または保存したセッションを再度開くことができます

コンピューター：ローカルファイルチューザーを開きます開くファイルを選択します

URLから：指定したWebアドレスからPDFファイルを開く

グーグルドライブ：リンクされているファイルから直接サポートされているファイルタイプを開くグーグルドライブ

ドロップボックス：リンクされているファイルから直接サポートされているファイルタイプを開くドロップボックス

OneDrive：リンクされているファイルから直接サポートされているファイルタイプを開くOneDrive

場所を追加：P将来より迅速にアクセスできるように、ローカルディレクトリのリストに追加します。このフォルダには、[開く]パネルと[名前を付けて保存]パネルの両方からアクセスできます

- **場所を追加**：ボタンをクリックして、リストに追加するフォルダを選択します
- **削除する**： クリックしてください ✕ オープンリストから場所を削除します

保存

現在のドキュメントを保存します。ドキュメントに変更が加えられていない場合、このボタンは無効になります。

名前を付けて保存

現在のドキュメントを新しいファイルとして保存します。

コンピューター：ファイルチューザーを開いてファイルをローカルに保存します

グーグルドライブ：PDFドキュメントをリンク先に直接保存しますグーグルドライブ

ドロップボックス：PDFドキュメントをリンク先に直接保存しますドロップボックス

OneDrive：PDFドキュメントをリンク先に直接保存しますOneDrive

場所を追加：P将来より迅速にアクセスできるように、ローカルディレクトリのリストに追加します。このフォルダには、[開く]パネルと[名前を付けて保存]パネルの両方からアクセスできます

- **場所を追加**：ボタンをクリックして、リストに追加するフォルダを選択します
- **削除する**： クリックしてください ✕ オープンリストから場所を削除するには

ファイルサイズを減らす

を起動しますPDFオプティマイザー ドキュメントの最適化されたバージョンを作成し、ファイルサイズを縮小します。Pro

Eメール

内に設定された電子メールアプリケーションを使用して、現在のドキュメントを電子メールに添付しますメール設定。

送信

現在のドキュメントを次のような追加の統合に送信しますDocuSign と語

近い

現在開いているドキュメントを閉じます

すべて閉じる

PDFStudioで現在開いているすべてのドキュメントを閉じます

元に戻す/リロード

現在再オープンしているドキュメントを閉じて、最後に保存した状態で再度開きます

印刷

を使用して現在のドキュメントを印刷しますPDFStudioプリンターダイアログ。システム印刷ダイアログを使用するには、を参照してください。印刷設定。

アクションウィザード

1つまたは複数のファイルセットで複数のツールを実行するために使用できるドキュメントアクションを作成して開始します

環境設定

開くPDFスタジオの設定。 Ctrl+Kショートカットキーを使用してアクセスすることもできます

出口

現在開いているすべてのドキュメントを閉じ、PDFStudioをシャットダウンします

家

ツール

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内。

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

スナップショットを撮ります： 慣れているドキュメントの一部を画像として保存する。

探す：開始しますクイック検索 道具

高度 探す： を開始します高度な検索ツール

意見

幅に合わせる： PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します。

ページに合わせる： PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します。

実際のサイズ： スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致するように、ドキュメントを1：1の比率で表示します。

ズーム： プリセットのズーム率を選択するか、フィールドにカスタムズーム値を入力します。主ボタンは、最後に使用されたズームツールになります。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

ズームツール： ページ内の選択した領域にズームします。クリックしてドラッグし、ズームする長方形の領域を選択します。

レイアウト：現在のドキュメントのページレイアウトを設定します

独身： 一度に1つの個別のページのみを表示します

シングル連続： 連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します

直面している： 一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

継続的に直面している： すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

カバー： 見開きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます

連続カバー：フェーシングコンティニュアスを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます

ビューを反時計回りに回転します。 ドキュメント内のビューのみを反時計回りに回転します（**ノート：** *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。ページの回転を保存するには、を参照してください。ページの回転*）。

ビューを時計回りに回転： ドキュメント内のビューのみを時計回りに回転します（**ノート：** *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。ページの回転を保存するには、を参照してください。ページの回転*）。

コメントコメント

タイプライター： タイプライター注釈を作成します。

ハイライトテキスト： ドキュメントのテキストを強調表示するために使用されます。

付箋： 付箋の注釈を作成します。

矢印： 矢印注釈を作成します。

四角： 正方形の注釈を作成します。

ゴム印： ドキュメントにラバースタンプを配置するために使用されます。ボタンを直接クリックして最後に使用したスタンプを再利用するか、下矢印をクリックします ▼ 別のスタンプを選択するか、次のラバースタンプオプションから選択します。

- **標準**：PDF Studioに含まれる標準化されたスタンプ（承認済み、未承認、ドラフトなど）。
- **動的**：配置されると自動的に設定される日時も含まれる標準化されたスタンプ。
- **サイン ここ**：PDF Studioに含まれている標準化された署名スタンプ：ここに署名、ここにイニシャル、証人など...

お気に入り

お気に入りは、次の一般的なデフォルトで事前設定されていますが、でカスタマイズできますツールバーの設定 必要なツールを表示します。お気に入りグループは9つのツールに制限されています。

PDFコンテンツの編集Pro： あなたがすることができますコンテンツを編集する 選択したオプションを使用してPDF内で。

- **テキストと画像の編集：** あなたがすることができますテキストと画像を編集する PDFに直接インライン。
- **文章**：個人を編集するテキスト文字列 PDF付き
- **画像**： 編集画像 PDFに含まれています
- **パス**： 編集線と形 PDF内
- **シェード**： 編集日陰とグラデーション PDF内のオブジェクト

回転する：ページを90度刻みで回転させるオプション。

> **ノート：** *ページの回転は異なりますページビューの回転 これは一時的なものではなく、このツールを使用して行った変更により、保存時にドキュメント内のページが永続的に回転します。*

入れる：

- **空白のページを追加**：ドキュメントに空白のページを挿入します
- **ドキュメントを追加**：現在開いているドキュメントの最後に追加するPDFファイルを選択します
- **ページを挿入**：他のPDFドキュメントをPDF内で指定した場所に挿入します
- **ページとして画像をインポート**：画像をページとしてPDFに直接インポートします
- **スキャナーから：** スキャンからPDFを作成します
  - **WIA / ICA / Sane Directでスキャン：** を使用してスキャンしますPDFスタジオダイアログ。
  - **正気のデーモンでスキャンする**：開始正気のデーモンスキャン

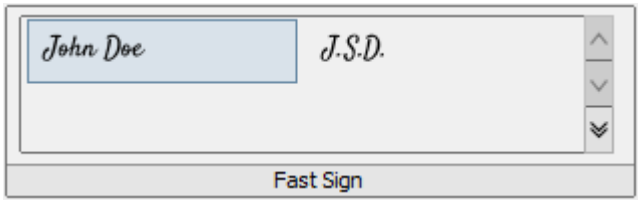
エキス：PDFからページを抽出するオプション

消去：現在のPDFからページを削除する

お気に入りの編集：設定ダイアログを開いて、お気に入りグループツールをカスタマイズします

ファストサイン

高速署名ツールを使用すると、ドキュメントに簡単に適用できる電子署名スタンプを作成できます。



ノート：「電子署名」（高速署名）は「デジタル署名」と同じではないことも理解することが重要です。電子署名（Fast Sign）は、画像や図面などのペンや紙の署名をグラフィカルに表現したものです。 Aデジタル署名 （グラフィック表現もある場合があります）には、その信頼性を検証するための一意の暗号化IDが含まれています。

コメント

ツール

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内。

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

文章

タイプライター： タイプライターコメントを作成します。

叫ぶ： コールアウトコメントを作成します。

テキストボックス： テキストボックスのコメントを作成します。

付箋： 付箋コメントを作成します。

マークアップ

ハイライトテキスト： ドキュメントのテキストマークアップを強調表示するために使用されます。

クロスアウトテキスト：ドキュメントのテキストマークアップを消すために使用されます。

下線テキスト：ドキュメントのテキストマークアップに下線を付けるために使用されます。

波線の下線テキスト：ドキュメントのテキストマークアップに波線で下線を引くために使用されます。

テキストの挿入：ドキュメントに挿入テキストマークアップを追加します。

テキストを置き換える：選択したテキストに置換テキストマークアップマークアップマークアップを追加します。

形

サークル： 円の注釈を作成します。

四角： 正方形の注釈を作成します。

エリアハイライト：ドキュメント上の領域を強調表示します。スキャンしたテキストを強調表示するときに便利です。

ポリライン：ポリライン注釈を作成します。

ポリゴン：ポリゴン注釈を作成します。

クラウド：雲の注釈を作成します。

ライン： 線の注釈を作成します。

矢印： 矢印注釈を作成します。

鉛筆：鉛筆の注釈を作成します。

切手

ゴム印： ドキュメントにラバースタンプを配置するために使用されます。ボタンを直接クリックして最後に使用したスタンプを再利用するか、下矢印をクリックします ▼ 別のスタンプを選択するか、次のラバースタンプオプションから選択します。

- **標準**：PDF Studioに含まれる標準化されたスタンプ（承認済み、未承認、ドラフトなど）。
- **動的**：配置されると自動的に設定される日時も含まれる標準化されたスタンプ。
- **サイン ここ**：PDF Studioに含まれている標準化された署名スタンプ：ここに署名、ここにイニシャル、証人など...

画像： 追加しますラバースタンプとしての画像 ドキュメントへの注釈。

作成：スタンプを作成するには、以下のオプションから選択してください

- **テキストスタンプの作成：** カスタムを作成するテキストスタンプ ラバースタンプリストに追加されます。
- **画像スタンプの作成：** カスタムを作成する画像スタンプ ラバースタンプリストに追加されます。
- **PDFスタンプを作成する**：作成するPDFスタンプ ラバースタンプリストに追加されます
- **カスタムスタンプの作成：** 作成するカスタムスタンプ ラバースタンプリストに追加されます。

管理： を開きますラバースタンプマネージャー ラバースタンプを作成/編集/削除します。

測定Pro

距離： を測定するために使用されます距離 ドキュメントの2つのポイントの間。

周囲長：を測定するために使用されます周囲 複数の接続された回線を使用してドキュメントに。

領域： 指定されたものを測定するために使用されます領域 ドキュメントに。

メディア

リンク：慣れているリンクを作成する ドキュメント内。

- **リンクを作成**：リンクツールを起動してリンクを作成する ドキュメント内
- **リンクの自動作成**：以前のツールリンクを自動的に作成 ドキュメント内で見つかったテキストに基づく
- **すべてのリンクを削除**：すべてのリンクを削除します ドキュメント内で見つかりました

音： 追加しますサウンドコメント ドキュメントへの添付。

ファイルを添付する：PDFにファイルを添付します コメントなし。下矢印をクリックします コメント付きのファイルをドキュメントに添付します。

3Dを追加：ドキュメントに3Dコンテンツを作成するために使用されます

コメントコメント

意見：を表示しますコメントパネル

書き出す：オプションすべてのコメントをエクスポート 別のファイルに

輸入：オプションコメントのインポート FDF、XFDF、またはPDFファイルのいずれかから現在のドキュメントに。

平らにする：コメントをフラット化 それらが属するページに直接表示されるため、編集できなくなります。

消去：コメントをすべて削除する 現在のページまたはドキュメント全体

匿名化：コメントと注釈を匿名化する PDFドキュメント内のコメントまたは注釈からすべての個人を特定する情報を削除する。

書類

ツール

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内。

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

コンテンツ

墨消しPro： コンテンツをマークします編集。

PDFコンテンツの編集Pro： あなたがすることができますコンテンツを編集する 選択したオプションを使用してPDF内で。

- **テキストと画像の編集**： あなたがすることができますテキストと画像を編集する PDFに直接インライン。

- **文章**：個人を編集するテキスト文字列 PDF付き
- **画像**： 編集画像 PDFに含まれています
- **パス**： 編集線と形 PDF内
- **シェード**： 編集日陰とグラデーション PDF内のオブジェクト

テキストを追加：ページに新しいテキストを作成します

画像を追加：ドキュメントに追加するコンテンツとして画像をインポートします

形状を追加：新しい形状コンテンツ（円、正方形、線など）をPDFに追加します

PDFを処理する

OCRPro：スキャンしたドキュメントまたは画像にテキストを追加して、他のテキストドキュメントと同じようにドキュメントを検索またはマークアップできるようにします。

最適化Pro：PDFファイルのサイズを小さくするために、画像を圧縮するか、オブジェクトを削除します。次のドロップダウンオプションが含まれています。

- 最適化...：カスタム最適化ダイアログを開始します
- 監査：最適化監査を実行して、ドキュメントのどの要素が最も多くのスペースを使用しているかを示します
- アグレッシブ：アグレッシブな最適化プロファイルを開始します-高品質の画像を維持する軽い圧縮
- バランス：バランスのとれた最適化プロファイルを開始します-ほとんどの標準的なニーズに適した圧縮
- 光：光の最適化プロファイルを開始します-画質を犠牲にして高圧縮

スキャンを修正Pro：スキャンを強化してデスキューし、検索可能なテキストを最適化および追加します

比較

かぶせるPro：異なる色を使用して2番目のドキュメントを最初のドキュメントにオーバーレイして、ドキュメントを視覚的に比較し、違いを表示します。

並んでPro：2つのPDFドキュメントを同じウィンドウで並べて開き、視覚的に比較します。

印刷物の制作

プリフライト：ドキュメントがISOPDF標準で定義されているさまざまなアーカイブコンプライアンスを満たしていることを確認するためのコンプライアンス検証。

面付け：PDF面付けレイアウトのプレビューと作成を可能にする高度な面付けモジュール。

出力プレビュー：さまざまなICCカラープロファイルに基づいてドキュメントがどのように見えるかをシミュレートし、印刷されたバージョンがどのように見えるかを正確にプレビューします。

フォームデータ

フィールドをリセット：フォームのすべてのフィールドのデータをリセットします。

平らにする：フォーム内のすべてのフィールドをフラット化します。

書き出す：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、XDP、またはXML形式のファイルにエクスポートします。

- **FDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式
- **XFDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式
- **XDP**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたXMLデータパッケージ
- **CSV**：コンマで区切られたデータのリストを含むプレーンテキストファイル
- **XML**：カスタムタグを使用して、ドキュメントの構造やその他の機能を説明するファイル。
- **文章**：すべてのフォームデータをタブ区切り形式でエクスポートするプレーンテキストファイル

輸入：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、XDP、またはXML形式のファイルにインポートします。

- **FDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式
- **XFDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式
- **XDP**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたXMLデータパッケージ

フィールドを強調表示：フォーム内のすべてのフィールドを強調表示して、見つけやすくします。

ページ

ツール

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内。

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

ナビゲーション

ブックマーク：PDFドキュメント内にブックマークを作成します。

- **ブックマークを作成する**：現在のページの場所を使用してブックマークを作成します
- **ブックマークの自動作成**：ドキュメントのすべてのページのブックマークを自動的に作成します

リンク：慣れているリンクを作成する ドキュメント内。

- **リンクを作成**：リンクツールを起動してリンクを作成する ドキュメント内
- **リンクの自動作成**：以前のツールリンクを自動的に作成 ドキュメント内で見つかったテキストに基づく
- **すべてのリンクを削除**：すべてのリンクを削除します ドキュメント内で見つかりました

目次：既存のドキュメントブックマークを使用して目次を作成します

ページマーク

ヘッダーとフッター：ヘッダーとフッターを追加または削除します

- **追加**：追加するツールを開始しますヘッダーまたはフッター ドキュメントに
- **削除する**：すべてのヘッダーを削除します ドキュメントのすべてのページのフッター。

透かし：ドキュメントの透かしを追加または削除します

- **追加**：追加するツールを開始します透かし ドキュメントに
- **削除する**：すべての透かしを削除します ドキュメントのすべてのページから。

ページ

入れる：さまざまなページやコンテンツをドキュメントに挿入するオプション

- **空白のページを追加**：ドキュメントに空白のページを挿入します
- **ドキュメントを追加**：現在開いているドキュメントの最後に追加するPDFファイルを選択します
- **複数のドキュメントを追加する**：複数のファイルをマージします 現在開いているドキュメントに一度に追加する Pro
- **ページを挿入**：他のPDFドキュメントをPDF内で指定した場所に挿入します
- **ページとして画像をインポート**：画像をページとしてPDFに直接インポートします
- **スキャナーから：** スキャナーからPDFを作成します

- **WIA / ICA / Sane Directでスキャン：** を使用してスキャンしますPDFスタジオダイアログ
- **正気のデーモンでスキャンする**：開始正気のデーモンスキャン

スプリット：さまざまな方法でPDFドキュメントを分割するためのツール。Pro

回転する：ページを90度刻みで回転させるオプション。

ノート：ページの回転は異なりますページビューの回転 これは一時的なものではなく、このツールを使用して行った変更により、保存時にドキュメント内のページが永続的に回転します。

切り抜きページ： あなたがすることができます作物 PDFページ

消去：現在のPDFからページを削除する

エキス：PDFの一部を別のドキュメントに抽出します。

交換：別のPDFのページを使用してPDFのページを置き換える

逆行する：PDF内のページの順序を自動的に逆にします。

高度Pro

サイズ変更：ページのサイズを指定したサイズに変更します。Pro

テンプレート：ドキュメント内のJavaScriptトリガーまたはアクションに基づいて追加または表示できる、PDF内に保存されている追加のページを作成/編集します。Pro

ラベルページ：ブックマークや標準のページ番号とは異なる名前や番号を設定します。Pro

変換

ツール

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内。

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

PDFを作成する

スキャナーから： スキャナーからPDFを作成します

- **WIA / ICA / Sane Directでスキャン：** を使用してスキャンしますPDFスタジオダイアログ。
- **正気のデーモンでスキャンする**：開始正気のデーモンスキャン

イメージから： サポートされている画像ファイルタイプ*png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、*tiffのいずれかからPDFを作成します。 （（PDFへの画像 設定は[設定]ダイアログにあります）

Wordから：Wordの.docおよび.docxファイルからPDFを作成します（WordからPDF フォント設定は[設定]ダイアログにあります）

Excelから：Excelの.xlsxファイルからのみPDFを作成します（ExcelからPDFへ フォント設定は[設定]ダイアログにあります）

Excelから：PowerPoint .pptxファイルからのみPDFを作成します（ExcelからPDFへ フォント設定は[設定]ダイアログにあります）

新しいドキュメント：空白のPDFを作成します コンテンツなし

複数のファイルから：複数のファイルをマージ/変換します 一度に1つのPDFを作成するPro

に変換

文章：PDFドキュメントに含まれるすべてのテキストをプレーンテキストの.txtファイルに抽出します。

リッチテキスト：PDF内のすべてのテキストをフォーマットされた.rtfファイルに抽出します

画像：PDFドキュメントのページを次の画像形式に変換します.jpg、.png、.tif、.gif

高速WebビューPro：高速Webビューに変換して、Webからダウンロードするときに大きなドキュメントをより高速にロードできるようにします。

HTML5 / SVG Pro：PDFドキュメントをHTML5Webページに変換します。

語Pro：次のオプションがあります。

- **.Docxに変換する**：この変換オプションは、QoppaSoftwareの新しいカスタム変換エンジンを使用します。これは2022年にリリースされ、現在ベータ版の新機能です。すべてのPDF機能が新しいWordファイルでサポートまたは作成されるとは限りません。
- **Wordに送信**：コンピュータにインストールされているMicrosoft Officeアプリケーションとの直接接続を使用して、PDFドキュメントをMicrosoftWordファイルに変換します。*有効なバージョンのMicrosoftWord（2013以降）が必要です。*

PDF / A Pro：ファイルをPDF / A形式に変換します。これは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDF / X Pro：ファイルをPDF / X形式に変換します。これは、ISOPDF仕様の厳密なサブセットです。標準のPDFファイルには適用されない一連の印刷関連の要件。これらは行われますドキュメントが保存されたときとまったく同じように印刷されることを意図して。

フォームPro

ツール

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

タイプライター： タイプライター注釈を作成します。

田畑

テキストボックス：テキストボックスフィールドを作成します

チェックボックス：チェックボックスを作成します

ラジオボタン：ラジオボタンを作成します。ラジオボタンの新しいグループを作成するには、下矢印をクリックします ツールバーのラジオボタンの右側で、[**新しい**。これにより、ラジオボタンの新しいグループが開始されます。

コンボボックス：コンボボックスを作成します

リストボックス：リストボックスを作成します

ボタン：プッシュボタンを作成します

サイン：デジタル署名フィールドを作成します

画像ボタン：画像ボタンを作成します

日付フィールド：次の形式m / d/yyを使用して日付フィールドを作成します

フォームデータ

計算順序：ドキュメント内のフォームフィールドの計算順序を設定できます

フィールドをリセット：フォームのすべてのフィールドのデータをリセットします。

書き出す：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、XDP、またはXML形式のファイルにエクスポートします。

- **FDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式
- **XFDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式
- **XDP**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたXMLデータパッケージ
- **CSV**：コンマで区切られたデータのリストを含むプレーンテキストファイル
- **XML**：カスタムタグを使用して、ドキュメントの構造やその他の機能を説明するファイル。
- **文章**：すべてのフォームデータをタブ区切り形式でエクスポートするプレーンテキストファイル

輸入：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、XDP、またはXML形式のファイルにインポートします。

- **FDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式
- **XFDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式
- **XDP**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたXMLデータパッケージ

平らにする：フォーム内のすべてのフィールドをフラット化して、編集できなくなるようにします。

意見

プレビューフォーム：フォーム編集モードを切り替えて、[フォーム]タブにとどまりながらフィールドをテストできるようにします

タブオーダーを表示：編集モードの場合、フィールドのタブオーダー番号を表示します

フィールドを強調表示：フォーム内のすべてのフィールドを強調表示して、見つけやすくします

定規を表示する：ドキュメント表示領域でのルーラーの表示を切り替えます

グリッドを表示：PDF上部のグリッド表示を切り替えます

安全

Tools

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内

ドキュメントを保護する

ドキュメントのセキュリティ：PDFドキュメントのパスワードと権限を変更する

サニタイズ：ドキュメントのページを画像に変換し、すべての機密情報を削除します

デジタル署名

デジタル署名Pro：次のことができますデジタル署名 現在のPDF

証明書の文書Pro：デジタル署名 ドキュメントが変更されないようにするための追加のドキュメントセキュリティオプションを備えた現在のPDF。

タイムスタンプPro：デジタルドキュメントのタイムスタンプをPDFに追加します

署名フィールドの追加Pro：デジタル署名フィールドを作成します

デジタルIDPro：PDFStudioで使用されるデジタルIDを管理する

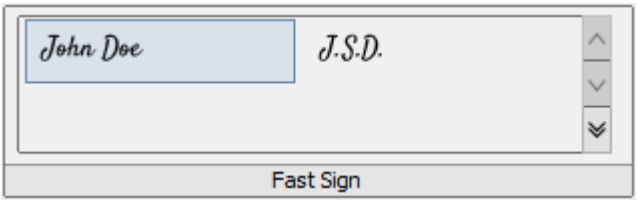
タイムスタンプサーバーPro：PDFStudioで使用されるタイムスタンプサーバーを管理する

信頼できる証明書：PDFStudioで使用される信頼できる証明書を管理する

Docusign©：DocuSign©サービスを使用してドキュメントを送信または署名できます

ファストサイン

高速署名ツールを使用すると、ドキュメントに簡単に適用できる電子署名スタンプを作成できます。



ノート：「電子署名」（高速署名）は「デジタル署名」と同じではないことも理解することが重要です。電子署名（Fast Sign）は、画像や図面などのペンや紙の署名をグラフィカルに表現したものです。 Aデジタル署名 （グラフィック表現もある場合があります）には、その信頼性を検証するための一意の暗号化IDが含まれています。

意見

ズーム

ルーペツール： PDFを拡大して細部を表示するズームウィンドウを表示します。

パンとズーム： 現在画面に表示されているページの一部を表示するウィンドウ。赤いボックスをドラッグして、ドキュメントの表示を調整します。

ズーム： プリセットのズーム率を選択するか、フィールドにカスタムズーム値を入力します。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

ズームツール： ページ内の選択した領域にズームします。クリックしてドラッグし、ズームする長方形の領域を選択します。

幅に合わせる： PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します。

ページに合わせる： PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します。

実際のサイズ： スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致するように、ドキュメントを1：1の比率で表示します。

画面

ビューを反時計回りに回転します。 ドキュメント内のビューのみを反時計回りに回転します（**ノート：** *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。ページの回転を保存するには、を参照してください。ページの回転*）。

ビューを時計回りに回転： ドキュメント内のビューのみを時計回りに回転します（**ノート：** *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。ページの回転を保存するには、を参照してください。ページの回転*）。

レイアウト：現在のドキュメントのページレイアウトを設定します

独身： 一度に1つの個別のページのみを表示します

シングル連続： 連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します

直面している： 一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

継続的に直面している： すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

カバー： 見開きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます

連続カバー： フェーシングコンティニュアスを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます

定規を表示する：ドキュメント表示領域でのルーラーの表示を切り替えます

グリッドを表示：PDF上部のグリッド表示を切り替えます

ナビゲート

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

先頭ページ： ドキュメントの最初のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

意見

分割ビュー：現在開いている同じドキュメントの2つの別々のビューを表示します

色を反転：PDFドキュメントをレンダリングするときに色を反転します

細い線を強調する：すべての行を1pxの最小幅に変換します

カーソル位置：カーソル座標の表示を切り替えます

モード

読書モード：すべてのツールバーとペインを非表示にして、読書体験を向上させます。

フルスクリーンモード：非表示のドキュメントのみを表示しますメニューバー、ツールバー、作業ウィンドウ、およびウィンドウコントロール。

タッチモード： タッチモードを有効/無効にします

大声で読み上げる：テキスト読み上げ（TTS）ツール障害を持つユーザーを支援するために、ドキュメントのテキストを大声で読み上げます。

窓

カスケード：すべてのPDF Studioウィンドウを再配置して、互いの上にずらして配置します

タイル：各フレームが同じサイズで表示されるように、すべてのPDFStudioウィンドウを画面領域全体で水平または垂直に再配置します

すべてを最小化：すべてのPDFStudioウィンドウを最小化する

オープンフレーム：PDFStudioで開いている各ドキュメントのプレビューを表示します。プレビュー画像をクリックして、そのPDFStudioウィンドウを前面に表示します。

バッチPro

アクションウィザード

1つまたは複数のファイルセットで複数のツールを実行するために使用できるドキュメントアクションを作成して開始します

アクションを実行する -以前に作成したアクションを実行します

新しいアクションを作成する -新しいカスタムアクションを作成して保存します

アクションの管理 -既存のアクションを表示および管理します

コメントコメント

すべてのコメントを一括削除：PDFのバッチからすべてのコメントと注釈を削除します

すべてのコメントをバッチエクスポート：すべてのコメントを指定された形式にエクスポートします

すべてのコメントをバッチフラット化：PDFのバッチからのすべてのコメントと注釈をフラット化します

書類

ドキュメントのバッチマージ：PDFのバッチを単一のドキュメントにマージします

バッチOCRドキュメント：PDFのバッチをOCRして、検索可能なテキストを追加します

バッチ最適化：PDFのバッチを最適化して、ファイルサイズを縮小します

バッチプリフライト：PDFのバッチに対してさまざまなPDF標準を使用してドキュメントのコンプライアンスを確認します

バッチセットの初期ビュー：PDFのバッチの初期ビュー設定を設定します

バッチセットのセキュリティ：PDFのバッチのセキュリティ設定を設定します

バッチサイン：PDFのバッチにデジタル署名を追加する

ページ

バッチクロップページ：PDFのバッチを切り抜く

ページのバッチ削除：バッチ内の各PDFから選択したページ範囲を削除します

ヘッダーとフッターのバッチ適用：PDFのバッチにヘッダーやフッターを追加します

ページのバッチサイズ変更：PDFのドキュメントページサイズを変更する

ページをバッチ回転：PDFのバッチ内のすべてのページをローテーションします

透かしをバッチ適用：PDFのバッチに透かしを追加します

バッチ印刷：PDFのバッチを印刷する

バッチ分割ドキュメント：ドキュメントのバッチを分割する

に変換

HTML5/SVGへのバッチ変換：PDFのバッチをHTML5/SVGファイルに変換します

ページを画像としてバッチ抽出：ページをPDFのバッチから画像に変換します

PDFをバッチラスタライズ：ベクターコマンドの代わりにページの画像を使用してドキュメントを再作成します。

ファイルをPDFにバッチ変換：のバッチを変換するサポートされているファイル PDFへ

PDF/Aへのバッチ変換：PDFのバッチをPDF/Aに変換する

PDFからテキストをバッチ抽出：PDFのバッチからテキストを抽出します

フォーム

バッチエクスポートフォーム：PDFのバッチからフォームフィールドデータをエクスポートする

すべてのフィールドをバッチフラット化：PDFのバッチからすべてのフィールドをフラット化します

バッチリセットフィールド：PDFのバッチからフィールド値をリセットします

プロパティ

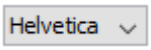
Tools

手： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグしますテキストを選択 ドキュメント内。

オブジェクト選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

フォント

 **フォント：** 選択した注釈のフォントを設定します。

サイズ： 選択した注釈のフォントサイズを設定します。

テキストの色： 選択した注釈のフォントの色を設定します。

大胆な： 選択した注釈またはテキストを作成します**大胆な**。

イタリック： 選択した注釈またはテキストを作成します*イタリック*。

下線を引く：選択した注釈またはテキストを作成します下線付き

取り消し線：選択した注釈またはテキストを~~取り消し線~~

左のテキストの配置： 選択した注釈のテキストの配置を設定します。

センターテキストの配置： 選択した注釈のテキストの配置を設定します。

正しいテキストの配置： 選択した注釈のテキストの配置を設定します。

スタイル

塗りつぶしの色： 選択したオブジェクトの塗りつぶしの色を選択できます。

ボーダの色： 選択したオブジェクトの境界線の色を選択できます。

 線幅： 選択したオブジェクトの境界線の幅を設定します。

透明性： 選択したオブジェクトの透明度を設定します。

整列

左揃え： 選択したオブジェクトを左揃えにします。

センターの整列：選択したオブジェクトを中央に揃えます。

右揃え：選択したオブジェクトを右揃えにします。

上に揃える：選択したオブジェクトを上に揃えます。

中央に揃える：選択したオブジェクトを中央に揃えます。

下に揃える：選択したオブジェクトを下に揃えます。

分配します

水平に分散する：選択したオブジェクトを水平方向に均等に分散します。

垂直に配布：選択したオブジェクトを垂直方向に均等に分散します。

サイズ

幅を揃える：選択したオブジェクトの幅を揃えます。

高さを揃える：選択したオブジェクトの高さを揃えます。

両方を揃える：選択したオブジェクトの幅と高さの両方を揃えます。

下部ツールバー

下部のツールバーには、基本的なドキュメント情報と、ドキュメントのナビゲーションおよびページビューオプションが含まれています。

ページ情報

ページサイズ：表示中の現在のページのサイズ

カーソル座標：プリファレンスで設定された単位を使用した、カーソルのページ上の現在のXとYの位置

ナビゲーション

先頭ページ： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

1 of 12 **ページ番号：** 現在表示されているページと総ページ数を表示します。フィールドに数字を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。を使用したドキュメントページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

ページフィット

独身： 一度に1つの個別のページのみを表示します

シングル連続： 連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します

向き： 一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

継続的に直面している： すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

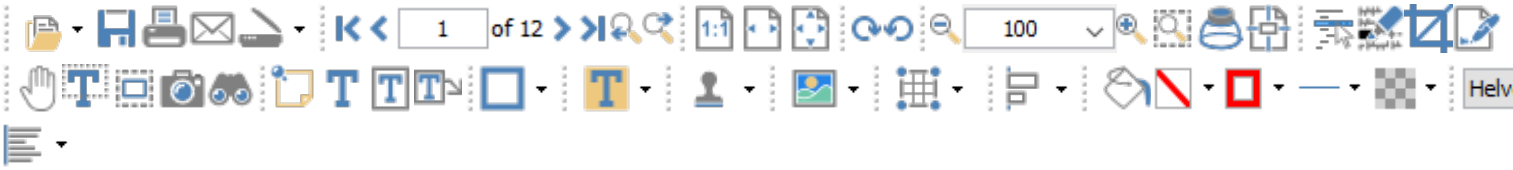
ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

100 **ズーム先/現在のズーム：** 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

PDFStudioクラシックツールバー

オフィススタイルリボンツールバー はデフォルトのレイアウトであり、PDFStudioのすべての機能があります。必要に応じて、でクラシックツールバーに切り替えることができますツールバーの設定。クラシックツールバーには、PDF Studioで最も一般的に使用されるすべての機能があり、残りの機能はトップメニューにあります。



ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップを使用してツールバーのツールを再配置するには、仕切り線をクリックします 移動するツールグループの左側で、新しい位置にドラッグアンドドロップします。任意のツールグループをツールバーの任意の場所に移動できます。 3番目の行は、2番目の行の下にツールグループをドラッグして3番目の行を作成することで作成できます。

ツールをドラッグしてPDFStudioウィンドウの下部にドロップすることにより、下部のツールバーを作成することもできます。

ツールバーの設定

あなたはアクセスすることができます ツールバーの設定 次のいずれかの方法を使用したダイアログ：

- ツールバーの空白部分を右クリックして、「ツールバーのカスタマイズ」オプション。
- に移動 編集>設定 ツールバーを選択します。

フローティングツール

ツールを他の場所に浮かせて、簡単にアクセスできるようにすることもできます。ツールバーからツールをフロートさせるには、仕切り線をクリックします フロートさせたいツールグループの左側で、ツールバーをツールバーセクションからドラッグしてから、上部または下部のツールバーではなく新しい位置にドロップして、フローティングのままにします。ツールバーに戻すには、ツールバーの場所にドラッグして戻すか、[X]ボタンをクリックすると、ツールバーの最後の場所に戻ります。

ツールバーのリセット

ツールバーをインストールのデフォルトにリセットするには、ツールバーセクションの空白部分を右クリックして、[ツールバーのリセット]オプションを選択します。 （注意： これは、元に戻すことはできません）。

クラシックツールバーの説明

ファイル

開いた ： PDFドキュメントを開くか、サポートされているファイルタイプのいずれかをPDFに変換します。下矢印をクリックします ▼ からドキュメントを選択するには 最近のファイル履歴 開く。

セーブ： 現在のドキュメントを保存します。ドキュメントに変更が加えられていない場合、このボタンは無効になります。

印刷： PDFStudioプリンターダイアログを使用して現在のドキュメントを印刷します。システム印刷ダイアログを使用するには、を参照してください。 印刷設定。

PDFを電子メールで送信： 内に設定された電子メールアプリケーションを使用して、現在のドキュメントを電子メールに添付します メール設定。

PDFにスキャン： 使用可能な2つのスキャンダイアログのいずれかを使用して、スキャナーからPDFを作成します。最後に使用されたオプションがデフォルトになります。下矢印をクリックします ▼ 使用可能なスキャナーダイアログから選択します。 （（注意： WindowsおよびMacの64ビットインストーラーは常にWIA / OCAを使用します Linuxは常にSaneをスキャンに使用します）。

・ Twainでスキャン： デフォルトのシステム印刷ダイアログを使用してスキャンします。
・ WIA / ICAでスキャン： PDFStudioダイアログを使用してスキャンします。

ナビゲーション

一ページ目： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

ページ番号： 現在表示されているページと合計ページ数を表示します。フィールドに数値を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。を使用したドキュメント ページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

ページフィット

実際のサイズ： スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致するように、ドキュメントを1：1の比率で表示します。

幅に合わせる： PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します。

ページに合わせる： PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します。

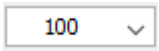
回転を表示

ビューを時計回りに回転： ドキュメント内のビューのみを時計回りに回転します（注意：ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。）。

ビューを反時計回りに回転します。 ドキュメント内のビューのみを反時計回りに回転します（注意： ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。）。

ズーム

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。



ズーム先/現在のズーム： 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

ズームツール： ページ内の選択した領域にズームします。クリックしてドラッグし、ズームする長方形の領域を選択します。

ルーペツール： PDFを拡大して細部を表示するズームウィンドウを表示します。

パンとズーム： 現在画面に表示されているページの一部を表示するウィンドウ。赤いボックスをドラッグして、ドキュメントの表示を調整します。

資料

コンテンツの編集Pro： あなたがすることができます コンテンツの編集 PDF内。

墨消しのマークPro： コンテンツをマークします 編集。

切り抜きページ： あなたがすることができます 作物 PDFページ。

署名文書Pro： あなたがすることができます デジタル署名 現在のPDF。

標準

ページのドラッグアンドスクロール： クリックしてドラッグし、ページをスクロールまたは移動します。

テキストを選択： クリックしてドラッグし、ドキュメント内のテキストを選択します。

インタラクティブオブジェクトの編集： PDF内のインタラクティブオブジェクトを編集するために使用されます。

スナップショットを撮ります： 画面の一部を画像として保存するために使用されます。

高度な 探す： PDFドキュメントのテキストを検索するために使用されます。

テキストコメント

付箋： 付箋の注釈を作成します。

タイプライター： タイプライター注釈を作成します。

テキストボックス： テキストボックスの注釈を作成します。

叫ぶ： コールアウト注釈を作成します。

形状コメント

サークル： 円の注釈を作成します。

矢印： 矢印注釈を作成します。

ライン： 行注釈を作成します。

平方： 正方形の注釈を作成します。

鉛筆：鉛筆の注釈を作成します。

ポリゴン： ポリゴン注釈を作成します。

雲：雲の注釈を作成します。

ポリライン：ポリライン注釈を作成します。

テキストマークアップ

ハイライトテキスト： ドキュメントのテキストを強調表示するために使用されます。

クロスアウトテキスト： ドキュメントのテキストを消すために使用されます。

下線テキスト： ドキュメントのテキストに下線を引くために使用されます。

波線の下線テキスト： ドキュメントのテキストに波線で下線を引くために使用されます。

テキストの挿入： ドキュメントに挿入テキストマークアップを追加します。

テキストを置き換える： 選択したテキストに置換テキストマークアップを追加します。

エリアハイライト： ドキュメント上の領域を強調表示します。スキャンしたテキストを強調表示するときに便利です。

ラバースタンプ

ゴム印： ドキュメントにラバースタンプを配置するために使用されます。ボタンを直接クリックして最後に使用したスタンプを再利用するか、下矢印をクリックします ▼ 別のスタンプを選択するか、次のラバースタンプオプションから選択します。

標準：PDF Studioに含まれる標準化されたスタンプ（承認済み、未承認、ドラフトなど）。

動的：配置されると自動的に設定される日時も含まれる標準化されたスタンプ。

符号 ここに：PDF Studioに含まれている標準化された署名スタンプ：ここに署名、ここにイニシャル、証人など...

新しく作る：スタンプを作成するには、以下のオプションから選択してください

- テキストスタンプの作成： ラバースタンプリストに追加されるカスタムテキストスタンプを作成します。
- 画像スタンプの作成： ラバースタンプリストに追加されるカスタムイメージスタンプを作成します。
- PDFスタンプを作成する：ラバースタンプリストに追加されるPDFからカスタムスタンプを作成します
- カスタムスタンプの作成： ラバースタンプリストに追加されるカスタムスタンプを作成します。

スタンプの管理： ラバースタンプマネージャーを開いて、ラバースタンプを作成/編集/削除します。

マルチメディア

音： ドキュメントに音声注釈の添付ファイルを追加します。

画像： ドキュメントにラバースタンプ注釈として画像を追加します。

リンク： ドキュメントにリンクを作成するために使用されます。

ファイルを添付する： 注釈なしでファイルをPDFに添付します。

コメントとしてファイルを添付： 注釈付きのファイルをドキュメントに添付します。

測定値 Pro

 距離： ドキュメント上の2点間の距離を測定するために使用されます。

周囲長： 複数の線を使用してドキュメントの周囲を測定するために使用されます。

範囲： ドキュメント上の指定された領域を測定するために使用されます。

配置

左揃え： 選択したオブジェクトを左揃えにします。

センターの位置合わせ： 選択したオブジェクトを中央に揃えます。

右揃え： 選択したオブジェクトを右揃えにします。

上に揃える： 選択したオブジェクトを上に揃えます。

中央揃え： 選択したオブジェクトを中央に揃えます。

下に揃える： 選択したオブジェクトを下に揃えます。

水平方向に配布： 選択したオブジェクトを水平方向に均等に分散します。

垂直に配布： 選択したオブジェクトを垂直方向に均等に分散します。

幅を揃える： 選択したオブジェクトの幅を揃えます。

高さを揃える： 選択したオブジェクトの高さを揃えます。

両方を揃える： 選択したオブジェクトの幅と高さの両方を揃えます。

プロパティ-外観

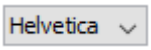
塗りつぶしの色： 選択したオブジェクトの塗りつぶしの色を選択できます。

ボーダの色： 選択したオブジェクトの境界線の色を選択できます。

 線幅： 選択したオブジェクトの境界線の幅を設定します。

透明性： 選択したオブジェクトの透明度を設定します。

プロパティ-テキスト

 フォント： 選択した注釈のフォントを設定します。

サイズ： 選択した注釈のフォントサイズを設定します。

テキストの色： 選択した注釈のフォントの色を設定します。

大胆な： 選択した注釈またはテキストを作成します 大胆な。

イタリック： 選択した注釈またはテキストを作成します イタリック。

下線を引く：選択した注釈またはテキストを作成します 下線付き

取り消し線：選択した注釈またはテキストを 取り消し線

水平方向の配置： 選択した注釈のテキストの配置を設定します。

タッチモード

タッチモード： タッチモードを有効/無効にします

Oそれら

 仕切り： 各ツールバーセクションを分離します

 グループ化されたボタン/オプション： 次のいずれかで使用されます

・ 取り付けられているツールのさまざまなオプションから選択します

・ツールバーがグループ化されているときに他のツールを選択するには（のグループ化されたボタンを参照） ツールバーの設定）。

ミニツールバー

ミニツールバーは、注釈、リンク、またはフォームフィールドが選択されたときに表示される小さなツールバーです。このツールバーを使用すると、右クリックのコンテキストメニューやキーボードを使用せずに、プロパティに簡単にアクセスしたり、選択したオブジェクトを削除したりできます。ツールバーは、で有効または無効にできますツールバーの設定。

> ***ノート：** ミニツールバーは、フォーム編集モードまたはフォーム編集モードの場合にのみフォームフィールドに表示されますオブジェクトの選択。*

ミニツールバーには次のボタンがあります

ボーダの色： 選択したオブジェクトの境界線の色を選択できます。

塗りつぶしの色： 選択したオブジェクトの塗りつぶしの色を選択できます。

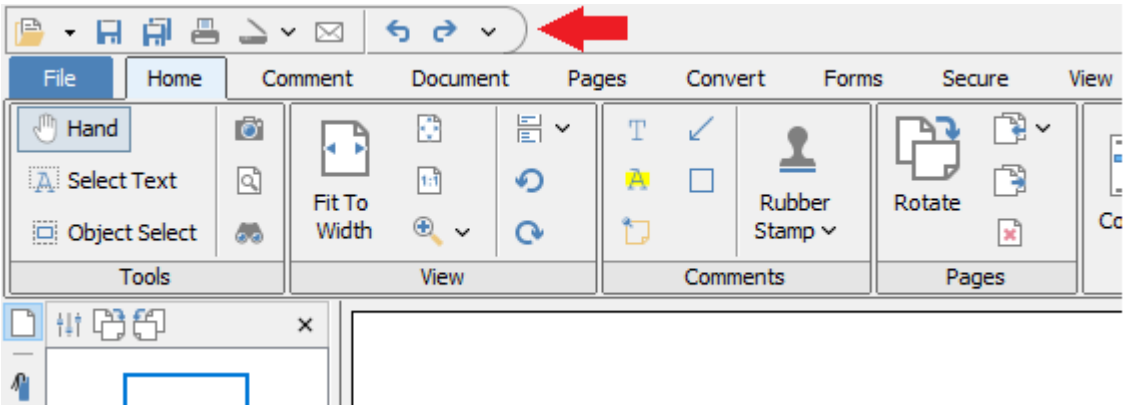
テキストの色： 選択した注釈のフォントの色を設定します。

プロパティ： 選択した注釈、リンク、またはフォームフィールドのプロパティを開きます

消去： 選択した注釈、リンク、またはフォームフィールドを削除します

クイックアクセスツールバー

クイックアクセスツールバーは、左上の左上にあります。リボンツールバー 共通の機能への迅速なアクセスを提供します。クイックアクセスツールバーは、すべてのタブで保持されるため、ツールと機能を常に利用できるという点で異なります。このツールバーは、より便利なアクセスのためにアプリケーションから任意のツールを追加するようにカスタマイズできます。



クイックアクセスツールバーをカスタマイズする方法

クイックアクセスツールバーは、リボンツールバーにあるツールを追加または削除することでカスタマイズできます。これを行うには、以下の手順に従ってください。

1. クリックしてください ˅ クイックアクセスツールバーの右側にある下向き矢印
2. メニューを使用してツールをクリックし、クイックアクセスツールバーからの追加/削除を切り替えます

カスタマイズオプション

セパレータを追加 -ツールを整理するための垂直線区切り文字を作成します

セパレータを取り外します -現在最も右側にあるセパレータを削除します

すべてのボタンを削除 -クイックアクセスツールバーからすべてのボタンを削除して、ツールのカスタムセットの作成を最初からやり直します

デフォルトに戻す -インストール時に設定されたデフォルトのツールを復元します

リボンを最小化する -リボンの最小化モードを切り替えます

お気に入りのリボングループを編集する -設定を開いて、[ホーム]タブの[お気に入りのツール]セクションをカスタマイズします

ファイルを開く

PDFStudioでファイルを開く方法はたくさんあります。最も速くて簡単な方法は、PDFStudioをデフォルトのPDFアプリケーション または、PDFファイルをPDFStudioフレームに直接ドラッグアンドドロップします。ローカルフォルダから開くことを含む[ようこそ画面]や[ファイル]タブ、最近のドキュメント、Googleドライブ、Dropbox、OneDriveなどのクラウドストレージサービスなど、他のさまざまな方法を使用することもできます。

> *ノート：以下の方法のいずれかを使用して、サポートされているファイルタイプ ファイルを自動的にPDFに変換します。*

ドラッグアンドドロップ

ファイルはPDFStudioにドラッグアンドドロップできます。

- 現在開いているドキュメントがないPDFStudioウィンドウにファイルをドラッグすることで、サポートされているファイルタイプを新しいドキュメントに作成できます。
- サポートされているファイルタイプは、ファイルをサムネイルペインにドラッグすることにより、既存の開いているドキュメントに新しいページとして挿入できます。
- ページは、開いている複数のドキュメント間でドラッグアンドドロップすることもできます。

> *ノート： メインのドキュメントペインにファイルをドロップすると、ドキュメントが新しいフレームで開きます。*

ウェルカム画面

最近のドキュメント -[最近のドキュメント]セクションには、PDFStudioで開いた最新の5つのPDFファイルが表示されます。このリストでファイルを開くには、開きたいファイルの名前をクリックするだけです。

ファイルを開く： 開くPDFドキュメントを選択するためのファイルチューザーを表示します

[ファイル]タブ

の中に**開ける** ペインには、ファイルを開くための次のオプションもあります

最近のドキュメント：最近開いた200個のドキュメントのリストを表示します。右上の検索フィールドを使用すると、特定のドキュメントをより簡単に見つけることができます。

セッション：セッションマネージャを使用すると、最後に使用または保存したセッションを再度開くことができます

コンピューター：ローカルファイルチューザーを開きます開くファイルを選択します

URLから：指定したWebアドレスからPDFファイルを開く

グーグルドライブ：リンクされているファイルから直接サポートされているファイルタイプを開くグーグルドライブ

ドロップボックス：リンクされているファイルから直接サポートされているファイルタイプを開くドロップボックス

OneDrive：リンクされているファイルから直接サポートされているファイルタイプを開くOneDrive

フォルダーを追加：ワンクリックで将来アクセスできるように、指定したフォルダをオープンリストに固定します。複数のフォルダを固定できます。

フォルダーを追加

フォルダの追加機能を使用すると、ローカルディレクトリをリストに固定して、将来アクセスを高速化できます。このフォルダには、[開く]パネルと[名前を付けて保存]パネルの両方からアクセスできます

フォルダーを追加：このボタンをクリックして、リストに追加するフォルダを選択します

削除する：オープンリストから場所を削除します

最近のファイル履歴

PDF Studioの最近のファイルリストは、整理された使いやすいメニューで最近開いたPDFファイル（合計500ファイル）を追跡します。

最近のファイルリストにアクセスする

最近のファイルリストには、にアクセスしてアクセスできます。**[ファイル]タブ> [開く]** >> **最近のドキュメント** または下矢印をクリックします オープンの隣 ツールバーのアイコン。

最近のファイル検索

最近のファイルリストの上部にあるフィールドを使用して、入力した検索語に基づいて、最近のドキュメントを除外します。入力すると、結果が除外され、入力した単語に一致するファイルのみが表示されます。

最新のファイル

オープン アイコンのドロップダウンにより、リストの一番上に最新の10個のファイルが表示されます。

ザ・**[ファイル]タブ> [開く]** >> **最近のドキュメント** パネルには最新の200ドキュメントが表示されます

カテゴリ

ザ・ 開くアイコンのドロップダウンカテゴリは、ドキュメントを次のように整理します。

- 今週
- 先週
- 2週間前
- 3週間前
- 古い

最近のファイルリストをクリアする

さらに、最近のファイルリストメニューから最近のファイルリストをクリアすることができます。 （（**注意：** *これは、元に戻すことはできません*）。

グーグルドライブ

Googleドライブの統合により、クラウドストレージに接続して、PDF Studio内から直接ファイルを表示、変更、および保存できます。完了したら、必要に応じてGoogleドライブに保存し直すことができます。

> *ノート：Googleアカウントが必要です。ファイルはサーバー上で直接編集されませんが、代わりに一時的なローカルファイルが編集中に保存されます。保存されると、ファイルはサーバーに送り返され、一時ファイルは削除されます。*

Googleドライブの使用方法

ファイルを開く

1. 行く**[ファイル]タブ> 開ける** パネル選択 **グーグルドライブ**
2. まだログインしていない場合は、手順に従ってGoogleドライブアカウントにログインします
3. 右ペインを使用して、通常どおりにGoogleドライブのディレクトリとファイルを調べます
4. ダブルクリックしてファイルを開くと、通常どおりにPDFの編集を開始できます。

ファイルの保存

ファイルは、クリックするだけで元のドライブに直接保存できます。**保存** ツールバーのボタンまたはCtrl+Sを使用（Cmd + Macの場合はS）ショートカットキー。

1. 新しい名前または新しいディレクトリでファイルを保存する場合は、**名前を付けて保存** のパネル**ファイル** タブ
2. に移動します**ファイル タブ> 名前を付けて保存** パネルと選択 **グーグルドライブ**
3. まだログインしていない場合は、手順に従ってGoogleドライブアカウントにログインします
4. 右ペインを使用して、ファイルをGoogleドライブに保存する場所に移動します
5. ファイル名を設定してクリック**保存**

ログアウト

1. ログインすると、アクセスキーはセッション間で保存されます。必要に応じて、クラウドドライブサービスからログアウトして、別のユーザーがファイルにアクセスできないようにすることができます。
2. に移動します**ファイル タブ> 開ける** また**名前を付けて保存** パネル
3. ログアウトボタンをクリックします Googleドライブラベルの右側
4. [はい]をクリックして確認すると、アカウントがログアウトされます

追加オプション

フォルダーを追加 -クリックして、現在のディレクトリに新しいフォルダを作成します

更新 -クリックして、現在のディレクトリのファイル/フォルダリストを更新します

ログアウト -クリックしてGoogleドライブアカウントからログアウトします

ドロップボックス

Dropboxの統合により、クラウドストレージに接続して、PDF Studio内から直接ファイルを表示、変更、および保存できます。完了したら、必要に応じてDropboxに保存し直すことができます。

> *ノート：Dropboxアカウントが必要です。ファイルはサーバー上で直接編集されませんが、代わりに一時的なローカルファイルが編集中に保存されます。保存されると、ファイルはサーバーに送り返され、一時ファイルは削除されます。*

Dropboxの使い方

ファイルを開く

1. 行く**[ファイル]タブ> 開ける** パネル選択 **ドロップボックス**
2. まだログインしていない場合は、手順に従ってDropboxアカウントにログインします。
3. 右ペインを使用して、通常どおりにDropboxディレクトリとファイルを探索します
4. ダブルクリックしてファイルを開くと、通常どおりにPDFの編集を開始できます。

ファイルの保存

ファイルは、クリックするだけで元のドライブに直接保存できます。**保存** ツールバーのボタンまたはCtrl+Sを使用（Cmd + Macの場合はS）ショートカットキー。

1. 新しい名前または新しいディレクトリでファイルを保存する場合は、**名前を付けて保存** のパネル**ファイル** タブ
2. に移動します**ファイル タブ> 名前を付けて保存** パネルと選択 **ドロップボックス**
3. まだログインしていない場合は、手順に従ってDropboxアカウントにログインします。
4. 右ペインを使用して、Dropboxのファイルを保存する場所に移動します
5. ファイル名を設定してクリック**保存**

ログアウト

1. ログインすると、アクセスキーはセッション間で保存されます。必要に応じて、クラウドドライブサービスからログアウトして、別のユーザーがファイルにアクセスできないようにすることができます。
2. に移動します**ファイル タブ> 開ける** また**名前を付けて保存** パネル
3. ログアウトボタンをクリックします Dropboxラベルの右側
4. [はい]をクリックして確認すると、アカウントがログアウトされます

追加オプション

フォルダーを追加 -クリックして、現在のディレクトリに新しいフォルダを作成します

更新 -クリックして、現在のディレクトリのファイル/フォルダリストを更新します

ログアウト -クリックしてDropboxアカウントからログアウトします

OneDrive

OneDriveの統合により、クラウドストレージに接続して、PDF Studio内から直接ファイルを表示、変更、および保存できます。完了したら、必要に応じてOneDriveに保存し直すことができます。

> **注意**：*OneDriveアカウントが必要です。ファイルはサーバー上で直接編集されるのではなく、編集中に一時的なローカルファイルが保存されます。保存されると、ファイルはサーバーに送り返され、一時ファイルは削除されます。*

OneDriveの使用方法

ファイルを開く

1. 行く**[ファイル]タブ> 開いた** パネル選択 **OneDrive**
2. まだログインしていない場合は、手順に従ってOneDriveアカウントにログインします
3. 右側のウィンドウを使用して、通常どおりにOneDriveのディレクトリとファイルを探索します
4. ダブルクリックしてファイルを開くと、通常どおりにPDFの編集を開始できます。

ファイルの保存

ファイルは、をクリックするだけで、元のドライブに直接保存できます。**セーブ** ツールバーのボタンまたはCtrl + Sを使用（Cmd + Macの場合はS）ショートカットキー。

1. 新しい名前または新しいディレクトリでファイルを保存する場合は、**名前を付けて保存** のパネル**ファイル** タブ
2. に移動します**ファイル タブ> 名前を付けて保存** パネルと選択 **OneDrive**
3. まだログインしていない場合は、手順に従ってOneDriveアカウントにログインします
4. 右ペインを使用して、OneDrive上のファイルを保存する場所に移動します
5. ファイル名を設定してクリック**セーブ**

ログアウト

1. ログインすると、アクセスキーはセッション間で保存されます。必要に応じて、クラウドドライブサービスからログアウトして、別のユーザーがファイルにアクセスできないようにすることができます。
2. に移動します**ファイル タブ> 開いた** または**名前を付けて保存** パネル
3. ログアウトボタンをクリックします グーグルドライブラベルの右側
4. [はい]をクリックして確認すると、アカウントがログアウトされます

追加オプション

フォルダーを追加 -クリックして、現在のディレクトリに新しいフォルダを作成します

更新 -クリックして、現在のディレクトリのファイル/フォルダリストを更新します

ログアウト -クリックしてOneDriveアカウントからログアウトします

キーボードショートカット

各機能のショートカットキーは、ツールバーのアイコンにカーソルを合わせると、アプリケーションに表示されます。関数名とショートカットキーがツールチップに表示されます。

一般的なショートカット

アクション	Windows / Linux	マック
新しいドキュメント	Ctrl + N	⌘+N
開ける	Ctrl + O	⌘+O
保存	Ctrl + S	⌘+S
名前を付けて保存	Ctrl + Shift + S	⌘+シフト+S
近い	Ctrl + W	⌘+W
元に戻す/リロード	Ctrl + Shift + G	⌘+シフト+G
印刷	Ctrl + P	⌘+P
出口	Ctrl + Q	⌘+Q
元に戻す	Ctrl + Z	⌘+Z
やり直し	Ctrl + Y	⌘+シフト+Z
ファイルパスを表示	該当なし	⌘またはCtrlキーを押しながらウィンドウタイトルをクリックします
環境設定を開く	Ctrl + K	⌘+K

ドキュメントのショートカット

アクション	Windows / Linux	マック
ブックマークを作成する	Ctrl + B	⌘+B
空白のページを追加	Ctrl + Shift + B	⌘+シフト+B
クイック検索	Ctrl + F	⌘+F
高度な検索	Ctrl + Shift + F	⌘+シフト+F
ページを回転する	Ctrl + Shift + R	⌘+シフト+R
ページを切り抜く	Ctrl + Shift + C	⌘+シフト+C
ドキュメントのプロパティ	Ctrl + D	⌘+D
プリフライト	Ctrl + Shift + X	⌘+シフト+X
最適化	Ctrl + Shift + O	⌘+シフト+O

ナビゲーション/ビューのショートカット

アクション	Windows / Linux	マック
先頭ページ	家	家

最後のページ	終わり	終わり
次のページ	PgDnまたはスペース	PgDnまたはスペース
前のページ	PgUpまたはShift+Space	PgUpまたはShift+Space
ページに移動	Ctrl + Shift + P	⌘+シフト+P
下へスクロール	スペースまたは↓	スペースまたは↓
スクロールアップする	↑	↑
次のビュー	Alt+→	⌘+[
前のビュー	Alt+←	⌘+]
時計回りに回転します	Ctrl +Shift+→	⌘+シフト+→
反時計回りに回転します	Ctrl +Shift+←	⌘+シフト+←
実際のサイズにズーム	Ctrl + 1	⌘+1
ページに合わせてズーム	Ctrl + 0	⌘+0
幅に合わせてズーム	Ctrl + 2	⌘+2
ズームイン	Ctrl+PlusまたはCtrl+マウスホイールを上に移動	Cmd+PlusまたはAlt+マウスホイールアップ
ズームアウトする	Ctrl+マイナスまたはCtrl+マウスホイールダウン	Cmd+マイナスまたはAlt+マウスホイールダウン
ズームツール	Ctrl+スペースバー-ズームイン Ctrl +Alt+スペースバー-ズームアウト	スペースバー+コマンド-ズームイン スペースバー+コマンド+オプション-ズームアウト
カスケードウィンドウ	Ctrl + Shift + J	⌘+シフト+J
タイル：Windowsを水平方向に	Ctrl + Shift + K	⌘+シフト+K
タイル：Windows垂直	Ctrl + Shift + L	⌘+シフト+L
フォームエディタの開始/終了	Ctrl + Shift + M	⌘+シフト+M
私のコメントペイン	Ctrl + Shift + T	⌘+シフト+T
読書モード	Ctrl + H	⌘+Ctrl+ H
フルスクリーンモード	Ctrl + L	⌘+L
並べて比較する	Ctrl + Shift + N	⌘+シフト+N
自動スクロール	Ctrl + Shift + H	⌘+シフト+H
自動スクロール方向を逆にする	-マイナスキー	-マイナスキー
自動スクロール速度	0-9（0が最も遅い| 9が最も速い）	0-9（0が最も遅い| 9が最も速い）
ルーラー（表示/非表示）	Ctrl + R	Ctrl + R
読み上げを大音量で切り替えます（アクティブ化/非アクティブ化）	Ctrl + Shift + V	Ctrl + Shift + V
大声で現在のページを読み上げる	Ctrl + Shift + W	Ctrl + Shift + W
現在のページからドキュメントの最後まで読む	Ctrl + Shift + Z	Ctrl + Shift + Z
読み上げを一時停止/再開	Ctrl + J	Ctrl + J
大声で読み上げるのをやめる	Ctrl + K	Ctrl + K

ツールの選択/編集

ツール/アクション	Windows / Linux	マック
ハンドツール	EscまたはHoldスペースバー	EscまたはHoldスペースバー
テキストカーソルを選択	Ctrl + T	⌘+T
長方形のテキスト選択	Ctrl+カーソルをドラッグ	Cmd+ドラッグカーソル
インタラクティブオブジェクトの編集	Ctrl + I	⌘+私
コンテンツを編集する	Ctrl + Shift + E	⌘+シフト+E
墨消しツール	Ctrl + Shift + Y	⌘+シフト+Y
すべてのテキストを選択	Ctrl + A	⌘+A
すべてのテキストの選択を解除	Ctrl + Shift + A	⌘+シフト+A
すべてのフォームフィールドをフラット化	Ctrl + Shift + D	⌘+シフト+D
スナップショットツール	Ctrl + G	⌘+G

注釈のショートカット

注釈	Windows / Linux	マック
領域	Ctrl + Alt + E	⌘+Alt+ E
エリア蛍光ペン	Ctrl + Alt + I	⌘+Alt+ I
矢印	Ctrl + Alt + A	⌘+Alt+ A
ファイルを添付する	Ctrl + Alt + F	⌘+Alt+ F
叫ぶ	Ctrl + Alt + V	⌘+Alt+ V
サークル	Ctrl + Alt + C	⌘+Alt+ C
クラウド	Ctrl + Alt + B	⌘+Alt+ B
テキストを消す	Ctrl + Alt + O	⌘+Alt+ O
距離	Ctrl + Alt + M	⌘+Alt+ M
テキストボックス	Ctrl + Alt + T / Ctrl + Alt + Shift + T	⌘+Alt+ T
ハイライトテキスト	Ctrl + Alt + H	⌘+Alt+ Shift + H
画像を挿入	Ctrl + Shift + I	⌘+シフト+I
テキストを挿入	Ctrl + Alt + X	⌘+Alt+ X
ライン	Ctrl + Alt + L / Ctrl + Alt + Shift + L	⌘+Alt+ L
鉛筆	Ctrl + Alt + P	⌘+Alt+ P
リンク	Ctrl + Alt + K	⌘+Alt+ K
周囲	Ctrl + Alt + R	⌘+Alt+ R
ポリゴン	Ctrl + Alt + G	⌘+Alt+ G
ポリライン	Ctrl + Alt + Y	⌘+Alt+ Y
テキストを置き換える	Ctrl + Alt + Z	⌘+Alt+ Z
音	Ctrl + Alt + S / Ctrl + Alt + Shift + S	⌘+Alt+ S
四角	Ctrl + Alt + Q	⌘+Alt+ Shift + R
波線の下線	Ctrl + Alt + J	⌘+Alt+ J

付箋	Ctrl + Alt + N	⌘+Alt+ N
下線テキスト	Ctrl + Alt + U	⌘+Alt+ U
タイプライター	Ctrl + Alt + W	⌘+Alt+ W

テキスト注釈のショートカット

これらは、タイプライター、コールアウト、およびテキストボックスの注釈でテキストを編集する場合にのみ使用されます。

アクション	Windows / Linux	マック
大胆な	Ctrl + B	⌘+B
イタリック	Ctrl + I	⌘+私
下線を引く	Ctrl + U	⌘+U
フォントサイズを大きくする	Ctrl + Shift +>	⌘+シフト+>
フォントサイズを小さくする	Ctrl + Shift + <	⌘+シフト+<
左揃え	Ctrl + L	⌘+L
センターアライン	Ctrl + E	⌘+E
右揃え	Ctrl + R	⌘+R

コンテンツ編集のショートカット

これらは、PDFのコンテンツを編集する場合にのみ使用されます。

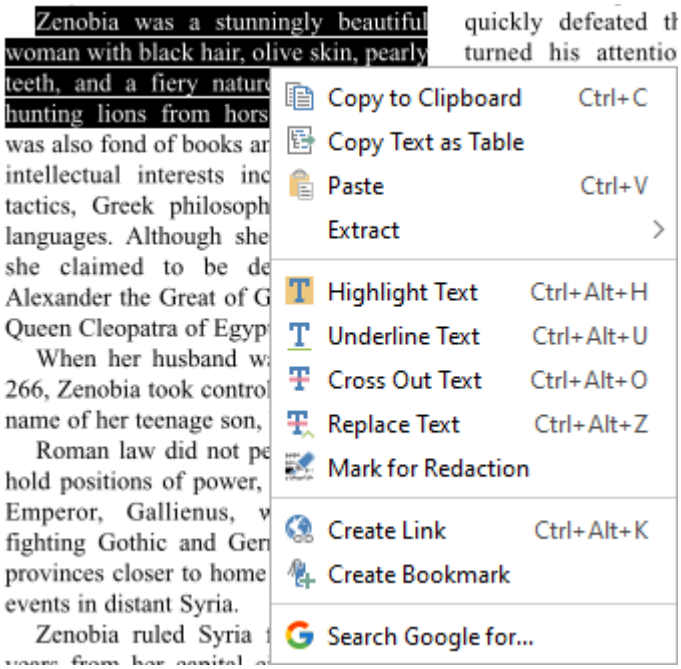
アクション	Windows / Linux	マック
前に持ってくる	Ctrl +Shift+↑	⌘+シフト+↑
最背面へ	Ctrl +Shift+↓	⌘+シフト+↓
転送する	Ctrl+↑	⌘+↑
後方に送信	Ctrl+↓	⌘+↓

テキストの選択

テキストの選択アイコンをクリックします ツールバーで、マウスをドラッグして目的のオブジェクトを選択します。マウスを右クリックすると（Mac：Ctrl +クリック）、テキストをクリップボードにコピーするかどうかを選択できるメニューが表示されます。選択したテキストを強調表示、下線、取り消し線、波線下線、または置換します。または、選択後に新しいテキストを挿入します。

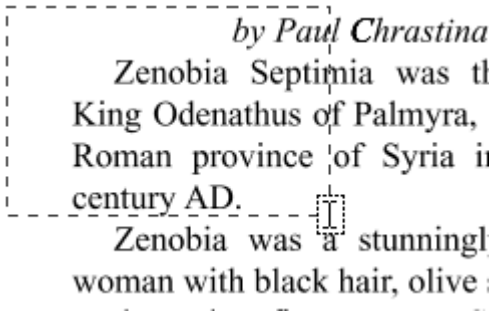
> *ノート ： テキストをコピーする場合、PDF Studioは、選択したテキストのフォント、色、サイズ、太字、斜体のプロパティを保持します。*

選択モードを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc。



長方形のテキストの選択

長方形のテキストを選択するには、Ctrlキー（macOSの場合はCommand）を押しながらマウスをドラッグします。カーソルがに変わります 別の選択モードがアクティブであることを示します。


by Paul Chrastina
Zenobia Septimia was tl
King Odenathus of Palmyra,
Roman province of Syria i
century AD.
Zenobia was a stunningl
woman with black hair, olive

テキスト選択オプション

クリップボードにコピー-選択したテキストをOSクリップボードにコピーします

テキストをテーブルとしてコピー-選択したテキストをCSVカンマ区切りテーブルとしてOSクリップボードにコピーします

貼り付け-OSクリップボードに現在保存されているコンテンツをドキュメントに貼り付けます

- テキスト：テキストボックスコメントとして貼り付けられます
- 画像：画像スタンプとして貼り付けます
- ファイルデータ：添付ファイルとして貼り付けられます

抽出-プレーンテキストまたはテキストをテーブルとして抽出します（CSV）

- テキストの抽出-選択したテキストはプレーンテキストファイル.txtとして抽出されます
- テキストをテーブルとして抽出（CSV）-選択したテキストはコンマ区切りのCSVファイルとして抽出されます

マークアップツール

テキストの強調表示-選択したテキストを強調表示します

テキストに下線を引く-選択したテキストに下線を引きます

クロスアウトテキスト-選択したテキストにクロスアウトを追加します

テキストの置換-選択したテキストにテキストの置換マークアップを追加します

墨消しのマーク-選択したテキストに墨消し注釈を追加します

他の

リンクの作成-選択したテキストにインタラクティブリンクを作成します

ブックマークの作成-選択したテキストを使用して現在の位置にブックマークを作成します

探す

Googleで検索...-選択したテキストでGoogle検索を実行します

オブジェクトの選択

オブジェクト選択ツールを使用して、実際のPDFコンテンツの一部ではないオブジェクトを編集できます。以下は、選択できるオブジェクトのリストです。

- 注釈
- テキストマークアップ
- フォームフィールド
- リンク
- 添付ファイルコメント
- 3Dコンテンツ

オブジェクト選択ツールの使用

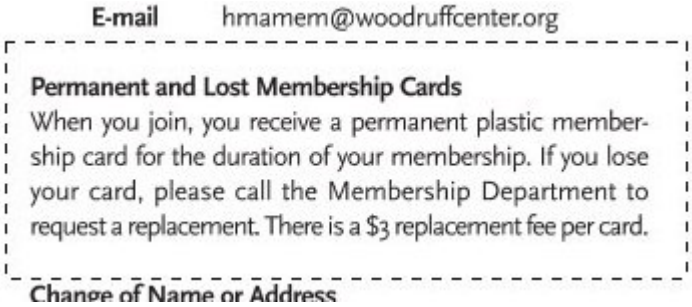
オブジェクト選択アイコンをクリックします ツールバーで、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的のオブジェクトを選択します。選択したオブジェクトは、他のオブジェクトとまったく同じように編集、移動、または削除できます。

選択モードを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc。

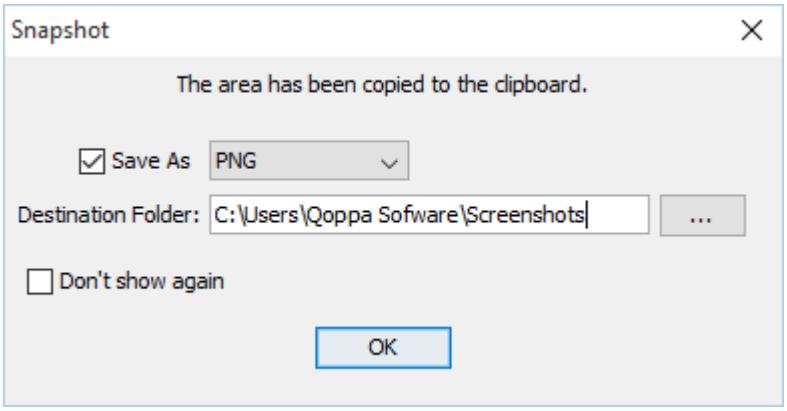
スナップショットツール

スナップショットツールを使用して、画面の一部を画像として保存できます。

下のスナップショットツールを選択します**ホームタブ>** **スナップショット** 次に、ツールバーからマウスをページ上にドラッグして、スナップショット領域を選択します。



マウスボタンを離すと、選択した領域から画像が作成されます。画像は常にシステムクリップボードにコピーされ、作成された画像の追加オプションを含むダイアログが表示されます。

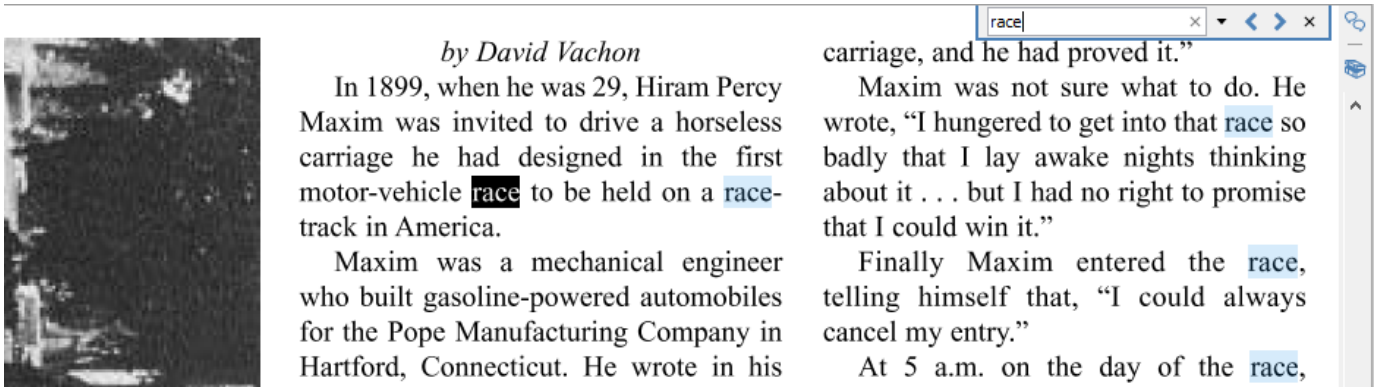


オプション

- **名前を付けて保存：** 選択した形式で画像を指定したディレクトリに保存できます。オプションを選択したら、[OK]をクリックしてファイルを保存します。出力画像の宛先とフォーマットは、で設定することもできます。一般的な設定 に行くことによって**[ファイル]タブ> [設定]** [全般]タブを選択します。
- **二度と表示しないでください：** スナップショットを作成するときに常に選択したオプションを使用するには、このボックスをオンにします。

クイック検索

PDF Studioを使用すると、PDFドキュメント内のテキストをすばやく検索できます。クイック検索ツールを使用すると、ドキュメント内で次に出現するテキストだけを検索できます。ドキュメント内のすべてのオカレンスのリストを見つけるには、高度な検索 代わりに。



クイック検索の使い方

1. 検索するドキュメントを開きます
2. に移動してクイック検索ポップアップを開きます**ホームタブ**> **探す**またはショートカットキーCtrl + F（コマンド + F Macの場合）
3. 検索するテキストを入力し、「Enter」キーを押して、ドキュメント内で次に出現するテキストを見つけます

クイック検索オプション

晴れ：検索結果をクリアする

以前の発生：ドキュメント内の単語の前の出現に移動します

次の発生：ドキュメント内の単語の次の出現箇所に移動します

注意：*「Enter」キーを押しても、次のオカレンスに進みます*

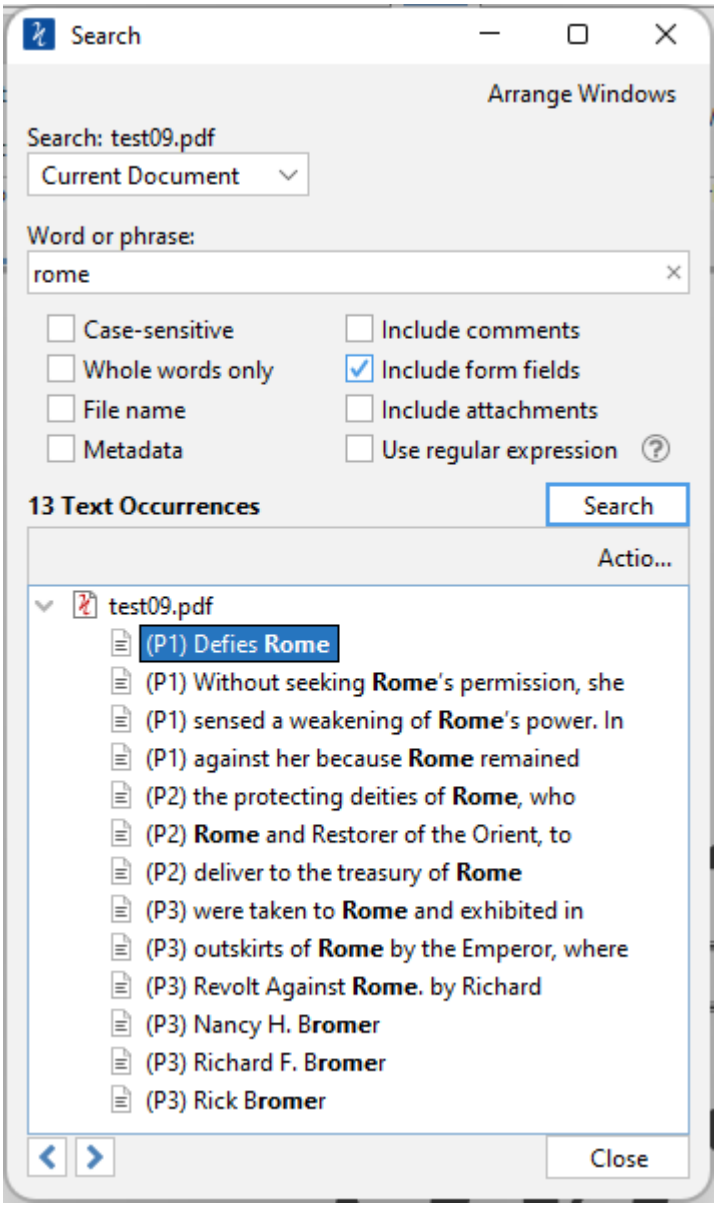
 検索オプション：クイック検索オプションを設定するために使用されます。矢印をクリックして、使用するオプションを選択します

- **高度な検索**：これにより、高度な検索 現在検索フィールドにあるテキストの検索を開始します。
- **大文字と小文字を区別：** オンにすると、文字列「The」を検索しても、文字列「the」を検索した場合と同じ結果は返されません。
- **全文のみ：** チェックされている場合、「the」を検索しても「they」のオカレンスは返されません。ただし、このオプションをオフのままにすると、「they」のすべての出現、および他の単語は 文字「the」がオカレンスリストに表示されます。
- **コメントを含める：** オンにすると、検索の注釈コメントにテキストが含まれます。

- **フィールドを含める：** オンにすると、検索のフォームフィールドにテキストが含まれます。（これはデフォルトでオンになっています）

高度な検索

PDF Studioには、現在開いているドキュメントだけでなく、複数のドキュメントを一度に検索できる高度なテキスト検索ツールが付属しています。このツールを使用すると、検索結果を結果の周囲のテキストとの関連で確認して、正しいテキストを含むドキュメントのセクションを見つけるのに役立ちます。高度な検索アクションを使用して、すべての検索結果にテキストマークアップまたは編集を追加することもできます。



高度な検索の使用方法

1. 検索するドキュメントを開きます
2. に移動してクイック検索ポップアップを開きます**ホームタブ>** **探す**ツールバーで、またはCtrl + Shift + F（MacではCmd + Shift + F）を押します。

3. 検索するテキストをテキストフィールドに入力し、追加のオプションを選択してから、Enterキーを押すか、[検索]ボタンをクリックします。ドキュメント内のテキストのすべての出現は、出現リストに表示されます。

結果をナビゲートするには：

- 上矢印キー（前へ）と下矢印キー（次へ）を使用します。
- [前のオカレンス]または[次のオカレンス]ボタンをクリックします。
- 結果をマウスでクリックします

> *ノート：複数のドキュメントの検索結果をナビゲートするときに、別のドキュメントを強調表示または選択すると、新しいPDFStudioウィンドウでそのドキュメントが開きます。*

高度な検索オプション

探す：目的のテキストを検索する場所を選択できます。次のいずれかのオプションから選択してください

- 現在のドキュメント：現在開いているアクティブなドキュメントのみを検索します。
- すべての開いているドキュメント：PDFStudioで現在開いているすべてのドキュメントを検索します
- ディレクトリ：選択したダイレクト内のすべてのPDFドキュメントを検索しますオリ。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。 [サブフォルダを含める]オプションをオンにすると、選択したディレクトリ内の任意のフォルダで見つかったすべてのドキュメントが含まれます。
- 最近のドキュメント：内のすべてのドキュメントを検索します最近のファイル履歴 リスト

単語またはフレーズ：検索したいテキストを入力してください

大文字と小文字を区別： オンにすると、文字列「The」を検索しても、文字列「the」を検索した場合と同じ結果は返されません。

全文のみ： チェックされている場合、「the」を検索しても「they」の出現は返されません。ただし、このオプションをオフのままにすると、「they」のすべてのオカレンスがオカレンスリストに表示されます。

ファイル名：チェックすると、ファイル名にテキストが含まれるPDFドキュメントが検索に含まれます

メタデータ：チェックすると、検索にはで見つかったメタデータが含まれますドキュメントのプロパティ PDFファイルの

コメントを含める： オンにすると、検索で注釈コメントにテキストが含まれます。

フォームフィールドを含める： オンにすると、検索にはフォームフィールドにテキストが含まれます。 （これはデフォルトでオンになっています）

添付ファイルを含める：チェックすると、添付されたPDFドキュメント内のテキストが検索されます。

正規表現を使用する：正規表現を使用して、より高度な検索クエリを実行できます

例：

- 米国の電話番号：（（\（\ d {3} \）？）|（\ d {3}-））？\ d {3}-\ d {4}
- 米国の社会保障番号：\ d {3}-\ d {2}-\ d {4}
- メールアドレス：[\ w-] + @（[\ w-] + \。）+ [\ w-] +
- 詳細については、https：//en.wikipedia.org/wiki/Regexをご覧ください。

結果のナビゲーション

前回の発生：ドキュメント内の単語の前の出現箇所に移動します

次の出来事：ドキュメント内の単語の次の出現箇所に移動します

ノート：「Enter」キーを押しても、次のオカレンスに進みます

高度な検索アクション

[アクション]オプションを使用して、ドキュメントで見つかったすべての結果にマークアップまたは編集を適用します。

ハイライトテキスト-適用テキストのハイライト 結果へのマークアップ

クロスアウトテキスト-適用クロスアウト 結果へのテキストマークアップ

下線テキスト-適用下線を引く 結果へのテキストマークアップ

波線の下線テキスト-適用波線の下線 結果へのテキストマークアップ

ブックマークの作成-作成しますブックマーク 見つかった結果ごとに

リンクの作成-作成しますウェブリンク 選択したオプションを使用して検出された結果ごとに

墨消しのマーク-作成します改訂注釈 見つかった結果のそれぞれについて

ノート：これは、最初に編集を確認できるように、編集注釈のみを適用します墨消しの適用

テキストの置換-見つかったテキストのすべてのインスタンスを、選択した新しいテキストに置き換えます

ノート：*これにより、段落のリフローやレイアウトが変更されることはありません。このツールは、小さな変更にのみ役立ちます。*

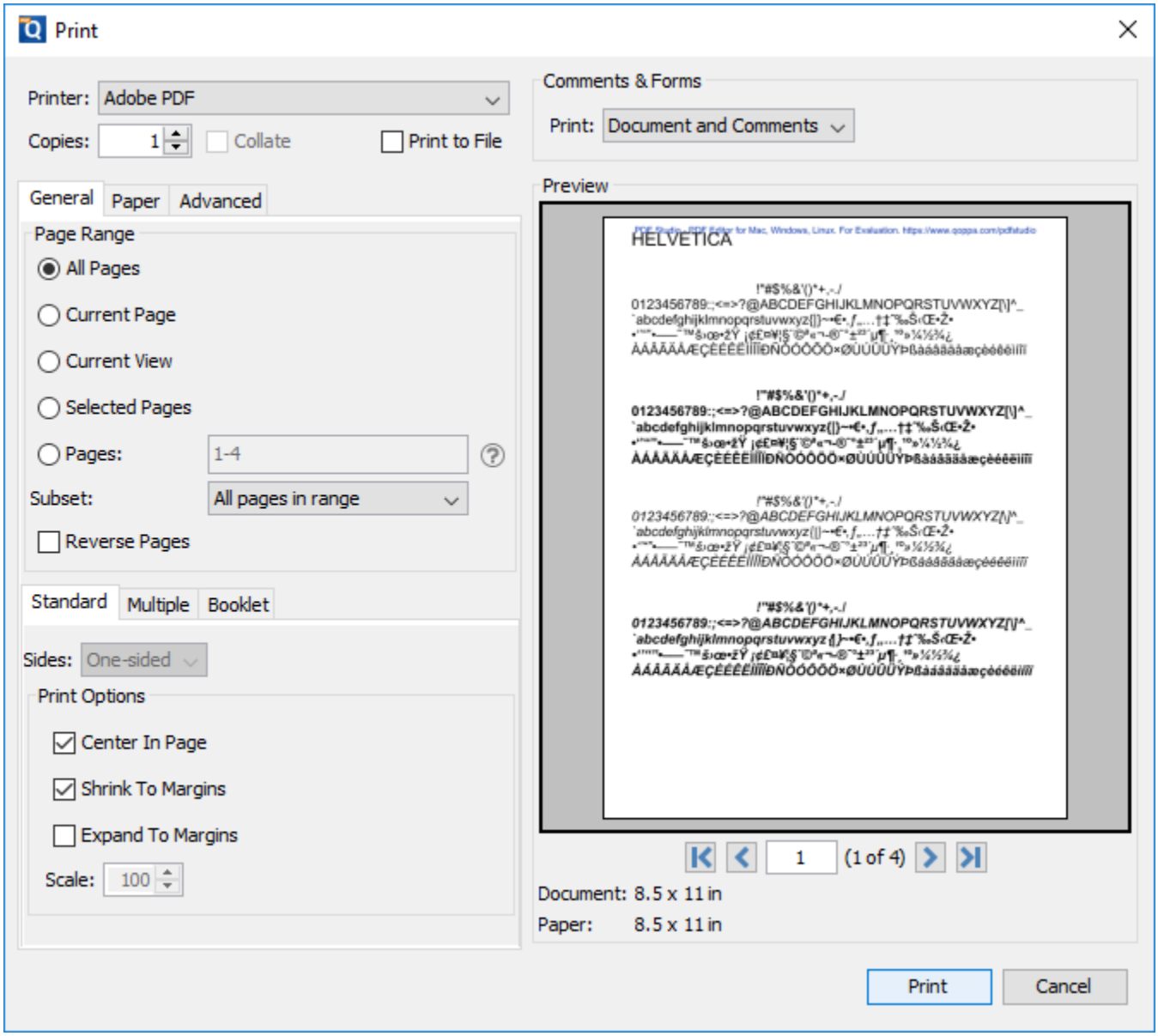
PDFの印刷

PDFドキュメントはPDFStudio内から印刷できます。デフォルトでは、PDF Studioは、追加の高度な印刷オプションとライブ印刷プレビューを提供するカスタムダイアログを使用して印刷します。をクリックして印刷ダイアログを開始します アイコンを印刷するか、Ctrl + P（MacではCmd + P）を押します。

印刷ダイアログ

- Windows / Mac / Linuxで印刷： デフォルトのシステム印刷ダイアログを使用してPDFを印刷します。このダイアログの設定は、オペレーティングシステムによって決定されます。
- PDFスタジオで印刷： PDFStudioダイアログを使用してPDFを印刷します。以下は、PDFStudioの印刷ダイアログを使用するときに使用できる設定のリストです。

> ノート：*オペレーティングシステムの印刷ダイアログをデフォルトとして設定する場合は、を参照してください。デフォルトの印刷 環境設定で。*



PDFスタジオの印刷オプション

以下の印刷オプションは、PDFStudioの印刷ダイアログを使用するときに使用できます。設定オプションは、プリンターがPDFStudioが使用可能であると通知した内容に基づいて有効または無効になります。

> *ノート： PDF Studioで使用可能であると報告されなかったために、無効としてリストされているオプションがプリンターでサポートされている場合があります。この場合、代わりに[システム印刷]ダイアログを使用する必要があります。*

プリンター-印刷先のプリンターの名前

コピー-印刷するドキュメントの部数

Collate：複数部を印刷するときにページを整理します。たとえば、チェックを外すと、3ページのドキュメントの2つのコピーが1、1、2、2、3、3の順序で印刷されます。チェックすると、順序は1,2,3,1,2,3になります。このオプションは、1部のみを印刷する場合は使用できません。

ファイルに印刷 -プリンタに直接ではなく、.prnファイルに印刷するオプション。これにより、ファイルを作成した元のアプリケーションを実行したり、使用したりせずに、ドキュメントを再印刷できます。たとえば、特定のプリンタでのみ印刷する印刷会社にドキュメントを送信する必要がある場合です。

全般的

ページ範囲

すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ

現在のページ：現在表示されているページ

現在のビュー：現在のPDFStudioフレームに表示されているとおりにページを印刷します。**ノート**：*現在複数のページが表示されている場合、このオプションは無効になります。*

選択したページ：サムネイルペインで現在選択されているページを印刷します

ページ：必要に応じて、コンマで区切られた値を使用してページのカスタム範囲を設定します。たとえば、30ページのドキュメントの2〜4、6〜12、20ページのみを印刷するには、「2-4、6-12、20」と入力します。を使用したドキュメントページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

サブセット：印刷する現在設定されているページ範囲のサブセット。以下のオプションから選択してください

- 範囲内のすべてのページ：設定された範囲内のすべてのページを印刷します
- 偶数ページのみ：設定された範囲（2、4、6など）の偶数ページのみを印刷します
- 奇数ページのみ：設定された範囲（1、3、5など）の奇数ページのみを印刷します

ページを反転：ページがプリンタから出力される順序を逆にします

標準印刷

サイド -用紙の片面または両面にページを印刷するオプション

- 片面：各用紙の表面に1ページだけ印刷します
- 両面（短辺）：短辺でページをめくる紙1枚につき、表と裏の2ページを印刷します。
- 両面（長辺）：長辺でページをめくる紙1枚につき、表と裏の2ページを印刷します。

印刷オプション -コンテンツをページに合わせてサイズ変更するための追加の印刷オプション。

- ページの中央： ページを用紙の中央に配置します。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも大きい場合は効果がありません。

- マージンに縮小： 紙に収まるようにページを縮小します。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも小さい場合は効果がありません。
- マージンに展開： ページを展開して、印刷されている用紙を埋めます。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも大きい場合は効果がありません。
- スケール：印刷時にドキュメントにカスタムスケールを設定します。このオプションは、[マージンに縮小]または[マージンに展開]が選択されていない場合にのみ使用できます。

シート印刷ごとに複数のページ

シートあたりのページ：シートごとに印刷する必要があるドキュメントのページ数。等間隔のグリッドを使用してページがシートに追加されます

ページの順序：ページを上から下に水平に並べ替えるオプション、または左から右に垂直に並べ替えるオプション

ページ余白：各ページグリッド間の間隔を調整します

サイド -用紙の片面または両面にページを印刷するオプション

- 片面：各用紙の前面に1ページだけ印刷します
- 両面（短辺）：短辺でページをめくる紙1枚につき、表と裏の2ページを印刷します。
- 両面（長辺）：長辺でページをめくる紙1枚につき、表と裏の2ページを印刷します。

シート内の個々のページを自動回転します：幅と長さがシート上の個々のグリッドのそれぞれに最適になるように、個々のページを回転させます。

ボーダーを印刷する：チェックすると、シートの各ページの周囲に境界線が追加されます

小冊子印刷

小冊子サブセット：現在設定されているページ範囲オプションのサブセット。以下のオプションから選択してください

- 両面（長辺）：これにより、各用紙の両面にすべての小冊子ページが印刷され、折りたたむと小冊子が作成されます。
- 表面のみ：現在、小冊子の表面のみを印刷するのと同じように機能するため、ユーザーはページをめくり、必要に応じて手動で両面印刷するために裏面を印刷できます。
- 裏面のみ：現在、小冊子の裏面のみを印刷するのと同じように機能します

ページ余白：各ページグリッド間の間隔を調整します

バインディング：折りたたんだときの小冊子の綴じ（折りたたまれた端）を左にするか右にするかを決定します

シート内の個々のページを自動回転します：幅と長さがシート上の個々のグリッドのそれぞれに最適になるように、個々のページを回転させます。

ボーダーを印刷する：チェックすると、シートの各ページの周囲に境界線が追加されます

紙

用紙サイズ -印刷する用紙のサイズ。リスト内のこのサイズは、選択したプリンターによって決まります

紙のトレイ -用紙の供給元となるプリンタのトレイ

オリエンテーション -ページに配置されるコンテンツのレイアウトと方向

- ページの自動回転： 用紙の幅と長さに合わせてプリントアウトを回転させます。このオプションが選択されている場合、ポートレート/ランドスケープ設定はユーザーが設定できません。
- 縦向き：ページの縦向きを印刷します
- 横向き：ページの横向きを印刷します
- 横向きの反転：ページの横向きを印刷しますが、反転します

高度

色度 -印刷するドキュメントの色を設定します

- モノクロ：白黒またはグレースケールで印刷されます
- 色：ドキュメントをカラーで印刷します

品質 -印刷するページの品質を設定します

- ドラフト：低品質の高速印刷
- 通常：標準速度での通常の印刷品質。ほとんどの印刷状況に最適
- 高：細部まで高品質の印刷。印刷にかなり時間がかかる場合があります

パフォーマンス-印刷パフォーマンスを向上させるための追加の詳細オプションを設定します

- 画像として印刷-描画コマンドをプリンタに送信する代わりに、ページごとに1つの画像を送信します。ページ上に非常に大量の描画コマンドがあるドキュメントでパフォーマンスの問題が発生した場合に便利です
- 画像を出力に拡大縮小します-プリンタに通知します出力DPIに一致するように画像を再スケーリングするには、falseに設定すると、画像が元のサイズで送信され、プリンターがサイズを変更できるようになります。

コメントとフォーム

印刷：コメントとフォームを含むドキュメントの印刷オプションを設定します

- ドキュメントとコメント：すべてのコメントを含むドキュメントを印刷します
- ドキュメントのみ：コメントなしでドキュメントを印刷します。削除されるすべてのコメントのリストについては、を参照してください。PDFへの注釈とコメント
- フォームフィールドのみ：フォームフィールドのみを印刷し、他のコンテンツは印刷しません。
- コメントのみ：注釈とコメントのみを印刷し、他のコンテンツは印刷しません。

コメントを要約する -注釈のコメントの要約テキストをページごとまたはドキュメントの最後に追加します。

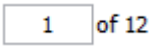
プレビュー

印刷プレビューパネルには、選択したオプションに基づいて印刷されたドキュメントがどのように表示されるかが表示され、プレビューページをナビゲートできるナビゲーションボタンと、選択した用紙とドキュメントのサイズを示すドキュメントプロパティが表示されます。印刷オプションを変更すると、プレビューがリアルタイムで更新されます。

> *ノート：Mac OSおよびLinuxでは、プリンタが白黒でのみ印刷する場合でも、一部のプリンタは常に「カラー」を表示します。*

先頭ページ： プレビュードキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： プレビュードキュメントの前のページに移動します。



ページ番号： 現在表示されているページと総ページ数を表示します。フィールドに数字を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。

次のページ： プレビュードキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： プレビュードキュメントの最後のページに移動します。

ユーザー設定

[設定]ダイアログでは、さまざまなPDFStudio設定をカスタマイズできます。以下は、設定ダイアログで使用可能なセクションのリストです。

[設定]ダイアログを開くには：

- に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
- 使用**Ctrl + K** ショートカットキー

- 全般的
- アクセシビリティ
- コメントコメント
- 変換 Pro
- 変換MSOffice Pro
- 画面
- Eメール
- フォント
- フォーム
- JavaScript
- OCR Pro
- プリフライト Pro
- デフォルトの印刷
- ルーラーとグリッド Pro
- スキャン
- スペルチェック
- ツールバー
- ツール
- デジタルIDs Pro
- タイムスタンプサーバー Pro
- 信頼できる証明書
- 応用
- 設定マネージャー

一般的な設定

[一般設定]セクションには、PDFStudioのすべての一般設定が含まれています。

[一般設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**全般的** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

言語 -英語、フランス語、ドイツ語、日本語、イタリア語、またはスペイン語を選択します。追加のロケールオプションは、言語の後にリストされています。デフォルトの言語は、コンピューター/オペレーティングシステムの言語設定から決定されます。この設定を変更した後、PDFStudioを再起動します。

ユニット –推奨される測定単位（インチ、センチメートル、ポイント、ミリメートル）を定義します。単位は、ページサイズを表示するときに[切り抜き]ダイアログと[ドキュメントのプロパティ]で使用されます。

デフォルトページ-デフォルトのページサイズと向きを設定する空白のPDFを作成する また空白ページの追加。

- サイズ：多くのグローバル標準とカスタムオプションを使用したドキュメントのページサイズ。
- 向き：ページ、横向き、または縦向き。

ドキュメント -追加のドキュメントを開くためのドキュメントの動作を設定します

- 新しいタブでドキュメントを開く：フレーム内のタブとしてすべてのドキュメントを開くようにアプリケーションを設定します。
- 同じウィンドウでドキュメントリンクを開く：チェックすると、外部ドキュメントへのリンクが同じウィンドウで開きます
- 起動時に最後のセッションを復元する：チェックすると、PDFStudioが最後に終了したときに開いていたすべてのドキュメントタブが復元されます

署名 -デジタル署名の表示設定

- 署名の有効性を表示：チェックすると、署名の検証 ページの署名に直接。それ以外の場合は、署名パネルで有効性を確認する必要があります

画像を貼り付ける –貼り付けた画像のズームを調整するかどうかを設定します。

- ズームに調整：PDF Studioに貼り付けられたチェック済みの画像は、貼り付け元のアプリケーションから表示したときと同じサイズとスケールを維持します。

他の

- **システムファイルダイアログを使用**：PDFStudioファイルダイアログとシステムファイルダイアログを切り替えます。この選択は、WindowsおよびLinux/Unixのインストールで使用できます。
- **保存時に一時ファイルを使用する**：ドキュメントを保存するときに一時ファイルを作成します。 WebDAVサーバーを使用する一部のドキュメント管理アプリケーションでは、ドキュメント履歴を保持するために元のファイルに直接書き込む必要があります。
- **起動時にウェルカム画面を表示する**：チェックすると、ウェルカム画面 起動時に表示されます
- **ページを削除する前に警告する**：前に警告を表示しますページの削除。
- **セキュリティを変更する前に警告する**：に変更を加えると警告が表示されますドキュメントのセキュリティ
- **ドキュメントをサニタイズする前に警告する**：前に警告を表示しますドキュメントのサニタイズ
- **URLからリンクを作成する**：URLに似たドキュメント内のテキストを自動的に検出し、クリック可能なリンクにします
- **すべてのコメントを平坦化する前に警告する**：前に警告を表示しますすべてのコメントを平坦化する。
- **すべてのコメントを削除する前に警告する**：前に警告を表示しますすべてのコメントを削除する。
- **署名されたドキュメントを保存する前に警告する**：を含むドキュメントを保存する前に警告を表示しますデジタル署名 これは、ドキュメント内の署名を無効にするためです。
- **変更されたドキュメントのタイトルバーに「*」を表示する**：ドキュメントが変更されると、PDF Studioは、ドキュメントが変更されたかどうかを簡単に区別できるように、表示されるファイル名の末尾にアスタリスク「*」を追加します。
- **バッチ->フォルダの追加にサブフォルダを含めるように求めるプロンプト**：「サブフォルダ」オプションを有効にしてバッチファイルを処理する前に警告を表示します
- **新しいドキュメントを作成するときにページオプションダイアログを表示する**：オンにすると、新しいドキュメントを作成する前に、ユーザーは新しいページサイズ設定の入力を求められます
- **現在の選択後にページを貼り付ける**：チェックすると、コピーされたページはサムネイルペインで選択したページの後に貼り付けられます

アクセシビリティ設定

[一般設定]セクションには、PDFStudioのすべてのユーザー補助設定が含まれています。

[一般設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>アクセシビリティ**
2. 選択する**一般** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

ドキュメントの色を置き換える：使用するユーザー補助オプションを有効にするには、このオプションを選択します。

高コントラストの色を使用する：高コントラストの色の組み合わせの事前定義されたリストから選択します

カスタムカラー：ページの背景とテキストの色に独自の色の組み合わせを設定します

- **Page背景**：表示される背景の色
- **テキストの色**：コンテンツ、注釈、フォームフィールドを含むドキュメント内のすべてのテキストの色

黒のテキストまたは線画の色のみを変更します：チェックすると、現在黒に設定されていないテキストや線画は無視されます

テキストだけでなく線画の色も変更する：チェックすると、上記で指定したテキストの色を使用して、ドキュメント内のパスまたは行の内容も色付けします

コメント設定

コメント設定セクションには、すべてのコメント、マークアップ、および注釈 PDFStudioの設定。

[コメント設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**コメントコメント** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

デフォルトのツールプロパティ- 個々の注釈ツールのそれぞれのデフォルト設定が含まれています。注釈のデフォルト値を編集するには、ツールの名前をクリックしてそのプロパティダイアログを開きます。次に、デフォルトにする値を設定し、[OK]をクリックして変更を保存します。

描く

- 重複するコメントの描画を許可する：注釈を別の注釈の上に直接描画できるようにします。
- Ctrl +ドラッグを使用して、選択した注釈をコピーします

ノート：[重複するコメントの描画を許可する]が無効になっている場合でも、最初にページの別の部分に注釈を作成してから、既存の注釈の上にドラッグすることで、注釈を重複させることができます。

ゴム印

- スタンププレビューの表示：有効にすると、ラバースタンプのプレビューがメニューに表示されます。それ以外の場合は、スタンプの名前のみがテキストとして表示されます
- スタンプ名をメモにコピー：エクスポート時に注釈を分類する方法として、スタンプの名前をメモに追加します。

テキストマークアップ

- メモにテキストをコピー：テキストマークアップ注釈を使用すると、選択したテキストが注釈のメモにコピーされます。

著者

- 作成者：この名前は、ドキュメントに追加された注釈に関連付けられます

コメントパネル

- コメント付きのPDFを開くときにコメントペインを表示する：チェックすると、自動的にコメントパネル 注釈を含むドキュメントが開かれたとき。

表示

・テキストインジケーターとツールチップを有効にする：チェックすると、コメントを含む注釈に吹き出しとツールチップが表示されます。

変換設定

[変換設定]セクションには、テキストドキュメントと画像ファイルをPDFに変換する際のPDFStudioのすべての設定が含まれています。

[変換設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**変換** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

PDFへのテキスト

フォント-.txtファイルを変換するときのフォント設定。

- フォント：.txtドキュメントを変換するときに使用されるフォント。
- サイズ：.txtドキュメントを変換するときに使用されるフォントサイズ。
- 太字：変換されたドキュメント内のすべてのテキストを作成します**大胆な。**
- 斜体：変換されたドキュメント内のすべてのテキストを作成します*イタリック。*

ページサイズと余白-.txtファイルを変換するときのページサイズと余白の設定。

- 単位：.txtをPDFに変換するときにページサイズと余白の設定に使用される単位
- 幅：選択した単位でのページの幅。
- 高さ：選択した単位でのページの高さ。
- 上：選択した単位でのページの上余白。
- 下：選択した単位でのページの下余白。
- 左：選択した単位でのページの左マージン。
- 右：選択した単位でのページの右マージン。

背景を使用する -.txtファイルをPDFに変換するときに背景として使用される画像を設定します

PDFへの画像

これらの設定はに適用されます画像をPDFに変換する またページとしての画像のインポート。

カラー画像 -カラー画像を変換するときに使用する設定

圧縮- 任意の画像をJPEG、JPEG2000、FLATE、またはJBIG2のいずれかに変換します。

- JPEG：画質とサイズを低下させる不可逆圧縮
- JPEG2000：サイズと品質を低下させる非可逆圧縮
- FLATE：ロスレス圧縮は品質を低下させません
- JBIG2：黒と白の色のみをサポートできるロスレス圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

ノート：「カラースペース」または「DPI」に変更が加えられるたびに、画像を再圧縮する必要があります。 「変更なし」オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像圧縮形式を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている最も一致する圧縮に再圧縮します。

JPEG品質 -画質を10〜100％の範囲で調整できます。

- これは、JPEGまたはJPEG2000画像にのみ影響します。これは、これらが画質設定をサポートする唯一の形式であるためです。

色空間-画像の色を保持するか、グレースケールまたは白黒に変換するかを選択します。

- 灰色：JPEG、JPEG2000、またはFLATEでのみサポートされます。フルカラー画像に最適
- B＆W：FLATEまたはJBIG2でのみサポートされます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

ノート：「変更なし」オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像の色空間を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている最も近い色空間に変更されます。 JDK 1.7のリグレッションバグにより、CMYK色空間のJPEG画像はRGBに変換されます。

グレースケール画像 -グレースケール画像を変換するときに使用する設定

圧縮 -任意の画像をJPEG、JPEG2000、FLATE、またはJBIG2のいずれかに変換します。

- JPEG：画質とサイズを低下させる不可逆圧縮
- JPEG2000：サイズと品質を低下させる非可逆圧縮
- FLATE：ロスレス圧縮は品質を低下させません
- JBIG2：黒と白の色のみをサポートできるロスレス圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

ノート：「カラースペース」または「DPI」に変更が加えられるたびに、画像を再圧縮する必要があります。 「変更なし」オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像圧縮形式を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている最も一致する圧縮に再圧縮します。

JPEG品質 -画質を10〜100％の範囲で調整できます。

- これは、JPEGまたはJPEG2000画像にのみ影響します。これは、これらが画質設定をサポートする唯一の形式であるためです。

色空間 -画像の色を白黒に保持するか変換するかを選択します。

- B＆W：FLATEまたはJBIG2でのみサポートされます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

ノート：「変更なし」オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像の色空間を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている

最も近い色空間に変更されます。 JDK 1.7のリグレッションバグにより、CMYK色空間のJPEG画像はRGBに変換されます。

黒と白の画像 -白黒画像を変換するときに使用する設定

圧縮 -任意の画像をFLATEまたはJBIG2に変換します。

- FLATE：ロスレス圧縮は品質を低下させません
- JBIG2：黒と白の色のみをサポートできるロスレス圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

ノート：「カラースペース」または「DPI」に変更が加えられるたびに、画像を再圧縮する必要があります。 「変更なし」オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像圧縮形式を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている最も一致する圧縮に再圧縮します。

サイズが縮小された場合にのみ画像を最適化する -チェックすると、画像変換により、選択したオプションを使用した新しい画像が実際には元の画像よりもバイト単位で小さいことが検証されます。そうでない場合、元の画像は新しく作成されたドキュメントに残ります。

MSOfficeの変換設定

[MS Office変換設定]セクションには、WordおよびExcelドキュメントをPDFに、PDFをWordドキュメントに変換する際のPDFStudioのすべての設定が含まれています。

[MS Office変換設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**変換MSOffice** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

WordからPDF

フォントの埋め込み設定では、Word文書（.docまたは.docx）をPDFに変換するときにフォントを埋め込むかどうかを設定できます。また、フォントがシステムに存在しない場合に使用するフォールバックフォントを設定することもできます。

> **ノート：***デフォルトでは、PDF Studioは、インストーラーにフォールバックフォントとしてパッケージ化されているDroidSansFallbackFull.ttfフォントを使用します。*

フォントを埋め込まないでください -変換時にフォントはドキュメントに埋め込まれません。代わりに、フォントはドキュメント内で名前で参照され、ドキュメントを表示するときに表示されるシステム上のフォントを見つけるのはPDFビューア次第です。

フォントを埋め込む -フォントは、変換時にPDFドキュメントに埋め込まれます。

埋め込みに失敗した場合 -Wordドキュメントで指定されたフォントがシステムに存在しない場合にPDFStudioが実行する処理を決定します。

- エラーをスローする：フォントがシステムに見つからない場合、ドキュメントの変換は失敗し、PDFStudioにエラーメッセージが表示されます。
- PDF Studioフォールバックフォントを使用する：PDFStudioにパッケージ化されているフォールバックフォントを使用して文字を検索しようとします
- 選択したフォールバックフォントを使用：以下に設定されたフォールバックフォント内の文字を検索しようとします。

> **ノート：***ワードドキュメントを変換するとき、PDF Studioは最初にシステム上のフォントを探し、次にフォールバックフォントセット内の文字を見つけようとします。システムフォントまたはフォールバックフォントのいずれにも文字が見つからない場合、ドキュメント全体が変換に失敗します。フォールバックを選択するときは、変換の失敗を避けるために、できるだけ多くの文字を含むフォントを選択することが重要です。*

フォールバックフォント -使用するフォントファイル（.ttf）へのフルパス。 [参照...]ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、使用するフォントファイル（.ttf）に移動します 。

行方不明の文字の最大数：フォールバックフォントにフォールバックするときに許可される、サポートされていない一意の文字の最大数を設定します。このオプションを設定すると、フォールバックフォントがレンダリングに使用される文字の完全なグリフサポートを提供しない場合に、変換が成功するかどうかをある程度制御できます。

見出しからブックマークを作成する -このオプションは、Wordの見出しスタイルを使用してブックマークを作成します（ヘッダー1、ヘッダー2など...）

ExcelからPDFへ

Add各シートのブックマーク -ブックの各シートのPDFにブックマークを作成します

スケーリング -PDFに変換するときにスプレッドシートをページに分割する方法を決定します。PDF Studioは、PDFドキュメントを作成するときに、Excelドキュメント内で設定されたページサイズと余白の設定を使用します。

- ページに合わせる：ワークシート全体を縮小して、すべてが1つのページに収まるようにします
- 幅に合わせる：すべての列が1ページに収まるようにワークシートを縮小します。行は必要に応じて追加のページに進みます
- 実際のサイズ：スケーリングなし。データが1ページに収まらない場合、Excelファイル内で設定されたページ順序を使用してページに分割されます。

最大ページ数 -非常に大きなワークシートは、変換中に非常に長い時間がかかるか、メモリが不足する可能性があります。これにより、ワークシートを変換するときに試行する最大ページ数が設定されます。デフォルト設定は2,000ページです。

フォントを埋め込まないでください -変換時にフォントはドキュメントに埋め込まれません。代わりに、フォントはドキュメント内で名前で参照され、ドキュメントを表示するときに表示されるシステム上のフォントを見つけるのはPDFビューア次第です。

フォントを埋め込む -フォントは、変換時にPDFドキュメントに埋め込まれます。

> *ノート：デフォルトでは、PDF Studioは、インストーラーにフォールバックフォントとしてパッケージ化されているDroidSansFallbackFull.ttfフォントを使用します。*

埋め込みに失敗した場合 -Excelドキュメントで指定されたフォントがシステムに存在しない場合にPDFStudioが実行する処理を決定します。

- エラーをスローする：フォントがシステムに見つからない場合、ドキュメントの変換は失敗し、PDFStudioにエラーメッセージが表示されます。
- PDF Studioフォールバックフォントを使用する：PDFStudioにパッケージされているフォールバックフォントを使用して文字を検索しようとします
- 選択したフォールバックフォントを使用：以下に設定されたフォールバックフォント内の文字を検索しようとします。

ノート：ワードドキュメントを変換するとき、PDF Studioは最初にシステム上のフォントを探し、次にフォールバックフォントセット内の文字を見つけようとします。システムフォントまたはフォールバックフォントのいずれにも文字が見つからない場合、ドキュメント全体が変換に失敗します。フォールバックを選択するときは、変換の失敗を避けるために、できるだけ多くの文字を含むフォントを選択することが重要です。

フォールバックフォント -使用するフォントファイル（.ttf）へのフルパス。 [参照...]ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、使用するフォントファイル（.ttf）に移動します 。

行方不明の文字の最大数：フォールバックフォントにフォールバックするときに許可される、サポートされていない一意の文字の最大数を設定します。このオプションを設定すると、フォールバックフォントがレンダリングに使用される文字の完全なグリフサポートを提供しない場合に、変換が成功するかどうかをある程度制御できます。

PowerPointからPDFへ

フォントを埋め込まないでください -変換時にフォントはドキュメントに埋め込まれません。代わりに、フォントはドキュメント内で名前で参照され、ドキュメントを表示するときに表示されるシステム上のフォントを見つけるのはPDFビューア次第です。

フォントを埋め込む -フォントは、変換時にPDFドキュメントに埋め込まれます。

埋め込みに失敗した場合 -PowerPointドキュメントで指定されたフォントがシステムに存在しない場合にPDFStudioが実行する処理を決定します。

- エラーをスローする：フォントがシステムに見つからない場合、ドキュメントの変換は失敗し、PDFStudioにエラーメッセージが表示されます。
- PDF Studioフォールバックフォントを使用する：PDFStudioにパッケージされているフォールバックフォントを使用して文字を検索しようとします
- 選択したフォールバックフォントを使用：以下に設定されたフォールバックフォント内の文字を検索しようとします。

ノート：ワードドキュメントを変換するとき、PDF Studioは最初にシステム上のフォントを探し、次にフォールバックフォントセット内の文字を見つけようとします。システムフォントまたはフォールバックフォントのいずれにも文字が見つからない場合、ドキュメント全体が変換に失敗します。フォールバックを選択するときは、変換の失敗を避けるために、できるだけ多くの文字を含むフォントを選択することが重要です。

フォールバックフォント -使用するフォントファイル（.ttf）へのフルパス。 [参照...]ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、使用するフォントファイル（.ttf）に移動します 。

行方不明の文字の最大数：フォールバックフォントにフォールバックするときに許可される、サポートされていない一意の文字の最大数を設定します。このオプションを設定すると、フォールバックフォントがレンダリングに使用される文字の完全なグリフサポートを提供しない場合に、変換が成功するかどうかをある程度制御できます。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

表示設定

[表示設定]セクションには、PDFStudioのすべての表示設定が含まれています。

[表示設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**画面** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

ルックアンドフィール -PDF Studioのルックアンドフィール（テーマ）を変更します。再起動を適用する必要があります。

テーマ

- 自動:(デフォルト）OSで設定されたテーマに一致するように明るい色または暗い色のテーマを設定します
- ライト：モダンなライトスタイルのフラットユーザーインターフェイス
- ダーク：モダンなダークスタイルのフラットユーザーインターフェイス

アイコンの色

- カラー：フルカラーのモダンなフラットアイコン
- モノクロ：グレースケールのモダンなフラットアイコン、ダークモードに適しています

フルスクリーンの外観

- 背景：PDFStudioがドキュメントを表示しているときに使用されるオプションを設定します
  フルスクリーンモード

レイアウトと倍率 -ドキュメントを表示するためのレイアウトと倍率のデフォルトを設定します。

デフォルトでは、PDF Studioは、ドキュメント内で設定された初期ビュー設定を使用して、ドキュメントを開くときに左側のパネルを表示します。 PDFドキュメントの初期表示設定で設定が設定されていない場合、デフォルトで[ページ]パネルが開きます。いずれかのオプションで[ドキュメント設定を無視]を選択すると、PDF Studioはドキュメントの設定を無視し、選択したオプションを使用します。

ナビゲーションタブ- PDFドキュメントを開くときのナビゲーションタブのデフォルトの動作を設定します。

- デフォルト：PDFStudioのデフォルト設定を使用します
- なし（ドキュメントのみ）：ナビゲーションタブは表示されません
- ブックマークパネル：ドキュメントを開いたときにブックマークパネルを表示します
- ページパネル：ドキュメントを開いたときにページパネルを表示します

・ 添付ファイルパネル：ドキュメントを開いたときに添付ファイルパネルを表示します

ページレイアウト - PDFドキュメントを開くときのページレイアウトのデフォルトの動作を設定します。

・ デフォルト：PDFStudioのデフォルト設定を使用します
・ シングル：一度に1つの個別のページのみを表示します
・ 単一連続：連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します
・ 見開き：一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
・ 連続向き：すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
・ 表紙：見開きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます
・ Cover Continuous：Facing Continuousを使用する場合と同じようにドキュメントを表示し、最初のページのみが単独で表示されます

倍率- PDFドキュメントを開くときに使用するデフォルトの倍率を設定します。

・ デフォルト：PDFStudioのデフォルト設定を使用します
・ 実際：スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致する1：1の比率でドキュメントを表示します
・ ページに合わせる：PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します
・ 幅に合わせる：PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します
・ %：指定した数値にズームを設定します

最後のページを復元- 有効にすると、PDF Studioは、同じPDFを再度開いたときに表示された最後のページに再度開きます。

> **ノート：** 「デフォルト」および「なし（ドキュメントのみ）」オプションは、PDF内で設定された初期ビュー設定を使用します。他のオプションが選択されている場合は、PDFドキュメントの初期表示設定内の設定の代わりにPDFStudio設定が使用されます。

色を反転 -PDFStudioを常にデフォルトに設定します色反転モード。

バインディング -左側または右側のバインディングでPDFファイルを表示するかどうかを指定します。この設定は、見開きページのページの表示に影響します-連続レイアウトとサムネイルの横並びの表示。

ドキュメントの解決 -PDFを表示するときに使用する解像度を設定します。これは、画面に表示されているときのドキュメントのサイズにのみ影響します。理想的には、ズームが100%に設定されたときに、印刷されたドキュメントと同じサイズになるような値に設定する必要があります。

・ システム設定：システムによって設定された解像度を使用します。
・ カスタム解像度：使用するカスタム解像度を設定できます。

- デフォルトでは、PDF Studioは、100%ズームでPDFサイズを最も正確に表示する解像度値を設定します。カスタム値が変更された場合は、「リセット」ボタンを使用して、PDFStudioで計算されたデフォルトを復元します。

レンダリング：ドキュメントコンテンツ表示のオプション

- 細い線を強調する：すべての線を1pxの最小幅に変換します

メール設定

[電子メール設定]セクションには、PDFStudioのすべての電子メール設定が含まれています。

[電子メール設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**Eメール** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

PDF Studio内からPDFを送信するには、メールアカウント情報を入力してください。

PDFオプション -電子メールで送信する前にドキュメントに対して実行するオプション。

- すべてのコメントをフラット化：テキストボックス、図形、ハイライト、スタンプを含むすべての注釈をドキュメントに直接フラット化して、編集できないようにします。
  - 付箋などの注釈ではコメントが削除されますが、画像は引き続きドキュメントに配置されます

  注意：*次の注釈（添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈）は、注釈を平坦化するときに削除されませんs。技術的には、添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈は注釈ですが、注釈が平坦化された場合にも削除されるアクションが含まれているため、PDFに配置された機能に干渉しません。*

- すべてのフィールドをフラット化：テキストボックス、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、リストボックス、ボタン、署名フィールドを含むすべてのフィールドをドキュメントに直接フラット化して、編集できないようにします。内のすべての値 フィールドも平坦化されます

MicrosoftOutlookを使用する -Outlookから直接送信できるようにチェックします（Windowsのみ）

Mac OSXメールを使用する -メールから直接送信できるようにチェックします（Macのみ）

PDFStudioを使用する-PDF Studioに組み込まれている電子メール機能を使用するには、このオプションをオンにします。これを機能させるには、最初にメールアカウント情報を設定する必要があります。

[編集]をクリックして、メール設定を入力します。

- ユーザー情報
  - あなたの名前：メールを送信するときに表示される名前。
  - あなたのEメール：あなたが使用したいアカウントのEメールアドレス。
- サーバー情報-これらの設定は、電子メールサービスプロバイダーから取得する必要があります。

- 送信サーバー
- サーバーには認証が必要
- ユーザー名
- パスワード
- パスワードを覚える
- ポートを指定します
- TLSを開始します

設定を保存する前に、[接続のテスト]ボタンを使用して、設定が正しいことを確認してください。

他のメールアプリケーションを使用する -コマンドラインアクションを使用して、電子メールアプリケーションを開始できます。別のコマンドを使用する必要があるため、添付ファイル付きまたは添付ファイルなしで電子メールを送信するには、2つのコマンドラインフィールドに入力します それらのそれぞれの行。これは、Javascriptアクションを実行しているとき、またはPDFStudioでメール機能を開始しているときに発生する可能性があります。

件名と添付ファイル付きのコマンドラインメールの例

Windows上のOutlook：

コマンドライン：outlook.exe / c ipm.note / m "＆subject = $ filename"を開始します

コマンドライン（添付ファイル付き）：outlook.exe / c ipm.note / m "＆subject = $ filename" / a "$ filepath"を開始します

Linux上のThunderbird：

コマンドライン：サンダーバード

コマンドライン（添付ファイル付き）：thunderbird -compose subject = $ filename、attachment = $ filename

Mac上のThunderbird / Outlook：

コマンドライン：open -a "Microsoft Outlook.app"

コマンドライン（添付ファイル付き）：open -a "Microsoft Outlook.app" $ filepath

「変数の追加」をクリックして、事前定義された変数を追加することもできます。

設定が正しく機能していることを確認するには、ドキュメントを開いてメールをクリックします ボタンまたはに移動します**ファイル>メール**。

注意： *現時点では、Macユーザーは新しいメールを作成せずに特定のメールアプリケーションのみを開くことができます*

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

フォント設定

「フォント設定」セクションには、PDFStudioのすべてのフォント設定が含まれています。

[フォント設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**フォント** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

CJKフォントのデフォルト

このセクションでは、埋め込まれていないCJKフォントをレンダリングするときに使用するデフォルトのフォントを決定します

タイプ - PDFドキュメントで使用されている各CJKフォントタイプを一覧表示します。

システム フォント -選択したCJKフォントタイプに現在使用されているフォント。編集するには、CJKフォントタイプを選択してから、フォントが埋め込まれていないときに使用するシステムからフォントを選択します。 CJKフォントの種類（中国語、簡体字中国語、日本語、韓国語など）ごとに、ユーザーはシステムにインストールされているすべてのフォントの中から使用するローカルフォントを選択できます。システムフォントコンボボックス内で使用できるCJKフォントがない場合は、システムで新しいCJKフォントを見つけてインストールする必要があります。通常、ttfまたはttc形式で新しいフォントをインストールすることが可能です。デフォルトでは、PDFStudioには以下の設定があります。

デフォルトのCJKフォント置換設定

CJKフォントが埋め込まれていないPDFドキュメントをレンダリングする場合、PDFStudioはシステム上でCJKフォントを検索しようとします。オペレーティングシステムで提供されているCJKフォントを理解するために、最近のバージョンのWindows、macOS、およびLinuxを調べました。

この情報から、各OSの優先フォントリストを作成しました。 PDF Studioはフォントを検索し、そのCJKカテゴリのデフォルトの代替フォントとして見つかった最初のフォントを選択します。

WindowsのデフォルトのCJKフォント

PDF Studioは、Windowsに付属している次のCJKフォントを使用します。

- 中国のサンセリフ-MicrosoftJhengHei
- 中国のセリフ-PmingLiu、MingLiu、SimSun
- 簡体字中国語-SimSun、NsimSun、Microsoft YaHei
- 日本のサンセリフ-メイリオ、MS PGothic、MSゴシック、Yuゴシックレギュラー

- 日本のセリフ-MSPMincho、MS Mincho、SimSun、NSimSun
- 韓国のサンセリフ-マルグンゴシック、ドトゥム、グリム
- 韓国のセリフ-バタン、グンス、マルグンゴシック

MacのデフォルトのCJKフォント

PDF Studioは、Macに付属している次のCJKフォントを使用します。

- 中国のサンセリフ-AppleLiGothicMedium、PingFang TC、STHeiti
- 中国のセリフ-LiSongPro、Biau Kai、STSongti-TC
- 簡体字中国語-STSong、STFangsong
- 日本のサンセリフ-ヒラギノカクゴシックプロW3、アップルゴシック、ヒラギノマルゴシックプロW4、大阪
- 日本のセリフ-ヒラギノミンチョプロW3、PCMyungjo
- 韓国のサンセリフ-AppleGothic、AppleSDGothicNeoR00
- 韓国のセリフ-AppleyMyungjo、PCMyungjo、PilGi

LinuxのデフォルトのCJKフォント

PDF Studioは、Linuxに付属している次のCJKフォントを使用します。

- 中国のサンセリフ-UMingTW、UMingHK、Source Han Sans TW、DroidSan sFallback
- 中国のセリフ-UMingTW、UMingHK、Source Han Sans TW、DroidSansフォールバック
- 簡体字中国語-WenQuanYiMicroHei、WenQuanYiZenHei、DroidSansフォールバック、Source Han Sans CN
- Japanese Sans Serif-Droid Sans Japanese、Takao PGothic、VL-Gothic-Regular、WenQuanYiMicroHei
- Japanese Serif-Droid Sans Japanese、Takao PGothic、VL-Gothic-Regular、WenQuanYiMicroHei
- 韓国のサンセリフ-NanumGothic、Nanum Barun Gothic
- 韓国のセリフ-ナヌムミョンジョ

フォント置換規則

変換中に、ソースドキュメントに使用できないフォントが含まれている場合は、次の表を使用して、優先する置換フォントを定義できます。フォントの埋め込みを使用したWordからPDFへの変換では、ここで定義された一致するフォントが利用できない場合、変換MSOffice設定で設定されたフォールバックフォントが最後の手段として使用されます。

「常に」オプションを使用して、使用可能かどうかに関係なく、指定されたフォントを置き換えます。

ノート：置換されたフォントのメトリックが元のフォントと異なる場合、フォントの置換によってテキストレイアウトが異なる可能性があります。

追加：新しいフォント置換ルールを作成します

編集：選択したフォント置換ルールを編集します

削除：選択したフォント置換ルールを削除します

デフォルトに戻す：クリックすると、フォントルールがインストールのデフォルトに戻ります

フォーム設定

「フォーム設定」セクションには、PDFStudioのすべてのフォーム設定が含まれています。

[フォーム設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**フォーム** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

フォームのマージ -フォームフィールドを含むドキュメントをマージするときに使用される設定

- フィールドの名前の変更：フィールドを持つドキュメントをマージする場合、フィールドの名前を変更するか、同じ名前のフィールドをマージすることができます。同じ名前でタイプが異なるフィールドは、引き続き名前が変更されます。

平らにする -これらの設定は次の場合に使用されますフィールドの平坦化 PDF内。

- プッシュボタンのペイント：平らにするときにボタンを画像として描画します。
  - [画像ボタンのみをペイント]：ボタンに画像が含まれている場合にフラット化すると、ボタンは画像としてのみ描画されます。標準のテキストボタンは描画されません。
- 印刷不可能なフィールドのペイント：可視性プロパティが「非表示」または「表示/印刷しない」に設定されているフィールドをフラット化します。

フィールドプロパティ -このセクションには、各フォーム編集ツールのデフォルト設定が含まれています。フォームフィールドを作成するときにデフォルトの外観値を編集するには、フィールドの名前をクリックして開きます。 プロパティダイアログ。次に、デフォルトにする値を設定し、[OK]をクリックして変更を保存します。

JavaScriptの設定

[JavaScript設定]セクションには、PDFStudioのすべてのJavaScript設定が含まれています。

JavaScript設定ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**JavaScript** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

JavaScriptを有効にする -PDFのJavaScript機能の処理を有効にし、必要に応じてエラーを消音します。 JavaScriptを含むドキュメントを開くと、JavaScriptを[常にオン]、[しない]、または[プロンプト]に設定できます。 プロンプトがデフォルトです。

- しない：PDFドキュメント内でJavaScriptを実行することはできません。
- プロンプト：JavaScriptをPDFドキュメントで実行することを許可するようにユーザーに促すメッセージを表示します。
- 常に：PDFドキュメント内で常にJavaScriptを実行します。**警告：** 信頼できるソースからのドキュメントのみを開くようにしてください。

フォーマットエラー -PDFドキュメントにJavaScriptがある場合に、警告メッセージを表示するか、ビープ音を鳴らすか。

フォームを送信する前に警告する -チェックすると、JavaScriptを使用してPDFフォームを送信する前にプロンプトが表示されます

ドキュメントを電子メールで送信する前に警告する -チェックすると、JavaScriptを使用してドキュメントをメールで送信する前にプロンプトが表示されます

OCR設定

[OCR設定]セクションには、PDF StudioのすべてのOCR（光学式文字認識）設定が含まれています。

[OCR設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**OCR** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

認識言語 -デフォルトのOCR言語と新しい言語をダウンロードする機能を設定するオプション。

- プライマリ言語：使用するデフォルトのOCR言語を設定します。
- 第二言語を有効にする:(実験的）複数の言語を含むドキュメントを操作するときにこのオプションを有効にして、デフォルトで選択されている言語だけでなく、第二言語のテキストも認識します。
- OCR言語のダウンロード：言語ダウンロードマネージャーを開きます。

画像処理 -スキャンした画像をOCRエンジンに渡してテキストを認識するときに使用する設定。

- DPI解像度：OCRエンジンに送信される画像の解像度を設定します。

ノート：私たちのテストから、300 DPIの解像度は、ほとんどの画像に対して良好なOCR結果を生成します。ノイズを含むスキャンを処理する場合は、低いDPI設定を使用してノイズを取り除き、より良いOCR結果を取得してみてください。

利用可能なOCR言語

次の言語辞書ファイルは、PDFStudioOCR関数内から直接ダウンロードできます。

- アフリカーンス語
- アルバニア語– shqip
- アラビア語–アラビア語
- アゼルバイジャン–azərbaycan
- バスク語– euskara
- ベラルーシ語–беларуская
- ベンガル語– বাংলা
- ブルガリア語– български
- カタロニア語–カタロニア語
- チェロキー
- ガリシア語–ガレゴ
- ドイツ語-ドイツ語
- ギリシャ語–Ελληνικά
- ヘブライ語–עברית
- ヒンディー語–हिन्दी
- ハンガリー語– magyar
- アイスランド語–íslenska
- インドネシア語–インドネシア語
- イタリア語-イタリア語
- ポーランド語-Polskie
- ポルトガル語-Português
- ルーマニア語–română
- ロシア語–русский
- セルビア語–српски
- スロバキア語–slovenčina
- スロバキア語（フラクトゥール）–slovenčina（フラクトゥール）
- スロベニア語–slovenščina
- スペイン語-Español

- 中国語（簡体字）-中文（简体中文）
- 中国語（繁体字）-中文（繁體）
- クロアチア語- hrvatski
- チェコ語-čeština“ da”>デンマーク語- dansk
- デンマーク語- Dansk
- デンマーク語（フラクトゥール）- Dansk（フラクトゥール）
- オランダ語-オランダ語
- 英語
- エストニア語- eesti
- フィンランド語-Suomalainen
- フランス語-Français
- イタリア語（旧）-italino vecchio
- 日本語-日本語
- カンナダ語-ಕನ್ನಡ
- 韓国語-한국어
- ラトビア語-latviešu
- リトアニア語-lietuvių
- マケドニア語-македонски
- マレー語- Bahasa Melayu
- マラヤーラム語-മലയാളം
- マルタ語-マルタ
- 数学/方程式
- ノルウェー語-Norsk
- スペイン語（旧）-español（Antiguo）
- スワヒリ語-キスワヒリ語
- スウェーデン語-Svensk
- タガログ語
- タミル語-தமிழ்
- テルグ語-తెలుగు
- タイ語-ไทย
- トルコ語-Türkçe
- ウクライナ語-українська
- ベトナム語-TiếngViệt

適切な言語ファイルを使用すると、OCR結果の精度が向上します。見るOCR結果を改善するためのヒント 追加情報について

PDF / A設定

PDF / A設定セクションには、PDFStudioのすべてのPDF / A設定が含まれています。

PDF / A設定ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**PDF / A** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

PDF / A変換 -ドキュメントをPDF / A-1bに変換するときに適用される設定

- 情報ダイアログを表示：変換を開始する前に、以下のオプションがどのように処理されるかを説明するダイアログを表示するかどうか。
  - サポートされていない注釈：サポートされていない注釈が検出されたときに削除するか警告するか。
  - 透明度：画像で透明度が検出されたときに削除するか警告するか。
  - 埋め込みファイル：埋め込みファイルが検出されたときに削除するか警告するか。

デフォルトの設定を印刷する

[印刷のデフォルト設定]セクションでは、PDF Studioで使用する[印刷]ダイアログを選択したり、[システム印刷]ダイアログで印刷するときに使用する印刷オプションを設定したりできます。

[デフォルトの印刷設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**デフォルトの印刷** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

印刷ダイアログ -PDFStudioで使用する印刷ダイアログを選択できます。

- Windows / Mac / Linuxで印刷：デフォルトのシステム印刷ダイアログを使用してPDFを印刷します。このダイアログの設定は、PDFStudioではなくオペレーティングシステムによって決定されます。以下は、システムで印刷するときに有効になる追加の設定です。
- PDF Studioで印刷：PDFStudioダイアログを使用してPDFを印刷します。これらの設定はPDFStudioの印刷ダイアログで直接利用できるため、選択すると、以下の設定は無効になります。

Windows / Mac/Linux設定で印刷

印刷オプション -コンテンツをページに合わせてサイズ変更するための追加の印刷オプション。

- ページの中央： ページを用紙の中央に配置します。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも大きい場合は効果がありません。
- マージンに縮小： 紙に収まるようにページを縮小します。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも小さい場合は効果がありません。
- マージンに展開： ページを展開して、印刷されている用紙を埋めます。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも大きい場合は効果がありません。

オリエンテーション -ページに配置されるコンテンツのレイアウトと方向

- ページの自動回転： 用紙の幅と長さに合わせてプリントアウトを回転させます。このオプションが選択されている場合、ポートレート/ランドスケープ設定はユーザーが設定できません。
- 画像を出力に拡大縮小します-プリンタに通知します出力DPIに一致するように画像を再スケーリングするには、falseに設定すると、画像が元のサイズで送信され、プリンターがサイズを変更できるようになります。

コメントとフォーム：コメントとフォームを含むドキュメントの印刷オプションを設定します

- ドキュメントとコメント：すべてのコメントを含むドキュメントを印刷します

- ドキュメントのみ：コメントなしでドキュメントを印刷します。削除されるすべてのコメントのリストについては、を参照してください。PDFへの注釈とコメント
- フォームフィールドのみ：フォームフィールドのみを印刷し、他のコンテンツは印刷しません。
- コメントのみ：コメントと注釈のみを印刷し、他のコンテンツは印刷しません

定規とグリッドの設定

[ルーラーとグリッドの設定]セクションには、PDFStudioのすべてのルーラーとグリッドの設定が含まれています。

[ルーラーとグリッドの設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**定規とグリッド** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

単位-ルーラーとグリッドが有効になっている場合は、インチまたはセンチメートルのどちらを使用するかを選択します

グリッド -下のグリッドオプションと表示時に使用される間隔と色のオプション

- 水平方向の間隔：上で選択した単位の各グリッド線の間の水平方向の間隔。
- 垂直方向の間隔：上で選択した単位の各グリッド線の間の垂直方向の間隔。
- サブディビジョン：水平線と垂直線のそれぞれの間のサブディビジョンラインの数。
- 左オフセット：最初のグリッド線の左オフセット距離。
- 上部オフセット：最初のグリッド線の右オフセット距離。
- 色：有効にしたときのグリッド線の色。

スペルチェックの設定

[スペルチェックの設定]セクションには、テキストを入力するときに使用されるPDFStudioのすべてのスペルチェック設定が含まれています。注釈 またはフォームフィールド。

[スペルチェックの設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**スペルチェック** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

オプション -一般的なスペルチェックオプション

スペルチェックを有効にする -スペルチェックの使用を有効または無効にします

色 -スペルミスのある単語の下に配置される波線の色を設定します

すべて大文字の単語を無視する -チェックすると、すべて大文字で入力された単語はスペルミスとしてマークされません

単語の数字を無視する -チェックすると、数字を含む単語（つまり、「Studio11」）はスペルミスとしてマークされません

辞書 -言語やカスタム単語を含む辞書オプション

言語 -スペルチェックが有効になっているときに使用する言語を設定します。複数の言語をチェックすると、多言語のスペルチェックが有効になります。スペルチェックには次の言語を使用できます。

- アラビア語
- オランダの
- 英語
- フランス語
- ドイツ人
- イタリアの
- 研磨
- ロシア
- スペイン語

カスタムワード -スペル辞書に追加されたユーザー定義の単語のリストを表示します。このリストの単語はスペルミスとしてマークされません

追加：カスタム辞書にカスタム単語を追加するために使用されます

編集：カスタム辞書で選択した単語を編集します

削除：選択した単語をカスタム辞書から削除します

ツールバーの設定

[ツールバーの設定]セクションには、PDFStudioのすべてのツールバー設定が含まれています。

[ツールバー設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**ツールバー** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

ツールバースタイル -を使用するかどうかを選択しますリボンツールバー またはクラシックツールバー

リボンツールバーの設定

お気に入りリボングループ

リボンの[ホーム]タブで、カスタムの[お気に入り]グループのボタンを指定できます。左側のリストには、使用可能なすべてのツールがタブ別に整理されて表示され、右側のリストには、現在お気に入りのツールのリストが表示されます

ツールの追加/削除

使用**追加** >>および<<**削除する** 選択するボタンは、ツールバーに置きたいお気に入りのツールを設定します

ツールの再配置

使用 そして ツールバーのボタンの順序を変更するためのボタン。

クラシックツールバー設定

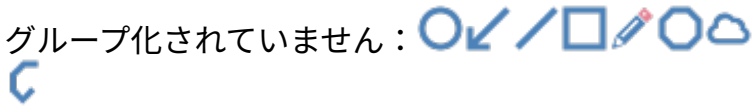
ビューモード-設定を変更するモードを選択します

- 標準：通常モードで使用される設定。
- タッチモード：タッチモードで使用する設定。

ツールバーをカスタマイズする-ツールバーツリーで、グループのオンとオフをオンにして、そのツールバーグループを表示または非表示にします。各グループを展開して、各グループ内の個々のアイテムを表示または非表示にすることもできます。

グループボタン-グループのオンまたはオフをチェックして、これらのボタンをツールバーの1つのボタンに自動的にグループ化します。グループ化すると、ボタンが1つのボタンに結合され、ボタンの右側に矢印が表示され、グループ内の他のツールが選択されます。

グループ化：

グループ化されていません： 

アイコンサイズ-ツールバーとコメントパネルのアイコンサイズを指定したサイズに変更します。

- ツールバー：メイントップのアイコンサイズを変更しますツールバー PDFスタジオで
- コメントペイン：で使用されるアイコンのサイズを変更しますコメントパネル。

その他の設定

追加の一般的なツールバー設定

- **コメントミニツールバーを表示する：** コメントを有効または無効にしますミニツールバー 注釈、リンク、およびフォームフィールドを編集するときに表示されます。
- **カーソル位置を表示**：下部ツールバーにカーソル位置が表示されないようにするか無効にします

デジタルIDの設定

[デジタルID設定]セクションには、PDFStudioのすべてのデジタルID設定が含まれています。

[デジタルID設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**デジタルID** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

システムID-システムに現在インストールされているデジタルIDのリストを表示します

システムデジタルIDを使用した署名を有効にする：システムデジタルIDを使用したドキュメントへの署名を許可するかどうかを選択します。

私のデジタルID-あなたがすることができますデジタルIDを管理する 文書に署名するときに使用されます。

パスワード-デジタルIDは、複雑なパスワードで保護されている場合があります。 PDF Studioはこのパスワードを保存し、独自のパスワードで保護することができます。ドキュメントに署名するとき、PDFStudioはあなた自身のパスワードを要求します。これにより、複雑なパスワードを覚えていなくても、ドキュメントに簡単に署名できます。

Linuxのみ

その他のPKCS11ID（USB、トークン、HSM、CAC） -管理することができますドキュメントにデジタル署名を適用するために必要な証明書の秘密鍵を格納するスマートカード/USBトークン。 設定ファイルが必要です-を参照してくださいスマートカードUSBトークンを使用してPDFにデジタル署名する 詳細については。

ブラウズ -ファイルブラウザを使用して、使用する構成ファイルに移動して選択します

削除する-現在保存されている構成ファイルをクリアします

タイムスタンプサーバーの設定

[タイムスタンプサーバーの設定]セクションには、PDFStudioのすべてのタイムスタンプサーバー設定が含まれています。

[タイムスタンプサーバーの設定]ダイアログを開くには、次の手順に従います。

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**タイムスタンプサーバー** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

タイムスタンプサーバー -タイムスタンプサーバーを追加、編集、および削除したり、デジタルIDで使用するデフォルトのタイムスタンプサーバーを設定したりできます。

デフォルトでは、PDFStudioには次のタイムスタンプサーバーがパッケージ化されています。

- Digicert-http://timestamp.digicert.com（ デフォルト）
- 委託-http://timestamp.entrust.net/TSS/RFC3161sha2TS
- Time.certum-http://time.certum.pl
- zeitstempel-http://zeitstempel.dfn.de

信頼できる証明書の設定

[信頼できる証明書の設定]セクションには、PDFStudioのすべての信頼できる証明書の設定が含まれています。

[信頼できる証明書の設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**信頼できる証明書** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

システム証明書-デジタル署名の検証時に使用されるシステムからの証明書のリストを表示します。

- システムルート認証局の信頼：現在システムにインストールされている認証局の使用を有効にします。

PDFスタジオ証明書 -デジタル署名の検証時に使用するPDFStudioにパッケージ化された証明書のリストを表示します。

- PDF Studioルート認証局を信頼する：PDFStudioにパッケージ化されている認証局の使用を有効にします。

私の信頼できる証明書-あなたがすることができますインポートと管理 デジタル署名を検証するときに使用される追加の信頼できる証明書。

アプリケーション設定

[更新設定]セクションには、PDFStudioのすべての更新設定が含まれています。

[更新設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**応用**これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

更新 -PDF Studioの更新バージョンを確認し、自動確認間隔を設定します。

- 毎月：30日に1回だけ更新を確認します
- 毎週：更新を週に1回チェックします
- 決して：更新をチェックすることはありません

今すぐチェック -押されたときに更新をチェックします

アプリ内メッセージング -新製品のリリースを発表するQoppaからのアプリ内メッセージングを有効または無効にします。

応用-PDFStudioのメモリとパフォーマンスに適用される設定。

バックグラウンドで実行 --WINDOWS ONLY：PDFStudioの「バックグラウンドで実行」機能を有効または無効にします。 PDF Studioは、最初の起動後もバックグラウンドで開いたままにして、PDFドキュメントを開くときの起動パフォーマンスを向上させることができます。 [バックグラウンドで実行]が設定されている場合、PDF Studioは、コンピューターが再起動されるか、[ファイル]> [終了]に移動してアプリケーションが終了するまで、バックグラウンドプロセスとして実行され続けます。

ノート：重要：バックグラウンドプロセスとして実行している間、PDF Studioで使用されていたリソースは解放されず、他のアプリケーションで使用できなくなります。

割り当てられたメモリ -PDFStudioに割り当てられたメモリの量を変更できます。 PDF Studioで集中的なプロセスを実行すると、「ヒープスペース」エラーが発生したり、画像がページに正しく表示されない場合があります。これは、PDFStudioのメモリが不足している場合に発生します。以下の設定を使用して、PDFStudioに割り当てられるメモリの量を変更します。

システムで使用可能な合計メモリの量に基づいて推奨される最大値。

システム	PDFスタジオ

4ギガバイト	2GB（2048 MB）
6GB	3GB（3072 MB）
8GB	4GB（4096 MB）
10GB	5GB（5120 MB）
12GB	6GB（6144 MB）

ノート：他のアプリケーション用に十分なメモリが残っていることを確認してください。そうしないと、マシンがスワッピングを開始して応答しなくなる可能性があります。

設定を保存する

毎回ファイルを自動保存 -チェックすると、指定した分数を使用して自動保存機能が有効になります。自動保存機能とファイルを回復する方法の詳細については、を参照してください。PDFの保存

設定マネージャー

[設定マネージャー]セクションには、PDF Studioの設定、スタンプ、またはデジタルIDと信頼できる証明書をエクスポートまたはインポートしたり、PDFStudioの設定をインストールのデフォルトに復元したりできるオプションが含まれています。

[設定マネージャー]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**設定マネージャー**これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

書き出す

エクスポートする設定カテゴリを選択し、[エクスポート]ボタンをクリックして設定ファイルを生成します。

環境設定 -すべてのPDFStudio設定をエクスポートするオプション、または以前にエクスポートした設定ファイルをインポートするオプション。

ラバースタンプ -PDF Studioに保存されているすべてのラバースタンプをエクスポートするオプション、または以前にエクスポートしたスタンプファイルをインポートするオプション。

デジタルIDと信頼できる証明書 -PDF Studioに保存されているすべてのデジタルIDと信頼できる証明書をエクスポートするオプション、または以前にエクスポートしたデジタルIDと信頼できる証明書ファイルをインポートするオプション。

> **注意**：*セキュリティ上の理由から、デジタルIDと証明書をエクスポートする場合、PDFStudioによって作成されたデジタルIDと証明書のみがエクスポートされます。システム上で見つかった他のすべてのIDと証明書はエクスポートされません。*

戻す

インポート -インポートする設定ファイルをクリックして選択します。

デフォルトに戻す -すべてのPDFStudio設定をインストールのデフォルトに復元します。

> **注意**：*これは、元に戻すことはできません*

タッチモード

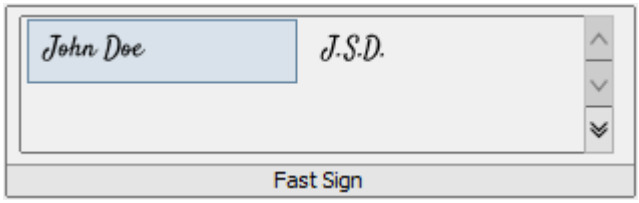
タッチモードアイコンをクリックすると、デバイスでタッチモードを有効にできます 下**[表示]タブ** オン ツールバー。

PDFStudioのタッチモード専用に追加された機能。

- 制御を容易にするための注釈とフォームフィールドの拡大されたサイズ変更ハンドル
- コメントとサムネイルペインの拡大されたフォントと行。
- プロパティの削除と表示にすばやくアクセスするためのオブジェクト選択中のミニツールバー

ファストサイン

高速署名ツールを使用すると、ドキュメントに簡単に適用できる電子署名スタンプを作成できます。スタンプは、署名フォントを使用して作成するか、マウスで描画するか、署名の既存のスキャン画像をインポートすることができます。ドキュメントが保存されると、PDF Studioはドキュメント内のすべてのフォームフィールドをフラット化して、それ以上編集できないようにします。



ノート：「電子署名」（高速署名）は「デジタル署名」と同じではないことも理解することが重要です。電子署名（Fast Sign）は、画像や図面などのペンや紙の署名をグラフィカルに表現したものです。 Aデジタル署名 （グラフィック表現もある場合があります）には、その信頼性を検証するための一意の暗号化IDが含まれています。

ファストサインスタンプの作成

署名スタンプがまだ作成されていない場合は、「 FastSignパネルの「CreateNew」。

署名スタンプがすでに存在し、追加のスタンプを作成する場合は、をクリックします。 ファストサインパネルの下向き矢印をダブルダウンして、**署名を作成する**。

ファストサインスタンプ設定

カテゴリー -スタンプを整理したい場合に、この署名スタンプを追加するカテゴリ。クリック**追加** 新しいカテゴリを作成するためのボタン

名前 –署名スタンプの名前。

タイプ -作成する署名スタンプの種類を選択します

私の署名を入力してください：名前を入力し、手書きに似た使用可能なフォントの1つを使用して署名を作成します。

私の署名を描く：マウス（コンピュータースタイラスもサポート）を使用して署名を描画します

署名画像のインポート：署名の既存のスキャン画像をインポートします

白を透明に変換 -チェックすると、白い背景が透明に変わります。

許容範囲-このオプションは、画像から白い背景を削除します。許容差は、透明に変換される「白」と見なされる色の範囲に影響します。許容値が高いほど、より多くのピクセルが変換されます。手描きの署名には、太字の太いペンを使用することをお勧めします。

パスワードが必要 -チェックすると、ファストサインの署名スタンプをページに配置する前にパスワードを入力する必要があります。クリック**パスワードを設定してください** パスワードを指定します。

高速署名署名の適用

ファストサイン署名スタンプを適用するには：

1. スタンプを適用するドキュメントを開きます
2. 使用したい署名スタンプをクリックしてください
3. スタンプを適用したいドキュメントをクリックします。必要に応じて、サイズを変更して配置を移動します
4. ドキュメントを保存してスタンプを適用します
    - ドキュメントが保存されると、PDF Studioはドキュメント内のすべてのフォームフィールドをフラット化して、それ以上編集できないようにします。

ファストサインスタンプの管理

Fast Signスタンプは、Fast SignSignatureManagerを使用して管理できます。

Fast SignSignatureManagerへのアクセス

Fast Sign Signature Managerには、をクリックしてアクセスできます。 **管理** ボタンまたは ファストサインパネルの二重下矢印。

Fast SignSignatureManagerの使用

ダイアログには、高速サインスタンプのツリーと、ツリーを操作するためのツールバーが表示されます。ツールバーには次のボタンがあります

- 新しい署名スタンプを作成する
- ツリーに新しいフォルダを追加します。
- 現在選択されている署名スタンプの編集ダイアログまたは選択したフォルダの名前変更ダイアログを表示します。
- 現在選択されているアイテムを削除します。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

元に戻す

PDF Studioでは、ほとんどのアクションを元に戻すことができます。

をクリックして元に戻すまたはやり直します **元に戻す**または **やり直し** ツールバーのボタン、または標準のショートカットキーを使用して：

元に戻す： CTRL + Z（macOSではCmd + Z）

やり直し：CTRL + Y（macOSではShift + Cmd + Z）

元に戻す/やり直すことができるアクション：

注釈

（テキストボックス、コールアウト、付箋、タイプライター、8つの形状、サウンド、画像、リンク、領域のハイライト、測定値、スタンプ）

- 追加
  - 新着
  - ペースト
  - 私のコメント
  - 最近のコメント
- 移動
  - マウス
- キーボード
- サイズ変更
- プロパティを変更する
- 平らにする
- 削除
- チェックマークを付ける
- レビュー

ブックマーク

- 追加
- 名前を変更
- 削除
- 再注文

コンテンツ編集–テキスト、パスオブジェクト、画像

- 編集（適用前）
- 削除
- 移動

- テキストのプロパティ（テキストデータ、フォント、アウトラインの色、サイズなど）を編集します。
- パスオブジェクトのプロパティを編集する
- パスと画像のサイズを変更する

形

- フィールドの内容を編集する

マークアップ（強調表示、取り消し線、下線、波線、置換、挿入）

- 追加
- 移動
- プロパティを変更する
- 平らにする
- 削除

ページ

- 回転する
- 作物
- ヘッダー/フッター/透かし

元に戻す/やり直しスタックをリセットするアクション：

資料

- セーブ
- セキュリティ
  - サインフィールド
  - 符号
  - 署名を削除する

ページ

- 移動
- 削除

形

- フォームフィールドをフラット化する
- フォームフィールドをリセット

無視されているアクション：

資料

- ファイルを添付する

- 空白のページを追加する
- ページを挿入

注釈のインポート

PDFの作成

PDFStudioでPDFファイルを作成する方法はたくさんあります。

[ファイル]タブ

下**[ファイル]タブ >作成**、次のオプションがあります。

イメージから：単一の画像ファイルをPDFに変換します のいずれかを使用してサポートされているファイルの種類

MSOfficeから：MicrosoftOfficeを変換します語、Excel ＆パワーポイント からPDFへのファイルサポートされているファイルの種類

複数のファイルから：複数のファイルをマージ/変換します 一度に1つのPDFを作成する Pro

スキャナーから：起動しますスキャンダイアログ新しいPDFを作成するには

空白のページから：空白のPDFを作成します コンテンツなし

[変換]タブ

下**[変換]タブ** ツールバーには、次のオプションがあります。

スキャナーから： スキャナーからPDFを作成します。

- **WIA / ICA / Sane Directでスキャン：** を使用してスキャンしますPDFスタジオダイアログ。
- **正気のデーモンでスキャンする**：開始正気のデーモンスキャン

イメージから： サポートされている画像ファイルタイプ*png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、*tiffのいずれかからPDFを作成します。 （（PDFへの画像 設定は[設定]ダイアログにあります）

Wordから：Wordの.docおよび.docxファイルからPDFを作成します（WordからPDF フォント設定は[設定]ダイアログにあります） Pro

Excelから：Excelの.xlsxファイルからのみPDFを作成します（ExcelからPDFへ フォント設定は[設定]ダイアログにあります） Pro

Excelから：PowerPoint .pptxファイルからのみPDFを作成します（ExcelからPDFへ フォント設定は[設定]ダイアログにあります）Pro

新しいドキュメント：空白のPDFを作成します コンテンツなし

複数のファイルから：複数のファイルをマージ/変換します 一度に1つのPDFを作成するPro

ドラッグアンドドロップ

サポートされているファイルの種類はドラッグアンドドロップ PDF Studioに直接移動して、ファイルをPDFに変換します。

空白のPDFを作成する

空白のPDFはPDFStudioで作成できます。現在開いているドキュメントがない状態で空白のPDFを作成するには、次のいずれかを実行します。

- に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **新しいドキュメント** または、ショートカットキーCtrl + N（Macの場合は⌘+ N）を使用して、内で設定されたデフォルト設定を使用して空白のドキュメントを作成します。一般的な設定。
- に移動**[ページ]タブ>** **挿入>** **空白のページを追加** または、ショートカットキーCtrl + Shift + B（Macでは⌘+ Shift + B）を使用して、カスタム設定を使用して空白のページを作成します。

新しく作成された空白のページには、空白の紙の場合と同じように、コンテンツがまったく含まれません。

設定

ページと同じ -（空白ページを追加する場合にのみ使用可能）新しいページ設定をドキュメント内の既存のページに一致させることができます

新しいページサイズ -事前定義された標準ドキュメントサイズのリストからページサイズを選択できます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> *ノート：「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

カウント-作成する空白ページの数

色-作成される新しいページの背景色を設定します

ファイルをPDFに変換する

PDF Studioは、PDF以外のファイルタイプをPDFドキュメントに変換できます。見るサポートされているファイルタイプ サポートされているファイルタイプのリストについては。

WordからPDFへの変換 -MicrosoftWordファイルをPDFに変換します。

ExcelをPDFに変換する -MicrosoftExcelファイルをPDFに変換します。

PowerPointをPDFに変換する -MicrosoftPowerPointファイルをPDFに変換します。

画像をPDFに変換する -画像ファイルをPDFに変換します。

テキストをPDFに変換する -テキストファイルをPDFに変換します。

Word©をPDFに変換する

PDF StudioはWord©ドキュメントをPDFに変換でき、.doc（Word97©から2003）と.docx（Word2007©以降）の両方の拡張子がサポートされています。デフォルトでは、ワードドキュメント内のフォントは作成されたPDFに埋め込まれます。これらのオプションを変更したい場合は、を参照してください。フォント設定。

指示：

ウェルカム画面の使用

1. PDFStudioを起動します
2. を使用してウェルカム画面 cなる**MSOfficeから** 「PDFの作成」の下のオプション
3. Word©ファイルに移動します（* doc、* docx） 隠蔽して「開く」をクリックします

ツールバーから

1. に移動**タブを変換>** **Wordから**
2. Word©ファイルに移動します（* doc、* docx） 隠蔽して「開く」をクリックします

[ファイル]タブから

1. に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **MSOfficeから**
2. Word©ファイルに移動します（* doc、* docx） 隠蔽して「開く」をクリックします

ドラッグアンドドロップ

1. 隠蔽したいWord©ファイル（* doc、* docx）をPDF Studioに直接ドラッグアンドドロップして、ファイルをPDFに変換します。

ファイルを開くと、PDF StudioはドキュメントをPDFドキュメントに自動的に変換し、新しいPDFドキュメントとして保存できます。

Excel©をPDFに変換する

PDF Studioは、Excel©ドキュメントをに変換できます。 .xlsxファイルのみがサポートされています。デフォルトでは、Excel©ドキュメント内のフォントは作成されたPDFに埋め込まれます。

指示：

ウェルカム画面の使用

1. PDFStudioを起動します
2. を使用してウェルカム画面 cなめる**MSOfficeから** 「PDFの作成」の下のオプション
3. Excel©ファイルに移動します（* xlsx） 隠蔽して「開く」をクリックします

ツールバーから

1. に移動**タブを変換>** **Excelから**
2. Excel©ファイルに移動します（* xlsx） 隠蔽して「開く」をクリックします

[ファイル]タブから

1. に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **MSOfficeから**
2. Excel©ファイルに移動します（* xlsx） 隠蔽して「開く」をクリックします

ドラッグアンドドロップ

1. 隠蔽したいExcel©ファイル（* xlsx）をPDF Studioに直接ドラッグアンドドロップして、ファイルをPDFに変換します。

ファイルを開くと、PDF StudioはドキュメントをPDFドキュメントに自動的に変換し、新しいPDFドキュメントとして保存できます。

画像をPDFに変換する

PDF Studioは、画像をPDFに変換できます。次の画像タイプは、* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、*tiffに変換できます。画像を変換する場合、PDFの作成時に画像設定が使用されます。

指示：

ツールバーから

1. に移動**タブを変換>** **イメージから**
2. 画像ファイルに移動します（* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif＆* tiff） 隠蔽して「開く」をクリックします

[ファイル]タブから

1. に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **イメージから**
2. 画像ファイルに移動します（* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif＆* tiff） 隠蔽して「開く」をクリックします

ドラッグアンドドロップ

1. 隠蔽したい画像ファイル（* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、* tiff）をPDF Studioに直接ドラッグアンドドロップして、ファイルをPDFに変換します。

ファイルを開くと、PDF StudioはドキュメントをPDFドキュメントに自動的に変換し、新しいPDFドキュメントとして保存できます。

テキストをPDFに変換する

PDF Studioは、拡張子が.txtのテキストドキュメントをPDFに変換できます。 .txtファイルを変換する場合PDFへのテキスト 環境設定の設定は、ドキュメントのフォーマットに使用されます。

指示：

[ファイル]タブから

1. に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **ファイルから**
2. テキストファイルに移動します（*TXT ） 隠蔽して「開く」をクリックします

ドラッグアンドドロップ

1. 隠蔽したいテキストファイル（* txt）をPDF Studioに直接ドラッグアンドドロップして、ファイルをPDFに変換します。

ファイルを開くと、PDF StudioはドキュメントをPDFドキュメントに自動的に変換し、新しいPDFドキュメントとして保存できます。

複数のファイルをPDFにマージ/変換する

PDF Studioは、一度に複数のファイルをマージ/変換して、単一のPDFを作成することができます。のみサポートされているファイルタイプ 単一のPDFにマージ/変換することができます。

指示：

ようこそ画面の使用

1. PDFStudioを起動します
2. を使用してウェルカム画面 cなめる**複数のファイルから** 「PDFの作成」の下のオプション
3. 使用する**追加ファイル** または**フォルダーを追加** 単一のPDFにマージ/変換するファイルを選択します。
4. ファイルを変換するときに追加のオプションを選択します。
   - マージされたドキュメントごとにブックマークを追加します。
   - 結果：新しいマージされたドキュメントを開くか保存します
   - ドキュメントを開くときに試すパスワード
5. すべてのオプションを選択したら、[開始]をクリックしてファイルのマージ/変換を開始します。
6. すべてのファイルは、1回のアクションでマージ/変換されます。すべてサポートされているファイルタイプ PDFに変換されます。

ツールバーから

1. に移動**タブを変換>** **複数のファイルから**
2. [ファイルの追加]または[フォルダーの追加]を使用して、単一のPDFにマージ/変換するファイルを選択します。
3. ファイルを変換するときに追加のオプションを選択します。
   - マージされたドキュメントごとにブックマークを追加します。
   - 結果：新しいマージされたドキュメントを開くか保存します
   - ドキュメントを開くときに試すパスワード
4. すべてのオプションを選択したら、[開始]をクリックしてファイルのマージ/変換を開始します。
5. すべてのファイルは、1回のアクションでマージ/変換されます。すべてサポートされているファイルタイプ PDFに変換されます。

[ファイル]タブから

1. に移動**[ファイル]タブ> [作成]>** **複数のファイルから**
2. [ファイルの追加]または[フォルダーの追加]を使用して、単一のPDFにマージ/変換するファイルを選択します。
3. ファイルを変換するときに追加のオプションを選択します。
   - マージされたドキュメントごとにブックマークを追加します。
   - 結果：新しいマージされたドキュメントを開くか保存します
   - ドキュメントを開くときに試すパスワード

4. すべてのオプションを選択したら、[開始]をクリックしてファイルのマージ/変換を開始します。
5. すべてのファイルは、1回のアクションでマージ/変換されます。すべてサポートされているファイルタイプ PDFに変換されます

設定のマージ/変換

新しいページ

ページサイズ -事前定義された標準ドキュメントサイズのリストからページサイズを選択できます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> **注意**：*「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

単位 -切り抜きマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

幅 -W選択した単位でのページのID

高さ - 高さ選択した単位でのページの

比例を保つ -幅と高さの値の同期を維持するように切り替えます

現在のページ

センター-このオプションをオンにすると、元のページのコンテンツが新しいページサイズの中央に配置されます。

フィットするスケール -新しいページサイズに最も合うようにページコンテンツのサイズを変更します

作物をページに合わせる -クロップボックスをメディアボックスと同じに設定します

ブックマーク

マージされたドキュメントごとにブックマークを追加します -これにより、ドキュメントに追加されたマージされたファイルごとに個別のブックマークが作成されます

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

削除-選択したファイルをリストから削除します。

上に移動-選択したファイルをリストの上位に移動します。

下に移動-選択したファイルをリストの下に移動します。

トップに移動-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

下に移動-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

結果

新しいマージされたドキュメントを開く-マージが完了すると、新しいファイルがPDFStudioに表示されます

現在のドキュメントに追加 -選択したページを現在開いているドキュメントの最後に追加します

名前を付けて保存-このオプションを使用すると、新しく作成されたマージファイルの宛先を設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、新しく作成されたファイルの宛先を設定できます。

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。パスワード付きのPDFファイルのみがサポートされています。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードが入力されます。*

ドラッグアンドドロップしてPDFを作成

サポートされているファイルタイプ PDF Studioにドラッグアンドドロップして、すぐにPDFに変換できます。これは、の設定に基づいたファイルタイプのデフォルトの変換設定を使用します環境設定。

- 現在開いているドキュメントがないPDFStudioウィンドウにファイルをドラッグすることで、サポートされているファイルタイプを新しいドキュメントに作成できます。
- サポートされているファイルタイプは、ファイルをサムネイルペインにドラッグすることにより、既存の開いているドキュメントに新しいページとして挿入できます。
- ページは、開いている複数のドキュメント間でドラッグアンドドロップすることもできます。

> **注意：** *メインのドキュメントペインにファイルをドロップすると、ドキュメントが新しいフレームで開きます。*

ドキュメントをPDFにスキャンする

PDF Studioを使用すると、WIA / ICAまたはSane準拠のスキャナーを使用して、既存または新規のPDFドキュメントに画像をスキャンできます。使用可能なスキャンドライバー（WIA / ICA、またはSane）オプションは、使用しているオペレーティングシステムによって異なります。

スキャナーからPDFを作成するには、次のいずれかを実行します。

- を使用してウェルカム画面 cなめる **スキャナーから** 「PDFの作成」の下のオプション
- に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **スキャナーから**メニューバーにあります。
- に移動**タブを変換>** **スキャナーから**ツールバーにあります。

スキャンオプション

以下は、各オペレーティングシステムおよびPDFStudioバージョンのPDFにスキャンするときに使用可能なスキャンドライバーオプションのリストです。

ウィンドウズ

PDFStudio32ビット

- WIAスキャン -WIAドライバーとPDFStudioスキャンダイアログを使用してスキャンします
- Twainスキャン -Twainネイティブスキャナーインターフェイスを使用してスキャンします

PDFStudio64ビット

- WIAスキャン -WIAドライバーとPDFStudioスキャンダイアログを使用してスキャンします

マック

PDFStudio64ビット

- ICAスキャン -ICAドライバーとPDFStudioスキャンダイアログを使用してスキャンします

Linux

PDFStudio64ビット

- 正気の直接スキャン -Saneドライバーに直接アクセスできるPDFStudioスキャンダイアログを使用してスキャンします
- Sane Network Daemon Scanning -SaneNetworkDaemonネイティブスキャナーインターフェイスを使用してスキャンします

スキャンプロファイル

PDF Studioを使用すると、スキャンプロファイルを作成して、後で再度使用する特定のスキャナーと設定を設定できます。一度設定すると、プロファイルを使用して、指定した設定でシングルクリックスキャンが可能になります。

> **注意**：*スキャンプロファイルは、WindowsおよびMacでWIA / ICAスキャンダイアログを使用する場合にのみサポートされます。*

スキャンプロファイルの作成

1. 通常どおりスキャンダイアログを開始します
2. プロファイルに含めるすべてのオプションを設定します。ドロップダウンから[<新しいプロファイル>]を選択すると、既存のプロファイルまたは空のテンプレートから開始できます。
3. 設定が完了したら、[保存]をクリックします。これにより、プロファイルに名前を付けるためのウィンドウが表示されます。
4. 空白のテンプレートから開始する場合、このフィールドは空白になります。以前にプロファイルを使用したことがある場合は、以前のプロファイル名が表示されます。以前のプロファイルを更新するだけの場合は、名前を残して[OK]をクリックします。新しいプロファイルを作成する場合は、名前を付けて保存する新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。
5. 完了すると、プロファイルがドロップダウンメニューで利用できるようになります

注意：*ドキュメントをスキャンする前に、スキャンプロファイルを作成または保存する必要はありません。設定を保存せずにドキュメントをスキャンするには、スキャン設定を選択してから[スキャン]をクリックするだけです。*

既存のスキャンプロファイルを使用したPDFドキュメントのスキャン

既存のオプティマイザプロファイルを使用するには、次の2つの方法があります。

[スキャン]ダイアログから

通常どおりにスキャンダイアログを開始します。コンボボックスのドロップダウンリストからスキャンプロファイルを選択し、スキャンボタンをクリックして、保存した設定でスキャンを開始します。

ツールバーから

スキャンボタンの右側にある小さな下向き矢印をクリックします ▼ スキャンするプロファイルを選択します。これにより、プロファイルに選択した設定でスキャンがすぐに開始されます。

> **注意**：*[メニューに表示]オプションを選択したものだけがこのリストに表示されます。実行するリストでオプティマイザープロファイルをクリックすると、オプティマイザープロファイルに保存されている設定を使用してPDFの最適化がすぐに開始されます。*

スキャンオプション

スキャナー -使用するスキャナー

> **デフォルトのスキャナーを設定する** -これをチェックすると、選択したスキャナーがデフォルトになります

ソース -ドキュメント/画像をスキャンするときに使用するスキャン入力（フラットベッドまたはフィーダーなど）

> **デュプレックス** -スキャナーが両面スキャンをサポートしている場合は、このオプションを選択して両面を同時にスキャンします。

カラーフォーマット -スキャン時に白黒、グレースケール、またはカラーから選択します

> ***注意***：*「（変換）」がカラーオプションの横に表示されている場合、このオプションはお使いのデバイスではサポートされていません。 PDF Studioは、スキャンプロセスの一環として、スキャンした画像を選択した色空間に変換します。*

ページサイズ -スキャンするドキュメントのサイズ

DPI解像度 -画像をPDFドキュメントに保存するときに使用する解像度。 50〜600の事前定義された値を選択するか、1200までの独自のカスタム値を入力します。DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

> 白黒ドキュメント
>
> - 許容可能な最低解像度= 200 DPI（「高」ファックス品質に等しい）
> - 従来の解像度= 300 DPI
> - 従来の最高解像度= 600 DPI
>
> カラードキュメント（およびカラー圧縮）
>
> - 許容可能な最低解像度= 150 DPI
> - 従来の解像度= 200 DPI
> - 従来の最高解像度= 300 DPI
> - アーカイブの解像度= 600 DPI

他のページをスキャンする -最初のスキャンが完了した後、必要に応じてさらにページをスキャンし続けるオプション。たとえば、フラットベッドスキャナーから一度に1ページをスキャンする場合に便利です。

- 無効：スキャンが完了するとすぐに新しいドキュメントが作成されます
- ユーザーに尋ねる：追加のページをスキャンする必要があるかどうかを確認するようにユーザーに促します
- 自動後：選択した秒数後に自動的に別のスキャンを開始します

輝度 -スキャンしたドキュメントの明るさを調整します。値を大きくすると、ドキュメント/画像が明るく見えます

コントラスト -スキャンしたドキュメントのコントラストを調整します。これは、ドキュメント/画像の明るい部分と暗い部分の違いに影響します

PDFオプション

で挿入 -新しい画像を挿入する場所。次のオプションから選択します。

- ドキュメントの先頭：現在開いているドキュメントの最初のページの前にスキャンしたページを挿入します
- 現在の場所：現在開いているドキュメントの表示されている現在のページの前にスキャンしたページを挿入します
- ドキュメントの終わり：ドキュメントの最後にスキャンを追加します。
- 新しいドキュメント：スキャンしたページのみを使用して新しいドキュメントを作成します
- インターリーブ–複数の画像をスキャンする場合、このオプションを使用して、1ページおきに画像を挿入できます。これは、両面ドキュメントをスキャンする場合に特に便利です。
- 逆インターリーブ：現在のドキュメントのスキャンを、ドキュメントの最後のページ以降から逆の順序で1ページおきに挿入します。
- 複数のドキュメント-このオプションを使用して、複数のページをスキャンするときに複数のドキュメントを作成します。選択すると、次のオプションを設定するためのダイアログが表示されます。
    - PDFあたりのページ数-次のPDFを作成するまでのページ数
    - ファイル名パターン-PDFの作成時に使用されるファイル名。各ファイルには、ファイル名の末尾にドキュメントの番号が追加されます
    - ファイルの保存先-作成したファイルの保存場所
    - デフォルトとして保存-これをオンにすると、選択したオプションがデフォルトになります

ページサイズ -画像を保持するための新しいページを作成するときに使用するサイズ。

- 画像へのサイズ–新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。
- ドキュメントと同じ–新しいページは現在開いているドキュメントと同じサイズで作成されます。ドキュメントが空の場合、または[挿入位置]の選択が[新しいドキュメント]に設定されている場合、新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。

圧縮 -画像をPDFドキュメントに保存するときに使用する圧縮。

- JPEG-非可逆圧縮（推奨圧縮）
    - 品質（JPEG圧縮の場合のみ）– JPEGを使用する場合、圧縮品質は1〜100%の範囲で調整できます。
        - 1 =高圧縮、非常に低品質
        - 100 =低圧縮、非常に高品質
        - 一般的に、80 =高品質、50 =中品質、20 =低品質
- Flate-ロスレス圧縮形式
- JBIG2 B＆W-白黒カラーのみをサポートするロスレス圧縮形式

自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に傾斜しすぎているか、位置がずれている場合、PDF Studioはドキュメントの自動回転を試みて、位置合わせが修正されます。

OCRオプション

OCR -検索可能なPDFを作成する-これをチェックすると、スキャン後にドキュメントが自動的にOCRされます

言語 -OCRが選択されている場合に使用される言語。「OCR言語のダウンロード」をクリックして、追加の言語をダウンロードします。

WIA /ICA/正気の直接スキャン

WIA（Windows）、ICA（Mac）、およびSane Direct（Linux）は、ソフトウェアがスキャナーやデジタルカメラなどのイメージングハードウェアと通信できるようにする、オペレーティングシステムに含まれるアプリケーションインターフェイスまたはドライバーです。これらのインターフェイスのいずれかを使用してスキャンする場合、PDF Studioは、WIA、ICA、またはSaneDirectインターフェイスをサポートするスキャナーと直接通信するカスタムスキャンダイアログを使用します。

WIA/ICAによるスキャン

1. に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **スキャナーから**
2. これにより、[PDFにスキャン]オプションダイアログが開きます
3. 使用するスキャナーと設定を選択します。
4. すべてのオプションを選択したら、[プレビュー]または[スキャン]をクリックします
   - プレビュー-ダイアログの右側に表示されるスキャンオプションを使用してクイックプレビューを生成します
   - スキャン-選択したオプションに応じて、選択したオプションを使用してスキャンしてから新しいPDFを作成するか、既存のPDFに画像を追加します。

WIA /ICA/正気のダイレクトスキャン設定

PDFオプションにスキャン

プロフィール -スキャンプロファイルを追加、編集、または削除できます

スキャナー -使用するスキャナー

ソース -ドキュメント/画像をスキャンするときに使用するスキャン入力（フラットベッドまたはフィーダーなど）

> **デュプレックス** -スキャナーが両面スキャンをサポートしている場合は、このオプションを選択して、両面を同時にスキャンします。

カラーフォーマット -スキャン時に白黒、グレースケール、またはカラーから選択します

> *ノート：カラーオプションの横に「（変換）」が表示されている場合、このオプションはお使いのデバイスではサポートされていません。 PDF Studioは、スキャンプロセスの一環として、スキャンした画像を選択した色空間に変換します。*

ページサイズ -スキャンされるドキュメントのサイズ

DPI解像度 -画像をPDFドキュメントに保存するときに使用する解像度。 50〜600の事前定義された値を選択するか、1200までの独自のカスタム値を入力します。DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

白黒のドキュメント

- 許容可能な最低解像度=200DPI（「高」ファックス品質に等しい）
- 従来の解像度=300DPI
- 従来の最高解像度=600DPI

カラードキュメント（およびカラー圧縮）

- 許容可能な最低解像度=150DPI
- 従来の解像度=200DPI
- 従来の最高解像度=300DPI
- アーカイブの解像度=600DPI

さらにページをスキャンする：スキャン完了後の動作を設定します

- 無効：スキャンを続行するように求められません
- ユーザーに尋ねる：ページスキャンの完了後、追加のページのスキャンを続行するように求めるプロンプトが表示されます
- 自動的に後：指定された時間待機してから、別のスキャンを自動的に開始します

輝度 -スキャンしたドキュメントの明るさを調整します。値を大きくすると、ドキュメント/画像が明るく見えます

対比 -スキャンしたドキュメントのコントラストを調整します。これは、ドキュメント/画像の明るい部分と暗い部分の違いに影響します

PDFオプション

で挿入 -新しい画像を挿入する場所。次のオプションから選択します。

- ドキュメントの先頭：現在開いているドキュメントの最初のページの前にスキャンしたページを挿入します
- 現在の場所：現在開いているドキュメントの表示されている現在のページの前にスキャンしたページを挿入します
- ドキュメントの終わり：ドキュメントの最後にスキャンを追加します。
- 新しいドキュメント：スキャンしたページのみを使用して新しいドキュメントを作成します
- インターリーブ–複数の画像をスキャンする場合、このオプションを使用して、1ページおきに画像を挿入できます。これは、両面ドキュメントをスキャンする場合に特に便利です。
- 逆インターリーブ：スキャンを現在のドキュメントの1ページおきに、ドキュメントの最後のページから逆の順序で挿入します。
- 複数のドキュメント-このオプションを使用して、複数のページをスキャンするときに複数のドキュメントを作成します。選択すると、次のオプションを設定するためのダイアログが表示されます。
  - PDFあたりのページ数-次のPDFを作成するまでのページ数
  - ファイル名パターン-PDFの作成時に使用されるファイル名。各ファイルには、ファイル名の末尾にドキュメントの番号が追加されます

- ファイルの保存先-作成したファイルの保存場所
- デフォルトとして保存-これをオンにすると、選択したオプションがデフォルトになります

ページサイズ -画像を保持するための新しいページを作成するときに使用するサイズ。

- 画像に合わせたサイズ–新しいページはスキャンした画像と同じサイズで作成されます。
- ドキュメントと同じ–新しいページは現在開いているドキュメントと同じサイズで作成されます。ドキュメントが空の場合、または[挿入位置]の選択が[新しいドキュメント]に設定されている場合、新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。

圧縮 -画像をPDFドキュメントに保存するときに使用する圧縮。

- JPEG-非可逆圧縮（推奨圧縮）
  - 品質（JPEG圧縮の場合のみ）– JPEGを使用する場合、圧縮品質は1～100%の範囲で調整できます。
    - 1 =高圧縮、非常に低品質
    - 100 =低圧縮、非常に高品質
    - 一般的に、80 =高品質、50 =中品質、20=低品質
- Flate-ロスレス圧縮形式
- JBIG2 B＆W-白黒カラーのみをサポートするロスレス圧縮形式

自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に大きく傾いているか、位置がずれている場合、PDF Studioは、位置合わせが修正されるようにドキュメントを自動回転しようとします。

OCRオプション

OCR -検索可能なPDFを作成する-これをチェックすると、スキャン後にドキュメントが自動的にOCRされます

言語 -OCRが選択されている場合に使用される言語。 「OCR言語のダウンロード」をクリックして、追加の言語をダウンロードします。

TWAINスキャン

TWAIN（WindowsおよびMac）は、標準のインターフェイスを提供することにより、スキャナーとアプリケーションを接続するスキャンプロトコルです。 TWAINを使用すると、アプリケーションはTWAIN準拠のデバイス（スキャナー、デジタルカメラなど）から画像を取得できます。ほとんどのスキャナー コンピューターにスキャナーをインストールすると自動的にインストールされるTWAINドライバーが付属しています。利用可能なTWAINソースがない場合は、スキャナーのドキュメントを参照してください。 TWAIN PDF Studioを使用してスキャンすると、最初に ハードウェアによって提供されるスキャンアプリケーション。スキャンが完了したら、スキャンした画像をインポートして、PDFへのスキャンプロセスを完了します。

> **注意：** *TWAINプロトコルは、WindowsおよびMacでのPDFStudioの32ビットインストールでのみサポートされます。64ビットPDFStudioインストールを使用している場合、このオプションは使用できません。*。

1. に移動**タブを変換>** **スキャナーから**スキャンボタンの右側にある小さな下向き矢印をクリックします 「ScantoPDF（Twain）」を選択します。
2. リストからスキャナーを選択し、[OK]ボタンをクリックして続行します。選択したスキャナーでエラーが発生した場合は、以前に試したスキャナーが強調表示されたダイアログが再度表示されるため、新しいスキャナーを選択できます。
   - 選択したスキャナーがデフォルトのオプションであった場合は、このダイアログを使用して、新しいスキャナーを選択し、[デフォルトのスキャナーを設定]オプションをオンにすることで、デフォルトのスキャナーを変更できます。
3. OKボタンを押すと、スキャナーのカスタムスキャンアプリケーションが開きます。これは、スキャンをプレビューし、スキャンする領域を選択し、スキャン解像度を調整してから、を使用してスキャンを受け入れることができる別のプログラムです。 スキャナーに付属のソフトウェア。
4. スキャンが受け入れられ、PDF Studioがスキャナーソフトウェアからデータを受信すると、PDF Studioはスキャンに関する情報を示すダイアログボックスを表示し、挿入方法を決定するためのいくつかの選択肢を求めるプロンプトを表示します。 新しいイメージ。
5. オプションを選択したら、[OK]をクリックして、選択したオプションに応じて、新しいPDFを作成するか、既存のPDFに画像を追加します。

TWAINスキャンのインポート設定

画像情報

このセクションには、スキャナーソフトウェアから受信した画像の基本的な詳細が表示されます

PDFオプション

で挿入 -新しい画像を挿入する場所。次のオプションから選択します。

- ドキュメントの先頭：現在開いているドキュメントの最初のページの前にスキャンしたページを挿入します

- 現在の場所：現在開いているドキュメントの表示されている現在のページの前にスキャンしたページを挿入します
- ドキュメントの終わり：ドキュメントの最後にスキャンを追加します。
- 新しいドキュメント：スキャンしたページのみを使用して新しいドキュメントを作成します
- インターリーブ–複数の画像をスキャンする場合、このオプションを使用して、1ページおきに画像を挿入できます。これは、両面ドキュメントをスキャンする場合に特に便利です。
- 逆インターリーブ：現在のドキュメントのスキャンを、ドキュメントの最後のページ以降から逆の順序で1ページおきに挿入します。
- 複数のドキュメント-このオプションを使用して、複数のページをスキャンするときに複数のドキュメントを作成します。選択すると、次のオプションを設定するためのダイアログが表示されます。
    - PDFあたりのページ数-次のPDFを作成するまでのページ数
    - ファイル名パターン-PDFの作成時に使用されるファイル名。各ファイルには、ファイル名の末尾にドキュメントの番号が追加されます
    - ファイルの保存先-作成したファイルの保存場所
    - デフォルトとして保存-これをオンにすると、選択したオプションがデフォルトになります

ページサイズ -画像を保持するための新しいページを作成するときに使用するサイズ。

- 画像へのサイズ–新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。
- ドキュメントと同じ–新しいページは現在開いているドキュメントと同じサイズで作成されます。ドキュメントが空の場合、または[挿入位置]の選択が[新しいドキュメント]に設定されている場合、新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。

圧縮 -画像をPDFドキュメントに保存するときに使用する圧縮。

- JPEG-非可逆圧縮（推奨圧縮）
    - 品質（JPEG圧縮の場合のみ）– JPEGを使用する場合、圧縮品質は1〜100%の範囲で調整できます。
        - 1 =高圧縮、非常に低品質
        - 100 =低圧縮、非常に高品質
        - 一般的に、80 =高品質、50 =中品質、20 =低品質
- Flate-ロスレス圧縮形式
- JBIG2 B＆W-白黒カラーのみをサポートするロスレス圧縮形式

自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に傾斜しすぎているか、位置がずれている場合、PDF Studioはドキュメントの自動回転を試みて、位置合わせが修正されます。

OCRオプション

OCR -検索可能なPDFを作成する-これをチェックすると、スキャン後にドキュメントが自動的にOCRされます

言語 -OCRが選択されている場合に使用される言語。 「OCR言語のダウンロード」をクリックして、追加の言語をダウンロードします。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

正気のデーモンスキャン

Sane（Linuxのみ）は、標準化されたインターフェイスを提供することによってスキャナーに接続するスキャンプロトコルです。 SANEは、ハードウェアとのインターフェースのみを提供し、各スキャナーで使用可能なオプションを表示します。 Sane PDF Studioを使用してスキャンすると、 最初にスキャンアプリケーションを起動し、スキャンが完了したら、スキャンした画像をインポートして、PDFへのスキャンプロセスを完了します。

注意： *PDF Studioをスキャナーに正しく接続するには、* ***sanedデーモン*** *少なくとも1つの正常なバックエンドがインストールされています。これは**必須** スキャンライブラリが正しく機能するために。これはXSaneやGimpなどの他の製品の要件ではないことに注意してください。* ***XSaneとGimpは機能する可能性がありますが、PDFStudioは機能しません*** *。 sanedデーモンのセットアップ方法の詳細については、を参照してください。Linux でPDFにスキャンする ナレッジベース。*

1. に移動**タブを変換>** **スキャナーから**スキャンボタンの右側にある小さな下向き矢印をクリックします 「SaneDaemonScanning」を選択します。
2. リストからスキャナーを選択し、[OK]ボタンをクリックして続行します。選択したスキャナーでエラーが発生した場合は、以前に試したスキャナーが強調表示されたダイアログが再度表示されるため、新しいスキャナーを選択できます。
   - 選択したスキャナーがデフォルトのオプションであった場合は、このダイアログを使用して、新しいスキャナーを選択し、[デフォルトのスキャナーを設定]オプションをオンにすることで、デフォルトのスキャナーを変更できます。
3. OKボタンを押すと、標準のスキャンインターフェースが表示されます。これは、スキャン設定を調整してからスキャンプロセスを開始できる別のプログラムです。
4. スキャンが完了し、PDF Studioがスキャナーからデータを受信すると、PDF Studioはスキャンに関する情報を示すダイアログボックスを表示し、新しい画像の挿入方法を決定するためのいくつかの選択肢を求めるプロンプトを表示します。
5. オプションを選択したら、[OK]をクリックして、選択したオプションに応じて、新しいPDFを作成するか、既存のPDFに画像を追加します。

正常なスキャンのインポート設定

画像情報

このセクションには、スキャナーソフトウェアから受信した画像の基本的な詳細が表示されます

PDFオプション

で挿入 -新しい画像を挿入する場所。次のオプションから選択します。

- ドキュメントの先頭：現在開いているドキュメントの最初のページの前にスキャンしたページを挿入します
- 現在の場所：現在開いているドキュメントの表示されている現在のページの前にスキャンしたページを挿入します

- ドキュメントの終わり：ドキュメントの最後にスキャンを追加します。
- 新しいドキュメント：スキャンしたページのみを使用して新しいドキュメントを作成します
- インターリーブ–複数の画像をスキャンする場合、このオプションを使用して、1ページおきに画像を挿入できます。これは、両面ドキュメントをスキャンする場合に特に便利です。
- 逆インターリーブ：現在のドキュメントのスキャンを、ドキュメントの最後のページ以降から逆の順序で1ページおきに挿入します。
- 複数のドキュメント-このオプションを使用して、複数のページをスキャンするときに複数のドキュメントを作成します。選択すると、次のオプションを設定するためのダイアログが表示されます。
    - PDFあたりのページ数-次のPDFを作成するまでのページ数
    - ファイル名パターン-PDFの作成時に使用されるファイル名。各ファイルには、ファイル名の末尾にドキュメントの番号が追加されます
    - ファイルの保存先-作成したファイルの保存場所
    - デフォルトとして保存-これをオンにすると、選択したオプションがデフォルトになります

ページサイズ -画像を保持するための新しいページを作成するときに使用するサイズ。

- 画像へのサイズ–新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。
- ドキュメントと同じ–新しいページは現在開いているドキュメントと同じサイズで作成されます。ドキュメントが空の場合、または[挿入位置]の選択が[新しいドキュメント]に設定されている場合、新しいページはスキャンされた画像と同じサイズで作成されます。

圧縮 -画像をPDFドキュメントに保存するときに使用する圧縮。

- JPEG-非可逆圧縮（推奨圧縮）
    - 品質（JPEG圧縮の場合のみ）– JPEGを使用する場合、圧縮品質は1〜100％の範囲で調整できます。
        - 1 =高圧縮、非常に低品質
        - 100 =低圧縮、非常に高品質
        - 一般的に、80 =高品質、50 =中品質、20 =低品質
- Flate-ロスレス圧縮形式
- JBIG2 B＆W-白黒カラーのみをサポートするロスレス圧縮形式

自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に傾斜しすぎているか、位置がずれている場合、PDF Studioはドキュメントの自動回転を試みて、位置合わせが修正されます。

OCRオプション

OCR -検索可能なPDFを作成する-これをチェックすると、スキャン後にドキュメントが自動的にOCRされます

言語 -OCRが選択されている場合に使用される言語。「OCR言語のダウンロード」をクリックして、追加の言語をダウンロードします。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

サポートされているファイルタイプ

PDF Studioは、特定の非PDFファイルタイプのPDFドキュメントへの変換をサポートしています。現在サポートされているタイプは次のとおりです。

画像ファイル：* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif＆*tiff。 （（PDFへの画像 設定は[設定]ダイアログにあります）

Wordファイル：.docおよび.docx（WordからPDF フォント設定は[設定]ダイアログにあります）

Excelファイル：.xlsxファイルのみ（ExcelからPDFへ フォント設定は[設定]ダイアログにあります）

PowerPointファイル：.pptxファイルのみ（PowerPointからPDFへ フォント設定は[設定]ダイアログにあります）

テキストファイル：。TXT （PDFへのテキスト 設定は[設定]ダイアログにあります）

PDFの表示と比較

PDF Studioは、PDFを表示および比較するための広範な機能を提供します

PDFの表示

ナビゲート：一般的なナビゲーションのヒントとツール

タブ付きドキュメントビュー：複数のドキュメントでの作業がStudioに表示されます

ズーミング：ドキュメントのズームイン/ズームアウト

ページレイアウトの設定：ページの表示方法を設定する

回転ページビュー：ページのビューを回転させる

ルーペツール：ページの小さな領域を拡大します

パンとズームツール：ドキュメントの現在の場所を示すウィンドウを表示します

読書モード：H画面上の表示領域を最大化するために、すべてのツールバーと作業ウィンドウを表示します

フルスクリーンモード：非表示のドキュメントのみを表示しますメニューバー、ツールバー、作業ウィンドウ、およびウィンドウコントロール

色反転モード：アクセシビリティのためにPDFを表示するときに色を反転する

分割ビュー：同じドキュメントの2つの別々の部分を表示する

レイヤーの表示/非表示：レイヤーを有効または無効にします。

ドキュメントの自動スクロール：読みやすいようにドキュメントを自動スクロールします

PDFの比較

並べて比較 Pro：2つの異なるPDFを並べて比較する

オーバーレイの比較 Pro：2つの異なるPDFを互いに比較して、違いを強調します

ナビゲート

PDF Studioには、PDFドキュメントをナビゲートするために使用できるさまざまな方法があります。

マウスの使用

PDFドキュメント内を移動するための主な方法は、マウスを使用することです。 PDF Studioは、すべての標準マウスと互換性があり、マウスに通常見られる2つのボタンとスクロールホイールを使用して次のアクションをサポートします。

> *ノート： Macでは、ボタンが1つだけのマウスを使用している場合は、Ctrlキーを押しながらマウスボタンをクリックして右クリックできます。*

マウスの左ボタン

- クリックしてアイテムを選択
- 押し続けるとアイテムをドラッグします

スクロールホイール

- ドキュメント内のページをスクロールします

マウスの右ボタン

- 追加オプション付きのコンテキストメニューを表示します

ページのパン/移動

手工具で 選択したクリックアンドドラッグでページの任意の場所に移動し、ドキュメントをパンします

マウスのスクロールホイールを使用して、ドキュメントを上下に移動できます

垂直スクロールバーと水平スクロールバーを使用して、スクロールバーをクリックしてドラッグすることでドキュメントをパンすることもできます。

キーボードの使用

キーボードを使用して、ショートカットキーを使用してドキュメントをすばやくナビゲートすることもできます。次のショートカットを使用できます。

アクション	Windows / UNIX	マック
先頭ページ	家	家
最後のページ	終わり	終わり
次のページ	PgDnまたはスペース	PgDnまたはスペース
前のページ	PgUpまたはShift+Space	PgUpまたはShift+Space
ページに移動	Ctrl + Shift + P	⌘+シフト+P
下へスクロール	スペースまたは↓	スペースまたは↓
スクロールアップする	↑	↑
次のビュー	Alt+→	⌘+[
前のビュー	Alt+←	⌘+]

ナビゲーションツールの使用

ナビゲーションツールは下部のツールバーにあり、ドキュメントをナビゲートするために使用できます。

先頭ページ： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

1 of 12 **ページ番号：** 現在表示されているページと総ページ数を表示します。フィールドに数字を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。を使用したドキュメントページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

ページサムネイルの使用

ページのサムネイルは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます 画面左側のページボタン

ページのサムネイルには、ドキュメント内のすべてのページのミニチュアバージョンが表示されます。

・ サムネイルをクリックして、そのページに直接移動します。

・ 左←と右を使用します→前のページと次のページに移動するための矢印キー

ブックマークの使用

ブックマークペインは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます 画面左側のブックマークボタン。

ブックマークの使用は、多くのページを含む大きなPDFをナビゲートするときに役立ちます。多くの場合、ブックマークは、ドキュメント内の章またはセクションにラベルを付けるために配置されます。ブックマークをクリックして、ドキュメント内のその場所に直接ジャンプします。

ノート：*次のアイコン* *宛先のない無効なブックマークを示します。*

宛先の使用

宛先ペインは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます 画面左側の宛先ボタン。

宛先の使用は、多くのページを含む大きなPDFをナビゲートするときに役立ちます。宛先は、ドキュメント内の特定の場所またはセクションにラベルを付けるために配置された追加のナビゲーションツールです。宛先名をクリックして、ドキュメント内のその場所に直接ジャンプします。

タブ付きドキュメントビュー

PDF Studioでは、タブ付きインターフェイスを使用してドキュメントが開き、複数のPDFを一度に表示できます。開かれた新しいPDFはそれぞれ、同じアプリケーションフレームの新しいタブでのみ開きます。

タブ名には、そのタブで開いたPDFドキュメントの名前が表示され、表示するファイルの名前をクリックしてタブを切り替えることができます。開いているドキュメントタブの数がタブ領域に収まらなくなると、タブ間を移動するための[前へ]および[次へ]ボタンが右側に表示されます。矢印の右側にあるメニューボタンを使用して、タブ間をすばやくジャンプします。

ドキュメントタブの操作

ドキュメントタブを操作する場合は、次の機能を使用できます。各アクションは単一のタブで実行できます。または、Ctrl + Clickショートカットを使用して、一度に複数のタブを選択できます。

タブの管理

タブを新しい場所に移動

- タブをクリックし、配置する2つのドキュメントタブの間にドラッグアンドドロップします

タブを閉じる

単一のドキュメントを閉じるには、をクリックします × ドキュメント名の右側にあるアイコン、または[ドキュメント]タブを右クリックして、次のオプションから選択します。

- **近い**：指定したドキュメントを閉じます
- **すべて閉じる**：現在開いているすべてのドキュメントを閉じて、PDFStudioを開いたままにします
- **他の人を閉じる**：選択したドキュメントタブを開いたままにして、他のすべてのドキュメントを閉じます
- **右側のタブを閉じる**：選択したタブの右側にあるすべてのドキュメントを閉じ、選択したタブの左側にあるすべてのドキュメントを開いたままにします

新しいウィンドウを作成する

- タブをクリックしてから、**外にドラッグします** 既存のウィンドウとドロップの。これにより、新しいウィンドウが作成されます。
- タブを右クリックして「**新しいウィンドウで開きます**」。

Windows間を移動する

各PDFStudioウィンドウには、一度に複数のドキュメントタブを含めることができます

- タブをクリックし、別のウィンドウのタブ領域にドラッグアンドドロップします。これにより、選択したタブが1つのウィンドウから別のウィンドウに移動します。

タブ間での作業

PDF Studioは、タブ間および個別のPDFStudioウィンドウ間での操作をサポートします。これは、あるドキュメントから別のドキュメントにページやテキストをコピーする必要がある場合に役立ちます。以下にいくつかの例を示します。

- タブ間でページをドラッグする：両方のタブでサムネイルペインを開き、移動するページを選択してドラッグし、2番目のドキュメントタブにカーソルを合わせると、2番目のドキュメントが表示されます。ページのドラッグを続けて、2番目のドキュメントのページペインにドロップします。
- タブ間でページをコピーする：両方のタブでサムネイルペインを開き、ページを選択して右クリックしてコピーします。次に、2番目のドキュメントタブをクリックし、サムネイルペインを右クリックしてページを貼り付けます。
- タブ間でテキストをコピーする：テキストを選択し、1つのドキュメントタブにコピーしてから、別のドキュメントタブの目的の場所に貼り付けます。

追加オプション

複数のドキュメントタブを開いて作業する場合は、次の追加のアクションを実行できます。これらの機能は、Ctrl+Clickショートカットを使用して一度に複数のタブを選択する場合にのみ使用できます。

ファイル

- **パスをクリップボードにコピーする**：ファイルパスをシステムクリップボードにコピーします
- **含まれているフォルダを開く**：ドキュメントが保存されているシステム上のフォルダを開きます

書類

- **マージ**：開始しますPDFをマージ 選択したドキュメントが既にマージリストに設定されているツール
- **オーバーレイを比較**：開始しますオーバーレイを比較 選択したドキュメントを含むツール
- **並べて比較する**：2つのドキュメントでのみ使用可能-開始並んで 選択したドキュメントとの比較ビュー

タブ付きドキュメントビューを有効/無効にする

タブ付きドキュメントビューを無効にするには、に移動します一般的な設定 とチェックを外します**新しいタブでドキュメントを開く**" オプション。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ズーミング

ドキュメントを表示する場合、ドキュメントをズームイン/ズームアウトする方法はいくつかあります。

マウスの使用

マウスを使用してドキュメントをズームインまたはズームアウトするには、Ctrlキー（Macの場合はAlt）を押しながらマウスホイールを上にスクロールしてズームインし、下にスクロールしてズームアウトします。

キーボードの使用

キーボードを使用して、ショートカットキーを使用してドキュメントをすばやく拡大することもできます。次のショートカットを使用できます。

実際のサイズにズーム	Ctrl + 1	⌘+1
ページに合わせてズーム	Ctrl + 0	⌘+0
幅に合わせてズーム	Ctrl + 2	⌘+2
ズームイン	Ctrl + Plus	Alt + Plus
ズームアウトする	Ctrl+マイナス	Alt+マイナス

ズームツールの使用

ズームツールは下部のツールバーにあり、ドキュメントをズームするために使用できます。

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

ズーム先/現在のズーム： 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

ズームツール： ページ内の選択した領域にズームします。クリックしてドラッグし、ズームする長方形の領域を選択します。

- Ctrlキーを押したままにして、ズームツールがアクティブなときにズームアウトします。

ルーペツール： PDFを拡大して細部を表示するズームウィンドウを表示します。

パンとズーム： 現在画面に表示されているページの一部を表示するウィンドウ。赤いボックスをドラッグして、ドキュメントの表示を調整します。

ページレイアウトの設定

ドキュメントを表示するときは、いくつかのページレイアウトオプションから選択できます。

ページレイアウト

デフォルトでは、ページレイアウトはによって決定されます初期ビュー設定 ドキュメントまたはデフォルトでページレイアウト設定 PDFStudioの設定で設定します。違った ドキュメントを表示するときにページレイアウトを選択するには、**ホームタブ**> **レイアウト** ツールバーで選択します 使用したいレイアウト。

シングル： 一度に1つの個別のページのみを表示します

シングル連続： 継続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します

直面している： 一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します

継続的に直面している： すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、 正しい

カバー： 向きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます

連続カバー：対面連続を使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます

ページビュー

デフォルトでは、ページビューはによって決定されます初期ビュー設定 ドキュメントまたはデフォルトで倍率設定 PDFStudioの設定で設定します。違った ドキュメントを表示するときにページビューを選択するには、に移動します。**ホームタブ**または **下部ツールバー**使用するビューを選択します。

実際のサイズ： スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致するように、ドキュメントを1：1の比率で表示します。

幅に合わせる： PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します。

ページに合わせる： PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

回転ページビュー

本や雑誌を手で回転させているかのように、ドキュメントのページを一時的に回転させることができます。これには、[ビューの回転]をクリックしてアクセスできます。 に**ホームタブ**ツールバーの。

注意： *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。保存時にドキュメントのページを永続的に回転するには、を参照してください。ページの回転*

ビューを時計回りに回転： ドキュメント内のビューのみを時計回りに回転します

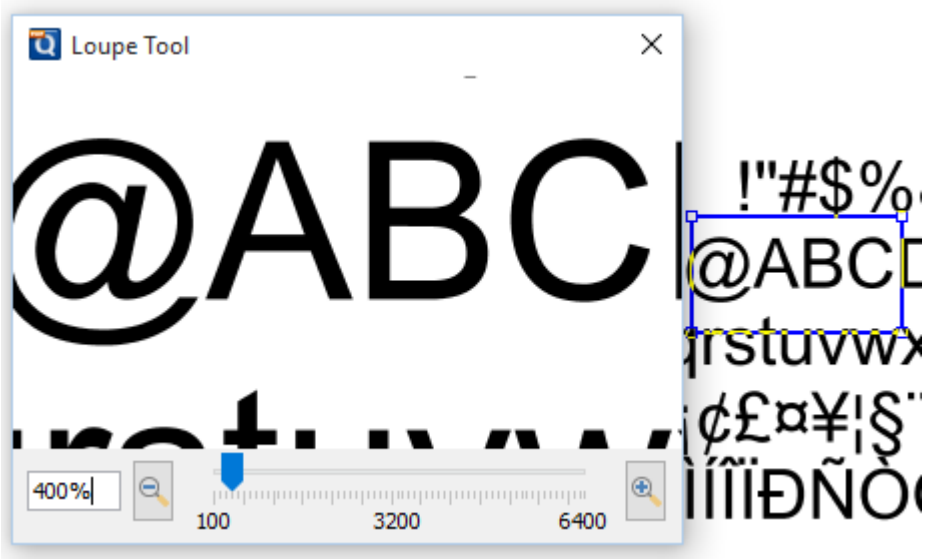
ビューを反時計回りに回転します。 ドキュメント内のビューのみを反時計回りに回転します

ルーペツール

ルーペツールはドラッグ可能な長方形で、PDFを拡大して細部を表示します。アクティブになると、拡大している現在のコンテンツを示す2番目のウィンドウが表示されます。

指示：

1. に移動**[表示]タブ** およびcルーペツールをなめる ツールバーのボタン
2. 拡大したいページの部分をクリックします。拡大ウィンドウが表示されます。
3. ツールを使用するときに倍率のレベルを変更するには、青いズーム領域の隅にあるハンドルまたは拡大ウィンドウのスライダーを使用します
4. ツールを閉じるのが終わったら、拡大ウィンドウの「x」をクリックするか、キーボードのEscを押します。

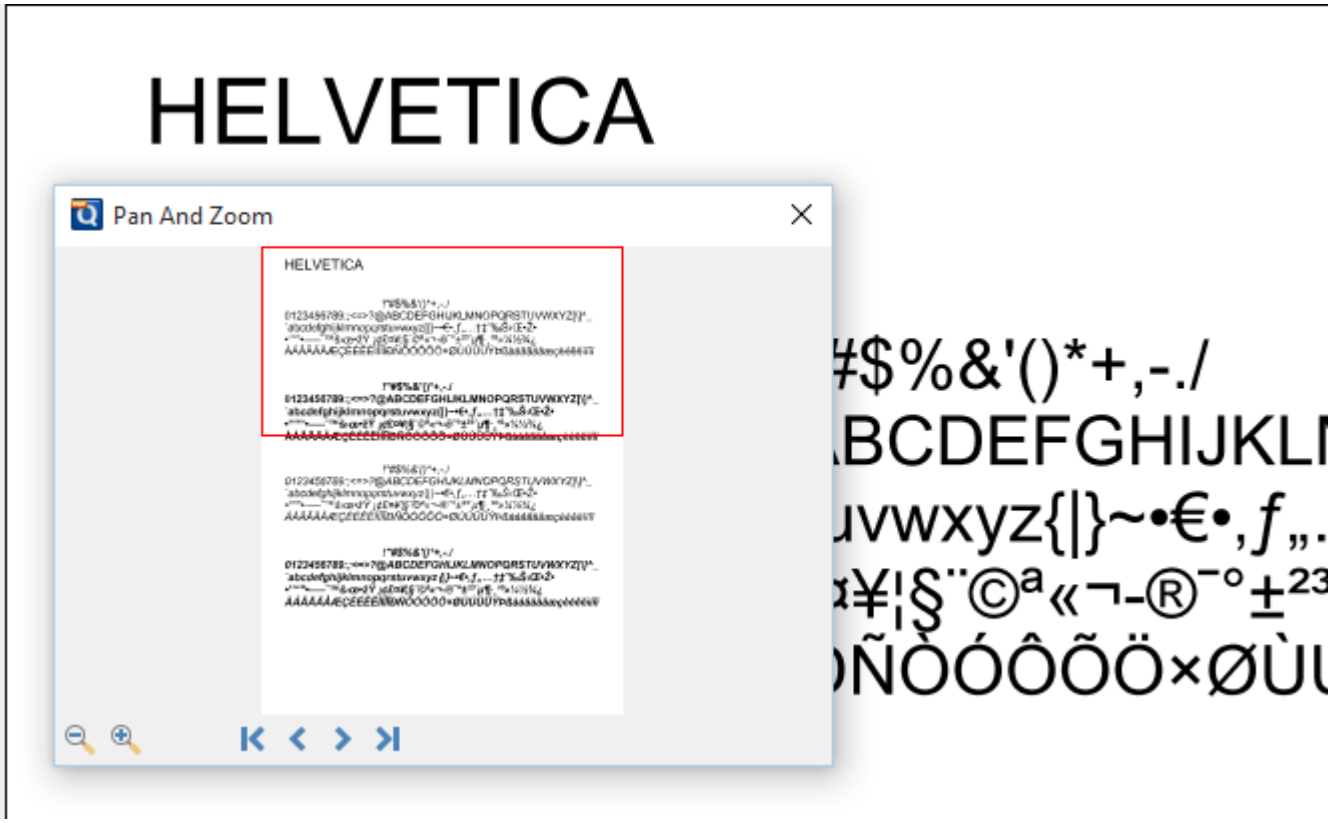


パンとズームツール

パンとズームツールは、現在画面に表示されているページの部分を示す2番目のウィンドウが表示されます。赤いボックスをドラッグして、ドキュメントの表示を調整します。

指示：

1. に移動**[表示]タブ** およびcパンとズームツールをなめる ツールバーのボタン。次に、2番目のウィンドウが表示されます 現在画面に表示されているページの一部を表示します。
2. ドキュメントの表示を調整するには、赤いボックスをドラッグするか、パンおよびズームウィンドウのナビゲーションツールとズームツールを使用します
3. ツールを閉じるのが終わったら、拡大ウィンドウの「x」をクリックするか、キーボードのEscを押します。



読書モード

ドキュメントを読むときは、すべてのツールバーとペインを非表示にして、読みやすさを向上させることができます。

注意：*ウィンドウのタイトルは引き続き表示されるため、このモードでは画面全体には表示されません。画面のできるだけ多くをカバーするには、PDFStudioウィンドウを最大化するようにしてください。*

読書モードを開始する方法

読み取りモードを有効にするには、に移動します**タブを表示>** **読書モード** または、ショートカットキーCtrl + H（MacではCmd + Ctrl + H）を使用します

読書モードオプション

読み取りモードが有効になったらナビゲート キーボードまたはマウスを使用したドキュメントは、通常どおりに機能します。

また、左を使用することができます そして右 読書で表示される矢印 次のページと前のページに移動するモード。

「esc」キーを押して、読み取りモードを終了します。

フルスクリーンモード

フルスクリーンモードでは、非表示のドキュメントのみが表示されますメニューバー、ツールバー、作業ウィンドウ、およびウィンドウコントロール。このモードでは、ドキュメントのみが表示され、残りの領域はすべて黒くなります。

フルスクリーンモードを開始する方法

読み取りモードを有効にするには、に移動します**タブを表示>** **読書モード** または、ショートカットキーCtrl + L（MacではCmd + Ctrl + L）を使用します

読書モードオプション

フルスクリーンモードが有効になったらナビゲート キーボードまたはマウスを使用したドキュメントは、通常どおりに機能します。

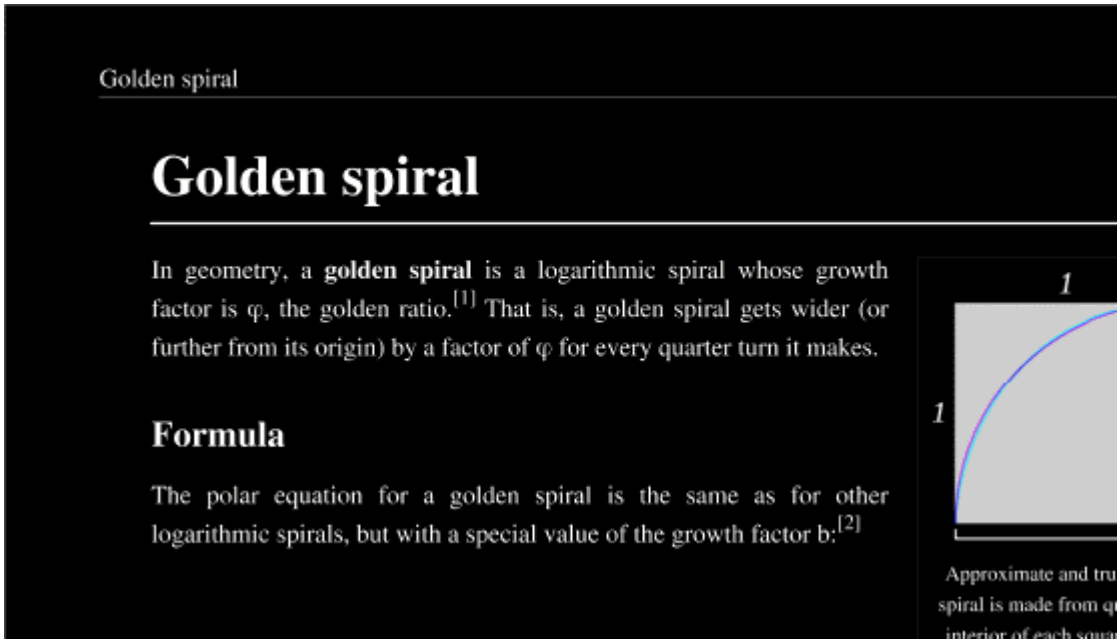
「esc」キーを押して、読み取りモードを終了します。

色を反転する

を選択してPDFドキュメントをレンダリングするときに色を反転しますタブを表示> **色を反転する** メニューから。

一般的なドキュメントの場合、表示は「白地に黒」から「黒地に白」に変わります。色を反転すると、特に暗い部屋、飛行機、または夜間で作業しているときに、小さな画面で物事がはるかに読みやすくなります。 このモードは、すべてのドキュメントまたは現在開いているドキュメントの色を[表示]メニューから反転する設定として使用できます。

色の反転が有効になっているドキュメントの例：



分割ビュー

分割ビューを使用すると、現在開いているドキュメントの2つの別々のビューを同じウィンドウに表示できます。これは、別の部分を表示しているときにドキュメントの別の部分を参照する必要がある場合に役立ちます。

分割ビューを開始する方法

1. 任意のドキュメントを開く
2. に移動**タブを表示>** **分割ビュー** ツールバー上
3. 新しいペインが開き、現在開いているドキュメントの別のビューが表示されます

分割表示オプション

水平に分割：分割ビューの各ペインを水平方向に表示します

垂直に分割：分割ビューの各ペインを垂直に表示します

レイヤーの表示/非表示

ドキュメントを表示するとき、レイヤーのオンとオフを切り替えて、さまざまなビューを作成できます。

ノート：*[レイヤーのリセット]メニューオプションを使用して、レイヤーを元の状態にリセットできます。*

PDFでレイヤーを表示/非表示にする方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. レイヤー名の横にあるチェックボックスをクリックして、レイヤーを表示または非表示にします
3. 通常どおりにドキュメントの作業を続行します

> **ノート：***レイヤーのオンとオフを切り替えても、ドキュメントは変更されず、保存されません。 PDFを開くときにデフォルトの状態を変更するには、を参照してください。レイヤーのプロパティ*

ドキュメントの自動スクロール

PDF Studioの自動スクロール機能を使用すると、キーストロークを押さなくてもページをスクロールできます。これは、障害のある人に役立つだけでなく、長いPDFをスクロールして必要な情報を簡単に見つけることができます。

自動スクロールの使用方法

以下のショートカットキーを使用してください

- 使用する**Ctrl + Shift + H** （（**コマンド+シフト+H** Macの場合）自動スクロールを開始および停止します
- マイナスキー「-」はスクロール方向を逆にします
- 数字キー0〜9は、スクロール速度を制御します（0が最も遅い、9が最も速い）
- 下にスクロールしている間（通常の読み取り方向）、下矢印はスクロール速度を上げ、上矢印は下がります。
- 上にスクロールしている間、矢印の速度制御が逆になり、予想される動作に一致します。
- 左矢印キーと右矢印キーを使用して、次または前のページにジャンプします

PDFドキュメントの比較

PDF Studioには、PDFドキュメントの比較に使用できる複数のツールがあります。これらのツールを使用して、1つ以上のPDFドキュメント間の変更と相違点を見つけることができます。

比較ツール

並んで -2つのPDFドキュメントを同じウィンドウで並べて開き、視覚的に比較します

オーバーレイ比較 -異なる色を使用して2番目のドキュメントを最初のドキュメントにオーバーレイしてドキュメントを比較し、違いを見つけます。

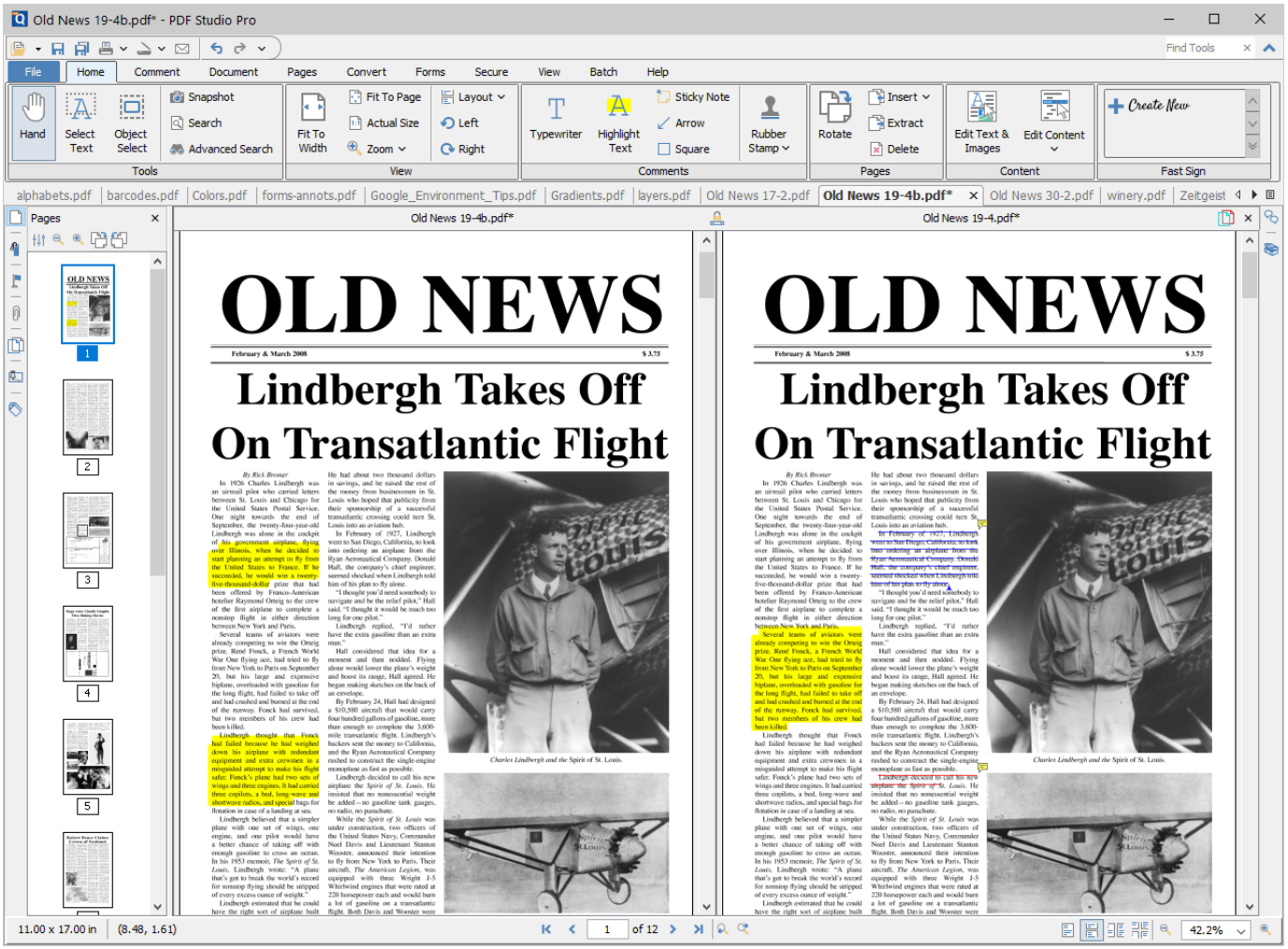
PDFStudioのオーバーレイ比較には2つの機能があります。

- オーバーレイPDF比較：2つまたは複数のドキュメントをオーバーレイする新しいPDFを作成します。オーバーレイ比較PDFはベクター形式で保存されます。これにより、3ポイント方式とプレビューウィンドウを使用して、スケーリングをプレビューし、オフセットを計算できます。次に、新しく作成されたオーバーレイPDFに注釈を追加できます。
- ライブオーバーレイPDF：これは、2つのドキュメントをオーバーレイするライブレンダリングモードであり、並べて比較することによってのみアクセスできます。オーバーレイできるのは2つのドキュメントのみです。エクスポートされたPDFは画像形式です。注釈は最初のドキュメントにのみ追加できます。

オーバーレイカラーオプション -オーバーレイ比較のためにドキュメントの色オプションを設定する方法

並べて比較

PDF Studioには、2つのPDFドキュメントを並べて開いて視覚的に比較できるSide bySidePDF比較ツールがあります。これは、テキストまたは画像のリビジョンがある可能性のあるPDFドキュメントを比較するときに役立ちます。



2つのドキュメントを並べて比較する方法：

1. PDFStudioで最初または最初のドキュメントを開きます。これは**ドキュメントA** 並べて比較
2. に移動**[ドキュメント]タブ>** **並べて比較...** ツールバーで。
3. ドキュメントAと比較する2番目のドキュメントを選択します。これは次のようになります。**ドキュメントB** 並べて比較
4. これで、同じPDF Studioウィンドウでドキュメント A（左側）とドキュメントB（右側）が並べて開かれます。

並べて注釈を付ける

- 比較中はいつでも、ツールバーを使用して、ドキュメントAに変更を注釈またはマークアップすることしかできません。

- ドキュメントBを右クリックして、使用するツールを選択すると、ドキュメントBをマークアップできます。ドキュメントBで使用できるツールは次のとおりです。
  - 付箋
  - 鉛筆
  - テキストを選択
- テキストを選択したら、強調表示されたものを右クリックして、テキストマークアップアクションを選択できます。

オーバーレイビューへの切り替え Pro

ご希望の場合は、をクリックしてオーバーレイ比較モードに切り替えることができます。**かぶせる** ボタン メインツールバーまたは上記のドキュメントBの右上隅にオーバーレイします。

> *ノート： オーバーレイ比較に切り替えるときに、ドキュメントBに変更が加えられている場合は、最初にそれらを保存する必要があります。 PDF Studioは、オーバーレイ比較に切り替えるときにそうするように促します。*

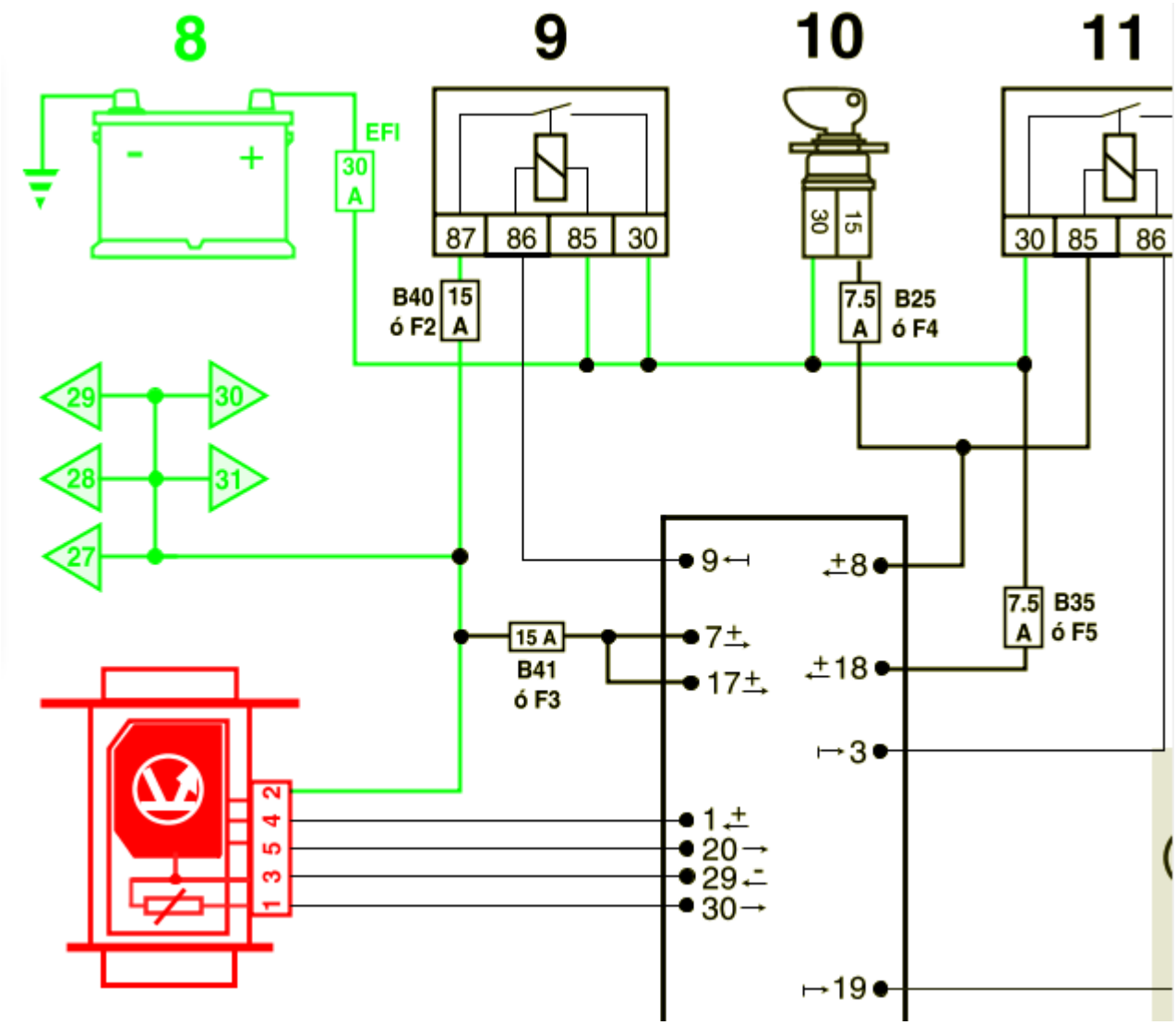
並べて比較するオプション

ライブオーバーレイ比較モードに切り替えます-に切り替えますライブオーバーレイの比較モード Pro

スクロールロック -ビューのスクロールペインをロック/ロック解除します。ロックすると、ドキュメントのスクロールが同期されます。

オーバーレイの比較

PDF Studioにはオーバーレイ比較機能が付属しており、異なる色を使用して追加のドキュメントを最初のドキュメントにオーバーレイして違いを表示することにより、2つ以上のドキュメントを視覚的に比較できます。この機能は、建築家やエンジニアが建築図面や青写真のわずかな違いでも視覚的に識別するのに特に役立ちます。 PDFドキュメントを比較するだけでなく、PDF Studioを使用してPDFに変換されたスキャン、画像、またはWordドキュメントにも使用できます。



ベクターオーバーレイ比較を使用して2つのドキュメントを比較する方法

1. PDFStudioで最初または最初のドキュメントを開きます。これは、オーバーレイ比較でドキュメントA（緑色）になります。
2. ツールバー上goから**[ドキュメント]タブ>** **オーバーレイ**
3. これにより、[比較の作成]ダイアログが起動します
4. 比較したいドキュメントを選択します
5. 各ドキュメントのオプションを設定します

6. クリック**開始** 新しいオーバーレイドキュメントを作成し、別のウィンドウで開きます

ベクターオーバーレイオプション

以下は、オーバーレイ比較を設定するときに使用できるオプションです。

ファイルリスト

追加ファイル -1つ以上のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します

編集-選択したレイヤーのレイヤーオプションを開きます

ポイントを揃える -自動調整ツールを起動します。を参照してください。**ドキュメントを揃える方法** 未満

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

レイヤーオプション

層

ファイル -選択したドキュメントのファイル名とパスを表示します

レイヤー名 -比較レイヤーに使用する名前を設定します

色 -ドキュメントの色を選択します（通常、デフォルトの色が最良の結果を提供します）。見るオーバーレイPDF比較用の色の選択。

ページ -[開始]および[終了]オプションを使用して、比較するドキュメントのページを設定します

ポジション

回転する -必要に応じてドキュメントの回転を調整します

オフセットX＆Y -ドキュメントのXとYの位置の値を調整して、ドキュメントを左、右、上、または下に移動します

スケールX＆Y -スケール値を調整して、ドキュメントのサイズを拡大または縮小します

ドキュメントを揃える方法

1. 比較したいすべてのドキュメントをドキュメントリストに追加します
2. クリック**ポイントを揃える** プロセスを開始するには
3. リスト内の各ドキュメントが順番に開かれます。ドキュメントごとに：同じ3つのポイントを同じ順序で選択して、ページを揃えます
    - **注意**：*最良の結果を得るには、ポイントが遠く離れている必要があります（コーナーの近く）*
4. 完了すると、オーバーレイドキュメントが作成されるときに、ドキュメントが自動的に配置されます。

配置が設定されると、**ポジション** の値**レイヤーオプション** ダイアログは無効になります。必要に応じて、をクリックすることができます **明確な配置** 自動的に設定されたアリングメントを削除し、代わりに手動のアラインメントを設定します。

オーバーレイ比較のための色の選択

オーバーレイ比較機能を使用すると、比較する2つのドキュメントの色をカスタマイズできます。デフォルトの色から変更する場合は、PDFStudioのオーバーレイ比較機能を使用してPDFドキュメントを比較するときに補色を使用することをお勧めします。補色は、2つの図面/ドキュメントの共通要素が黒（2つの補色のオーバーレイ）で表示されることを保証する黒になる色です。

RGB（赤、緑、青）値を使用すると、補色は合計で（255、255、255）になる色です。補色のいくつかの色のペアについては、以下を参照してください。括弧内の数字はRGB値の色を表します。

色の例

- シアン（51、204、204）/ダークレッド（204、51、51）これらはPDFStudioのデフォルトの色です。
- グリーン（0、204、51）/ダークピンク（255、51、204）
- 青（0、125、255）/オレンジ（0、125、255）
- 緑（0、255、0）/赤（0、255、0）**注意：** *この色のペアでは、色の合計が黒にならないため、両方の図面の共通要素は上記の色ほど黒くなりません。*

PDFへの注釈とコメント

注釈とコメントを使用すると、PDFの一部をマークアップできます。注釈とコメントはPDF内に含まれていますが、PDFの元のコンテンツの一部ではありません。これにより、それらをより簡単に移動、編集、または削除できます。このセクションでは、注釈とコメントに関連するタスクについて説明し、PDFStudioで使用できる各マークアップの例も示します。

このセクションで取り上げるトピック：

注釈の作成
注釈の編集
注釈の平坦化
クリップボード画像の貼り付け
注釈ツールのプロパティの設定
注釈の移動
注釈を揃える
注釈をコピーして貼り付ける
ステータスまたはチェックマークを設定する
注釈の削除
グループ注釈
注釈のエクスポート
注釈のインポート
クリップボードテキストの貼り付け

使用可能な注釈タイプ：

以下は、各注釈タイプと使用可能な注釈のリストです。ドキュメントにテキスト、グラフィック、サウンドでコメントまたは注釈を付けたり、ハイパーリンクを追加したりできます。

テキスト注釈

- テキストボックス
- 叫ぶ
- タイプライター
- 付箋

形状注釈

- サークル
- 四角
- ハイライトエリア
- ポリライン
- ポリゴン
- クラウド
- 矢印
- ライン
- 鉛筆

テキストマークアップ

- ハイライトテキスト
- テキストを消す
- 下線テキスト
- 波線の下線テキスト
- テキストを置き換える
- テキストを挿入

ラバースタンプ注釈

- ゴム印
- 画像スタンプ

測定注釈

- 距離
- 周囲
- 領域

メディアおよびその他の注釈

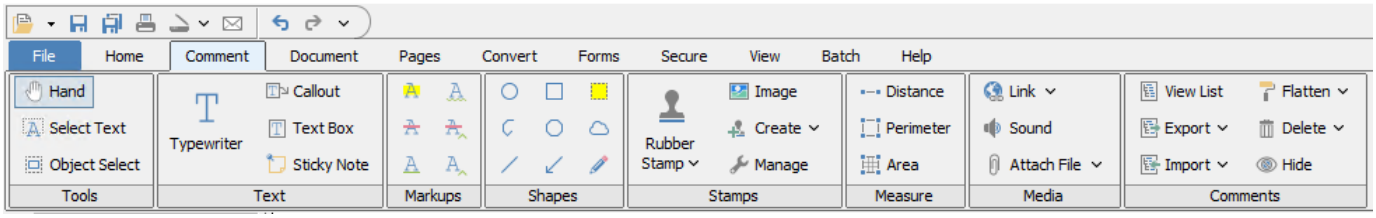
- ハイパーリンク
- 音
- ファイルを添付する
- コメントとしてファイルを添付

注釈の作成

ユースケースとニーズに基づいてアノテーションを作成する方法は複数あります

ツールバーから

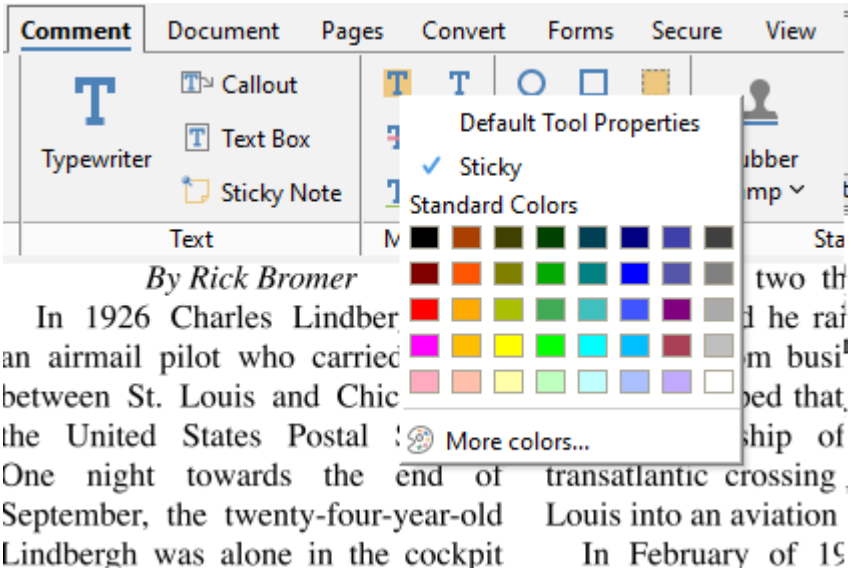
[コメント]タブで、注釈ツールをクリックし、ページ上でマウスを使用して注釈を描画します。



クイックカラーピッカー

必要に応じて、クイックカラーピッカーを使用してさまざまな色で注釈をすばやく作成できます。注釈ボタンのいずれかを右クリックして、使用する色を選択すると、ツールがその色で起動します。

注意：*色は、次に作成される注釈にのみ適用されます。注釈のデフォルトの色を設定するには、を参照してください。注釈ツールのプロパティの設定。*



ショートカットキーの使用

ショートカットキーの使用。使用する注釈ツールのキーボードショートカットを押してから、通常どおりに注釈を描画します。

注釈	Windows / UNIX	マック
範囲	Ctrl + Alt + E	⌘+ Alt + E

エリア蛍光ペン	Ctrl + Alt + I	⌘+ Alt + I
矢印	Ctrl + Alt + A	⌘+ Alt + A
ファイルを添付する	Ctrl + Alt + F	⌘+ Alt + F
叫ぶ	Ctrl + Alt + V	⌘+ Alt + V
サークル	Ctrl + Alt + C	⌘+ Alt + C
雲	Ctrl + Alt + B	⌘+ Alt + B
テキストを消す	Ctrl + Alt + O	⌘+ Alt + O
距離	Ctrl + Alt + M	⌘+ Alt + M
テキストボックス	Ctrl + Alt + T / Ctrl + Alt + Shift + T	⌘+ Alt + T
テキストを強調表示	Ctrl + Alt + H	⌘+ Alt + Shift + H
画像を挿入	Ctrl + Shift + I	⌘+ Shift + I
テキストを挿入	Ctrl + Alt + X	⌘+ Alt + X
ライン	Ctrl + Alt + L / Ctrl + Alt + Shift + L	⌘+ Alt + L
鉛筆	Ctrl + Alt + P	⌘+ Alt + P
リンク	Ctrl + Alt + K	⌘+ Alt + K
周囲	Ctrl + Alt + R	⌘+ Alt + R
ポリゴン	Ctrl + Alt + G	⌘+ Alt + G
ポリライン	Ctrl + Alt + Y	⌘+ Alt + Y
テキストを置き換える	Ctrl + Alt + Z	⌘+ Alt + Z
音	Ctrl + Alt + S / Ctrl + Alt + Shift + S	⌘+ Alt + S
平方	Ctrl + Alt + Q	⌘+ Alt + Shift + Q
波線の下線	Ctrl + Alt + J	⌘+ Alt + J
付箋	Ctrl + Alt + N	⌘+ Alt + N
テキストに下線を引く	Ctrl + Alt + U	⌘+ Alt + U
タイプライター	Ctrl + Alt + W	⌘+ Alt + W

テキスト注釈

PDF Studioには、次のテキスト注釈ツールがあります。

タイプライター： 付箋の注釈を作成します。

テキストボックス：テキストボックスの注釈を作成します。

叫ぶ： コールアウトアノテーションを作成します

付箋： タイプライター注釈を作成します。

タイプライターの注釈

タイプライターツールは、ドキュメント上に直接テキストを作成します。インタラクティブフォームのないPDFドキュメントにテキストを追加するのに便利です。作成したら、を使用して追加のプロパティを編集できますクイックプロパティ またはミニ ツールバー。

> **注意：** *改行は手動で作成する必要があります。テキストボックスやコールアウトとは異なり、タイプライターはテキストとそれに追加された改行によってサイズが変更されます。*

Typewriter annotation

タイプライター注釈の作成

1. をクリックしてタイプライターツールを起動します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + W（コマンド + Alt + W（Macの場合）
2. テキストを追加したいページをクリックしてください
3. 追加するテキストを入力します
4. 終了するには、Escキーを押すか、ドキュメントの他の場所をクリックします

注釈のプロパティ

タイプライターのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Typewriterアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

テキストの色 -テキストの色を設定します

フォント -テキストのフォントを設定します

サイズ -テキストのフォントサイズを設定します

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

U -選択した注釈テキストを作成します下線付き

S -選択した注釈テキストを~~取り消し~~線

透明性 -テキスト注釈の透明度を設定します

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいタイプライター注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

テキストボックスの注釈

テキストボックスツールは、ドキュメントにテキストメモを作成します。テキストは、ページにテキストボックスを配置するときに作成されるボックス内に含まれています。配置したら、図形のサイズを変更して、ボックス内のテキストをリフローしたり、追加のプロパティを編集したりできます。 を使用してクイックプロパティ またはミニ ツールバー。

テキストボックスの作成

1. クリックしてテキストボックスツールを起動します の中に**コメントタブ**ツールバーまたは ショートカットキーCtrl + Alt + T（Cmd + Alt + T（Macの場合）（Ctrl + Alt + Shift + T（Linuxの場合）
2. クリックしてドラッグし、テキストボックスの長方形を作成します
3. 追加するテキストをテキストボックスに入力します
4. 終了するには、Escキーを押すか、ドキュメントの他の場所をクリックします

ヒント： *システムクリップボードのテキスト テキストボックスとしてPDFドキュメントに貼り付けることができます。*

注釈のプロパティ

テキストボックスのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。テキストボックスの注釈には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

境界線の幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

ボーダの色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

テキストの色 -テキストの色を設定します

Horiz Align -テキストの水平方向の配置を設定します

フォント -テキストのフォントを設定します

サイズ -テキストのフォントサイズを設定します

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

U -選択した注釈テキストを作成します<u>下線付き</u>

S -選択した注釈テキストを~~取り消し線~~

透明性 -テキスト注釈の透明度を設定します

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいテキストボックス注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

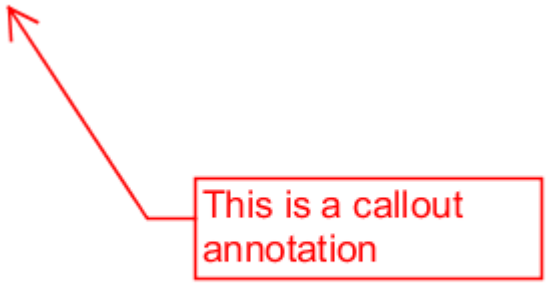
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

コールアウト注釈

コールアウトツールは、ページ上の特定の場所を指すことができる矢印の付いたテキストメモをドキュメント上に作成します。テキストは、ページにコールアウトを配置するときに作成されるボックス内に含まれています。配置したら、矢印を移動したり、サイズを変更したりできます 内のテキストをリフローし、を使用して追加のプロパティを編集するためのボックスクイックプロパティ またはミニ ツールバー。



コールアウトの作成

1. をクリックして、コールアウトツールを起動します。 の中に**コメントタブ**ツールバー上またはショートカットキーCtrl + Alt + W（⌘+ Macの場合はAlt + W）
2. まず、矢印のポイントを配置する場所をクリックしてから、添付のテキストボックスを配置する場所にカーソルを移動します。
3. コールアウトに追加するテキストを入力します
4. 終了するには、Escキーを押すか、ドキュメントの他の場所をクリックします

注釈のプロパティ

コールアウトプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Calloutアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

境界線の幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。**注意：** *Cコールアウトでクラウドスタイルを選択すると、テキストボックスのみが変更されます。線と矢印は実線のままになります*

ボーダの色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

テキストの色 -テキストの色を設定します

Horiz Align -テキストの水平方向の配置を設定します

フォント -テキストのフォントを設定します

サイズ -テキストのフォントサイズを設定します

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

U -選択した注釈テキストを作成します<u>下線付き</u>

S -選択した注釈テキストを~~取り消し線~~

透明性 -テキスト注釈の透明度を設定します

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいCallout注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

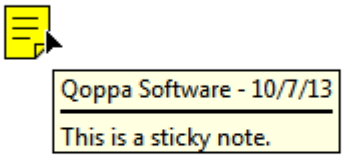
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

付箋の注釈

付箋ツールは、ダブルクリックするかマウスでカーソルを合わせるまで非表示になっているメモをドキュメントに配置します。これは、ドキュメントにコメントを追加し、必要になるまでコメントを表示しない場合に便利です。作成したら、編集できます を使用した追加のプロパティクイックプロパティ またはミニ ツールバー。



付箋注釈の作成

1. をクリックして付箋ツールを起動します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + N（コマンド + Alt + N（Macの場合）
2. メモを追加したいページをクリックします。配置すると、付箋のプロパティダイアログが表示され、メモにテキストを追加できます。
3. 追加するテキストを[メモ/コメント]フィールドに入力します
4. 終了したら、[OK]をクリックしてメモを作成します

注釈のプロパティ

付箋のプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。付箋の注釈には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

アイコン -付箋のアイコンを次のいずれかに設定できます：チェック、チェックマーク、円、コメント、十字、十字線、ヘルプ、挿入、キー、新しい段落、メモ、段落、右矢印、右ポインター、星、上矢印、上左矢印

T透明性 -付箋アイコンの透明度を設定します

アイコンの色 -付箋アイコンの色を設定します

最初に開く -このプロパティが設定されている場合、ドキュメントが最初に開かれると、付箋テキストが自動的に開かれ、画面に表示されます。

> **注意：** *「最初に開く」が正しく機能するためには、アプリケーションがこの機能もサポートしている必要があります。この時点でPDFStudioはオプションを設定できますが、ドキュメントを開いたときにメモを自動的に表示することはできません。*

注/コメント -付箋に追加されたテキストが含まれています

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しい付箋注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

テキストマークアップ

PDF Studioには、次のテキストマークアップツールがあります。

テキストを強調表示：テキストハイライト注釈を作成します

クロスアウトテキスト：テキストのクロスアウト注釈を作成します

テキストに下線を引く：テキストの下線注釈を作成します

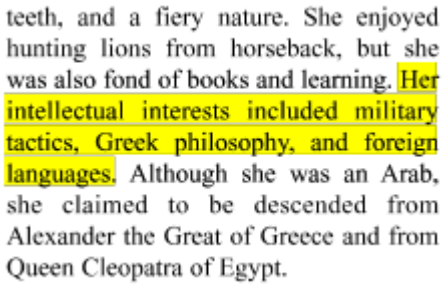
波線の下線テキスト：波線の下線テキスト注釈を作成します

テキストを置き換える：置換テキスト注釈を作成します

テキストを挿入：挿入テキスト注釈を作成します

テキストハイライトマークアップ

テキストハイライトツールを使用すると、紙の蛍光ペンを使用するのと同じように、ドキュメント内のテキストを選択してハイライトできます。


teeth, and a fiery nature. She enjoyed hunting lions from horseback, but she was also fond of books and learning. Her intellectual interests included military tactics, Greek philosophy, and foreign languages. Although she was an Arab, she claimed to be descended from Alexander the Great of Greece and from Queen Cleopatra of Egypt.

テキストハイライトマークアップの作成

1. [テキストハイライト]ツールをクリックして選択します。 ツールバー上またはショートカットキーCtrl + Alt + H（コマンド + Alt + Shift + H（Macの場合））
2. マークアップするテキストの上にマウスをクリックしてドラッグします
   - 長方形のテキストを選択するには、Ctrlキー（macOSの場合はCommand）を押しながらマウスをドラッグします。カーソルがに変わります 別の選択を示すために モードがアクティブです。
3. 終了するには、マウスを放すと、選択した領域内のすべてのテキストが影響を受けます

注釈のプロパティ

テキストハイライトのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集をクリックします ボタン にミニツールバー。テキストハイライトマークアップには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

マークアップタイプ -選択したテキストのテキストマークアップのタイプを変更できます

透明性 -テキストマークアップの透明度を設定します

色 -テキストマークアップの色を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるテキストマークアップにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいテキストハイライトマークアップのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

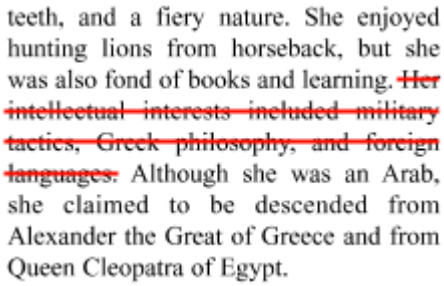
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

クロスアウトテキストマークアップ

[テキストを消す]ツールを使用すると、ドキュメント内のページ上のテキストに線を引くのと同じように、テキストを選択して消すことができます。


teeth, and a fiery nature. She enjoyed hunting lions from horseback, but she was also fond of books and learning. ~~Her intellectual interests included military tactics, Greek philosophy, and foreign languages.~~ Although she was an Arab, she claimed to be descended from Alexander the Great of Greece and from Queen Cleopatra of Egypt.

クロスアウトテキストマークアップの作成

1. [テキストを消す]ツールをクリックして選択します。 ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + O（コマンド + Alt + O（Macの場合）
2. ClmacOSを選択し、マークアップするテキストの上にマウスをドラッグします
   - 長方形のテキストを選択するには、Ctrlキー（OSXの場合はCommand）を押しながらマウスをドラッグします。カーソルがに変わります 別の選択を示すために モードがアクティブです。
3. 終了するには、マウスを放すと、選択した領域内のすべてのテキストが影響を受けます

注釈のプロパティ

クロスアウトテキストのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。クロスアウトテキストマークアップには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

マークアップタイプ -選択したテキストのテキストマークアップのタイプを変更できます

透明性 -テキストマークアップの透明度を設定します

色 -テキストマークアップの色を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるテキストマークアップにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいクロスアウトテキストマークアップのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

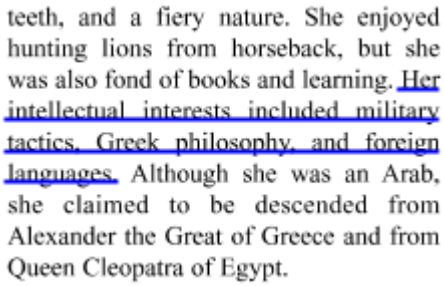
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

テキストアンダースコアマークアップ

UnderlineTextツールを使用すると、ドキュメント内のページのテキストの下に線を引くのと同じように、テキストを選択して下線を引くことができます。


teeth, and a fiery nature. She enjoyed hunting lions from horseback, but she was also fond of books and learning. Her intellectual interests included military tactics, Greek philosophy, and foreign languages. Although she was an Arab, she claimed to be descended from Alexander the Great of Greece and from Queen Cleopatra of Egypt.

下線付きテキストマークアップの作成

1. [テキストの下線]ツールをクリックして選択します。 ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + U（コマンド + Alt + U（Macの場合））
2. ClmacOSを選択し、マークアップするテキストの上にマウスをドラッグします
   - 長方形のテキストを選択するには、Ctrlキー（OSXの場合はCommand）を押しながらマウスをドラッグします。カーソルがに変わります 別の選択を示すために モードがアクティブです。
3. 終了するには、マウスを放すと、選択した領域内のすべてのテキストが影響を受けます

注釈のプロパティ

下線テキストのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。下線テキストマークアップには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

マークアップタイプ -選択したテキストのテキストマークアップのタイプを変更できます

透明性 -テキストマークアップの透明度を設定します

色 -テキストマークアップの色を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるテキストマークアップにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しい下線テキストマークアップのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

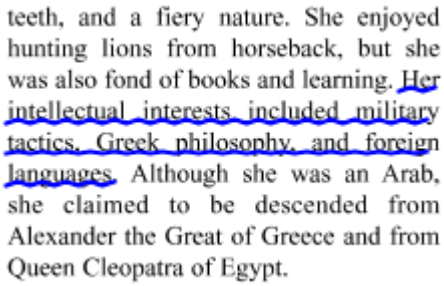
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

波線の下線テキストマークアップ

Squiggly UnderlineTextツールを使用すると、ドキュメントのテキストの下に波線の下線を選択して追加できます。


teeth, and a fiery nature. She enjoyed hunting lions from horseback, but she was also fond of books and learning. Her intellectual interests included military tactics, Greek philosophy, and foreign languages. Although she was an Arab, she claimed to be descended from Alexander the Great of Greece and from Queen Cleopatra of Egypt.

波線の下線テキストマークアップの作成

1. をクリックして、Squiggly UnderlineTextツールを選択します。 ツールバー上 または ショートカットキーCtrl + Alt + J（コマンド + Alt + J（Macの場合）
2. ClmacOSを選択し、マークアップするテキストの上にマウスをドラッグします
   - 長方形のテキストを選択するには、Ctrlキー（OSXの場合はCommand）を押しながらマウスをドラッグします。カーソルがに変わります 別の選択を示すために モードがアクティブです。
3. 終了するには、マウスを放すと、選択した領域内のすべてのテキストが影響を受けます

注釈のプロパティ

Squiggly Underline Textプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Squiggly Underline Text Markupには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

マークアップタイプ -選択したテキストのテキストマークアップのタイプを変更できます

透明性 -テキストマークアップの透明度を設定します

色 -テキストマークアップの色を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるテキストマークアップにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいSquiggly UnderlineTextマークアップのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

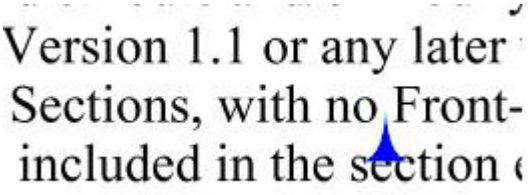
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

テキスト挿入マークアップ

テキストの挿入ツールを使用すると、ページ上の特定のポイントに、テキストをその場所に挿入する必要があることを示す注釈を付けることができます。



挿入テキストマークアップの作成

1. [テキストの挿入]ツールをクリックして、 ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + X（コマンド + Alt + X（Macの場合）
2. カーソルが十字になります。テキスト挿入注釈の目的の場所で十字線をクリックします。
3. 終了するには、マウスを放すと、選択した領域内のすべてのテキストが影響を受けます
4. 私プロパティダイアログで、注釈の色を選択し、コンテンツ領域にコメントを追加してから、[保存]ボタンをクリックします。

注釈のプロパティ

[テキストの挿入]プロパティにアクセスするには、[**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 [テキストマークアップの挿入]には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

色-テキストマークアップの色を設定できます

サイズ -挿入テキスト注釈記号のサイズを設定します

透明性 -テキストマークアップの透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるテキストマークアップにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいテキスト挿入マークアップのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

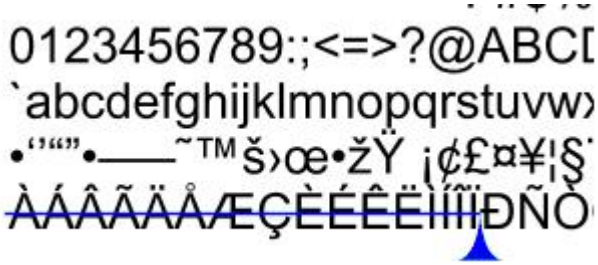
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

テキストマークアップを置き換える

テキストの置換ツールを使用すると、削除するテキストにマークを付けたり、単一の注釈を使用してテキストを別のテキストに置き換えたりすることができます。



置換テキストマークアップの作成

1. [テキストの置換]ツールをクリックして、 ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + Z（コマンド + Alt + Z（Macの場合）
2. ClmacOSを選択し、マークアップするテキストの上にマウスをドラッグします
   - 長方形のテキストを選択するには、Ctrlキー（OSXの場合はCommand）を押しながらマウスをドラッグします。カーソルがに変わります 別の選択を示すために モードがアクティブです。
3. 終了するには、マウスを放すと、選択した領域内のすべてのテキストが影響を受けます
4. 私プロパティダイアログで、注釈の色を選択し、コンテンツ領域にコメントを追加してから、[保存]ボタンをクリックします。

注釈のプロパティ

[テキストの置換]プロパティにアクセスするには、**[[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 [テキストマークアップの置換]には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

マークアップタイプ -選択したテキストのテキストマークアップのタイプを変更できます

透明性 -テキストマークアップの透明度を設定します

色-テキストマークアップの色を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるテキストマークアップにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいテキスト置換マークアップのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

形状注釈

PDF Studioには、次の形状注釈ツールがあります。

サークル： 円の注釈を作成します。

平方： 正方形の注釈を作成します。

エリアハイライト：ページ上の領域を強調表示します

ポリライン：ポリライン注釈を作成します。

ポリゴン： ポリゴン注釈を作成します。

雲：雲の注釈を作成します。

ライン： 行注釈を作成します。

矢印： 矢印注釈を作成します。

鉛筆：鉛筆の注釈を作成します。

円の注釈

円ツールを使用すると、ドキュメントに円または楕円を描くことができます。 Shiftキーを押しながら描画すると、完全な円が作成されます。配置した図形は、図形のサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグすることで変更できます。

円注釈の作成

1. をクリックしてサークルツールを起動します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + C（Command + Alt + C（Macの場合）
2. クリックしてドラッグし、シェイプを作成します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、完全な円が作成されます。*）。
    - ページをクリックするだけで簡単な形を作成することもできます

注釈のプロパティ

サークルのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Circleアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいサークル注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

正方形の注釈

正方形ツールを使用すると、ドキュメントに正方形または長方形を描画できます。 Shiftキーを押しながら描画すると、完全な正方形が作成されます。配置した図形は、図形のサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグすることで変更できます。

正方形の注釈を作成する

1. をクリックしてSquareツールを起動します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + Q（コマンド + Alt + Shift + Q（Macの場合））
2. クリックしてドラッグし、シェイプを作成します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、完全な正方形が作成されます。*）。
    - ページをクリックするだけで簡単な形を作成することもできます

注釈のプロパティ

Squareプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Squareアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいSquare注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

エリアハイライト

テキストオブジェクトのないスキャンされたドキュメントにハイライトを追加します。

> **注意**：*エリアハイライト注釈は、背景が透明で境界線がない（線幅= 0）単純な正方形の注釈です。*

エリアハイライトの作成

1. をクリックして、エリアハイライトツールを起動します。 の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + I（コマンド + Alt + Macの場合はI）
2. クリックしてドラッグし、領域を強調表示します（**注意**： *Shiftキーを押しながら描画すると、完全な正方形が作成されます。*）。

注釈のプロパティ

エリアハイライトプロパティにアクセスするには、に移動します。**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。エリアハイライトアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が今後の新しいエリアハイライトのデフォルトになります

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

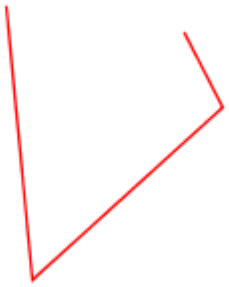
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

ポリラインアノテーション

ポリラインツールを使用すると、ドキュメント上に任意の数の辺を持つ形状とアウトラインを作成できます。ポリラインはポリゴンとまったく同じように機能しますが、端または側面を開くことができます。 Shiftキーを押しながら描画すると、水平になります。 垂直、または45度の角度の線。配置したシェイプは、シェイプの頂点にあるサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグすることで変更できます。



ポリライン注釈の作成

1. をクリックしてポリラインツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + Y（コマンド + Alt + Y（Macの場合）
2. 最初の行を開始する場所をクリックします
3. ドキュメントをクリックし続けて、必要な数の頂点を作成します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。
4. W終了したら、ダブルクリックするか、キーボードのEnterキーを押すか、右クリックしてメニューから[完了]を選択し、形状を完成させます。

注釈のプロパティ

ポリラインのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。ポリライン注釈には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

ラインスタート -行頭で使用する形状を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

改行 -行末で使用する形状を設定します

色 -境界線の色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいポリライン注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

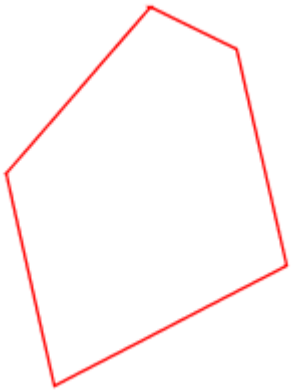
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

ポリゴン注釈

ポリゴンツールを使用すると、ドキュメント上に任意の数の辺を持つ形状とアウトラインを作成できます。 Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。配置した形状は、ドラッグすることで変更できます シェイプの頂点のサイズ変更ハンドルの。



ポリゴンアノテーションの作成

1. をクリックしてポリゴンツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上または ショートカットキーCtrl + Alt + G（コマンド + Alt + G（Macの場合）
2. 最初の行を開始する場所をクリックします
3. ドキュメントをクリックし続けて、必要な数の頂点を作成します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。
4. W終了したら、ダブルクリックするか、キーボードのEnterキーを押すか、右クリックしてメニューから[完了]を選択し、形状を完成させます。

注釈のプロパティ

ポリゴンプロパティにアクセスするには、に移動します。**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。ポリゴンアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいポリゴン注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

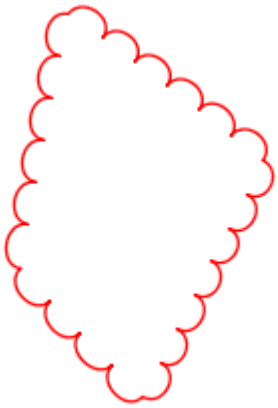
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

クラウドアノテーション

クラウドツールを使用すると、ドキュメント上に任意の数の辺を持つ形状とアウトラインを作成できます。雲は基本的に、雲の形を使用したデフォルトの線のスタイルを持つ雲です。 Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、 または45度の角度線。配置したシェイプは、シェイプの頂点にあるサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグすることで変更できます。



クラウドアノテーションの作成

1. をクリックしてクラウドツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + B（Command + Alt + B（Macの場合）
2. 最初の行を開始する場所をクリックします
3. ドキュメントをクリックし続けて、必要な数の頂点を作成します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。
4. W終了したら、ダブルクリックするか、キーボードのEnterキーを押すか、右クリックしてメニューから[完了]を選択し、形状を完成させます。

注釈のプロパティ

クラウドのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Cloudアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が今後の新しいクラウド注釈のデフォルトになります

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

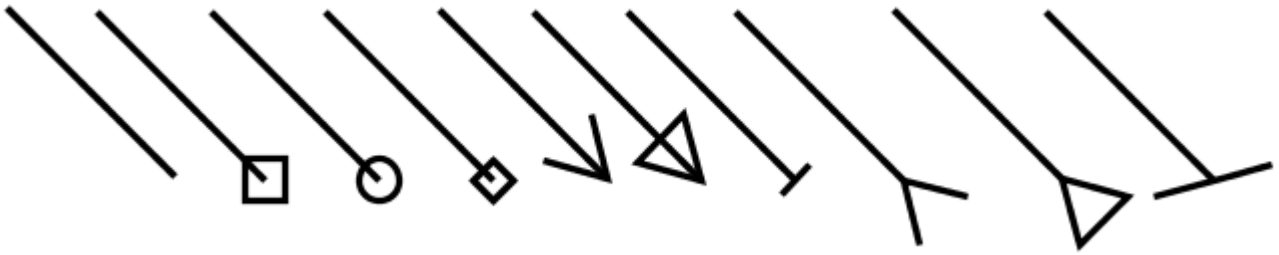
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

線の注釈

線ツールを使用すると、ドキュメントに線を引くことができます。 Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。配置した図形は、図形のサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグすることで変更できます。



行注釈の作成

1. をクリックして線ツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + L（コマンド + Alt + L（Macの場合）（Ctrl + Alt + Shift + L（Linuxの場合）
2. 行を開始する場所をクリックしてから、行を終了する場所にカーソルを移動し、もう一度クリックして行をページに配置します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。

注釈のプロパティ

Lineプロパティにアクセスするには、に移動します。**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Lineアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

ラインスタート -行頭で使用する形状を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

改行 -行末で使用する形状を設定します

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -線の端にある図形の塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が今後の新しいライン注釈のデフォルトになります

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

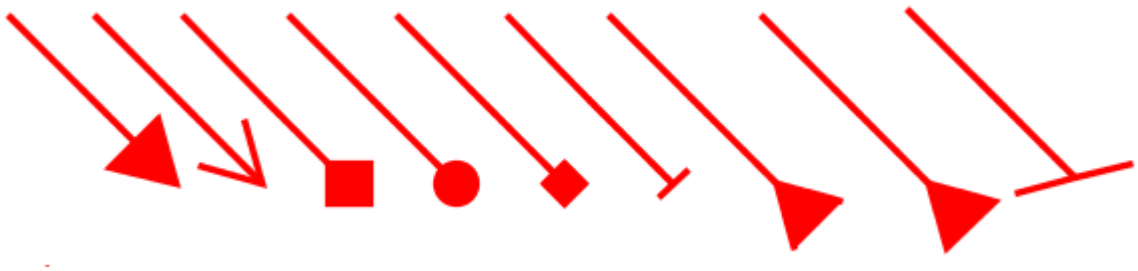
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

矢印の注釈

矢印ツールを使用すると、ドキュメントに矢印を描くことができます。矢印は基本的に、矢印の形を使用して終了するデフォルトの線です。 Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。一度配置された形状は 図形のサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグして変更します。



矢印注釈の作成

1. をクリックして矢印ツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + A（コマンド + Alt + Macの場合はA）
2. 矢印を開始する場所をクリックしてから、矢印を終了する場所にカーソルを移動し、もう一度クリックして矢印をページに配置します（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。

注釈のプロパティ

Arrowプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Arrowアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

ラインスタート -行頭で使用する形状を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

改行 -行末で使用する形状を設定します

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -線の端にある図形の塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいArrow注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

鉛筆の注釈

鉛筆ツールを使用すると、ドキュメントにフリーハンドの図形やテキストを描画できます。鉛筆の注釈は、複数のマークまたはジェスチャで構成できます。鉛筆ツールのDelayプロパティは、鉛筆の注釈が完了するまで待機する時間を指定します。 作成した鉛筆の形は、形のサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグすることでサイズを変更できます。

鉛筆注釈の作成

1. をクリックして鉛筆ツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + P（コマンド + Alt + P（Macの場合）
2. クリックしてドラッグし、フリーハンドシェイプを作成します。
3. マウスを離して行を完成させます
    - **注意：** *マウスを離してから注釈が配置されるまでに遅延があります。これは、同じ単一の注釈の一部となることができる複数の線（署名の描画など）を作成できるようにするためです。スペースキーを使用してタイマーを一時停止します。この遅延はで調整できますコメント設定 または、プロパティダイアログを使用して鉛筆のデフォルトを変更します。*

注釈のプロパティ

鉛筆のプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Pencilアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

色 -境界線の色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が今後の新しい鉛筆注釈のデフォルトになります

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

遅延設定

鉛筆ツールのDelayプロパティは、鉛筆の注釈が完了するまで待機する時間を指定します。これは、同じ単一の注釈の一部となることができる複数の線（署名の描画など）を作成できるようにするためです。

ラバースタンプ注釈

PDF Studioは、ラバースタンプ注釈をPDFドキュメントに適用できます。 PDF Studioには、いくつかの標準のラバースタンプが付属していますが、追加のテキスト、画像、およびカスタムスタンプを作成することもできます。さらに、既存のPDFドキュメントからラバースタンプを作成することもできます。

ラバースタンプ注釈：ラバースタンプ注釈の作成

回転するラバースタンプ：ラバースタンプの回転方法

ラバースタンプの管理：ラバースタンプの管理

イメージスタンプの作成：イメージスタンプの作成

テキストスタンプの作成：テキストスタンプの作成

PDFスタンプの作成：PDFドキュメントからラバースタンプを作成する

カスタムスタンプの作成：カスタムスタンプの作成

スタンプとして画像をインポートする：画像をスタンプとしてすばやくインポートする方法

ラバースタンプ注釈

ラバースタンプツールを使用すると、紙にインクスタンプを使用するのと同じように、指定したスタンプをページに配置できます。

ラバースタンプ注釈の適用

スタンプを適用する方法は2つあります。

1. から**コメントタブ** ツールバーで、下矢印をクリックします ラバースタンプに ボタンをクリックし、使用したいスタンプを選択します。次に、スタンプを適用するドキュメントをクリックします。
2. ラバースタンプを直接クリック の中に**コメントタブ**ツールバーで、目的のドキュメントをクリックします スタンプを適用します。
   - このメソッドは、ポインタを最後に使用されたスタンプ、または選択されている場合はデフォルトのスタンプに変更します。スタンプボタンの上にマウスを置くと、現在保存されているスタンプの名前がツールチップに表示されます。スタンプがない場合 が使用され、デフォルトのスタンプとしてスタンプが設定されていない場合、ツールチップに「RubberStamp」と表示され、ボタンをクリックするとスタンプのドロップダウンメニューが表示されます。スタンプの管理からスタンプを編集することにより、スタンプをデフォルトに設定できます ダイアログをクリックし、スタンプの編集ダイアログで[デフォルトとして保存]チェックボックスをオンにします。

注釈のプロパティ

ラバースタンプのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。ラバースタンプには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

透明性 -ラバースタンプの透明度を設定します

回転 -ラバースタンプの回転を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示されるラバースタンプにメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをチェックすると、選択した外観設定が今後の新しいラバースタンプのデフォルトになります

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

画像の注釈

スタンプを作成して保存しなくても、画像をスタンプとして直接インポートできます。サポートされている任意の画像形式（* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、* tiff。）を使用できます。

> **ノート：** *画像をスタンプとして直接インポートすると、画像はJPEGに変換され、そのまま挿入されます。*

画像注釈の作成

1. クリックして画像ツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上またはショートカットキーCtrl+Shift + I（コマンド + Shift + MacではI）
2. ファイルチューザーを使用して、使用する画像を選択します
3. 画像注釈を追加したいページをクリックします。

「オンザフライ」スタンプの代わりに再利用できる画像スタンプを作成するには、カスタム画像スタンプ。

注釈のプロパティ

画像スタンプのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。画像には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

透明性 -画像の透明度を設定します

回転 -画像の回転を設定できます

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される画像スタンプにメモを追加できます

ロック済み -チェックすると、注釈の次の操作が防止されます：移動またはサイズ変更、外観プロパティの編集、および注釈の削除。

全般的

著者 -作成者を編集できます

主題 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

ラバースタンプを回転させる

スタンプを回転させる方法は2つあります。

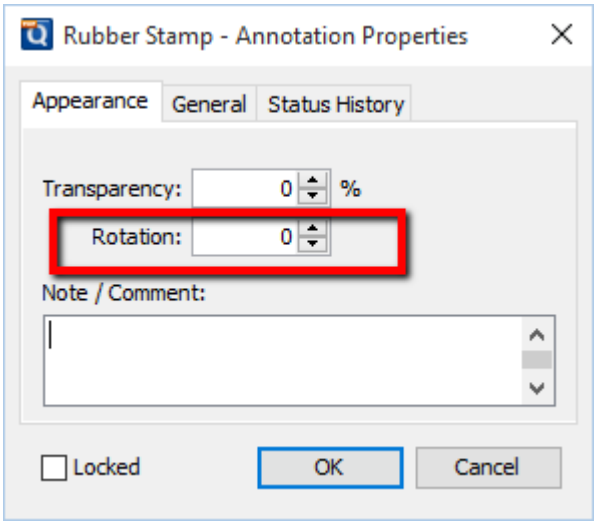
スタンプ回転ハンドルの使用

回転させたいスタンプを選択します。次に、ハンドルをクリックしてドラッグし、スタンプを回転させます。

注：Shiftキーを押しながらドラッグすると、スタンプが設定された増分で回転します。

スタンププロパティの使用

ラバースタンプのプロパティにアクセスするには、注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 次に、回転値を目的の回転に変更します



tml>

ラバースタンプの管理

ラバースタンプマネージャーを使用して、既存のラバースタンプと新しく作成されたスタンプを管理できます。

ラバースタンプマネージャーへのアクセス

ラバースタンプマネージャーには、以下の2つの方法のいずれかを使用してアクセスできます。

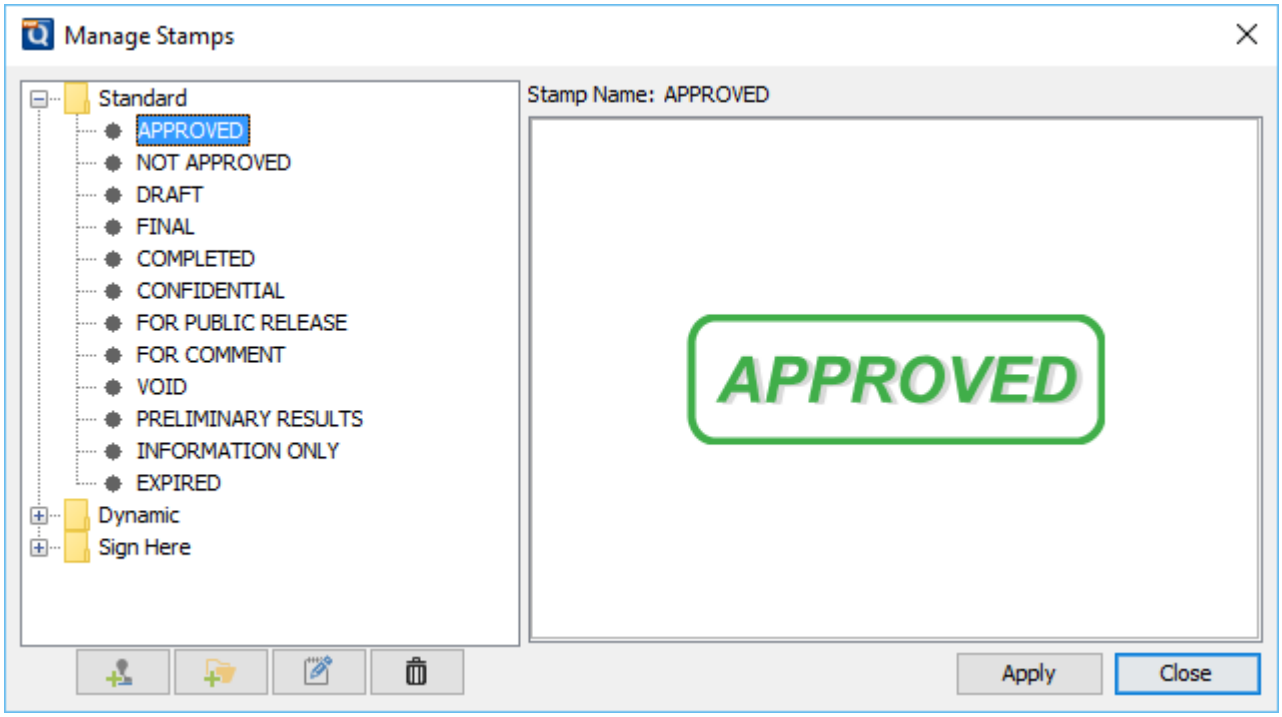
1. から**コメントタブ** ツールバーで、下矢印をクリックします ラバースタンプに ボタンをクリックし、[スタンプの管理]をクリックします。
2. をクリックします コメントタブのアイコン

スタンプマネージャーの使用

ダイアログには、既存のスタンプのツリーと、ツリーを操作するためのスタンプツールバーが表示されます。スタンプツールバーには、スタンプとフォルダを作成、削除、編集するためのボタンがあります。

ツリーには、最初は次のスタンプを含むStandardという名前のフォルダーがあります。

> 現状のまま、承認済み、機密、完了、機密、部門、ドラフト、実験的、期限切れ、最終、コメント用、公開用、情報のみ、未承認、非公開用、予備結果、販売済み、極秘、無効。



スタンプツリーは、スタンプツールバーのボタンを使用して変更できます。

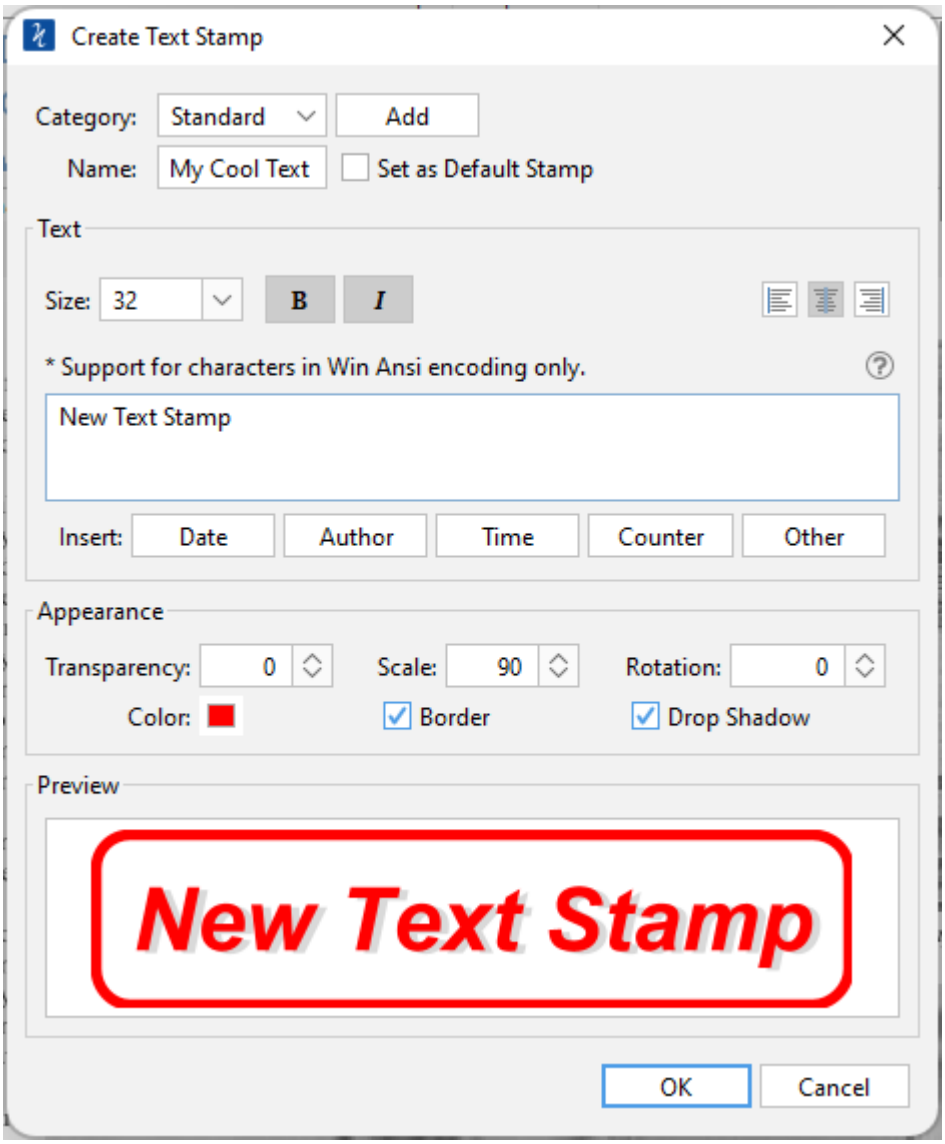
- 新しいスタンプを作成する
- ツリーに新しいフォルダを追加します。
- 現在選択されているスタンプの編集ダイアログまたは選択したフォルダの名前変更ダイアログを表示します。
- 現在選択されているノードを削除します。

テキストスタンプの作成

テキストスタンプを作成して、カスタムテキストまたはキーワードをドキュメントに適用できます。

テキストスタンプの作成方法

1. に移動します**コメントタブ>** **作成>テキストスタンプの作成** メニューから
2. 新しいスタンプのオプションを入力してください
3. 完了したら、[OK]をクリックして新しいスタンプを保存します



テキストスタンプ設定を作成する

テキストスタンプのオプションは次のとおりです。

カテゴリー -このスタンプを追加するカテゴリ。 [追加]ボタンをクリックして、新しいカテゴリを作成します

名前 –スタンプの名前。スタンプメニューに表示される名前

デフォルトスタンプとして設定 –これをチェックして、このスタンプをデフォルトのスタンプとして設定します

文章

サイズ -テキストスタンプのフォントサイズを設定します。

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

アラインメント-テキストの配置方法を選択します

- テキストを左揃えにします
- テキストを中央に揃えます
- テキストを右揃えにします

入れる -これらのオプションを使用して、コンテンツセクション内にカスタム変数を挿入します。テキストを配置する場所にカーソルを置き、挿入する変数オプションをクリックします。これらの変数は、スタンプがドキュメントに配置されるときに動的に生成されます。

- 日付-スタンプに挿入する日付形式を選択するためのダイアログを表示します
- Author-に設定された作成者名を挿入しますコメント設定
- 時間-時間変数を挿入します
- その他-サポートされているその他の変数のリストを表示します
  - $ page –ページ番号
  - $ author –に設定された作成者名を挿入しますコメント設定
  - $pagelabel-このページのブックマーク
  - $bookmark-このページのラベル
  - $ totalpages –ドキュメントのページ数
  - $ filename –ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
  - $ filepath –ドキュメントを開いた元の完全なファイルパス
  - $ date –2007年11月28日にフォーマットされた現在の日付
  - $ shortdate –現在の日付は2007年11月28日としてフォーマットされています
  - $ time –現在の時刻
  - $ day –その月の現在の日
  - $ month –2桁を使用した現在の月

- $ year –現在の年。4桁の数字を使用
- $ shortyear –現在の年。2桁の数字を使用
- $ second –現在の秒
- $ minutes –現在の分
- $ hour –現在の時間、1〜12
- $ ampm –午前または午後
- $ longhour –現在の時間、0〜23
- $ env（VAR_NAME）-任意のOS環境ラベル。「VAR_NAME」を、オペレーティングシステムから使用する変数に置き換えます。

外観

透明性 –スタンプの透明度

規模 –テキストスタンプ全体の縮尺を変更する

回転 -テキストスタンプを回転させる角度

色 –スタンプの色

国境 -テキストスタンプに境界線を追加します

影を落とす -スタンプのテキストのみの後ろに小さな影を追加します

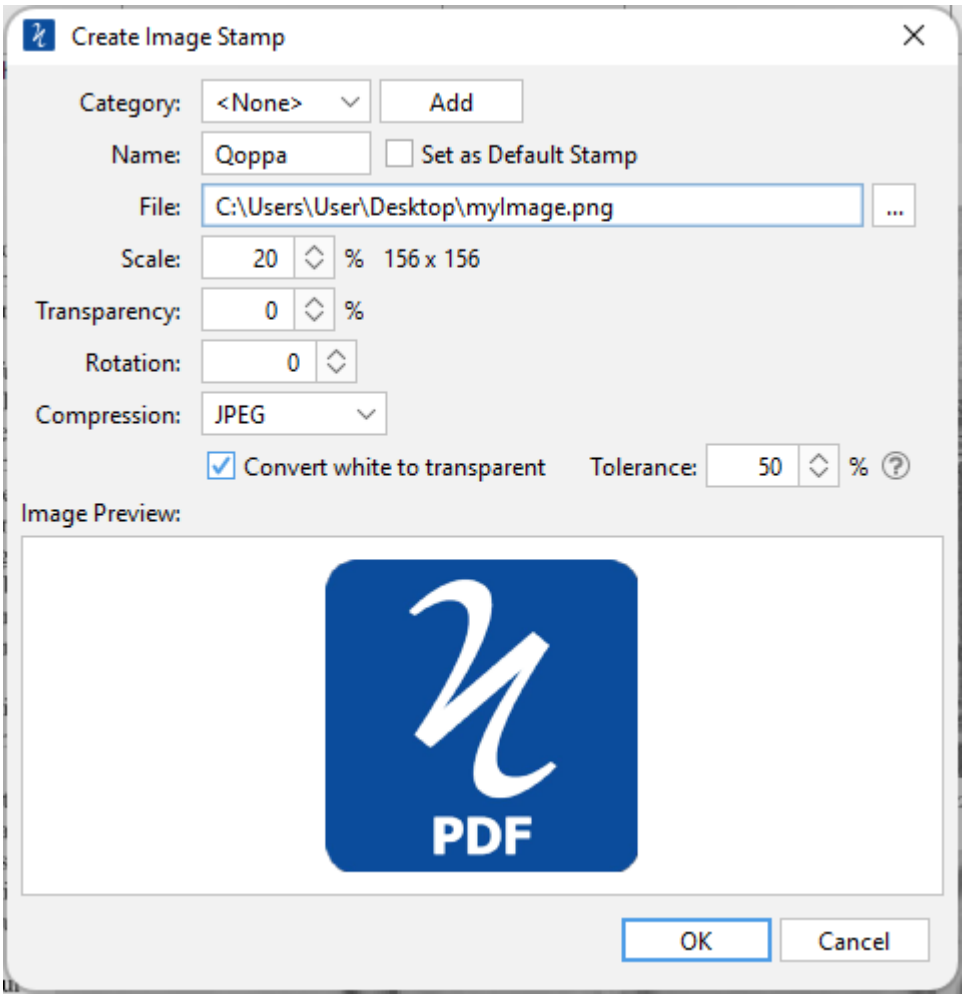
手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

イメージスタンプの作成

画像スタンプは、サポートされている任意の画像（* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、* tiff。）形式から作成して、任意のドキュメントにスタンプとして適用できます。

イメージスタンプの作成方法

1. **[コメント]タブに移動します>** **作成>テキストスタンプの作成** メニューから
2. 新しいスタンプのオプションを入力してください
3. 完了したら、[OK]をクリックして新しいスタンプを保存します



画像スタンプ設定を作成する

イメージスタンプのオプションは次のとおりです。

カテゴリー -このスタンプを追加するカテゴリ。

名前 –スタンプの名前。スタンプメニューに表示される名前。

デフォルトスタンプとして設定 –これをチェックして、このスタンプをデフォルトのスタンプとして設定します

ファイル –スタンプで使用される画像ファイルへのフルパス。 「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、使用する画像に移動します。

透明性 –スタンプの透明度

規模 –元の画像をスタンプのサイズに変更します

回転 -画像を回転させる角度

圧縮- 画像スタンプを作成するときに使用する画像圧縮。 PDF互換の画像圧縮のみを選択できます。

- JPEG：画質とサイズを低下させる不可逆圧縮
- JPEG2000：サイズと品質を低下させる非可逆圧縮
- FLATE：ロスレス圧縮は品質を低下させません
- JBIG2：黒と白の色のみをサポートできるロスレス圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。

白を透明に変換 -チェックすると、白い背景が透明に変わります。

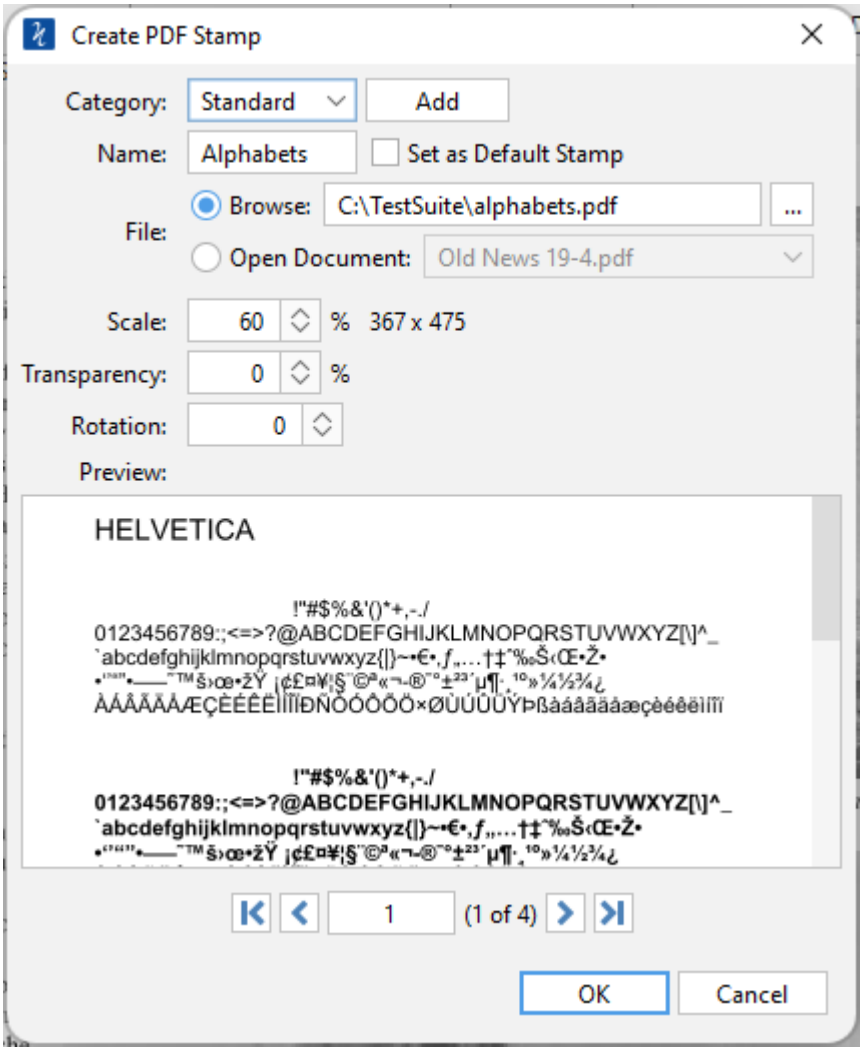
許容範囲-このオプションは、画像から白い背景を削除します。許容差は、透明に変換される「白」と見なされる色の範囲に影響します。許容値が高いほど、より多くのピクセルが変換されます。手描きの署名には、太字の太いペンを使用することをお勧めします。

PDFスタンプの作成

PDFスタンプは、任意のPDFドキュメントから作成できます。スタンプの作成に使用できるのは、PDFの1ページのみです。 PDFを選択した後、プレビューを使用して、使用するページを選択できます。選択すると、そのページのみがPDFStudio内に保存されます。

PDFスタンプの作成方法

1. **[コメント]タブに移動します>** **作成>PDFスタンプの作成** メニューから
2. 新しいスタンプのオプションを入力してください
3. 完了したら、[OK]をクリックして新しいスタンプを保存します



PDFスタンプ設定を作成する

PDFスタンプのオプションは次のとおりです。

カテゴリー -このスタンプを追加するカテゴリ。

名前 –スタンプの名前。スタンプメニューに表示される名前。

デフォルトスタンプとして設定 –これをチェックして、このスタンプをデフォルトのスタンプとして設定します

ファイル –スタンプに使用するPDFドキュメント

- 参照：スタンプで使用されるPDFファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、使用するPDFに移動します。
- ドキュメントを開く：現在開いているドキュメントの1つから選択して、スタンプに使用します

規模 –元のPDFをスタンプのサイズに変更します

透明性 –スタンプの透明度

回転 -テキストを回転させる角度

ページの選択 -矢印ボタンを使用して、使用するページに移動します

先頭ページ： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

ページ番号： 現在表示されているページと総ページ数を表示します。フィールドに数字を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。

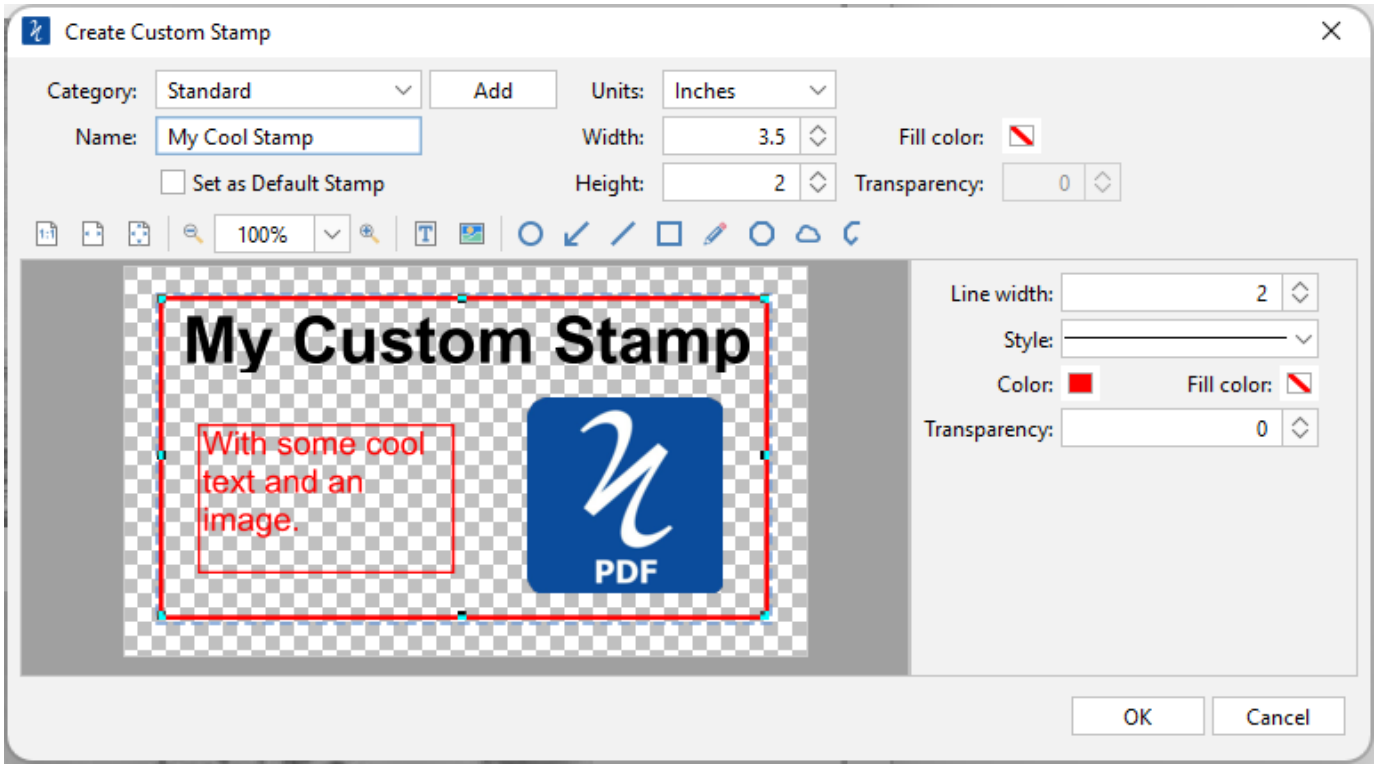
次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

カスタムスタンプの作成

カスタムスタンプは、画像、図形、カスタムテキストまたはキーワードの組み合わせから作成でき、ドキュメントに単一のスタンプとして適用できます。

1. **[コメント]タブに移動します>** **作成>カスタムスタンプの作成** メニューから
2. 新しいスタンプのオプションを入力してください
3. プレビューパネルの右上にあるツールを使用して、カスタムスタンプを作成します
4. 完了したら、[OK]をクリックして新しいスタンプを保存します



カスタムスタンプ設定を作成する

カスタムスタンプのオプションは次のとおりです。

カテゴリー -このスタンプを追加するカテゴリ。 [追加]ボタンをクリックして、新しいカテゴリを作成します

名前 -スタンプの名前。スタンプメニューに表示される名前

デフォルトのスタンプとして設定 -これをチェックして、このスタンプをデフォルトのスタンプとして設定します

単位-カスタムスタンプのサイズの単位を入力します

幅 -選択した単位でのスタンプの幅

高さ-選択した単位でのスタンプの高さ

塗りつぶしの色 -カスタムスタンプの背景の色を選択します。

透明性 -スタンプの塗りつぶし色の透明度の値を入力します。

カスタムスタンプ描画ツール

カスタムスタンプを作成するときに使用できるツールは次のとおりです。ツールは、カスタムスタンプにのみ適用されることを除いて、PDFドキュメントで通常使用されるように機能します。

実際のサイズ： 拡大縮小せずに印刷した場合のドキュメントの外観に一致するように、スタンプを1：1の比率で表示します。

幅に合わせる： プレビューウィンドウのスタンプの幅に合わせてビューを拡大縮小します。

ページに合わせる： プレビューウィンドウ内のスタンプ全体に合うようにビューを拡大縮小します。

ズームアウトする： ズームアウトして、スタンプの内容を小さく表示します。

ズーム先/現在のズーム： 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインすると、スタンプの内容が大きく表示されます。

テキストボックス： テキストボックスの注釈を作成します。これを使用して、カスタムスタンプにテキストを追加します

画像： スタンプに画像を追加します。

サークル： 円を作成します。

矢印： 矢印を作成します。

ライン： 線を作成します。

平方： 正方形を作成します。

鉛筆：鉛筆を作成します。

ポリゴン：ポリゴンを作成します。

雲：クラウドを作成します。

ポリライン：ポリラインを作成します。

スタンプとして画像をインポートする

スタンプを作成して保存しなくても、画像をスタンプとして直接インポートできます。サポートされている画像形式（* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、* tiff。）のいずれかを使用できます。

> **注意：** *画像をスタンプとして直接インポートすると、画像はJPEGに変換され、そのまま挿入されます。*

行き方

1. をクリックして画像ツールを選択します ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Shift + I（コマンド + Shift + Macの場合はI）

画像スタンプがページに適用されると、次のことが可能になります。平らにする そのため、画像はPDFドキュメントの上に注釈を付けるのではなく、PDFドキュメント自体のコンテンツに直接ペイントされます。

「オンザフライ」スタンプの代わりに再利用できる画像スタンプを作成するには、カスタム画像スタンプ。

測定注釈

PDF Studioは、PDF内の距離、周囲長、および面積を測定するための測定注釈を作成できます。

 距離注釈：距離測定を作成します

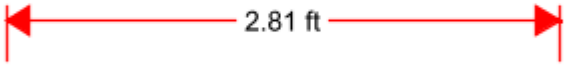
周囲の注釈：周囲長を作成します

エリア注釈：面積測定を作成します

測定注釈の校正：測定値の校正方法

距離注釈

距離測定注釈は、単一の線形測定の長さを計算するために使用されます。配置された測定値は、測定値の頂点のいずれかをドラッグすることで変更でき、値も更新されます。



距離測定の作成

1. をクリックして距離ツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl+Alt + M（コマンド + Alt + M（Macの場合）
2. 測定ダイアログが表示され、スケールと精度を設定できます（およびキャリブレーション 必要に応じて）注釈を描画する前の測定用。
3. 測定を開始する場所をクリックしてから、測定を終了する場所にカーソルを移動し、もう一度クリックしてページに測定を配置します（***ノート：** Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。

測定オプション

測定を作成する前に、次のオプションを設定できます。

規模

スケールと精度を設定するオプション（およびキャリブレーション 必要に応じて）注釈を描画する前の測定用。デフォルトでは、水平スケールと垂直スケールは同じになります。

[個別の垂直スケール]オプションをオンにして、測定に別の垂直スケールを指定します。

他の

コンテンツにスナップ -測定の各ポイントは、クリックされると自動的に最も近いコンテンツアイテムにスナップしようとします

測定値を表示する -測定ラインの測定ラベルを表示/非表示にします

常に使用される固定角度（Shiftキー） -すべての測定で、水平、垂直、または45度の角度の線のみを作成します

注釈のプロパティ

距離プロパティにアクセスするには、に移動します**[プロパティ]タブ** ツールバーで、または注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューで[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします にミニツールバー。距離測定には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -線の幅を設定します

ラインスタート -行頭で使用する形状を設定します

スタイル -線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）

ラインエンド -行末で使用する形状を設定します

色 -線の色を設定します

塗りつぶしの色 -行末の図形の塗りつぶし色を設定します

透明性 -測定の透明度を設定します

長さ -測定注釈の現在の長さ。特定の値を設定する必要がある場合は手動で編集でき、それに応じてページの注釈を調整します。

注/コメント -必要に応じて測定値にコメントを追加できるコメントフィールド

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しい距離注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の次の操作が防止されます：移動またはサイズ変更、外観プロパティの編集、および注釈の削除。

全般的

著者 -作成者を編集できます

主題 -件名を編集できます

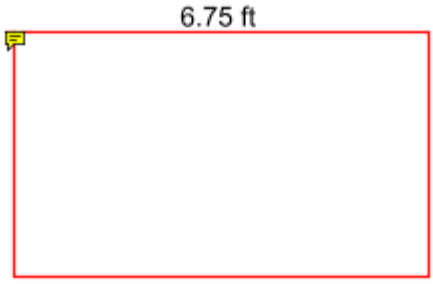
層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

周囲の注釈

周長測定注釈は、形状または複数セグメントの線のすべての辺の長さを計算するために使用されます。配置された測定値は、測定値の頂点のいずれかをドラッグすることで変更でき、値も更新されます。



周長測定の作成

1. をクリックして境界ツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上またはショートカットキーCtrl+Alt + R（コマンド + Alt + R（Macの場合）
2. 測定ダイアログが表示され、スケールと精度を設定できます（およびキャリブレーション 必要に応じて）注釈を描画する前の測定用。
3. 最初の行を開始する場所をクリックします
4. ドキュメントをクリックし続けて、必要な数の頂点を作成します（**ノート：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。
5. W終了したら、ダブルクリックしてキーボードのEnterキーを押すか、右クリックしてメニューから[完了]を選択し、測定形状を完成させます。

測定オプション

測定を作成する前に、次のオプションを設定できます。

規模

スケールと精度を設定するオプション（およびキャリブレーション 必要に応じて）注釈を描画する前の測定用。デフォルトでは、水平スケールと垂直スケールは同じになります。

[個別の垂直スケール]オプションをオンにして、測定に別の垂直スケールを指定します。

他の

コンテンツにスナップ -測定の各ポイントは、クリックされると自動的に最も近いコンテンツアイテムにスナップしようとします

測定値を表示する -測定ラインの測定ラベルを表示/非表示にします

常に使用される固定角度（Shiftキー） -すべての測定で、水平、垂直、または45度の角度の線のみを作成するように強制します

注釈のプロパティ

境界プロパティにアクセスするには、に移動します。**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。周長測定には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -線の幅を設定します

スタイル -線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）

色 -線の色を設定します

透明性 -測定の透明度を設定します

注/コメント-2つのフィールドが含まれます。 1つ目は、必要に応じて測定値にコメントを追加できるコメントフィールドです。 2つ目は測定値であり、編集できません。

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しい境界アノテーションのデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の次の操作が防止されます：移動またはサイズ変更、外観プロパティの編集、および注釈の削除。

全般的

著者 -作成者を編集できます

主題 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

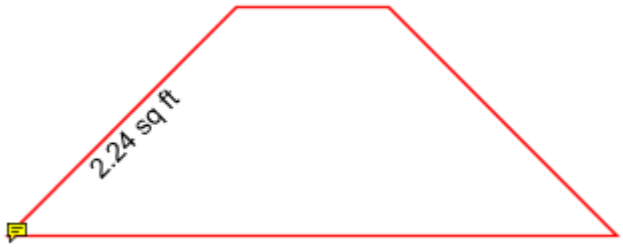
ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

エリア注釈

Area Measurement Annotationは、特定の形状の面積を計算するために使用されます。配置された測定値は、測定値の頂点のいずれかをドラッグすることで変更でき、値も更新されます。



面積測定の作成

1. をクリックしてエリアツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl+Alt + E（コマンド +Macの場合はAlt+E）
2. 測定ダイアログが表示され、スケールと精度を設定できます（およびキャリブレーション 必要に応じて）注釈を描画する前の測定用。
3. 最初の行を開始する場所をクリックします
4. ドキュメントをクリックし続けて、必要な数の頂点を作成します（**ノート：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。
5. W終了したら、ダブルクリックしてキーボードのEnterキーを押すか、右クリックしてメニューから[完了]を選択し、測定形状を完成させます。

測定オプション

測定を作成する前に、次のオプションを設定できます。

規模

スケールと精度を設定するオプション（およびキャリブレーション 必要に応じて）注釈を描画する前の測定用。デフォルトでは、水平スケールと垂直スケールは同じになります。

[個別の垂直スケール]オプションをオンにして、測定に別の垂直スケールを指定します。

他の

コンテンツにスナップ -測定の各ポイントは、クリックされると自動的に最も近いコンテンツアイテムにスナップしようとします

測定値を表示する -測定ラインの測定ラベルを表示/非表示にします

常に使用される固定角度（Shiftキー） -すべての測定で、水平、垂直、または45度の角度の線のみを作成します

注釈のプロパティ

エリアプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。面積測定には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

線幅 -線の幅を設定します

スタイル -線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）

色 -線の色を設定します

透明性 -測定の透明度を設定します

塗りつぶしの色 -領域注釈の塗りつぶし色を設定します

注/コメント -2つのフィールドが含まれます。 1つ目は、必要に応じて測定値にコメントを追加できるコメントフィールドです。 2つ目は測定値であり、編集できません。

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しいエリア注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の次の操作が防止されます：移動またはサイズ変更、外観プロパティの編集、および注釈の削除。

全般的

著者 -作成者を編集できます

主題 -件名を編集できます

層 -ドキュメントにレイヤーが含まれている場合にのみ使用できます。注釈が属するレイヤーを設定します。詳細については、を参照してください。レイヤーへのコメントの割り当て

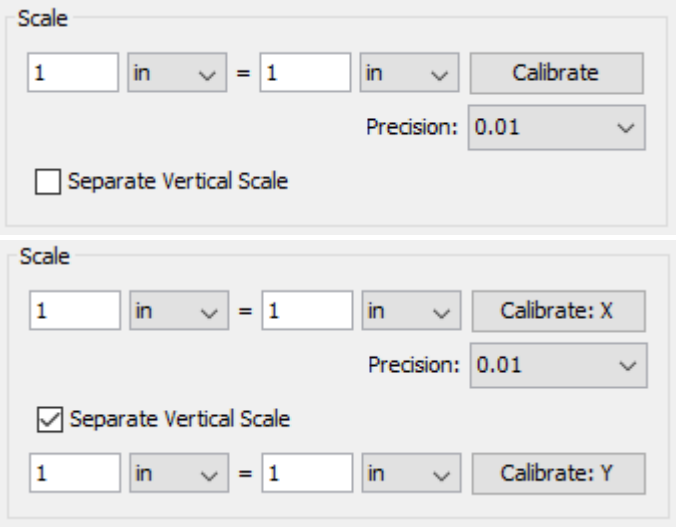
ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

測定注釈のキャリブレーション

測定値は、ページに配置する前に調整できます。これは、スケールがわかっている場合は手動で行うことも、キャリブレーションツールを使用して自動的に行うこともできます。必要に応じて、X軸とY軸の両方に個別のスケールを設定できます。これにより、PDFで決定されたスケールに基づいて正確な測定を行うことができます。



測定値を校正する方法

手動キャリブレーション

測定スケールを手動で設定する

1. 測定注釈ツール（距離、周長、または面積）を開始します
2. ダイアログで、表示されたフィールドを使用してスケールと単位を入力します。
3. 完了したら、通常どおりに選択したツールを使用して測定を続行できます。

キャリブレーションツール

ページ上の既存の測定値から直接スケールを設定します。

1. 測定注釈ツールを起動します（距離、周囲、 また領域）。
2. [調整]ボタンをクリックします。
3. 測定値を校正する方法を説明するダイアログが表示されます。「測定ツールを校正するために2つのポイントを選択してください」、[OK]をクリックします。
4. ドキュメントで既知の長さを見つけます（たとえば、建築図面の縮尺や以前に測定されたセグメント）
5. 既知のスケールの始点をクリックしてから、既知のスケールの終点をクリックしてラインを終了します。（（**ノート：** *Shiftキーを押しながら描画すると、水平、垂直、または45度の角度の線が作成されます。*）。
6. 線が表す2点間の距離と単位を入力します。
7. [OK]をクリックして、このスケールを測定ダイアログに適用します。

8. 完了したら、通常どおりに選択したツールを使用して測定を続行できます。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

メディアおよびその他の注釈

リンク：アクションを持つことができるリンク

音：クリックすると再生できる埋め込みオーディオファイル

ファイルを添付する：PDF内にファイルを添付します

コメントとしてファイルを添付：PDF内にファイルを添付し、クリックしてファイルを表示できるアイコンを表示します

ハイパーリンク

リンクツールを使用して、PDF内のリンクを作成および編集します。リンクは自動的に生成および削除することもできます。

リンクの作成：リンクの作成方法

カスタムリンクアクション：リンクを作成するときに使用できるアクション

リンクの自動作成：自動作成リンクツールの使用

すべてのリンクを削除する：ドキュメントからすべてのリンクを削除する

リンクの作成

リンクツールを使用すると、Webページ、PDFドキュメント内のページにリンクしたり、カスタムアクションを実行したりできるPDF内の領域を指定できます。

リンクを作成する方法

1. をクリックしてリンクツールを選択します の中に**[ページ]タブ**ツールバー上 または ショートカットキーCtrl+Alt + K（コマンド + Alt + K（Macの場合）
2. リンクを作成する領域をクリックしてドラッグします（**ノート：** *Shiftキーを押しながら描画すると、完全な正方形が作成されます。*）。
    - 目的のテキスト領域を選択して、選択したテキストを右クリックし（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、コンテキストメニューで[リンクの作成]を選択することもできます。
3. リンク注釈が追加されると、[リンクのプロパティ]ダイアログが表示されます。
4. リンクのオプションを設定します。
    - **外観**
        - 境界線の幅 -境界線の幅を設定します
        - ボーダの色 -境界線の色を設定します
    - **アクション**
        - Webリンクを開きます。テスト有効なリンクの山：
            - http://www.qoppa.com
            - ftp://ftp.site.com
            - file：c：\ qoppa \ temp.txt
            - mailto：johndoe@gmail.com
        - このドキュメントのページに移動します
            - ページ
                - 番号-リンク先のドキュメントのページ番号
                - ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
                - パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
                - 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます
            - 宛先-名前付きから選択行き先 すでにPDF内に設定されています
        - 別のドキュメントのページに移動する
            - 新しいウィンドウ-PDFアプリケーションの完全に新しいウィンドウでドキュメントを開きます
            - 既存のウィンドウ-現在開いているドキュメントを置き換えて、PDFアプリケーションの現在のウィンドウでドキュメントを開きます
            - ページ番号-他のドキュメントを開くときに表示されるページ番号
            - ドキュメント-開くファイルへのフルパス。 「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。
            - 宛先-名前付きから選択行き先 すでにPDF内に設定されています
        - カスタムリンク -カスタムを追加できますリンクアクション 利用可能なアクションのリストから。
5. 完了したら、[OK]をクリックしてリンクを作成します

リンクのプロパティ

リンクプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。リンクには、次のプロパティ設定が含まれています。

ロック済み -チェックすると、注釈の次の操作が防止されます：移動またはサイズ変更、外観プロパティの編集、および注釈の削除。

外観

境界線の幅 -境界線の幅を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

スタイル -リンクの境界線スタイルを設定します

- 実線：実線を作成します
- 破線：破線を作成します
- 下線付き：収益のみを作成します

アクション

アクションパネルには、リンクに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますリンクアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

カスタムリンクアクション

PDFドキュメントにリンクを追加する場合、標準のリンクオプションの代わりにカスタムアクションを作成できます。以下は、各カスタムアクションとその設定のリストです。

このドキュメントのページに移動します

現在のドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
- パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
- 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます

別のドキュメントのページに移動する

別の指定されたドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ドキュメント-開くドキュメントへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

フィールドの表示/非表示

ドキュメント内の選択したフィールドを表示または非表示にするリンクを設定します

- 表示-クリックすると、選択したフィールドが表示されます
- 非表示-クリックすると、選択したフィールドが非表示になります
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

ファイルを開く

特定のファイルを開くためのリンクを設定します。

- ファイル-開くファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別の*

ユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。

Webリンクを開く

特定のWebページを開いたり、電子メールを開始したりするためのリンクを設定します。試験有効なリンクの山：

- http://www.qoppa.com
- ftp://ftp.site.com
- file：c：\ qoppa \ temp.txt
- mailto：johndoe@gmail.com

フォームフィールドのリセット

ドキュメント内の選択したフィールドをリセットするためのリンクを設定します

- すべてのフィールド-チェックすると、ドキュメント内のすべてのフィールドがリセットされます
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

JavaScriptアクション

カスタムを実行するためのリンクを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。

フォームを送信

フォームフィールドの値を4つの形式のいずれかで指定された場所に送信するためのリンクを設定します。これを使用すると、ユーザーがフォームに入力すると、フォームまたは値を自動的に送り返すことができます。

- URL-選択したファイルの送信先。試験有効なリンクの山：
    - http://www.qoppa.com
    - ftp://ftp.site.com
    - file：c：\ qoppa \ temp.txt
    - mailto：johndoe@gmail.com
- FDF-選択したフィールド値を含むFDFファイルを送信します
- XFDF-選択したフィールド値を含むXFDFファイルを送信します
- PDF-PDF全体のコピーを送信します
- HTML-選択したフィールド値を含むHTMLファイルを送信します
- フィールド-フィールド値を送信するときのオプションを設定します
    - すべてのフィールド-値に関係なくすべてのフィールドを送信します
    - 含める-ファイルを送信するときに、選択したフィールドがリストに含まれます
    - 除外-ファイルを送信するときに、リスト内の選択されたフィールドを除外します

- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します
- 空のフィールドを送信-チェックすると、フィールドが空の場合でも、選択したフィールドの値が送信されます

レイヤーの表示/非表示

ドキュメント内の選択したレイヤーを表示または非表示にするリンクを設定します

- 現在の可視性を使用-レイヤーを現在表示されているとおりに表示するアクションを設定して、後でレイヤーをオフにした場合に現在の状態に戻るようにします。
- その他-ブローオプションを使用してレイヤーに新しいアクションを設定します
  - 表示-選択したレイヤーをリストに表示します
  - 非表示-リストで選択したレイヤーを非表示にします
  - トグル-レイヤーの現在の状態に応じて、選択したレイヤーの状態を非表示から表示、または表示から非表示に切り替えます
  - レイヤーリスト-選択するドキュメント内のレイヤーのリストを表示します。複数のレイヤーを選択するには、Ctrl +クリックして個別のレイヤーを選択するか、Shift +クリックしてレイヤーのグループを選択します

名前付きアクション

以下にリストされている標準の事前定義されたアクションの1つを実行するようにリンクを設定します。

- NextPage-ドキュメントの次のページに移動します
- PrevPage-ドキュメントの前のページに移動します
- FirstPage-ドキュメントの最初のページに移動します
- LastPage-ドキュメントの最後のページに移動します
- 印刷-現在のドキュメントを印刷するための印刷ダイアログを開始します
- 保存-現在のドキュメントを保存します
- 開く-ファイルを開くダイアログを表示します

リンクの自動作成

PDF Studio内のリンクの自動作成ツールを使用すると、ドキュメント全体を検索して、ユーザーが設定した定義済みの基準のリンクを自動的に作成できます。定義された設定を使用してテキストが見つかると、リンクが自動的にに適用されます。 各テキストの場所にあるドキュメント。

注意： *リンクの自動作成ツールを機能させるには、PDFに検索可能なテキストが含まれている必要があります*

リンクの自動作成

検索する

1. 選択する**コメントタブ>リンク>リンクの自動作成**。
2. 以下の設定を使用して、ドキュメントで検索するタイプまたは特定のテキストの検索オプションを設定します
    - Webリンク-「http：//」または「www」を含むテキスト文字列を検索します。
    - メールリンク-標準の「... @ ...」形式に一致するメールを検索します
    - 検索-ユーザーが定義した特定のテキストを検索します
        - 大文字と小文字を区別-チェックすると、大文字と小文字が完全に一致する特定のテキストのみが検索されます（つまり、大文字の「A」を検索すると、小文字の「a」は無視されます）
        - URL-テキストで検索するときにリンクとして設定するWebアドレスを定義します
3. [検索]をクリックして、選択した「検索」オプションに応じて表示されるテキストをドキュメントで検索します。設定された検索オプションに基づいて見つかった一致するテキストは、次の表に表示されます。
4. リンクを追加するテキストの[作成]列のチェックボックスをオンにします。
5. 作成するリンクは、表の「リンク」列に表示されます。この値は、編集するリンクをダブルクリックして編集できます。編集が終了したら、他の場所をクリックして編集を終了します。
    - 試験有効なリンクの山：
        - http://www.qoppa.com
        - ftp://ftp.site.com
        - file：c：\ qoppa \ temp.txt
        - mailto：johndoe@gmail.com
6. 選択したテキストに対して作成されるリンクのオプションを設定します
    - 境界線の幅 -境界線の幅を設定します
    - ボーダの色 -境界線の色を設定します
    - テキストの色-これにより、見つかったテキストの色が変更されます。テキストがリンクになったことを他の人に知らせたい場合に便利です。
7. [作成]ボタンをクリックして、ドキュメントにリンクを作成します

リンクを作成すると、通常どおり機能しますリンク注釈 通常どおり編集できます。

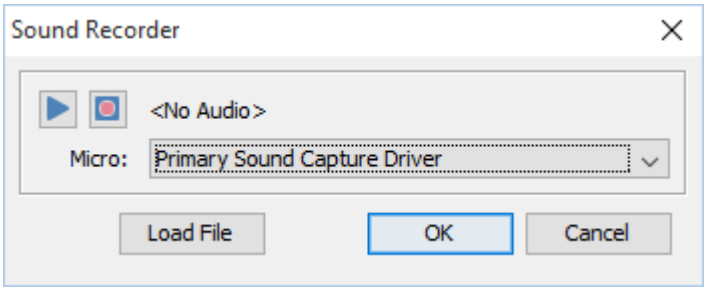
手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

すべてのリンクを削除する

ドキュメントからすべてのリンクを自動的に削除するには、**コメントタブ>リンク>すべてのリンクを削除**。削除が確認されると、ドキュメント内のすべてのリンクが削除されます。

サウンドアノテーション

サウンド注釈ツールを使用すると、既存のファイル（.au、.aiff、または.wavサウンドファイル）またはマイク録音のいずれかからページにサウンド注釈を追加できます。



サウンドアノテーションの作成

1. をクリックしてサウンドツールを選択します の中に**コメントタブ**ツールバー上 または ショートカットキーCtrl + Alt + S（Command + Alt + S（Macの場合）（Ctrl + Alt + Shift + S（Linuxの場合）
   - **注意：** *マルチメディア注釈ツールがグループ化されている場合は、下矢印をクリックする必要がある場合があります 現在アクティブなマルチメディアツールの右側にあり、必要なツールを選択します。*
2. サウンド注釈を追加するページをクリックします。配置すると、マイクの録音ツールを示す[サウンドのプロパティ]ダイアログが表示されます。
   - または、[ファイルの読み込み]をクリックして既存のファイルを添付し、添付するファイルを参照することもできます。（.au、.aiff、または.wavファイルのみがサポートされています）
3. マイクを選択して、 録音を開始するボタンと 止まる 録音。録音を聞くには、をクリックします ボタン
4. 終了したら、[OK]をクリックして、サウンド注釈を保存および作成します

注釈のプロパティ

サウンド注釈のプロパティにアクセスしたり、オーディオを聞くには、サウンド注釈をダブルクリックし、注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してマウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 Soundアノテーションには、次のプロパティ設定が含まれています。

アイコンの色-音声注釈アイコンの色

サウンドプロパティ-添付されたオーディオファイルまたは録音のプロパティ

-添付されたオーディオファイルを再生できます

-オーディオの再生を停止します

添付ファイルの注釈

PDF Studioを使用すると、添付ファイルまたはコメントとしてファイルをPDFに添付できます。添付ファイルは、PDF Studioで開いたり、保存したり、削除したりすることもできます。

ファイルの添付：PDFにファイルを埋め込む方法

コメントとしてファイルを添付する：コメント付きのファイルを埋め込む

添付ファイルを開く：PDFから添付ファイルを開く

添付ファイルの保存：PDFから添付ファイルを保存する

添付ファイルの削除：PDFから添付ファイルを削除する

ファイルの添付

ファイルはPDFドキュメントに直接添付できます。ファイルがPDFドキュメントに直接添付されている場合、それらはPDFファイル内に直接埋め込まれているため、PDFが別のユーザーに送信されても、ファイルにアクセスできます。ファイルが添付されると、PDFStudioウィンドウの左側にある添付ファイルペインにファイルが表示されます。

> **ノート：** *ファイルを添付すると、PDFのサイズが大きくなります。サイズが気になる場合は、リンク 代わりに、別の場所からファイルを開きます。*

添付ファイルツールの使用

1. をクリックして、ファイルの添付ツールを選択します。 の中に**コメントタブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl+Shift + F（コマンド +MacではShift+F）
2. ファイル選択ダイアログが表示され、添付するファイルをナビゲートして選択できます。
3. 完了したら、[開く]をクリックしてファイルを添付します

> **ノート：** *ファイルを[添付ファイル]タブにドラッグアンドドロップして、埋め込みファイルとして添付することもできます。*

貼り付けショートカットキーの使用

PDF Studioフレームをアクティブにして[貼り付け]ショートカットキーを使用するだけで、現在OSのクリップボードにあるファイルまたはドキュメントをドキュメントに添付することもできます。

貼り付けたファイルの添付ファイルは、添付ファイルペインで表示できます。

コメントとしてファイルを添付する

コメントとしてファイルを添付すると、ファイルが添付されたことをユーザーに知らせるアイコンがページに追加されます。コメントとして添付されたファイルは、コメントなしでファイルを添付した場合と同じように、PDF内に埋め込まれます。ファイルがPDFドキュメントに直接添付されている場合、それらはPDFファイル内に直接埋め込まれているため、PDFが別のユーザーに送信されても、ファイルにアクセスできます。

> *ノート：コメントとしてファイルを添付すると、PDFのサイズが大きくなります。サイズが気になる場合は、リンク 代わりに、別の場所からファイルを開きます。*

コメントとしてファイルを添付する方法

1. に移動して、ファイルの添付ツールを選択します**コメントタブ>** **ファイルを添付>** **コメントとしてファイルを添付**ツールバー上
2. ファイルコメントを追加したいページをクリックします。
3. 配置すると、ファイルチューザーダイアログが表示され、添付するファイルをナビゲートして選択できます。ファイルを選択したら、[開く]をクリックします。
4. [ファイルの添付ファイルのプロパティ]ダイアログが表示されます。コメントのオプションを設定し、[OK]をクリックしてメモをページに配置します
   - **アイコン** -ファイルコメントに使用するアイコンを設定します
   - **透明性** -ファイルコメントアイコンの透明度を設定します

右クリックのコンテキストメニューの使用

OSのクリップボードに現在あるファイルまたはドキュメントは、右クリックのコンテキストメニューを使用するだけでドキュメントに添付することもできます。

1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール ファイルコメントを追加するページを右クリック（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）します
2. を選択 **コメントとしてファイルを貼り付け**添付ファイルのコメント注釈を作成するオプション

ファイルコメントのプロパティ

ファイルコメントのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編

集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。ファイルコメントには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

アイコン -ファイルコメントに使用するアイコンを設定します

透明性 -ファイルコメントアイコンの透明度を設定します

ファイル -このファイルコメントアイコンに関連付けられているファイル名を表示します

添付ファイルを開く

PDFに添付されたファイルは簡単に開くことができます。ファイルの添付方法に応じて、以下の2つの方法のいずれかを使用してファイルを開きます。

> **注意：** *PDF Studioは、ファイルをオペレーティングシステムに送信して開くだけです。オペレーティングシステムがファイルの種類を認識しない場合、またはファイルを開くための適切なアプリケーションがない場合、何も起こりません。*

埋め込みファイル

- ファイルが埋め込みファイルとして添付されている場合は、添付ファイルの一覧が表示されている[添付ファイル]タブに移動し、添付ファイルをダブルクリックします。添付ファイルを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[ファイルを開く]を選択することもできます。

コメントとして添付されたファイル

- ファイルがコメントとして添付されている場合は、ページの添付ファイルのコメントをダブルクリックします。添付ファイルのコメントを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[ファイルを開く]を選択することもできます。添付ファイルタブからファイルを開くこともできます。 ファイルを埋め込みます。

添付ファイルの保存

PDFに添付されたファイルは、PDFを介してアクセスする必要がないように、コンピューターに直接簡単に直接保存できます。ファイルの添付方法に応じて、以下の2つの方法のいずれかを使用して添付ファイルを保存します。

埋め込みファイル

- ファイルが埋め込みファイルとして添付されている場合は、添付ファイルのリストが表示されている[添付ファイル]タブに移動し、添付ファイルを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[ファイルの保存]を選択します。

コメントとして添付されたファイル

- ファイルがコメントとして添付されている場合は、ページまたは[添付ファイル]タブの添付ファイルのコメントを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[ファイルの保存]を選択します。

添付ファイルの削除

PDFに添付されたファイルは簡単に削除できるため、PDFの一部ではなくなります。ファイルの添付方法に応じて、以下の2つの方法のいずれかを使用して添付ファイルを削除します。

埋め込みファイル

- ファイルが埋め込みファイルとして添付されている場合は、添付ファイルのリストが表示されている[添付ファイル]タブに移動し、添付ファイルを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[削除]オプションを選択します。

コメントとして添付されたファイル

- ファイルがコメントとして添付されている場合は、ページで添付ファイルのコメントを選択し、[削除]をクリックします。添付ファイルのコメントを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[削除]を選択することもできます。添付ファイルからファイルを削除することもできます 埋め込みファイルと同じようにタブを押します。

注釈の編集

PDF Studioでは、さまざまな方法を使用してPDFドキュメント内の既存の注釈を編集できます。

注釈コメントの編集：コメントポップアップを使用して、注釈に関連付けられたコメントを編集します

クイックプロパティツールバー：クイックプロパティツールバーを使用してプロパティを編集します

注釈プロパティダイアログ：完全なプロパティダイアログを使用して注釈プロパティを編集します

注釈の移動：ページ上の注釈の移動

注釈の削除：ページ上の注釈を削除する

注釈の平坦化：ページ上の注釈を平坦化する

平坦化されていない注釈：フラット化された注釈を復元します

注釈のコピーと貼り付け：ページ上またはドキュメント間で注釈をコピーして貼り付ける

注釈の整列：ページ上の注釈の位置合わせ

注釈のグループ化：注釈をグループ化する

注釈の移動とサイズ変更

注釈は、ページに配置した後で移動またはサイズ変更できます。

ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール 編集する注釈を選択します。

ノート： *一度に複数の注釈を選択できます*

動く

注釈をクリックして、ページ上の新しい場所にドラッグします。

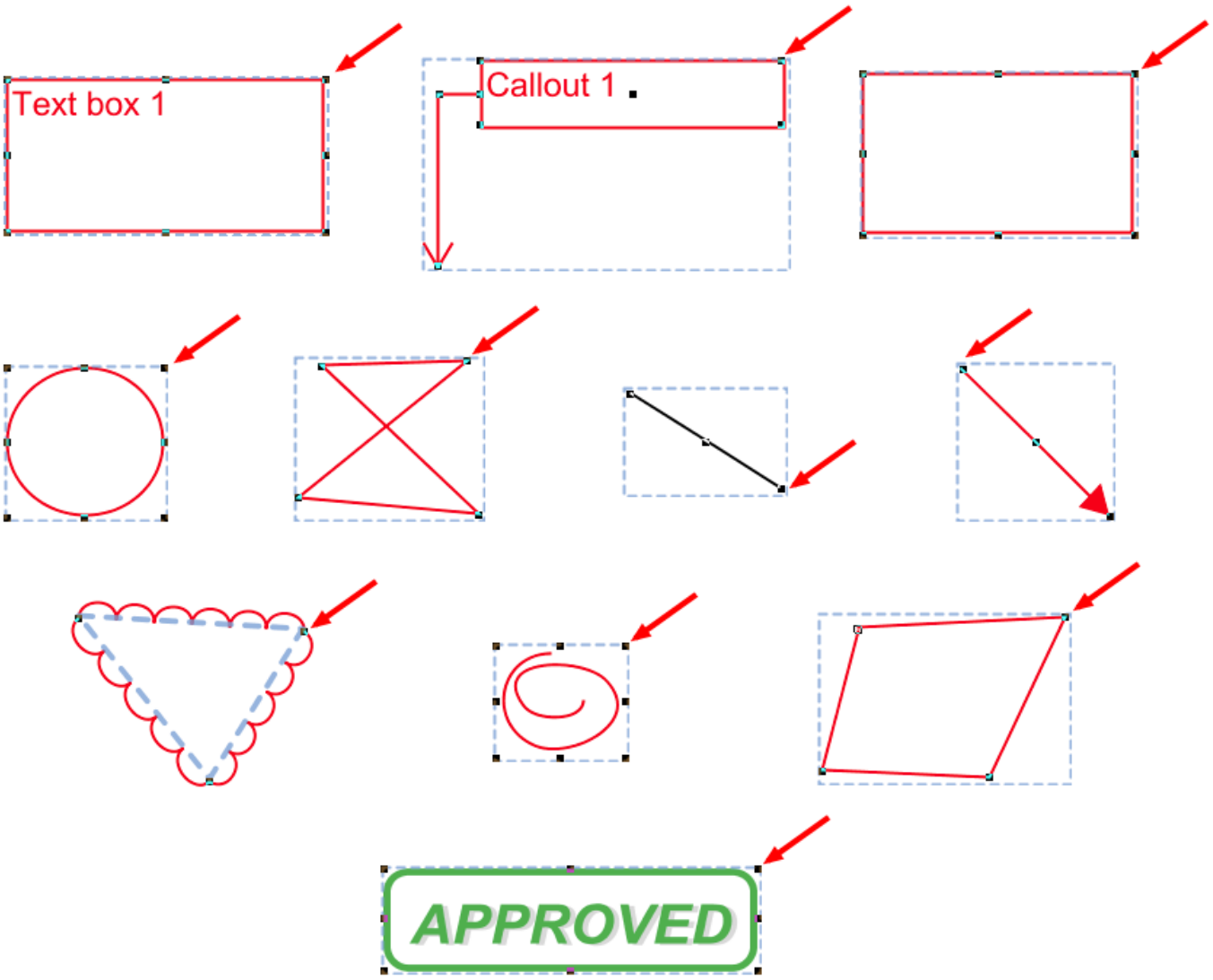
矢印キーを使用して、注釈を少しずつ移動します。 Shiftキーを押しながら矢印キーを使用して、注釈を大きく移動します。

ノート： *テキストマークアップは移動できません*

サイズ変更

角または頂点のハンドルをドラッグするだけで、注釈の境界を変更できます。アスペクト比を維持するために注釈のサイズを変更するときは、Shiftキーを押したままにします。

線と矢印の注釈の場合、Shiftは固定角度で線を描画します。


Text box 1
Callout 1
APPROVED

注釈の削除

ページ上の注釈は、以下のオプションのいずれかを使用して削除できます

特定の注釈を削除します。

1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール 注釈を選択します 削除したい。
2. Delキーを押して注釈を削除し、[削除]ボタンをクリックします にミニツールバー、または注釈を右クリックします（CTRL + Macをクリック）、コンテキストメニューで[削除]を選択します。

すべての注釈を削除します。

メニューから、**コメント>すべてのコメントを削除**。

任意のページのすべての注釈を削除します。

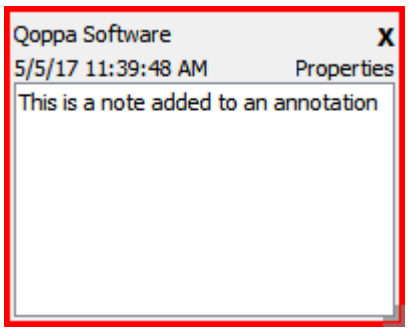
メニューから、**コメント>現在のページのコメントを削除**。

注釈コメントの編集

注釈には、追加の保存されたコメント情報を含めることができます。これらを使用して、ページに注釈が配置される理由に関する追加の詳細を提供できます。

コメントバブルから

注釈のメモは、注釈を直接ダブルクリックすることで編集できます。これにより、注釈のコメントだけを編集できる小さなポップが表示されます。メモのコメントを追加、変更、または削除するには、フィールドに入力します。完了したら、「x」またはページ上の任意の場所をクリックしてコメントを保存します。

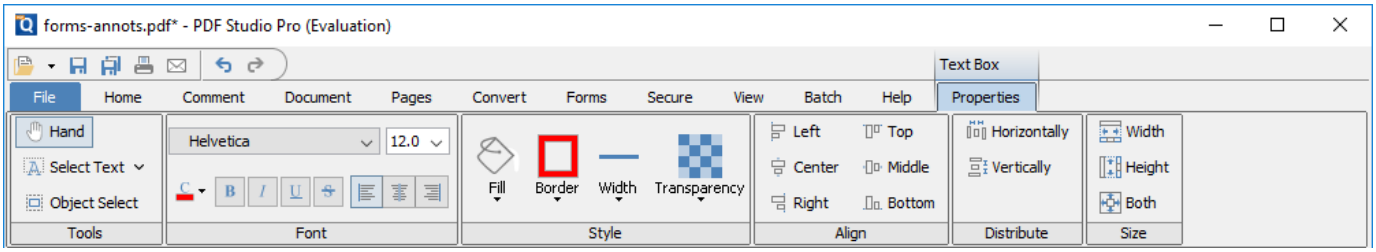


コメントパネルから

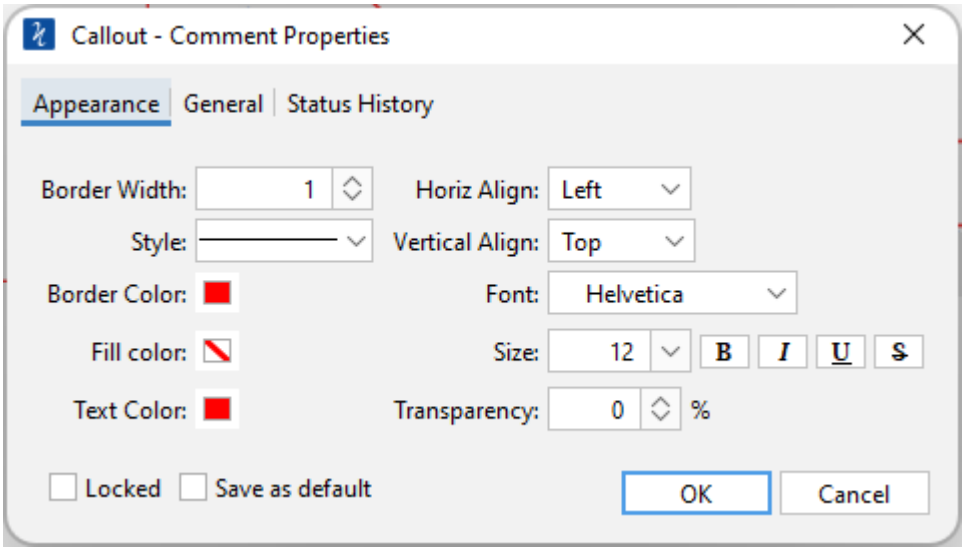
から注釈を選択しますコメントパネル、次にコメントを追加するリストの注釈をダブルクリックします。コメントを完了したら、他の場所をクリックするか、Escキーを押します。

注釈のプロパティ

注釈のプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーで、またはプロパティダイアログを開くには、注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューで[プロパティ]を選択するか、 編集ボタンをクリックします にミニツールバー。



注釈のタイプごとに、独自のオプションのリストがあります。アノテーションの使用可能な各プロパティの詳細については、その特定のアノテーションのページにアクセスしてください。



プロパティダイアログタブ

外観

コメントとデフォルト設定だけでなく、注釈のすべての外観設定を編集する場所

一般

コメントの作成者と件名の情報を表示します

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

tml>

注釈の平坦化

注釈を平坦化することは、注釈が属するページに直接注釈をペイントして、編集できないようにすることです。これにより、ドキュメントに注釈が永続的に書き込まれます。たとえば、カスタム署名スタンプをフラット化して、署名をドキュメント自体に追加し、注釈としてドキュメントに配置しないようにすることができます。

> **ノート：***次の注釈（ファイル添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈）は、注釈を平坦化するときに平坦化されませんs。技術的には、添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈は注釈ですが、注釈が平坦化された場合にも削除されるアクションが含まれているため、PDFに配置された機能に干渉しません。*

特定の注釈を平坦化する：

1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール 平坦化する注釈を選択します。
2. 注釈を右クリックし（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、コンテキストメニューで[フラット]を選択します。

複数の注釈をフラット化：

から**コメントタブ**選ぶ **平らにする**

オプション

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- 現在：表示中の現在のページのみ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

平坦化を許可する-チェックすると、後で平坦化プロセスを元に戻すことができます。このオプションをチェックせずにPDFをフラット化すると、フラット化は元に戻せません。

ノート：*任意のページで実行された追加のドキュメントまたはコンテンツの変更は、平坦化解除に影響を与える可能性があるため、ドキュメントを保存する前の最後のステップとしてお勧めします。*

レイヤーに割り当てる-平坦化する前に、選択したレイヤーにコメントを追加します。

いろんなタイプ-ドキュメントで見つかったすべての注釈をフラット化します

選択したタイプ-リストでチェックされている注釈タイプのみをフラット化します。チェックされていない注釈は、インタラクティブな注釈として残ります。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

平坦化されていない注釈

「平坦化を許可する」オプションが選択された場合注釈の平坦化 その後、後で注釈を平坦化することができます。

> **注意**：*任意のページで実行された追加のドキュメントまたはコンテンツの変更は、平坦化解除に影響を与える可能性があるため、ドキュメントを保存する前の最後のステップとしてお勧めします。*

注釈を平坦化する方法：

から**コメントタブ**選択 **ドロップダウンをフラット化->コメントをフラット化解除**

オプション

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

注釈をコピーして貼り付ける

すべての注釈は、以下のいずれかの方法を使用してコピーできます。注釈は、ドキュメント内の任意の場所、またはPDFStudioで開いたドキュメント全体にコピーできます。

システムショートカットの使用

コピーコマンドCtrl + C（Mac：Cmd + C）は、選択した注釈をシステムクリップボードにコピーします。貼り付けコマンドCtrl + V（Mac：Cmd + V）が押されたときに注釈がシステムクリップボードにある場合、その注釈のコピーが中央に配置されます 画面の。同じ場所での後続の貼り付けでは、注釈がわずかにオフセットして貼り付けられるため、互いに直接重なることはありません。

Ctrl +ドラッグの使用

Ctrl（Macの場合はCmd）キーを押しながら選択した注釈をクリックし、コピーした注釈を配置する場所にドラッグすることで、選択した注釈を複製できます。これは、複数の注釈が選択されている場合にも機能します 一度に。

ページ間で複製

注釈は、ドキュメント内の指定されたページ範囲に複製することもできます。これにより、各ページの同じ場所に注釈が複製されます。これを行うには、以下の手順に従ってください。

1. 複製する注釈を選択します
2. 右クリック（MacではCtrl +クリック）して、**複製** オプション
3. ページ範囲を指定します
4. [OK]をクリックして変更を適用します

クリップボードの画像をスタンプとして貼り付ける

画像がシステムクリップボードにある場合は、以下の手順に従ってページに貼り付けることができます。

1. ページに移動します。
2. マウスでページをクリックして、ページを選択します。
3. Ctrl + V（Mac：Cmd + V）を使用して画像をページに貼り付けます。これにより、画像がラバースタンプの注釈として貼り付けられ、配置後に移動したりサイズを変更したりできます。

> **注意**：*画像をスタンプとして直接インポートする場合、画像はラバースタンプで設定された圧縮を使用して変換されますツールのプロパティ。で[ズームに調整]が選択されている場合一般的な設定、貼り付けた画像の初期サイズは、ドキュメントのズームレベルによって異なります。それ以外の場合、画像は元のサイズで貼り付けられます。*

クリップボードのテキストをテキストボックスとして貼り付ける

テキストがシステムクリップボードにある場合、以下の手順に従ってページに貼り付けることができます。

1. ページに移動します。
2. マウスでページをクリックして、ページを選択します。
3. Ctrl + V（Mac：Cmd + V）を使用してテキストをページに貼り付けます。そうすることで、テキストが次のように貼り付けられます。テキストボックスの注釈 デフォルトのプロパティを使用します。注釈は、配置後に移動したり、サイズを変更したりできます。

注釈の整列

注釈は、必要に応じてページ上で整列または均等に分散できます。注釈は、以下の方法のいずれかを使用して整列できます。注釈を揃えるときは、2つ以上の注釈を選択する必要があります。

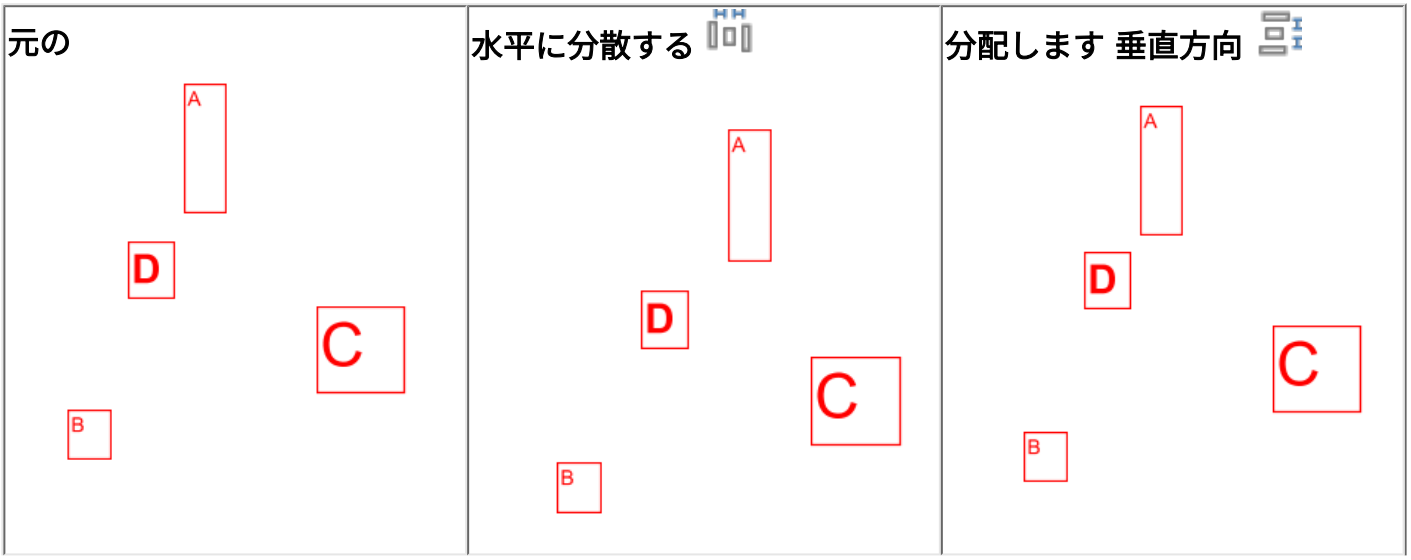
ツールバーから

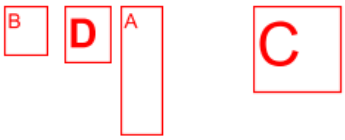
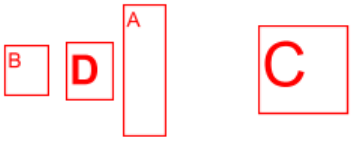
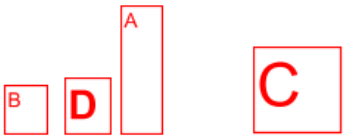
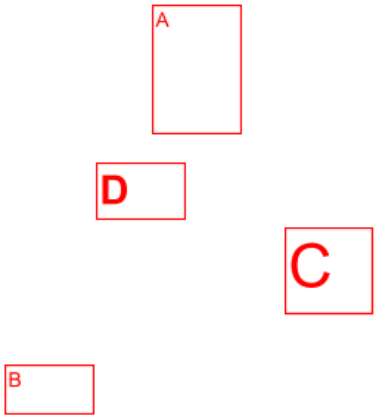
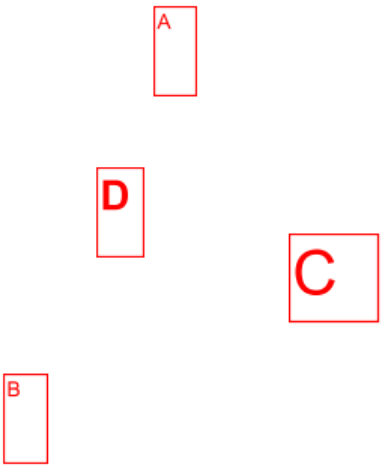
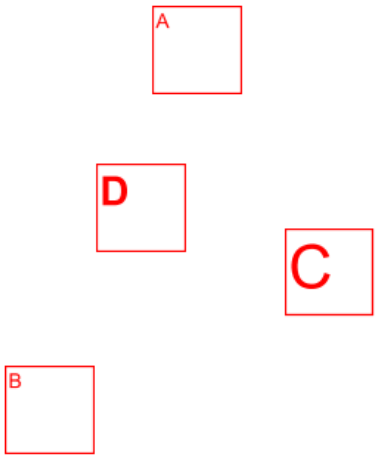
1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール 次の注釈を選択します あなたは整列したいです。
2. のボタンをクリックします**[プロパティ]タブ** ツールバーで注釈を揃えます

右クリックのコンテキストメニューから

1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール 次の注釈を選択します あなたは整列したいです。
2. 選択した注釈のいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、[配置]に移動して、実行する配置を選択します

アライメントの例



左揃え	センターを揃える	右揃え
上に揃える 	中央に揃える 	下に揃える 
幅を揃える 	高さを揃える 	両方を揃える 

Zオーダーの変更

Zオーダーは、ページ上の2次元オブジェクトを重ね合わせて、ページ上の別のアイテムの前または後ろにピースコンテンツを移動することです。注釈のZオーダーは、以下の手順に従って簡単に変更できます。

右クリックのコンテキストメニューから

1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール
2. zオーダーを変更したいコンテンツアイテムを選択します。
3. 選択したコンテンツのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、[移動]に移動して、注釈の移動先を選択します。

オプション

最前面に移動-選択したアイテムを他のすべてのアイテムの上に移動します

最背面へ-選択したアイテムを他のすべてのアイテムの下に移動します

前に移動-選択したアイテムを現在の場所の1つ上に移動します

後方に送信-選択したアイテムを現在の場所の1つ下に移動します

グループ注釈

注釈のグループは、1つの親注釈と1つ以上の子注釈で構成されます。グループ内の1つの注釈に対して実行される操作（削除、移動など）は、グループの他の部分に対しても実行されます。また、すべての子供が表示されます 彼らの親のコメント。

2つ以上の注釈を選択し、そのうちの1つを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスのコンテキストメニューから[グループ]を選択して、グループを作成します。右クリックした注釈が親になります。

注釈グループを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスのコンテキストメニューから[グループ解除]を選択すると、注釈のグループ化を解除できます。

> ***注意：*** *次の注釈をグループに含めることはできません。音声とテキストが注釈を置き換えます。*

レイヤーへのコメントの割り当て

コメントは、ドキュメント内の特定のレイヤーに割り当てることができます。コメントがレイヤーに関連付けられている場合、レイヤーを表示または非表示にすることもコメントに影響します。レイヤーをコメントレイヤーとして指定するか、コメントを新しいレイヤーに移動することができます。 レイヤーなしに関連付けられているコメントは、プライマリPDFコンテンツの一部になります。

コメントレイヤーの指定

レイヤーがコメントレイヤーとして指定されると、今後のすべての新しいコメントがこのレイヤーに追加されます

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. コメントレイヤーとして設定するレイヤーを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）します。
3. を選択してください**コメントレイヤー** 右クリックメニューのオプション
4. [OK]をクリックして確認します
5. 通常どおりにドキュメントの作業を続行します

注意：*手順1～3を繰り返して、レイヤーをコメントレイヤーとして指定解除します*

コメントを新しいレイヤーに移動する

プロパティダイアログを使用して、既存のコメントを新しいレイヤーに移動できます

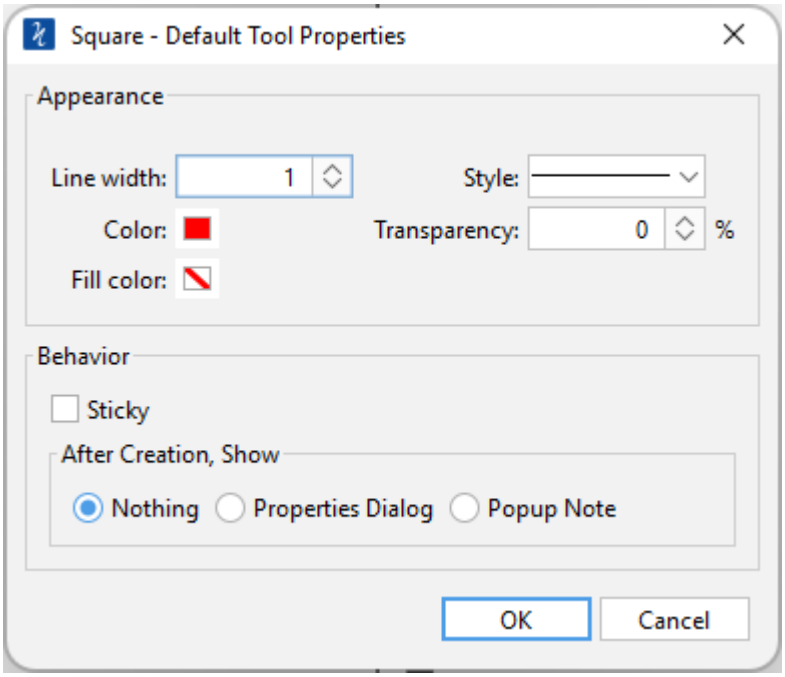
1. 注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[コメント]プロパティにアクセスします。**プロパティ** 右クリックメニューまたは編集ボタンをクリックします にミニツールバー。
   - 注意：*Ctrlキーを押しながらクリックして、編集するすべての注釈を最初に選択することにより、複数の注釈を一度に編集できます。*
2. [全般]タブに移動します
3. [レイヤー]オプションで、注釈の移動先のレイヤーを選択します
4. [OK]をクリックして変更を適用します

注意：*選択したレイヤーが現在非表示になっている場合、レイヤーが再度表示されるまで注釈は表示されなくなります。*

注釈ツールのプロパティの設定

ツールのプロパティによって、デフォルトの外観と、注釈が作成された後のツールの動作が決まります。デフォルトのプロパティにアクセスするには、ツールバーのツールアイコンを右クリック（Mac：Ctrlキーを押しながらクリック）するか、次の場所に移動します。コメント設定。

任意の注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して選択することにより、既存の注釈スタイルをデフォルトとして設定することもできます。**スタイルをデフォルトに設定**。これにより、今後、選択した注釈タイプのデフォルトとしてすべての「外観」設定が適用されます。



外観

各タイプの注釈には、独自のオプションのリストがあります。アノテーションの使用可能な各プロパティの詳細については、その特定のアノテーションのページにアクセスしてください。

行動

粘着性 -ツールが「スティッキー」の場合、新しい注釈がドキュメントに追加された後、ツールがオフになるまでツールは選択されたままになります。これにより、ツールを再選択することなく、多くの注釈を配置できます。アクティブになったら、ツールバーのボタンをもう一度クリックして、ツールを非アクティブにします。

クリエーションショー後

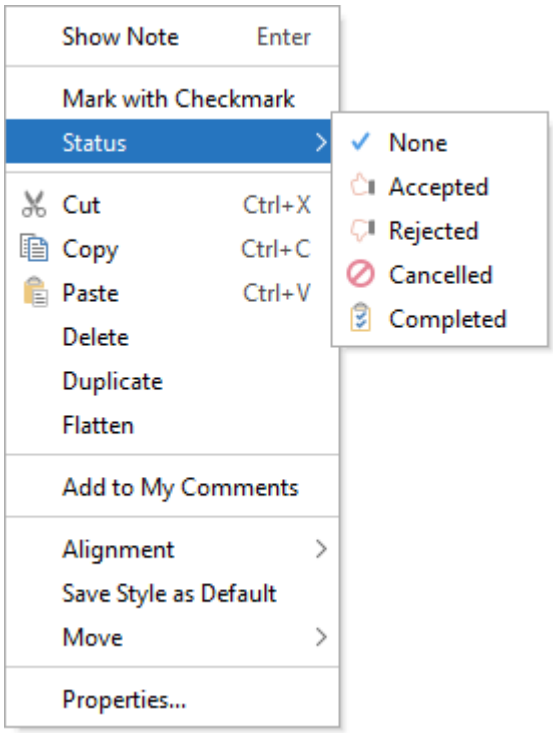
新しい注釈がドキュメントに追加されるたびに、注釈のプロパティダイアログまたはポップアップノートを表示するかどうかを決定します。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ステータスまたはチェックマークの設定

ステータスの設定や注釈のマーク付けは、レビュー済みの注釈を追跡するのに役立ちます。ステータスまたはチェックマークを設定するには、注釈を右クリック（Mac：Ctrlキーを押しながらクリック）して[チェックマークを付けてマーク]を選択するか、ステータスを選択します レビューサブメニューから。

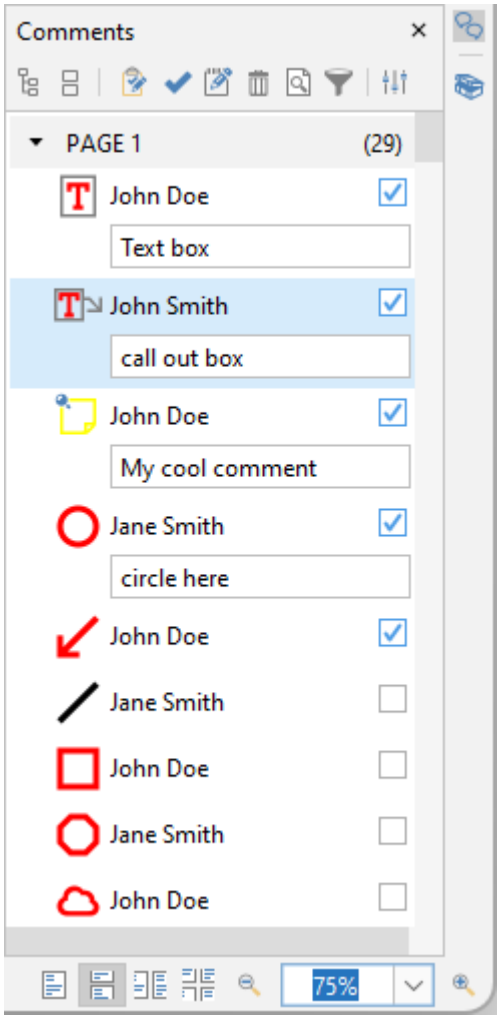
アクティブな注釈のチェックマークは、コメントペイン スペースバーで。



レビュー履歴は、注釈ステータスが変更されるたびに保存され、の[ステータス履歴]タブで表示できます。注釈プロパティダイアログ。

コメントパネル

コメントパネルには、PDFドキュメント内のすべてのコメントのリストがページごとにグループ化されて表示されます。ドキュメント内のコメントを表示およびナビゲートする簡単な方法を提供します。各コメントの横にあるアイコンは、ページに表示されている注釈と同じ色で表示されます。



コメントパネルへのアクセス

をクリックしてコメントパネルを表示します PDFStudioの右上隅にあるコメントボタン。このパネルから、ドキュメント内のすべてのコメントを表示、検索、および変更できます。

マウスは主にコメントパネルをナビゲートするために使用されます。リストされている注釈のいずれかをクリックすると、ドキュメントがページ上の注釈のある場所に移動し、現在の注釈が選択されます。次のキーボードショートカットを使用して、コメントパネルをナビゲートすることもできます。

- 矢印キー-上下を使用して、注釈リストを上下に移動できます
- スペースバー-注釈を強調表示し、スペースバーを押してチェックボックスを切り替えます。

- Enter-選択した注釈でEnterキーを押して[メモ]ポップアップを開き、追加するメモを入力します。完了したら、Escキーを押してポップアップを閉じます。

コメントパネルツールバー

コメントパネルの上部には、次のオプションがあります。

展開：コメントツリーを展開して、すべてのページとレビューマークアップを表示します

崩壊：ツリーを折りたたんで、ページフォルダのみを表示します

状態 ▼ ：選択した注釈にレビューステータスのマークを付けます。見るステータスまたはチェックマークの設定

プロパティ： 選択した注釈のプロパティを開きます

チェックマークでマーク：選択した注釈にチェックマークを付けます。見るステータスまたはチェックマークの設定

削除：選択したコメントを削除します

探す：テキストを入力し、Enterキーを押して、注釈コメント内のテキストを検索します

 以前の検索結果：前の検索結果に移動します

次の検索結果：次の検索結果に移動します

フィルタ：次のプロパティに基づいてコメントを除外できます。表示するプロパティを確認すると、選択に一致するプロパティがないすべての注釈がコメントペインとページに非表示になります。

- **すべて**：すべての注釈を表示して復元するには、[すべて]オプションを選択します。
- **著者**：ドキュメントで見つかった著者のリスト
- **タイプ**：ドキュメントで見つかった注釈タイプのリスト
- **マークされた**：ドキュメント内のマークされた注釈のリスト
- **状態**：ドキュメントで見つかったステータスのリスト
- **色**：ドキュメントで見つかった注釈の色のリスト

オプション：追加のコメントパネルオプションが含まれています

- エクスポート：コメントを別のファイルにエクスポートします。
  - **FDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式
  - **XFDF**：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式

- **テキスト**：すべての注釈情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**：すべての注釈情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **CSV**：すべてのコメントデータを.csv形式にエクスポートして、MicrosoftExcelなどのスプレッドシートエディタで表示できるようにします
- **ハイライトされたテキスト**：強調表示されたすべてのテキストがページで区切られたプレーンテキストファイルを作成します。

- 印刷：ツリー内のコメントを印刷できます
  - テキスト：すべてのコメントを含む単純なテキストツリーのみを印刷します
  - ツリー：コメントパネルに表示されているとおりにツリー全体を印刷します
- すべてのコメントを非表示：チェックすると、すべてのコメントが表示されなくなります
- 表示：コメントパネルに表示される個々の詳細のオンとオフを切り替えます

コメントを匿名化する

コメントの匿名化を使用すると、PDFドキュメント内のコメントまたは注釈から個人を特定するすべての情報を完全に削除できます。これは、たとえば、著者がコメントやフィードバックを匿名のままにしておきたい場合に、学術的な査読や学術論文で役立ちます。

PDF内のコメントを匿名化する方法

コメントまたは注釈情報を匿名化するには（以下のリストを参照）、次の操作を実行できます。

1. ツールバーで[コメント]タブに移動します> 消毒する
2. 削除または置換するコメントプロパティを選択します
3. すべてのコメントを匿名化するか、特定の作成者からのコメントのみを匿名化するかを選択します
4. [適用]をクリックして変更を加えます

設定

PDF内のコメントを匿名化する場合は、次の設定を使用できます

オプション -削除または置換されるデータ型を設定します

に適用する -すべてのコメントまたは作成者による指定されたサブセットのいずれかを匿名化することを選択します

コメントタイプ

匿名化ツールは、次のコメントタイプに変更を適用します。

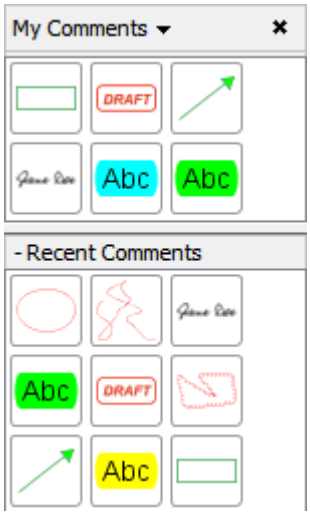
- **テキスト注釈**：テキストボックス、コールアウト、タイプライター、付箋。
- **形状注釈**：円、正方形、ハイライト領域、ポリライン、ポリゴン、雲、線、鉛筆。
- **テキストマークアップ**：テキストの強調表示、テキストの取り消し、テキストの下線、テキストの波線下線、テキストの置換、テキストの挿入。
- **ラバースタンプ**：テキストと画像のスタンプ
- **測定注釈**：距離、周囲長、面積
- **メディア：** サウンド、コメントとしてファイルを添付

私のコメントツールチェスト

PDF Studioは、頻繁に使用されるコメントと注釈を保存するため、後で1回クリックするだけで再び使用できます。

私のコメント：ユーザーが保存したコメントを保存して、後で再び使用できるようにします。

最近のコメント：最後に使用された30個のコメントを格納します。



ツールチェストの表示

ツールチェストを表示するには、をクリックします。 PDF Studioウィンドウの右上にある[マイコメント]ボタン、またはショートカットキーCtrl + Shift + T（⌘+ Shift + T Macの場合）。

私のコメント

保存されたコメントと注釈は、の[マイコメント]セクションにあります。私のコメントツールチェスト。

コメントへの注釈の保存

注釈を保存するには、注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してコンテキストメニューを表示し、メニューから[マイコメントに追加]を選択します。

保存されたコメントの使用

保存した注釈をドキュメントに追加するには、[マイコメント]で注釈をクリックし、ドキュメント上の場所をクリックして注釈を配置します。配置すると、注釈は通常どおり編集できます。

保存されたコメントの管理

保存したコメントは、並べ替え、削除、またはサイズ変更できます。

- 並べ替えるには、1つ以上のコメントを選択し、目的の場所にドラッグします。
- 削除するには、1つ以上のコメントを選択して削除を押すか、右クリックして[削除]を選択します。
- サイズを変更するには、下矢印を選択します ▼ [マイコメント]の横で、[小]、[中]（デフォルト）、または[大]を選択します。

最近のコメント

最近使用された注釈は、の最近のコメントセクションにリストされています。私のコメントツールチェスト。ドキュメントに追加された、またはドキュメントで変更された注釈は、このリストに自動的に追加されます。 このリストには、最近使用された30個の注釈が保持されます。

最近のコメントを保存する

[最近のコメント]リストの項目を永続的に保持するには、[最近のコメント]リストの注釈を右クリック（Mac：Ctrlキーを押しながらクリック）し、コンテキストメニューから[コメントの保存]を選択します。

保存されたコメントの使用

ドキュメントに最近の注釈を追加するには、[最近のコメント]で注釈をクリックし、ドキュメント上の場所をクリックして注釈を配置します。配置すると、注釈は通常どおり編集できます。

最近のコメントの管理

最近のコメントは、並べ替え、削除、またはサイズ変更できます。

- 並べ替えるには、1つ以上のコメントを選択し、目的の場所にドラッグします。
- 削除するには、1つ以上のコメントを選択して削除を押すか、右クリックして[削除]を選択します。
- サイズを変更するには、下矢印を選択します ▼ [マイコメント]の横で、[小]、[中]（デフォルト）、または[大]を選択します。

注釈のインポートとエクスポート

注釈は、PDFドキュメントにインポートまたはPDFドキュメントからエクスポートできます。

Exportingコメント：現在のドキュメントから注釈をエクスポートします

コメントのインポート：既存のドキュメントに注釈をインポートします

注釈のインポート

コメントは、FDF、XFDF、またはPDFファイルのいずれかから現在のドキュメントにインポートできます。からのコメントテキスト注釈、グラフィック注釈、およびサウンドアノテーションインポートされます。インポートすると、コメントはエクスポートされたときとまったく同じページの場所に表示されます。

コメントは、次の形式を使用してインポートできます

FDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式

XFDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式

PDF：選択したPDFファイルで見つかったコメントを取得し、現在のPDFに複製します

注釈をインポートする方法

1. から**コメントタブ**選択 **インポート**
2. FDF、XFDF、またはPDFファイルのいずれをインポートするかを選択します。これにより、ファイルチューザーダイアログが表示されます。
3. FDF、XFDF、またはPDFファイルの場所に移動し、[開く]をクリックします

注釈のエクスポート

コメントは、現在のドキュメントからFDF、XFDF、.txt、XML、CSV形式のファイルにエクスポートできます。からのコメントテキスト注釈、グラフィック注釈、およびサウンドアノテーション エクスポートされます。ハイパーリンク PDF形式のコメントとは見なされないため、エクスポートされません。

コメントは次の形式でエクスポートできます

FDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式

XFDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式

テキスト：すべての注釈情報を含む単純なテキストファイル（.txt）

XML：すべての注釈情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式

CSV：すべてのコメントデータを.csv形式にエクスポートして、MicrsoftExcelなどのスプレッドシートエディターで表示できるようにします。

ハイライトされたテキスト：でプレーンテキストファイルを作成します ページで区切られたすべての強調表示されたテキスト。

注釈をエクスポートする方法

1. から**コメントタブ**選択 **書き出す**
2. エクスポートする形式を選択すると、保存ダイアログが表示されます。
3. エクスポート先のファイルの場所と名前を選択し、[保存]をクリックします

PDFの編集と操作

PDF Studioには、コンテンツの編集、編集、ページの変更と分割、ブックマーク、ヘッダー、フッター、透かしの作成など、PDFドキュメントを編集および操作するための高度なツールが付属しています。

コンテンツ編集：PDF内のテキスト、画像、コンテンツを編集する

編集：PDFからテキストと画像を安全に編集します

PDFページの変更：トリミング、追加、挿入、抽出、削除などを含むページの編集

PDFドキュメントの分割：PDFドキュメントをページ数、ブックマーク、空白ページ、テキストなどで分割します

PDFの最適化：PDFの特定の部分を最適化することにより、PDFのファイルサイズを縮小します

ブックマーク：ブックマークの作成、編集、削除

リンク：リンクの作成、編集、削除

目的地：PDFの宛先を作成、編集、および削除します

ヘッダーとフッター：ヘッダーとフッターを作成、編集、削除します

透かし：透かしの作成、編集、削除

OCR PDF：スキャンした画像のテキストを認識する

ブックマーク

PDF Studioには、PDF内のブックマークを作成、編集、または管理するために使用できる次のオプションがあります。

ブックマークの作成：PDFでブックマークを作成する方法

ブックマークの削除：PDFのブックマークを削除する方法

ブックマークの移動：PDF内のブックマークを移動または再配置する方法

選択したテキストをブックマークする：現在選択されているテキストのブックマークを追加します

ブックマークの名前を変更する：ブックマーク名の編集または変更

ブックマークの場所を設定する：クリックしたときのブックマークの場所を設定します

ブックマークアクションの編集：ブックマークに関連付けられているアクションを編集します

カスタムブックマークアクション：ブックマークに設定できるすべての利用可能なアクションのリスト

ブックマークの外観の編集 ：ブックマークの外観を編集する

ブックマークを自動的に作成する：PDF内にブックマークを自動的に作成します

ブックマークの作成

PDF Studioは、PDFでブックマークを作成できます。これは、PDF内の特定のセクションへの目次またはショートカットのリストを作成するときに役立ちます。通常、ブックマークには1つのアクションのみが関連付けられ、ページに移動します。 アクション。ただし、PDF形式の定義では、ブックマークにはさまざまな種類がありますブックマークアクション それらに関連付けられています。

ブックマークの作成方法

ブックマークは、親または子として既存のブックマークに追加できます。どちらの場合も、新しいブックマークは、現在のページビュー（現在のページ番号、倍率、およびスクロールバーの値）の[ページに移動]アクションとして追加されます。ブックマークをクリックする ブックマークされたページに移動し、スクロールバーとスケールもブックマークが作成されたときと同じように設定されます。

> **注意：** *ドキュメントでテキストが選択されている場合は、ブックマークの名前として使用されます。そうでない場合、ブックマーク名はページ番号に基づきます。*

親としてブックマークを作成する

親としてブックマークを追加するには、次のいずれかを実行します。

- に移動します**[ページ]タブ>ブックマーク**、またはショートカットキーCtrl + B（コマンド + Macの場合はB）
- [ブックマークを追加]ボタンをクリックします ブックマークパネルの上部にあります
  - **注意：** *ブックマークパネルが表示されていない場合（これは、ドキュメントにブックマークが定義されていない場合に発生します）、をクリックします。* PDFStudioウィンドウの左側にあるアイコン
- 既存のブックマークを右クリックして、 **追加** 右クリックメニューで、 **前** または **後**

子としてブックマークを作成する（親の下）

子としてブックマークを作成するには（親の下またはサブグループ）

- 既存のブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、 **追加** 右クリックメニューで、 **子**

ブックマークのプロパティ

ブックマークのプロパティにアクセスするには、ブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。ブックマークには、次のプロパティ設定が含まれています。

アクション

ブックマークタイトル -これは、ブックマークペインに表示されるブックマークのラベルです。

ブックマークアクション - 作成後、このセクションを使用してブックマークのアクションを変更できます。見るブックマークアクションの編集 の完全なリストについては 利用可能なアクション。

外観

テキストの色 -テキストの色を設定します

フォントスタイル -ブックマークフォントをいずれかに設定します**大胆な** または *イタリック*

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

デフォルトで保存 -これをチェックすると、選択した外観設定が今後の新しいブックマークのデフォルトになります

ブックマークの削除

PDF Studioは、既存または作成済みのブックマークをPDFから削除できます。

ブックマークを削除する方法

ブックマークを削除するには、次の3つの方法があります。

- マウスでブックマークを選択し、キーボードのDeleteキーを押します
- マウスでブックマークを選択し、削除ボタンをクリックします ブックマークパネルの上部にあります
- ブックマークツリーのブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューの[削除]オプションを選択します。

  注意：*Shiftキーまたは*Ctrl*キー（Macの場合は*Command*）を押したままにして、複数のブックマークを編集します。*

ブックマークの移動

PDF Studioを使用して、PDFドキュメント内のブックマークを移動および再編成できます。

ブックマークを移動する方法

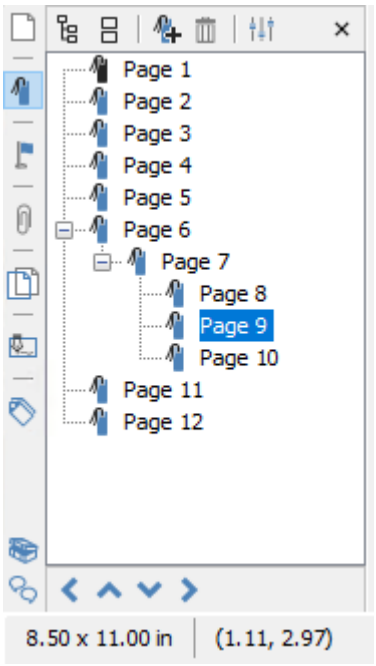
ブックマークは、ドラッグアンドドロップまたはカットアンドペースト機能を使用して移動できます。

> **注意**：*Shiftキーまたは Ctrlキー（Macの場合はCommand）を押したままにして、複数のブックマークを編集します。*

ドラッグアンドドロップの使用

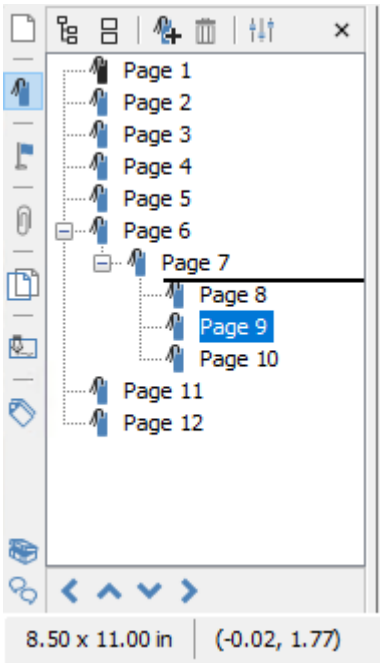
ブックマークは、ツリー内の目的の場所にドラッグアンドドロップするだけで再編成できます。ブックマークをターゲットにドラッグすると、画面のターゲットブックマークの下に黒い水平線が表示されます。黒い線の長さは ドラッグしたブックマークをターゲットブックマークの下に挿入するか、子としてターゲットブックマークに追加するか。

このブックマークは6ページの子になります。



長い行は、ブックマークが6ページの子として7ページの下に挿入されることを示します。

このブックマークは7ページの子になります。



短い行は、ブックマークが7ページの子として追加されることを示します。

ツールバーボタンの使用

ブックマークは、を使用して移動することもできます ブックマークペインの下部にあるボタン。ボタンを使用してブックマークを移動すると、一度に複数のブックマークを選択できます。

> **注意**：*ボタンは、ブックマークを移動できる場合にのみ有効になります*

- **左** -選択したブックマークを左に移動して、親ブックマークにします
- **アップ** -ブックマークを上に移動して、ブックマークの前に配置します
- **ダウン** -ブックマークを下に移動して、その下のブックマークの後に配置します
- **正しい** -ブックマークを右に移動して、その上のブックマークの子にします

カットアンドペーストの使用

切り取りと貼り付けを使用して、ブックマークを再編成することもできます。ツリーからブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[切り取り]を選択するか、キーボードショートカットのCtrl + X（Mac：Cmd + C）を使用してブックマークを切り取ることができます。次に、ブックマークを新しいものに貼り付けます 親は、既存のブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[貼り付け]を選択するか、キーボードショートカットのCtrl + V（Mac：Cmd + V）を使用します。

選択したテキストをブックマークする

ドキュメント内でテキストが選択されているときにブックマークが作成されると、現在のページビューのブックマークが作成され、選択されたテキストがその名前として使用されます。

選択したテキストからブックマークを作成する方法

1. [テキストの選択]アイコンをクリックします ツールバー上
2. マウスをドラッグして目的のテキストを選択します
3. 単語またはテキストを選択したら、次のいずれかの方法を使用してブックマークを作成します。

親としてテキストからブックマークを作成する

親としてブックマークを追加するには、次のいずれかを実行します。

- に移動します**[ページ]タブ>ブックマーク**、またはショートカットキーCtrl + B（コマンド + Macの場合はB）
- [ブックマークを追加]ボタンをクリックします ブックマークパネルの上部にあります
  - **注意：** *ブックマークパネルが表示されていない場合（これは、ドキュメントにブックマークが定義されていない場合に発生します）、をクリックします。* **PDFStudioウィンドウの左側にあるアイコン**
- 既存のブックマークを右クリックして、 **追加** 右クリックメニューで、 **前** または **後**

子としてのテキストからブックマークを作成する（親の下）

子としてブックマークを作成するには（親の下またはサブグループ）

- 既存のブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、 **追加** 右クリックメニューで、 **子**

ブックマークの名前を変更する

デフォルトでは、ブックマーク名はページ番号になりますが、読者にとってはあまり役に立たない場合があります。ブックマークは作成後に名前を変更できるため、読者はブックマークがどこにつながるかを正確に理解できます。

ブックマークの名前を変更する方法

ブックマークは、以下のいずれかの方法を使用して名前を変更できます。

- ブックマークツリーでブックマークをダブルクリックすると、ブックマークラベルが編集可能になります。ブックマークの新しい名前を入力し、新しい名前を保存するには、Enterキーを押すか、別の場所をクリックします
- ブックマークツリーのブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューの[名前の変更]オプションを選択して、新しい名前を入力します。

ブックマークの場所を設定する

ブックマークの場所は、ユーザーがクリックされたときにドキュメント内で移動する場所です。デフォルトでは、これはブックマークが作成されたときに設定されたのとまったく同じビューとスケールになります。作成後、必要に応じて宛先を簡単に変更できます。

ブックマークの場所を設定する方法

ブックマークの場所は、以下のいずれかの方法を使用して変更できます。

宛先の設定を使用する

1. ブックマークを移動するドキュメント内の場所に移動します
2. 次に、ブックマークツリーのブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[宛先の設定]を選択します。
    - **注意：** *これにより、ブックマークに現在関連付けられているアクションがすべて削除され、現在のページとビューの[ページに移動]アクションに置き換えられます。*

    注意：*ブックマークの宛先は、ブックマーク内に保存されている場所です。これは、PDFの宛先 これは、ページ内に格納されている名前付きのエンドポイント（HTMLのアンカーに似ています）です。*

プロパティダイアログの使用

1. 編集するブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。
2. [ブックマークアクション]セクションの下にある[編集]ボタンをクリックします
3. ブックマークの移動先の詳細を入力します
    - ページ
        - 番号-リンク先のドキュメントのページ番号
        - ズーム-必要に応じて使用するズーム
            パーセント：ズームでカスタムが選択されている場合にのみ使用可能
    - パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
    - 視覚的に設定-ドキュメント内のポイントに移動して、宛先を設定できます。ブックマークを設定すると、この機能を使用するときに設定されたドキュメント内の正確な位置とズームレベルに移動します。
    - 宛先-名前付きから選択先 すでにPDF内に設定されています
4. [OK]をクリックして変更を適用します

ブックマークアクションの編集

ブックマークが作成されると、通常、それに関連付けられているアクションは1つだけであり、それが[ページに移動]アクションです。ただし、PDF形式の定義では、ブックマークにさまざまなブックマークアクションを関連付けることができます。ブックマークを追加する場合 PDFドキュメントへカスタムブックマークアクション 標準の[ページに移動]アクションの代わりに作成できます。

> **注意**：*ブックマークに複数のアクションが関連付けられている場合、アクションはブックマークに追加された順序で実行されます。*

ブックマークアクションの変更

以下の手順に従って、アクションをブックマークに追加、編集、およびブックマークから削除できます。

ブックマークアクションの追加

新しいアクションをブックマークに追加できます

1. アクションを追加するブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。
2. [アクション]タブには、ブックマークに現在関連付けられているアクションのリストが表示されます。
3. [ブックマークアクション]セクションの下にある[追加]ボタンをクリックします
4. アクションダイアログが表示されます。カスタムブックマークアクション ブックマークに設定できます
5. 完了したら、[アクション]ダイアログで[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックしてアクションを保存します

ブックマークアクションの編集

ブックマーク内の既存のアクションを編集できます

1. 編集するブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。
2. [アクション]タブには、ブックマークに現在関連付けられているアクションのリストが表示されます。
3. [ブックマークアクション]セクションの下にある[編集]ボタンをクリックします
4. 現在選択されているアクションのプロパティを示すアクションダイアログが表示されます
5. アクションに必要な変更を加える
6. 完了したら、[アクション]ダイアログで[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックしてアクションを保存します

ブックマークアクションの削除

ブックマーク内の既存のアクションは削除できます

1. 削除するブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。
2. [アクション]タブには、ブックマークに現在関連付けられているアクションのリストが表示されます。
3. [ブックマークアクション]セクションの下にある[削除]ボタンをクリックして、ブックマークからアクションを削除します
4. 完了したら、[OK]をクリックして変更を保存します
    - **注意：** *アクションが設定されていないブックマークを持つことができます。*

カスタムブックマークアクション

以下は、各カスタムブックマークアクションとその設定のリストです。

このドキュメントのページに移動します

現在のドキュメント内のページに移動するようにブックマークを設定します

- ページ
  - 番号-リンク先のドキュメントのページ番号
  - ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
  - パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
  - 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます
- 宛先-名前付きから選択先 すでにPDF内に設定されています

別のドキュメントのページに移動する

別の指定されたドキュメント内のページに移動するようにブックマークを設定します

- 新しいウィンドウ-PDFアプリケーションの完全に新しいウィンドウでドキュメントを開きます
- 既存のウィンドウ-現在開いているドキュメントを置き換えるPDFアプリケーションの現在のウィンドウでドキュメントを開きます
- ページ番号-他のドキュメントを開くときに表示するページ番号
- ドキュメント-開くファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。
- 宛先-名前付きから選択先 すでにPDF内に設定されています

> **注意：** *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

フィールドの表示/非表示

ブックマークをドキュメント内の選択したフィールドを表示または非表示に設定します

- 表示-クリックすると、選択したフィールドが表示されます
- 非表示-クリックすると、選択したフィールドが非表示になります
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリック（⌘+ Macの場合はクリック）を使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックしてフィールドのグループを選択します

ファイルを開く

特定のファイルを開くようにブックマークを設定します。

- ファイル-開くファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

Webリンクを開く

特定のWebページを開いたり、電子メールを開始したりするためのブックマークを設定します。有効なリンクの例：

- http://www.qoppa.com
- ftp://ftp.site.com
- file：c：\ qoppa \ temp.txt
- mailto：johndoe@gmail.com

フォームフィールドのリセット

ドキュメント内の選択したフィールドをリセットするようにブックマークを設定します

- すべてのフィールド-チェックすると、ドキュメント内のすべてのフィールドがリセットされます
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリック（⌘+ Macの場合はクリック）を使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックしてフィールドのグループを選択します

JavaScriptアクション

カスタムを実行するようにブックマークを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。

フォームを送信

フォームフィールドの値を4つの形式のいずれかで指定された場所に送信するようにブックマークを設定します。これを使用すると、ユーザーがフォームに入力すると、フォームまたは値を自動的に送り返すことができます。

- URL-選択したファイルの送信先。試験有効なリンクの山：
  - http://www.qoppa.com
  - ftp://ftp.site.com
  - file：c：\ qoppa \ temp.txt
  - mailto：johndoe@gmail.com
- FDF-選択したフィールド値を含むFDFファイルを送信します
- XFDF-選択したフィールド値を含むXFDFファイルを送信します
- PDF-PDF全体のコピーを送信します
- HTML-選択したフィールド値を含むHTMLファイルを送信します
- フィールド-フィールド値を送信するときのオプションを設定します

- すべてのフィールド-値に関係なくすべてのフィールドを送信します
- 含める-ファイルを送信するときに、選択したフィールドがリストに含まれます
- 除外-ファイルを送信するときに、リスト内の選択されたフィールドを除外します
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリック（⌘+ Macの場合はクリック）を使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックしてフィールドのグループを選択します
- 空のフィールドを送信-チェックすると、フィールドが空の場合でも、選択したフィールドの値が送信されます

レイヤーの表示/非表示

ブックマークをドキュメント内の選択したレイヤーを表示または非表示に設定します

- 現在の可視性を使用-レイヤーを現在表示されているとおりに表示するアクションを設定して、後でレイヤーをオフにした場合に現在の状態に戻るようにします。
- その他-ブローオプションを使用してレイヤーに新しいアクションを設定します
  - 表示-選択したレイヤーをリストに表示します
  - 非表示-リストで選択したレイヤーを非表示にします
  - トグル-レイヤーの現在の状態に応じて、選択したレイヤーの状態を非表示から表示、または表示から非表示に切り替えます
  - レイヤーリスト-選択するドキュメント内のレイヤーのリストを表示します。複数のレイヤーを選択するには、Ctrl +クリック（⌘+ Macの場合はクリック）を使用して個別のレイヤーを選択するか、Shift +クリックしてレイヤーのグループを選択します

名前付きアクション

以下にリストされている標準の事前定義されたアクションの1つを実行するようにブックマークを設定します。

- NextPage-ドキュメントの次のページに移動します
- PrevPage-ドキュメントの前のページに移動します
- FirstPage-ドキュメントの最初のページに移動します
- LastPage-ドキュメントの最後のページに移動します
- 印刷-現在のドキュメントを印刷するための印刷ダイアログを開始します
- 保存-現在のドキュメントを保存します
- 開く-ファイルを開くダイアログを表示します

ブックマークの外観の編集

ブックマークの外観を編集して、テキストに異なる色やスタイルを与えることができます。これは、ブックマークを整理してトピックを強調表示または色分けするときに使用できます

ブックマークの外観を編集する方法

1. ブックマークツリーのブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューの[プロパティ]オプションを選択します。
   - **注意：** *Shiftキーまたは Ctrlキー（Macの場合はCommand）を押したままにして、複数のブックマークを編集します。*
2. 次に、[外観]タブに移動し、以下の設定を行います
3. 完了したら、[OK]をクリックして変更を保存します

外観設定

テキストの色 -テキストの色を設定します

フォントスタイル -ブックマークフォントをいずれかに設定します**大胆な** または *イタリック*

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

デフォルトで保存 -これをチェックすると、選択した外観設定が今後の新しいブックマークのデフォルトになります

ブックマークを自動的に作成する

PDFドキュメント内のすべてのページに対してブックマークを自動的に作成できます。

ブックマークを自動的に作成する方法

1. **[ページ]タブ> [ブックマーク]> [ブックマークの自動作成]に移動します**。これにより、[ブックマークの自動作成]ダイアログが表示されます。
2. ブックマークを自動的に作成するオプションを選択します
   - すべてのページのブックマークを作成します。これにより、ドキュメント内のすべてのページのページに移動アクションブックマークが追加されます。
   - 選択したページのブックマークを作成する：これにより、指定した範囲内の各ページに[ページに移動]アクションブックマークが追加されます。
3. ブックマークが作成されると、ブックマークは通常どおり再配置または編集できます。

PDFコンテンツ

PDFコンテンツツールを使用すると、既存のコンテンツを編集したり、PDFに新しいコンテンツを追加したりできます。コンテンツは、必要に応じて移動、編集、または削除できます。

> **ノート：** *注釈は「インタラクティブオブジェクト」と見なされるため、PDFコンテンツの一部ではないため、コンテンツ編集ツールで編集することはできません。注釈を編集するには、を参照してください。注釈の編集。*

既存のコンテンツの編集

以下は、ドキュメント内にある既存のコンテンツを変更するために使用できる編集ツールです。

テキストと画像を編集する：ページ上でテキストを直接編集し、段落や文をページ上で自動的に折り返したり、画像を移動および再配置したりします。（デフォルト）

テキストの編集：個々のテキスト文字列を変更または変更する

画像を編集する：PDFに含まれる画像を移動またはサイズ変更

パスの編集：PDF内の線や図形を編集、移動、サイズ変更

シェードを編集する：PDF内のシェードおよびグラデーションオブジェクトの編集、移動、サイズ変更

新しいコンテンツの追加

次のツールを使用して、必要に応じてドキュメントに新しいコンテンツを作成できます。

テキストを追加：ページに新しいテキストを作成します

画像を追加：ドキュメントに追加するコンテンツとして画像をインポートします

形状を追加：新しい形状コンテンツ（円、正方形、線など）をPDFに追加します

その他のコンテンツツール

新しいコンテンツを編集または作成するときに使用できる追加のコンテンツツール。

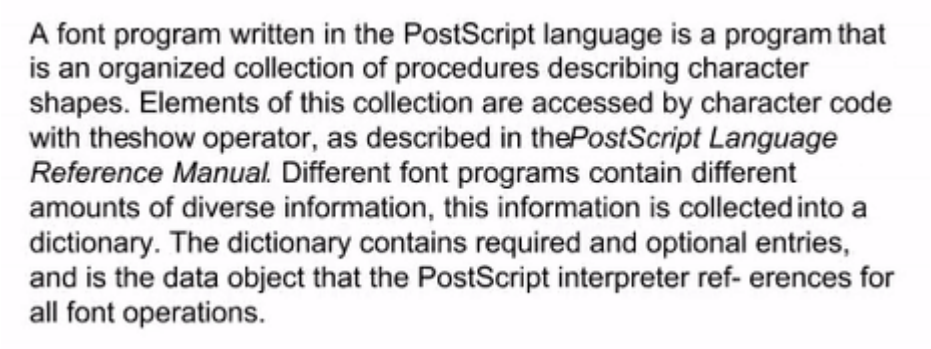
コンテンツの調整：選択したコンテンツをページに揃えるか、均等に分散します

コンテンツのZ順序の変更：ページ上の別のコンテンツアイテムの前または後ろにピースコンテンツを移動します。

コンテンツエクスプローラー：PDFの内部構造を構成するコンテンツオブジェクトのツリーベースの階層ビュー。

テキストのリフローと画像

このツールは、ワードプロセッサのようにドキュメントを操作するための簡単な編集モードです。テキストはページ上で直接編集でき、段落や文はページ上で自動的に折り返されます。


A font program written in the PostScript language is a program that is an organized collection of procedures describing character shapes. Elements of this collection are accessed by character code with theshow operator, as described in the*PostScript Language Reference Manual*. Different font programs contain different amounts of diverse information, this information is collected into a dictionary. The dictionary contains required and optional entries, and is the data object that the PostScript interpreter ref- erences for all font operations.

ノート：このモードを使用する場合、編集できるのはテキストまたは画像のコンテンツのみです。場合によっては、テキストまたは画像が実際にはパスまたはシェイプオブジェクトである可能性があります。 PDF内の他のコンテンツを編集するには、コンテンツを編集する 道具。

テキストリフローと画像モードの開始

1. をクリックしてツールをアクティブにします のPDFコンテンツの編集ボタン**[ドキュメント]タブ** [テキストのリフローと画像]オプションが選択されていることを確認します 下矢印。
2. テキストリフローと画像モードが開始されると、編集可能な領域の周囲に境界線が表示されます。
3. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的のコンテンツを選択します。選択すると、以下の手順に従ってコンテンツを編集、移動、または削除できます。

テキストの編集

1. 編集するテキストを選択します
2. 次の手順でテキストを移動または編集します
   - **動く**：Cテキストをなめて、ページ上の新しい場所にドラッグします。
   - **編集**：テキストをダブルクリックして、行編集モードに入ります。ページ上で直接テキストを編集する場合と同じように、入力を開始します。テキストは、ドキュメント内の元の段落サイズに基づいて自動的にリフローおよび折り返されます。
3. 完了したら、コンテンツ編集を終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

画像の編集

1. 編集するテキストを選択します

2. 次の手順で画像を移動または編集します。
    - **動く**：Cテキストをなめて、ページ上の新しい場所にドラッグします。
    - **編集**：画像をダブルクリックして、画像のプロパティにアクセスします。「編集」ボタンをクリックして、画像編集オプションを表示します。選択した画像に対して変更するオプションを選択し、完了したら[OK]をクリックします。
        - **ノート**：*画像のプロパティの編集は、元のドキュメントを再度開かずに元に戻すことはできません。必ず設定を適切に選択してください。*
3. 完了したら、コンテンツ編集モードを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

既存のコンテンツの編集

PDFコンテンツの編集ツールを使用すると、PDF内にある既存のコンテンツを編集できます。デフォルトでは、このツールはテキストと画像の編集モード、ワードプロセッサのようにドキュメント内のテキストと画像を編集できます。追加のモードを選択して、特定のコンテンツタイプのみを編集することもできます（例：画像のみ）。

PDFコンテンツの編集ツールの起動

既存のコンテンツの編集を開始するには2つの方法があります。

1. から**[ドキュメント]タブ** ツールバーで、下矢印をクリックします に [PDFコンテンツの編集]ボタンをクリックし、使用するコンテンツ編集モードを選択します。次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的のコンテンツを選択します。
2. を直接クリックします でPDFコンテンツを編集する**[ドキュメント]タブ**ツールバーで、最後に選択したモードを使用します。

ツールの選択が開始されると、以下にリストされているコンテンツタイプの手順に従って、コンテンツを編集、移動、または削除できます。

コンテンツ編集モード

以下の各コンテンツ編集モードを使用して、さまざまなタイプのコンテンツを編集できます。

簡略化された編集

テキストのリフローと画像：ページ上でテキストを直接編集し、段落や文をページ上で自動的に折り返したり、画像を移動および再配置したりします。（デフォルト）

- **ノート：***このモードは、以下の他のモードと同時にアクティブにすることはできません。*

高度な編集

以下の各モードは、任意の組み合わせでオン/オフを切り替えることができるため、必要な特定のコンテンツタイプで作業できます。たとえば、ドキュメント内の画像とシェードの選択を無効にするテキストとパスの編集のみを有効にできます。

テキストの編集：個々のテキスト文字列を変更または変更する

画像を編集する：PDFに含まれる画像を移動またはサイズ変更

パスの編集：PDF内の線や図形を編集、移動、サイズ変更

シェードを編集：PDF内のシェードおよびグラデーションオブジェクトの編集、移動、サイズ変更

テキストコンテンツの編集

PDFコンテンツの編集ツールは、PDFコンテンツに保存されているテキストの生の文字列を編集することができます。コンテンツ編集ツールを使用して、テキストを移動、編集、削除、または編集できます。この高度なオプションは、マイナーな編集のみを行う必要がある場合、またはテキストと画像の編集モード 段落を正しく検出できません。

> **ノート：** *PDFに表示されるすべてのテキストがテキストコンテンツと見なされるわけではありません。場合によっては、テキストは実際には画像またはパスオブジェクトである可能性があります。パスまたは画像のいずれかであるテキストコンテンツは同じように機能せず、編集機能が制限されます。*

テキストコンテンツを編集する方法

1. をクリックしてツールをアクティブにします の[コンテンツの編集]ボタン**[ドキュメント]タブ** 「テキスト」オプションが選択されていることを確認します ドロップダウン矢印。
2. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的のテキストコンテンツを選択します。選択すると、以下の手順に従ってコンテンツを編集、移動、または削除できます。
   - **ノート：** *複数のコンテンツを選択すると、すべてのコンテンツのプロパティを一度に更新できます*
3. 一度 完了、コンテンツ編集モードを終了するには、ハンドツールをクリックするだけです またはキーボードのEsc

プロパティの移動または編集

次の手順でテキストを移動または編集します

- **動く**：Cテキストをなめて、ページ上の新しい場所にドラッグします。
- **編集**：テキストのプロパティにアクセスするには、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してマウスメニューの[プロパティ]を選択するか、選択したテキストをダブルクリックします。

テキストコンテンツのプロパティ

テキストコンテンツには、次のプロパティ設定が含まれています。

フォント -リストから選択したテキストの新しいフォントを選択します

> **ノート：** *フォントを選択するときは、ドキュメントに埋め込まれているフォントのみを選択できます。さらに、フォントがサブセットである場合、すべてのフォント文字が使用可能であるとは限らず、テキストの編集時に誤った文字または欠落した文字として表示される場合があります。*

テキストの色 -テキストの色を変更します

アウトラインカラー -テキストのアウトラインを追加または調整します

文字サイズ –フォントサイズを編集します

アウトライン幅 –アウトラインの幅を増減します

文字の間隔 –各文字間のスペースを増やす

水平スケーリング –各文字間の間隔を増減します

単語の間隔 –各単語間のスペースを増やす

ベースラインオフセット –テキストの行を周囲のテキストの上または下に移動します。スーパースクリプトまたはサブスクリプトを作成する

文章 –テキストの文言を変更する

テキストコンテンツの切り取り、コピー、貼り付け

次の手順でテキストを切り取りまたはコピーします

- **切る**：ショートカットキーCtrl + X（Mac：Cmd + X）を使用してテキストを切り取るか、テキストを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**切る**コンテキストメニューで。
- **コピー**：ショートカットキーCtrl + C（Mac：Cmd + C）を使用してテキストをコピーするか、テキストを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**コピー**コンテキストメニューで。
- **ペースト**：テキストを貼り付けたい場所に移動し、ショートカットキーを使用しますCtrl + V（Mac：Cmd + V）または右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、**ペースト** コンテキストメニューで

テキストコンテンツを削除する

次の手順でテキストを削除または編集します

- **消去**：Delキーを押すか、テキストを右クリックして（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、テキストを削除します。**消去** コンテキストメニューで。
- **墨消し**：テキストを右クリックして（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、テキストを編集します。**テキストを編集する** コンテキストメニューで。

ノート：コンテンツ編集の[編集]オプションは、PDF編集 選択したテキストを完全に削除して、黒いバーに置き換えます。

画像コンテンツの編集

PDFコンテンツの編集ツールは、PDFの一部である画像を編集することができます。コンテンツ編集ツールを使用して、画像を移動、削除、または編集できます。コンテンツ編集ツールは、ドキュメント内の個々の画像の圧縮、色空間、およびDPIを変更することもできます。 PDF内の画像は、[名前を付けて保存]を使用してコンピューターに直接保存することもできます。これにより、画像を保存する場所を選択できます。

> ***ノート：** PDFに表示されるすべての画像が実際に画像コンテンツであるとは限りません。場合によっては、画像は実際には多くのパスオブジェクトを組み合わせて画像を形成することがあります。パスである画像コンテンツは同じように機能せず、編集機能が制限されます。*

画像コンテンツを編集する方法

1. をクリックしてツールをアクティブにします の[コンテンツの編集]ボタン**[ドキュメント]タブ** [画像]オプションが選択されていることを確認してください ドロップダウン矢印。
2. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的の画像コンテンツを選択します。選択すると、以下の手順に従ってコンテンツを編集、移動、または削除できます。
   - ***ノート：** 複数のコンテンツを選択すると、すべてのコンテンツのプロパティを一度に更新できます*
3. 一度 完了、コンテンツ編集モードを終了するには、ハンドツールをクリックするだけです またはキーボードのEsc

プロパティの移動または編集

次の手順で画像を移動または編集します

- **動く**：Cテキストをなめて、ページ上の新しい場所にドラッグします。
- **編集**：画像のプロパティにアクセスするには、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してマウスメニューの[プロパティ]を選択するか、選択した画像をダブルクリックします。 「編集」ボタンをクリックして、画像編集オプションを表示します。選択した画像に対して変更するオプションを選択し、完了したら[OK]をクリックします。
  - ***ノート：**画像のプロパティの編集は、元のドキュメントを再度開かずに元に戻すことはできません。必ず設定を適切に選択してください。*

画像コンテンツのプロパティ

画像コンテンツには、次のプロパティ設定が含まれています。

圧縮タイプ：画像に使用されている画像圧縮形式を表示します

マスクタイプ -画像で使用されている画像マスクタイプ（存在する場合）を表示します

色空間：画像のカラーフォーマットの詳細を表示します

BPC -コンポーネントあたりのビット数

DPI解像度：画像のDPI（1インチあたりのドット数）を表示します

寸法：画像のサイズ（ピクセル単位）

サイズ：選択した画像だけのファイルサイズ

画像オプションの編集

画像を編集するときは、次のオプションを使用できます。

圧縮：任意の画像をJPEG、JPEG2000、FLATE、またはJBIG2のいずれかに変換します。

JPEG -画質とサイズを低下させる不可逆圧縮

JPEG2000 -サイズと品質を低下させる非可逆圧縮

FLATE -可逆圧縮は品質を低下させませんが、ファイルサイズを常に低下させるとは限りません

JBIG2 -黒と白の色空間のみをサポートできる可逆圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

品質：画質を10〜100%に調整できます。

これは、JPEGまたはJPEG2000画像にのみ影響します。これは、これらが画質設定をサポートする唯一の形式であるためです。

色空間：画像の色を保持するか、グレースケールまたは白黒に変換するかを選択します。

グレースケール -JPEG、JPEG2000、またはFLATEでのみサポートされます。フルカラー画像に最適

B＆W -FLATEまたはJBIG2でのみサポートされます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

DPI：選択したオプションよりも大きいすべての画像の画像解像度を調整します

プリセットオプションには、保持、50、100、150、200、300、および600DPIが含まれます

カスタムオプションを使用すると、ユーザーは50〜1200DPIの任意の値を設定できます

画像コンテンツの切り取り、コピー、貼り付け

次の手順で画像を切り取りまたはコピーします

- **切る**：ショートカットキーCtrl + X（Mac：Cmd + X）を使用して画像を切り取るか、テキストを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**切る**コンテキストメニューで。
- **コピー**：ショートカットキーCtrl + C（Mac：Cmd + C）を使用して画像をコピーするか、テキストを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**コピー**コンテキストメニューで。
- **ペースト**：画像を貼り付けたい場所に移動し、ショートカットキーを使用しますCtrl + V（Mac：Cmd + V）または右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、**ペースト** コンテキストメニューで

画像コンテンツを置き換える

画像コンテンツは、必要に応じて新しい画像に置き換えることができます。たとえば、既存のドキュメントのロゴを更新する場合です。これを行うには、以下の手順に従ってください

1. テキストを右クリック（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）して、**画像を置き換える...**コンテキストメニューで
2. マシンから新しいイメージファイルを選択し、[OK]をクリックします
3. 新しい画像は、まったく同じ位置とサイズを使用して、選択した画像を置き換えます

新しい画像をリロードする

画像が置き換えられた後、画像コンテンツの選択が解除されるまで、新しい画像をリロード/更新できます。これは、たとえば、追加の小さな変更を加える必要があり、新しいファイルを更新して、画像の完全な置換アクションを実行せずに正しく表示されることを確認する場合に役立ちます。

画像コンテンツを削除する

次の手順で画像を削除または編集します

- **消去**：Delキーを押すか、テキストを右クリックして（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、画像を削除します。**消去** コンテキストメニューで。
- **墨消し**：画像を右クリックして（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、画像を編集します。**テキストを編集する** コンテキストメニューで。

> *ノート：コンテンツ編集の[編集]オプションは、PDF編集 選択した画像を完全に削除し、黒いバーに置き換えます。*

画像を保存

1. コンピュータに保存する画像を選択し、 画像を右クリック（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）して、[名前を付けて保存]を選択します。
   - **ノート：** *一度に保存できる画像は1つだけです。*
2. 画像を保存するコンピュータ上の場所を選択し、ファイル名と画像形式を選択して、[保存]をクリックします。
3. の上完了したら、コンピュータ編集モードを終了するには、ハンドツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

あなたは使用することができますすべての画像をエクスポート ドキュメント内のすべての画像を一度にコンピュータに保存するためのツール。

パスコンテンツの編集

パスコンテンツは、PDF内の線と形状のオブジェクトです。パスは、線または形状を生成するために一連の点を使用して作成された2次元形状です。パスを使用して、図形や仕切りからテキストや画像まで、あらゆるものを作成できます。コンテンツ編集ツールは、PDFの一部であるパスを編集することができます。パスは、コンテンツ編集ツールを使用して移動、編集、または削除できます。

パスコンテンツを編集する方法

1. をクリックしてツールをアクティブにします の[コンテンツの編集]ボタン**[ドキュメント]タブ** 「パス」オプションが選択されていることを確認します ドロップダウン矢印。
2. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的のコンテンツを選択します。選択すると、以下の手順に従ってコンテンツを編集、移動、または削除できます。
   - **ノート：** *複数のコンテンツを選択すると、すべてのコンテンツのプロパティを一度に更新できます*
3. の上完了したら、コンテンツ編集モードを終了するには、ハンドツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

プロパティの移動または編集

次の手順でパスを移動または編集します

- **動く**：Cパスをなめて、ページ上の新しい場所にドラッグします。
- **編集**：パスのプロパティにアクセスするには、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してマウスメニューの[プロパティ]を選択するか、選択したパスをダブルクリックします。

パスコンテンツのプロパティ

パスコンテンツには、次のプロパティ設定が含まれています。

塗りつぶしの色：パスの塗りつぶしの色

透明度を埋める：塗りつぶしの色の透明度を設定します

ストロークカラー：パスの境界線の色

ストロークの透明度：線の色の透明度を設定します

境界線の幅：パスの境界線の幅

ラインキャップ：最後に使用する形状を設定します ライン

ラインジョイン：ラインのコーナーまたはジョイントで使用する形状を設定します

ブレンドモード：パスオブジェクトの色を重ね合わせたときにどのようにブレンドするかを決定する設定

- **普通**：各ピクセルを編集またはペイントして、結果の色にします。これがデフォルトのモードです。
- **かける**：最上層の各ピクセルのRGBチャネル番号に、最下層の対応するピクセルの値を乗算します。結果は常に暗い画像になります。各値は1未満であるため、それらの積はいずれの初期値よりも小さくなります。
- **画面**：2つのレイヤーのピクセルの値が反転され、乗算されてから、再び反転されます。これにより、乗算とは逆の効果が得られ、画像が明るくなります。
- **かぶせる**：オーバーレイは、乗算モードと画面ブレンドモードを組み合わせたものです。ベースレイヤーが明るい部分は明るくなり、ベースレイヤーが暗い部分は暗くなります。最上層が中間の灰色である領域は影響を受けません。
- **暗くする**：前景ピクセルと背景ピクセルの最小コンポーネントを保持するピクセルを作成します。
- **軽くする**：の反対のアクション *暗くする*。前景と背景のピクセルから各コンポーネントの最大値を選択します。
- **ColorDodge**：最下層を反転した最上層で分割します。これにより、最上層の値に応じて最下層が明るくなります。最上層が明るいほど、その色が最下層に与える影響が大きくなります。任意の色を白とブレンドすると白になります。黒とブレンドしても画像は変わりません。
- **ColorBurn**： 反転した最下層を最上層で除算し、結果を反転します。これにより、最上層が暗くなり、コントラストが高くなり、最下層の色が反映されます。下のレイヤーが暗いほど、その色が多く使用されます。白とブレンドしても違いはありません。
- **HardLight**：乗算と画面の組み合わせ。ハードライトは、オーバーレイがベースレイヤーとブレンドレイヤーの関係に影響を与えるのと同じように、ブレンドレイヤーとベースレイヤーの関係に影響を与えます。オーバーレイとハードライトの逆の関係により、これらは「交換ブレンドモード」になります。
- **やわらかい光**：オーバーレイと密接に関連しており、名前だけでハードライトに似ています。純粋な黒または白を適用しても、純粋な黒または白にはなりません
- **違い**：常に非負の値を取得するために、最上層またはその逆から最下層を減算します。すべての色の値が0であるため、黒とブレンドしても変化はありません。
- **除外**：差に似ていますが、コントラストが低い効果を作成します。白とブレンドすると、ベースカラーの値が反転します。黒とブレンドしても変化はありません。

パスコンテンツの切り取り、コピー、貼り付け

次の手順でパスを切り取りまたはコピーします

- **切る**：ショートカットキーCtrl + X（Mac：Cmd + X）を使用してパスを切り取るか、パスを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**切る**コンテキストメニューで。
- **コピー**：ショートカットキーCtrl + C（Mac：Cmd + C）を使用してパスをコピーするか、パスを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**コピー**コンテキストメニューで。
- **ペースト**：パスを貼り付けたい場所に移動し、ショートカットキーを使用しますCtrl + V（Mac：Cmd + V）または右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、**ペースト** コンテキストメニューで

パスコンテンツを削除する

消去Delキーを押すか、パスを右クリックして（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、パスを選択します。**消去** コンテキストメニューで。

シェードコンテンツの編集

シェードの内容はパスと非常によく似ていますが、単色の塗りつぶしの代わりにグラデーションまたはシェードの数式を使用して、形状全体で徐々に変化する色を作成します。シェードは、図形や仕切りからロゴや画像まで、あらゆるものを作成するために使用できます。コンテンツ編集ツールは、PDFの一部である色合いを編集することができます。シェードは、コンテンツ編集ツールを使用して移動、編集、または削除できます。

シェードコンテンツを編集する方法

1. をクリックしてツールをアクティブにします の[コンテンツの編集]ボタン**[ドキュメント]タブ** 「シェード」オプションが選択されていることを確認してください ドロップダウン矢印。
2. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、目的のコンテンツを選択します。選択すると、以下の手順に従ってコンテンツを編集、移動、または削除できます。
   - **ノート：** *複数のコンテンツを選択すると、すべてのコンテンツのプロパティを一度に更新できます*
3. の上完了したら、コンテンツ編集モードを終了するには、ハンドツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

プロパティの移動または編集

次の手順でシェードを移動または編集します

- **動く**：C日よけをなめて、ページ上の新しい場所にドラッグします。
- **編集**：シェードのプロパティにアクセスするには、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してマウスメニューの[プロパティ]を選択するか、選択したシェードをダブルクリックします。

シェードコンテンツのプロパティ

シェードコンテンツには、次のプロパティ設定が含まれています。

塗りつぶしの色：シェードの塗りつぶし色

ストロークカラー：シェードの境界線の色

境界線の幅：シェードの境界線の幅

シェードコンテンツの切り取り、コピー、貼り付け

次の手順でシェードをカットまたはコピーします

- **切る**：ショートカットキーCtrl + X（Mac：Cmd + X）を使用してシェードをカットするか、シェードを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**切る**コンテキストメニューで。

- **コピー**：ショートカットキーCtrl + C（Mac：Cmd + C）を使用してシェードをコピーするか、シェードを右クリック（Ctrl + Macの場合はクリック）して、**コピー**コンテキストメニューで。
- **ペースト**：シェードを貼り付けたい場所に移動し、ショートカットキーを使用しますCtrl + V（Mac：Cmd + V）または右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、**ペースト** コンテキストメニューで

シェードコンテンツを削除する

Delキーを押すか、シェードを右クリックして（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、シェードを削除します。**消去** コンテキストメニューで。

コンテンツの調整

PDFコンテンツは、必要に応じてページ上で整列または均等に配布できます。コンテンツは、以下のいずれかの方法を使用して整列できます。コンテンツを揃える場合2つ以上のコンテンツを選択する必要があります。

ツールバーから

1. をクリックしてコンテンツ編集ツールをアクティブにします [ドキュメント]タブの[コンテンツの編集]ボタン
2. 整列させたいコンテンツアイテムを選択します。
3. ツールバーの[プロパティ]タブのボタンをクリックして、コンテンツを揃えます

右クリックのコンテキストメニューから

1. をクリックしてコンテンツ編集ツールをアクティブにします [ドキュメント]タブの[コンテンツの編集]ボタン
2. 整列させたいコンテンツアイテムを選択します。
3. 選択したコンテンツのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、[配置]に移動して、実行する配置を選択します

アライメントの例

以下は、各設定でオブジェクトがどのように配置されるかを示す例です。

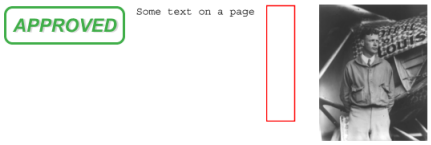
- 水平および垂直に配布
  - 3つ以上のオブジェクトの場合、配置は、選択された最初と最後のオブジェクトに基づいて行われます。
- 他のすべての配置
  - 最後のオブジェクトは、選択した残りのオブジェクトを配置するために使用されます

左揃え

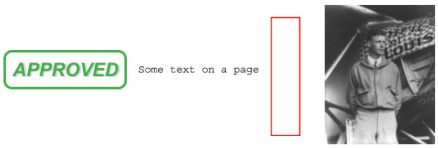
センターを揃える

右揃え

上に揃える

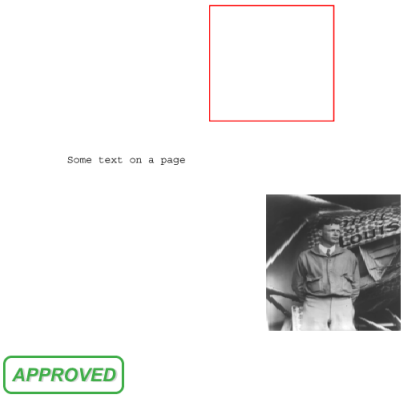


中央に揃える



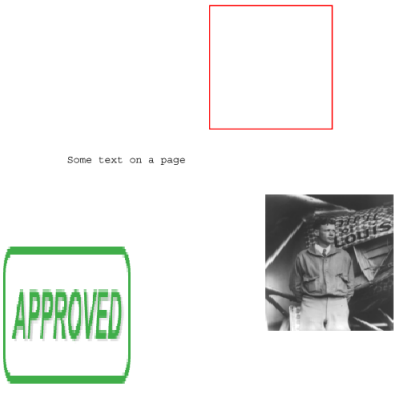
下に揃える

幅を揃える



高さを揃える

両方を揃える



Zオーダーの変更

Zオーダーは、ページ上の2次元オブジェクトを重ね合わせて、ページ上の別のコンテンツアイテムの前または後ろにピースコンテンツを移動することです。コンテンツアイテムのZオーダーは、以下の手順に従って簡単に変更できます。

右クリックのコンテキストメニューから

1. をクリックしてコンテンツ編集ツールをアクティブにします [ドキュメント]タブの[コンテンツの編集]ボタン
2. zオーダーを変更したいコンテンツアイテムを選択します。
3. 選択したコンテンツのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、[移動]に移動して、コンテンツの移動先を選択します。

オプション

最前面に移動-選択したアイテムを他のすべてのアイテムの上に移動します

最背面へ-選択したアイテムを他のすべてのアイテムの下に移動します

前に移動-選択したアイテムを現在の場所の1つ上に移動します

後方に送信-選択したアイテムを現在の場所の1つ下に移動します

コンテンツエクスプローラーパネル

コンテンツエクスプローラーパネルは、PDFの内部構造を構成するコンテンツオブジェクトのツリーベースの階層ビューを提供します。これらには、コンテナ、フォームXObject、テキスト、画像、パス そしてシェード。ツリーのコンテンツは、コンテンツがドキュメント内に書き込まれるのと同じ順序に一致するため、ページの読み取り順序と一致しない場合があります。

注意：*このパネルは、主にドキュメント構造を表示するために使用されます。 PDFを編集するには、を参照してください。コンテンツ編集。*

コンテンツパネルを開く方法

1. ドキュメントを開く
2. クリックしてください PDFStudioウィンドウの左側にあるコンテンツボタン
3. ロードされると、左側のペインにドキュメントコンテンツ構造ツリーが表示されます

コンテンツの表示/ナビゲート

コンテンツツリーを使用して、ドキュメント内のコンテンツを表示およびナビゲートします。矢印アイコンを使用してアイテムを展開または折りたたみ、コンテンツ要素をクリックしてページ上のコンテンツを強調表示します。

ザ・ 展開して [すべて折りたたむ]ボタンを使用して、コンテンツツリー内のすべての子を一度に表示および非表示にすることもできます。

コンテンツタイプ

コンテナ：単一のユニットとして処理でき、ドキュメントのさまざまな部分に配置できる、関連するグラフィックオブジェクトのグループ。 例えば： オンまたはオフに切り替えることができるPDF全体のレイヤーにグループ化されたコンテンツ。

フォームXObject：PDF内のさまざまな場所から参照できるグラフィックオブジェクトのグループ。これにより、再利用して複数回描画できます。例：すべてのページに会社のロゴが描画されます。

テキスト：ドキュメント内に文字列として保存されたテキストコンテンツ

- **注意：** *PDFに表示されるすべてのテキストがテキストコンテンツと見なされるわけではありません。場合によっては、テキストは実際には画像またはパスオブジェクトである可能性があります。パスまたは画像のいずれかであるテキストコンテンツは同じように機能せず、編集機能が制限されます*

画像：ドキュメント内にグラフィック画像オブジェクトとして保存された画像コンテンツ

- **注意：** *PDFに表示されるすべての画像が実際に画像コンテンツであるとは限りません。場合によっては、画像は実際には多くのパスオブジェクトを組み合わせて画像を形成することがあります。パスである画像コンテンツは同じように機能せず、編集機能が制限されます。*

パス：接続および切断された一連のポイント、ライン、およびカーブが一緒になってシェイプを作成します。

シェード：パスと同様ですが、領域全体で色間のスムーズな遷移を生成するグラデーション塗りつぶしを使用します。

コンテンツプロパティの表示

ツリー内の任意のコンテンツをダブルクリック（または右クリックして[プロパティ]オプションを選択）して、選択したコンテンツの詳細を表示します。

目的地

宛先は、PDFドキュメントのページ内に保存されている名前付きのエンドポイント（HTMLのアンカーに似ています）です。宛先を使用すると、同じPDF内または複数のPDF間で使用できるナビゲーションの場所を設定できます。目的地の使用 とは異なり、ブックマーク またはハイパーリンク 特定のページに対して、宛先はドキュメント内のページの追加または削除の影響を受けません。

目的地の作成：宛先を表示および作成する方法

目的地へのリンク：同じまたは別のPDFで目的地にリンクする方法

宛先の削除：宛先を削除する方法

宛先の名前変更：宛先に新しい名前を設定する方法

目的地の設定：目的地の新しい場所を設定する

目的地の作成

宛先は、PDFドキュメントのページ内に保存されている名前付きのエンドポイント（HTMLのアンカーに似ています）です。宛先を使用すると、同じPDF内または複数のPDF間で使用できるナビゲーションの場所を設定できます。目的地の使用 とは異なり、ブックマーク またはハイパーリンク 特定のページに対して、宛先はドキュメント内のページの追加または削除の影響を受けません。

宛先を作成する方法

PDFを使用して宛先を作成するには、以下の手順に従います。

1. をクリックして[宛先]ペインを開きます。 PDFStudioウィンドウの左側にあるボタン
2. ズームとページの位置を画面上で希望する方法に設定します
3. クリックしてください [宛先の作成]ボタン
4. 宛先に名前を付け、[OK]をクリックして変更を適用します

・ **注意**：*スペースを含まない名前を使用すると、後でリンクしやすくなります*

宛先が作成されると、次のようになります。にリンク ブックマークまたはハイパーリンクから。

目的地へのリンク

目的地が作成した ユーザーがブックマークまたはリンクをクリックしたときに、作成された宛先の場所にPDFファイルが開かれるように、リンクする必要があります。とは異なりブックマーク またはハイパーリンク 特定のページに対して、宛先はドキュメント内のページの追加または削除の影響を受けません。

PDFでリンク先にリンクする方法

PDFファイル内の宛先セットにリンクする方法は3つあります。

目的地へのブックマーク

1. 次のいずれかを実行してブックマークを作成します。
   - に移動します**[ページ]タブ>ブックマーク**、またはショートカットキーCtrl + B（Macの場合はCommand + B）を使用します
   - [ブックマークを追加]ボタンをクリックします ブックマークパネルの上部にあります
     - **注意**：ブックマークパネルが表示されていない場合（これは、ドキュメントにブックマークが定義されていない場合に発生します）、をクリックします。 上のアイコン PDFStudioウィンドウの左側
   - 既存のブックマークを右クリックして、**追加** 右クリックメニューで、**前** または**後**
2. リンク先にリンクするブックマークを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューで[プロパティ]を選択します。
3. [ブックマークアクション]セクションの下にある[編集]ボタンをクリックします
4. どちらかを選択してください**このドキュメントのページに移動します** または**別のドキュメントのページに移動する**
5. を選択**先** オプションを選択し、ドロップダウンから名前付きの宛先を選択します
6. [OK]をクリックして変更を適用します

これで、ブックマークをクリックすると、指定した宛先に移動します。

目的地へのPDFリンク

1. をクリックしてリンクツールを選択します の中に**[ページ]タブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Alt + K（コマンド + Alt + K（Macの場合）
2. リンクを作成する領域をクリックしてドラッグします（**注意：** *Shiftキーを押しながら描画すると、完全な正方形が作成されます。*）。
   - 目的のテキスト領域を選択して、選択したテキストを右クリックし（Macの場合はCTRL +クリック）、コンテキストメニューで[リンクの作成]を選択することもできます。
3. リンク注釈が追加されると、[リンクのプロパティ]ダイアログが表示されます。
4. リンクオプションでどちらかを選択します**このドキュメントのページに移動します** または**別のドキュメントのページに移動する**
5. を選択**先** オプションを選択し、ドロップダウンから名前付きの宛先を選択します
6. 完了したら、[OK]をクリックしてリンクを作成します

リンクをクリックすると、指定した宛先に移動します。

宛先へのWebページリンク

PDFファイルがWebサーバーに保存されている場合、リンクURLの末尾に＃[宛先名]を追加することにより、宛先をHTMLURLで使用して指定された宛先を指すこともできます。

> **注意**：*これには、URLの宛先プロパティをサポートするために、ブラウザーまたはPDFビューアープラグイン（現在、ほとんどの主要なアプリケーションでサポートされています）が必要です。そうでない場合は、ドキュメントの最初のページが開きます。*

たとえば、次のWeb URLは、sample.pdfという名前のPDFファイルで「index」という名前の宛先を開きます。

```
http://www.example.com/sample.pdf#index
```

または、WebページでこのHTMLタグを使用して、sample.pdfという名前のPDFファイルで「index」という名前の宛先を開くことができます。

```
<a href="http://www.example.com/sample.pdf#index">リンクテキスト</a>
```

宛先の削除

PDF Studioは、既存または作成された宛先をPDFから削除できます。

宛先を削除する方法

宛先を削除するには、次の3つの方法があります。

- をクリックして[宛先]ペインを開きます。 PDFStudioウィンドウの左側にあるボタン
- マウスで目的地を選択し、キーボードのDeleteキーを押します
- マウスで目的地を選択し、削除ボタンをクリックします 宛先パネルの上部にあります
- リスト内の宛先を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューの[削除]オプションを選択します。

  注意：*Shiftキーまたは*Ctrl*キー（Macの場合は*Command*）を押したままにして、複数の宛先を編集します。*

宛先の名前変更

デフォルトでは、宛先名はページ番号になりますが、読者にとってはあまり役に立たない場合があります。宛先は作成後に名前を変更できるため、読者は宛先がどこにつながるかを正確に理解できます。

宛先の名前を変更する方法

宛先の名前を変更できます

- をクリックして[宛先]ペインを開きます。 PDFStudioウィンドウの左側にあるボタン
- 次に、リスト内の宛先を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューの[名前の変更]オプションを選択して、新しい名前を入力します。

  注意：*スペースを含まない名前を使用すると、後でリンクしやすくなります*

目的地の設定

宛先の場所は、ユーザーがクリックされたときにドキュメント内に移動する場所です。デフォルトでは、これは宛先が作成されたときに設定されたのとまったく同じビューとスケールになります。目的地は、必要に応じて簡単に変更できます。 作成した。

目的地の設定方法

宛先の場所は、次のようにして変更できます。

1. をクリックして[宛先]ペインを開きます。 PDFStudioウィンドウの左側にあるボタン
2. ズームとページの位置を画面上で希望する方法に設定します
3. 次に、リスト内の宛先を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[宛先の設定]を選択します。

ヘッダーとフッター

PDF Studioには、PDFでヘッダーとフッターを操作するときに使用できる次のオプションがあります。

ヘッダーとフッターの作成：ヘッダーとフッターを作成してPDFに適用する方法

ヘッダーとフッターのオプション：ヘッダーとフッターを追加するときに使用できるオプション

ヘッダーとフッターのプロファイル：既存のヘッダーおよびフッタープロファイルの使用と管理

ヘッダーとフッターの削除：ドキュメントからヘッダーとフッターを削除する

ヘッダーとフッターの作成

PDF Studioは、PDFにカスタムヘッダーとフッターを追加できます。これを使用して、ドキュメントにページ番号を追加したり、ドキュメント内のページにカスタムラベルを追加したりできます。

ヘッダーとフッターを作成して適用する方法

1. ヘッダーやフッターを追加するドキュメントを開きます
   - **注意：** *すぐに適用せずに透かしプロファイルを作成するだけの場合、これは必須の手順ではありません。*
2. に移動します **[ページ]タブ>** **ヘッダーとフッター>追加** ツールバー上
3. 希望の記入をしてくださいヘッダーとフッターのオプション。の名前ヘッダーとフッターのプロファイル このステップで設定して、後で再利用できるように設定を保存することもできます。
   - **注意：** *ドキュメントに適用する前に、ヘッダーとフッターのプロファイルを作成または保存する必要はありません。現在のヘッダーとフッターの構成を保存するには、[保存]ボタンをクリックして名前を入力します。*
4. ヘッダーやフッターをドキュメントに適用するには、[適用]をクリックします

ヘッダーとフッターのオプション

以下は、PDFドキュメントにヘッダーとフッターを追加するときに使用できるオプションです。

設定

ヘッダーとフッターのオプションは次のとおりです。

プロフィール

名前 -ヘッダーとフッターのプロファイルの名前（作成されている場合）。 新しいプロファイルを作成するには、[<新しいプロファイル>]を選択して[保存]をクリックします。次に、新しいプロファイルの名前を入力します

メニューに表示 -アクセスを高速化するために、このヘッダーとフッターの構成をヘッダーとフッターのメニューに表示するかどうか。

マージン

単位 -ヘッダーとフッターの位置を計算するときに使用する単位。これは、インチ、センチメートル、またはポイントにすることができます。ポイントはPDF標準で計算され、1インチあたり72ポイントです。

上 -上からのマージンの距離

下 -下からのマージンの距離

左 -左からのマージンの距離

正しい -右からのマージンの距離

ドキュメントを縮小する -ヘッダーまたはフッターが元のドキュメントコンテンツと重ならないように、上マージンと下マージンに基づいてドキュメントを縮小します。

外観

フォント-ヘッダーとフッターのフォント

フォントサイズ-ヘッダーとフッターのフォントサイズ

フォントの色-ヘッダーとフッターのフォントの色

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

境界-ヘッダーとフッターのテキストの周囲に境界線を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

幅 -境界線の幅を設定します

バックグラウンド-ヘッダーとフッターのテキストの背景色の設定

ページ

ページ範囲 -ヘッダーとフッターを適用するページの範囲。

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用してページ範囲を設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのヘッダーとフッターのみを追加します
- 奇数ページのみ：奇数ページのヘッダーとフッターのみを追加します

ヘッダーとフッター

このセクションでは、ドキュメント内のさまざまなマーク領域のテキストコンテンツを定義します

ヘッダー左-ヘッダーの左側に配置されたテキスト

ヘッダーセンター-ヘッダーの中央に配置されたテキスト

ヘッダー右-ヘッダーの右側に配置されたテキスト

左フッター-フッターの左側に配置されたテキスト

フッターセンター-フッターの中央に配置されたテキスト

フッター右 -フッターの右側に配置されたテキスト

インサート -これらのオプションを使用して、コンテンツセクション内にカスタム変数を挿入します。テキストを配置する場所にカーソルを置き、挿入する変数オプションをクリックします。これらの変数は ヘッダーとフッターがドキュメントに配置されるときに使用されます

- 日付-日付変数を作成します
- ページ番号-ページ番号変数を作成します
- ベイツ番号-ベイツ番号変数を作成します
- その他-サポートされているその他の変数のリストを表示します
    - $ page –ページ番号
    - $ author –に設定された作成者名を挿入しますコメント設定
    - $ pagelabel-このページのブックマーク
    - $ bookmark-このページのラベル
    - $ totalpages –ドキュメントのページ数
    - $ filename –ドキュメントを開いたファイル名
    - $ filepath –ドキュメントが開かれた完全なファイルパス
    - $ date – 2007年11月28日にフォーマットされた現在の日付
    - $ shortdate –現在の日付は2007年11月28日としてフォーマットされます

- $ time –現在の時刻
- $ day –その月の現在の日
- $ month –2桁を使用した現在の月
- $ year –現在の年。4桁の数字を使用
- $ shortyear –2桁を使用した現在の年
- $ second –現在の秒
- $ minutes –現在の分
- $ hour –現在の時間、1〜12
- $ ampm –午前または午後
- $ longhour –現在の時間、0〜23

プレビューセクション

配置されたドキュメントでヘッダーとフッターがどのように表示されるかを確認できます。矢印ボタンとドロップダウンを使用して、ドキュメント内の別のページに移動してプレビューします。

ヘッダーとフッターのプロファイル

ヘッダーとフッターのプロファイルを使用すると、カスタムのヘッダーとフッターの設定をテンプレートとして保存できます。このテンプレートを後で再度使用して、ヘッダーとフッターをドキュメントに追加できます。 「メニューに表示」に使用できるオプションもあり、これが設定されている場合 それが置かれるプロファイル**[ページ]タブ>ヘッダーとフッター** これにより、ドキュメントメニューから2回クリックするだけでプロファイルを実行できます。

> **注意**：*ドキュメントにヘッダーとフッターを追加する前に、ヘッダーとフッターの構成を作成または保存する必要はありません。設定を保存せずにドキュメントにヘッダーとフッターを追加するには、次の場所に移動します。* ***[ページ]タブ>*** **ヘッダーとフッター>*追加*** *使用する設定を選択し、[適用]をクリックして、プロファイルを保存せずにヘッダーとフッターの設定を実行します。*

ヘッダーとフッターのプロファイルの作成

1. に移動します **[ページ]タブ>** **ヘッダーとフッター>追加** ツールバーにあります。
2. 希望の記入をしてくださいヘッダーとフッターのオプション 現在のヘッダーとフッターの構成。
3. プロファイルに含めるすべてのオプションを設定します。ドロップダウンから[<新しいアイテム>]を選択すると、既存のプロファイルまたは空白のテンプレートから開始できます。
4. 設定が完了したら、[保存]をクリックします。これにより、プロファイルに名前を付けるためのウィンドウが表示されます。
5. 空白のテンプレートから開始する場合、このフィールドは空白になります。以前のプロファイルから開始した場合は、以前のプロファイル名が表示されます。以前のプロファイルを更新するだけの場合は、名前を残して[OK]をクリックします。あなたがそうするなら 新しいプロファイルを作成するには、名前を付けて保存する新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。
6. 完了すると、プロファイルがドロップダウンメニューとメニューバーのクイックオプションで利用できるようになります

既存のプロファイルを使用してPDFドキュメントにヘッダーやフッターを追加する

既存のヘッダーとフッターのプロファイルを適用するには、次の2つの方法があります。

ヘッダーとフッターのダイアログから

ヘッダーとフッターを追加するドキュメントを開きます。からヘッダーとフッターのダイアログを開きます**[ページ]タブ>** **ヘッダーとフッター>追加**。 コンボボックスのドロップダウンリストからヘッダーとフッターのプロファイルを選択し、ダイアログの下部にある[適用]ボタンをクリックします。

ヘッダーとフッターメニューから

ヘッダーとフッターを追加するドキュメントを開きます。下**[ページ]タブ>** **ヘッダーとフッター** メニューには、以前に作成したすべてのヘッダーおよびフッタープロファイルのリストがあります。実行するリストのヘッダーとフッターのプロファイルをクリックすると、ヘッダーとフッターに保存されている設定の使用がすぐに開始されます。 プロフィール。

> **注意**：*[メニューに表示]オプションを選択したものだけがこのリストに表示されます。実行するリストのヘッダーとフッターのプロファイルをクリックすると、ヘッダーとフッターのプロファイルに保存されている設定の使用がすぐに開始されます。*

ヘッダーとフッターの削除

PDF Studioは、PDFドキュメントから既存のヘッダーとフッターを削除できます。この関数は、ドキュメントのすべてのページからすべてのヘッダーとフッターを削除します。

> **注意：** *ページの上部または下部にあるすべてのテキストがヘッダーまたはフッターであるとは限りません。 PDF Studioでヘッダーとフッターを削除するには、PDF標準に従ってテキストがヘッダーとフッターとしてドキュメントに追加されている必要があります。そうでない場合、ヘッダーとフッターはこの機能によって削除されません。代わりに使用する必要がありますコンテンツ編集 それらを削除するには*

すべてのヘッダーとフッターを削除する方法

選択する**[ページ]タブ>** **ヘッダーとフッター>削除** メニューから。これにより、すべてのヘッダーとフッターが削除されます ドキュメント全体のすべてのページ。

ハイパーリンク

リンクツールを使用して、PDF内のリンクを作成および編集します。リンクは自動的に生成および削除することもできます。

リンクの作成：リンクの作成方法

カスタムリンクアクション：リンクを作成するときに使用できるアクション

リンクの自動作成：自動作成リンクツールの使用

すべてのリンクを削除する：ドキュメントからすべてのリンクを削除する

リンクの作成

リンクツールを使用すると、Webページ、PDFドキュメント内のページにリンクしたり、カスタムアクションを実行したりできるPDF内の領域を指定できます。

リンクを作成する方法

1. をクリックしてリンクツールを選択します の中に**[ページ]タブ**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl+Alt + K（コマンド + Alt + K（Macの場合）
2. リンクを作成する領域をクリックしてドラッグします（**ノート：** *Shiftキーを押しながら描画すると、完全な正方形が作成されます。*）。
    - 目的のテキスト領域を選択して、選択したテキストを右クリックし（Ctrlキーを押しながらMacの場合はクリック）、コンテキストメニューで[リンクの作成]を選択することもできます。
3. リンク注釈が追加されると、[リンクのプロパティ]ダイアログが表示されます。
4. リンクのオプションを設定します。
    - **外観**
        - 境界線の幅 -境界線の幅を設定します
        - ボーダの色 -境界線の色を設定します
    - **アクション**
        - Webリンクを開きます。テスト有効なリンクの山：
            - http://www.qoppa.com
            - ftp://ftp.site.com
            - file：c：\ qoppa \ temp.txt
            - mailto：johndoe@gmail.com
        - このドキュメントのページに移動します
            - ページ
                - 番号-リンク先のドキュメントのページ番号
                - ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
                - パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
                - 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます
            - 宛先-名前付きから選択行き先 すでにPDF内に設定されています
        - 別のドキュメントのページに移動する
            - 新しいウィンドウ-PDFアプリケーションの完全に新しいウィンドウでドキュメントを開きます
            - 既存のウィンドウ-現在開いているドキュメントを置き換えて、PDFアプリケーションの現在のウィンドウでドキュメントを開きます
            - ページ番号-他のドキュメントを開くときに表示されるページ番号
            - ドキュメント-開くファイルへのフルパス。 「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。
            - 宛先-名前付きから選択行き先 すでにPDF内に設定されています
        - カスタムリンク -カスタムを追加できますリンクアクション 利用可能なアクションのリストから。
5. 完了したら、[OK]をクリックしてリンクを作成します

リンクのプロパティ

リンクプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーまたは注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。リンクには、次のプロパティ設定が含まれています。

ロック済み -チェックすると、注釈の次の操作が防止されます：移動またはサイズ変更、外観プロパティの編集、および注釈の削除。

外観

境界線の幅 -境界線の幅を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

スタイル -リンクの境界線スタイルを設定します

- 実線：実線を作成します
- 破線：破線を作成します
- 下線付き：収益のみを作成します

アクション

アクションパネルには、リンクに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますリンクアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

カスタムリンクアクション

PDFドキュメントにリンクを追加する場合、標準のリンクオプションの代わりにカスタムアクションを作成できます。以下は、各カスタムアクションとその設定のリストです。

このドキュメントのページに移動します

現在のドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
- パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
- 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます

別のドキュメントのページに移動する

別の指定されたドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ドキュメント-開くドキュメントへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

フィールドの表示/非表示

ドキュメント内の選択したフィールドを表示または非表示にするリンクを設定します

- 表示-クリックすると、選択したフィールドが表示されます
- 非表示-クリックすると、選択したフィールドが非表示になります
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

ファイルを開く

特定のファイルを開くためのリンクを設定します。

- ファイル-開くファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別の*

ユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。

Webリンクを開く

特定のWebページを開いたり、電子メールを開始したりするためのリンクを設定します。試験有効なリンクの山：

- http://www.qoppa.com
- ftp://ftp.site.com
- file：c：\ qoppa \ temp.txt
- mailto：johndoe@gmail.com

フォームフィールドのリセット

ドキュメント内の選択したフィールドをリセットするためのリンクを設定します

- すべてのフィールド-チェックすると、ドキュメント内のすべてのフィールドがリセットされます
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

JavaScriptアクション

カスタムを実行するためのリンクを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。

フォームを送信

フォームフィールドの値を4つの形式のいずれかで指定された場所に送信するためのリンクを設定します。これを使用すると、ユーザーがフォームに入力すると、フォームまたは値を自動的に送り返すことができます。

- URL-選択したファイルの送信先。試験有効なリンクの山：
    - http://www.qoppa.com
    - ftp://ftp.site.com
    - file：c：\ qoppa \ temp.txt
    - mailto：johndoe@gmail.com
- FDF-選択したフィールド値を含むFDFファイルを送信します
- XFDF-選択したフィールド値を含むXFDFファイルを送信します
- PDF-PDF全体のコピーを送信します
- HTML-選択したフィールド値を含むHTMLファイルを送信します
- フィールド-フィールド値を送信するときのオプションを設定します
    - すべてのフィールド-値に関係なくすべてのフィールドを送信します
    - 含める-ファイルを送信するときに、選択したフィールドがリストに含まれます
    - 除外-ファイルを送信するときに、リスト内の選択されたフィールドを除外します

- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します
- 空のフィールドを送信-チェックすると、フィールドが空の場合でも、選択したフィールドの値が送信されます

レイヤーの表示/非表示

ドキュメント内の選択したレイヤーを表示または非表示にするリンクを設定します

- 現在の可視性を使用-レイヤーを現在表示されているとおりに表示するアクションを設定して、後でレイヤーをオフにした場合に現在の状態に戻るようにします。
- その他-ブローオプションを使用してレイヤーに新しいアクションを設定します
  - 表示-選択したレイヤーをリストに表示します
  - 非表示-リストで選択したレイヤーを非表示にします
  - トグル-レイヤーの現在の状態に応じて、選択したレイヤーの状態を非表示から表示、または表示から非表示に切り替えます
  - レイヤーリスト-選択するドキュメント内のレイヤーのリストを表示します。複数のレイヤーを選択するには、Ctrl +クリックして個別のレイヤーを選択するか、Shift +クリックしてレイヤーのグループを選択します

名前付きアクション

以下にリストされている標準の事前定義されたアクションの1つを実行するようにリンクを設定します。

- NextPage-ドキュメントの次のページに移動します
- PrevPage-ドキュメントの前のページに移動します
- FirstPage-ドキュメントの最初のページに移動します
- LastPage-ドキュメントの最後のページに移動します
- 印刷-現在のドキュメントを印刷するための印刷ダイアログを開始します
- 保存-現在のドキュメントを保存します
- 開く-ファイルを開くダイアログを表示します

リンクの自動作成

PDF Studio内のリンクの自動作成ツールを使用すると、ドキュメント全体を検索して、ユーザーが設定した定義済みの基準のリンクを自動的に作成できます。定義された設定を使用してテキストが見つかると、リンクが自動的にに適用されます。 各テキストの場所にあるドキュメント。

注意： *リンクの自動作成ツールを機能させるには、PDFに検索可能なテキストが含まれている必要があります*

リンクの自動作成

検索する

1. 選択する**コメントタブ>リンク>リンクの自動作成**。
2. 以下の設定を使用して、ドキュメントで検索するタイプまたは特定のテキストの検索オプションを設定します
    - Webリンク-「http：//」または「www」を含むテキスト文字列を検索します。
    - メールリンク-標準の「... @ ...」形式に一致するメールを検索します
    - 検索-ユーザーが定義した特定のテキストを検索します
        - 大文字と小文字を区別-チェックすると、大文字と小文字が完全に一致する特定のテキストのみが検索されます（つまり、大文字の「A」を検索すると、小文字の「a」は無視されます）
        - URL-テキストで検索するときにリンクとして設定するWebアドレスを定義します
3. [検索]をクリックして、選択した「検索」オプションに応じて表示されるテキストをドキュメントで検索します。設定された検索オプションに基づいて見つかった一致するテキストは、次の表に表示されます。
4. リンクを追加するテキストの[作成]列のチェックボックスをオンにします。
5. 作成するリンクは、表の「リンク」列に表示されます。この値は、編集するリンクをダブルクリックして編集できます。編集が終了したら、他の場所をクリックして編集を終了します。
    - 試験有効なリンクの山：
        - http://www.qoppa.com
        - ftp://ftp.site.com
        - file：c：\ qoppa \ temp.txt
        - mailto：johndoe@gmail.com
6. 選択したテキストに対して作成されるリンクのオプションを設定します
    - 境界線の幅 -境界線の幅を設定します
    - ボーダの色 -境界線の色を設定します
    - テキストの色-これにより、見つかったテキストの色が変更されます。テキストがリンクになったことを他の人に知らせたい場合に便利です。
7. [作成]ボタンをクリックして、ドキュメントにリンクを作成します

リンクを作成すると、通常どおり機能しますリンク注釈 通常どおり編集できます。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

すべてのリンクを削除する

ドキュメントからすべてのリンクを自動的に削除するには、**コメントタブ>リンク>すべてのリンクを削除**。削除が確認されると、ドキュメント内のすべてのリンクが削除されます。

PDFページの変更

PDF Studioには、PDFドキュメント内のページを変更するために使用できる次のオプションがあります。

ページプロパティの編集 -ページのプロパティとオプションを表示して、ページにアクションを追加します

空白ページの追加 -ドキュメントに空白のページを追加します

ページのトリミング -PDFドキュメント内のページを切り抜く

添付文書 –現在のPDFドキュメントに別のPDFドキュメントを追加します。

ページの挿入 –別のPDFドキュメントのページを現在のPDFドキュメントに挿入します。

ページの抽出 –現在のドキュメントから新しいドキュメントにページを抽出します。

ページの置き換え –現在のドキュメントのページを別のドキュメントのページに置き換えます。

ページのサイズ変更 -ドキュメントの物理的なページサイズとコンテンツを適切に変更します。

ページの削除 –現在のドキュメントからページを削除します。

ページの回転 –現在のドキュメントのページを回転します。

ページを反転する –現在のドキュメントのページ順序を逆にします。

ページの移動、切り取り、コピー、貼り付け -ドキュメント内またはドキュメント間でページを切り取り/コピーして貼り付けます。

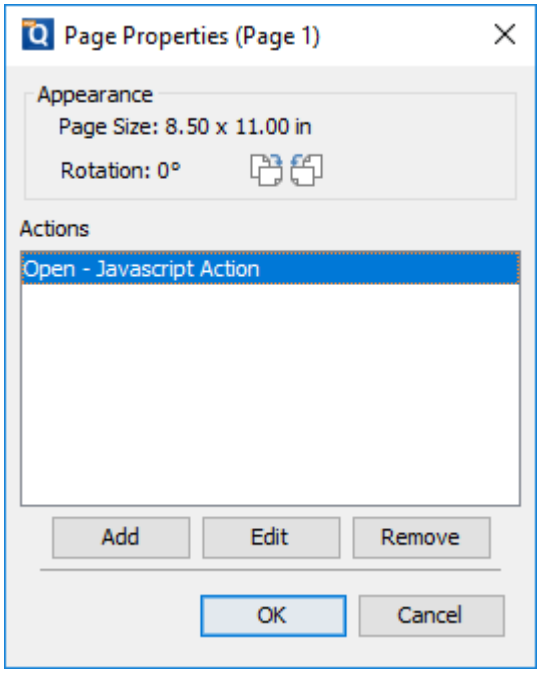
ページとして画像をインポートする -選択した画像を取得し、PDF内のページとして画像を挿入します

ページテンプレート -ドキュメント内のJavaScriptトリガーまたはアクションに基づいて追加または表示できるPDF内に保存された追加のページ。

ページラベル -ページ番号を変更して、番号の代わりにカスタムテキストを表示する

ページプロパティの編集

PDF Studioは、プロパティの表示を変更したり、PDFドキュメント内の個々のページにアクションを追加したりできます。ページに追加されたアクションは、ページが表示領域に入るとき、または表示領域から出るときにトリガーできます。



ページプロパティの表示

マウスの右クリック（Mac：Ctrl +クリック）を使用して、プロパティを表示する単一のページを選択します**ページのプロパティ**。以下の詳細とオプションが利用可能です。

外観 -選択したページのページサイズを表示します

回転 -ページに設定されている現在の回転を表示します

行動 -アクションパネルには、ページに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

- 追加：以下の使用可能なページアクションのリストからページにアクションを追加します
- 編集：リストで現在選択されているアクションを編集します
- 削除：現在選択されているアクションをリストから削除します

ページアクションオプション

ページにアクションを追加する場合、次のオプションを使用できます

ページ -ページでアクションがトリガーされるタイミングを決定します

- 開く：ページが表示された瞬間にアクションをトリガーします
- 閉じる：ページが表示されなくなったときにアクションをトリガーします

アクション -以下の利用可能なページアクションから選択して、ページに追加します

利用可能なページアクション

このドキュメントのページに移動します

現在のドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
- パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
- 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます

別のドキュメントのページに移動する

別の指定されたドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ドキュメント-開くドキュメントへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

フィールドの表示/非表示

ドキュメント内の選択したフィールドを表示または非表示にするリンクを設定します

- 表示-クリックすると、選択したフィールドが表示されます
- 非表示-クリックすると、選択したフィールドが非表示になります
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

ファイルを開く

特定のファイルを開くためのリンクを設定します。

- ファイル-開くファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

  注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別の*

ユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。

Webリンクを開く

特定のWebページを開いたり、電子メールを開始したりするためのリンクを設定します。試験有効なリンクの山：

- http://www.qoppa.com
- ftp://ftp.site.com
- file：c：\ qoppa \ temp.txt
- mailto：johndoe@gmail.com

フォームフィールドのリセット

ドキュメント内の選択したフィールドをリセットするためのリンクを設定します

- すべてのフィールド-チェックすると、ドキュメント内のすべてのフィールドがリセットされます
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

JavaScriptアクション

カスタムを実行するためのリンクを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。

フォームを送信

フォームフィールドの値を4つの形式のいずれかで指定された場所に送信するためのリンクを設定します。これを使用すると、ユーザーがフォームに入力すると、フォームまたは値を自動的に送り返すことができます。

- URL-選択したファイルの送信先。試験有効なリンクの山：
  - http://www.qoppa.com
  - ftp://ftp.site.com
  - file：c：\ qoppa \ temp.txt
  - mailto：johndoe@gmail.com
- FDF-選択したフィールド値を含むFDFファイルを送信します
- XFDF-選択したフィールド値を含むXFDFファイルを送信します
- PDF-PDF全体のコピーを送信します
- HTML-選択したフィールド値を含むHTMLファイルを送信します
- フィールド-フィールド値を送信するときのオプションを設定します
  - すべてのフィールド-値に関係なくすべてのフィールドを送信します
  - 含める-ファイルを送信するときに、選択したフィールドがリストに含まれます
  - 除外-ファイルを送信するときに、リスト内の選択されたフィールドを除外します
  - フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

- 空のフィールドを送信-チェックすると、フィールドが空の場合でも、選択したフィールドの値が送信されます

レイヤーの表示/非表示

ドキュメント内の選択したレイヤーを表示または非表示にするリンクを設定します

- 現在の可視性を使用-レイヤーを現在表示されているとおりに表示するアクションを設定して、後でレイヤーをオフにした場合に現在の状態に戻るようにします。
- その他-ブローオプションを使用してレイヤーに新しいアクションを設定します
  - 表示-選択したレイヤーをリストに表示します
  - 非表示-リストで選択したレイヤーを非表示にします
  - トグル-レイヤーの現在の状態に応じて、選択したレイヤーの状態を非表示から表示、または表示から非表示に切り替えます
  - レイヤーリスト-選択するドキュメント内のレイヤーのリストを表示します。複数のレイヤーを選択するには、Ctrl +クリックして個別のレイヤーを選択するか、Shift +クリックしてレイヤーのグループを選択します

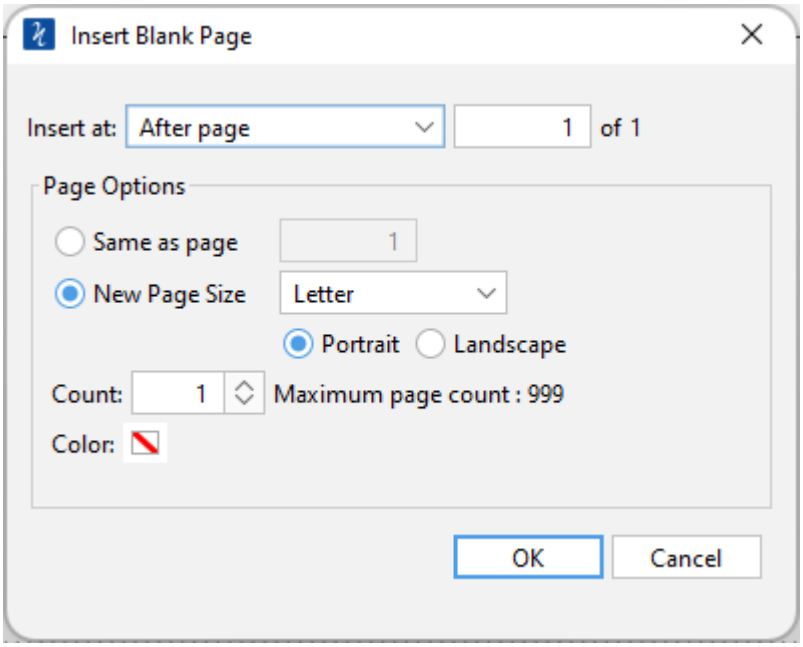
名前付きアクション

以下にリストされている標準の事前定義されたアクションの1つを実行するようにリンクを設定します。

- NextPage-ドキュメントの次のページに移動します
- PrevPage-ドキュメントの前のページに移動します
- FirstPage-ドキュメントの最初のページに移動します
- LastPage-ドキュメントの最後のページに移動します
- 印刷-現在のドキュメントを印刷するための印刷ダイアログを開始します
- 保存-現在のドキュメントを保存します
- 開く-ファイルを開くダイアログを表示します

空白ページの追加

PDF Studioは、空白のページをPDFに直接追加できます。これは、仕切りを作成したり、コンテンツのページを追加したりする必要がある場合に役立ちます。



空白ページを追加する方法

1. に移動します**[ページ]タブ** >> **挿入**> **空白ページを追加** ツールバー上 または、ショートカットキーCtrl + Shift + B（Macの場合は⌘+ Shift + B）を使用します
2. これにより、[空白ページの挿入]ダイアログが表示されます。新しい空白のページに使用する設定を入力します
3. [OK]をクリックして、ページをドキュメントに追加します

空白のページ設定

で挿入 -空白のページを挿入するドキュメントの場所。

- ドキュメントの先頭：ドキュメントのページ1として空白のページを挿入します
- ドキュメントの終わり：ドキュメントの最後のページの後に空白のページを挿入します
- ページの後：ドキュメントの指定されたページの後に空白のページを挿入します

ページサイズ -新しく作成されたページのサイズ

- ページと同じ：設定したページ番号と同じ寸法と向きでページを作成します
- サイズ：ドロップダウンで設定されたサイズと向きの設定を使用してページを作成します

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ドキュメントの追加

PDFStudioは追加できますaのnyサポートされているファイルタイプ PDFに。 PDF以外のファイルを選択すると、ドキュメントに追加される前に自動的にPDFに変換されます。 ファイルをサムネイルペインに直接ドラッグしてファイルを追加することもできます。

メニューの使用

単一のドキュメントを追加する

を選択 **[ページ]タブ>** **挿入>ドキュメントの追加** ツールバー上 と選択します 現在のドキュメントの最後に挿入するファイル。

複数のドキュメントを追加する

1. を選択 **[ページ]タブ>** **挿入>複数のドキュメントを追加 s**
2. 使用するオプションを設定します。詳細については、を参照してください。バッチマージ
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

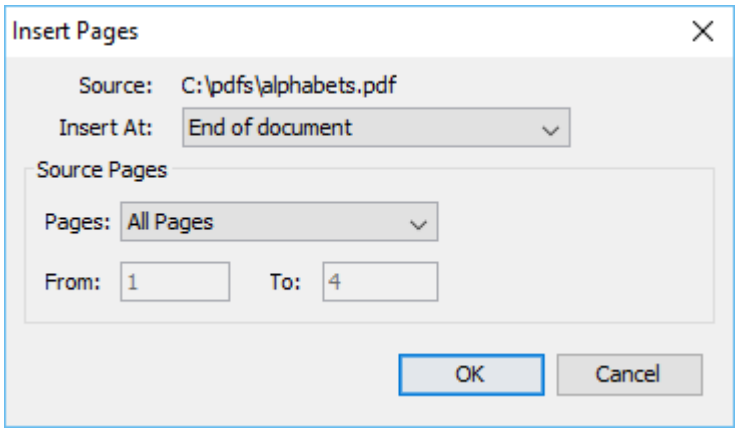
ドラッグアンドドロップの使用

マウスを使用してサムネイルペインからサムネイルページを選択し、次の手順を実行します。

- コピー-サムネイルページを選択して、ソースドキュメントから2番目のドキュメントの宛先ドキュメントのサムネイルペインにドラッグします。
- 移動-ソースドキュメントからサムネイルページを選択します。 Ctrlキーを押しながら、2番目のドキュメントのサムネイルペイン内の目的の場所にページをドラッグします。

ページの挿入

PDF Studioは、PDF内で指定した場所に他のPDFドキュメントを挿入できます。これは、複数のPDFを1つのドキュメントに結合し、ドキュメントのページを特定の場所に挿入する必要がある場合に役立ちます。ページを挿入することもできます 別のPDFドキュメントを開き、目的のページのサムネイルを現在のドキュメントにドラッグして、別のPDFドキュメントから移動します。



メニューの使用

を選択 **[ページ]タブ>** **挿入>ページの挿入** ツールバー上 と選択します 現在のドキュメントに挿入するドキュメント。

ページ挿入オプション

ソース- ページの送信元となるドキュメントを選択します

- 参照：マシンに保存されているファイルを見つけて選択します
- ドキュメントを開く：ドロップダウンを使用して、PDFStudioで現在開いているドキュメントの1つから選択します

で挿入 -選択したドキュメントのページを挿入する場所

- ドキュメントの終わり：ドキュメントの終わりにページを挿入します
- ドキュメントの先頭：ドキュメントの先頭にページを挿入します
- ページ後：指定したページ番号の後にページを挿入します
- インターリーブ：このオプションを使用して、1ページおきに挿入できます。これは、両面ドキュメントで特に役立ちます。

ソースページ -PDFに挿入される選択されたドキュメントのページ

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、挿入するページを設定します

- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

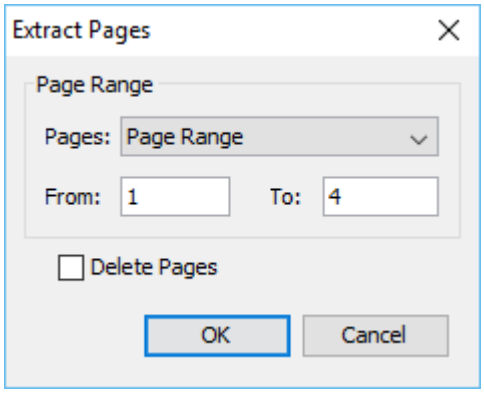
ドラッグアンドドロップの使用

マウスを使用してサムネイルペインからサムネイルページを選択し、次の手順を実行します。

- コピー-サムネイルページを選択して、ソースドキュメントから2番目のドキュメントの宛先ドキュメントのサムネイルペインにドラッグします。
- 移動-ソースドキュメントからサムネイルページを選択します。 Ctrlキーを押しながら、2番目のドキュメントのサムネイルペイン内の目的の場所にページをドラッグします。

ページの抽出

PDF Studioは、PDFから新しいPDFにページを抽出できます。これは、PDFのセクションを別のドキュメントに抽出する必要がある場合に役立ちます。抽出したいページのサムネイルを選択してドラッグすることで、ページを抽出することもできます。 選択したページをPDFStudioの外部で、フォルダーまたはデスクトップに配置します。



メニューの使用

を選択 **[ページ]タブ>** **エキス** ツールバー上 現在のページからページを抽出するには 新しいものに文書化します。

ページオプションの抽出

ページ範囲 -抽出するページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して抽出するページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

ページを削除 -チェックすると、抽出中のページがPDFから削除されます。変更を保持するには、元のドキュメントを保存する必要があります。

ドラッグアンドドロップの使用

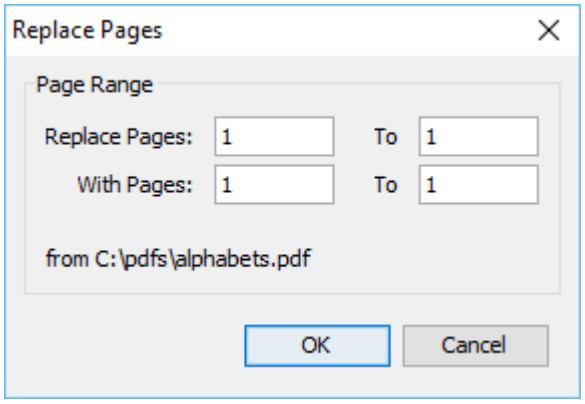
マウスを使用してサムネイルペインからサムネイルページを選択し、次の手順を実行します。

- コピー-サムネイルページを選択して、ドキュメントからフォルダまたはデスクトップにドラッグします。
- 移動-ソースドキュメントからサムネイルページを選択します。 Ctrlキーを押しながら、ページをフォルダまたはデスクトップにドラッグします。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ページの置き換え

PDF Studioは、別のPDFのページを使用して、PDFのページを置き換えることができます。これは、既存のドキュメントのページを別のドキュメントのページに置き換える必要がある場合に役立ちます。



メニューの使用

を選択 **[ページ]タブ>** **交換** ツールバー上 置き換えるドキュメントを選択します のページ。次に、現在のドキュメントのページ範囲を選択して、選択したドキュメントのページ範囲に置き換えます。

ページオプションの置き換え

ページを置き換える：現在開いているドキュメント内の置き換えられるページ

ページ付き：現在のドキュメントのページを置き換える新しいドキュメントのページ

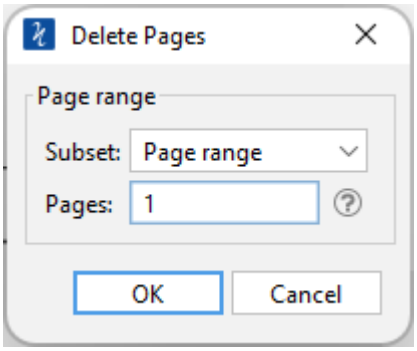
ソース- ページの送信元となるドキュメントを選択します

- 参照：マシンに保存されているファイルを見つけて選択します
- ドキュメントを開く：ドロップダウンを使用して、PDFStudioで現在開いているドキュメントの1つから選択します

コンテンツのみを置き換える：コメント、フォームフィールド、ブックマークなどの既存のインタラクティブ機能をすべて保持したまま、ページコンテンツのみを新しいページコンテンツに置き換えます。

ページの削除

PDF Studioは、PDFドキュメント内からページを削除できます。これは、メニューまたはサムネイルペインのいずれかを使用して実行できます。



メニューの使用

を選択 **[ページ]タブ>** **削除** ツールバー上 現在のページからページを削除するには 資料。

ページオプションの削除

ページ範囲 -削除するページの範囲

- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、削除するページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ
- 空白ページ：ドキュメント内の空白ページのみを削除します。
  - Aページの分析-このオプションをオンにすると、個々のページが分析され、他のページと比較して実際に空白になっているページがどれだけあるかがわかります。結果を改善するために必要な場合は、許容値の設定を調整します。
  - 許容値-この値は、ページ上のアーティファクトの許容値を増やします。空白のページにスキャンラインや折り目などのマークが含まれている場合は、この値を増やして、より良い結果を得ます。

注意： *ページがスキャンされたドキュメントから作成された場合、ページはバンクに表示される場合がありますが、実際には白一色の画像が含まれているため、ページは空白とは見なされません。*

ページサムネイルの使用

ページのサムネイルペインで、削除するページの1つまたはグループを選択してから次の手順を実行します。

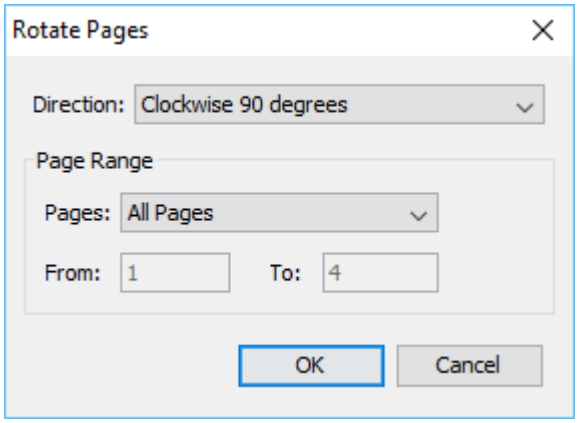
- キーボードのDelキーを押します
- 選択したページのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[ページの削除]をクリックします

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ページの回転

PDF Studioは、ドキュメントの複数のページを一度に回転させることができます。これは、ドキュメントが逆さまにスキャンされた場合、または現在間違った方向に表示されている場合に役立ちます。ページは90度単位でのみ回転できます。

> **注意：** *ページの回転は異なります回転ページビュー これは一時的なものではなく、このツールを使用して行った変更により、保存時にドキュメント内のページが永続的に回転します。*



メニューの使用

を選択 **[ページ]タブ>** **回転する**ツールバー上 またはショートカットキーCtrl + Shiftを使用します + R（Macでは⌘+ Shift + R）を使用して、現在のドキュメントのページを回転します。ドキュメントを保存して、ページの回転を保存します。

回転ページオプション

方向 -ページを回転させる方向と量

- 時計回りに90度：ページを右に90度（1/4回転）回転します
- 180度：ページを180度回転します
- 反時計回りに90度：ページを左に90度（1/4回転）回転します

ページ範囲 -回転するページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、回転するページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

ページサムネイルの使用

ページ回転ボタンの使用

1. ページのサムネイルペインで、回転させたいページの1つまたはグループを選択します
2. サムネイルペインの上部にあるアイコンの1つをクリックして、ページを回転させます

    時計回りに回転します：ページを右に90度（1/4回転）回転します

    反時計回りに回転：ページを左に90度（1/4回転）回転させます

右クリックメニューの使用

1. ページのサムネイルペインで、回転させたいページの1つまたはグループを選択します
2. 選択したページのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[ページの回転]を強調表示します。次の3つのオプションを利用できます
    - **時計回りに90度**：ページを右に90度（1/4回転）回転します
    - **180度**：ページを180度回転します
    - **反時計回りに90度**：ページを左に90度（1/4回転）回転させます
3. 選択したページを回転させるオプションをクリックします

    注意： *これにより、ドキュメント自体で回転されたページの回転プロパティが更新され、ドキュメントの保存時に回転が保存されます。現在のビューでのみページを一時的に回転するには、の[時計回りに回転]ボタンと[反時計回りに回転]ボタンを使用します。ツールバー または[表示]メニュー。*

ページを反転する

PDF Studioは、PDF内のページの順序を自動的に逆にすることができます。これはメニューから実行でき、たとえばドキュメントが逆にスキャンされた場合に役立ちます。

メニューの使用

を選択 **[ページ]タブ>** **逆行する**ツールバー上 メニューから逆に 現在のドキュメントのページ順序。

ページのトリミング

PDF Studioは、PDFドキュメントのクロップボックス、ブリードボックス、トリムボックス、およびアートボックスを調整できます。ドキュメントは、トリミングダイアログまたはトリミングツールを使用してトリミングできます。単位は、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルで指定できます。トリミングが適用できます 単一のページ、ページの範囲、またはすべてのページに。

ページを切り抜く方法

ダイアログの使用

1. に移動**[ページ]タブ>** **ページを切り抜く**をクリックします 下矢印と選択 **ボックスマージン** ツールバー上 または、ショートカットキーCtrl + Shift + C（Macの場合は⌘+ Shift + C）を使用します
2. ドキュメントの切り抜き設定と値を入力します
3. [OK]をクリックして設定を適用します

ドラッグ＆クロップの使用

1. をクリックして切り抜きツールをアクティブにします の切り抜きツールボタン**[ドキュメント]タブ**
2. 次に、ページ上の領域をクリックしてマウスでドラッグし、保持したい領域を選択します。
3. マウスボタンを離すと、ページの切り抜き余白が表示され、切り抜きダイアログが開いて、切り抜き値を手動で調整できます。
4. [OK]をクリックして設定を適用します

作物の設定

ボックス

クロップボックス -表示または印刷時に、ページのコンテンツが表示またはトリミングされる領域。

ブリードボックス -実稼働環境で出力するときにページのコンテンツをクリップする必要がある境界。

トリムボックス -トリミング後の完成したページの意図された寸法。

アートボックス -ドキュメント作成者が意図したページの意味のあるコンテンツ（潜在的な空白を含む）の範囲。

マージン

サイズ -一度トリミングされたページのサイズを表示します

単位 -切り抜きマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

上 -上からのマージンの距離

下 -下からのマージンの距離

左 -左からのマージンの距離

正しい -右からのマージンの距離

ページ

すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ

現在のページ：現在表示されているページ

ページ：必要に応じて、カンマで区切った値を使用してページのカスタム範囲を設定します。たとえば、30ページのドキュメントの2〜4ページと6〜12＆20ページのみを印刷するには、「2-4、6-12、20」と入力します。

サブセット：現在設定されている印刷ページ範囲のサブセット。以下のオプションから選択してください

- 範囲内のすべてのページ：設定された範囲内のすべてのページを印刷します
- 偶数ページのみ：設定された範囲（2、4、6など）の偶数ページのみを印刷します
- 奇数ページのみ：設定された範囲（1、3、5など）の奇数ページのみを印刷します

ページのサイズ変更

PDF Studioは、ページのサイズを指定されたサイズに変更できます。このツールを使用して、コンテンツがページによりよくフィットするようにページを拡大縮小したり、境界線や余白を増やしたりすることができます。単位は、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルで指定できます。サイズ変更は、単一のページ、ページの範囲、またはすべてのページに適用できます。

ページのサイズを変更する方法

ダイアログの使用

1. に移動**[ページ]タブ>** **ページのサイズ変更** ツールバー上
2. ドキュメントのページサイズ設定と値を選択します
3. [OK]をクリックして設定を適用します

ページサムネイルの使用

1. ページのサムネイルペインで、サイズを変更するページの1つまたはグループを選択します
2. 選択したページのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[ページのサイズ変更]を選択します
3. ドキュメントのページサイズ設定と値を選択します
4. [OK]をクリックして設定を適用します

サイズ変更設定

新しいページ

新しいページサイズ -事前定義された標準ドキュメントサイズのリストからページサイズを選択できます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> **注意**：*「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

単位 -切り抜きマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

幅 -W選択した単位でのページのID

高さ - 高さ選択した単位でのページの

比例を保つ -幅と高さの値の同期を維持するように切り替えます

現在のページ

ロケーション -新しいページサイズ内の現在のページの場所を選択します。

カスタム -x座標とy座標を使用してページの場所を設定します

- バツ -ページの左側を基準にして、元のドキュメントコンテンツの左側の位置を設定します
- y-ページの下部を基準にして元のドキュメントコンテンツの上部の位置を設定します

センター -元のページコンテンツを新しいページサイズの中央に配置します

回転 -元のページコンテンツを回転させる角度（度単位）

注意：*コメントとフォームはローテーションされません。*

規模-現在のページのスケールを新しいページサイズ内に設定します

- カスタム-設定されたパーセンテージ値を使用してページを拡大縮小します
- スケールに合わせて-新しいページサイズに最も合うようにページコンテンツのサイズを変更します

その他

作物をページに合わせる -クロップボックスをメディアボックスと同じに設定します

リセット -オプションを元のドキュメント値にリセットします

ページ

すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ

現在のページ：現在表示されているページ

ページ：必要に応じて、カンマで区切った値を使用してページのカスタム範囲を設定します。たとえば、30ページのドキュメントの2〜4ページと6〜12＆20ページのみのサイズを変更するには、「2-4、6-12、20」と入力します。

サブセット：現在設定されている印刷ページ範囲のサブセット。以下のオプションから選択してください

- 範囲内のすべてのページ：設定された範囲内のすべてのページを印刷します
- 偶数ページのみ：設定された範囲（2、4、6など）の偶数ページのみを印刷します
- 奇数ページのみ：設定された範囲（1、3、5など）の奇数ページのみを印刷します

ページのラベル付け

PDF Studioは、PDFドキュメントにページラベルを追加できます。ページラベルを使用すると、ブックマークや標準のページ番号とは異なる名前や番号を設定できます。たとえば、ドキュメントの冒頭の序文に小文字のローマ数字（iii、iv、v、vi）を使用します。ページラベルは、プレフィックスを含むさまざまな番号付けスタイルを使用してスタイルを設定できます。ページラベルは、単一のページ、ページの範囲、またはすべてのページに適用できます。

ページラベルを変更する方法

ダイアログの使用

1. に移動**[ページ]タブ>** **ページのサイズ変更** ツールバー上
2. ドキュメントのページラベル設定と値を選択します
3. [OK]をクリックして設定を適用します

ページサムネイルの使用

1. ページのサムネイルペインで、サイズを変更するページの1つまたはグループを選択します
2. 選択したページのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[ページのラベル付け]を選択します
3. ドキュメントのページラベル設定と値を選択します
4. [OK]をクリックして設定を適用します

サイズ変更設定

ページ範囲

すべてのページ -ドキュメント内のすべてのページ

選択済み -サムネイルペインで選択されたページのみ

ページ範囲 -[開始]および[終了]オプションを使用して、ページを回転するように設定します

ラベル

スタイル -ページ番号値のスタイルを設定します

- 無し
- 標準（1、2、3）
- 小文字のローマ数字（iii、iv、v、vi）
- 大文字のローマ数字（III、IV、V、VI）
- 小文字の英数字（a、b、c）
- 大文字の英数字（A、B、C）

プレフィックス -選択した数値スタイルの前に表示されるテキスト

開始 -選択したスタイルと選択したプレフィックスオプションを使用して、選択したページのラベル付けを開始する番号

ページの移動、切り取り、コピー、貼り付け

サムネイルペインのページサムネイルを使用して、ドキュメント内または異なるドキュメント間でページをコピーまたは移動できます。

ページサムネイルペインでページサムネイルをドラッグすると、他のページサムネイルの間にバーが表示され、ページの移動先が示されます。

PDF内で、ページサムネイルを使用する

マウスを使用してサムネイルペインからサムネイルページを選択し、次の手順を実行します。

ドラッグアンドドロップの使用

- 移動-サムネイルページを選択して、サムネイルペイン内の目的の場所にドラッグします。

右クリックの使用（Mac：Ctrl +クリック）

- コピー-右クリック（Mac：Ctrl +クリック）するか、キーボードショートカットを使用して選択したページをコピーします。
- 移動-右クリック（Mac：Ctrl +クリック）するか、キーボードショートカットを使用して選択したページを切り取ります。
- 貼り付け-右クリック（Mac：Ctrl +クリック）するか、キーボードショートカットを使用して、コピーまたは切り取ったページを同じドキュメントに貼り付けます。

PDF間、ページサムネイルの使用

マウスを使用してサムネイルペインからサムネイルページを選択し、次の手順を実行します。

ドラッグアンドドロップの使用

- コピー-サムネイルページを選択して、ソースドキュメントから2番目のドキュメントの宛先ドキュメントのサムネイルペインにドラッグします。
- 移動-ソースドキュメントからサムネイルページを選択します。 Ctrlキーを押しながら、2番目のドキュメントのサムネイルペイン内の目的の場所にページをドラッグします。

右クリックの使用（Mac：Ctrl +クリック）

- コピー-右クリック（Mac：Ctrl +クリック）するか、キーボードショートカットを使用して選択したページをコピーします。
- 移動-右クリック（Mac：Ctrl +クリック）するか、キーボードショートカットを使用して選択したページを切り取ります。
- 貼り付け-右クリック（Mac：Ctrl +クリック）するか、キーボードショートカットを使用して、コピーまたは切り取ったページを同じドキュメントに貼り付けます。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ページとして画像をインポートする

PDF Studioは、画像をページとしてPDFに直接インポートできます。これは、スキャンしたページやチャートをドキュメントに追加する場合などに役立ちます。次の画像タイプをインポートできます：* png、* jpg、* jpeg、* jpe、* gif、* tif、* tiff。

メニューの使用

1. を選択 **[ページ]タブ>** **挿入>画像をページとしてインポート** ツールバー上
2. [ファイルの追加]または[フォルダの追加]を使用して、ページとして挿入するファイルを選択します。
3. すべてのファイルが追加されたら、[開始]をクリックしてファイルのマージ/変換を開始します。
4. すべての画像は1回のアクションで変換され、ドキュメントの最後に追加されます。

ドラッグアンドドロップの使用

マウスを使用してフォルダまたはデスクトップから画像を選択し、それらをドキュメントのサムネイルペインに直接ドラッグして、ページに変換します。

ページテンプレート

ページテンプレートは、PDF内に保存されている追加のページであり、JavaScriptトリガーまたはドキュメント内のアクションに基づいて追加または表示できます。ページテンプレートを使用すると、元々ドキュメントの一部であるように見えないページを追加できるため、より動的なPDFを作成できます。

例：詳細のページを追加するオプションを備えた検査フォームを作成する場合は、追加の詳細ページのページテンプレートを作成し、必要に応じてPDFにページを追加するボタンを設定できます。

ページテンプレートの作成方法

1. PDFドキュメントを開く/作成する
    - **注意**：*テンプレートとして使用するページは、ドキュメントにすでに存在している必要があります*
2. [ページテンプレート]ダイアログを起動するには、**[ページ]タブ>テンプレート**
3. 「追加」をクリックして、ページテンプレートの設定を行います
4. 完了したら、[OK]をクリックしてページテンプレートを設定します

ページテンプレートを作成したら、ページテンプレートを使用するためのイベントまたはトリガーを設定する必要があります。これを行うには、手順3で設定したページテンプレート名を参照する新しいページを作成するJavaScriptをドキュメントに追加します。

```
expTplt = getTemplate（ "{テンプレート名はこちら}"）；

expTplt.spawn（insertAtPage、renameFields、newPage）；
```

expTplt。spawn（）オプション：

- insertAtPage：ページを挿入するページ番号
- renameFields：挿入されるページテンプレートのフィールドの名前を変更するには true / false
- newPage：true =既存のページの上にページを追加/ false =新しいページを作成

ページテンプレート設定

名前：ページテンプレートの名前。テンプレートの生成に使用されるJavaScriptの後半でテンプレートを参照するために使用されます

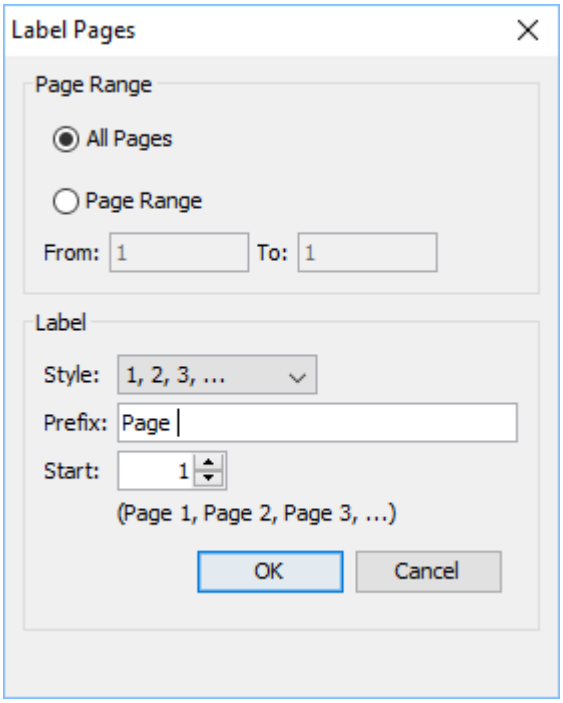
目に見える：テンプレートとして設定されたページが最初にドキュメント内に表示されるかどうか

ページの選択：ページナビゲーションツールとプレビューを使用して、テンプレートで使用するページを選択します

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ページラベル

ページラベルを使用すると、ブックマークや標準のページ番号とは異なる名前や番号を設定できます。たとえば、ドキュメントの冒頭の序文に小文字のローマ数字（iii、iv、v、vi）を使用してページの番号を付け直すことができます。ページラベルは、プレフィックスを含むさまざまな番号付けスタイルを使用してスタイルを設定できます。ページラベルは、単一のページ、ページの範囲、またはすべてのページに適用できます。



ページにラベルを付ける方法

ダイアログの使用

1. に移動します**[ページ]タブ> [ラベルページ]** ツールバー上
2. ドキュメントのページラベル設定を選択します
3. [OK]をクリックして設定を適用します

ページサムネイルの使用

1. ページのサムネイルペインで、ラベルを付けるページの単一またはグループを選択します
2. 選択したページのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[ページのラベル付け]を選択します
3. ドキュメントのページラベル設定を選択します
4. [OK]をクリックして設定を適用します

ページラベル設定

ページ範囲

すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ

ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、抽出するページを設定します

ラベル

スタイル： ページ番号の値のスタイルを設定します

- 無し
- 標準（1、2、3）
- 小文字のローマ数字（iii、iv、v、vi）
- 大文字のローマ数字（III、IV、V、VI）
- 小文字の英数字（a、b、c）
- 大文字の英数字（A、B、C）

プレフィックス： 選択した数値スタイルの前に表示されるテキスト

開始： 選択したスタイルと選択したプレフィックスオプションを使用して、選択したページのラベル付けを開始する番号

PDFの最適化

PDF Studioには、PDFドキュメントを最適化するときに使用できる次の機能があります。

PDFの最適化：PDFStudioでオプティマイザーを使用してPDFを最適化する方法

オプティマイザー設定：PDFドキュメントを最適化するときに利用できるオプション

オプティマイザープロファイル：既存のPDFオプティマイザープロファイルの使用と管理

PDFの最適化

PDF Studioは、PDFドキュメントを最適化することができます。 PDFファイルのサイズを小さくするために画像を圧縮したり、オブジェクトを削除したりする必要がある場合は、PDFドキュメントの最適化が役立ちます。 PDFStudioで利用できる多くの異なる最適化オプションがあります。

PDFドキュメントを最適化する方法

1. ツールバーで**[ドキュメント]タブ>** **最適化** またはショートカットキーCtrl + Shift + O（コマンド + Shift + O（Macの場合）
2. これにより、オプティマイザー設定 ダイアログ
3. を選択しますオプティマイザープロファイル または、ドキュメントを最適化するために使用する設定
4. 完了したら、[最適化]をクリックします。これにより、ドキュメントを保存する場所の入力を求められます
   - **注意：***ドキュメントが保護またはロックされている場合、ロックが解除されるまでドキュメントを最適化することはできません。*
5. ドキュメントの保存場所を設定して[保存]をクリックすると、ドキュメントが最適化され、選択した場所に保存されます。
6. 最適化が完了すると、新しいファイルが自動的に開かれ、結果を確認できるように最適化レポートが表示されます。

PDFを分析する

最適化する前に、ドキュメントを分析して、フォント、画像、注釈などを含む特定のドキュメント要素がドキュメント内にあるかどうかを判断できます。次に、レポートを使用して、ファイルサイズを効果的に削減するための最適なオプションを決定できます。

を開きますオプティマイザー設定 ダイアログをクリックし、「分析」ボタンをクリックしてレポートを生成します。

オプティマイザ設定

以下は、PDFオプティマイザーの各設定のリストとそれらの機能の説明です。

PDF最適化オプション：

プロフィール

PDF Studioには、一般的にほとんどのシナリオをカバーするPDFを最適化するための3つのデフォルトプロファイルが付属しています。ユーザーはカスタムを作成できますオプティマイザープロファイル 設定を再入力せずに保存して後で再利用できる特定のニーズに合わせるため。

含まれるデフォルトのプロファイル：

- 光-より高品質の画像を維持する光圧縮
- バランス-ほとんどの標準的なニーズに適した圧縮
- アグレッシブ-画質を犠牲にしながら高圧縮

画像処理

PDF Studioは、さまざまな設定を使用して、ドキュメントに含まれる画像を処理できます。

画像圧縮	任意の画像をJPEG、JPEG2000、FLATE、またはJBIG2のいずれかに変換します。 ・ JPEG-画質とサイズを低下させる不可逆圧縮 ・ JPEG2000-サイズと品質を低下させる非可逆圧縮 ・ FLATE-可逆圧縮は品質を低下させませんが、ファイルサイズを常に低下させるとは限りません ・ JBIG2-黒と白の色空間のみをサポートできる可逆圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適 **ノート：** **注-「カラースペース」または「DPI」に変更が加えられるたびに、画像を再圧縮する必要があります。「変更なし」オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像圧縮形式を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている最も一致する圧縮に再圧縮します。*
画質	画質を10〜100%の範囲で調整できます。 ・ これは、JPEGまたはJPEG2000画像にのみ影響します。これは、これらが画質設定をサポートする唯一の形式であるためです。

画像の色空間	画像の色を保持するか、グレースケールまたは白黒に変換するかを選択します。 ・ グレースケール-JPEG、JPEG2000、またはFLATEでのみサポートされます。フルカラー画像に最適 ・ B&W-FLATEまたはJBIG2でのみサポートされます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適 ***ノート：***「*変更なし*」*オプションが選択されている場合、PDFStudioは現在の画像の色空間を維持しようとします。サポートされていない場合、PDFStudioはサポートされている最も近い色空間に再圧縮します。保持オプションを選択すると、JDK 1.7のリグレッションバグにより、CMYK色空間のJPEG画像がRGBに変換されます。*
DPI（ドット/インチ）解像度	選択したオプションよりも大きいすべての画像の画像解像度を調整します ・ プリセットオプションには、保持、50、100、150、200、300、および600DPIが含まれます ・ カスタムオプションを使用すると、ユーザーは50～1200DPIの任意の値を設定できます

オブジェクトの削除

PDF Studioは、PDF内から次のオブジェクトを削除できます。

代替画像	高解像度印刷に使用される代替の埋め込み画像辞書を削除して、ファイルサイズを縮小します。表示中にPDFに表示された表示画像のみがドキュメントに保持されます。
ブックマーク	PDFドキュメントからすべてのブックマークを削除します
ドキュメント情報	ドキュメントのプロパティにあるドキュメント情報を削除します（**ファイル>ドキュメントのプロパティ**）これには次のものが含まれます。 ・ 題名 ・ 著者 ・ 主題 ・ キーワード ・ プロデューサー

JavaScriptアクション	これにより、PDFドキュメントからすべてのJavaScriptアクションが削除されますが、フォームフィールド、プッシュボタンなどのJavaScriptアクションがあった可能性のあるオブジェクトはすべて保持されます...
埋め込まれたサムネイル	PDFドキュメントに保存されているページのサムネイルを削除します。削除すると、ドキュメントが読み込まれるたびにページのサムネイルがレンダリングされます。
未使用のリソース	ドキュメント内にあるが、PDFドキュメント内のオブジェクトによって参照されることのないリソースを削除します。
コメントコメント	PDFドキュメントからすべての注釈とコメントを削除します
リンク	PDFドキュメントからすべてのリンクを削除します
添付ファイル	ドキュメント内に保存されている添付ファイルをすべて削除します
フォームフィールド	PDFドキュメントにあるすべてのフォームフィールドを削除します
高度なメタデータ	PDFドキュメントからすべての追加または余分なメタデータを削除します

その他のオプション

PDF Studioには、PDFドキュメントをさらに圧縮するために使用できる次の追加オプションがあります。

すべてのコメントをフラット化	テキストボックス、図形、ハイライト、スタンプなどのすべての注釈をドキュメントに直接フラット化して、編集できないようにします。 ・ 付箋などの注釈ではコメントが削除されますが、画像は引き続きドキュメントに配置されます

	ノート：*次の注釈（ファイル添付注釈、リンク、サウンド、および編集注釈）は、注釈を平坦化するときに削除されませんs。技術的には、添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈は注釈ですが、注釈が平坦化された場合にも削除されるアクションが含まれているため、PDFに配置された機能に干渉しません。*
すべてのフィールドをフラット化	テキストボックス、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックス、リストボックス、ボタン、署名フィールドを含むすべてのフィールドをドキュメントに直接フラット化して、編集できないようにします。フィールド内のすべての値もフラット化されます
すべてのレイヤーをフラット化	現在表示されているすべてのレイヤーをメインページのコンテンツにマージします。
重複する画像をマージする	すべてのオブジェクトが同じリソースの複数ではなく同じ画像リソースを参照するように、PDF内の重複する画像をマージします
重複するフォントをマージする	すべてのオブジェクトが同じリソースの複数ではなく同じフォントリソースを参照するように、PDF内の重複するフォントまたはフォントサブセットをマージします
ストリームを圧縮する	他のプロセスによって最適化されていないページの説明など、ドキュメント内の追加のPDF要素を圧縮して、ファイルサイズをさらに縮小します
ドキュメントオブジェクトを圧縮する	このオプションは、オブジェクトストリームに圧縮できる他のドキュメントオブジェクトを圧縮します。オブジェクトストリームには、一連のPDFオブジェクトが含まれています。オブジェクトストリームの目的は、より多くのPDFオブジェクトを圧縮できるようにすることで、PDFファイルのサイズを大幅に削減することです。ストリーム内のオブジェクトは、圧縮オブジェクトと呼ばれます。
明確な署名	PDFドキュメントにあるが、署名フィールドを残すすべての署名を削除します

高速Webビュー

高速Webビューに変換	オンにすると、ドキュメントがに変換されます高速Webビュー。 高速Webビューに変換すると、Webからダウンロードするときに大きなドキュメントをより速くロードできます。ドキュメントの構造とコンテンツを線形化された（最初から最後まで）順序にすることで、ドキュメントの残りの部分がまだロードされているときに、ブラウザが最初のページをすぐに表示できるようになります。

報告

結果ログの生成	オンにすると、出力は、新しい最適化されたファイルと同じディレクトリにあるドキュメントへの変更をログに記録するテキストファイルを作成します。

オプティマイザープロファイル

最適化プロセスを簡単にするために、PDF Studioでは、後で使用するために設定を保存できるオプティマイザープロファイルを作成できます。 PDF Studioには、使用できる3つのデフォルトプロファイルが付属しています。または、空白のテンプレートから、または既存のデフォルトプロファイルの1つを変更して、独自のプロファイルを作成できます。

> **注意**：*ドキュメントを最適化する前に、オプティマイザ構成を作成または保存する必要はありません。設定を保存せずにドキュメントを最適化するには、**[ドキュメント]タブ> 最適化>最適化...** 使用する設定を選択し、[適用]をクリックして、プロファイルを保存せずに最適化設定を実行します。*

オプティマイザプロファイルの作成

1. ツールバーで**[ドキュメント]タブ> 最適化>最適化...** またはショートカットキーCtrl + Shift + O（コマンド + Shift + O（Macの場合）
2. これにより、オプティマイザー設定 ダイアログ
3. プロファイルに含めるすべてのオプションを設定します。ドロップダウンから[<新規アイテム>]を選択すると、既存のプロファイルまたは空のテンプレートから開始できます。
4. 設定が完了したら、[保存]をクリックします。これにより、プロファイルに名前を付けるためのウィンドウが表示されます。
5. 空白のテンプレートから開始する場合、このフィールドは空白になります。以前にプロファイルを使用したことがある場合は、以前のプロファイル名が表示されます。以前のプロファイルを更新するだけの場合は、名前を残して[OK]をクリックします。新しいプロファイルを作成する場合は、名前を付けて保存する新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。
6. 完了すると、プロファイルがドロップダウンメニューとメニューバーのクイック最適化オプションで利用できるようになります

既存のオプティマイザープロファイルを使用してPDFドキュメントを最適化する

既存のオプティマイザプロファイルを使用するには、次の2つの方法があります。

最適化ダイアログから

最適化するドキュメントを開きます。からオプティマイザダイアログを開きます**[ドキュメント]タブ> 最適化>最適化...** またはショートカットキーCtrl + Shift + O（コマンド**+ Shift + O（Macの場合）**。コンボボックスのドロップダウンリストからオプティマイザプロファイルを選択し、ダイアログの下部にある[適用]ボタンをクリックします。

最適化メニューから

最適化するドキュメントを開きます。下**[ドキュメント]タブ> 最適化**メニューには、以前に作成したすべての最適化プロファイルのリストがあります。

注意：*[メニューに表示]オプションを選択したものだけがこのリストに表示されます。実行するリストでオプティマイザープロファイルをクリックすると、オプティマイザープロファイルに保存されている設定を使用してPDFの最適化がすぐに開始されます。*

デフォルトのオプティマイザプロファイル設定

光

高品質の画像を維持する光圧縮

- カラー画像
  - 圧縮= JPEG-品質= 8
  - DPI = 600
- グレースケール画像
  - 圧縮= JPEG-品質= 8
  - DPI = 600
- 白黒画像
  - 圧縮= JBIG2
  - DPI = 600
- オブジェクトの削除
  - 代替画像、未使用のリソース、埋め込みサムネイル
- その他
  - 非圧縮ストリームのフラット化、重複画像のマージ、重複フォントのマージ

バランスの取れた

ほとんどの標準的なニーズに適した圧縮

- カラー画像
  - 圧縮= JPEG-品質= 5
  - DPI = 150
- グレースケール画像
  - 圧縮= JPEG-品質= 5
  - DPI = 150
- 白黒画像
  - 圧縮= JBIG2
  - DPI = 300
- オブジェクトの削除
  - 代替画像、未使用のリソース、埋め込みサムネイル
- その他
  - すべてのコメントをフラット化、非圧縮ストリームをフラット化、重複画像をマージ、重複フォントをマージ

アグレッシブ

画質を犠牲にしながら高圧縮

- カラー画像
  - 圧縮= JPEG2000-品質= 3

    - DPI = 100
- グレースケール画像
    - 圧縮= JPEG2000-品質= 3
    - DPI = 100
- 白黒画像
    - 圧縮= JBIG2
    - DPI = 150
- オブジェクトの削除
    - 代替画像、添付ファイル、メタデータ、未使用のリソース、埋め込みサムネイル、コメント
- その他
    - すべてのフィールドをフラット化、非圧縮ストリームをフラット化、重複する画像をマージ、重複するフォントをマージ

PDFレイヤー

PDFレイヤーを使用すると、ドキュメント内の他のコンテンツの上または下にコンテンツを配置できます。 PDF内の個々のレイヤーは、必要に応じてユーザーが表示または非表示にできます。各レイヤーには、独自のコメントセットを関連付けることもできます それらを使用して、別のレイヤーに割り当てたり、現在のレイヤーにフラット化することもできます。 PDF Studioは、次のレイヤー機能をサポートしています。

> **注意**：*レイヤーを操作するには、最初にレイヤーペインを開く必要があります。*

レイヤーの表示/非表示：選択したレイヤーを表示または非表示にする方法

空白のレイヤーを追加する Pro ：PDFに新しい空白レイヤーを追加する

PDFをレイヤーとしてインポートする Pro ：PDFを新しいレイヤーとしてインポートする

レイヤーへのコメントの割り当て：レイヤーの指定方法コメントは追加され、既存のコメントを新しいレイヤーに移動します

コメントをレイヤーにフラット化する：特定のレイヤーのコメントをフラット化する方法

レイヤーをマージする Pro -特定のレイヤーを選択して、1つのレイヤーに結合します

レイヤーをフラット化 Pro -すべてのレイヤーをベースコンテンツにフラット化します

レイヤープロパティ Pro ：利用可能なレイヤーのプロパティと設定

レイヤーペインの表示

レイヤーペインは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます **レイヤー** 画面左側のボタン。

レイヤーの表示/非表示

ドキュメントを表示するとき、レイヤーのオンとオフを切り替えて、さまざまなビューを作成できます。

ノート：*[レイヤーのリセット]メニューオプションを使用して、レイヤーを元の状態にリセットできます。*

PDFでレイヤーを表示/非表示にする方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. レイヤー名の横にあるチェックボックスをクリックして、レイヤーを表示または非表示にします
3. 通常どおりにドキュメントの作業を続行します

> **ノート：***レイヤーのオンとオフを切り替えても、ドキュメントは変更されず、保存されません。 PDFを開くときにデフォルトの状態を変更するには、を参照してください。レイヤーのプロパティ*

空白のレイヤーを追加する

PDFStudioのドキュメントに空白のレイヤーを追加できます。これは、すべてのコメントをドキュメントとは別のレイヤーに配置する場合に便利です。 PDFにレイヤーを追加すると、そのレイヤーは常に現在PDFにある他のすべてのレイヤーの上に配置されます。

PDFに空白のレイヤーを追加する方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. クリックしてください **レイヤーを追加** レイヤーペインの上部にあるボタン
3. 新しいレイヤーの名前を入力します
4. [OK]をクリックして新しいレイヤーを作成します

> **注意**：*PDFにレイヤーを追加すると、そのレイヤーは常に現在PDFにある他のすべてのレイヤーの上に配置されます。*

PDFをレイヤーとしてインポートする

PDF Studioを使用すると、別のPDFを新しいレイヤーとして既存のPDFにインポートできます。これは、複数のドキュメントを相互にマージする場合に便利です。

PDFをレイヤーとしてインポートする方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. クリックしてください **PDFをレイヤーとしてインポート** レイヤーペインの上部にあるボタン
3. 新しいレイヤーとしてインポートするPDFファイルを選択します
4. 新しいレイヤーのオプションを設定します
5. 完了したら、[OK]をクリックして新しいレイヤーを作成します

PDFをレイヤーオプションとしてインポート

ソースページ

ページ範囲 -トリミングするページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、トリミングするページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみをトリミングします
- 奇数ページのみ：奇数ページのみをトリミングします

インポートオプション

層 -PDFドキュメントをインポートするレイヤー。 <新しいレイヤー>を選択して新しいレイヤーを作成します

レイヤー名 -ドキュメントのインポート先のレイヤーの名前。 <新しいレイヤー>を選択した場合は、新しいレイヤーの名前を入力する必要があります

ページから -レイヤーの追加を開始する現在のドキュメント内のページ

印刷物に表示 -ドキュメントの印刷時にレイヤーを表示するかどうか。

インサート -現在のページコンテンツの上または後ろにレイヤーを挿入することを選択します

レイヤーへのコメントの割り当て

コメントは、ドキュメント内の特定のレイヤーに割り当てることができます。コメントがレイヤーに関連付けられている場合、レイヤーを表示または非表示にすることもコメントに影響します。レイヤーをコメントレイヤーとして指定するか、コメントを新しいレイヤーに移動することができます。 レイヤーなしに関連付けられているコメントは、プライマリPDFコンテンツの一部になります。

コメントレイヤーの指定

レイヤーがコメントレイヤーとして指定されると、今後のすべての新しいコメントがこのレイヤーに追加されます

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. コメントレイヤーとして設定するレイヤーを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）します。
3. を選択してください**コメントレイヤー** 右クリックメニューのオプション
4. [OK]をクリックして確認します
5. 通常どおりにドキュメントの作業を続行します

注意：*手順1～3を繰り返して、レイヤーをコメントレイヤーとして指定解除します*

コメントを新しいレイヤーに移動する

プロパティダイアログを使用して、既存のコメントを新しいレイヤーに移動できます

1. 注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[コメント]プロパティにアクセスします。**プロパティ** 右クリックメニューまたは編集ボタンをクリックします にミニツールバー。
   - 注意：*Ctrlキーを押しながらクリックして、編集するすべての注釈を最初に選択することにより、複数の注釈を一度に編集できます。*
2. [全般]タブに移動します
3. [レイヤー]オプションで、注釈の移動先のレイヤーを選択します
4. [OK]をクリックして変更を適用します

注意：*選択したレイヤーが現在非表示になっている場合、レイヤーが再度表示されるまで注釈は表示されなくなります。*

レイヤーに関するコメントのフラット化

注釈の平坦化とは、注釈が属するレイヤーに直接注釈をペイントして、編集できないようにすることです。これにより、ドキュメントに注釈が永続的に書き込まれます。たとえば、カスタム署名スタンプを平坦化できます そのため、署名はドキュメント自体に追加され、注釈としてドキュメントに配置されなくなります。

> **注意**：*次の注釈（リンク、サウンド、および編集注釈）は、注釈を平坦化するときに削除されませんs。技術的には、リンク、サウンド、および編集アノテーションはアノテーションですが、アノテーションがフラット化された場合にも削除されるアクションが含まれているため、PDFに配置された機能に干渉しません。*

レイヤー上のすべてのコメントをフラット化する方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. コメントをフラット化するレイヤーを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、**コメントをフラット化** オプション
3. [OK]をクリックして確認します

> **注意**： *これは、元に戻すことはできません。このアクションを完了する前に、必ずコピーを保存してください。*

レイヤーをマージする

PDF Studioを使用すると、複数のレイヤーを1つのターゲットレイヤーにマージできます。選択したレイヤーに属するすべてのコンテンツがターゲットレイヤーの一部になります。これを使用して、類似したレイヤーを結合し、ドキュメント内のレイヤーオプションの数を減らすことができます。

PDFでレイヤーをマージする方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. クリックしてください **オプション** ボタンをクリックして選択します**レイヤーをマージする**
3. [マージするレイヤー]リストから、マージする1つ以上のレイヤーを選択します。
   - *ShiftキーまたはCtrlキー（Macの場合はCommand）を押しながら、複数のレイヤーを選択します。*
4. [ターゲットレイヤー]リストで、手順3で選択したレイヤーをマージするレイヤーを選択します。
5. [マージ]をクリックしてプロセスを開始します

レイヤーをフラット化

Flatten Layers関数は、現在表示されているすべてのレイヤーをメインページのコンテンツにマージします。これにより、基本的に、ドキュメント内のすべてのレイヤーがページのメインコンテンツに統合されます。

PDFのレイヤーをフラット化する方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. クリックしてください **オプション** ボタンをクリックして選択します**レイヤーをフラット化**
3. ドキュメントを保存して変更を保持します

レイヤーを削除する

レイヤーの削除機能は、選択したレイヤーとそれに関連するすべてのコンテンツを削除します。

PDFのレイヤーをフラット化する方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. クリックしてください **オプション** ボタンをクリックして選択します**レイヤーを削除する**
3. ドキュメントを保存して変更を保持します

レイヤープロパティ

PDF Studioを使用すると、PDF内のレイヤーのプロパティを変更できます。

レイヤープロパティにアクセスする方法

1. をクリックしてレイヤーペインにアクセスします **レイヤー** 画面左側のボタン。
2. レイヤーを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューで[プロパティ]を選択します
3. 使用するレイヤープロパティオプションを設定します
4. [OK]をクリックして変更を適用します

レイヤープロパティオプション

名前 -レイヤーの名前

デフォルトの状態 -ドキュメントを最初に開いたときのレイヤーのデフォルトの状態

印刷物に表示 -印刷時にレイヤーを表示するかどうかを設定するオプション。

ロックレイヤー -チェックすると、ドキュメントが保護されている場合、レイヤーが変更されないようにロックされます

編集

墨消しツールは、墨消しされたコンテンツのすべての痕跡をドキュメントから完全に削除します。テキスト、注釈、フォームフィールドを削除するだけでなく、画像の一部と全体を編集することもできます。

> **ノート：***必要に応じて、ドキュメント内の隠された情報をさらにサニタイズできます。ドキュメントのサニタイズ 道具。*

墨消しとは何ですか？

PDF編集 *公開または配布する前にドキュメントから情報を削除する場合です。これは、他の人に見られたりアクセスされたりしたくない機密情報や個人情報があるが、それでもドキュメントの一部を利用できるようにしたい場合に必要になることがよくあります。この最も一般的な例は、テキストの一部を覆う黒い長方形です。*。

これは**非常に** ドキュメントからテキスト/オブジェクトを編集するときは、正しく行われていることが重要です。すべての編集が同じであるとは限りません。間違って行われた場合でも、個人は情報を取得できます。以下のテキストを例にとると、テキストの一部が編集されており、それが何であるかがわかりません。

> 私の銀行口座番号は[redacted] ルーティング番号は[redacted]。

カーソルを使用して上記のテキストを強調表示すると、テキストを簡単に確認できます。テキストを黒い不透明な長方形で覆うだけで単語が隠されているように見えますが、実際には情報はまだそこにあります。誰でも情報をコピーして他のドキュメントに貼り付けることができます。同じことが、テキストを黒い四角の注釈で隠そうとする場合にも当てはまります。テキストは注釈の下にまだ存在しており、注釈を削除するかテキストを抽出することで簡単にアクセスできます。

墨消しの手順：

1. 墨消し注釈：編集後のドキュメントの外観のプレビューを提供する編集注釈をドキュメントに追加し、調整することもできます墨消しのプロパティ 適用される前に。
2. 墨消しの適用：これは注釈を「焼き込み」、注釈の領域の下にあるドキュメントからテキスト、画像、注釈、フォームフィールド、または図面を削除します。

墨消しツールの起動

1. [編集ツール]ボタンをクリックしてツールをアクティブにします に**[ドキュメント]タブ** またはショートカットキーCtrl+Shift + Yを使用（Macでは⌘+ Shift + Y）
2. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、編集するテキスト、画像、または領域を選択します。
3. 選択したら、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューで[すべての編集を適用]を選択するか、[墨消しツールボタン に **[ドキュメント]タブ**、クリックしてください ▼ 下矢印を選択して選択します**すべての編集を適用する**。

4. 選択モードを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc。

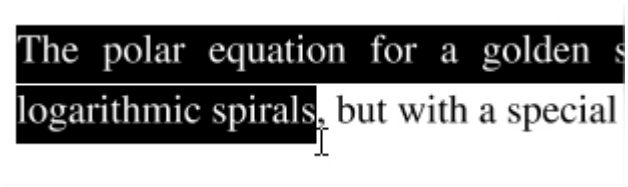
改訂注釈

墨消しの最初のステップは、墨消し注釈を追加することです。ドキュメントに編集注釈を追加すると、編集後のドキュメントの外観のプレビューが提供され、適用する前に編集プロパティを調整することもできます。

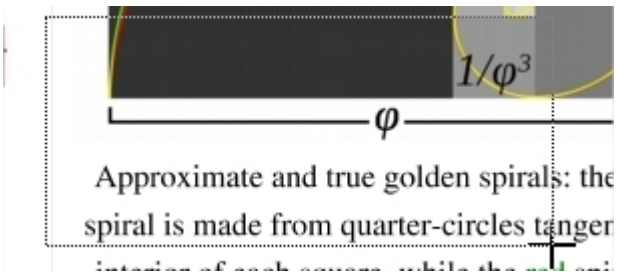
1. [編集ツール]ボタンをクリックしてツールをアクティブにします に**[ドキュメント]タブ** または、ショートカットキーCtrl + Shift + Y（Macでは⌘+ Shift + Y）を使用します。
2. 次に、マウスで領域をクリックまたはドラッグして、編集するテキスト、画像、または領域を選択します。
3. 選択したら、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューで[すべての編集を適用]を選択するか、[墨消しツールボタン に **[ドキュメント]タブ**、クリックしてください 下矢印を選択して選択します**すべての編集を適用する**。
4. 選択モードを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc。

> **注意**：*マウスポインタがカーソルの場合、編集するテキストを選択できます。ポインタがプラス記号の場合、長方形をドラッグして、その領域の画像、描画、およびテキストのセクションを囲むことができます。*

カーソル選択



長方形の選択



墨消し注釈を作成する方法

以下の手順に従って、PDFStudioでPDFドキュメントを安全に編集できます。ドキュメントが適切に編集されるようにするには、以下のすべての手順を完了することが重要です。墨消しツールはPDFコンテンツのみを削除します。

> **注意**：*必要に応じて、ドキュメント内の隠された情報をさらにサニタイズできます*[*ドキュメントのサニタイズ*](#) *ツール。*

編集手順

1. [編集ツール]ボタンをクリックしてツールをアクティブにします に**[ドキュメント]タブ** または、ショートカットキーCtrl + Shift + Y（Macでは⌘+ Shift + Y）を使用します。

2. 編集したいコンテンツのマーク付けを開始します。これは、次の3つの方法で実行できます。
   - **テキスト**： カーソルを使用して編集したいテキストを強調表示することにより、テキストに編集のマークを付けることができます。
   - **その他のオブジェクト/画像**： 選択できないその他のオブジェクト（画像、スキャンしたテキスト、パスなど）は、Ctrl +クリック（Macの場合は⌘+クリック）を使用してドラッグし、編集するコンテンツの上にボックスを作成することで、編集対象としてマークできます。
   - **代替選択方法**：単語または画像をダブルクリックして、その単語または画像だけを強調表示して編集します。
3. 墨消しのマークを付けた各アイテムには、赤い輪郭の透明な黒いボックスが表示されます。**重要**：テキストはまだ編集されていません。これらのマークは、何が編集されるかを示すためにあり、編集前に何が削除されるかを確認できます。
4. ****とっても大事**** すべてのアイテムに編集のマークを付けたら、ドキュメントのコンテンツを実際に編集する必要があります。これを行うには、右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューで[すべての編集を適用]を選択するか、[墨消しツールボタン に**[ドキュメント]タブ**、クリックしてください 下矢印を選択して選択します**すべての編集を適用する**。
5. オン完了したら、編集ツールを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

墨消しのプロパティ

PDF内からコンテンツを編集する場合、設定できるさまざまなオプションがあります。これらのオプションは、編集注釈または一度適用された編集のいずれかに適用できます。

墨消し注釈のプロパティ

墨消し注釈のプロパティにアクセスするには、墨消し注釈を右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。墨消し注釈には、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

注釈

アウトラインカラー -編集注釈のみの境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -編集注釈のみの塗りつぶし色を設定します

透明性 -編集注釈のみの形状の透明度を設定します

編集

塗りつぶしの色 -適用された後の編集の塗りつぶし色を設定します

> **注意：** *[色なし]オプションを選択すると、コンテンツが消去され、編集が適用された後はコンテンツがあった場所に正方形が配置されません。*

テキスト -これは、適用されると、編集正方形の上にテキストを適用します

フォント -編集の上に配置されたテキストのフォント

フォントサイズ -編集の上に配置されたテキストのフォントサイズ

フォントの色 -編集の上に配置されたテキストの色

配置 -編集の上に配置されたテキストの配置

テキストを繰り返す -天気予報か、編集の上に配置されたテキストを継続的に繰り返さないか

注/コメント -マウスにカーソルを合わせると表示される図形にメモを追加できます

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択した外観設定が、今後の新しい編集注釈のデフォルトになります。

ロック済み -チェックすると、注釈の移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

一般

著者 -作成者を編集できます

件名 -件名を編集できます

ステータス履歴

このタブには、作成者、ステータス、タイムスタンプなどの注釈のレビューステータスが表示され、変更されます。詳細については、を参照してください。注釈のステータスまたはチェックマークの設定

墨消しの適用

編集を適用することは、選択したコンテンツが実際に削除されることを保証するための重要なステップです。これにより、注釈が「焼き付け」られ、注釈の領域の下にあるドキュメントからテキスト、画像、注釈、フォームフィールド、または図面が削除されます。

墨消しの適用

後に編集プロセスを完了するには墨消し注釈 適用されたら、以下の手順に従ってください。

1. 墨消し注釈を右クリックし（Mac：Ctrl +クリック）、マウスメニューで[すべての墨消しを適用]を選択するか、[墨消しツールボタン に **[ドキュメント]タブ**、クリックしてください 下矢印を選択して選択します**すべての編集を適用する**。
2. ドキュメントが編集され、マークされたすべてのアイテムが黒い四角になります（で別の色のオプションが選択されていない場合）墨消しのプロパティ）。
3. 必ずドキュメントを保存してください。ドキュメントが実際に編集されていることを確認したい場合は、以下の手順に従って確認できます。
4. の上完了したら、編集ツールを終了するには、手のひらツールをクリックするだけです。 またはキーボードのEsc

> **ノート：***必要に応じて、ドキュメント内の隠された情報をさらにサニタイズできます。ドキュメントのサニタイズ 道具。*

PDFドキュメントが正しく編集されているかどうかを確認する

テキスト選択、テキスト検索、およびコンテンツエディタツールを使用して、PDF Studioでドキュメントが正しく編集されたかどうかを確認し、編集しようとしたコンテンツを選択できるかどうかを確認できます。

テキスト選択ツールの使用

1. チェックしたい編集済みPDFドキュメントを開きます
2. を使用してテキストの選択 ツールは、編集された単語を含むテキスト行を強調表示します
3. ショートカットキーCTRL+C（Macの場合は⌘+ C）を使用して、強調表示されたテキストをクリップボードにコピーします
4. 任意のテキストエディタ（Word、メモ帳、テキスト編集など）を開きます
5. Ctrl + V（Macでは⌘+ V）を使用して、強調表示したテキストを貼り付けます
6. 正しく編集した場合は、編集されていないテキストのみが表示されます。削除しようとしたテキストが正しく行われていなかった場合。

高度な検索ツールの使用

1. チェックしたい編集済みPDFドキュメントを開きます
2. を開きます高度な検索 をクリックしてツール**ホームタブ**> **探す**ツールバーで、またはCtrl-F（MacではCmd + F）を押します

3. 編集した単語を入力して、[新規検索]をクリックします
4. これにより、検索ボックスに入力した内容と一致するすべてのテキストのリストが表示されます。結果が表示されたら、各結果をクリックして、そのテキストがドキュメント内のどこにあるかを確認できます。
5. 正しく編集した場合は、編集されていないテキストのみが検索結果に表示され、強調表示されます。削除しようとしたテキストが正しく行われていなかった場合。

コンテンツエディタの使用

1. チェックしたい編集済みPDFドキュメントを開きます
2. を開始しますコンテンツ編集 をクリックしてツール の[コンテンツの編集]ボタン**[ドキュメント]タブ**、またはショートカットキーCtrl + Shift + Eを使用（Macでは⌘+ Shift + E）
3. ドキュメントの編集ボックスをクリックして選択し、ボックスを移動または削除します。
4. 正しく編集した場合は、編集ボックスがあった場所の下に何も残っていないはずです。削除しようとしたテキストが正しく行われていなかった場合。

> **ノート：** *画像の一部または全部を編集する場合、編集正方形が画像の一部になり、実際の正方形を移動または削除できない場合があります。編集プロセス中に、画像に透明度の値がない場合、削除されたデータは黒一色に変換されます。黒い四角が画像の一部になり、画像とともに移動する限り、適切に編集されます。*

PDFドキュメントの分割

PDF Studioには、PDFドキュメントを分割するときに使用できる次のオプションがあります。

PDFの分割：PDFドキュメントを分割する方法

PDFオプションの分割：PDFドキュメントを分割するときに使用できるオプション

PDFプロファイルの分割：既存のPDF分割プロファイルの使用と管理

PDFの分割

PDF Studioは、さまざまな方法でPDFドキュメントを分割できます。使用可能な分割オプションを以下に示します。

- **等しいサイズのドキュメント**：ドキュメントを同数のページに分割します
- **ページ範囲**：定義されたページ範囲のセットでドキュメントを分割します
- **空白ページ**：空白ページでドキュメントを吐き出します
- **ブックマークで**：ブックマークでドキュメントを分割します
- **テキストの前**：指定したテキストの前にドキュメントを分割します
- **テキストの後**：指定したテキストの後にドキュメントを分割します

PDFを分割する方法

1. 分割するドキュメントを開きます。
    - **注意：** *すぐに適用せずに分割プロファイルを作成するだけの場合、これは必須の手順ではありません。*
2. に移動します**[ページ]タブ>** **分割>カスタム分割**ツールバー上
3. 希望の記入をしてくださいPDFオプションの分割 現在の分割構成の場合。の名前PDFプロファイルを分割 このステップで設定して、後で再利用できるように設定を保存することもできます。
    - **注意：** *ドキュメントを分割する前に、分割構成を作成または保存する必要はありません。現在の分割構成を保存するには、[保存]ボタンをクリックして名前を入力します。*
4. 現在のドキュメントを分割するには、[適用]をクリックします

PDFオプションの分割

以下は、PDFドキュメントを複数のドキュメントに分割するときに使用できるオプションです。

設定

使用可能な設定は、ダイアログ内で使用可能な設定に基づいてセクションに分割されます。

一般

現在の分割プロファイルに関連付けられているオプション。

名前

分割プロファイルの名前（作成されている場合）。

新しいプロファイルを作成するには、[<新しいプロファイル>]を選択して[保存]をクリックします。次に、新しいプロファイルの名前を入力します

メニューに表示

アクセスを高速化するために、この分割構成を[PDFの分割]メニューに表示するかどうか。

分割法

このセクションを使用して、ドキュメントを複数のドキュメントに分割する方法をPDFStudioに指示します。このセクションで使用可能なオプションは次のとおりです。

の等しいサイズのドキュメントに分割

この方法を使用して、ドキュメントを指定されたページ数の同じサイズのドキュメントに分割します。テキストフィールドにページ数を入力します。

ページ範囲で分割（1,3-5; 7-10）

この方法を使用して、ページ範囲に基づいてドキュメントを複数のドキュメントに分割します。テキストフィールドにページ範囲を入力します。ダッシュはページ範囲に使用され、コンマは同じドキュメント内のページを区切るために使用され、セミコロンはドキュメントを区切るために使用されます。したがって、たとえば、1、3-5; 7-10は、2つのドキュメントを出力します。最初のドキュメントはページ1、3、4、および5で、2番目のドキュメントはページ7、8、9、および10です。

空白ページで分割

この方法を使用して、白いページが発生したときにドキュメントを分割します。白いページはドキュメント間の区切り文字として使用され、破棄されます。ホワイトページを検出するには、次の2つの方法があります。

標準-コンテンツを含まない空白ページでドキュメントを分割します。

> **注意：** *ページがスキャンされたドキュメントから作成された場合、ページはバンクに表示される場合がありますが、実際には白一色の画像が含まれているため、ページは空白とは見なされません。*

ページの分析-このオプションをオンにすると、個々のページが分析され、他のページと比較して実際に空白になっているページがどれだけあるかがわかります。結果を改善するために必要な場合は、許容値の設定を調整します。

許容値-この値は、ページ上のアーティファクトの許容値を増やします。空白のページにスキャンラインや折り目などのマークが含まれている場合は、この値を増やして、より良い結果を得ます。

レベルでブックマークで分割

この方法を使用して、レベル1のブックマークに基づいてドキュメントを分割します。レベル3など、より高いレベルに分割することもできます。この場合、ドキュメントはブックマークレベル1、レベル2で分割されます。この方法では、ブックマークにPDFドキュメント自体の中にページへ移動アクションが含まれており、ブックマークがページの昇順で作成されていることを前提としています。

テキストの前に分割

この方法を使用して、ドキュメント内の特定のテキストが検出されたときにドキュメントを分割します。ページ内でテキストが検出されると、このページが次のドキュメントの最初のページになります。

テキストの後に分割

この方法を使用して、ドキュメント内の特定のテキストが検出されたときにドキュメントを分割します。ページ内でテキストが検出されると、このページがドキュメントの最後のページになり、次のページが次のドキュメントの最初のページになります。

ファイルの保存先

このセクションでは、出力PDFファイル（受信ドキュメントを分割して取得したPDFドキュメント）について説明します。

ファイル名パターン

このセクションでは、出力ファイルのパターンを決定します。

ソースファイル名を使用

このオプションを選択すると、現在のPDFドキュメント（分割されるドキュメント）の元のファイル名が出力ファイルの名前に使用されます。

追加

出力PDFファイルごとに、任意の番号から始まるページ範囲または増分カウンターを追加することを選択できます。 PDF Studioは、元のPDFファイル名から始まります（元のPDFファイル名は、以下の「PDFファイル名の変更」セクションを使用して最初に変更できることに注意してください）。

- ページ範囲：[ページ範囲]オプションを選択すると、PDF Studioはページ範囲を含む文字列を追加します（たとえば、test_p4-p6.pdf）。 [ページ範囲で分割]方法を選択すると、ページ範囲の数式が文字列として追加されます（たとえば、ページ範囲の数式1,3,5-10は、test_1_3_5-10.pdfという名前の新しいファイルを作成します）。アンダースコア文字がページ範囲の数式の前にあり、コンマがアンダースコア文字に置き換えられていることに注意してください。
- 開始番号：このオプションを選択すると、PDFStudioは増分カウンターを追加します。カウンターは、新しい受信PDFファイルごとにリセットされます。
- 現在のブックマーク-このオプションは、[ブックマークで分割]方法が選択されている場合にのみ使用できます。これにより、開始ブックマークの名前が出力ドキュメント名に追加されます（たとえば、「カバーページ」が最初のブックマーク名である場合、最初の出力ドキュメントの名前はtest_p1-p1_CoverPage.pdfになります）。すべてのオペレーティングシステムがこのファイル名を受け入れることを保証するために、文字、数字、ハイフン、およびアンダースコア文字のみがブックマーク名に保持されます。カンマはアンダースコアに置き換えられます。
- ブックマーク階層：このオプションは、[ブックマークで分割]方法が選択されている場合にのみ使用できます。これにより、親と子のブックマーク名の名前が出力ドキュメント名に追加されます（たとえば、「カバーページ」が最初のブックマーク名である場合、最初の出力ドキュメントの名前はtest_p1-p1_CoverPage.pdfになります）。すべてのオペレーティングシステムがこのファイル名を受け入れることを保証するために、文字、数字、ハイフン、およびアンダースコア文字のみがブックマーク名に保持されます。カンマはアンダースコアに置き換えられます。

新しいファイル名

このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、このフィールドに入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $ sourcefilename-ソースファイルの名前
- $ counter-1から始まる数値
- $ pagerange-ページ範囲
- $ firstpage-範囲の最初のページ
- $ lastpage-範囲内の最後のページ
- $ date-現在の日付
- $ pagelabel-ページラベル

移動先フォルダ

このセクションでは、出力PDFファイルが保存される宛先フォルダーを決定します。

ソースフォルダを使用する

このオプションを選択すると、現在のPDFドキュメント（分割されているドキュメント）の元のフォルダーが出力ファイルの保存に使用されます。

フォルダのプロンプト

設定すると、プロファイルは分割を実行する前に出力ファイルを保存するためのディレクトリを要求します

移動先フォルダ

このオプションを選択した場合、出力ファイルを保存するフォルダを選択する必要があります。 [参照]ボタンをクリックすると、フォルダを参照できます。

ファイルを上書きする

このオプションを選択すると、分割プロセス中に同じ名前のファイルが検出された場合、ファイルは上書きされます。それ以外の場合、選択されていない場合、ファイルの末尾に番号が追加されます。

PDFプロファイルの分割

分割PDFプロファイルを使用すると、カスタム分割設定をテンプレートとして保存し、後でドキュメントを分割するために再度使用できます。 「メニューに表示」に使用できるオプションもあり、これがプロファイルに設定されている場合は、下に配置されます**ドキュメント>ページの再配置>ドキュメントの分割** これにより、ドキュメントメニューから2回クリックするだけでプロファイルを実行できます。

> **注意**：*ドキュメントを分割する前に、分割構成を作成または保存する必要はありません。設定を保存せずにドキュメントを分割するには、***[ページ]タブ>** **分割>カスタム分割** *使用する設定を選択し、[適用]をクリックして、プロファイルを保存せずに分割設定を実行します。*

分割PDFプロファイルの作成

1. に移動します**[ページ]タブ>** **分割>カスタム分割**ツールバー上
2. 希望の記入をしてくださいPDFオプションの分割 現在の分割構成の場合。
3. プロファイルに含めるすべてのオプションを設定します。ドロップダウンから[<新しいアイテム>]を選択すると、既存のプロファイルまたは空白のテンプレートから開始できます。
4. 設定が完了したら、[保存]をクリックします。これにより、プロファイルに名前を付けるためのウィンドウが表示されます。
5. 空白のテンプレートから開始する場合、このフィールドは空白になります。以前のプロファイルから開始した場合は、以前のプロファイル名が表示されます。以前のプロファイルを更新するだけの場合は、名前を残して[OK]をクリックします。新しいプロファイルを作成する場合は、名前を付けて保存する新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。
6. 完了すると、プロファイルがドロップダウンメニューとメニューバーのクイックオプションで利用できるようになります

既存の分割プロファイルを使用してPDFドキュメントを分割する

既存の分割プロファイルを適用するには、次の2つの方法があります。

分割ダイアログから

分割するドキュメントを開きます。に移動します**[ページ]タブ>** **分割>カスタム分割**ツールバーにあります。コンボボックスのドロップダウンリストから分割プロファイルを選択し、ダイアログの下部にある[適用]ボタンをクリックします。

[ドキュメントの分割]メニューから

分割するドキュメントを開きます。に移動します**[ページ]タブ>** **スプリット**ツールバー上 メニューには、以前に作成したすべての分割プロファイルのリストがあります。実行するリストで分割プロファイルをクリックすると、分割プロファイルに保存されている設定の使用がすぐに開始されます。

注意：*[メニューに表示]オプションを選択したものだけがこのリストに表示されます。*

透かし

PDF Studioには、PDFで透かしを操作するときに使用できる次のオプションがあります。

透かしの作成：透かしを作成してPDFに適用する方法

透かしオプション：透かしを追加するときに使用できるオプション

透かしプロファイル：既存の透かしプロファイルの使用と管理

透かしの削除：ドキュメントから透かしを削除する

透かしの作成

PDF Studioは、PDFにカスタム透かしを追加できます。これを使用して、会社のロゴまたは「機密」などのラベルをドキュメント内のページに追加できます。

透かしを作成して適用する方法

1. 透かしを追加するドキュメントを開きます
   - **注意：** *すぐに適用せずに透かしプロファイルを作成するだけの場合、これは必須の手順ではありません。*
2. に移動**[ページ]タブ>** **透かし>追加**
3. 希望の記入をしてください透かしオプション。の名前透かしプロファイル このステップで設定して、後で再利用できるように設定を保存することもできます。
   - **注意：** *透かしプロファイルをドキュメントに適用する前に、透かしプロファイルを作成または保存する必要はありません。現在の透かし設定を保存するには、[保存]ボタンをクリックして名前を入力します。*
4. ドキュメントに透かしを適用するには、[適用]をクリックします

透かしオプション

以下は、PDFドキュメントに透かしを追加するときに使用できるオプションです。

設定

透かしのオプションは次のとおりです。

プロフィール

名前 -透かしプロファイルの名前（作成されている場合）。 新しいプロファイルを作成するには、[<新しいプロファイル>]を選択して[保存]をクリックします。次に、新しいプロファイルの名前を入力します

メニューに表示 -アクセスを高速化するために、透かしメニューにこの透かし構成を表示するかどうか。

外観

単位 -透かしの位置を計算するときに使用する単位。これは、インチ、センチメートル、ミリメートル、またはポイントにすることができます。ポイントはPDF標準で計算され、1インチあたり72ポイントです。

水平 –水平位置は、ドロップダウンボックスでの選択に応じて、ページの左、右、または中央を基準にしています。ここに入力された数値は、単位で解釈されます。

垂直 –垂直位置は、ドロップダウンボックスでの選択に応じて、ページの上部、下部、または中央を基準にしています。ここに入力された数値は、単位で解釈されます。

回転 –透かし（テキストまたは画像）を時計回りに指定された角度だけ回転させます。

透明性 –透かしの透明度。 100%は見えず、0%は不透明です。

画面に表示 -ドキュメントを表示するときに透かしを表示するかどうか

印刷物に表示 -ドキュメントの印刷時に透かしを表示するかどうか

ページコンテンツの裏側 -透かしをページコンテンツの上ではなく下に配置します

ページ

ページ範囲 -トリミングするページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、トリミングするページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみをトリミングします
- 奇数ページのみ：奇数ページのみをトリミングします

透かし

ドキュメントにテキストまたは画像の透かしを追加するオプションがあります。オプションは、テキストまたは画像が選択されているかどうかに基づいて変わります。

テキスト透かしオプション

フォント-透かしのフォント

フォントサイズ-透かしのフォントサイズ

フォントの色-透かしのフォントの色

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

配置-テキストの配置方法を選択します

- テキストを左揃えにします
- テキストを中央に揃えます
- テキストを右揃えにします

テキスト -透かしに表示するテキストを入力します

インサート -これらのオプションを使用して、コンテンツセクション内にカスタム変数を挿入します。テキストを配置する場所にカーソルを置き、挿入する変数オプションをクリックします。これらの変数は ヘッダーとフッターがドキュメントに配置されるときに使用されます

- 日付-日付変数を作成します
- ページ番号-ページ番号変数を作成します
- ベイツ番号-ベイツ番号変数を作成します
- その他-サポートされているその他の変数のリストを表示します
    - $ page –ページ番号
    - $ author –に設定された作成者名を挿入しますコメント設定
    - $ pagelabel-このページのブックマーク
    - $ bookmark-このページのラベル
    - $ totalpages –ドキュメントのページ数
    - $ filename –ドキュメントを開いたファイル名
    - $ filepath –ドキュメントが開かれた完全なファイルパス
    - $ date – 2007年11月28日にフォーマットされた現在の日付
    - $ shortdate –現在の日付は2007年11月28日としてフォーマットされます
    - $ time –現在の時刻
    - $ day –その月の現在の日
    - $ month –2桁を使用した現在の月
    - $ year –現在の年。4桁の数字を使用
    - $ shortyear –2桁を使用した現在の年
    - $ second –現在の秒

- $ minutes –現在の分
- $ hour –現在の時間、1〜12
- $ ampm –午前または午後
- $ longhour –現在の時間、0〜23

境界-透かしテキストの周囲に境界線を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

幅 -境界線の幅を設定します

バックグラウンド-透かしテキストの背景色設定

画像透かしオプション

ファイル –画像ファイルへのパス。使用できる形式は、jpg、png、gif、およびtiffです。

規模 –画像に適用するスケール（フルサイズ画像の場合は100%）

プレビューウィンドウ

配置したドキュメントで透かしがどのように表示されるかを確認できます。矢印ボタンとドロップダウンを使用して、ドキュメント内の別のページに移動してプレビューします。

透かしプロファイル

透かしプロファイルを使用すると、カスタム透かし設定をテンプレートとして保存し、後でドキュメントに透かしを追加するために再度使用できます。 「メニューに表示」に使用できるオプションもあり、これをプロファイルに設定すると、次のようになります。 下に置く**[ページ]タブ>透かし** これにより、ドキュメントメニューから2回クリックするだけでプロファイルを実行できます。

> **注意：** *ドキュメントに透かしを追加する前に、透かし構成を作成または保存する必要はありません。設定を保存せずにドキュメントに透かしを追加するには、に移動します。*
>
> ***[ページ]タブ>*** ***透かし>追加*** *使用する設定を選択し、[適用]をクリックして、プロファイルを保存せずに透かし設定を実行します。*

透かしプロファイルの作成

1. に移動します**[ページ]タブ>** **透かし>追加** ツールバーにあります。
2. 希望の記入をしてください透かしオプション 現在の透かし構成の場合。
3. プロファイルに含めるすべてのオプションを設定します。ドロップダウンから[<新しいアイテム>]を選択すると、既存のプロファイルまたは空白のテンプレートから開始できます。
4. 設定が完了したら、[保存]をクリックします。これにより、プロファイルに名前を付けるためのウィンドウが表示されます。
5. 空白のテンプレートから開始する場合、このフィールドは空白になります。以前のプロファイルから開始した場合は、以前のプロファイル名が表示されます。以前のプロファイルを更新するだけの場合は、名前を残して[OK]をクリックします。あなたがそうするなら 新しいプロファイルを作成するには、名前を付けて保存する新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。
6. 完了すると、プロファイルがドロップダウンメニューとメニューバーのクイックオプションで利用できるようになります

既存のプロファイルを使用してPDFドキュメントに透かしを追加する

既存の透かしプロファイルを適用するには、次の2つの方法があります。

透かしダイアログから

透かしを適用するドキュメントを開きます。から透かしダイアログを開きます**[ページ]タブ>** **透かし>追加**。 コンボボックスのドロップダウンリストから透かしを選択し、ダイアログの下部にある[適用]ボタンをクリックします。

ウォーターマークメニューから

透かしを追加するドキュメントを開きます。下**[ページ]タブ>** **透かし** メニュー、あります 以前に作成したすべての透かしプロファイルのリスト。実行するリストの透かしプロファイルをクリックすると、透かしプロファイルに保存されている設定の使用がすぐに開始されます。

注意：*[メニューに表示]オプションを選択したものだけがこのリストに表示されます。実行するリストの透かしプロファイルをクリックすると、透かしプロファイルに保存されている設定の使用がすぐに開始されます。*

透かしの削除

PDF Studioは、PDFドキュメントから既存の透かしを削除できます。この関数は、ドキュメントのすべてのページからすべての透かしを削除します。

> **注意：** *すべてのテキストまたはテキストの上の画像が透かしであるとは限りません。 PDF Studioで透かしを削除するには、PDF標準に従ってテキストが透かしとしてドキュメントに追加されている必要があります。そうでない場合、透かしはこの機能によって削除されません。代わりに使用する必要がありますコンテンツ編集 それらを削除するには*

すべての透かしを削除する方法

選択する**[ページ]タブ>** **透かし>削除** メニューから。これにより、内のすべてのページからすべての透かしが削除されます ドキュメント全体。

スキャンを修正

修正スキャンツールを使用すると、スキャンしたドキュメントに対してさまざまな修復機能を実行できます。これは、元のドキュメントまたはスキャナーにアクセスして再スキャンし、位置合わせやサイズの問題を修正できない場合に役立ちます。

オプションは次のとおりです。

- OCR-検索可能なテキストをページに追加します
- 最適化-ドキュメントのファイルサイズを縮小します
- Deskew-位置合わせが修正されるようにドキュメントを自動回転しようとします

スキャンしたPDFドキュメントを修正する方法

1. ツールバーで**[ドキュメント]タブ>** **スキャンを修正**
2. これにより、[スキャンの修正]ダイアログが表示されます
3. スキャンを修正するために使用する既存のプロファイルまたは設定を選択します
4. 完了したら、[適用]をクリックします。これにより、ドキュメントを保存する場所の入力を求められます
    - **注意**：*ドキュメントが保護またはロックされている場合、ロックが解除されるまでドキュメントを修正することはできません。*
5. ドキュメントの保存場所を設定して[保存]をクリックすると、PDF Studioは選択した設定でスキャンの修正を開始し、選択した場所に保存します。
6. プロセスが完了すると、結果を確認できるように新しいファイルが自動的に開かれます。

スキャンオプションを修正

プロフィール

PDF Studioには、スキャンを修正するための2つのデフォルトプロファイルが付属しています。カスタムプロファイルは、特定のニーズに合わせて作成でき、設定を再入力せずに後で再利用するために保存できます。

含まれるデフォルトのプロファイル：

- 現在のページ-現在のページですべての修正スキャン機能を実行します
- ドキュメント全体-ドキュメント全体に対してすべての修正スキャン機能を実行します

ページ

すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ

現在のページ：現在表示されているページ

ページ：必要に応じて、カンマで区切った値を使用してページのカスタム範囲を設定します。たとえば、30ページのドキュメントの2〜4ページと6〜12＆20ページのみを印刷するには、

「2-4、6-12、20」と入力します。を使用したドキュメントページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

OCRオプション

OCR -検索可能なPDFの作成-これをチェックして、ドキュメント内にテキスト検索可能なテキストを作成します

言語 -OCRが選択されている場合に使用される言語。「OCR言語のダウンロード」をクリックして、追加の言語をダウンロードします。

最適化Pro

プロフィール-ドロップダウンをクリックして、オプティマイザープロファイル 使用する

追加-[追加]を使用して、このバッチプロセスに使用する新しいプロファイルを作成します

編集-[編集]をクリックして、ドロップダウンで現在選択されているプロファイルを変更します

オプション

自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に傾斜しすぎているか、位置がずれている場合、PDF Studioはドキュメントの自動回転を試みて、位置合わせが修正されます。

ノイズを減らす -このフィルターは、画像の光ノイズを低減します。各ピクセルの値を隣接するピクセルに近づけようとします。効果は小さいので、何度か塗る必要があるかもしれません。これは、画像から少量のノイズを除去するのに適していますが、画像に多少のぼやけを与えます。

スペックル除去 -このフィルターは、複雑な領域をそのままにして、ノイズが目立つ領域を滑らかにします。その効果は、エッジに深刻な影響を与えることなく、粒子やその他のノイズが低減されることです。

OCR PDF

PDF Studioは、利用可能なOCR言語のいずれかを使用してドキュメントをOCRし、ドキュメントにテキストを追加することができます。 OCRを使用すると、スキャンしたドキュメントまたは画像にテキストを追加して、他のテキストドキュメントと同じようにドキュメントを検索またはマークアップできます。 PDFスタジオ2021年 また、2つの言語で同時にOCRを実行する機能も導入されています。 2つの言語を使用したOCRの詳細については、を参照してください。 OCR設定。

OCRとは何ですか？

> *光学式文字認識（OCR）は、入力または印刷されたテキストの画像を機械でエンコードされた検索可能なテキストデータに機械的または電子的に変換することです。*

既存のドキュメントから

OCRを使用して既存のドキュメントにテキストを追加できます

1. PDF Studioを起動し、検索可能なテキストを追加するPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**[ドキュメント]タブ>OCR** ツールバーから
3. [言語]ドロップダウンから、使用する言語を選択します
   - *ノート：OCRを初めて使用する場合は、言語パックをダウンロードする必要があります。これを行うには、「OCR言語のダウンロード」をクリックし、使用する言語を選択して「ダウンロード」をクリックします。。*
4. 使用するページ範囲と解像度を選択します
   - *ノート：300 DPIの解像度では、ほとんどの画像で良好なOCR結果が得られます。ノイズを含むスキャンを処理する場合は、低いDPI設定を使用してノイズを取り除き、より良いOCR結果を取得してみてください。。*
5. 追加のオプションを選択してください
   - 非表示のテキストを破棄-ページに追加された以前のOCRテキストを削除します。
   - 自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に大きく傾いているか、位置がずれている場合、PDF Studioは、位置合わせが修正されるようにドキュメントを自動回転しようとします。
6. 「OK」をクリックしてOCRプロセスを開始します
7. 処理中の現在のページを示す進行状況ダイアログが表示されます。完了したら、[OK]をクリックしてダイアログを閉じます
8. これで、ドキュメントを検索、編集、またはハイライトでマークアップしたり、下線を引いたり、取り消し線を引いたり、キャレット注釈を付けて使用したりする準備が整いました。

ドキュメントをスキャンするとき

OCRは、PDFStudioでスキャンされると同時にドキュメントにテキストを追加できます

1. を開始しますスキャンダイアログ 普段通り
2. スキャンダイアログには、スキャン後にドキュメントをOCRするオプションが表示されます
3. [言語]ドロップダウンから、使用する言語を選択します

- *ノート：OCRを初めて使用する場合は、言語パックをダウンロードする必要があります。これを行うには、「OCR言語のダウンロード」をクリックし、使用する言語を選択して「ダウンロード」をクリックします。。*

4. すべてのスキャンとOCR設定を設定したら、[スキャン]をクリックしてドキュメントのスキャンを開始します
5. スキャンが完了すると、OCRプロセスが開始され、現在処理中のページを示す進行状況ダイアログが表示されます。完了したら、「OK」をクリックしてダイアログを閉じます
6. これで、ドキュメントを検索、編集、またはハイライトでマークアップしたり、下線を引いたり、取り消し線を引いたり、キャレット注釈を付けて使用したりする準備が整いました。

利用可能なOCR言語

次の言語辞書ファイルは、PDFStudioOCR関数内から直接ダウンロードできます。適切な言語ファイルを使用すると、OCR結果の精度が向上します。見るOCR結果を改善するためのヒント追加情報について

- アフリカーンス語
- アルバニア語- shqip
- アラビア語-アラビア語
- アゼルバイジャン- azərbaycan
- バスク語- euskara
- ベラルーシ語-беларуская
- ベンガル語- বাংলা
- ブルガリア語- български
- カタロニア語-カタロニア語
- チェロキー
- 中国語（簡体字）-中文（简体中文）
- 中国語（繁体字）-中文（繁體）
- クロアチア語- hrvatski
- チェコ語-čeština“ da”>デンマーク語- dansk
- デンマーク語- Dansk
- デンマーク語（フラクトゥール）- Dansk（フラクトゥール）
- オランダ語-オランダ語
- 英語
- エストニア語- eesti
- フィンランド語-Suomalainen
- フランス語-Français
- ガリシア語-ガレゴ
- ドイツ語-ドイツ語
- ギリシャ語-Ελληνικά
- ヘブライ語-עברית
- ヒンディー語-हिन्दी
- ハンガリー語- magyar
- アイスランド語-íslenska
- インドネシア語-インドネシア語
- イタリア語-イタリア語
- イタリア語（旧）-italino vecchio
- 日本語-日本語
- カンナダ語-ಕನ್ನಡ
- 韓国語-한국어
- ラトビア語-latviešu
- リトアニア語-lietuvių
- マケドニア語-македонски
- マレー語- Bahasa Melayu
- マラヤーラム語-മലയാളം
- マルタ語-マルタ
- 数学/方程式
- ノルウェー語-Norsk
- ポーランド語-Polskie
- ポルトガル語-Português
- ルーマニア語-română
- ロシア語-русский
- セルビア語-српски
- スロバキア語-slovenčina
- スロバキア語（フラクトゥール）-slovenčina（フラクトゥール）
- スロベニア語-slovenščina
- スペイン語-Español
- スペイン語（旧）-español（Antiguo）
- スワヒリ語- Kiswahili
- スウェーデン語-Svensk
- タガログ語
- タミル語-தமிழ்
- テルグ語-తెలుగు
- タイ語-ไทย
- トルコ語-Türkçe
- ウクライナ語-українська
- ベトナム語-TiếngViệt

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFをサニタイズする

PDF Studioは、PDFドキュメントをサニタイズして、PDFからすべての隠された機密情報を削除することができます。これは、隠された可能性のある情報を確実に削除したい機密文書を扱うときに非常に役立ちます。

> **注意**：*ドキュメントをサニタイズする前に、すべてのドキュメントの変更を完了する必要があります。サニタイズが完了すると、画像に変換されるため、ページ上のアイテムを編集することはできなくなります。*

サニタイズ機能は、ドキュメントのすべてのページを画像に変換し、次のような機密情報を削除します。

- メタデータ
- ドキュメント情報
- 添付ファイル
- JavaScriptアクション
- リンク
- フォームフィールド
- コメント
- 未使用のリソース
- 参照されていないデータ
- 隠しレイヤー
- 隠しデータ
- 重複するオブジェクト
- 埋め込まれた検索インデックス

PDFドキュメントをサニタイズする方法

1. ツールバーで**安全なタブ>** **消毒する**
2. これにより、ドキュメントを保存する場所の入力を求められます
3. ドキュメントの保存場所を設定して[保存]をクリックすると、ドキュメントがサニタイズされ、選択した場所に保存されます。
4. サニタイズが完了すると、新しいファイルが自動的に開かれ、確認できるようになります

> **注意**：*ドキュメントをさらに保護するには、ドキュメントのセキュリティ 追加の権限を追加するための設定。*

バッチ処理

バッチ処理は、複数のドキュメントを一度に変更するためのシンプルで高速な方法です。バッチプロセスはによって構成されますバッチファイルの選択、バッチ出力の構成、オープンパスワードの設定、およびジョブ固有のオプションの構成：

コメント

コメントを削除：PDFのバッチからすべてのコメントと注釈を削除します

バッチエクスポートコメント：PDFのバッチからすべてのコメントデータをエクスポートします

コメントをフラット化：PDFのバッチからのすべてのコメントと注釈を平坦化します

資料

ドキュメントをマージする：PDFのバッチを1つのドキュメントにマージします

OCRドキュメント：検索可能なテキストを追加するためのPDFのバッチをOCRする

最適化：PDFのバッチを最適化して、ファイルサイズを縮小します

プリフライト：PDFのバッチに対してさまざまなPDF標準を使用してドキュメントのコンプライアンスを確認します

初期ビューの設定：PDFのバッチの初期ビュー設定を設定します

セキュリティを設定する：PDFのバッチのセキュリティ設定を設定します

ページ

ページを切り抜く：PDFのバッチを切り抜く

ページを削除：バッチ内の各PDFから選択したページ範囲を削除します

ヘッダーとフッター：PDFのバッチにヘッダーやフッターを追加します

ページのサイズ変更：PDFのドキュメントページサイズを変更する

ページを回転する：PDFのバッチ内のすべてのページを回転します

透かし：PDFのバッチに透かしを追加します

印刷：PDFのバッチを印刷する

スプリット：ドキュメントのバッチを分割する

に変換

HTML5 / SVG：PDFのバッチをHTML / SVGファイルに変換します

ページを画像として抽出：ページをPDFのバッチから画像に変換します

PDFをラスタライズ：ベクターコマンドの代わりにページの画像を使用してドキュメントを再作成します。

PDFに変換：のバッチを変換するサポートされているファイル PDFへ

PDF / Aに変換：PDFのバッチをPDF / Aに変換する

テキストを抽出する：PDFのバッチからテキストを抽出します

フォーム

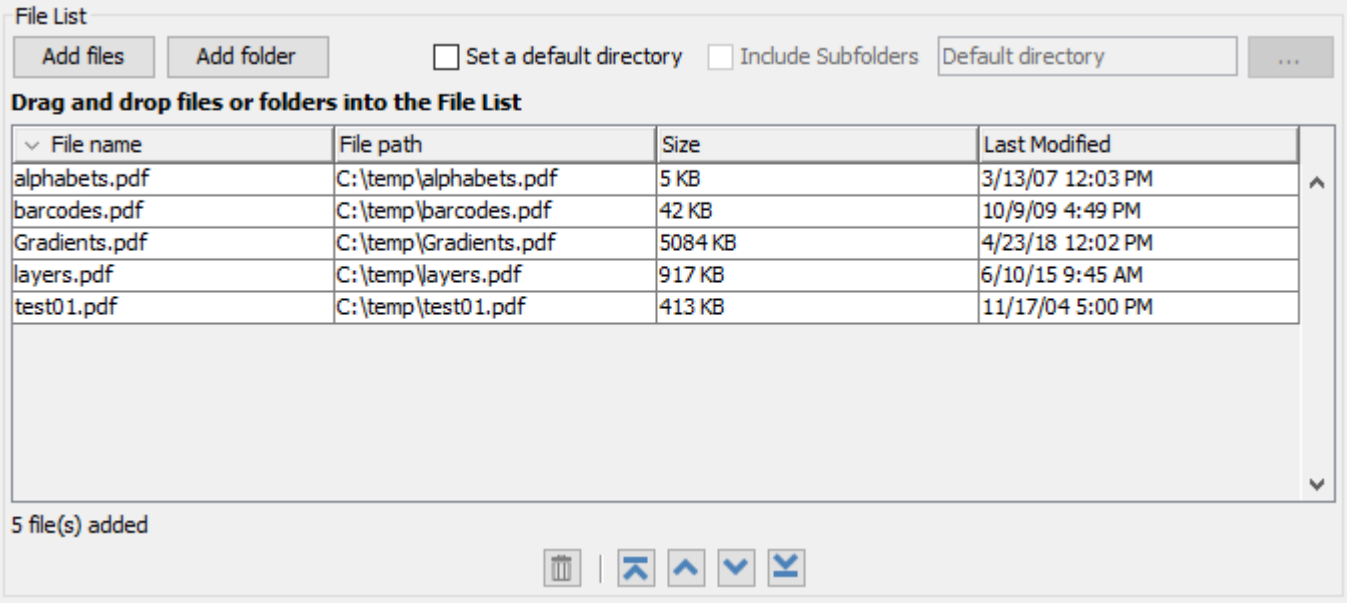
フォームのエクスポート：PDFのバッチからフォームフィールドデータをエクスポートする

フィールドを平坦化する：PDFのバッチからすべてのフィールドをフラット化します

フィールドのリセット：PDFのバッチからフィールド値をリセットします

バッチファイルの選択

PDF Studioには、ファイルをバッチ処理する機能があり、一度に多くのファイルを変更または変更できます。バッチプロセスの最初のステップは、最初に処理する必要のあるファイルを選択することです。 [ファイルリスト]セクションでは、バッチプロセスでファイルまたはドキュメントを追加、削除、および並べ替えることができます。



ファイルリストの使用

バッチプロセスのファイルを追加する場合、次のオプションを使用できます。

バッチファイルの追加

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

ドラッグドロップ -ファイルとフォルダは、デスクトップまたはフォルダからファイルリストに直接ドラッグアンドドロップできます。

- ファイル：ファイルをドラッグアンドドロップすると、それらの特定のファイルのみがファイルリストに追加されます
- フォルダ：フォルダをドラッグアンドドロップすると、フォルダ内のすべてのファイルがファイルリストに追加されます

> **注意：** *ファイルリストに追加できるファイルの種類は、使用しているバッチプロセスによって異なります。*

バッチファイルの削除

-選択したファイルをリストから削除します。

削除 -キーボードのDeleteキーを押して、選択したファイルをリストから削除します。

> **注意**：*を押し続けると、一度に複数のファイルを選択できます Ctrlキー（Macの場合はCommand）を押しながら、リスト内の各ファイルをクリックします。*

バッチファイルの再編成

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

> **注意**：*を押し続けると、一度に複数のファイルを選択できます Ctrlキー（Macの場合はCommand）を押しながら、リスト内の各ファイルをクリックします。*

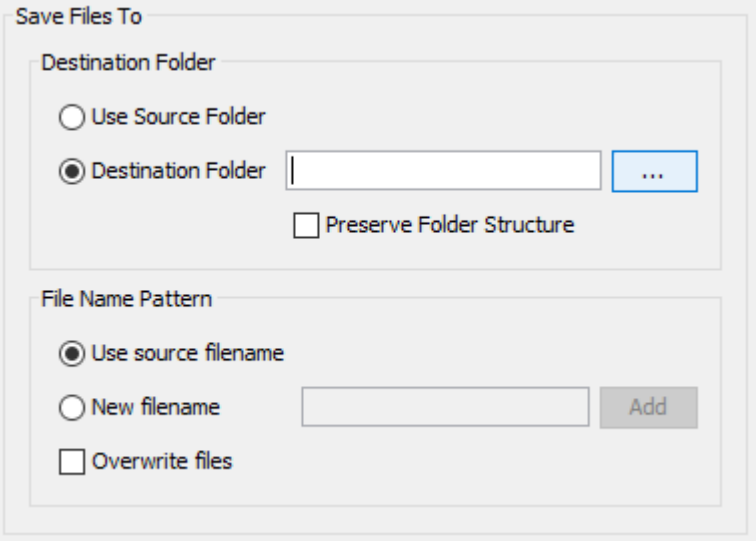
ディレクトリのデフォルトの設定

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -チェックすると、選択したデフォルトのバッチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

バッチ出力設定の構成

バッチ中に複数のPDFファイルを処理する場合、処理後にPDFファイルの場所を指定する必要があります。これらの設定はバッチごとに構成されます。



バッチ出力設定

バッチを操作する場合は、次の出力設定を使用できます。

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、このフィールドに入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

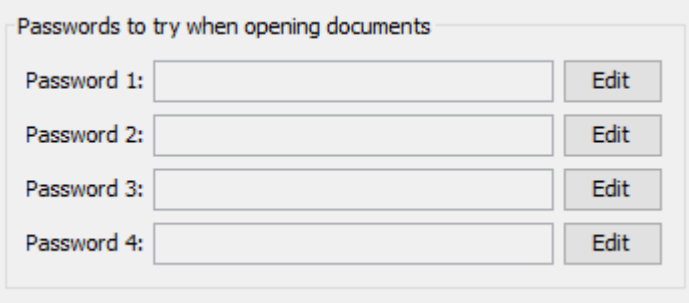
- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

バッチでのオープンパスワードの設定

バッチ中に複数のPDFファイルを処理する場合、一部のファイルではパスワードを開く必要がある場合があります。最大4つの可能なパスワードをバッチ設定に追加して、パスワードで保護されたファイルを開こうとすることができます。これらの設定はバッチごとに構成されます。



バッチオープンパスワード設定

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードが入力されます。*

バッチエクスポートコメント

すべてのコメントをバッチエクスポートすると、PDFファイルからFDF、XFDF、.txt、XML、CSV形式でコメントデータをエクスポートできます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。

すべてのコメントをバッチエクスポートする方法

1. ツールバーで、**バッチタブ>コメント>** **書き出す**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
    - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
    - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
    - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

すべてのコメント設定をバッチエクスポート

フォーマット

FDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式

XFDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式

テキスト：すべての注釈情報を含む単純なテキストファイル（.txt）

XML：すべての注釈情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式

CSV：すべてのコメントデータを.csv形式にエクスポートして、MicrosoftExcelなどのスプレッドシートエディタで表示できるようにします

ハイライトされたテキスト：でプレーンテキストファイルを作成します ページで区切られたすべての強調表示されたテキスト。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、このフィールドに入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

PDFからテキストをバッチ抽出

PDFからテキストをバッチ抽出すると、複数のPDFドキュメントからテキストを抽出できます。ドキュメントごとに、バッチプロセスはそのドキュメントのテキストコンテンツを含む個別のテキストファイルを出力します。

> **注意**：*ドキュメントにテキストが含まれていない場合（スキャンしたドキュメントや画像など）、抽出するテキストがあるように、最初にOCRを実行する必要があります。*

PDFのバッチからテキストを抽出する方法

1. ツールバーで、**[バッチ]タブ> [変換]>** **テキスト**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

テキスト設定のバッチ抽出

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、このフィールドに入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

HTML5へのバッチ変換 / SVG

PDF Studioを使用すると、PDFドキュメントをHTML5Webページに変換できます。 HTML5はすべてのブラウザでサポートされているため、ビューアプラグインを必要とせずに、PDFドキュメントのコンテンツを任意のWebサイトに簡単に公開できます。 PDF StudioのPDFからHTML5への変換エンジンはフォントを保持し、SVG形式を使用してベクターグラフィックを保持します。 HTML5に変換されたサンプルPDFドキュメントを見つけることができますここに。

PDFのバッチをHTMLに変換する方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [変換]> HTML5 / SVG**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - 使用するHTML5変換設定を選択します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの結果設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

HTML5 / SVG設定へのバッチ変換

HTML5変換オプション

のオプションは次のとおりです。

に変換 -出力タイプを選択します

- ドキュメントごとに単一のHTML：処理されるドキュメントごとに単一のHTMLファイルを作成します
- ドキュメントごとに単一のSVG：処理されるドキュメントごとに単一のSVGファイルを作成します
- ページごとに個別のSVG：処理中の各ドキュメントのページごとに個別のSVGファイルを作成します

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

ページの境界線を表示 -チェックすると、作成されたページに1pxの境界線が表示されます。これにより、ページが白いドキュメント上にあることを簡単に区別できます

画像を圧縮する -チェックすると、出力のサイズを小さくするために、PDFで見つかった画像がJPEGに圧縮されます

JPG品質 –JPG圧縮の目的の品質を選択します。品質パラメータに基づきます。品質値に関するいくつかのガイドライン：8つの高品質、5つの中品質、2つの低品質。

- 0 –非常に高い圧縮、非常に低い品質
- 10 –低圧縮、非常に高品質

結果

プリフライト結果ダイアログの表示に加えて、結果はさまざまな構成可能な方法で保存できます。プリフライトでエラーが発生した場合、これらのエラーを注釈としてドキュメントに追加したり、エラーの詳細を示すレポートを作成したりできます。レポートはドキュメントに追加されるか、新しいドキュメントとして保存されます。変更されたドキュメントまたは新しいレポートドキュメント、あるいはその両方が宛先フォルダに保存されます。

プリフライトエラーのコメントを追加 -プリフライトエラーのために元のドキュメントに注釈を追加するかどうか

プリフライトレポートを作成する -以下のオプションを使用して、プリフライトエラーの個別のレポートを作成するかどうか

レポートをドキュメントに追加 -ドキュメントの先頭にエラーレポートを追加します

レポート用の新しいドキュメントを作成する -以下の宛先フォルダーにエクスポートされるエラーレポート用の別のドキュメントを作成します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、このフィールドに入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

ファイルをPDFにバッチ変換

ファイルをPDFにバッチ変換すると、変換できますサポートされています PDF以外のファイルをPDFドキュメントに変換します。この関数はに似ていますファイルをPDFに変換する それが多くを変換することを除いて 一度にファイル。

ファイルをPDFにバッチ変換する方法

1. ツールバーで、**[バッチ]タブ> [変換]>** **PDF**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチ変換設定

新しいページ

ページサイズ -事前定義された標準ドキュメントサイズのリストからページサイズを選択できます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> **注意**：*「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

単位 -切り抜きマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

幅 -W選択した単位でのページのID

高さ - 高さ選択した単位でのページの

K深い比例 -チェックすると、幅と高さの値の同期が保たれます

現在のページ

センター-このオプションをオンにすると、元のページのコンテンツが新しいページサイズの中央に配置されます。

フィットするスケール -新しいページサイズに最も合うようにページコンテンツのサイズを変更します

切り抜きページに合わせる -クロップボックスをメディアボックスと同じに設定します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

PDF / Aへのバッチ変換

PDF / Aへのバッチ変換を使用すると、すべてのPDFドキュメントをPDF / Aに変換できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。必要に応じて、以下の設定を使用してコンバージョンレポートを作成します。

PDFをPDF / Aにバッチ変換する方法

1. ツールバーで、**[バッチ]タブ> [変換]>** **PDF / A**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - PDF / A変換問題の設定を行う
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチPDF / A変換設定

プロフィール

ドキュメントを変換するPDF / Aプロファイルを選択します。

- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-3b

PDF / A変換の問題

変換問題レポートの作成-PDF / Aに変換できなかったPDFについて、以下の設定のいずれかを使用してエラーレポートを生成するには、このボックスをオンにします

- レポートのみ：エラーのみを示すPDFを生成します
- レポート付きの元のPDF：ドキュメントの先頭にエラーレポートが追加された別のPDFを生成します
- 注釈付きの元のPDF：すべてのエラーに注釈マーク付きの個別のPDFを生成します

・ レポートと注釈付きの元のPDF：すべてのエラーに注釈マークが付いた個別のPDFと、ドキュメントの先頭に追加されたエラーレポートを生成します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

・ フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる

増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

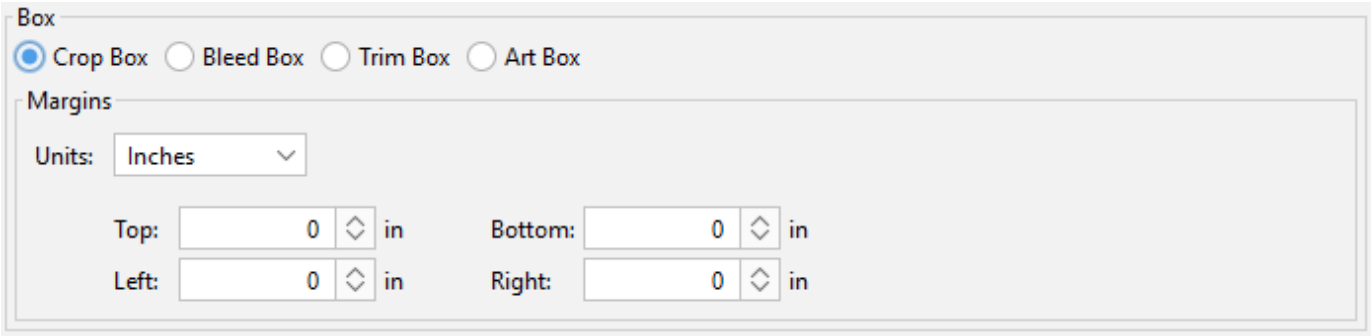
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチクロップ

バッチトリミングを使用すると、ドキュメントのバッチのトリミングマージンを調整できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。



PDFのバッチを切り抜く方法

1. ツールバーで、**バッチタブ>ページ>>** **ページを切り抜く**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - バッチの切り抜き設定を設定します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチクロップ設定

クロップボックス

ボックス

クロップボックス -表示または印刷時に、ページのコンテンツが表示またはトリミングされる領域。

ブリードボックス -実稼働環境で出力するときにページのコンテンツをクリップする必要がある境界。

トリムボックス -トリミング後の完成したページの意図された寸法。

アートボックス -ドキュメント作成者が意図したページの意味のあるコンテンツ（潜在的な空白を含む）の範囲。

マージン

単位 -切り抜きマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

上 -上からのマージンの距離

下 -下からのマージンの距離

左 -左からのマージンの距離

正しい -右からのマージンの距離

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

すべてのコメントをバッチ削除

すべてのコメントをバッチ削除すると、PDFのバッチからすべてのコメントと注釈を削除できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。

すべてのコメントをバッチ削除する方法

1. ツールバーで、**バッチタブ>コメント>** **削除**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

すべてのコメント設定をバッチ削除

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

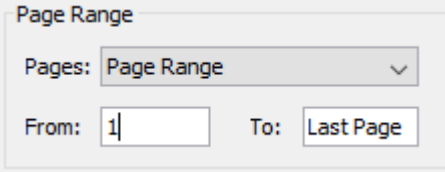
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

ページのバッチ削除

ページのバッチ削除を使用すると、PDFのバッチからページを削除できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。



バッチからページを削除する方法

1. ツールバーで、**バッチタブ>ページ>>** **ページを削除**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - 削除するページの範囲を設定する
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチ削除設定

ページ範囲

ページ-削除するページの範囲

- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、削除するページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

> **注意**：*バッチを処理する場合、PDF Studioは、選択したページ範囲がPDF内に存在する場合にのみ、それらを削除します。ページが存在しない場合、ページは削除されません。たとえば、5〜7ページを削除するように設定されていて、ドキュメントに3ページしかない場合、何も削除されず、ドキュメントは同じままになります。*

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

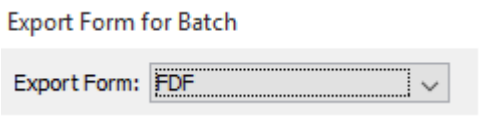
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチエクスポートフォーム

バッチエクスポートフォームを使用すると、フォームを複数のドキュメントからFDF、XFDF、XDP、またはXMLに一度にエクスポートできます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択された分割プロファイルを使用して個別に処理されます。



PDFのバッチからフォームをエクスポートする方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [フォーム]>** **書き出す**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
    - エクスポート先のファイルの種類を設定します
    - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
    - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
    - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチフォームのエクスポート設定

エクスポートタイプを選択します

ドキュメントのフォームをFDF、XFDF、XDP、またはXMLのいずれかとしてエクスポートする場合に選択します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

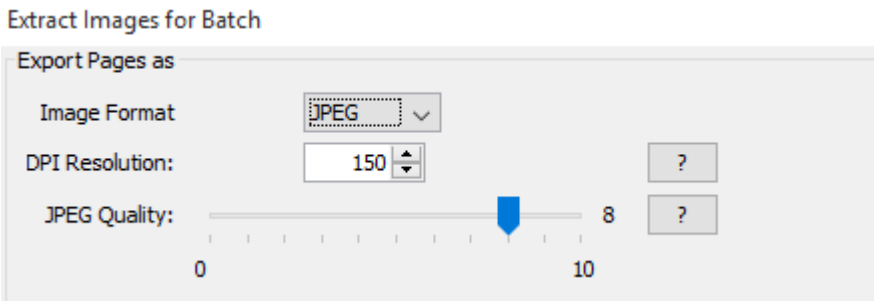
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

ページを画像としてバッチ抽出

ページを画像としてバッチ抽出すると、ドキュメントのバッチからページを画像として抽出できます。各ドキュメントの各ページは、個別の画像ファイルとして保存されます。各ドキュメントは、バッチ中に選択した設定を使用して個別に処理されます 処理する。



PDFのバッチの画像としてページを抽出する方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>に変換>>** **ページを次のように抽出する 画像**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - 画像形式と設定を設定する
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

画像設定としてページをバッチ抽出

画像設定を選択します

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用されるDPIの解像度。72はPDFのネイティブ解像度です。

画像フォーマット -PDFドキュメントを画像に変換するときに使用される画像形式

JPEG -画質とサイズを低下させる不可逆圧縮

- ◦ ▪ 品質：これはJPEG圧縮の品質です。品質パラメータに基づいて、0（非常に高い圧縮、非常に低い品質）から10（低い圧縮、非常に高い品質）まで変化します。品質値に関するいくつかのガイドライン：8高品質、 5中品質、2低品質。

PNG -可逆圧縮は品質を低下させず、追加のオプションはありません

TIFF -可逆圧縮は品質を低下させませんが、ファイルごとに複数の画像と追加の圧縮形式を使用できます

- ◦ ▪ 圧縮：TIFF画像の特定の圧縮タイプを選択します。使用可能なTIFF圧縮は、CCITT_RLE（B＆W）、グループ3ファックス（B＆W）、グループ4ファックス（B＆W）、パックビット、LZW、ZLib、デフレート、JPEG、圧縮なしです。

  注意：*CCITT RLE、グループ3ファックス、およびグループ4ファックスは、圧縮された白黒形式です。*

- ◦ ▪ すべてのページを単一のTIFFとしてエクスポートする：デフォルトでは、デフォルトの個別のTIFF画像がページごとに生成されます。このオプションをオンにすると、複数の画像を含む単一のファイルをエクスポートできます。

GIF -品質を低下させないが、アニメーション画像と静止画像の両方をサポートする画像ファイルの可逆圧縮形式。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

すべてのコメントをバッチフラット化

すべてのコメントをバッチフラット化すると、PDFのバッチからすべてのコメントと注釈をフラット化できます。注釈の平坦化とは、注釈が属するページに直接注釈をペイントして、編集できないようにすることです。この意志 ドキュメントに永続的に注釈を書き込みます。たとえば、カスタム署名スタンプをフラット化して、署名をドキュメント自体に追加し、編集可能な注釈としてドキュメントに配置しないようにすることができます。各ドキュメントは バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。

> **注意**：*付箋などの注釈ではコメントが削除されますが、画像は引き続きドキュメントに配置されます。次の注釈（添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈）は、注釈を平坦化するときに削除されませんs。技術的には、添付ファイルの注釈、リンク、サウンド、および編集注釈は注釈ですが、注釈が平坦化された場合にも削除されるアクションが含まれているため、PDFに配置された機能に干渉しません。*

すべてのコメントをバッチフラット化する方法

1. ツールバーで、**バッチタブ>コメント>** **平らにする**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

すべてのコメント設定をバッチフラット化

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

 -選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

すべてのフィールドをバッチフラット化

すべてのフィールドをバッチフラット化すると、PDFのバッチからすべてのフィールドをフラット化できます。フィールドは、それらが属するコンテンツページに直接描画され、編集できなくなります。各ドキュメントは、選択した設定を使用して個別に処理されます バッチ処理中。

すべてのフィールドをバッチフラット化する方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [フォーム]> 平らにする**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

すべてのフィールド設定をバッチフラット化

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

ヘッダーとフッターのバッチ適用

ヘッダーとフッターをバッチ適用すると、ヘッダーとフッターを複数のPDFドキュメントに一度に追加できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。

ヘッダーとフッターをバッチに適用する方法

1. ツールバーで、**バッチタブ>ページ>>** **ヘッダー& フッター**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドロップダウンから既存のプロファイルを選択するか、[追加]をクリックして新しいプロファイルを作成するか、[編集]をクリックして既存のプロファイルを変更します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチヘッダーとフッターの設定

ヘッダーとフッターを選択します

プロフィール-ドロップダウンをクリックして、ヘッダーとフッターのプロファイル バッチプロセスに使用されます

追加-[追加]を使用して、このバッチプロセスに使用する新しいプロファイルを作成します

編集 -[編集]をクリックして、ドロップダウンで現在選択されているプロファイルを変更します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

注意： *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチドキュメントをマージする

バッチマージドキュメントを使用すると、サポートされているファイルタイプ 単一のPDFに。このバッチプロセスは、まったく同じように機能します複数のファイルをPDFにマージ/変換する。

ファイルのバッチをPDFにマージ/変換する方法

1. ツールバーバーで、**[バッチ]タブ>[ドキュメント]>** **マージ**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチマージ/変換設定

新しいページ

ページサイズ -事前定義された標準ドキュメントサイズのリストからページサイズを選択できます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> *ノート：「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

ユニット -クロップマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

幅 -W選択した単位でのページのID

身長 - 身長選択した単位のページの

K深い比例 -チェックすると、幅と高さの値の同期が保たれます

現在のページ

中心 -このオプションをオンにすると、元のページのコンテンツが新しいページサイズの中央に配置されます

フィットするスケール -新しいページサイズに最も合うようにページコンテンツのサイズを変更します

切り抜きページに合わせる -クロップボックスをメディアボックスと同じに設定します

オプション

マージされたドキュメントごとにブックマークを追加します -これにより、ドキュメントに追加されたマージされたファイルごとに個別のブックマークが作成されます

元のファイル名に基づいてページラベルを設定する -設定すると、次の形式を使用してすべてのページのページラベルを作成します。*[ドキュメントファイル名]_[ページ番号]*"

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダを含める -オンにすると、選択したデフォルトのbartchディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

結果

新しいマージされたドキュメントを開く-マージが完了すると、新しいファイルがPDFStudioに表示されます

名前を付けて保存-このオプションを使用すると、新しく作成されたマージファイルの宛先を設定できます。宛先を手動で入力するか、[...]ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、新しく作成されたファイルの宛先を設定できます。

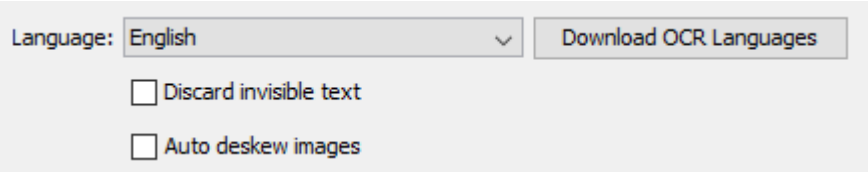
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。パスワード付きのPDFファイルのみがサポートされています。

ノート： *ここに入力されたパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチOCRドキュメント

バッチOCRドキュメントは、サポートされているOCR言語のいずれかを使用して、テキストを含まないドキュメントにテキストを追加します。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。 PDFスタジオ2021年 また、2つの言語で同時にOCRを実行する機能も導入されています。 2つの言語を使用したOCRの詳細については、を参照してください。OCR設定。



OCRとは何ですか？

光学式文字認識（OCR）は、入力または印刷されたテキストの画像を機械でエンコードされた検索可能なテキストデータに機械的または電子的に変換することです。

PDFのバッチをOCRする方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [ドキュメント]>** **OCR**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - 選択するドロップダウンから言語をダウンロードするか、[OCR言語のダウンロード]をクリックして新しい言語をダウンロードします。
   - 追加のOCRオプションを選択する
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチOCR設定

言語を選択する

言語 -ドキュメントをOCRする言語を選択します

OCR言語をダウンロードする -言語ダウンロードマネージャーを開きます

見えないテキストを破棄する -ページに追加された以前のOCRテキストをすべて削除します。

自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に傾斜しすぎているか、位置がずれている場合、PDF Studioはドキュメントの自動回転を試みて、位置合わせが修正されます。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値

- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

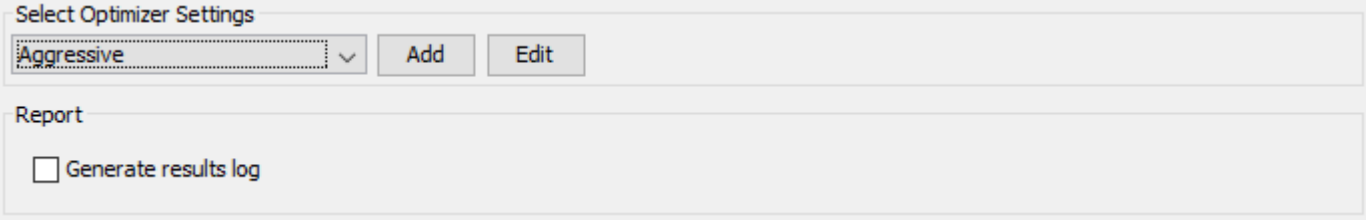
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチ最適化

バッチ最適化では、上部で選択したプロファイルオプションを使用して、選択したすべてのドキュメントを最適化できます。既存のプリセットプロファイルを選択するか、[追加]をクリックして、バッチの最適化に使用する新しいプロファイルを作成します。各ドキュメントが処理されます バッチプロセス中に選択された分割プロファイルを個別に使用します。



PDFのバッチを最適化する方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [ドキュメント]>** **最適化**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドロップダウンから既存のプロファイルを選択するか、[追加]をクリックして新しいプロファイルを作成するか、[編集]をクリックして既存のプロファイルを変更します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチ最適化設定

オプティマイザ設定を選択します

プロフィール-ドロップダウンをクリックして、オプティマイザープロファイル バッチプロセスに使用されます

追加-[追加]を使用して、このバッチプロセスに使用する新しいプロファイルを作成します

編集-[編集]をクリックして、ドロップダウンで現在選択されているプロファイルを変更します

報告書

結果ログの生成 -オンにすると、出力は、新しい最適化ファイルと同じディレクトリにあるドキュメントへの変更をログに記録するテキストファイルを作成します。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年

- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

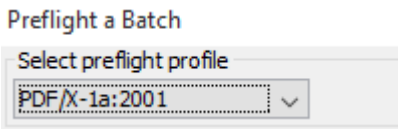
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチプリフライトドキュメント

バッチプリフライトドキュメントを使用すると、選択したアーカイブ標準に対するPDFドキュメントのバッチの準拠を確認できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択された分割プロファイルを使用して個別に処理されます。プロセス後 完了すると、プリフライトチェックの結果がダイアログに表示されます。



PDFのバッチをプリフライトする方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [ドキュメント]>** **プリフライト**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - を選択検証プロファイル 使用する
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの結果設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチプリフライト設定

プリフライトプロファイルを選択

プロフィール-ドロップダウンをクリックして、飛行前の検証 バッチプロセスに使用されるプロファイル

- PDF / X-1a：2001 – ISO 15930-1
- PDF / X-1a：2003 – ISO 15930-4
- PDF / X-3：2002 – ISO 15930-3
- PDF / X-3：2003 – ISO 15930-6
- PDF / A-1a
- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-2u
- PDF / A-3b

結果

プリフライト結果ダイアログの表示に加えて、結果はさまざまな構成可能な方法で保存できます。プリフライトでエラーが発生した場合、これらのエラーを注釈としてドキュメントに追加したり、エラーの詳細を示すレポートを追加したりできます。 作成されます。レポートはド

キュメントに追加されるか、新しいドキュメントとして保存されます。変更されたドキュメントまたは新しいレポートドキュメント、あるいはその両方が宛先フォルダに保存されます。

プリフライトエラーのコメントを追加 -プリフライトエラーのために元のドキュメントに注釈を追加するかどうか

プリフライトレポートを作成する -以下のオプションを使用して、プリフライトエラーの個別のレポートを作成するかどうか

レポートをドキュメントに追加 -ドキュメントの先頭にエラーレポートを追加します

レポート用の新しいドキュメントを作成する -以下の宛先フォルダーにエクスポートされるエラーレポート用の別のドキュメントを作成します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチ印刷

バッチ印刷を使用すると、複数のPDFドキュメントを特定のプリンターに同時に印刷できます。

> **注意**：*バッチを印刷するときに、最後に使用したプリンタダイアログが使用されます。各印刷ダイアログの詳細については、を参照してください。PDFの印刷*

PDFのバッチを印刷する方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>ページ>** **印刷**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチ印刷ダイアログを表示します。
4. 使用する設定を選択し、[印刷]をクリックしてすべてのドキュメントを印刷します。

> **注意**：各ドキュメントを印刷する場合、印刷ダイアログから選択した設定を使用して個別に処理されます。

バッチ印刷設定

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

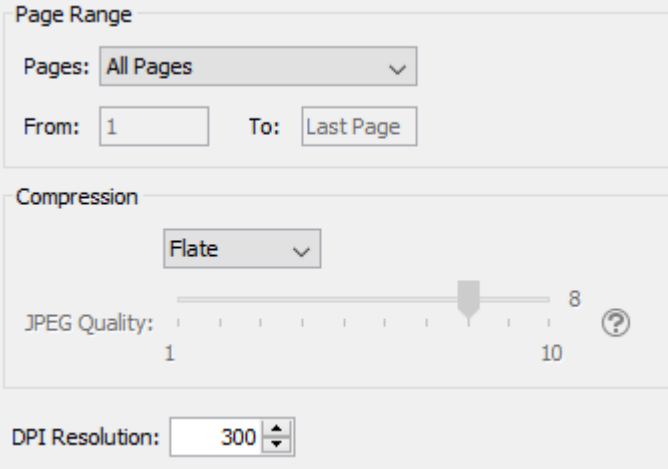
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

PDFをバッチラスタライズ

PDFのバッチラスタライズは、ベクターコマンドの代わりにページの画像を使用してドキュメントを再作成します。これは、PDFを画像にエクスポートしてから、画像を新しいPDFに再インポートするのと同じように機能します。各ドキュメントは、を使用して個別に処理されますバッチプロセス中に選択された設定。



PDFのバッチをラスタライズする方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>に変換>>** **PDFをラスタライズ**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - 画像形式と追加設定を設定します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチラスタライズ設定

ページ範囲

ページ-ラスタライズするページの範囲

- すべてのページ：各ドキュメントのすべてのページをラスター化します
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、ラスタライズするページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

> **注意**：*バッチを処理する場合、PDF Studioは、選択したページ範囲がPDF内に存在する場合にのみ、それらをラスタライズします。ページが存在しない場合、ページはラスタライズされません。たとえば、5〜7ページをラスタライズするように設定されていて、ドキュ*

メントに3ページしかない場合、ラスタライズされるものはなく、ドキュメントは同じままです。

圧縮

圧縮 -PDFをラスター化するときの画像形式を設定します。 PDF形式と互換性のある画像のみを選択できます。

- JPEG-画質とサイズを低下させる不可逆圧縮
- JPEG2000-サイズと品質を低下させる非可逆圧縮
- FLATE-可逆圧縮は品質を低下させませんが、ファイルサイズを常に低下させるとは限りません
- JBIG2-白黒の色空間のみをサポートできる可逆圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

JPEG品質 -これはJPEG圧縮の品質です。品質パラメータに基づいて、0（非常に高い圧縮、非常に低い品質）から10（低い圧縮、非常に高い品質）まで変化します。いくつかのガイドライン品質値の場合：高品質8、中品質5、低品質2。

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用されるDPIの解像度。72はPDFのネイティブ解像度です。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチリセットフィールド

バッチリセットフィールドを使用すると、PDFのバッチからドキュメント内のすべてのフィールドをリセットできます。リセットフィールドの値は、空白または指定されている場合はデフォルト値に設定されます。各ドキュメントは、選択した設定を使用して個別に処理されます バッチ処理中。

フィールドをバッチリセットする方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [フォーム]>** **リセット**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

フィールド設定のバッチリセット

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

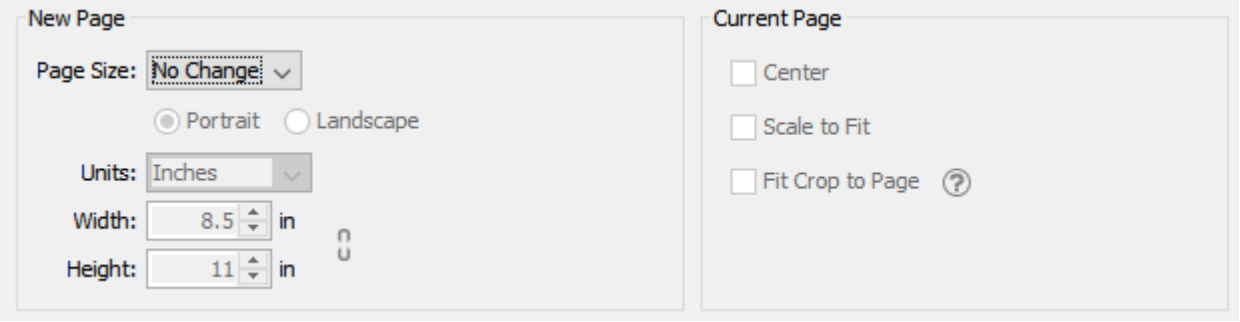
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

ページのバッチサイズ変更

ページのサイズ変更をバッチ処理すると、コンテンツがページにぴったり合うように、または境界線と余白を増やすようにページを拡大縮小できます。各ドキュメントは、バッチ処理中に選択した設定を使用して個別に処理されます。



PDFのバッチのサイズを変更する方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>ページ>>** **ページのサイズ変更**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - バッチのページサイズオプションを設定します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

ページサイズ変更のバッチ設定

新しいページ

ページサイズ -事前定義された標準ドキュメントサイズのリストからページサイズを選択できます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> **注意**：*「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

単位 -切り抜きマージンの測定単位を、インチ、ポイント、センチメートル、またはミリメートルのいずれかで選択します

幅 -W選択した単位でのページのID

高さ - 高さ選択した単位でのページの

K深い比例 -チェックすると、幅と高さの値の同期が保たれます

現在のページ

センター-このオプションをオンにすると、元のページのコンテンツが新しいページサイズの中央に配置されます。

フィットするスケール -新しいページサイズに最も合うようにページコンテンツのサイズを変更します

切り抜きページに合わせる -クロップボックスをメディアボックスと同じに設定します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

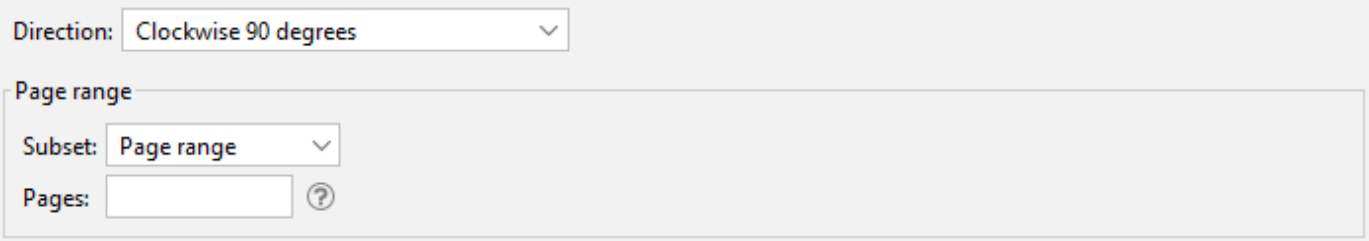
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

ページをバッチ回転

ページのバッチ回転を使用すると、PDFのバッチからページを回転できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。



バッチからページを回転する方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>ページ>>** **ページを回転する**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - 回転するページの方向と範囲を設定する
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチ回転設定

方向 -ページを回転させる方向と量

- 時計回りに90度：ページを右に90度（1/4回転）回転します
- 180度：ページを180度回転します
- 反時計回りに90度：ページを左に90度（1/4回転）回転します

ページ範囲

ページ-回転するページの範囲

- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、回転するページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

> **注意**：*バッチを処理する場合、PDF Studioは、選択したページ範囲がPDF内に存在する場合にのみ回転します。ページが存在しない場合、ページは回転されません。たとえば、5〜7ページを回転するように設定されていて、ドキュメントに3ページしかない場合、何も回転されず、ドキュメントは同じままになります。*

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値

- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

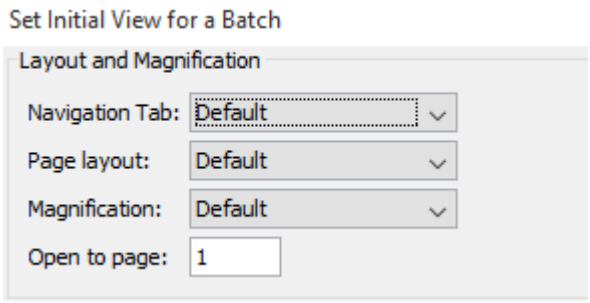
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチセットの初期ビュー

バッチセットの初期ビューを使用すると、複数のPDFドキュメントの初期表示プロパティを変更できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。



初期ビュー設定をPDFのバッチに設定する方法

1. ツールバーで、 **[バッチ]タブ> [ドキュメント]> 初期ビューの設定**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドキュメントの初期表示オプションを設定します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチセット初期ビュー設定

レイアウトと倍率のオプションを選択します

ナビゲーションタブ -ドキュメントを開いたときに自動的に開くナビゲーションタブがある場合は、それを設定します。

ページレイアウト -レイアウトとして1ページまたは2ページの見開きページがあるかどうか、およびレイアウトが連続するかどうかを設定します。

倍率 -ドキュメントの初期倍率レベルを設定します。

ページを開く -ドキュメントを開くページを設定します。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分

- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

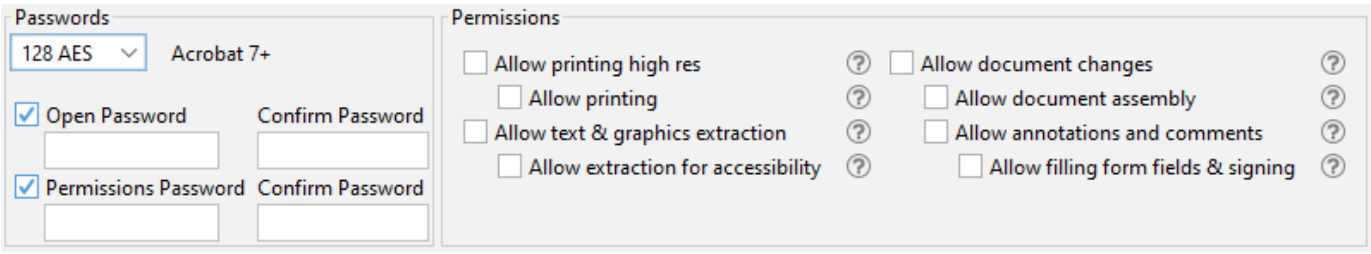
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチセットのセキュリティ

バッチセットセキュリティを使用すると、複数のPDFドキュメントのセキュリティ設定を一度に変更できます。これにより、リスト内のすべてのドキュメントにまったく同じパスワードとセキュリティ設定が設定されます。



PDFのバッチにセキュリティを設定する方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>** **セキュリティを設定する**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドキュメントに設定するパスワードと権限の設定を設定します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチセットのセキュリティ設定

パスワード

セキュリティ方法 -ドキュメントを保護するために使用されている現在の暗号化。オプションは、Acrobat 5.0（High 128ビットRC4）以降またはAcrobat 7.0（High 128ビットAES）以降のいずれかです。

パスワードを開く -ユーザーパスワードとも呼ばれ、ドキュメントを開くときに必要となるパスワードです。

権限パスワード -所有者パスワードとも呼ばれ、ドキュメントのアクセス許可とパスワードを変更するときに必要になるパスワードです。

権限

高解像度の印刷を許可する -ドキュメントを高解像度で印刷します。この権限が付与されると、次の権限「印刷」も自動的に付与されます。

印刷を許可する -ドキュメントの印刷を許可する

テキストとグラフィックの抽出を許可する -ドキュメントからテキストとグラフィックをコピーまたは抽出します。この権限が付与されると、次の権限「アクセシビリティの抽出」も 自動的に付与されます。

アクセシビリティのために抽出を許可する -障害のあるユーザーへのアクセシビリティまたはその他の目的をサポートするためにテキストとグラフィックを抽出する

ドキュメントの変更を許可する -ドキュメントを変更します。この権限が付与されると、次の3つの権限（ドキュメントアセンブリ、コメント、フォーム入力）も自動的に付与されます。この許可があれば が付与されていない場合、次の3つの権限（ドキュメントアセンブリ、コメント、およびフォーム入力）を個別に付与できます。

ドキュメントの組み立てを許可する -ドキュメントの組み立て：ページの挿入、回転、削除、ブックマークまたはサムネイル画像の作成

注釈とコメントを許可する -テキスト注釈を追加または変更します。この権限が付与されると、次の権限「フォームフィールドへの入力と署名」が自動的に付与されます。この許可があれば が付与されていない場合は、次の権限「フォームの入力と署名」を個別に付与できます。そして、この権限が付与され、「すべての変更」権限も付与されると、インタラクティブフォームを作成または変更します フィールド（署名フィールドを含む）が許可されます。

フォームフィールドへの入力と署名を許可する -署名フィールドを含む既存のインタラクティブフォームフィールドに入力します。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

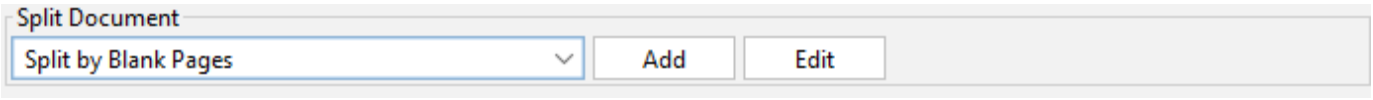
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

バッチ分割ドキュメント

バッチ分割ドキュメントを使用すると、既存のプロファイルを使用して、複数のPDFドキュメントを個別のファイルに分割できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択された分割プロファイルを使用して個別に処理されます。



PDFドキュメントのバッチを分割する方法

1. ツールバーで、 **バッチタブ>ページ>>** **スプリット**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドロップダウンから既存のプロファイルを選択するか、[追加]をクリックして新しいプロファイルを作成するか、[編集]をクリックして既存のプロファイルを変更します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチ分割設定

[プロファイルの分割]を選択します

プロフィール-ドロップダウンをクリックして、プロファイルの分割 バッチプロセスに使用されます

追加-[追加]を使用して、このバッチプロセスに使用する新しいプロファイルを作成します

編集 -[編集]をクリックして、ドロップダウンで現在選択されているプロファイルを変更します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

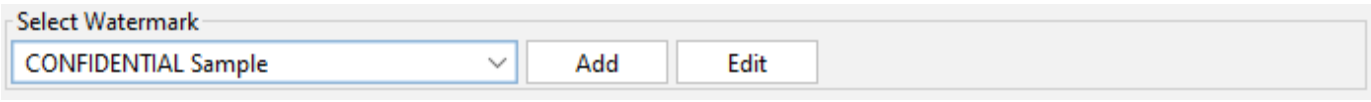
ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> **注意：** *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

透かしのバッチ適用

透かしのバッチ適用を使用すると、複数のPDFドキュメントに透かしを一度に追加できます。各ドキュメントは、バッチプロセス中に選択した設定を使用して個別に処理されます。



透かしをバッチに適用する方法

1. ツールバーで、**[バッチ]タブ> [ページ]> 透かし**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドロップダウンから既存のプロファイルを選択するか、[追加]をクリックして新しいプロファイルを作成するか、[編集]をクリックして既存のプロファイルを変更します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチ透かし設定

透かしを選択

プロフィール-ドロップダウンをクリックして、透かしプロファイル バッチプロセスに使用されます

追加-[追加]を使用して、このバッチプロセスに使用する新しいプロファイルを作成します

編集 -[編集]をクリックして、ドロップダウンで現在選択されているプロファイルを変更します

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダーを含める -オンにすると、選択したデフォルトのバーチディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開くことができます 宛先フォルダを設定します

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用する -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます この分野で。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $ counter-自動的に増加する数値
- $ day-月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $ second-現在の秒
- $ minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

注意： *これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

注意： *ここに入力したパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

PDFフォームの作成と編集

PDF Studioは、PDFドキュメントの標準フォームフィールドをサポートしており、PDFドキュメントのPDFフォームを作成、編集、および入力できます。

PDFフォームへの記入：既存のPDFフォームへの記入と記入

PDFフォームデータのエクスポート Pro：PDFからのフォームフィールドデータのエクスポート

PDFフォームデータのインポート Pro：フォームフィールドデータをPDFにインポートする

フォームフィールドのリセット：既存のPDFフォームフィールドをデフォルト値にリセットする

フォームフィールドのフラット化：フォームフィールドとそのデータをページ上でフラット化する

フォームフィールドの強調表示：ページ上の既存のフォームフィールドを強調表示して、目立たせる

フィールドタブの順序を表示 -タブの順序を示すフォーム編集モードでフィールドに番号を表示します

インタラクティブPDFフォームの作成 Pro：PDFのフォームフィールドを作成、編集、および削除する方法

PDFフォームJavaScript：フォームフィールドでサポートされているカスタムJavaScriptアクション

PDFフォームへの記入

PDF Studioを使用して、PDF内の既存のインタラクティブフォームフィールドに入力して入力できます。記入が完了すると、他のPDFドキュメントと同じようにフォームを印刷または保存できます。

> **注意：** *非インタラクティブフォームに入力するには、フォームが単にスキャンされたページであり、アクティブなフィールドがない場合は、タイプライターツール。*

PDFフォームのフィールドに入力する方法

PDFインタラクティブフォームに入力するには、をクリックしてドキュメントを開くだけです。**[ファイル]タブ> [開く]** 以下の各フィールドタイプの手順を使用してフォームに入力します。 Tabキーを使用して次のフィールドに移動し、 Shift + Tabキーを押すと、前のフィールドに移動します。 PDFフォームに入力されたすべてのデータを保存するには、に移動してPDFドキュメントを保存するだけです。**[ファイル]タブ> [保存]** または保存ボタンをクリックします 。

> **注意：** *LiveCycle XFAフォーム（動的XFAフォームとも呼ばれます）は、PDFStudioではサポートされていません。これらの特殊なフォームフィールドの詳細については、ナレッジベースを参照してください。ここに。*

PDF Studioでは、次のフォームフィールドタイプがサポートされています。

テキストフィールド	フィールドにテキストを入力できます。場合によっては、特定の種類の情報のみを入力できるフォーマット規則が設定されていることがあります。例：時間または日付フィールド。	Text Fie
チェックボックス	チェックすることもオフにすることもできます。複数のチェックボックスを一度にチェックできます。	☑
ラジオボタン	ラジオボタンがグループに属していることを除いてチェックボックスに似ているため、各グループで一度に1つのボタンしかチェックできません。	◯
コンボボックス	選択肢のリストを表示するドロップダウンメニュー。下矢印をクリックして、使用可能なオプションのリストを表示します。場合によっては、このフィールドでカスタムテキストを入力することもできます	Option
リストボックス	選択可能なボックスに複数の選択項目のリストを表示します。場合によっては、フィールドで一度に複数のアイテムを選択することもできます。一度に複数のアイテムを選択するには、CtrlキーまたはShiftキーを押しながら、各オプションをクリックします。	Option Option Option Option Option
ボタン	クリックするとアクションを実行します	But
署名フィールド	適用する指定場所デジタル署名 ドキュメントに。フィールドをクリックして署名を配置します	Sign Here

フォームデータのエクスポート

フォームデータは、現在のドキュメントからFDF、XFDF、XDP、CSV、またはXML形式のファイルにエクスポートできます。すべてのフォームフィールドデータフォームフィールドタイプこのプロセス中にエクスポートされます。

フォームは次の形式でエクスポートできます

FDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式

XFDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式

XDP：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたXMLデータパッケージ

CSV：コンマで区切られたデータのリストを含むプレーンテキストファイル

XML：カスタムタグを使用して、ドキュメントの構造やその他の機能を説明するファイル。

テキスト：すべてのフォームデータをタブ区切り形式でエクスポートするプレーンテキストファイル

フォームデータをエクスポートする方法

1. メニューから、**[フォーム]タブ>** **フォームのエクスポート**
2. FDF、XFDF、XDP、またはCSVXML形式でエクスポートするかどうかを選択します。保存ダイアログが表示されます。
3. エクスポート先のファイルの場所と名前を選択し、[保存]をクリックします

フォームデータのインポート

フォームフィールドデータは、FDF、XFDF、またはXDPファイルのいずれかから現在のドキュメントにインポートできます。のいずれかからの任意のフォームデータフォームフィールドタイプ インポートされます。

注意： *フォームデータは、エクスポート元とまったく同じフォームにのみインポートできます。つまり、データをインポートするには、フィールドタイプと名前の両方が完全に同じである必要があります。*

コメントは、次の形式を使用してインポートできます

FDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたファイル形式

XFDF：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成された拡張FDFファイル形式

XDP：ほとんどのPDFアプリケーションでサポートされているAdobeによって作成されたXMLデータパッケージ

フォームデータをインポートする方法

1. メニューから、**[フォーム]タブ>** **フォームのインポート**
2. FDF、XFDF、またはXDPファイルをインポートするかどうかを選択します。これにより、ファイルチューザーダイアログが表示されます。
3. FDF、XFDF、またはXDPファイルの場所に移動し、[開く]をクリックします

フォームフィールドのリセット

フォームフィールドのリセットは、フォームのすべてのフィールドのデータをリセットします。フィールドをリセットすると、データはフィールドのデフォルト値に設定されます。フィールドにデフォルト値がない場合はnullに設定されます。

フォームフィールド値をリセットする方法

選択する**[フォーム]タブ>** **フィールドのリセット** メニューから。

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。このアクションを完了する前に、必ずコピーを保存してください。*

フォームフィールドのフラット化

フォームフィールドのフラット化は、フォーム内のすべてのフィールドをフラット化します。フィールドは、それらが属するコンテンツページに直接描画され、編集できなくなります。見るフォーム設定 追加の平坦化のため 設定。

フォームフィールドをフラット化する方法

選択する**[フォーム]タブ>** **すべてのフィールドをフラット化** メニューから。

> **注意**：*これは、元に戻すことはできません。このアクションを完了する前に、必ずコピーを保存してください。*

フォームフィールドの強調表示

PDF Studioは、フォーム内のすべてのフィールドを強調表示できるため、簡単に見つけることができます。強調表示すると、明るい色のボックスがドキュメント内の各フィールドに配置されます。このオプションはデフォルトで有効になっていますが、を実行することでオフまたはオンに戻すことができます。 以下。

> **注意**：*非表示のフィールドはドキュメントで強調表示されません。非表示のフィールドを表示するには、次の場所にいる必要がありますPDFフォームの作成 モード。*

フォームフィールドの強調表示を有効にする方法

ページ上のフィールドを強調表示する方法は2つあります。

- 選択する**タブを表示>** **フィールドを強調表示** メニューから。同じ手順で、フィールドのハイライトをオフに切り替えます。
- 選択する**[フォーム]タブ>** **フィールドを強調表示** メニューから。同じ手順で、フィールドのハイライトをオフに切り替えます。

インタラクティブPDFフォームの作成

PDF Studioは、インタラクティブなPDFフォームを作成したり、既存のPDFフォームのフォームフィールドを編集したりするためにフォームフィールドを追加できます。フォームフィールドは、ドキュメントで選択または入力する必要のある情報がある場合に役立ちます。そこPDFStudioで利用できるさまざまな種類のフィールドオプションがあります。

フォーム編集モード：フォーム編集モードを開始して、PDFフォームの作成を開始します

フォームフィールドエディタツールバー：PDFフォームの作成および編集時に使用できるツール

フォームフィールドの作成：フォームフィールドを作成および編集する方法

フォームフィールドタイプ：使用可能なフォームフィールドタイプとその機能

フォームフィールドの移動とサイズ変更 -フォームフィールド要素を移動およびサイズ変更する方法

複数のフォームフィールドコピーの作成 -1つのページに同じフィールドの複数のコピーを作成します

重複するフォームフィールド -複数のページにまたがる同じフィールドの複数のコピーを作成します

フォームフィールドの整列：ドキュメント内のフォームフィールドを揃える方法

カスタムフィールドフォーマット：フォームフィールドに数値、パーセンテージ、日付、郵便番号、社会保障番号などのカスタムフォーマットを設定する

フォームフィールドへの計算の追加：フォームフィールドに数値計算を追加する方法

フィールド計算順序の設定 -リンクされたフィールドデータが計算される順序を設定します

フォームフィールドの検証 -検証ルールを設定して、フォームフィールドに入力されるデータのタイプを制限します

フィールドタブ順序の編集：Tabキーを押したときのフィールドの順序を編集する方法

フォームフィールドのリンク：値を共有するようにフィールドをリンクする方法

フォーム編集モード

PDFでフォームを作成するには、最初にフォーム編集モードにする必要があります。フォーム編集モードでは、ほとんどのツールが非表示になり、ナビゲーション、フォームフィールド、プロパティ、および配置オプションのみが残ります。フォームが完成したら、フォーム編集モードを閉じて、通常どおりのドキュメントの表示に戻ります。

- オブジェクト選択ツール ツールバーで、1つまたは複数のフィールド/注釈を選択して、それらのプロパティを移動、整列、または編集できます。このツールは、標準のドキュメントビューでも使用できるため、フィールドをすばやく編集/移動できます。
- タイプライター注釈 フォーム編集モードでラベルを作成できるように、このツールバーにが含まれています。それらを永続的にするために、平らにする フォームが作成されたら、タイプライターの注釈。
- [ページのサムネイル]タブはデフォルトでは非表示になっていますが、をクリックすると表示できます PDFStudioフレームの左側にあるアイコン。

フォーム編集モードの開始/停止

リボンツールバー

使用する場合リボンツールバー をクリックするだけです[フォーム]タブ フォーム編集モードをアクティブにします。

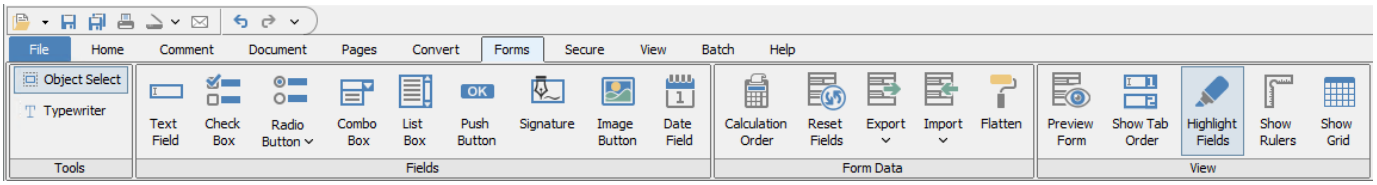
クラシックツールバー

1. PDFStudioで任意のドキュメントを開きます
2. メニューバーで選択します**フォーム>フォームの作成/編集** またはショートカットキーCtrl+Shiftを使用します+ M（Macでは⌘+ Shift + M）。
3. これにより、フォームフィールドエディタツールバー。フォーム編集モードでは、ほとんどのツールバーが非表示になります。ナビゲーション、フォームフィールド、プロパティ、および配置オプションはそのまま残ります。
4. これで、必要に応じてPDFドキュメントの作成/編集フォームを編集できます。
   - **ノート：** *ドキュメントが保護またはロックされている場合、ロックが解除されるまでフォームフィールドを編集できません。*
5. 完了したら、[フォーム編集の停止]をクリックしてツールバーを閉じます
6. ドキュメントを保存すると、フィールドを使用できるようになります

フォームフィールドエディタのリボンツールバー

[フォーム]タブに入ると、フォーム編集モードが開始されます。このモードでは、フィールド設定、場所、サイズ、およびオプションを編集/変更できます。

ユーザーとしてフォームを表示するには、 [フォーム]タブに留まりながらフィールドをテストするためのプレビューボタン



ツールバーの説明

ツール

オブジェクトの選択： 慣れているインタラクティブオブジェクトの編集 PDF内。

タイプライター： タイプライター注釈を作成します。

田畑

テキストボックス：テキストボックスフィールドを作成します

チェックボックス：チェックボックスを作成します

ラジオボタン： ラジオボタンを作成します。ラジオボタンの新しいグループを作成するには、下矢印をクリックします ツールバーのラジオボタンの右側にある[**新着**。これにより、ラジオボタンの新しいグループが開始されます。

コンボボックス：コンボボックスを作成します

リストボックス：リストボックスを作成します

ボタン：プッシュボタンを作成します

署名：デジタル署名フィールドを作成します

画像ボタン：画像ボタンを作成します

日付フィールド：次の形式m / d / yyを使用して日付フィールドを作成します

フォームデータ

計算順序：ドキュメント内のフォームフィールドの計算順序を設定できます

フィールドのリセット：フォームのすべてのフィールドのデータをリセットします。

書き出す：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、XDP、XML、CSV、またはテキスト形式のファイルにエクスポートします。

インポート：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、またはXDP形式のファイルにインポートします。

平らにする：フォーム内のすべてのフィールドをフラット化します。

見る

プレビューフォーム：フォーム編集モードを切り替えて、[フォーム]タブに留まりながらフィールドをテストできるようにします

フィールドを強調表示：フォーム内のすべてのフィールドを強調表示して、見つけやすくします。

定規を表示する：ドキュメント表示領域でのルーラーの表示を切り替えます

グリッドを表示：PDF上部のグリッド表示を切り替えます

フォームフィールドエディタのクラシックツールバー

オフィススタイルリボンツールバー はデフォルトのレイアウトであり、PDFStudioのすべての機能があります。必要に応じて、でクラシックツールバーに切り替えることができますツールバーの設定。

フォーム編集モードでは、フォームフィールドエディタのツールバーが有効になります。フォーム編集モードを開始してツールバーを表示するには、に移動します。**フォーム>フォームの作成/編集**メニュー上で、またはショートカットキーCtrl + Shiftを使用します+ M（Macでは⌘+ Shfit + M）。フォーム編集モードでは、ほとんどのツールが非表示になり、ナビゲーション、フォームフィールド、プロパティ、および配置オプションのみが残ります。

デフォルトのフォームエディタツールバーは上記のように設定されていますが、以下のいずれかの方法を使用してカスタマイズできます。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップを使用してツールバーのツールを再配置するには、仕切り線をクリックします 移動するツールグループの左側にドラッグアンドドロップします 新しい位置に。任意のツールグループをツールバーの任意の場所に移動できます。 3番目の行は、2番目の行の下にツールグループをドラッグして3番目の行を作成することで作成できます。

ツールをドラッグしてPDFStudioウィンドウの下部にドロップすることにより、下部のツールバーを作成することもできます。

フローティングツール

ツールを他の場所に浮かせて、簡単にアクセスできるようにすることもできます。ツールバーからツールをフロートさせるには、仕切り線をクリックします ツールグループの左側 ツールバーをフロートさせてツールバーセクションからドラッグし、上部または下部のツールバーではなく新しい位置にドロップして、フローティングのままにします。ツールバーに戻すには、ツールバー上の場所にドラッグして戻すか、をクリックします。 「X」ボタンを押すと、ツールバーの最後の場所に戻ります。

ツールバーの説明

ナビゲーション

一ページ目： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

ページ番号： 現在表示されているページと合計ページ数を表示します。フィールドに数値を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

ページフィット

実際のサイズ： スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致するように、ドキュメントを1：1の比率で表示します。

幅に合わせる： PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します。

ページに合わせる： PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します。

回転を表示

ビューを時計回りに回転： ドキュメント内のビューのみを時計回りに回転します（**注意：** *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。*）。

ビューを反時計回りに回転します。 ドキュメント内のビューのみを反時計回りに回転します（**注意：** *ドキュメントを保存してから再度開くと、この回転は保存されません。*）。

ズーム

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

ズーム先/現在のズーム： 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

ズームツール： ページ内の選択した領域にズームします。クリックしてドラッグし、ズームする長方形の領域を選択します。

ルーペツール： PDFを拡大して細部を表示するズームウィンドウを表示します。

パンとズーム： 現在画面に表示されているページの一部を表示するウィンドウ。赤いボックスをドラッグして、のビューを調整します 資料。

フォームフィールド

インタラクティブオブジェクトの編集： 注釈やフォームフィールドを含むPDF内のインタラクティブオブジェクトを編集するために使用されます。

テキストボックス：テキストボックスフィールドを作成します

チェックボックス：チェックボックスを作成します

ラジオボタン：作成します ラジオボタン。ラジオボタンの新しいグループを作成するには、下矢印をクリックします ツールバーのラジオボタンの右側にある[**新着**。 これにより、ラジオボタンの新しいグループが開始されます。

コンボボックス：コンボボックスを作成します

リストボックス：リストボックスを作成します

ボタン：プッシュボタンを作成します

署名：デジタル署名フィールドを作成します

タイプライター： タイプライター注釈を作成します。

配置

左揃え： 選択したオブジェクトを左揃えにします。

センターの位置合わせ：選択したオブジェクトを中央に揃えます。

右揃え：選択したオブジェクトを右揃えにします。

上に揃える：選択したオブジェクトを上に揃えます。

中央揃え：選択したオブジェクトを中央に揃えます。

下に揃える：選択したオブジェクトを下に揃えます。

水平方向に配布：選択したオブジェクトを水平方向に均等に分散します。

垂直に配布：選択したオブジェクトを垂直方向に均等に分散します。

幅を揃える：選択したオブジェクトの幅を揃えます。

高さを揃える：選択したオブジェクトの高さを揃えます。

両方を揃える：選択したオブジェクトの幅と高さの両方を揃えます。

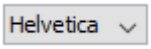
プロパティ-外観

塗りつぶしの色： 選択できます 選択したオブジェクトの塗りつぶしの色。

ボーダの色： 選択したオブジェクトの境界線の色を選択できます。

 線幅： 選択したオブジェクトの境界線の幅を設定します。

テキストの色： フォントを設定します 選択した注釈の色。



フォント： 選択した注釈のフォントを設定します。

サイズ： 選択した注釈のフォントサイズを設定します。

フォームの編集を停止する

フォーム編集の停止： フォーム編集モードを終了して閉じます

Oそれら

仕切り： 各ツールバーセクションを分離します

グループ化されたボタン/オプション： 次のいずれかで使用されます

- 取り付けられているツールのさまざまなオプションから選択します
- ツールバーがグループ化されているときに他のツールを選択するには（のグループ化されたボタンを参照）ツールバーの設定）。

フォームフィールドの作成

PDF Studioは、PDFドキュメント内にフォームフィールドを作成できます。最初にフィールドを作成するには、フォームエディタを起動する必要があります。次に、以下の2つの方法のいずれかを使用してフィールドを作成できます。

> **注意：** *一度に複数のフィールドを作成する場合は、「スティッキー」モードを有効にして、同じフィールドタイプを一度に複数配置できます。「スティッキー」モードを有効にするには、ツールバーのフォームアイコンを右クリックし、「スティッキー」オプションを選択してオンとオフを切り替えます。*

シングルクリック

フィールドは、ワンクリックで標準サイズを使用してページ上に作成できます。

> **注意：** *デフォルトのフォームフィールドサイズを変更するには、ページに1つ配置してから、使用するデフォルトサイズにサイズ変更します。次に、右クリック（Macの場合はCtrl +クリック）して、[今後その特定のフィールドタイプに使用されるデフォルトサイズとして保存]を選択します。*

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. クリックしてくださいフォームフィールドタイプ 作成したい。カーソルが変わり、現在選択されているフィールドタイプが表示されます。
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置します

クリックしてドラッグ

クリックアンドドラッグを使用すると、後でサイズを変更しなくても、ページ上にカスタムサイズのフィールドを作成できます。

1. に移動してフォーム編集モードを開始します**[フォーム]タブ**
2. クリックしてくださいフォームフィールドタイプ 作成したい。カーソルが変わり、現在選択されているフィールドタイプが表示されます。
3. フィールドの左上隅を使用して、フィールドの左上を開始するページのセクションに移動します
4. クリックして、マウスボタンを押したままマウスをドラッグして、必要なカスタムフィールドサイズを作成します
5. 完了したら、マウスを放してフィールドを配置します

フォームフィールドタイプ

PDF StudioでPDFフォームを作成する場合は、次のフォームフィールドタイプを使用できます。

テキストボックス：テキスト、数値、日付などを保存します。特定のデータ型に合わせてフィールドをフォーマットするか、計算に使用します

チェックボックス：オプションの選択または選択解除

ラジオボタン：相互に排他的なオプションのグループの1つを選択します

リストボックス：リストから1つ以上のアイテムを選択します

コンボボックス：リストから項目を1つ選択するか、リストにない値を追加してください

ボタン：アクション、計算、検証などを開始します

画像ボタン：画像をページにインポートするために使用されるボタン

日付フィールド：ポップアップカレンダーで日付フィールドを作成します

署名：ドキュメントに安全なデジタル署名を適用する

フォームテキストボックス

PDF Studioは、テキストフィールドを作成できます。テキストフィールドは、情報を入力して入力する必要のあるセクションを含むドキュメントを作成するときに使用されます。テキストフィールドを作成するには、以下の手順に従います。

テキストフィールドの作成

1. に移動してフォーム編集モードを開始します**[フォーム]タブ**
2. テキストフィールドをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. 手順1〜3を繰り返して、必要な数のフィールドを作成します
5. テキストフィールドの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

テキストフィールドのプロパティ

テキストフィールドのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。テキストフィールドには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -フィールドの名前

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

Font -テキストのフォントを設定します

サイズ -テキストのフォントサイズを設定します

テキストの色 -テキストの色を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

線幅-境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しいテキストフィールドのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -チェックすると、フィールドに赤いアウトラインが表示され、フィールドが必要であることを知らせます。

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 表示/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

アラインメント -フィールドに入力されるテキストの配置

デフォルト -フィールドのデフォルト値。これは、フィールドが空の場合、または次の場合に表示される値です。フォームフィールドのリセット

マルチライン -ユーザーが複数の行を使用して入力できるようにします

長いテキストをスクロールする -チェックすると、入力されているテキストがフィールドより長い場合にスクロールします。これをオフにすると、テキストがフィールドの長さに制限されます

パスワード -チェックすると、フィールドに入力されたテキストの代わりに、テキストが非表示になり、ドットが表示されます・・・・

スペルチェック -チェックすると、フィールドの「スペルチェック」プロパティが有効になります。スペルチェックプロパティが設定されている場合、PDFビューア/エディタがスペルチェックをサポートしていると、このプロパティが設定されているフィールドでのみ有効になります。

櫛 -入力した各文字間の縦線の数を設定します。文字ごとに個別のボックスがあるフォームにフィールドを追加するときに便利です

文字数制限 -フィールドに入力できる文字数を制限します

リッチテキストを許可する -特殊な形式の文字をフィールドに入力できます（太字、斜体、下線など）。

フォーマット

選択したオプションと設定に基づいて、フィールドのフォーマット規則を設定します。フォーマットが選択されると、JavaScriptを使用してフォーマットが適用され、ユーザーはルールに設定されている値以外の値を入力できなくなります。見るフィールドフォーマット 詳細については。

なし -デフォルト値。フォーマットルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

番号 -選択した設定に基づいて数値のみを受け入れるようにフィールドを設定します

パーセンテージ -選択した設定に基づいてパーセンテージを表示するようにフィールドを設定します

日にち -選択した設定に基づいて、日付、時刻、または日時の値のみを受け入れるようにフィールドを設定します。

> *ノート： ドキュメントの表示時に日付または日時の設定を選択すると、PDFStudioはフィールドにカレンダーボタンを表示します。このボタンを使用すると、ユーザーは必要に応じてフィールドに入力する代わりに、カレンダーピッカーを使用して日付を選択できます。*

時間-設定に基づいて時間値のみを受け入れるようにフィールドを設定します。

特別な-一般的な定義済みフィールドフォーマットルールのリストから選択できます

カスタムJavaScript -サポートされているものを使用して、独自のカスタムフォーマットルールを作成できますPDFフォームJavaScript

計算する

選択したオプションと設定に基づいて、フィールドの計算ルールを設定します。計算が設定されると、JavaScriptを使用して適用されます。見るフォームフィールドの計算 詳細については

このフィールドの計算はありません -デフォルト値。計算ルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

フィールド値の計算は簡単です -選択すると、すべてのフィールドまたは選択したフィールドのいずれかに単一の数学計算を設定できます。

このフィールドにはカスタム計算があります -選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム計算を作成するには

単純なフィールド表記 -これをオンにすると、JavaScriptの代わりに簡単な計算コマンド（+-/*）を使用できるようになります。見るフォームフィールドの計算 詳細については

検証

選択したオプションに基づいて、フィールドの検証ルールを設定します。検証は、フィールドに入力できる値を制限するという点で形式とは異なります。

このフィールドの検証はありません -デフォルト値。検証ルールは設定されておらず、フィールドに任意の値を入力できます。

フィールド値の範囲 -[形式]が[数値]または[パーセンテージ]に設定されている場合にのみ使用できます。

このフィールドにはカスタム検証があります -選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム検証を作成するには

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォームチェックボックス

PDF Studioは、チェックボックスを作成できます。チェックボックスは、ユーザーがPDFフォームで単一または複数の選択オプションを選択できるようにするために使用されます。

チェックボックスの作成

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. チェックボックスをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. 手順1〜3を繰り返して、必要な数のフィールドを作成します
5. チェックボックスの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

チェックボックスのプロパティ

チェックボックスのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。チェックボックスには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -フィールドの名前

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

フォント -チェックボックスを機能させるには特定のフォントを設定する必要があるため、このフィールドは無効になっています

サイズ-チェックマーク記号のサイズを設定します

テキストの色 -チェックマークの色を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

線幅-境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しいチェックボックスのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -チェックすると、フィールドに赤いアウトラインが表示され、フィールドが必要であることを知らせます。

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 印刷する/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

ボタンスタイル -ボタンがチェックされたときに使用される記号を設定します

輸出額 -フィールドがチェックされたときにエクスポートされる値

デフォルトで選択 -フィールドのデフォルト値をチェック済みまたはチェックなしに設定します

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォームラジオボタン

PDF Studioは、ラジオボタンを作成できます。ラジオボタンは、ユーザーがPDF形式のオプションのリストから単一のオプションを選択できるようにするために使用されます。ラジオボタンはグループで作成されます。これは、ラジオボタンが1つだけの場合に使用されるためです。 リストからオプションを選択する必要があります。同じラジオボタングループ内の別のオプションが選択されている場合、他のオプションは選択解除されます。デフォルトでは、PDF Studioは、作成されたすべてのラジオボタンを同じグループの一部にします。

ラジオボタンの作成

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. ラジオボタンをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
   - ラジオボタンの新しいグループを作成するには、小さな下矢印をクリックします ツールバーのラジオボタンの右側にある**[新着**。 これにより、ラジオボタンの新しいグループが作成されます。
   - 前のグループに戻る必要がある場合は、ラジオボタンの右側にある小さな矢印をクリックして、さらにラジオボタンを作成するグループを選択します。
4. 手順1～3を繰り返して、必要な数のフィールドを作成します
5. ラジオボタンの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

ラジオボタンのプロパティ

ラジオボタンのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。ラジオボタンには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -ラジオボタングループの名前。同じ名前を含むすべてのラジオボタンは、同じグループの一部になります。

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

フォント -ラジオボタンを機能させるには特定のフォントを設定する必要があるため、このフィールドは無効になっています

サイズ-チェックされたボタンの記号のサイズを設定します

テキストの色 -チェックマークの色を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

線幅-境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しいラジオボタンのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -チェックすると、フィールドに赤いアウトラインが表示され、フィールドが必要であることを知らせます。

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 印刷する/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

ボタンスタイル -ボタンがチェックされたときに使用される記号を設定します

ラジオボタンの選択 -これは、ラジオボタングループの選択番号を定義します

デフォルトで選択 -フィールドのデフォルト値をチェック済みまたはチェックなしに設定します

ボーダーシェイプ -ラジオボタンの境界線の形状を円または正方形に設定します

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォームコンボボックス

PDF Studioは、コンボボックス（ドロップダウンフィールド）を作成できます。コンボボックスは、ユーザーがドロップダウンメニューから使用可能なテキストオプションのリストからオプションを選択できるようにするために使用されます。設定されている場合、ユーザーは独自のカスタム値を入力することもできます。

コンボボックスの作成

1. に移動してフォーム編集モードを開始します**[フォーム]タブ**
2. コンボボックスをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. 次に、[コンボボックスのプロパティ]ダイアログが表示され、最初は空白であるため、リストにオプションを追加できます。
5. [オプション]タブをクリックします
6. 追加する各オプションを[アイテム]フィールドに入力し、[追加]をクリックするか、キーボードのEnterキーを押します。新しいアイテムが下のリストに表示されます。必要なすべてのアイテムを追加し続け、完了したら[OK]をクリックしてリストオプションを設定します
7. 手順1～6を繰り返して、必要な数のフィールドを作成します
8. コンボボックスの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

コンボボックスのプロパティ

コンボボックスのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。コンボボックスには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -フィールドの名前

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

Font -テキストのフォントを設定します

サイズ -テキストのフォントサイズを設定します

テキストの色 -テキストの色を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

線幅-境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しいコンボボックスのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -チェックすると、フィールドに赤いアウトラインが表示され、フィールドが必要であることを知らせます。

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 表示/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

アイテム -コンボリストに追加するアイテムの名前を入力します

追加 -[アイテム]フィールドのテキストをコンボリストに追加します

輸出額 -コンボボックスでアイテムが選択されたときにエクスポートされる値

デフォルト -チェックすると、選択したオプションがフィールドのデフォルト値になります。これは、フィールドが空の場合、または次の場合に表示される値です。フォームフィールドのリセット

消去 -選択したアイテムをリストから削除します

上に移動 -選択したアイテムをリストの上位に移動します

下に移動 -選択したアイテムをリストの下に移動します

カスタムテキストを許可する -オンにすると、ユーザーはフィールドにカスタムテキストを入力できます。それ以外の場合、ユーザーはオプションを選択する必要があります

アイテムを並べ替える -リスト内のすべてのアイテムをアルファベット順に並べ替えます

> **ノート：***並べ替えた後は元に戻せません。手動でアイテムを再配置する必要があります*

選択したものをすぐにコミットする -使用する場合フォームフィールドの計算 これにより、値がすぐに計算に送信されます（設定されている場合）。それ以外の場合は、別の方法を使用してトリガーする必要があります。

スペルチェック -チェックすると、フィールドの「スペルチェック」プロパティが有効になります。スペルチェックプロパティが設定されている場合、PDFビューア/エディタがスペルチェックをサポートしていると、このプロパティが設定されているフィールドでのみ有効になります。

> **ノート：***このオプションは、[カスタムテキストを許可する]が有効になっている場合にのみ有効になります。*

フォーマット

選択したオプションと設定に基づいて、フィールドのフォーマット規則を設定します。フォーマットが選択されると、JavaScriptを使用してフォーマットが適用され、ユーザーはルールに設定されている値以外の値を入力できなくなります。見るフィールドフォーマット 詳細については。

なし -デフォルト値。フォーマットルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

番号 -選択した設定に基づいて数値のみを受け入れるようにフィールドを設定します

パーセンテージ -選択した設定に基づいてパーセンテージを表示するようにフィールドを設定します

日にち -選択した設定に基づいて、日付、時刻、または日時の値のみを受け入れるようにフィールドを設定します。

> **ノート：** *ドキュメントの表示時に日付または日時の設定を選択すると、PDFStudioはフィールドにカレンダーボタンを表示します。このボタンを使用すると、ユーザーは必要に応じてフィールドに入力する代わりに、カレンダーピッカーを使用して日付を選択できます。*

時間-設定に基づいて時間値のみを受け入れるようにフィールドを設定します。

特別な-一般的な定義済みフィールドフォーマットルールのリストから選択できます

カスタムJavaScript -サポートされているものを使用して、独自のカスタムフォーマットルールを作成できますPDFフォームJavaScript

計算する

選択したオプションと設定に基づいて、フィールドの計算ルールを設定します。計算が設定されると、JavaScriptを使用して適用されます。見るフォームフィールドの計算 詳細については

このフィールドの計算はありません -デフォルト値。計算ルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

フィールド値の計算は簡単です -選択すると、すべてのフィールドまたは選択したフィールドのいずれかに単一の数学計算を設定できます。

このフィールドにはカスタム計算があります -選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム計算を作成するには

単純なフィールド表記 -これをオンにすると、JavaScriptの代わりに簡単な計算コマンド（+-/*）を使用できるようになります。見るフォームフィールドの計算 詳細については

検証

選択したオプションに基づいて、フィールドの検証ルールを設定します。検証は、フィールドに入力できる値を制限するという点で形式とは異なります。

このフィールドの検証はありません -デフォルト値。検証ルールは設定されておらず、フィールドに任意の値を入力できます。

フィールド値には範囲があります -[形式]が[数値]または[パーセンテージ]に設定されている場合にのみ使用できます。

このフィールドにはカスタム検証があります -選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム検証を作成するには

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

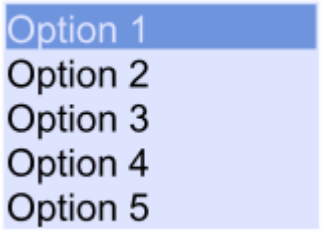
編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

フォームリストボックス

PDF Studioは、リストボックスを作成できます。リストボックスは、ユーザーがPDFドキュメント内のスクロール可能なウィンドウから使用可能なテキストオプションのリストからオプションを選択できるようにするために使用されます。



リストボックスの作成

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. リストボックスをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. [リストボックスのプロパティ]ダイアログが表示され、最初は空白であるため、リストにオプションを追加できます。
5. [オプション]タブをクリックします
6. 追加する各オプションを[アイテム]フィールドに入力し、[追加]をクリックするか、キーボードのEnterキーを押します。新しいアイテムが下のリストに表示されます。必要なすべてのアイテムを追加し続け、完了したら[OK]をクリックして リストオプションを設定する
7. 手順1～6を繰り返して、必要な数のフィールドを作成します
8. リストボックスの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

リストボックスのプロパティ

リストボックスのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 リストボックスには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -フィールドの名前

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

Font -テキストのフォントを設定します

サイズ-テキストのフォントサイズを設定します

テキストの色 -テキストの色を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

線幅-境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しいリストボックスのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -このオプションはリストボックスでは使用できません

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 印刷する/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

項目 -リストボックスリストに追加するアイテムの名前を入力します

追加 -[アイテム]フィールドのテキストをリストボックスリストに追加します

輸出額 -リストボックスでアイテムが選択されたときにエクスポートされる値

デフォルト -チェックすると、選択したオプションがフィールドのデフォルト値になります。これは、フィールドが空の場合、または次の場合に表示される値です。フォームフィールドのリセット

削除 -選択したアイテムをリストから削除します

上に移動 -選択したアイテムをリストの上位に移動します

下に移動 -選択したアイテムをリストの下に移動します

マルチセレクトを許可する -オンにすると、ユーザーはShiftキーまたはCtrlキーを押しながらクリックして複数のオプションを選択できます

アイテムを並べ替える -リスト内のすべてのアイテムをアルファベット順に並べ替えます

> **注意**：*並べ替えた後は元に戻せません。手動でアイテムを再分類する必要があります。*

選択したものをすぐにコミットする -使用する場合フォームフィールドの計算 これにより、値がすぐに計算に送信されます（設定されている場合）。それ以外の場合は、トリガーする必要があります 別の方法を使用します。

選択の変更

選択が変更されたときに発生するアクションを設定できます。変更アクションを設定するときに使用できるのはJavaScriptのみです。

選択の変更には何もしません -デフォルト値。検証ルールは設定されておらず、フィールドに任意の値を入力できます。

選択の変更時にカスタムスクリプトを実行する -選択すると、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム検証を作成するには

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォームボタン

PDF Studioは、プッシュボタンを作成できます。プッシュボタンを使用すると、押されたときにアクションを実行するカスタムボタンをPDFドキュメントに作成できます。 PDF Studioには、コーディングを必要とせずに追加できるいくつかの基本的なアクションが含まれています。より高度なオプションについては、JavaScriptを使用してアクションをプログラムできます。ボタンのアクションを作成するには、JavaScriptのプログラミングに関する高度な知識が必要です。 PDF StudioのJavaScriptの詳細については、を参照してください。PDFStudioでサポートされているJavaScript

ボタンの作成

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. ボタンをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. [ボタンのプロパティ]ダイアログが表示され、最初は何もしないので、ボタンにアクションを追加できます。
5. [アクション]タブをクリックします
6. [追加]をクリックして、ボタンのアクションを作成します。見るフォームフィールドアクション 利用可能なアクションとそのオプションのリストについては
7. アクションが追加されたら、[OK]をクリックしてアクションを設定します
8. 手順1〜7を繰り返して、必要な数のボタンを作成します
9. ボタンの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

ボタンのプロパティ

ボタンのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。 ボタンには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -ボタンフィールド

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

フォント -ボタンのテキストのフォントを設定します

サイズ-ボタンのテキストのフォントサイズを設定します

テキストの色 -ボタンのテキストの色を設定します

ボーダの色 -ボタンの境界線の色を設定します

線幅-ボタンの境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -ボタンの塗りつぶしの色を設定します

スタイル -ボタンの境界線のスタイル（点線、破線、雲など）を設定します

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しいボタンのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須-このオプションはボタンでは使用できません

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 印刷する/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

スタイル -ボタンのスタイルを設定します

- なし：ボタンを押しても効果はありません
- 反転：押すとボタン全体がハイライト表示されます
- アウトライン：ボタンを押すと、ボタンのアウトラインのみが強調表示されます。より多くを表示するには、より大きな線幅に変更してください
- プッシュ：ボタンとの以下のインタラクションごとに個別のラベルを定義できます
  - 上：ボタンが操作されていないとき
  - 下：ボタンが押されたとき

・ マウスオーバー：マウスをボタンの上に置いたとき

ラベル- ボタンにラベルがあるかどうかとその場所を設定します

画像 -ボタンの背景に画像があるかどうかとその場所を設定します

> **注意：** *サポートされている画像形式（JPEG、PNG、GIF、TIFF）またはPDFドキュメントのいずれかをボタンの画像として設定できます*

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォーム署名フィールド

PDF Studioは、署名フィールドを作成できます。署名フィールドを使用すると、ユーザーがPDFドキュメントにデジタル署名するために使用できるフィールドを作成できます。見るデジタル署名の適用 手順については 文書に署名する方法について。

署名フィールドの作成

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. 署名フィールドをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. [署名フィールドのプロパティ]ダイアログが表示され、最初は空白であるため、リストにオプションを追加できます。
5. [オプション]タブをクリックします
6. 追加する各オプションを[アイテム]フィールドに入力し、[追加]をクリックするか、キーボードのEnterキーを押します。新しいアイテムが下のリストに表示されます。必要なすべてのアイテムを追加し続け、完了したら[OK]をクリックして リストオプションを設定する
7. 手順1〜6を繰り返して、必要な数のフィールドを作成します
8. 署名フィールドの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

署名フィールドのプロパティ

署名フィールドのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。署名フィールドには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -署名フィールドの名前

スタイル

フォント -適用されたデジタル署名で使用されるテキストのフォントを設定します

サイズ-このオプションは署名フィールドには適用されません

テキストの色 -テキストの色を設定します

ボーダの色 -境界線の色を設定します

線幅-境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）。

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しい署名フィールドのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -このオプションは署名フィールドでは使用できません

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 印刷する/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

署名済み

フィールドが署名されたときに発生するアクションを設定できます。変更アクションを設定するときに使用できるのはJavaScriptのみです。

サインには何もしない -デフォルト値。検証ルールは設定されておらず、フィールドに任意の値を入力できます。

次の読み取り専用をサインに設定します -選択した場合、ドロップダウンを使用して、ドキュメントに署名するときに「読み取り専用」としてマークするフィールドを設定します。

- すべてのフィールド：ドキュメント内のすべてのフィールドを読み取り専用としてマークします
- これらのフィールドのみ：読み取り専用としてマークするフィールドを選択できます。一度に複数のアイテムを選択するには、CtrlキーまたはShiftキーを押しながら、各オプションをクリックします。

- を除くすべてのフィールド：読み取り専用としてマークしないフィールドを選択できます。一度に複数のアイテムを選択するには、CtrlキーまたはShiftキーを押しながら、各オプションをクリックします。

サインでカスタムスクリプトを実行する -選択すると、使用する必要がありますフォーム JavaScript カスタム検証を作成するには

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォーム画像ボタン

PDF Studioは、ユーザーがフォームに入力するときにPDFドキュメントに画像を挿入できるようにする画像インポートボタンを作成することができます。このボタンは標準のボタンと同じですが、特定の設定とJavaScriptが自動的に設定されている点が異なります。 画像のインポートボタンとして機能させるため。

画像ボタンの作成

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. 画像ボタンをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. 繰り返して、必要な数の画像ボタンを作成します
5. 画像ボタンの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

ボタンのプロパティ

画像ボタンのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。画像ボタンには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -[画像ボタン]フィールド

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

フォント -ボタンのテキストのフォントを設定します

サイズ-ボタンのテキストのフォントサイズを設定します

テキストの色 -ボタンのテキストの色を設定します

ボーダの色 -ボタンの境界線の色を設定します

線幅-ボタンの境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -ボタンの塗りつぶしの色を設定します

スタイル -ボタンの境界線のスタイル（点線、破線、雲など）を設定します

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が今後の新しい画像ボタンのデフォルトになります

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須-このオプションは画像ボタンでは使用できません

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 印刷する/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

注意：これらのオプションは、画像ボタンが正しく機能するように事前設定されています。これらの設定を変更すると、画像ボタンが機能しなくなる場合があります。

スタイル -画像ボタンのスタイルを設定します

- なし：ボタンを押しても効果はありません
- 反転：押すとボタン全体がハイライト表示されます
- アウトライン：ボタンを押すと、ボタンのアウトラインのみが強調表示されます。より多くを表示するには、より大きな線幅に変更してください
- プッシュ：ボタンとの以下のインタラクションごとに個別のラベルを定義できます
  - 上：ボタンが操作されていないとき
  - 下：ボタンが押されたとき
  - マウスオーバー：マウスをボタンの上に置いたとき

ラベル- ボタンにラベルがあるかどうかとその場所を設定します

画像 -ボタンの背景に画像があるかどうかとその場所を設定します

> **注意：** *サポートされている画像形式（JPEG、PNG、GIF、TIFF）またはPDFドキュメントのいずれかをボタンの画像として設定できます*

行動

注意：これらのオプションは、画像ボタンが正しく機能するように事前設定されています。これらの設定を変更すると、画像ボタンが機能しなくなる場合があります。

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

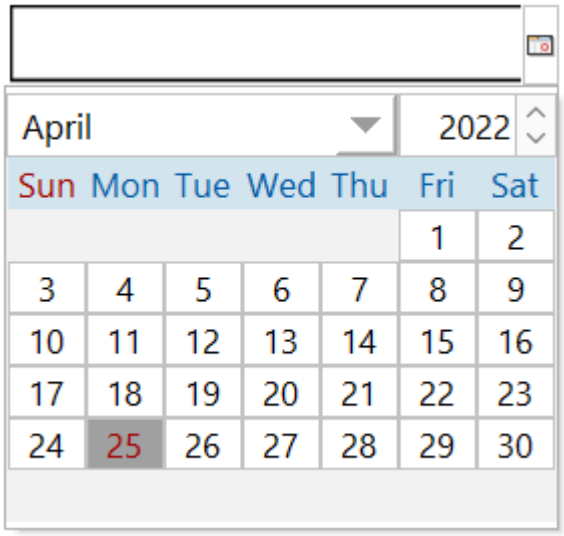
追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

フォーム日付フィールドボタン

PDF Studioは、ユーザーがフォームの入力時にPDFドキュメントに日付フィールドを挿入できるようにする日付フィールドボタンを作成することができます。このボタンはテキストフィールドと同じですが、特定の設定があり、JavaScriptが自動的に設定されて[日付フィールド]ボタンとして機能するようになっています。



ノート：*デフォルトでは、日付フィールドのフォーマットは、フォームフィールドを作成したユーザーのロケールと一致します。*

日付フィールドボタンの作成

1. に移動してフォーム編集モードを開始します**[フォーム]タブ**
2. 日付フィールドをクリックします ツールバーにあるボタン。カーソルが変わり、フィールドのプレビューが表示されます
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置するか、クリックしてドラッグしてカスタムフィールドサイズを作成します。
4. 繰り返して、必要な数の日付フィールドを作成します
5. 日付フィールドの配置を終了するには、Escキーを押すか、をクリックします。 ツールバーのボタン

ボタンのプロパティ

日付フィールドのプロパティにアクセスするには、フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします。 にミニツールバー。日付フィールドには、次のプロパティ設定が含まれています。

外観

名前 -日付フィールドフィールド名

ツールチップ -マウスをフィールドに置いたときに表示されるヒント

スタイル

フォント -ボタンのテキストのフォントを設定します

サイズ -ボタンのテキストのフォントサイズを設定します

テキストの色 -ボタンのテキストの色を設定します

ボーダの色 -ボタンの境界線の色を設定します

線幅-ボタンの境界線の幅を設定します

塗りつぶしの色 -ボタンの塗りつぶしの色を設定します

スタイル -ボタンの境界線のスタイル（点線、破線、雲など）を設定します

デフォルトで保存 -これをオンにすると、選択したスタイル設定が、今後の新しい日付フィールドボタンのデフォルトになります。

プロパティ

回転 -フィールドの回転を90度単位で設定します

必須 -このオプションは、日付フィールドボタンでは使用できません

可視性 -フィールドの4つの可視性オプションのいずれかを設定します

- 表示：デフォルト設定では、フィールドが表示されます
- 非表示：ドキュメントを表示しているときにフィールドが表示されないようにします
- 表示/印刷しない：フィールドを表示しますが、フィールドまたはその値は印刷しません
- 非表示/印刷：フィールドを非表示にしますが、フィールドとその値は印刷されます

読み取り専用 -フィールドを編集不可にし、フィールドに現在設定されている値のみを表示します

ロック済み -チェックすると、フィールドでの移動やサイズ変更、外観プロパティの編集、注釈の削除が防止されます。

オプション

アラインメント -フィールドに入力されるテキストの配置

デフォルト -フィールドのデフォルト値。これは、フィールドが空の場合、または次の場合に表示される値です。フォームフィールドのリセット

マルチライン -ユーザーが複数の行を使用して入力できるようにします

長いテキストをスクロールする -チェックすると、入力されているテキストがフィールドより長い場合にスクロールします。これをオフにすると、テキストがフィールドの長さに制限されます

パスワード -チェックすると、フィールドに入力されたテキストの代わりに、テキストが非表示になり、ドットが表示されます・・・・

スペルチェック -チェックすると、フィールドの「スペルチェック」プロパティが有効になります。スペルチェックプロパティが設定されている場合、PDFビューア/エディタがスペルチェックをサポートしていると、このプロパティが設定されているフィールドでのみ有効になります。

櫛 -入力した各文字間の縦線の数を設定します。文字ごとに個別のボックスがあるフォームにフィールドを追加するときに便利です

文字数制限 -フィールドに入力できる文字数を制限します

リッチテキストを許可する -特殊な形式の文字をフィールドに入力できます（太字、斜体、下線など）。

フォーマット

> **ノート：***これらのオプションは、日付フィールドが正しく機能するように事前設定されています。これらの設定を変更すると、[日付フィールド]ボタンが機能しなくなる可能性があります。*

選択したオプションと設定に基づいて、フィールドのフォーマット規則を設定します。フォーマットが選択されると、JavaScriptを使用してフォーマットが適用され、ユーザーはルールに設定されている値以外の値を入力できなくなります。見るフィールドフォーマット 詳細については。

なし -デフォルト値。フォーマットルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

番号 -選択した設定に基づいて数値のみを受け入れるようにフィールドを設定します

パーセンテージ -選択した設定に基づいてパーセンテージを表示するようにフィールドを設定します

日付時刻 -選択した設定に基づいて、日付、時刻、または日時の値のみを受け入れるようにフィールドを設定します。

> **ノート：** *ドキュメントの表示時に日付または日時の設定を選択すると、PDFStudioはフィールドにカレンダーボタンを表示します。このボタンを使用すると、ユーザーは必要に応じてフィールドに入力する代わりに、カレンダーピッカーを使用して日付を選択できます。*

他の -一般的な定義済みフィールドフォーマットルールのリストから選択できます

カスタム -サポートされているものを使用して、独自のカスタムフォーマットルールを作成できますPDFフォームJavaScript

計算する

選択したオプションと設定に基づいて、フィールドの計算ルールを設定します。計算が設定されると、JavaScriptを使用して適用されます。見るフォームフィールドの計算 詳細については

このフィールドの計算はありません -デフォルト値。計算ルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

フィールド値の計算は簡単です -選択すると、すべてのフィールドまたは選択したフィールドのいずれかに単一の数学計算を設定できます。

このフィールドにはカスタム計算があります -選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム計算を作成するには

単純なフィールド表記 -これをオンにすると、JavaScriptの代わりに簡単な計算コマンド（+-/*）を使用できるようになります。見るフォームフィールドの計算 詳細については

検証

選択したオプションに基づいて、フィールドの検証ルールを設定します。検証は、フィールドに入力できる値を制限するという点で形式とは異なります。

このフィールドの検証はありません -デフォルト値。検証ルールは設定されておらず、フィールドに任意の値を入力できます。

フィールド値の範囲 -[形式]が[数値]または[パーセンテージ]に設定されている場合にのみ使用できます。

このフィールドにはカスタム検証があります -選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム検証を作成するには

行動

アクションパネルには、フィールドに関連付けられている現在のアクションのリストが表示されます。アクションは、アクションリストの下のボタンを使用して追加、編集、または削除できます。

追加 -カスタムを追加しますフォームフィールドアクション 利用可能なアクションのリストから。

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

フォームフィールドの移動とサイズ変更

フォームフィールドは、必要に応じて作成後にサイズ変更できます。

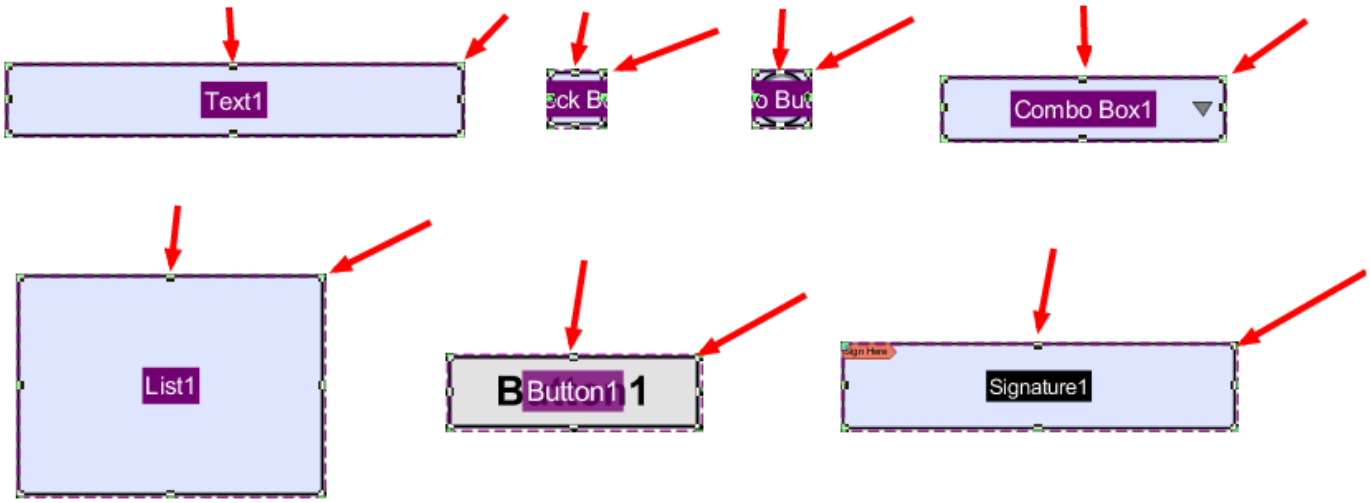
1. オブジェクト選択アイコンをクリックします ツールバーで、マウスでクリックして目的のオブジェクトを選択します。
   - **注意：** *一度に複数のフォームフィールドを選択できます*
2. 必要に応じて、目的のオブジェクトを移動またはサイズ変更します。

移動

フォームフィールドをクリックして、ページ上の新しい場所にドラッグします。

サイズ変更

角と端にある黒い点を使用して、必要な領域に合うようにボックスの形状のサイズを変更します。



複数のフォームフィールドコピーを作成する

フォームを作成するときに、1つのページに同じフィールドの複数のコピーを作成する必要がある場合があります。複数のコピーの作成ツールを使用すると、指定した行数と列数に基づいて等間隔に配置された同じフィールドのレプリカを作成できます。 これは、たとえば、請求書や注文フォームなどの複数行のフォームを作成するときに役立ちます。

複数のフォームフィールドのコピーを作成する方法

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. クリックしてくださいフォームフィールドタイプ 作成したい。カーソルが変わり、現在選択されているフィールドタイプが表示されます。
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置します
4. 次のステップの前に、フィールドで使用する設定を適用します
5. フィールドを右クリックして、**複数のコピーを作成します。**
6. 優先オプションを設定する
7. [OK]をクリックして、新しいフィールドの作成を終了します

オプション

全体のフィールド数 -水平方向に作成する重複フィールドの数を設定します

ダウンしているフィールドの数 -垂直方向に作成する重複フィールドの数を設定します

フィールド間の距離 -複製されたフィールド間の距離を設定します

- 水平方向の間隔：水平方向の行間の間隔
- 垂直方向の間隔：垂直方向の行間の間隔

フルグリッドの寸法 -フィールドのグリッド全体の全体的なサイズを設定します

- グリッド幅：最初のフィールドの左側と最後のフィールドの右側からのグリッドの幅

・グリッドの高さ：最上部のフィールドの上部と最下部のフィールドの下部からのグリッドの高さ

単位 -フィールドの位置を計算するときに使用する単位。これは、インチ、センチメートル、ミリメートル、またはポイントにすることができます。ポイントはPDF標準で計算され、1インチあたり72ポイントです。

ポジション-元のフィールドの左上隅に基づいてフィールドコピーの位置を設定します

・バツ：元のフィールドの左上隅の「X」の位置
・Y：元のフィールドの左上隅の「Y」の位置

同じ名前/リンクフィールドを使用する -チェックすると、作成されたすべてのフィールドが同じ名前に設定され、それらがリンクされます。見るフォームフィールドのリンク 詳細については。

重複するフォームフィールド

フォームを作成するときに、複数のページにまたがる同じフィールドの複数のコピーが必要になる場合があります。複製機能を使用すると、指定したページ全体でまったく同じ位置に、選択したフィールドのレプリカを作成できます。これは例えば ドキュメントのすべてのページのヘッダーに表示する必要があるID番号を作成するときに役立ちます。

デフォルトでは、複製されたフィールドは互いにリンクされているため、同じデータがドキュメント内のフィールドの各インスタンスに入力されます。見るフォームフィールドのリンク 詳細については。

フォームフィールドを複製する方法

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. クリックしてくださいフォームフィールドタイプ 作成したい。カーソルが変わり、現在選択されているフィールドタイプが表示されます。
3. マウスを使用してフィールドを配置する場所に移動し、クリックしてフィールドを配置します
4. 次のステップの前に、フィールドで使用する設定を適用します
5. フィールドを右クリックして、**複製**
6. 優先オプションを設定する
7. [OK]をクリックして、新しいフィールドの作成を終了します

オプション

ページ -重複フィールドを作成するページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用してページ範囲を指定します
- 偶数ページのみ：フィールドをドキュメントの偶数ページ（2、4、6、8など）にのみコピーします。
- 奇数ページのみ：のみフィールドをにコピーします ドキュメントの奇数ページ（1、3、5、7など...）

同じ名前/リンクフィールドを使用する -チェックすると、作成されたすべてのフィールドが同じ名前に設定され、それらがリンクされます。見るフォームフィールドのリンク 詳細については。

フォームフィールドの整列

フォームフィールドは、必要に応じてページ上で整列または均等に分散できます。フォームフィールドは、以下のいずれかの方法を使用して整列できます。位置合わせツールを使用するには、2つ以上のフォームフィールドを選択する必要があります。

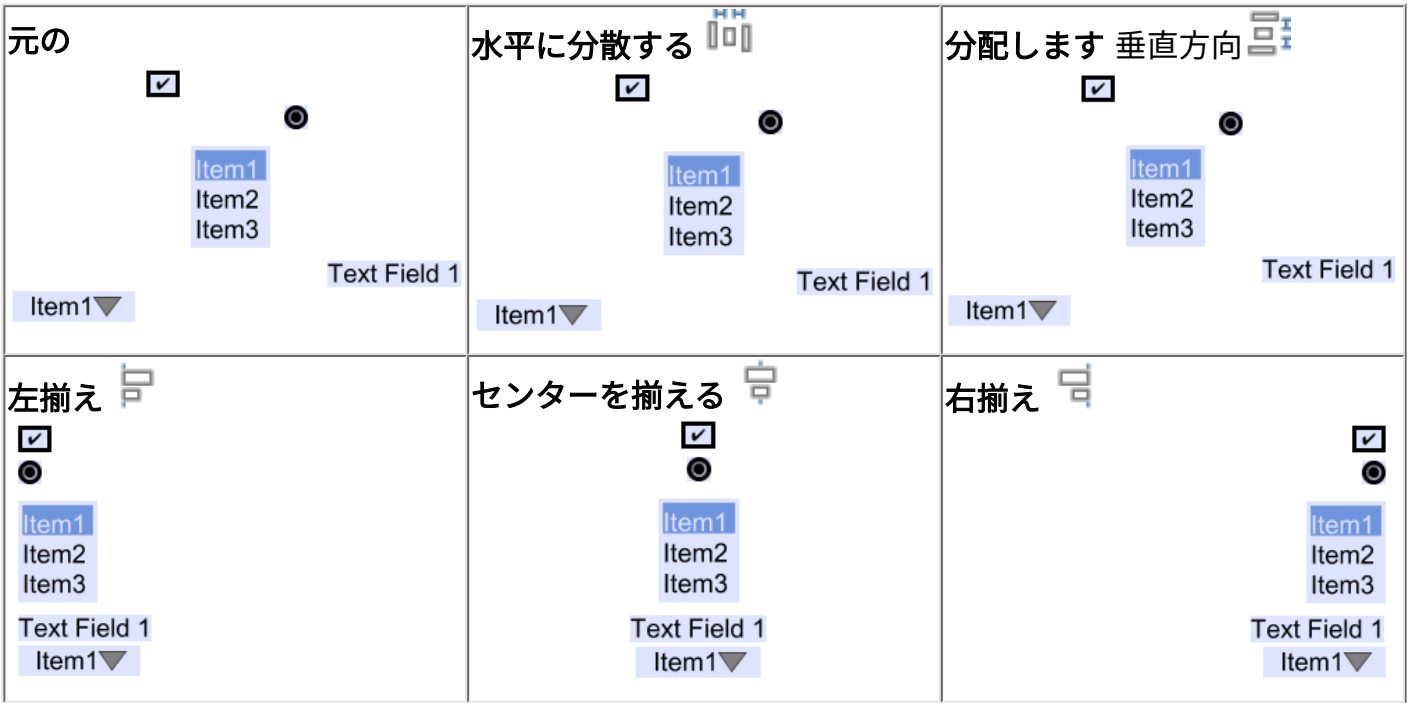
ツールバーから

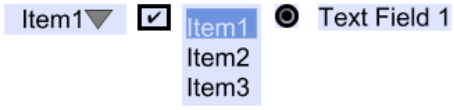
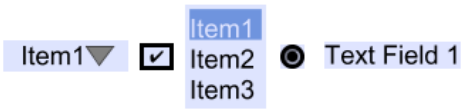
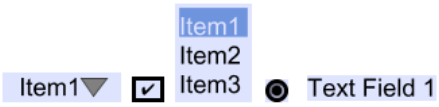
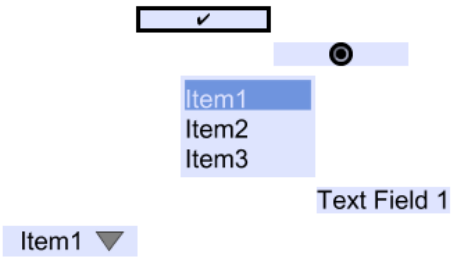
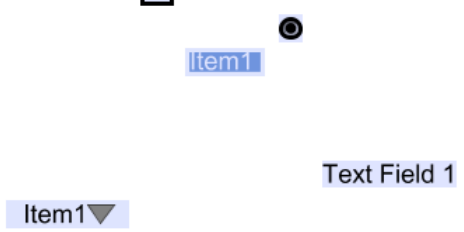
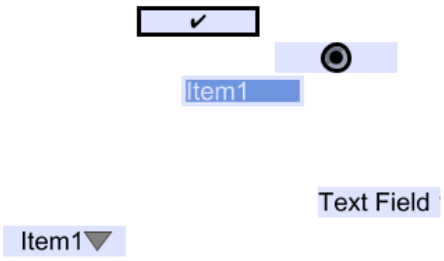
1. オブジェクト選択ツールの使用 整列するフォームフィールドを選択します。
    - **注意**：*それらを整列させるには、複数のフィールドを選択する必要があります。*
2. [プロパティ]タブのボタンをクリックして、フィールドを揃えます

右クリックのコンテキストメニューから

1. オブジェクト選択ツールの使用 整列するフォームフィールドを選択します。
    - **注意**：*それらを整列させるには、複数のフィールドを選択する必要があります。*
2. 選択したフォームフィールドのいずれかを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、[配置]に移動して、実行する配置を選択します

アライメントの例



上に揃える	中央に揃える	下に揃える
		
幅を揃える	高さを揃える	両方を揃える
		

フォームフィールドのフォーマット

フォームフィールドを作成または編集するときに、JavaScriptを介して適用されるフォーマットルールを定義することができます。フィールドフォーマットを使用すると、フィールド内の値またはテキストの表示方法を定義できます。例：常に通貨を作る 小数点以下2桁、または2桁の月、日、年を示す日付を表示します。

> **注意**：*書式設定オプションは、次の場合にのみ使用できます。テキストボックス そしてコンボボックス。*

カスタムフィールドフォーマットの設定

1. フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してフィールドのプロパティにアクセスし、マウスメニューで[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします にミニツールバー。
2. [フォーマット]タブをクリックします
3. 選択したフィールドに適用する以下のオプションを設定します

フィールドフォーマットオプション

無し -デフォルト値。フォーマットルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

数 -選択した設定に基づいて数値のみを受け入れるようにフィールドを設定します

- 小数点以下の桁数：使用する小数点以下の桁数
- セパレータースタイル：千桁と小数点以下の桁数に使用するセパレーター
- 通貨記号：使用する通貨記号
- 記号の配置：通貨記号の場所
- 負の数のスタイル：値が負の数の場合のテキストのスタイル
  - 赤いテキストを使用：負の数を赤に変えます
  - 括弧を使用する：負の数を括弧内に配置します

パーセンテージ -選択した設定に基づいてパーセンテージを表示するようにフィールドを設定します

- 小数点以下の桁数：使用する小数点以下の桁数
- セパレータースタイル：千桁と小数点以下の桁数に使用するセパレーター

日付時刻 -選択した設定に基づいて、日付、時刻、または日時の値のみを受け入れるようにフィールドを設定します。

- オプションリスト：PDFStudioに付属する事前定義された日付/時刻形式のいずれかを選択します
- カスタム：以下の日付/時刻コードを使用して、独自のカスタム日付/時刻形式を作成します
  - yyyy = 4桁の年

- yy = 2桁の年
- mm = 2桁の月（01 = 1月など）
- mmm = 3文字の月の省略形（1月= 1月など）
- mmmm =完全な月の名前
- dd = 2桁の日（01から31）
- HH = 2桁の時間（00から23）（AM / PMは許可されていません）
- MM = 2桁の分（00から59）
- ss = 2桁の秒（00から59）
- h = 12時間AM / PM形式を使用した2桁の時間
- tt =時間に基づいてAM / PMを表示します

注意： *ドキュメントの表示時に日付または日時の設定を選択すると、PDFStudioのフィールドにカレンダーボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ユーザーは必要に応じてフィールドに入力する代わりに、カレンダーピッカーを使用して日付を選択できます。*

その他 -一般的な定義済みフィールドフォーマットルールのリストから選択できます

- 米国の郵便番号：標準の5桁の米国の郵便番号
- 米国の郵便番号+4：標準の5桁の米国の郵便番号と追加の4桁の地理的セグメント
- 米国の電話番号：米国の電話番号形式（XXX）XXX-XXXX
- 米国の社会保障番号：米国の社会保障番号の形式XXX-XX-XXXX
- カスタム：以下の文字コードを使用してカスタムフォーマットを設定します
  - 数字を許可するには9
  - 文字を許可するA
  - 数字と文字を許可するO（文字）
  - 印刷可能な文字を許可するX

カスタム -サポートされているものを使用して、独自のカスタムフォーマットルールを作成できますPDFフォームJavaScript

サンプルフォーマットの例

日付時刻

- 年：yyyy（例：1997）
- 年と月：yyyy-mm（例：1997-07）
- 完了日：yyyy-mm-dd（例：1997-07-16）
- 完全な日付と時間と分：yyyy-mm-dd HH：MM（例：1997-07-16 19:20）

その他/カスタム

- 「0544 06 72 25」などのフランスの電話番号は、「99 99 999999」というカスタム形式で表されます。
- 「4671123 456」などのスウェーデンの電話番号は、「99 99999999」というカスタム形式で表されます。
- 「99C」などのフライトの座席は、次のカスタム形式で表されます：「99A」

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

フォームフィールドの計算

PDF Studioは、カスタム計算を使用してPDFフォームを作成できます。 JavaScriptを使用して、事前設定された単純な計算または高度なカスタム計算の一部を使用することができます。これは、値を入力する場合に非常に便利です。 フォームは自動的に計算されます。例：請求書シートに合計を合計して顧客に提供します。

フォームへの計算の追加

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
   - **注意：** *最初に、ドキュメントに必要なすべてのフィールドを作成してください。フィールドの作成方法の詳細については、を参照してください。テキストフィールドの作成。また、計算の設定を容易にするために、ドキュメント内のすべてのフォームフィールドに正しく名前を付けていることを確認してください*
2. オブジェクト選択ツールの使用 計算を実行するフィールドを選択します
3. フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してフィールドのプロパティにアクセスし、マウスメニューで[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします にミニツールバー。
4. [プロパティ]ウィンドウで、[計算]タブを選択します
5. この画面を使用して、以下にリストされているフォームフィールド計算オプションのいずれかを設定します。計算の設定が完了したら、[OK]をクリックします
6. 手順2〜5を繰り返して、必要な数の計算を含むフィールドを作成します。
7. すべての計算が完了したら、ツールバーの[フォーム編集の停止]ボタンをクリックしてフォームエディターを閉じ、ドキュメントを保存します
8. これで、フォーム計算を使用できるようになります。

フォームフィールドの計算オプション

このフィールドの計算はありません

デフォルト値。計算ルールは設定されておらず、フィールドに任意のテキストを入力できます。

フィールド値の計算は簡単です

このオプションを選択すると、すべてのフィールドまたは選択したフィールドのいずれかに単一の計算を設定できます。簡単な計算を設定するには、以下の手順に従います

1. 「フィールド値の計算は簡単です」のオプションを選択します。
2. 次に、ドロップダウンメニューから目的の計算の種類を選択します。簡単な計算に使用できる以下のオプションがあります。
   - 合計（+）-フィールドを合計します
   - 製品（x）-フィールドを乗算します
   - 平均-すべてのフィールドの平均値を返します
   - 最小-すべてのフィールドから最小値を返します
   - 最大-すべてのフィールドの最大値を返します

3. 計算に含めるフィールドをリストから選択します。リストから複数のフィールドを選択するには、マウスをクリックしてドラッグするか、Ctrlキーを押しながらリストから必要なフィールドをクリックします。**強調表示されたフィールドのみが計算に使用されます。**
   - **注意：** *（計算に使用するコンボやリストボックスなどの他のフィールドを選択することもできます）*

このフィールドにはカスタム計算があります

カスタム計算を使用すると、JavaSriptを使用してより高度な計算を実行できます。計算を作成するには、JavaScriptのプログラミングに関する高度な知識が必要です。 PDFでのJavaScriptの使用に関する詳細情報 スタジオ参照PDFフォームJavaScript。

[このフィールドにはカスタム計算があります：]オプションを選択し、実行するJavaScript計算を入力します。

単純なフィールド表記

単純なフィールド表記により、JavaScriptの代わりに単純な計算コマンド（+-/ *）を使用できます。たとえば、Text1をText 2に追加するには、「Text1 + Text2」と入力します。完了すると、PDFStudioは単純な注釈をJavaScriptに変換します これはPDF形式と互換性があります。

1. [このフィールドにはカスタム計算があります]オプションを選択し、[単純なフィールド表記]のチェックボックスをオンにします
2. 次に、カスタム計算フィールドを使用して計算を入力します。

注意： *カスタム計算を作成する場合、計算を機能させるには、フィールド名がフィールドプロパティで設定された名前と正確に一致している必要があります。*

次の数学関数を使用できます。

- +：2つのフィールドを追加します
- -：2つのフィールドを減算します
- **バツ**：2つのフィールドを乗算します
- /：2つのフィールドを分割します
- （）：括弧内の方程式を個別の関数としてグループ化します

フィールド計算順序の設定

フィールド計算順序は、リンクされたフィールドデータが計算される順序を決定します。他のフィールド計算の結果を使用して計算されたフィールドがあり、正しい順序で実行されていない場合、値は正しくありません。

例：請求書ドキュメントでは、合計を計算する前にタグを計算する必要があります。

フィールド計算順序の設定方法

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. クリックしてください **計算順序** ツールを起動するためのボタン
3. Sリストから1つ以上のフィールドを選択します
   - *ShiftキーまたはCtrlキー（Macの場合はCommand）を押しながら、複数のフィールドを選択します。*
4. フィールドは次の順序で計算されます**上** に**下**。リストの右側にあるボタンを使用して、リスト内の選択したフィールドを並べ替えます
5. 完了したら、[OK]をクリックして変更を適用します
6. 計算フィールドのいずれかに新しい値を入力して、計算順序が正しいことを確認します

フィールド計算順序オプション

上に移動-選択したフィールドをリストの上位に移動します。

下に移動-選択したフィールドをリストの下に移動します。

トップに移動-選択したフィールドをリストの一番上に移動します。

下に移動-選択したフィールドをリストの一番下に移動します。

フォームフィールドの検証

フォームフィールドの検証では、選択したオプションに基づいてフィールドの検証ルールを設定します。検証は、フィールドに入力できる値を制限するという点で形式とは異なります。

注意： *フィールド検証設定は、テキストボックスとコンボボックスでのみ使用できます。*

フィールドへの検証の追加

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. オブジェクト選択ツールの使用 検証を追加するフィールドを選択します
3. フィールドを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）してフィールドのプロパティにアクセスし、マウスメニューで[プロパティ]を選択するか、編集ボタンをクリックします に ミニツールバー。
4. [プロパティ]ウィンドウで、[検証]タブを選択します
5. この画面を使用して、以下にリストされているフォームフィールド検証オプションのいずれかを設定します。検証の設定が完了したら、[OK]をクリックします
6. 手順2〜5を繰り返して、必要な数の検証付きフィールドを設定します。
7. すべての検証が設定されたら、ツールバーの[フォーム編集の停止]ボタンをクリックしてフォームエディターを閉じ、ドキュメントを保存します
8. これで、フォーム検証を使用する準備が整いました

フォームフィールド検証オプション

このフィールドの検証はありません

デフォルト値。検証ルールは設定されておらず、フィールドに任意の値を入力できます。

フィールド値には範囲があります

FormatがNumberまたはPercentageに設定されている場合にのみ使用できます。

このフィールドにはカスタム検証があります

選択した場合、使用する必要がありますフォームJavaScript カスタム検証を作成するには

フォームフィールドアクション

PDF Studioには、フォームフィールドに追加できるアクションがあります。フォームフィールドの場合、使用するイベントとアクションの両方を設定する必要があります。

イベント

マウスアップ：マウスボタンを離したとき

マウスダウン：マウスボタンを押したとき

マウスが入力されました：マウスカーソルがフィールド境界に入るとき（クリックせず、ホバーするだけ）

マウスが終了しました：マウスカーソルがフィールド境界を出るとき（クリックせず、ホバーするだけ）

ぼかしについて：フィールドがフォーカスを失い、アクティブでなくなったとき（つまり、他の場所をクリックするか、次のフィールドにタブで移動する）

焦点に：フィールドがフォーカスを取得してアクティブになったとき（つまり、フィールドをクリックまたはタブ移動したとき）

行動

このドキュメントのページに移動します

現在のドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ズーム-ページに移動するときにページフィットを設定します
- パーセント-カスタムズーム設定のズームレベル
- 視覚的に設定-リンクの場所を視覚的に設定できます

別のドキュメントのページに移動する

別の指定されたドキュメント内のページに移動するためのリンクを設定します

- ページ番号-リンク先のドキュメントのページ番号
- ドキュメント-開くドキュメントへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

フィールドの表示/非表示

ドキュメント内の選択したフィールドを表示または非表示にするリンクを設定します

- 表示-クリックすると、選択したフィールドが表示されます
- 非表示-クリックすると、選択したフィールドが非表示になります
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

ファイルを開く

特定のファイルを開くためのリンクを設定します。

- ファイル-開くファイルへのフルパス。「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、選択したいファイルに移動します。

注意： *このドキュメントを他のユーザーに送信する場合、ファイルがユーザーのコンピューターの同じ場所にない場合、このアクションは機能しない可能性があります。別のユーザーに送信するときにファイルがPDFに含まれていることを確認するには、添付ファイル 代わりに。*

Webリンクを開く

特定のWebページを開いたり、電子メールを開始したりするためのリンクを設定します。試験有効なリンクの山：

- http://www.qoppa.com
- ftp://ftp.site.com
- file：c：\ qoppa \ temp.txt
- mailto：johndoe@gmail.com

フォームフィールドのリセット

ドキュメント内の選択したフィールドをリセットするためのリンクを設定します

- すべてのフィールド-チェックすると、ドキュメント内のすべてのフィールドがリセットされます
- フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します

JavaScriptアクション

カスタムを実行するためのリンクを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。

フォームを送信

フォームフィールドの値を4つの形式のいずれかで指定された場所に送信するためのリンクを設定します。これを使用すると、ユーザーがフォームに入力すると、フォームまたは値を自動的に送り返すことができます。

- URL-選択したファイルの送信先。試験有効なリンクの山：
  - http://www.qoppa.com
  - ftp://ftp.site.com
  - file：c：\ qoppa \ temp.txt
  - mailto：johndoe@gmail.com
- FDF-選択したフィールド値を含むFDFファイルを送信します
- XFDF-選択したフィールド値を含むXFDFファイルを送信します
- PDF-PDF全体のコピーを送信します
- HTML-選択したフィールド値を含むHTMLファイルを送信します
- フィールド-フィールド値を送信するときのオプションを設定します
  - すべてのフィールド-値に関係なくすべてのフィールドを送信します
  - 含める-ファイルを送信するときに、選択したフィールドがリストに含まれます
  - 除外-ファイルを送信するときに、リスト内の選択されたフィールドを除外します
  - フィールドリスト-選択するドキュメント内のフィールドのリストを表示します。複数のフィールドを選択するには、Ctrl +クリックを使用して個別のフィールドを選択するか、Shift +クリックを使用してフィールドのグループを選択します
  - 空のフィールドを送信-チェックすると、フィールドが空の場合でも、選択したフィールドの値が送信されます

レイヤーの表示/非表示

ドキュメント内の選択したレイヤーを表示または非表示にするリンクを設定します

- 現在の可視性を使用-レイヤーを現在表示されているとおりに表示するアクションを設定して、後でレイヤーをオフにした場合に現在の状態に戻るようにします。
- その他-ブローオプションを使用してレイヤーに新しいアクションを設定します
  - 表示-選択したレイヤーをリストに表示します
  - 非表示-リストで選択したレイヤーを非表示にします
  - トグル-レイヤーの現在の状態に応じて、選択したレイヤーの状態を非表示から表示、または表示から非表示に切り替えます
  - レイヤーリスト-選択するドキュメント内のレイヤーのリストを表示します。複数のレイヤーを選択するには、Ctrl +クリックして個別のレイヤーを選択するか、Shift +クリックしてレイヤーのグループを選択します

名前付きアクション

以下にリストされている標準の事前定義されたアクションの1つを実行するようにリンクを設定します。

- NextPage-ドキュメントの次のページに移動します
- PrevPage-ドキュメントの前のページに移動します
- FirstPage-ドキュメントの最初のページに移動します
- LastPage-ドキュメントの最後のページに移動します

- 印刷-現在のドキュメントを印刷するための印刷ダイアログを開始します
- 保存-現在のドキュメントを保存します
- 名前を付けて保存-ファイル選択ダイアログを開いて、ユーザーが指定した場所にファイルを保存します
- 開く-ファイルを開くダイアログを表示します

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

フィールドタブ順序の編集

PDF Studioでは、ドキュメント内のフィールドのタブ順序を設定できます。これにより、ユーザーがドキュメントをタブで移動しているときに次に表示されるフィールドを指定して、入力を簡単にすることができます。以下の手順に従って、 PDF形式のフィールドタブの順序。

> **注意：** *デフォルトでは、タブの順序はフィールドが作成された順序で作成されます。通常、フィールドを正しい順序で作成するか、後で再配置することをお勧めします。タブを押したときにページのまったく別のセクションに移動すると、多くのユーザーが混乱するためです。*

フィールドタブの順序の変更

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. PDF Studioフレームの左側には、フィールドペインがあります
   - **注意：** *ペインを開くには、[フィールド]ボタンをクリックする必要がある場合があります*
3. このペインには、ドキュメント内のページごとのすべてのフィールドのリストが表示されます。ドキュメント内のフィールドタブの順序は、フィールドツリーの上部からフィールドツリーの下部に移動します。フィールドのタブ順序を編集するには、リストの最初から一番上、最後から順に、フィールドをタブにする順序にアイテムをドラッグアンドドロップします。
   - **注意：** *あなたはすることを選ぶことができます*[フィールドタブの順序を表示](#) *ページのフィールドにタブの順序を直接表示するオプション*
4. 完了したら、[フォーム編集の停止]をクリックしてツールバーを閉じます
5. ドキュメントを保存すると、フィールドを使用できるようになります

フォームフィールドのリンク

PDF Studioを使用すると、ドキュメント内の複数のフォームフィールドをリンクできます。 1つ以上のフィールドをリンクすると、同じデータがドキュメント内のフィールドの各インスタンスに入力されます。これは、すべてに日付やクライアント名を付けるのに役立ちます ドキュメントのページ。

> **注意：** *同じタイプのフィールドのみをリンクできます。*

フォームフィールドをリンクする方法

1. まず、ドキュメントに必要なフォームフィールドを作成します。フォームフィールドの作成の詳細については、を参照してください。フォームフィールドの作成
2. フィールドをリンクするには、フィールドを作成するとき、または編集するときに、各フィールドに同じ名前を付けるだけです。
3. クリックしたら**OK** フィールド名の設定を確認するために、フィールドをリンクするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。 [OK]をクリックしてフィールド名を保存し、フィールドをリンクします
4. 手順1〜3を繰り返して、必要な数のフォームフィールドをリンクします。
5. 完了したら、ツールバーの[フォーム編集の停止]ボタンをクリックしてフォームエディターを閉じ、ドキュメントを保存します
6. これで、フィールドに情報の入力を開始する準備が整いました。

> **注意：** *ラジオボタンも同様の方法でグループ化できます。同じ名前を付けることで、[オプション]タブの[ラジオボタンの選択]にも同じラベルが付けられていることを確認する必要があります。*

PDFフォームJavaScript

PDF Studioで、フォームフィールドやボタンなどの特定のアイテムのカスタム関数/アクションを作成する場合、コマンドにJavaScriptを使用する必要があります。 JavaScriptは、計算、ボタンアクション（画像の追加、フォームの送信、または他のフィールドへの入力）、フィールド入力の検証、フィールドフォーマットの設定などを実行できます。

> **注意：** *PDF Studioは、PDFフォームのAcroform（非LiveCycle）JavaScriptのみをサポートします。*

ボタンのアクションを作成するには、JavaScriptのプログラミングに関する高度な知識が必要です。これらの関数の使用方法の詳細については、このサイトのチュートリアルとレッスンをご覧ください。http://www.w3schools.com/js/js_intro.asp

PDF Studioは、以下の各項目に対して次のJavaScriptコマンドをサポートしています。

サポートされているJavaScript

注釈

プロパティ：

著者
ページ
ポイント
ストロークカラー
タイプ
幅

Doc

方法：

addAnnot
addField
calculateNow
closeDoc
flattenPages
getAnnots3D
getDataObjectContents
getField
getNthFieldName
getOCG
getPageBox
getPageRotation
getTemplate
gotoNamedDest

importAnFDF
mailDoc
印刷
フォームをリセット
spawnPageFromTemplate
submitForm

プロパティ：

URL
計算する
情報
numFields
numPages

フィールド

方法：

buttonGetCaption
buttonImportIcon
buttonSetCaption
checkThisBox
clearItems
deleteItemAt
getArray
getItemAt
insertItemAt
isBoxChecked
setAction
setFocus
setItems
署名情報

プロパティ：

ボーダの色
ボーダースタイル
borderWidth
calcOrderIndex
charLimit
櫛
commitOnSelChange
currentValueIndices
defaultValue
ディレイ
表示
doNotScroll
doNotSpellCheck

doc
編集可能
exportValues
fileSelect
塗りつぶしの色
隠された
lineWidth
マルチライン
multipleSelection
名前
numItems
ページ
パスワード
読み取り専用
rect
必須
ストロークカラー
スタイル
submitName
テキストの色
タイプ
userName
値
valueAsString

グローバル

方法：

setPersistent

身元

プロパティ：

株式会社
Eメール
ログイン名
名前

Matrix2D

方法：

fromRotated
変換

メニュー項目

プロパティ：

bEnabled
bマーク付き
cName
cReturn
oSubMenu

OCG

方法：

getIntent
setAction
setIntent

プロパティ：

initState
ロックされています
名前
状態

ReadStream

方法：

読んだ

SignatureInfo

プロパティ：

日付
理由

テンプレート

方法：

スポーン

Util

方法：

印刷
printf
printx
スキャン
stringFromStream

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

デジタル署名

PDF Studioは、PDFへのデジタル署名フィールドの追加と既存のフィールドへのデジタル署名の適用の両方をサポートしています。デジタル署名は、ドキュメントの内容を認証する方法です。有効な署名のあるドキュメントは、 署名されてから変更されました。

デジタル署名フィールドを作成する Pro：新しい署名されていないデジタル署名フィールドを作成する

デジタル署名フィールドの変更 Pro：クリア、移動、プロパティなど、既存のフィールドを変更します

デジタル署名を適用する Pro：デジタル署名をドキュメントに適用する方法

自己署名デジタルIDを作成する Pro：ドキュメントに署名するときに使用するPDFStudio内でのデジタルIDの作成

デジタルIDをインポートする Pro：ドキュメントに署名するときに使用する既存またはサードパーティのデジタルIDをインポートする

デジタル署名オプション Pro：PDFにデジタル署名するときに使用できるオプション

デジタル署名の外観 Pro：デジタル署名を適用するときの外観設定

デジタル署名を検証する Pro：デジタル署名を検証する方法

デジタル署名を信頼する：信頼できる証明書にデジタル署名を追加する方法

信頼できる証明書を管理する：信頼できる証明書のオプションを管理する

デジタルIDを管理する Pro：デジタルIDの作成、編集、削除

タイムスタンプサーバーの管理 Pro：PDFにデジタル署名するときに使用されるタイムスタンプサーバーを管理します

署名ペインの表示

レイヤーペインは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます **署名**画面左側のボタン。

デジタル署名フィールドの作成

PDF Studioは、ドキュメント内に新しい署名されていないデジタル署名フィールドを作成できます。これは、署名が必要なドキュメントを作成したり、デジタル署名を適用できるように署名フィールドを追加したりするために使用できます。

デジタル署名フィールドを作成する方法

1. ドキュメントを開いて、デジタル署名フィールドを追加します
2. ツールバーで、またはに移動します**安全なタブ>** **署名フィールドの追加** ボタン
3. Wツールが起動すると、カーソルが十字になり、ドキュメントの新しいフィールドの場所をマークします。長方形をドラッグして、目的の署名フィールドサイズを作成します
4. フィールドが作成された後、署名をすぐに適用するか、フィールドをクリックしてデジタル署名を適用することができます。

> **注意**：*代わりにフォーム編集モードを使用して署名フィールドを作成するには、を追加する方法を参照してください。フォームの署名 フィールド。*

デジタル署名フィールドの変更

署名フィールドは、以下の利用可能なオプションのいずれかを使用して変更できます。オプションは、デジタル署名フィールドが署名されているかどうかによって異なります。

デジタル署名フィールドのオプションにアクセスするには、フィールドを右クリック（Macの場合はCtrl +クリック）すると、マウスのコンテキストメニューが表示され、使用可能なオプションが示されます。グレー表示されているテキストはすべて無効なオプションです。

署名されていないデジタル署名フィールド

次のオプションは、署名されていないデジタル署名フィールドで使用できます。

署名を適用する-を開始しますデジタル署名の適用 ダイアログ

証明署名を適用する-を開始しますデジタル署名の適用 すでに選択されている認証署名オプションを除くダイアログ

移動-ページの符号なしフィールドを移動またはサイズ変更できます。終了したら、ページの任意の場所をクリックするか、Escを押して編集を終了します。

- Move：署名フィールドをクリックして、ページ上の新しい場所にドラッグします。
- サイズ変更：角と端にある黒い点を使用して、必要な領域に合うようにボックスの形状のサイズを変更します。

プロパティ-フィールドのプロパティダイアログを表示します。見るフォーム署名フィールド 利用可能なプロパティの説明については

デフォルトサイズとして保存 -将来作成される署名フィールドのデフォルトサイズを、選択したフィールドと同じサイズに設定します

削除-選択した署名フィールドを削除します

詳細-署名フィールドの詳細を表示します。

> **注意：** *署名されていない場合、これは単にを表示します 表示する詳細がないため、「署名フィールドは署名されていません」というメッセージが表示されます。*

署名されたデジタル署名フィールド

署名されたデジタルフィールドでは、次のオプションを使用できます

明確な署名-署名フィールドから署名を削除します

詳細-役立つ署名フィールドの詳細を表示しますデジタル署名の検証

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

自己署名デジタルIDの作成

ドキュメントに署名するには、最初にデジタルIDが必要です。既存のIDがない場合は、PDF Studioを使用して、ドキュメントに署名するときに使用する新しいデジタルIDを作成できます。 PDF Studioでデジタルを作成する場合、自己署名と見なされます 署名の検証にサードパーティを使用していないことを意味するデジタルID。

> **注意**：*PDF Studioを使用して自己署名デジタルIDを作成する場合、信頼できる証明書は現在自分のコンピューターにのみ存在するため、署名は他のユーザーのコンピューターでは検証済みとして表示されません。新しく作成したデジタル証明書を受信者に送信する必要があり、署名を検証する前に受信者がそれらをインストールする必要があります。*

自己署名デジタルIDを作成する方法

1. 以下のいずれかの方法を使用して、[デジタルIDの追加]ダイアログにアクセスします
   - に移動**[ファイル]タブ> [設定]** およびs選出**デジタルID** 設定ダイアログの左側にあるパネルから、[デジタルIDの追加]をクリックします。
   - デジタル署名を適用する場合は、**新しいデジタルID** ドロップダウンから
   - に移動 **安全なタブ>デジタルID** [デジタルIDの追加]をクリックします。
2. [新しいデジタルIDを今すぐ作成]を選択します
3. デジタルIDの情報を入力します。名前とメールアドレスが必要です
   - 有効期限：デジタルIDの有効期限
   - 名前：署名者の名前
   - 組織単位：組織単位の名前
   - 組織名：組織の名前
   - 地域/都市：署名者がいる都市
   - 状態：署名者がいる状態
   - 国：署名者が所在する国
   - Eメール：署名者のEメールアドレス
4. デジタルIDを保存する場所を選択し、パスワードを設定します
   - **注意**： *デフォルトでは、場所はPDFStudioユーザー設定フォルダーに保存されます*
5. [完了]をクリックしてデジタルIDを作成します
6. 新しく作成されたIDはPDFStudioのIDのリストに追加され、次の場合に使用できるようになります。デジタル署名の適用

デジタルIDのインポート

書類に署名するには、最初にデジタルIDが必要です。別のアプリケーションまたはサードパーティの認証局からエクスポートされた既存のデジタルIDがある場合は、PDF Studioに直接インポートして、署名時に使用できます。 ドキュメント。 PDF Studioは、.pfxまたは.p12形式のデジタルIDのインポートをサポートしています。

サードパーティの認証局からのデジタルIDを使用する場合、OSは通常、サードパーティのベンダーからの証明書を検証できるため、最初にデジタル証明書を受信者に送信する必要はありません。

デジタルIDをインポートする方法

1. 以下のいずれかの方法を使用して、[デジタルIDの追加]ダイアログにアクセスします
   - に移動**編集>設定** およびs選出**デジタルID** 設定ダイアログの左側にあるパネルから、[デジタルIDの追加]をクリックします。
   - デジタル署名を適用する場合は、**新しいデジタルID** ドロップダウンから
   - に移動 **安全なタブ>デジタルID** [デジタルIDの追加]をクリックします。
2. [ファイルから既存のデジタルIDをインポートする]を選択し、[次へ]をクリックします
   - **ノート：** *インポートできるのは.pfxまたは.p12形式のみです*
3. [参照]をクリックしてファイルダイアログを開き、使用するデジタルIDを見つけます
4. 選択したデジタルIDファイルのパスワードを入力し、[次へ]をクリックします
   - **ノート：** *デジタルIDに覚えにくい複雑なパスワードが含まれている場合は、[自分のパスワードを使用する]オプションを選択してこのパスワードを保存し、自分のパスワードで保護することができます。ドキュメントに署名するとき、PDFStudioはあなた自身のパスワードを要求します。これにより、複雑なパスワードを覚えていなくても、ドキュメントに簡単に署名できます。*
5. 一部のデジタルIDファイルには複数のデジタルIDが含まれている場合があり、次のページにインポートされるデジタルIDのリストが表示されます。 [完了]をクリックして、デジタルIDのインポートを完了します。
6. インポートされたIDはPDFStudioのIDリストに追加され、次の場合に使用できるようになります。デジタル署名の適用

デジタル署名の適用

PDF Studioは、デジタル署名と認定デジタル署名の両方をサポートしています。 PDFに適用する前に、各タイプのデジタル署名の違いを理解することが重要です。文書に署名するには、最初に デジタルID。あなたはどちらかをすることができます新しいデジタルIDを作成する または デジタルIDをインポートする ドキュメントにデジタル署名するときに使用されます。

> **注意：***また、デジタル署名は電子署名と同じではないことを理解することも重要です。電子署名は、画像や図面などのペンと紙の署名をグラフィカルに表現したものです。デジタル署名（グラフィック表現もある場合があります）には、その信頼性を検証するための一意の暗号化IDが含まれています。*

デジタル署名

デジタル署名は、ドキュメントに署名する人を識別するという点で、実際に物理的なドキュメントに署名することに似ています。デジタル署名と手書き署名の違いは、デジタル署名には暗号化された情報が含まれていることです。 署名者に固有であるため、偽造することはできません。署名が有効であると見なされるには、署名者の証明書または発行するサードパーティの認証局が、PDFを受信するユーザーによって信頼されている必要があります。 。署名したら、ドキュメントが何らかの方法で変更された場合、署名は無効と見なされなくなります。

認定デジタル署名

認定されたデジタル署名は、署名者に固有の暗号化されたIDが含まれているという点で似ています。ただし、認定された署名は、ドキュメントが変更されないようにするための追加のドキュメントセキュリティオプションを提供します。署名者にはオプションがあります 署名が完了すると、それ以上の変更を防止したり、ドキュメントへの限定的な変更（フォームへの入力、コメントの追加、デジタル署名の追加など）を許可したりするため。

デジタル署名を適用する方法

デジタル署名を既存の署名フィールドに適用することも、新しい署名フィールドを作成してドキュメントに署名を適用することもできます。

既存のフィールドに署名を適用する

1. 署名フィールドをクリックするか、をクリックします のデジタル署名ボタン**安全なタブ**
   - **注意：** *ドキュメントに複数の署名フィールドがある場合は、署名フィールドをクリックして署名する必要があります*
2. これにより、[ドキュメントの署名]ダイアログが表示されます。デジタルIDを選択し、デジタルIDのパスワードを入力します
   - **注意：** *これがドキュメントに初めて署名する場合は、既存のIDをインポートするか、新しいIDを作成するように求められます。*
3. を選択デジタル署名オプション そしてデジタル署名の外観 使用したい設定
4. 完了したら、[署名]をクリックします
5. これにより、署名されたドキュメントを保存するコンピュータ上の場所を選択するように求められます

6. [保存]をクリックして署名を完了し、ドキュメントを保存します

フィールドが存在しない場合の署名の適用

1. 署名フィールドをクリックするか、をクリックします のデジタル署名ボタン**安全なタブ**
2. Wツールが起動すると、カーソルが十字になり、ドキュメントの新しいフィールドの場所をマークします。長方形をドラッグして、目的の署名フィールドサイズを作成します
3. フィールドが作成された後、[ドキュメントに署名]ダイアログが表示されます。デジタルIDを選択し、デジタルIDのパスワードを入力します
   - **注意：** *これがドキュメントに初めて署名する場合は、既存のIDをインポートするか、新しいIDを作成するように求められます。*
4. を選択デジタル署名オプション そしてデジタル署名の外観 使用したい設定
5. 完了したら、[署名]をクリックします
6. これにより、署名されたドキュメントを保存するコンピュータ上の場所を選択するように求められます
7. [保存]をクリックして署名を完了し、ドキュメントを保存します

認定デジタル署名を適用する方法

認定デジタル署名は、以下の手順を使用してドキュメントに適用できます。フィールドなしで認証済み署名を適用する場合、署名は表示または非表示のいずれかになります。非表示の署名は同じ暗号化を使用して保存されます ドキュメントのどのページにも署名の視覚的表現がないだけです。

既存のフィールドへの認定署名の適用

1. 署名フィールドをクリックするか、をクリックします の[ドキュメントの認証]ボタン**安全なタブ**
   - **注意：** *ドキュメントに複数の署名フィールドがある場合は、署名フィールドをクリックして署名する必要があります*
2. これにより、[ドキュメントの署名]ダイアログが表示されます。デジタルIDを選択し、デジタルIDのパスワードを入力します
   - **注意：** *これがドキュメントに初めて署名する場合は、既存のIDをインポートするか、新しいIDを作成するように求められます。*
3. を選択してくださいデジタル署名オプション そしてデジタル署名の外観 使用したい設定
   - **注意：** *署名タイプとして「CertifyingSignature」が選択されていることを確認してください*
4. ドロップダウンから認証署名のアクセス許可を選択します
5. 完了したら、[署名]をクリックします
6. これにより、署名されたドキュメントを保存するコンピュータ上の場所を選択するように求められます
7. [保存]をクリックして署名を完了し、ドキュメントを保存します

フィールドが存在しない場合の認定署名の適用

1. 署名フィールドをクリックするか、をクリックします の[ドキュメントの認証]ボタン**安全なタブ** と選択します**目に見える**

2. Wツールが起動すると、カーソルが十字になり、ドキュメントの新しいフィールドの場所をマークします。長方形をドラッグして、目的の署名フィールドサイズを作成します
3. フィールドが作成された後、[ドキュメントに署名]ダイアログが表示されます。デジタルIDを選択し、デジタルIDのパスワードを入力します
   - **注意：** *これがドキュメントに初めて署名する場合は、既存のIDをインポートするか、新しいIDを作成するように求められます。*
4. を選択デジタル署名オプション そしてデジタル署名の外観 使用したい設定
   - **注意：** *署名タイプとして「CertifyingSignature」が選択されていることを確認してください*
5. ドロップダウンから認証署名のアクセス許可を選択します
6. 完了したら、[署名]をクリックします
7. これにより、署名されたドキュメントを保存するコンピュータ上の場所を選択するように求められます
8. [保存]をクリックして署名を完了し、ドキュメントを保存します

目に見えない認定デジタル署名の適用

1. 署名フィールドをクリックするか、をクリックします の[ドキュメントの認証]ボタン**安全なタブ** と選択します**見えない**
2. ザ・[ドキュメントに署名]ダイアログが表示されます。デジタルIDを選択し、デジタルIDのパスワードを入力します
   - **注意：** *これがドキュメントに初めて署名する場合は、既存のIDをインポートするか、新しいIDを作成するように求められます。*
3. を選択デジタル署名オプション そしてデジタル署名の外観 使用したい設定
   - **注意：** *署名タイプとして「CertifyingSignature」が選択されていることを確認してください*
4. ドロップダウンから認証署名のアクセス許可を選択します
5. 完了したら、[署名]をクリックします
6. これにより、署名されたドキュメントを保存するコンピュータ上の場所を選択するように求められます
7. [保存]をクリックして署名を完了し、ドキュメントを保存します

デジタル署名オプション

いつデジタル署名の適用 次のオプションを使用して、外観、署名タイプ、または署名情報のいずれかを変更できます。これらの設定は保存されないため、毎回設定する必要があります。 署名が適用されます。

デジタルID

デジタルID -デジタルIDコンボには、PDF Studioに保存されている、またはOS証明書ストアで利用可能なすべてのデジタルIDが一覧表示されます。リストの[新しいデジタルID ...]オプションを選択すると、新しいデジタルIDを追加できます。 見る新しいデジタルIDを作成する または デジタルIDをインポートする 詳細については。

パスワード-選択したデジタルIDのパスワード。ドキュメントにデジタル署名できるようにするには、正しいパスワードを入力する必要があります

タイムスタンプサーバー -署名時に使用するタイムスタンプサーバーを選択できます。見るタイムスタンプサーバーの管理 詳細については

詳細 -選択したデジタルIDの特定の詳細を表示できます

外観：

このセクションには、適用されるとドキュメントに表示されるデジタル署名のプレビューが表示されます。ドロップダウンから別の外観を選択できます。 「新しい外観の作成...」を選択して、新しいカスタム外観を作成します。 見るデジタル署名の外観 詳細については

署名タイプ：

署名時に適用する署名の種類を選択します

署名-デジタル署名には、署名者に固有の暗号化された情報が含まれているため、偽造することはできません。署名が有効であると見なされるには、署名者の証明書または発行するサードパーティの認証局が、PDFを受信するユーザーによって信頼されている必要があります。署名が完了すると、ドキュメントが何らかの方法で変更された場合、署名は無効と見なされなくなります。

署名の証明 -認定された署名は、ドキュメントが変更されないようにするための追加のドキュメントセキュリティオプションを提供します。証明署名を選択すると、コンボボックスが表示され、次のことが可能になります。 認定文書で許可される変更を指定します。

- 変更を許可しない：一度署名すると、ドキュメントにそれ以上の変更を許可しません
- フォームへの入力と署名を許可する：ユーザーがフォームに入力し、署名すると署名を完了することができます
- フォームへの入力、署名、コメントの許可：ユーザーがフォームへの入力、署名の入力、署名後のドキュメントへのコメントの追加を許可します

署名情報：

このセクションでは、必要に応じて署名に詳細を追加できます。この情報は外観には表示されませんが、署名の詳細とともに一覧表示されます

理由 -以下のオプションのリストから、ドキュメントが署名された理由を選択します

- このドキュメントを承認します
- 私はこのドキュメントの著者です
- このドキュメントを確認しました
- 私はこの文書の正確性と完全性を証明します
- このドキュメントで定義されている条件に同意します

ロケーション -追加の場所の詳細を入力します

連絡先情報 -署名の追加の連絡先情報を入力します

デジタル署名の外観

PDF Studioを使用すると、デジタル署名の外観をカスタマイズして、選択した特定の情報のみを表示できます。必要に応じて、さまざまな状況に合わせて複数の外観を作成できます。作成された外観は、任意のデジタルIDで使用できます。 さらに、画像を署名の外観に使用できます。

> **注意：** *シグニチャの外観を変更しても、シグニチャから詳細が削除されることはありません。*

新しいデジタル署名の外観を作成する方法

1. 以下のいずれかの方法を使用して、ドキュメントへの署名を開始し、[ドキュメントの署名]ダイアログにアクセスします
   - 署名フィールドをクリックします
   - 署名文書をクリックします ボタン
2. [外観]ドロップダウンで[新しい外観を作成...]を選択します
3. 使用するタイトルと署名の外観オプションを入力します
4. オプションを設定したら、[OK]をクリックして外観を保存します

署名の外観オプション

PDF Studioでは、次の外観オプションを使用できます。

題名

これは、に表示される作成された外観の名前になりますデジタル署名オプション 署名を適用するとき

プレビュー

ドキュメントに適用すると、デジタル署名がどのように表示されるかのプレビューを表示します

> **注意：** *プレビューでは、署名が標準のサイズで表示されます。ドキュメント内のフィールドのサイズが異なる場合、署名の外観の内容はフィールドに合わせてサイズ変更されます*

画像

画像を表示 -チェックすると、デジタルスタンプの外観の背景に画像を追加できます

透明性 -画像の透明度設定

ファイル -署名で使用される画像ファイルへのフルパス。 「...」ボタンをクリックしてファイルチューザーを開き、使用する画像に移動します。

整列 -画像を署名の左、中央、または右に揃えることができます

テキスト

公演 -以下のオプションをオンにすると、署名に表示されるデジタル署名のプロパティが設定されます

- 名前：名前を表示する大きなテキスト
- デジタル署名者：一般名の前に「デジタル署名者」というテキストを追加します
- 日付：署名が完了した日付
- 共通名：デジタルIDに関連付けられた名前
- 組織単位：デジタルIDに関連付けられた組織単位
- 組織名：デジタルIDに関連付けられている組織名
- 地域/都市：デジタルIDに関連付けられた地域/都市
- 状態：デジタルIDに関連付けられている状態
- 国：デジタルIDに関連付けられている国
- Eメール：デジタルIDに関連付けられたEメール
- 理由：ドキュメントにデジタル署名するときに選択した理由

オリエンテーション -2つのオプションのいずれかで表示されるデジタル署名テキストを設定します

- 左から右：左側に名前を表示し、右側に他のすべてのプロパティを小さいテキストで表示します
- 右から左：右側に名前を表示し、左側に他のすべてのプロパティを小さいテキストで表示します

デジタル署名の検証

PDF Studioは、ドキュメントを開くときにデジタル署名を検証します。 PDF Studioは、最初に、ドキュメント内のデジタル署名が有効な証明書を使用していること、およびドキュメントが変更されていないことを確認します。次に、証明書がチェックされます 署名でデジタルIDを発行するために使用されるのは、信頼できる認証局によって発行されたものです。

デジタル署名の検証

署名検証バナー

デジタル署名を含むドキュメントを開くと、青い通知バナーが表示され、ドキュメントで見つかった署名の検証に基づいた情報が表示されます。クリック**署名パネル** ボタンをクリックして、追加の署名情報を表示します。

T署名が正しく検証され、ドキュメントに変更が加えられておらず、発行元の認証局が信頼されていることを確認しました。

署名は正しく検証されましたが、信頼されていない認証局によって発行されたデジタルIDなどの問題が発生する可能性があります。

署名検証マーク

検証の結果に応じて、PDFStudioは署名に次の3つのアイコンのいずれかを表示します。

T署名が正しく検証され、ドキュメントに変更が加えられておらず、発行元の認証局が信頼されていることを確認しました。

署名は正しく検証されましたが、信頼されていない認証局によって発行されたデジタルIDなどの問題が発生する可能性があります。

署名の検証に問題がありました。問題には、署名が適用された後のドキュメントへの変更が含まれる可能性があります。

追加の検証の詳細を確認する

1. ハンドツールの使用 検証する署名を選択します。
2. これにより、署名検証ステータスを示すダイアログが表示されます
3. 詳細情報を表示するには、[詳細]ボタンをクリックしてください
4. オン完了したら、ダイアログを閉じるには、[閉じる]をクリックするか、キーボードのEscキーを押します。

デジタル署名の信頼

信頼できる他のユーザーからの信頼できる証明書リストにデジタル署名を追加できます。リストに追加されると、同じデジタルIDを使用してドキュメントに署名すると、信頼できるものとしてリストされます。

> **ノート：***知っている人からの証明書のみを信頼し、すでに相互信頼を確立していることが重要です。*

デジタルIDを信頼する方法

信頼できるIDは、既存の署名フィールドから、または信頼できる証明書をインポートすることによって追加できます。

既存の署名付きフィールドの使用

1. ハンドツールの使用 検証する署名をクリックします。
2. これにより、署名検証ステータスを示すダイアログが表示されます
3. [詳細]ボタンをクリックします
4. 左側の証明書を選択し、[信頼証明書]ボタンをクリックして、デジタルIDを信頼できる証明書として追加します

信頼できる証明書のインポート

1. に移動**ファイル>設定**
2. 選択する**信頼できる証明書** 設定ダイアログの左側のパネルから
3. インポートをクリックします ボタン。これにより、ファイルチューザーダイアログが開きます
4. インポートする証明書に移動します
   - **ノート：** *インポートできるのは.cerまたは.crt形式のみです*
5. [開く]をクリックして証明書をインポートし、デジタルIDを信頼できる証明書として追加します

信頼できる証明書の管理

PDF StudioはデジタルIDを検証するときに、デジタルIDが信頼できる認証局によって発行されたことを確認します。信頼できる認証局は、PDFStudioで利用可能な設定を使用して管理できます。デフォルトでは、PDFStudioも Oracleルート認証局、およびオペレーティングシステムの認証局を信頼します。

信頼できる証明書の設定へのアクセス

信頼できる証明書の設定にアクセスするには、次のいずれかを実行します

- に移動 **安全なタブ>** **信頼できる証明書** ツールバー上
- に移動**ファイル>設定** 次に、**信頼できる証明書** 左側のパネルから

信頼できる証明書オプション

追加の証明書設定により、PDFStudioまたはシステムルート証明書を有効または無効にできます。リスト内の証明書のいずれかをダブルクリックして、詳細を表示することもできます。

システム証明書

PDF Studioは、デフォルトでシステムルート認証局も信頼します。これらの認証局を信頼しない場合は、[システムルート認証局を信頼する]の横にあるチェックボックスをオフにします

PDFスタジオ証明書

デフォルトでは、PDFStudioはOracleルート認証局を信頼します。これらの認証局を信頼しない場合は、[PDFStudioルート認証局を信頼する]の横のチェックボックスをオフにします

私の信頼できる証明書

My Trusted Certificatesを使用すると、PDF Studioに追加された追加の信頼できる証明書をインポート、表示、または削除できます。

> **注意：***デジタルIDが作成またはインポートされると、その発行機関が「信頼できる証明書」リストに自動的に追加されます。*

信頼できる証明書のインポート

インポートをクリックします ボタン。次に、インポートする証明書に移動し、[開く]をクリックして証明書をインポートし、デジタルIDをとして追加します。 信頼できる証明書

> **注意：** *インポートできるのは.cerまたは.crt形式のみです*

信頼できる証明書の詳細の表示

詳細をクリックします 選択した証明書の追加の詳細を表示するボタン

信頼できる証明書の削除

削除をクリックします 選択した証明書を削除するボタン

> **注意：** *これは、元に戻すことはできません。証明書を再度信頼する場合は、証明書を再インポートする必要があります。*

デジタルIDの管理

PDF Studioを使用すると、PDFStudioで作成されたデジタルIDまたはPDFStudioにインポートされたデジタルIDを管理できます。マイパスワードの設定もこの画面から管理できます。

> **注意：** *システムで見つかったデジタルIDは、システムのデジタルIDマネージャーで管理する必要があります*

デジタルID設定へのアクセス

デジタルID設定にアクセスするには、次のいずれかを実行します

- に移動 **安全なタブ>** **デジタルID** ツールバー上
- に移動**ファイル>設定** 次に、**デジタルID** 左側のパネルから

デジタルIDオプション

システムID

オペレーティングシステムにIDが保存されている場合は、PDFStudioでも使用できます。署名時にこれらのデジタルIDを使用できるようにする場合は、[システムデジタルIDを使用した署名を有効にする]の横のチェックボックスをオフにします

私のデジタルID

デジタルIDを追加する

[デジタルIDの追加]をクリックします ダイアログを開くためのボタンと作成する またはインポート デジタルID

表示名の変更

表示名の変更をクリックします 選択したデジタルIDの表示名を変更するボタン

削除する

削除をクリックします 選択したデジタルIDを削除するボタン

> **注意：***これは、元に戻すことはできません。再度信頼する場合は、デジタルIDを作成または再インポートする必要があります。*

わたしのパスワード

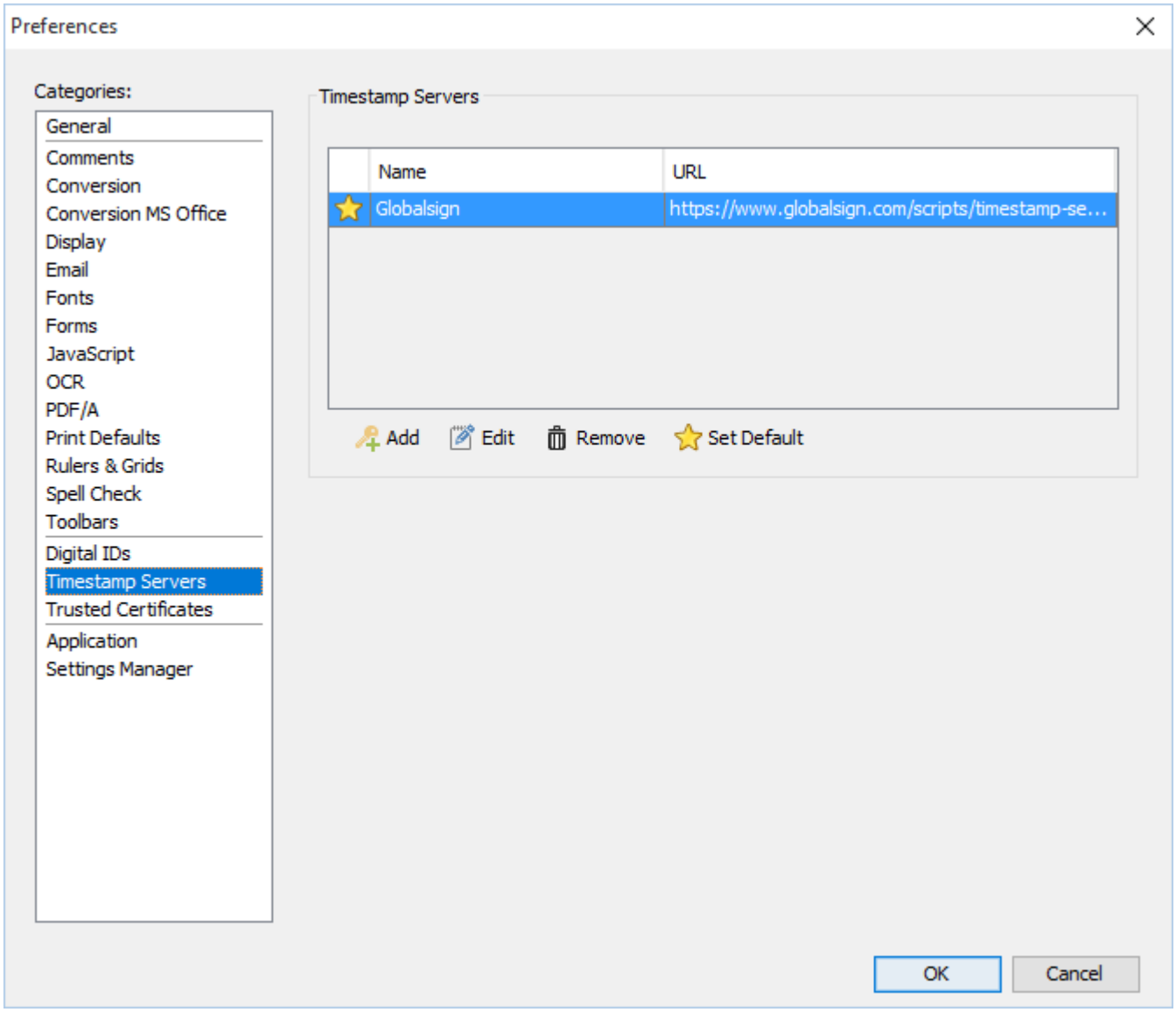
デジタルIDに覚えにくい複雑なパスワードが含まれている場合は、[パスワードを使用する]オプションを選択して、このパスワードを保存し、独自のパスワードで保護することができます。ドキュメントに署名するとき、PDFStudioはあなた自身のパスワードを要求します。 これにより、複雑なパスワードを覚えなくても、ドキュメントに簡単に署名できます。

[パスワードの作成]をクリックします ボタンをクリックして、ドキュメントに署名するときに使用する単一のパスワードを設定します。これにより、新しいものを入力するダイアログが開きます パスワードを設定し、必要に応じてパスワードのヒントを作成します。

> **注意：** *デジタル署名を適用したり、マイパスワードを変更および削除したりするにはパスワードが必要になるため、覚えておくことができるパスワードを使用してください。*

タイムスタンプサーバーの管理

PDF Studioを使用すると、PDFにデジタル署名するときに使用できるタイムスタンプサーバーを管理できます。



タイムスタンプサーバー設定へのアクセス

タイムスタンプサーバーの設定にアクセスするには、次のいずれかを実行します

- に移動 **安全なタブ>** **タイムスタンプサーバー** ツールバー上
- に移動**ファイル>設定** 次に、**デジタルID** 左側のパネルから

タイムスタンプサーバーオプション

タイムスタンプサーバー

追加

[追加]をクリックします ボタンをクリックして、新しいタイムスタンプサーバーを追加します。ダイアログを使用してサーバーの設定を設定します

- サーバー情報
  - 表示名：に表示される名前デジタル署名オプション スタンプを貼るとき
  - URL：タイムスタンプサーバーのURL
    - これをデフォルトのTSAにします。チェックすると、このタイムスタンプサーバーが署名時のデフォルトとして使用されます
- ユーザー情報
  - TSAには認証が必要です：サーバーに認証が必要な場合は、このボックスをオンにしてください
  - ユーザー名：タイムスタンプサーバーでの認証用のユーザー名
  - パスワード：タイムスタンプサーバーでの認証用のパスワード

編集

[編集]をクリックします 選択したタイムスタンプサーバーの詳細を変更するボタン

削除する

削除をクリックします 選択したタイムスタンプサーバーを削除するボタン

> **注意**：*これは、元に戻すことはできません。必要に応じて、タイムスタンプサーバーを再度追加する必要があります*

デフォルトに設定

[デフォルトに設定]をクリックします ボタンをクリックして、選択したサーバーをデフォルトとして設定します。

> **注意**：*署名または認証で使用するタイムスタンプサーバーには、デフォルトを選択する必要があります。*

DocuSign

DocuSignの統合により、作成/編集されたドキュメントを取得し、PDFStudio内から直接オンライン署名を追加できます。

ワンクリックで統合を使用すると、DocuSignアカウントにサインインし、DocuSignアカウントから直接ドキュメントに署名または電子メールで送信できるため、通常必要な時間と追加の手順を節約できます。

DocuSignで署名する：現在のドキュメントをアップロードして、DocuSignアカウントでデジタル署名します

DocuSignでメール：現在のドキュメントをアップロードし、署名フィールドを作成し、他のユーザーに送信して署名をリクエストします

DocuSignからログアウトします：DocuSignアカウントからログアウトします

DocuSignで署名する

DocuSign統合により、PDF Studio内から直接PDFドキュメントに署名して送信し、ビジネスプロセスとワークフローに直接統合できます。

DocuSignで署名する方法

1. 署名するドキュメントを開きます
2. に移動します**安全なタブ** をクリックします 次にDocuSignボタン**DocuSignで署名する**
3. DocuSignアカウントにログインします
    - **ノート：***このサービスを使用するには、DocuSignアカウントが必要です。*
4. DocuSignサービスを使用して署名を完了します。詳細については、を参照してください。 DocuSignサポート

DocuSignでメール

DocuSign統合により、PDF Studio内から直接DocuSignサービスを介して署名用のドキュメントを送信し、ビジネスプロセスとワークフローに直接統合できます。

DocuSignでメールを送信する方法

1. 署名するドキュメントを開きます
2. に移動します**安全なタブ** をクリックします 次にDocuSignボタン**DocuSignでメール**
3. DocuSignアカウントにログインします
    - **ノート：***このサービスを使用するには、DocuSignアカウントが必要です。*
4. DocuSignサービスを使用して署名を完了します。詳細については、を参照してください。 DocuSignサポート

DocuSignからログアウトする

PDF Studio内でDocuSignサービスを使用する場合、一度ログインすると、アプリケーションが閉じられるまでアカウントはサインインしたままになります。これにより、アカウントに何度もサインインしなくても、複数のドキュメントを操作できます。ただし、必要に応じて手動でログアウトして、他のユーザーがDocuSignアカウントを使用できないようにすることができます。

DocuSignからログアウトする方法

1. PDFStudioウィンドウを開きます
2. に移動します**安全なタブ** をクリックします 次にDocuSignボタン**ログアウト**
3. これで、アカウント情報がアプリケーションから完全に消去されます

ノート：PDF Studioを終了することもできます（[ファイル]タブ> [終了]）。これにより、アカウントからログアウトすることもできます。

ドキュメントのプロパティ

タイトル、使用するフォント、初期表示、セキュリティ設定、ドキュメントJavaScriptなどの追加のドキュメント情報は、PDFStudioを使用して表示できます。一部の設定は、このダイアログを使用して変更することもできます。

これらの設定は、次のタブに分かれています

全般的：PDFのタイトル、作成者、件名、およびキーワードを表示および編集します

安全：ドキュメントのセキュリティ設定を表示および編集する

初期ビュー：ドキュメントが最初に表示される方法を決定するプロパティを変更します

フォント：ドキュメントで使用されているフォントのリストを表示します

JavaScript：ドキュメントのJavaScriptアクションを表示し、アクションを追加または編集できるようにします

カスタム：PDFで設定されたカスタムメタデータプロパティの表示/編集

高度：バインド方向や言語などの読み取りオプションを設定します

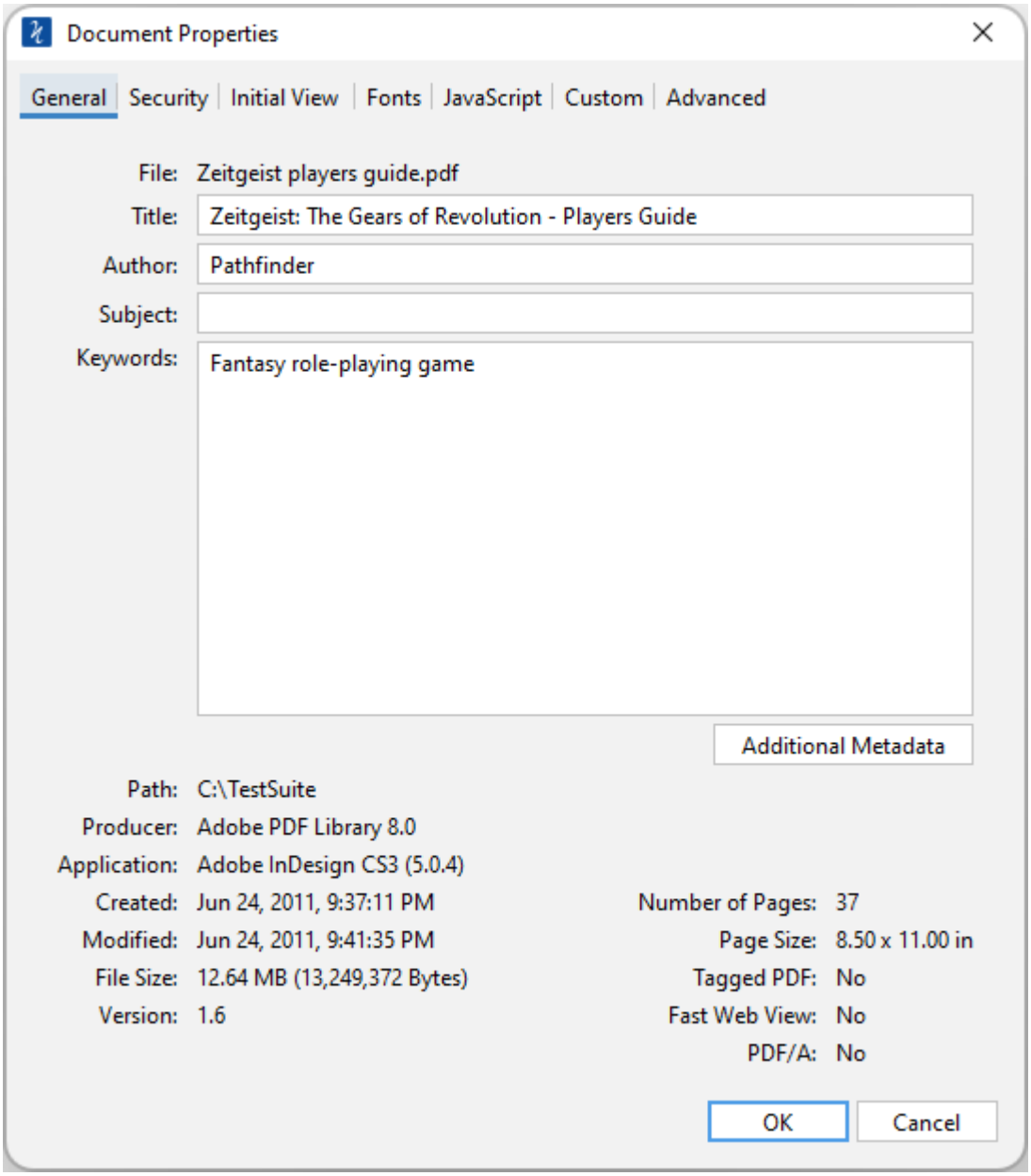
ドキュメントプロパティへのアクセス

ドキュメントのプロパティには、次のURLにアクセスしてアクセスできます。**[ファイル]タブ>[プロパティ]** または、ショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。

一般的なドキュメントのプロパティ

[一般的なドキュメントのプロパティ]タブには、ドキュメントの作成者によって設定されたタイトル、作成者、件名、キーワードなど、ドキュメントに関する基本情報が表示されます。プロデューサー、作成日、変更日、ファイルサイズ、ページサイズ、ファイルメタデータなどの追加のファイル詳細もこのページに表示されます。編集できるのは、タイトル、著者、著者タイトル、件名、ライター、キーワードのみです（ただし、ドキュメントのセキュリティ 設定されています）

> **ノート：** *これらのフィールドはPDFの必須情報ではないため、空白のままにすることができます。*



一般的なドキュメントのプロパティを表示する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. クリックしてください**全般的** タブ

ドキュメントのプロパティ

ファイル-システムに保存されているファイルの名前

題名-ドキュメントの現在のタイトルを表示します。

著者 -ドキュメントの現在の作成者を表示します。

主題 -ドキュメントの現在の件名を表示します。

キーワード -ドキュメントの現在のキーワードを表示します。

道 -PDFファイルがコンピュータに保存されている場所の完全なアドレス

> **ノート：** *PDF Studioで作成された新しいドキュメントの場合、ファイルが保存されるまでこれは空白になります*

プロデューサー -PDFファイルを生成したアプリケーションの名前

> **ノート：** *アプリケーションがファイルのプロパティに名前を含めることができなかった場合、この値は空になる可能性があります*

作成した -ドキュメントが作成された日付

変更 -ドキュメントが最後に変更された日付

ファイルサイズ -PDFを保存するために必要なファイルスペースの量

バージョン -PDFドキュメントのPDF標準バージョン

ページ数 -ドキュメントのページ数

ページサイズ -ローカル設定に応じて、ドキュメントの高さと幅をインチまたはミリメートルで表示します

> **ノート：** *複数のページサイズを持つドキュメントの場合、この値は表示されている現在のページのサイズを示します*

タグ付きPDF -ドキュメントがアクセシビリティのためにタグ付けされているかどうか

高速Webビュー -ドキュメントがを使用して保存されているかどうか高速Webビュー （線形化）形式

PDF / A -ドキュメントがPDF/A基準を満たしているかどうか

追加のメタデータ

クリックすると、新しいダイアログが開き、著作権、XMLツリー、生のXMPメタデータ出力などの追加の内部ドキュメントメタデータが表示されます。次の追加の詳細にアクセスできます。

説明

説明

題名-ドキュメントの現在のタイトルを表示します。

著者 -ドキュメントの現在の作成者を表示します。

著者のタイトル-ドキュメントの現在の作成者タイトルを表示します。

説明-ドキュメントの現在の説明を表示します。

説明ライター -説明を書いた人の名前を表示します

キーワード -ドキュメントの現在のキーワードを表示します。カンマを使用してキーワードを区切ることができます。

著作権

著作権ステータス-ドキュメントの著作権の現在のステータスを表示します

著作権表示-著作権情報の詳細を表示します

著作権情報URL-可能な場合は、著作権情報にアクセスするためのURLを表示します。フィールドの右側にあるアイコンをクリックして、デフォルトのWebブラウザでWebページを開きます。

メタデータ

作成した -ドキュメントが作成された日付

変更 -ドキュメントが最後に変更された日付

応用-PDFファイルを生成したアプリケーションの名前

> **ノート：** *アプリケーションがファイルのプロパティに名前を含めることができなかった場合、この値は空になる可能性があります*

フォーマット-現在開いているファイルのMimetype

高度

このタブには、必要に応じて探索するツリー構造を使用して、ドキュメント内で見つかった追加のメタデータが表示されます。このセクションは参照用です。

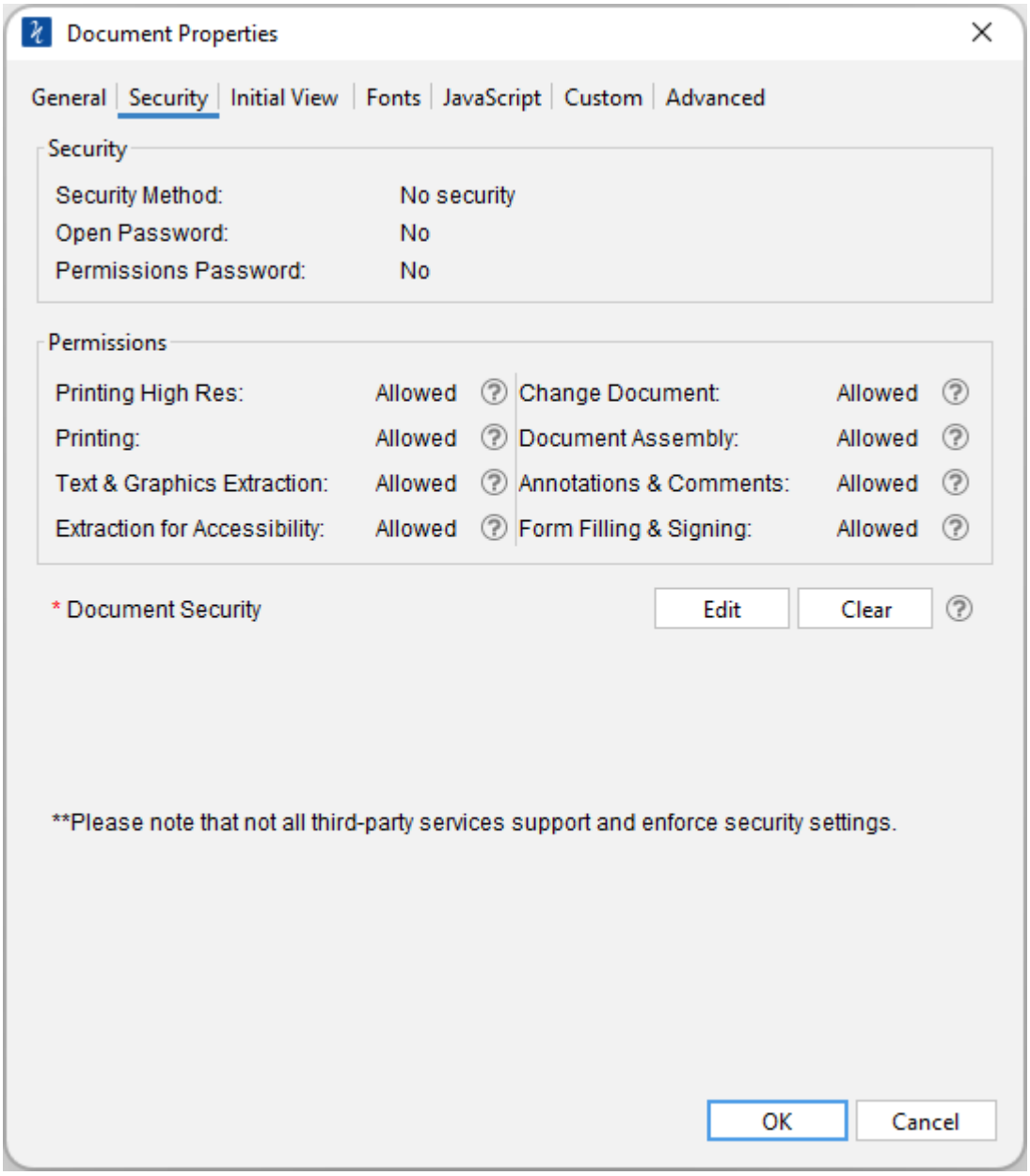
XMPメタデータ

このタブには次のように表示されます生のXMPメタデータ出力 ドキュメント内に保存されているのと同じように、XML形式で。この情報は、必要に応じて選択およびコピーできますが、編集することはできません。

ドキュメントのセキュリティ

PDF Studioは、PDFドキュメントのパスワードと権限を設定または変更できます。ドキュメントのアクセス許可は、ドキュメントの変更およびアクセス方法を制限するように構成できます。ドキュメントの既存の権限も編集または削除できます。

注意：*保護されたドキュメントには、タイトルバーのファイル名の後に（SECURED）が表示されます。*



ドキュメントセキュリティを表示する方法

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。

2. [セキュリティ]タブをクリックします

ドキュメントのセキュリティ設定

セキュリティ

セキュリティ方法 -ドキュメントを保護するために使用されている現在の暗号化

パスワードを開く -ユーザーパスワードとも呼ばれ、ドキュメントを開くときに必要となるパスワードです。

権限パスワード -所有者パスワードとも呼ばれ、ドキュメントのアクセス許可とパスワードを変更するときに必要になるパスワードです。

権限

高解像度の印刷を許可する -ドキュメントを高解像度で印刷します。この権限が付与されると、次の権限「印刷」も自動的に付与されます。

印刷を許可する -ドキュメントの印刷を許可する

テキストとグラフィックの抽出を許可する -ドキュメントからテキストとグラフィックをコピーまたは抽出します。この権限が付与されると、次の権限「アクセシビリティの抽出」も 自動的に付与されます。

アクセシビリティのために抽出を許可する -障害のあるユーザーへのアクセシビリティまたはその他の目的をサポートするためにテキストとグラフィックを抽出する

ドキュメントの変更を許可する -ドキュメントを変更します。この権限が付与されると、次の3つの権限（ドキュメントアセンブリ、コメント、フォーム入力）も自動的に付与されます。この許可があれば が付与されていない場合、次の3つの権限（ドキュメントアセンブリ、コメント、およびフォーム入力）を個別に付与できます。

ドキュメントの組み立てを許可する -ドキュメントの組み立て：ページの挿入、回転、削除、ブックマークまたはサムネイル画像の作成

注釈とコメントを許可する -テキスト注釈を追加または変更します。この権限が付与されると、次の権限「フォームフィールドへの入力と署名」が自動的に付与されます。この許可があれば が付与されていない場合は、次の権限「フォームの入力と署名」を個別に付与できます。そして、この権限が付与され、「すべての変更」権限も付与されると、インタラクティブフォームを作成または変更します フィールド（署名フィールドを含む）が許可されます。

フォームフィールドへの入力と署名を許可する -署名フィールドを含む既存のインタラクティブフォームフィールドに入力します。

ドキュメントのセキュリティ設定を編集/作成する方法

ドキュメントには、オープンパスワードとパーミッションパスワードの2つのパスワードを設定できます。設定されている場合、ドキュメントを開くには、開くパスワードを入力する必要があります。権限パスワードは、パスワードを持たない人がドキュメントの権限を変更するのを防ぎます。

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. [セキュリティ]タブをクリックしてから、[編集]ボタンをクリックします
3. 目的のドキュメントセキュリティ設定を選択します
4. [OK]をクリックして設定を行います
5. ドキュメントを保存して、新しいセキュリティ設定を保存します

> **注意：** *セキュリティ設定を行うには、ドキュメントを保存する必要があります。ドキュメントのプロパティで設定するだけでは、ドキュメントには適用されません。*

ドキュメントのセキュリティ設定を削除する方法

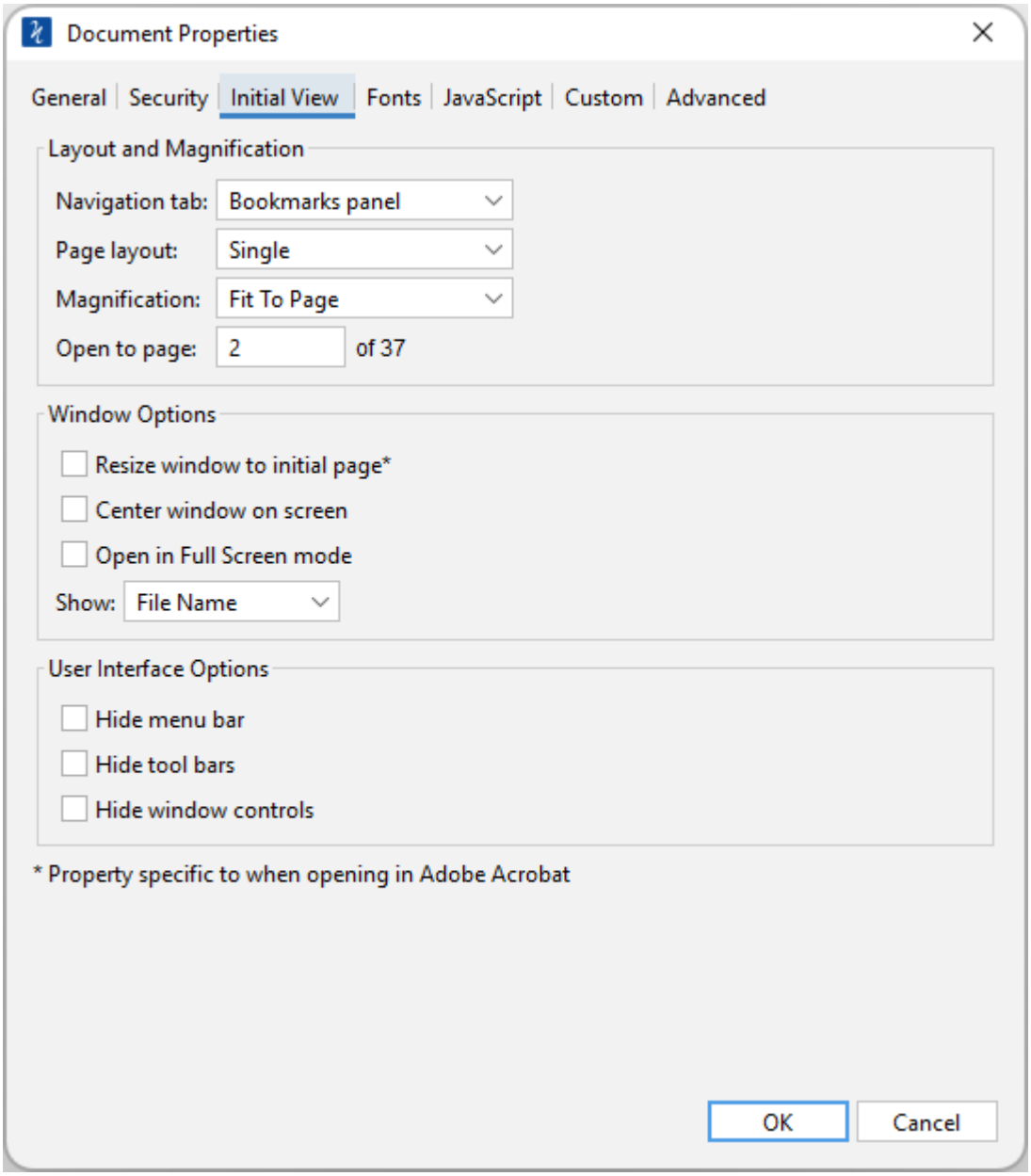
1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. [セキュリティ]タブをクリックします
3. [編集]ボタンをクリックします
4. ドキュメントのアクセス許可の変更パスワードを入力し、[OK]をクリックします
5. ドキュメントを保存して、新しいセキュリティ設定を保存します

> **注意：** *セキュリティ設定を削除するには、ドキュメントを保存する必要があります。ドキュメントのプロパティでそれらをクリアするだけでは、ドキュメントから削除されません*

ドキュメントの初期ビュー

[初期ビュー]タブには、開いたときにドキュメントが最初にどのように表示されるかを決定する初期ビュー設定が表示されます。これらの設定を変更して、次に開いたときにドキュメントがどのように表示されるかを制御できます。

> *ノート：のいずれかのオプションで[ドキュメント設定を無視する]が設定されている場合表示設定、PDF Studioは、ドキュメントの設定を無視し、ドキュメントの初期表示設定で設定されたオプションの代わりに、選択されたオプションを使用します*



初期表示設定を表示/編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [初期ビュー]タブをクリックします
3. 使用する初期ビュー設定を選択します
4. [OK]をクリックして設定を行います
5. ドキュメントを保存して、新しい初期ビュー設定を保存します

> **ノート：** *ビューの初期設定を行うには、ドキュメントを保存する必要があります。ドキュメントのプロパティで設定するだけでは、ドキュメントには適用されません。*

初期ビュー設定

レイアウトと倍率

ナビゲーションタブ -ドキュメントを開いたときのナビゲーションタブのデフォルトの動作を設定します

- デフォルト：ドキュメントが開かれているアプリケーションのデフォルト設定を使用します
- なし（ドキュメントのみ）：ナビゲーションタブは表示されません
- ブックマークパネル：ドキュメントを開いたときにブックマークパネルを表示します
- ページパネル：ドキュメントを開いたときにページパネルを表示します
- 添付ファイルパネル：ドキュメントを開いたときに添付ファイルパネルを表示します
- フルスクリーンモード：開いたときにドキュメントをフルスクリーンモードで表示します

ページレイアウト -ドキュメントを開いたときのページレイアウトのデフォルトの動作を設定します

- デフォルト：ドキュメントが開かれているアプリケーションのデフォルト設定を使用します
- シングル：一度に1つの個別のページのみを表示します
- 単一連続：連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します
- 見開き：一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
- 連続向き：すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
- 表紙：見開きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます
- Cover Continuous：Facing Continuousを使用する場合と同じようにドキュメントを表示し、最初のページのみが単独で表示されます

倍率 -開いたときのドキュメントのデフォルトの倍率を設定します

- デフォルト：ドキュメントが開かれているアプリケーションのデフォルト設定を使用します
- 実際：スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致する1：1の比率でドキュメントを表示します
- ページに合わせる：PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します

- 幅に合わせる：PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します
- %：指定した数値にズームを設定します

ページを開く -ドキュメントを開いたときに表示されるページ番号を設定します

ウィンドウオプション

ウィンドウのサイズを最初のページに変更* -設定すると、ウィンドウのサイズが変更され、最初のページサイズが100%に一致します。これはAcrobatのみの機能です。

画面の中央のウィンドウ -アプリケーションフレームをモニター/画面の中央に配置します

フルスクリーンモードで開く -ファイルを直接開きますフルスクリーンモード

見せる -PDFStudioアプリケーションフレームのタイトルバーにファイル名とドキュメントタイトルのどちらを表示するかを選択します

ユーザーインターフェイスオプション

メニューバーを非表示 -ドキュメントを開いたときにトップメニューバーを非表示にします。

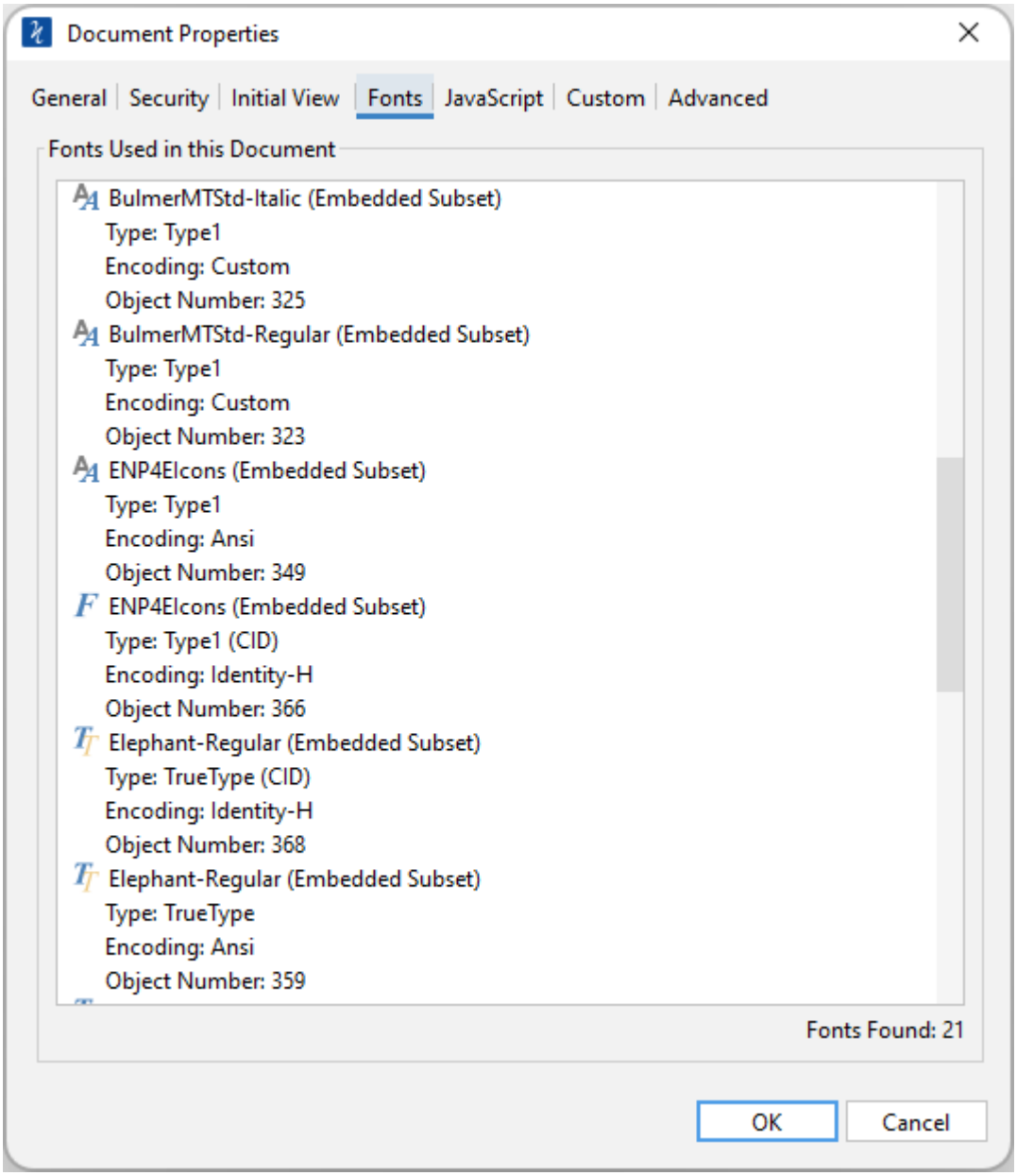
ノート：メニューバーは、を使用している場合にのみ表示されますクラシックツールバー

ツールバーを非表示にする -ドキュメントを開いたときにツールバーを折りたたむ。タブ名またはをクリックすると、ツールバーを再度開くことができます。 ツールバーの下矢印アイコン

ウィンドウコントロールを非表示 -ドキュメント表示領域からスクロールバーを非表示にします

ドキュメントフォント

ドキュメントプロパティの[フォント]タブでは、ドキュメントで使用されているフォントを表示できます。ダイアログには、フォントタイプとフォントプロパティの両方に関する情報が表示されます。



ドキュメントフォントの表示方法

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. [フォント]タブをクリックします

フォントタイプ

ドキュメント内のフォントの種類に応じて、PDFStudioは次のいずれかを表示します

-タイプ1（CID）、タイプ3、またはTrueTypeのいずれでもないフォントを示します

-フォントがタイプ1（CID）またはタイプ3の場合に使用されます

-すべてのTrueTypeフォントはこの記号を表示します

フォントのプロパティ

ドキュメント内の各フォントは、独自のプロパティを持つことができます。以下は、各フォントに関連付けられているプロパティの説明です。

（埋め込み）-埋め込みフォントでは、フォント全体がPDFドキュメント内に保存されます。これは、フォントがシステムで使用できない場合でも、テキストが正しく表示されることを意味します。

（埋め込みサブセット）-埋め込まれたサブセットフォントには、PDF内に保存されたフォントの一部があります。これは、フォントで使用可能なすべての文字が使用できるわけではないことを意味します。元のドキュメントテキストは正しく表示されますが、埋め込まれた文字の1つではない文字が追加または変更されると、ドキュメント内に正しく表示されない場合があります。

タイプ-完全なフォントタイプ名

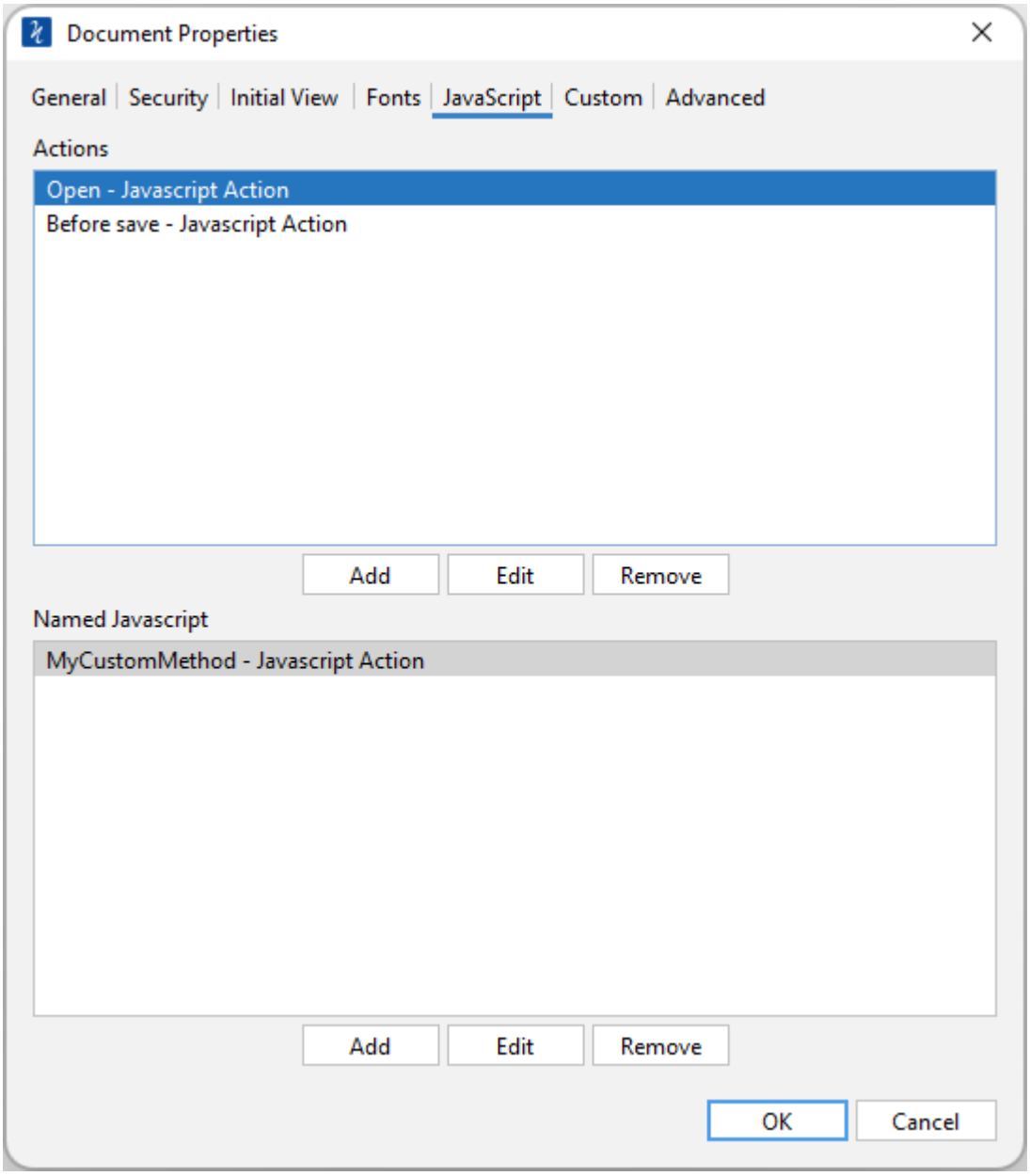
エンコーディング-フォントで使用されている文字エンコード

実際のフォント-代替フォントが使用されている場合（フォントが埋め込まれていない場合）、リストされているフォントを置き換えたフォントの名前が表示されます

実際のタイプ-代替フォントが使用されている場合（フォントが埋め込まれていない場合）、リストされているフォントを置き換えたフォントのタイプが表示されます

JavaScriptを文書化する

ドキュメントプロパティの[JavaScipt]タブでは、ドキュメントのJavaScriptアクションを表示および編集できます。これらは、特定のイベントに基づいてドキュメントレベルで発生するアクションです。これらのイベントは、オープン、クローズ、保存前、保存後、印刷前、および印刷後に発生する可能性があります。このタブのオプションを使用して、アクションを追加、編集、または削除できます。



ドキュメントのJavaScriptアクションを表示/編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. [JavaScript]タブをクリックします

3. 現在のアクションがダイアログに表示されます。必要に応じて、[追加]、[編集]、または[削除]オプションを使用してJavaScriptアクションを変更します
4. [OK]をクリックして変更を適用します
5. ドキュメントを保存して、新しいドキュメントJavaScript設定を保存します

オプション

追加 -アクションダイアログを開いて、ドキュメントにアクションを追加します

編集 -リストから現在選択されているアクションを編集します

削除する -現在選択されているアクションをリストから削除します

アクションの文書化

ドキュメントアクションは、事前定義されたイベントの後に実行されるJavaScriptアクションを定義します。

イベント

開いた：ドキュメントを開くと、開くアクションがトリガーされます

閉じる：ドキュメントが閉じられると、閉じるアクションがトリガーされます

保存する前に：ドキュメントが保存される前、ただしシステム上のファイルが実際に更新される前に、保存アクションがトリガーされます。たとえば、保存された正確な時刻で日付値を更新したい場合

保存後：ファイルが保存されると、保存アクションがトリガーされます

印刷前：ドキュメントが印刷される前、ただしファイルが実際にプリンタに送信される前に、印刷アクションがトリガーされます。たとえば、印刷された正確な時刻で日付値を更新する場合

印刷後：ドキュメントの印刷後に印刷アクションがトリガーされます

JavaScriptアクション

カスタムを実行するアクションを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。使用するJavaScriptをテキストボックスに入力します。

名前付きJavaScript

名前付きJavaScriptは、ドキュメント内の他のJavaScript呼び出しで参照できる機能を定義するために使用されます。これらは、ドキュメントを開いたとき、またはその他の必要な時点で参照できます。これは、ドキュメント全体のさまざまなトリガーとアクションで実行する必要がある共通の機能があり、重複するJavaScriptコードの記述を制限するのに役立つ場合に役立ちます。

名前

名前フィールドを使用して、将来この特定のアクションを参照するときに使用される名前を定義します

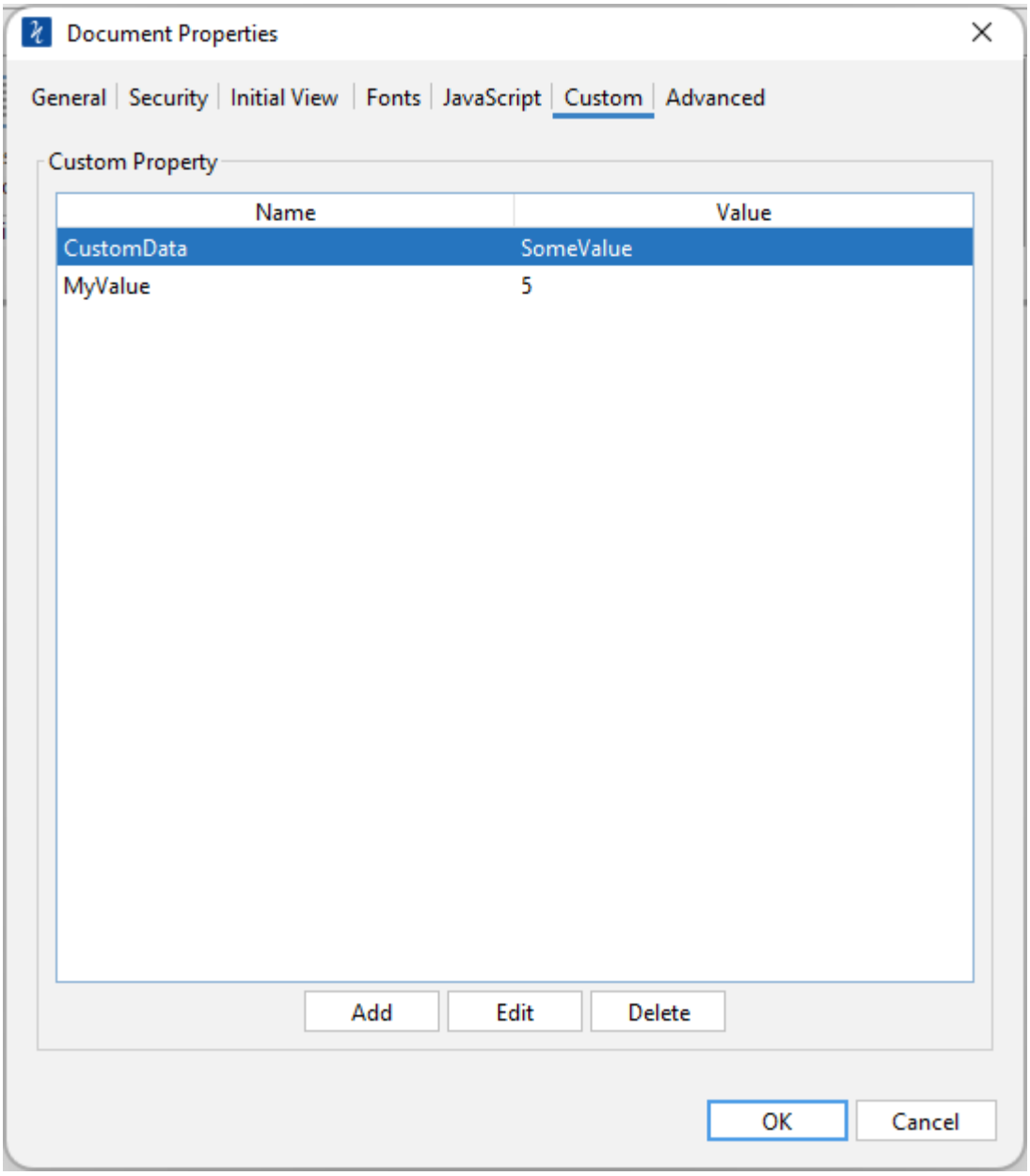
JavaScriptアクション

使用したいJavaScript機能をテキストボックスに入力します。カスタムを実行するアクションを設定しますサポートされているJavaScript フィールドに入力できるアクション。

カスタムプロパティを文書化する

[カスタムプロパティ]タブでは、バージョン番号、会社名、その他の値などの追加のメタデータをPDFに直接保存するカスタムドキュメントプロパティを追加できます。

> *ノート：作成するプロパティには、[ドキュメントのプロパティ]ダイアログの他のタブに表示されない一意の名前を付ける必要があります。*



ドキュメントのカスタムプロパティを表示/編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. クリックしてください**カスタム** タブ

3. 現在のプロパティがダイアログに表示されます。必要に応じて、[追加]、[編集]、または[削除]オプションを使用して、カスタムプロパティを変更します
4. [OK]をクリックして変更を適用します
5. ドキュメントを保存して、新しいドキュメントカスタムプロパティ設定を保存します

オプション

追加 -アクションダイアログを開いて、ドキュメントに新しいカスタムプロパティを追加します

編集 -リストから現在選択されているプロパティを編集します

消去-現在選択されているプロパティをリストから削除します

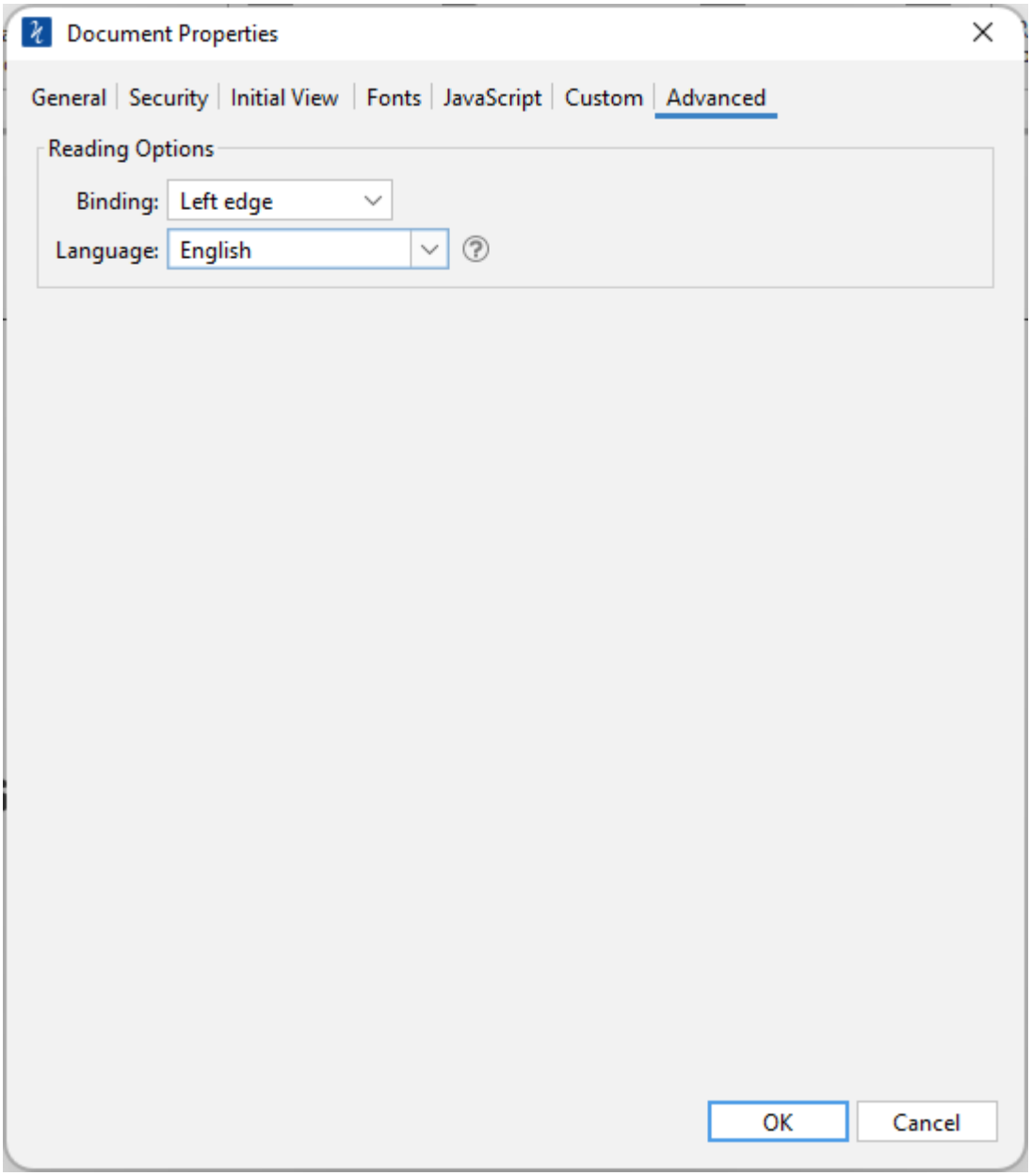
カスタムプロパティ設定

名前：PDF内に保存されているプロパティの名前

価値：指定されたプロパティに関連付けられた値

高度なドキュメントプロパティ

[詳細設定]タブでは、ドキュメントに追加のオプションを設定できます。これらには、ユーザーのアクセシビリティのニーズに対応するバインディングや言語などの読み取りオプションが含まれます。 PDFでドキュメントの言語を設定すると、一部のスクリーンリーダーを適切なものに切り替えることができます 言語。



ドキュメントの詳細設定を表示/編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. クリックしてください**高度な** タブ
3. 使用したい設定を選択してください

4. [OK]をクリックして変更を適用します
5. ドキュメントを保存して、新しい詳細ドキュメント設定を保存します

オプション

バインディング-見開きモードまたは表紙ビューモードでページを表示する順序を設定します。

- 左端：左から右に読むドキュメントの場合（英語、フランス語など）
- 右端：右から左に読むドキュメント（アラビア語、ヘブライ語など）

> **Note**：*これは、サムネイルペインのページ順序には影響しません。*

言語-ドキュメント全体の言語を設定します。ドキュメント内の特定のテキストの言語設定の詳細については、PDFのタグ付けを参照してください。

> **注意**：*言語がドロップダウンリストに表示されない場合は、言語のISO639コードを[言語]フィールドに入力できます。*

サポートされているドキュメントJavaScript

PDF Studioで、フォームフィールド、ブックマーク、ドキュメントアクションなどの特定のアイテムのカスタム関数/アクションを作成する場合、コマンドにJavaScriptを使用する必要があります。 JavaScriptは、計算、ボタンアクション（画像の追加、フォームの送信、または他のフィールドへの入力）、フィールド入力の検証、フィールドフォーマットの設定などを実行できます。

> **注意：** *PDF Studioは、PDFフォームのAcroform（非LiveCycle）JavaScriptのみをサポートします。*

ボタンのアクションを作成するには、JavaScriptのプログラミングに関する高度な知識が必要です。これらの関数の使用方法の詳細については、このサイトのチュートリアルとレッスンをご覧ください。http://www.w3schools.com/js/js_intro.asp

PDF Studioは、以下の各項目に対して次のJavaScriptコマンドをサポートしています。

注釈

プロパティ：

著者
ページ
ポイント
ストロークカラー
タイプ
幅

Doc

方法：

addAnnot
addField
calculateNow
closeDoc
flattenPages
getAnnots3D
getDataObjectContents
getField
getNthFieldName
getOCG
getPageBox
getPageRotation
getTemplate
gotoNamedDest
importAnFDF

mailDoc
印刷
フォームをリセット
spawnPageFromTemplate
submitForm

プロパティ：

URL
計算する
情報
numFields
numPages

フィールド

方法：

buttonGetCaption
buttonImportIcon
buttonSetCaption
checkThisBox
clearItems
deleteItemAt
getArray
getItemAt
insertItemAt
isBoxChecked
setAction
setFocus
setItems
署名情報

プロパティ：

ボーダの色
ボーダースタイル
borderWidth
calcOrderIndex
charLimit
櫛
commitOnSelChange
currentValueIndices
defaultValue
ディレイ
表示
doNotScroll
doNotSpellCheck
doc

編集可能
exportValues
fileSelect
塗りつぶしの色
隠された
lineWidth
マルチライン
multipleSelection
名前
numItems
ページ
パスワード
読み取り専用
rect
必須
ストロークカラー
スタイル
submitName
テキストの色
タイプ
userName
値
valueAsString

グローバル

方法：

setPersistent

身元

プロパティ：

株式会社
Eメール
ログイン名
名前

Matrix2D

方法：

fromRotated
変換

メニュー項目

プロパティ：

bEnabled
bマーク付き
cName
cReturn
oSubMenu

OCG

方法：

getIntent
setAction
setIntent

プロパティ：

initState
ロックされています
名前
状態

ReadStream

方法：

読んだ

SignatureInfo

プロパティ：

日付
理由

テンプレート

方法：

スポーン

Util

方法：

印刷
printf
printx
スキャン
stringFromStream

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFドキュメントの変換

PDF Studioは、PDFドキュメントを次の形式に変換できます

高速Webビュー （線形化）：ドキュメントを最適化してWeb表示を高速化します

HTML5 / SVG：ドキュメントをHTMLヘッダーでラップされたSVG画像に変換し、PDFビューアを必要とせずにWebブラウザでPDFを表示します

画像：PDFドキュメントをJPEG、TIFF、PNG、またはGIFのいずれかの形式に変換します

PDF / A-1b：PDF/A-1bコンプライアンス基準を満たすようにドキュメントを変換します

文章：PDFドキュメントからすべてのテキストを抽出し、標準の.txtファイルを作成します

RTF：ドキュメント内のすべてのテキストを.rtf形式のテキストファイルに変換します

マイクロソフトワード®：Microsoft Office 2013以降と統合して、PDFドキュメントをWordファイルに変換します

PDFを高速Webビューに変換する

PDF Studioを使用すると、PDFドキュメントを高速Webビュー（または線形化）に変換できます。高速Webビューは、ページが順番に読み込まれるように、ドキュメントの内部構造とコンテンツを再構築します。 Fast Web Viewに変換すると、コンテンツが再編成されます 内部的に。コンテンツが変更または削除されないため、PDFは変換前とまったく同じように表示されます。

高速Webビューに変換すると、Webからダウンロードするときに大きなドキュメントをより速くロードできます。ドキュメントの構造とコンテンツを線形化された（最初から最後まで）順序にすることで、ブラウザーは最初のページを残りのページとしてすぐに表示できます。 ドキュメントのはまだロードされています。

> **注意**：*完全な速度の利点を確認するには、PDFがホストされているサーバーがページごとの読み込みもサポートしている必要があります。*

PDFを高速Webビューに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[ファイル]タブ> [変換]>** **高速Webビュー** ツールバー上
3. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
4. [保存]をクリックしてドキュメントを作成します

既存のドキュメントで高速Webビューが有効になっていることを確認します

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]** または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントで高速Webビューが有効になっている場合に「はい」と表示される「高速Webビュー」ラベルがあります。

PDFをHTML5に変換する / SVG

PDF Studioを使用すると、PDFドキュメントをHTML5Webページに変換できます。 HTML5はすべてのブラウザでサポートされているため、ビューアプラグインを必要とせずに、PDFドキュメントのコンテンツを任意のWebサイトに簡単に公開できます。 PDFからHTML5へ PDF Studioの変換エンジンはフォントを保持し、SVG形式を使用してベクターグラフィックを保持します。 HTML5に変換されたサンプルPDFドキュメントを見つけることができますここに。

PDFをHTMLに変換する方法5

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**[ファイル]タブ> [変換]> HTML5 / SVG**
3. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
4. [保存]をクリックしてドキュメントを作成します

変換が完了すると、HTML5をサポートする任意のアプリケーションで作成されたHTML5ドキュメントを使用して、ドキュメントを表示できます。

HTML5変換オプション

のオプションは次のとおりです。

移動先フォルダ –宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

フォルダを覚えておいてください -チェックすると、選択したフォルダは次回ページが画像としてエクスポートされるときに記憶されます

ファイル名パターン –出力ファイル名に必要なパターンを入力します。

> **注意**：*現在のページ番号とファイル拡張子がパターンに追加され、最終的なファイル名が作成されます。*

に変換 -出力タイプを選択します

- ドキュメントごとに単一のHTML：処理されるドキュメントごとに単一のHTMLファイルを作成します
- ドキュメントごとに単一のSVG：処理されるドキュメントごとに単一のSVGファイルを作成します
- ページごとに個別のSVG：処理中の各ドキュメントのページごとに個別のSVGファイルを作成します

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します

・ 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
・ 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

ページの境界線を表示 -チェックすると、作成されたページに1pxの境界線が表示されます。これにより、ページが白いドキュメント上にあることを簡単に区別できます

画像を圧縮する -チェックすると、出力のサイズを小さくするために、PDFで見つかった画像がJPEGに圧縮されます

JPG品質 –JPG圧縮の目的の品質を選択します。品質パラメータに基づきます。品質値に関するいくつかのガイドライン：8つの高品質、5つの中品質、2つの低品質。

・ 0 –非常に高い圧縮、非常に低い品質
・ 10 –低圧縮、非常に高品質

PDFを画像に変換する

PDF Studioは、PDFドキュメントのページを次の画像形式に変換できます。画像に変換すると、表示されるすべてのページコンテンツがフラット化され、次のファイルタイプのいずれかを使用してエクスポートされます。

ページをJPEGとしてエクスポート：現在のドキュメントのページをJPEG画像としてエクスポートします

ページをTIFFとしてエクスポート：現在のドキュメントのページをTIFF画像としてエクスポートします

ページをPNGとしてエクスポート：現在のドキュメントのページをPNG画像としてエクスポートします

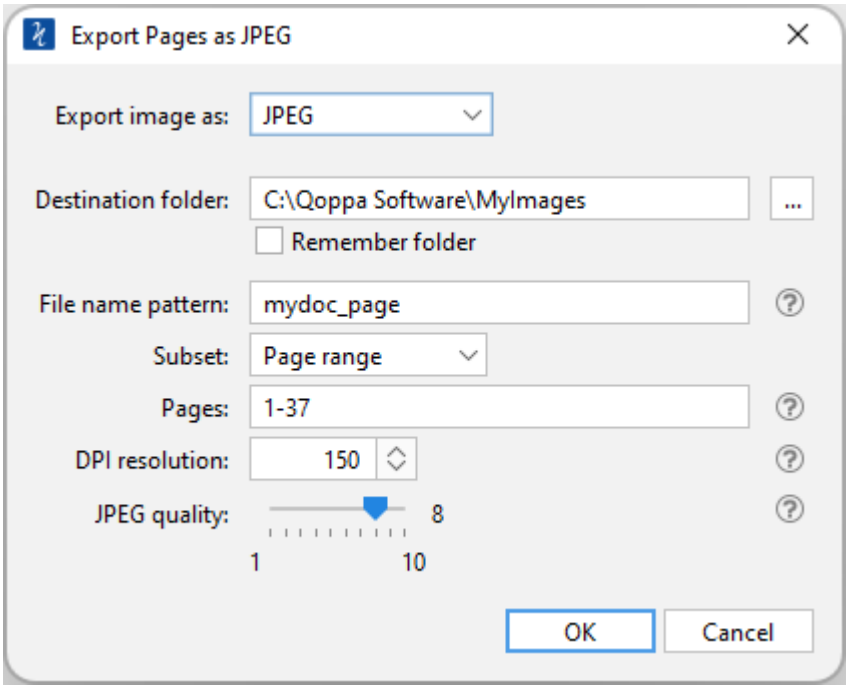
ページをGIFとしてエクスポート：現在のドキュメントのページをGIF画像としてエクスポートします

すべての画像をエクスポート：ドキュメントコンテンツ内のすべての画像を個々の画像ファイルにエクスポートします

ラスタライズされたPDF：ベクトルコマンドの代わりにページの画像を使用してドキュメントを再作成します

ページをJPEGとしてエクスポート

PDF Studioは、PDFドキュメントのページをJPEG画像としてエクスポートできます。 PDFを画像としてエクスポートすると、すべてのページコンテンツがフラット化され、ドキュメントのページごとに個別の画像にラスタライズされます。



PDFページをJPEG画像としてエクスポートする方法

1. に移動します**[ファイル]タブ>** **画像>ページをJPEGとしてエクスポート** ツールバー上
2. 使用するJPEG画像のエクスポートオプションを設定します
3. [OK]をクリックして、画像のエクスポートを開始します
4. 完了すると、ドキュメントの各ページが、選択した宛先フォルダーに個別のファイルとしてエクスポートされます。

JPEG画像のエクスポートオプション

[ページをJPEGとしてエクスポート]ダイアログのオプションは次のとおりです。

移動先フォルダ -宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

> **注意：** *ドキュメントに多くのページがある場合は、ページごとに個別の画像ファイルが作成されるため、特定のフォルダまたは空のフォルダを選択することをお勧めします。すでに画像やその他のファイルが含まれているフォルダを選択すると、そのフォルダが圧倒される可能性があります*

フォルダを覚えておいてください -チェックすると、選択したフォルダは次回ページが画像としてエクスポートされるときに記憶されます

ファイル名パターン -出力ファイル名に必要なパターンを入力します。

> **注意**：*現在のページ番号とファイル拡張子「.jpg」がパターンに追加され、最終的なファイル名が作成されます。*

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用するDPIで目的の解像度を選択します。 72はPDFのネイティブ解像度です。 DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

白黒ドキュメント

- 許容可能な最低解像度= 200 DPI（「高」ファックス品質に等しい）
- 従来の解像度= 300 DPI
- 従来の最高解像度= 600 DPI

カラードキュメント（およびカラー圧縮）

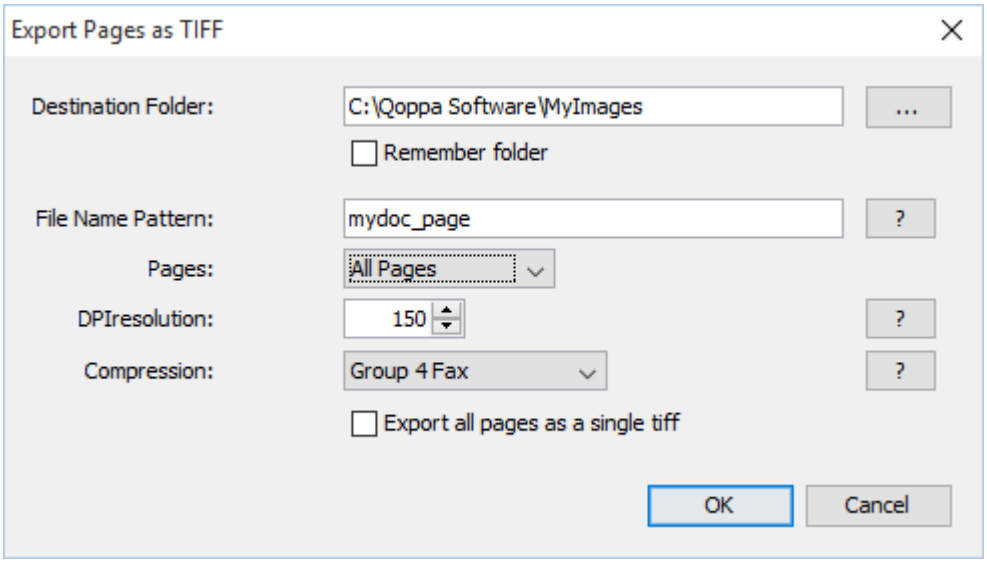
- 許容可能な最低解像度= 150 DPI
- 従来の解像度= 200 DPI
- 従来の最高解像度= 300 DPI
- アーカイブの解像度= 600 DPI

JPG品質 -JPG圧縮の目的の品質を選択します。品質パラメータに基づきます。品質値に関するいくつかのガイドライン：8つの高品質、5つの中品質、2つの低品質。

- 0 -非常に高い圧縮、非常に低い品質
- 10 -低圧縮、非常に高品質

ページをTIFFとしてエクスポート

PDF Studioは、PDFドキュメントのページをTIFF画像としてエクスポートできます。 PDFを画像としてエクスポートする場合、デフォルトでは、すべてのページコンテンツがフラット化され、ドキュメントのページごとに個別の画像にラスタライズされます。 TIFF画像形式 すべてのページを単一のファイルにエクスポートできます。このファイルは、PDFStudioのエクスポートダイアログで有効にできます。



PDFページをTIFF画像としてエクスポートする方法

1. に移動インクルード **[ファイル]タブ>** **画像>ページをTIFFとしてエクスポート** ツールバー上
2. 使用するTIFF画像のエクスポートオプションを設定します
3. [OK]をクリックして、画像のエクスポートを開始します
4. 完了すると、ドキュメントの各ページが、選択した宛先フォルダーに個別のファイルとしてエクスポートされます。

TIFF画像のエクスポートオプション

[ページをTIFFとしてエクスポート]ダイアログのオプションは次のとおりです。

移動先フォルダ -宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

> **注意：** *ドキュメントに多くのページがある場合は、ページごとに個別の画像ファイルが作成されるため、特定のフォルダまたは空のフォルダを選択することをお勧めします。すでに画像やその他のファイルが含まれているフォルダを選択すると、そのフォルダが圧倒される可能性があります*

フォルダを覚えておいてください -チェックすると、選択したフォルダは次回ページが画像としてエクスポートされるときに記憶されます

ファイル名パターン -出力ファイル名に必要なパターンを入力します。

> **注意**：*現在のページ番号とファイル拡張子「.tiff」がパターンに追加され、最終的なファイル名が作成されます。*

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用するDPIで目的の解像度を選択します。 72はPDFのネイティブ解像度です。 DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

白黒ドキュメント

- 許容可能な最低解像度= 200 DPI（「高」ファックス品質に等しい）
- 従来の解像度= 300 DPI
- 従来の最高解像度= 600 DPI

カラードキュメント（およびカラー圧縮）

- 許容可能な最低解像度= 150 DPI
- 従来の解像度= 200 DPI
- 従来の最高解像度= 300 DPI
- アーカイブの解像度= 600 DPI

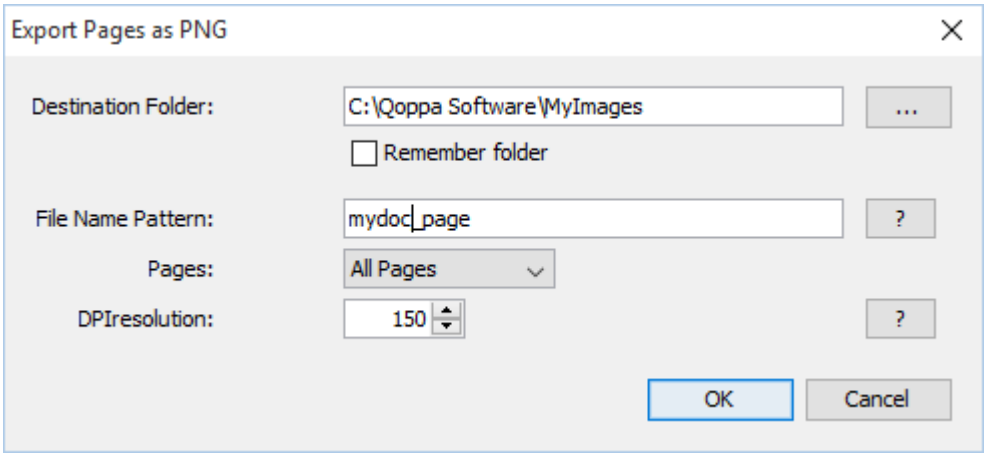
圧縮 -ページをエクスポートするときに使用する圧縮を選択します。最も標準的なものは、ファックス用に最適化されたグループ4ファックスです。

- CCIT RLE
- グループ3ファックス
- グループ4ファックス
- パックビット
- LZW
- ZLib
- 収縮する
- 圧縮なし

すべてのページを単一のTIFFとしてエクスポートする -TIFF画像形式では、複数の画像を1つのドキュメントに保存できます。サポートされているビューアで画像を開くと、画像ビューアにはドキュメントと同じようにページナビゲーションツールが表示されます。これにより、多数のページを複数のファイルではなく単一のファイルとして送信することが容易になります。

ページをPNGとしてエクスポート

PDF Studioは、PDFドキュメントのページをPNG画像としてエクスポートできます。 PDFを画像としてエクスポートすると、すべてのページコンテンツがフラット化され、ドキュメントのページごとに個別の画像にラスタライズされます。



PDFページをPNG画像としてエクスポートする方法

1. に移動インクルード **[ファイル]タブ>** **画像>ページを名前を付けてエクスポート PNG** ツールバー上
2. 使用したいPNG画像のエクスポートオプションを設定します
3. [OK]をクリックして、画像のエクスポートを開始します
4. 完了すると、ドキュメントの各ページが、選択した宛先フォルダーに個別のファイルとしてエクスポートされます。

PNG画像のエクスポートオプション

[ページをPNGとしてエクスポート]ダイアログのオプションは次のとおりです。

移動先フォルダ -宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

> **注意：** *ドキュメントに多くのページがある場合は、ページごとに個別の画像ファイルが作成されるため、特定のフォルダまたは空のフォルダを選択することをお勧めします。すでに画像やその他のファイルが含まれているフォルダを選択すると、そのフォルダが圧倒される可能性があります*

フォルダを覚えておいてください -チェックすると、選択したフォルダは次回ページが画像としてエクスポートされるときに記憶されます

ファイル名パターン -出力ファイル名に必要なパターンを入力します。

> **注意：***現在のページ番号とファイル拡張子「.png」がパターンに追加され、最終的なファイル名が作成されます。*

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

DPI解像度 –ページのレンダリングに使用するDPIで目的の解像度を選択します。 72はPDFのネイティブ解像度です。 DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

白黒ドキュメント

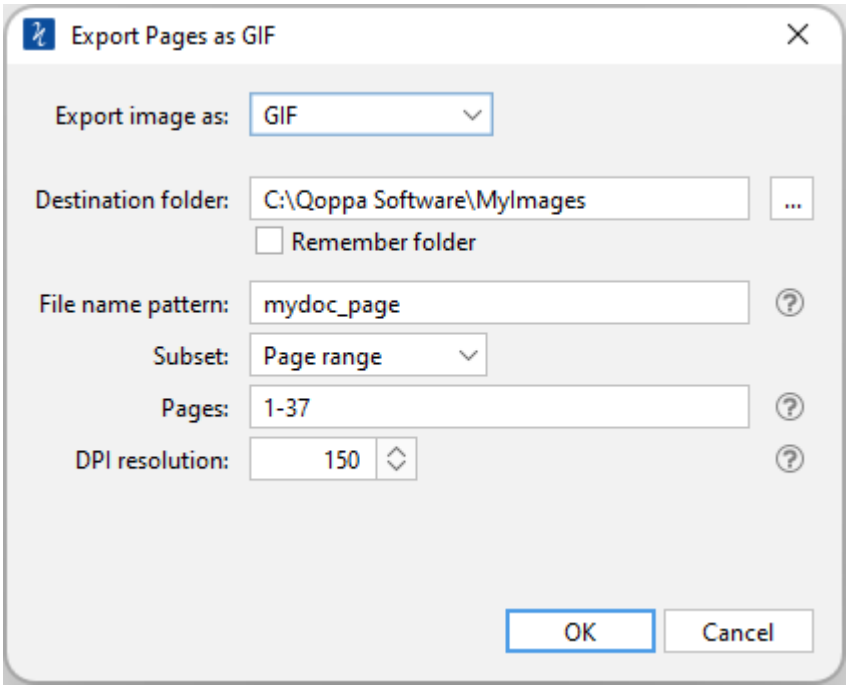
- 許容可能な最低解像度= 200 DPI（「高」ファックス品質に等しい）
- 従来の解像度= 300 DPI
- 従来の最高解像度= 600 DPI

カラードキュメント（およびカラー圧縮）

- 許容可能な最低解像度= 150 DPI
- 従来の解像度= 200 DPI
- 従来の最高解像度= 300 DPI
- アーカイブの解像度= 600 DPI

ページをGIFとしてエクスポート

PDF Studioは、PDFドキュメントのページをGIF画像としてエクスポートできます。 PDFを画像としてエクスポートすると、すべてのページコンテンツがフラット化され、ドキュメントのページごとに個別の画像にラスタライズされます。



PDFページをGIF画像としてエクスポートする方法

1. に移動インクルード **[ファイル]タブ>** **画像>ページをGIFとしてエクスポート** ツールバー上
2. 使用するGIF画像のエクスポートオプションを設定します
3. [OK]をクリックして、画像のエクスポートを開始します
4. 完了すると、ドキュメントの各ページが、選択した宛先フォルダーに個別のファイルとしてエクスポートされます。

GIF画像のエクスポートオプション

[ページをGIFとしてエクスポート]ダイアログのオプションは次のとおりです。

移動先フォルダ –宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

> **注意：** *ドキュメントに多くのページがある場合は、ページごとに個別の画像ファイルが作成されるため、特定のフォルダまたは空のフォルダを選択することをお勧めします。すでに画像やその他のファイルが含まれているフォルダを選択すると、そのフォルダが圧倒される可能性があります*

フォルダを覚えておいてください -チェックすると、選択したフォルダは次回ページが画像としてエクスポートされるときに記憶されます

ファイル名パターン -出力ファイル名に必要なパターンを入力します。

> **注意**：*現在のページ番号とファイル拡張子「.gif」がパターンに追加され、最終的なファイル名が作成されます。*

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用するDPIで目的の解像度を選択します。 72はPDFのネイティブ解像度です。 DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

白黒ドキュメント

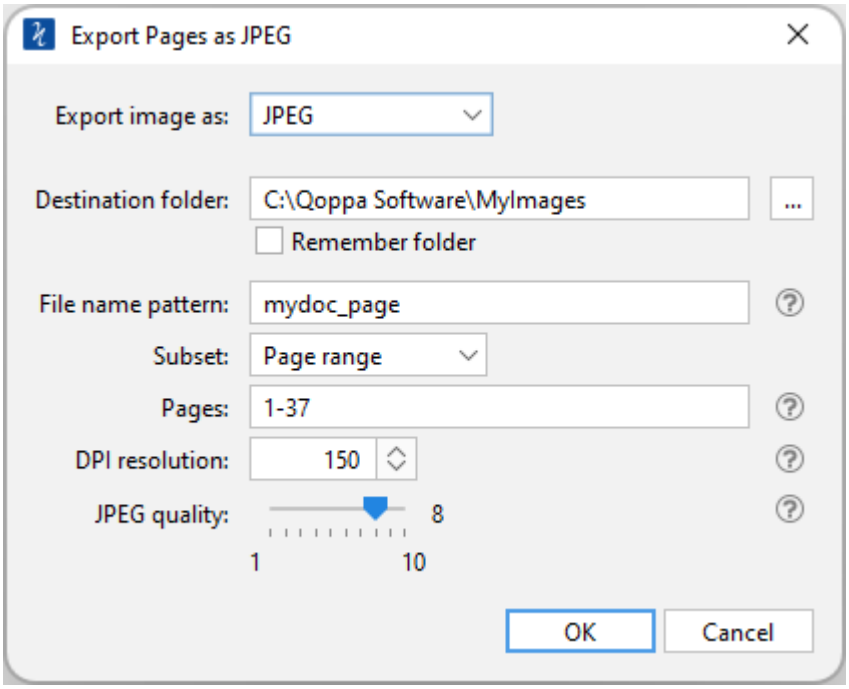
- 許容可能な最低解像度= 200 DPI（「高」ファックス品質に等しい）
- 従来の解像度= 300 DPI
- 従来の最高解像度= 600 DPI

カラードキュメント（およびカラー圧縮）

- 許容可能な最低解像度= 150 DPI
- 従来の解像度= 200 DPI
- 従来の最高解像度= 300 DPI
- アーカイブの解像度= 600 DPI

ページをJPEGとしてエクスポート

PDF Studioは、PDFドキュメントのページをJPEG画像としてエクスポートできます。 PDFを画像としてエクスポートすると、すべてのページコンテンツがフラット化され、ドキュメントのページごとに個別の画像にラスタライズされます。



PDFページをJPEG画像としてエクスポートする方法

1. に移動インクルード **[ファイル]タブ>** **画像>ページをJPEGとしてエクスポート** ツールバー上
2. 使用するJPEG画像のエクスポートオプションを設定します
3. [OK]をクリックして、画像のエクスポートを開始します
4. 完了すると、ドキュメントの各ページが、選択した宛先フォルダーに個別のファイルとしてエクスポートされます。

JPEG画像のエクスポートオプション

[ページをJPEGとしてエクスポート]ダイアログのオプションは次のとおりです。

移動先フォルダ –宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

> **注意：** *ドキュメントに多くのページがある場合は、ページごとに個別の画像ファイルが作成されるため、特定のフォルダまたは空のフォルダを選択することをお勧めします。すでに画像やその他のファイルが含まれているフォルダを選択すると、そのフォルダが圧倒される可能性があります*

フォルダを覚えておいてください -チェックすると、選択したフォルダは次回ページが画像としてエクスポートされるときに記憶されます

ファイル名パターン -出力ファイル名に必要なパターンを入力します。

> **注意**：*現在のページ番号とファイル拡張子「.jpg」がパターンに追加され、最終的なファイル名が作成されます。*

ページ -画像としてエクスポートされるページの範囲

- すべてのページ：ドキュメント内のすべてのページ
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、エクスポートするページを設定します
- 偶数ページのみ：ドキュメントの偶数ページのみをエクスポートします
- 奇数ページのみ：ドキュメントの奇数ページのみをエクスポートします

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用するDPIで目的の解像度を選択します。 72はPDFのネイティブ解像度です。 DPIを選択するときは、以下のガイドラインに従うのが最善です。

白黒ドキュメント

- 許容可能な最低解像度= 200 DPI（「高」ファックス品質に等しい）
- 従来の解像度= 300 DPI
- 従来の最高解像度= 600 DPI

カラードキュメント（およびカラー圧縮）

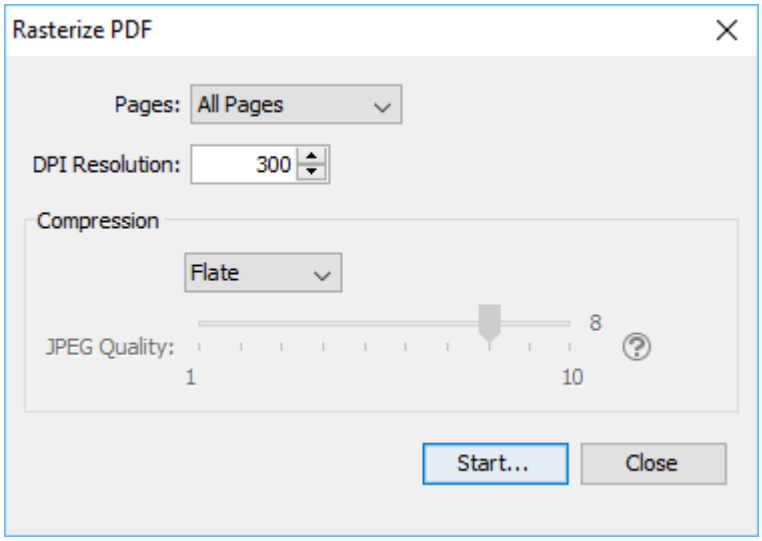
- 許容可能な最低解像度= 150 DPI
- 従来の解像度= 200 DPI
- 従来の最高解像度= 300 DPI
- アーカイブの解像度= 600 DPI

JPG品質 -JPG圧縮の目的の品質を選択します。品質パラメータに基づきます。品質値に関するいくつかのガイドライン：8つの高品質、5つの中品質、2つの低品質。

- 0 -非常に高い圧縮、非常に低い品質
- 10 -低圧縮、非常に高品質

PDFをラスタライズ

Rasterize PDFは、ベクターコマンドの代わりにページの画像を使用してドキュメントを再作成します。これは、PDFを画像にエクスポートしてから、画像を新しいPDFに再インポートするのと同じように機能します。ラスター化すると、新しいドキュメントが開きます。



PDFをラスタライズする方法

1. に移動インクルード **[ファイル]タブ>** **画像> PDFをラスタライズ** ツールバー上
2. ラスタライズオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ページ範囲を設定する
   - 解像度を設定する
   - 圧縮オプションを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてプロセスを開始します。
4. ドキュメントがラスタライズされると、新しいドキュメントが開きます

PDF設定をラスタライズ

ページ範囲

ページ-ラスタライズするページの範囲

- すべてのページ：ドキュメントのすべてのページをラスター化します
- ページ範囲：[開始]および[終了]オプションを使用して、ラスタライズするページを設定します
- 偶数ページのみ：偶数ページのみ
- 奇数ページのみ：奇数ページのみ

DPIと圧縮

DPI解像度 -ページのレンダリングに使用されるDPIの解像度。72はPDFのネイティブ解像度です。

圧縮 -画像形式を設定します。 PDF形式と互換性のある画像のみを選択できます。

- JPEG-画質とサイズを低下させる不可逆圧縮
- JPEG2000-サイズと品質を低下させる非可逆圧縮
- Flate-可逆圧縮は品質を低下させませんが、ファイルサイズを常に低下させるとは限りません
- JBIG2 B＆W-白黒の色空間のみをサポートできるロスレス圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

JPEG品質 -これはJPEG圧縮の品質です。品質パラメータに基づいて、0（非常に高い圧縮、非常に低い品質）から10（低い圧縮、非常に高い品質）まで変化します。いくつかのガイドライン品質値の場合：高品質8、中品質5、低品質2。

PDFからテキストを抽出する

PDF Studioは、PDFドキュメントに含まれるすべてのテキストを抽出できます。このプロセス中に、PDF Studioはドキュメント内のすべてのテキストを抽出し、生のテキストデータを.txtファイルにエクスポートします。次に、テキストをテキストエディタにコピーして、フォーマットすることができます。 必要に応じて。

> **注意**：*テキストは、戻り文字（次の行への移動を指定）を除いて、フォーマットなしでエクスポートされます。 PDF Studioは現在、PDFのMicrosoftWord形式へのエクスポートをサポートしていません。*

PDFからテキストを抽出する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動インクルード **[変換]タブ> [変換]>** **テキスト** ツールバー上
3. 抽出されたテキストを含む.txtドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
4. [保存]をクリックして、テキストと選択したファイルを抽出します

> **注意**：*フォント文字を使用したテキストを含むドキュメントのみを抽出できます。 PDFに、を使用して作成されたドキュメントまたはテキストのスキャン画像が含まれている場合パスコンテンツ あなたは最初にする必要がありますPDFをOCR テキストを抽出できるようにするため。*

PDFをMicrosoftWord®に変換する

PDF Studioを使用すると、PDF Studio変換エンジンを使用するか、コンピューターにインストールされているMicrosoft Officeアプリケーションと直接接続して、PDFドキュメントをMicrosoftWordファイルに変換できます。

PDFをMicrosoftWord文書に変換する方法

PDF Studioには、PDFドキュメントをMicrosoftWordファイルに変換する2つの異なる方法があります。

PDFStudio変換エンジンを使用した変換

この変換オプションは、QoppaSoftwareの新しいカスタム変換エンジンを使用します。これは2022年にリリースされ、現在ベータ版の新機能です。すべてのPDF機能が新しいWordファイルでサポートまたは作成されるとは限りません。

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動the **[変換]タブ>[変換先]>** **.docxに変換** ツールバー上
3. Wordファイルを保存する場所を選択し、[OK]をクリックして変換を開始します

MicrosoftWord統合による変換

この変換オプションは、有効なバージョンのMicrosoft Officeがインストールされている Windowsでのみ使用でき、有効なバージョンのMicrosoft Word（2013以降）が必要です。見る変換設定 詳細については。

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動the **[変換]タブ>[変換先]>** **MSWordに送信** ツールバー上
3. その後、Microsoft WordがPDFドキュメントとともに起動され、変換が完了します
4. 変換したら、必ずWordファイルを保存してください

プリフライト変換

PDF Studioを使用すると、PDFドキュメントをISOPDF形式に変換できます。これらのドキュメント形式は、保存時とまったく同じようにレンダリングまたは表示されるように設計されています。

以下は、PDFStudioが変換できる利用可能なPDF標準です。

- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-2u
- PDF / A-3b
- PDF / A-3u
- PDF / X-1a：2003
- PDF / X-3：2003

PDFドキュメントを変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**[変換]タブ**ツールバーで、使用するプロファイルを選択します
   - **PDF / A** -アーカイブ形式
   - **PDF / X** -印刷物の制作とプリプレスのフォーマット
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します 選択したプロファイル

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

プリフライト変換でサポートされていない機能：

以下は、変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、プリフライト変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、プリフライト変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。プリフライトに変換すると、デジタル署名が無効になります。

    - **回避策**：ユーザーは、プリフライト変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
    - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

飛行前の変換の問題

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてプリフライトプリファレンス。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

変換の問題を確認した後、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

既存のドキュメントが準拠していることを確認します

また、使用することができます飛行前の検証 PDF Studioのツールを使用して、ドキュメントがさまざまなプリフライトプロファイルに準拠していることを確認します。

PDFからPDF/A-1bへの変換

PDF Studioには、PDF/A-1b形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-1bは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-1b形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除される場合があります
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- すべての埋め込みファイルと外部ハイパーリンクが削除されます
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF/A-1bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**タブを変換>** **PDF / A> PDF / A-1b** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-1b

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-1bの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-1b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-1b変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-1bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-1b準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-1b準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-1bへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-1bコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-1b飛行前の検証ドキュメントがPDF/A-1b標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-2bへの変換

PDF Studioには、PDF/A-2b形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-2bは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-2b形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除される場合があります
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- PDF/A以外の埋め込みファイルと外部ハイパーリンクは削除されます
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF/A-2bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ>** **PDF / A> PDF / A-2b** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-2b

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-2bの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-2b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-2b変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-2bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-2b準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-2b準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-2bへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-2bコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-2b飛行前の検証 ドキュメントがPDF/A-2b標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-2uへの変換

PDF Studioには、PDF/A-2u形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-2uは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-2u形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除される場合があります
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- PDF/A以外の埋め込みファイルと外部ハイパーリンクは削除されます
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF/A-2uに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ>** **PDF / A> PDF / A-2u** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-2u

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-2uの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-2u変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-2u変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-2uに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-2u準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-2u準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-2uへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-2uコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-2uプリフライト検証 ドキュメントがPDF/A-2u標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-3bへの変換

PDF Studioには、PDF/A-3b形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-3bは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-3b形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます。
- フォントが埋め込まれます。
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます。
- JavaScript（主にフォームで使用される）は削除されます。
- 外部ハイパーリンクは削除されます。

PDFをPDF/A-3bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ**> **PDF / A> PDF / A-3b** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-3b

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-3bの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-3b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-3b変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-3bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-3b準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-3b準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-3bへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-3bコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-3b飛行前の検証 ドキュメントがPDF/A-3b標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-3uへの変換

PDF Studioには、PDF/A-3u形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-3uは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-3u形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます。
- フォントはで埋め込まれますUnicodeサポート。
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます。
- JavaScript（主にフォームで使用される）は削除されます。
- 外部ハイパーリンクは削除されます。

PDFをPDF/A-3uに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ>** **PDF / A> PDF / A-3u** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-3u

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-3uの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-3u変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-3u変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-3uに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-3u準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-3u準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-3uへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-3uコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-3uプリフライト検証 ドキュメントがPDF/A-3u標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

印刷物の制作とプリプレス

PDF Studioには、ドキュメントのコンプライアンスを確認し、印刷出力をプレビューするためのさまざまな印刷物作成およびプリプレス機能があります。

PDFプリフライト：選択したプロファイルに基づいてPDFのコンテンツを分析し、フォーマットがプロファイルに必要な基準を満たしているかどうかを判断し、ドキュメントをPDF / A-1bに変換するオプション。

出力プレビュー：さまざまなICCカラープロファイルに基づいてPDFの外観をシミュレートし、印刷バージョンの外観を正確にプレビューします。

PDF面付け：PDF面付けレイアウトをプレビューおよび作成できる高度な面付けモジュール。

PDFプリフライト

PDF Studioは、ドキュメントのコンプライアンスを検証し、PDFを変換してさまざまなISOPDFアーカイブコンプライアンス基準を満たすことができます。

飛行前の検証 -以下の形式はPDFStudioで確認できます

- PDF / A-1a
- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-2u
- PDF / A-3b
- PDF / A-3u
- PDF / A-3b ZUGFeRD
- PDF / UA
- PDF / X-1a：2001
- PDF / X-1a：2003
- PDF / X-3：2002
- PDF / X-3：2003

プリフライト変換 -PDFStudioは次の形式に変換できます

- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-2u
- PDF / A-3b
- PDF / A-3u
- PDF / X-1a：2003
- PDF / X-3：2003

飛行前の検証

PDF Studioは、ドキュメントがISOPDF標準で定義されているさまざまなアーカイブコンプライアンスを満たしていることを確認するためのプリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。ドキュメントを検証するとき、PDFStudioはエラーをリストしたレポートを生成します。エラーは、必要に応じて現在のPDFにエクスポートまたは追加できます。

以下は、PDFStudioが検証できる利用可能なPDFアーカイブ標準です。

- PDF / A-1a
- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-2u
- PDF / A-3b
- PDF / A-3u
- PDF / A-3b ZUGFeRD
- PDF / UA
- PDF / X-1a：2001
- PDF / X-1a：2003
- PDF / X-3：2002
- PDF / X-3：2003

PDFでプリフライト検証を実行する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する標準を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始します

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてPDF/A設定 。

-PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioによって修正されるアイテムPDF/A変換。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / A-1a検証

PDF Studioは、PDF / A-1aのプリフライトとコンプライアンスの検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF / A-1aコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用しますCtrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF/A-1b検証

PDF Studioは、PDF/A-1bプリフライトとコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF/A-1bコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する標準を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始します

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてPDF/A設定 。

-PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioによって修正されるアイテムPDF/A変換。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF/A-2b検証

PDF Studioは、PDF/A-2bプリフライトとコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF/A-2bコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する標準を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始します

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてPDF/A設定 。

-PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioによって修正されるアイテムPDF/A変換。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF/A-2u検証

PDF Studioは、PDF/A-2uプリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF/A-2uコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する標準を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始します

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてPDF/A設定 。

-PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioによって修正されるアイテムPDF/A変換。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF/A-3b検証

PDF Studioは、PDF/A-3bプリフライトとコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF/A-3bコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する標準を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始します

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてPDF/A設定 。

-PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioによって修正されるアイテムPDF/A変換。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF/A-3u検証

PDF Studioは、PDF/A-3uプリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF/A-3uコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する標準を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始します

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてPDF/A設定 。

-PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioによって修正されるアイテムPDF/A変換。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / A-3bZUGFeRD検証

PDF Studioは、PDF / A-3bZUGFeRDプリフライトとコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF / A-3bZUGFeRDコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / UA検証

PDF Studioは、PDF / UA（PDFユーザーアクセシビリティ）のプリフライトとコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。見るPDFアクセシビリティとは 詳細については。

PDF / UAコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / X-1a：2001 – ISO15930-1検証

PDF Studioは、PDF / X-1a：2001 – ISO15930-1プリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF / X-1a：2001を検証する方法– ISO15930-1コンプライアンス

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / X-1a：2003 – ISO15930-4検証

PDF Studioは、PDF / X-1a：2003 – ISO15930-4プリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF / X-1a：2003 – ISO15930-4コンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / X-3：2002 – ISO15930-3検証

PDF Studioは、PDF / X-3：2002 – ISO15930-3プリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF / X-3：2002 – ISO15930-3コンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDF / X-3：2003 – ISO15930-6検証

PDF Studioは、PDF / X-3：2003 – ISO15930-6プリフライトおよびコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。

PDF / X-3：2003 – ISO15930-6コンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

プリフライト変換

PDF Studioを使用すると、PDFドキュメントをISOPDF形式に変換できます。これらのドキュメント形式は、保存時とまったく同じようにレンダリングまたは表示されるように設計されています。

以下は、PDFStudioが変換できる利用可能なPDF標準です。

- PDF / A-1b
- PDF / A-2b
- PDF / A-2u
- PDF / A-3b
- PDF / A-3u
- PDF / X-1a：2003
- PDF / X-3：2003

PDFドキュメントを変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**[変換]タブ**ツールバーで、使用するプロファイルを選択します
   - **PDF / A** -アーカイブ形式
   - **PDF / X** -印刷物の制作とプリプレスのフォーマット
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します 選択したプロファイル

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

プリフライト変換でサポートされていない機能：

以下は、変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、プリフライト変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、プリフライト変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。プリフライトに変換すると、デジタル署名が無効になります。

    - **回避策**：ユーザーは、プリフライト変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
    - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

飛行前の変換の問題

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-PDF / Aに準拠しておらず、次の方法で修正できるアイテムプリフライト変換 のユーザー設定に応じてプリフライトプリファレンス。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

変換の問題を確認した後、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、プリフライトエラーごとに注釈が追加され、注釈コメントにエラーの詳細が示されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **文章** - プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

既存のドキュメントが準拠していることを確認します

また、使用することができます飛行前の検証 PDF Studioのツールを使用して、ドキュメントがさまざまなプリフライトプロファイルに準拠していることを確認します。

PDFからPDF/A-1bへの変換

PDF Studioには、PDF/A-1b形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-1bは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-1b形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除される場合があります
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- すべての埋め込みファイルと外部ハイパーリンクが削除されます
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF/A-1bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**タブを変換>** **PDF / A> PDF / A-1b** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-1b

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-1bの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-1b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-1b変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-1bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-1b準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-1b準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-1bへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-1bコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-1b飛行前の検証ドキュメントがPDF/A-1b標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-2bへの変換

PDF Studioには、PDF/A-2b形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-2bは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-2b形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除される場合があります
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- PDF/A以外の埋め込みファイルと外部ハイパーリンクは削除されます
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF/A-2bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ>** **PDF / A> PDF / A-2b** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-2b

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-2bの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-2b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-2b変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-2bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-2b準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-2b準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-2bへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-2bコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-2b飛行前の検証 ドキュメントがPDF/A-2b標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-2uへの変換

PDF Studioには、PDF/A-2u形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-2uは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-2u形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除される場合があります
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- PDF/A以外の埋め込みファイルと外部ハイパーリンクは削除されます
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF/A-2uに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ>** **PDF / A> PDF / A-2u** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-2u

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-2uの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-2u変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-2u変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-2uに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-2u準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-2u準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-2uへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-2uコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-2uプリフライト検証 ドキュメントがPDF/A-2u標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-3bへの変換

PDF Studioには、PDF/A-3b形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-3bは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-3b形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます。
- フォントが埋め込まれます。
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます。
- JavaScript（主にフォームで使用される）は削除されます。
- 外部ハイパーリンクは削除されます。

PDFをPDF/A-3bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ**> **PDF / A> PDF / A-3b** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-3b

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-3bの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-3b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-3b変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-3bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-3b準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-3b準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-3bへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-3bコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/A-3b飛行前の検証 ドキュメントがPDF/A-3b標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

PDFからPDF/A-3uへの変換

PDF Studioには、PDF/A-3u形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / A-3uは、保存時とまったく同じように常にレンダリングされることを目的として、ドキュメントのアーカイブバージョンを作成するために使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/A-3u形式に変換しようとします。

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。デバイスに依存する色空間が使用されている場合、それらはこれらの色空間のカラープロファイルを埋め込むことによって定義されます。
- フォントはで埋め込まれますUnicodeサポート。
- サポートされていない注釈（ビデオ、オーディオ、3Dなど）は削除されます。
- JavaScript（主にフォームで使用される）は削除されます。
- 外部ハイパーリンクは削除されます。

PDFをPDF/A-3uに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動**[変換]タブ>** **PDF / A> PDF / A-3u** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-3u

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-3uの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/A設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

> *ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。*

PDF / A-3u変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/A-3u変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/A変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / A変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/A-3uに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-3u準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/A-3u準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/A-3uへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/A-3uコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/A」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

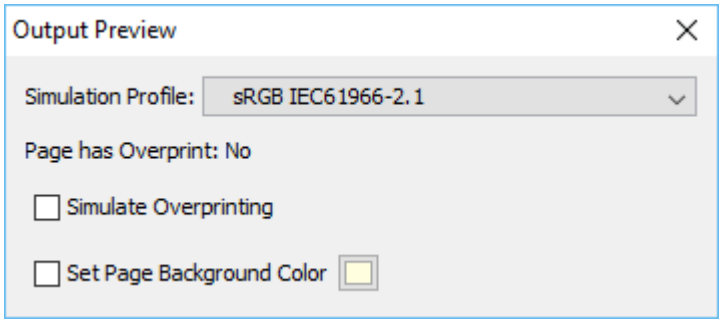
また、使用することができますPDF/A-3uプリフライト検証 ドキュメントがPDF/A-3u標準に準拠していることを確認する

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

出力プレビュー

出力プレビューは、さまざまなICCカラープロファイルに基づいてPDFがどのように見えるかをシミュレートし、印刷されたバージョンがどのように見えるかを正確にプレビューします。ドキュメントをプリンタに送信する場合、インクや印刷方法が異なると、画面に表示される色とわずかに異なる色が生成される可能性があります。出力プレビューで適切なICCカラープロファイルとオプションを選択すると、画面に表示される内容が印刷出力と一致することを確認できます。

> **ノート：***最適なカラーマッチを得るには、モニターも正しく調整する必要があります。モニターの表示設定（色、明るさ、コントラストなど）を変更すると、表示される色が変更され、印刷出力とは異なって表示される場合があります。*



ドキュメント出力のプレビュー方法：

1. PDFStudioでドキュメントを開きます。
2. に移動します**[ドキュメント]タブ>** **出力プレビュー...** メニューバーで。これにより、[出力プレビュー設定]ダイアログが起動します
3. 必要に応じて設定を変更します。変更は表示されたドキュメントにリアルタイムで反映されます
4. ドキュメントの確認が完了したら、ダイアログを閉じて出力プレビューモードを終了します

出力プレビューオプション

シミュレーションプロファイル -ドキュメントでシミュレートするICCプロファイルを選択します。 PDF Studioには、次のデフォルトのICCプロファイルが付属しており、OSにインストールされている追加のプロファイルも表示されます。

- sRGB IEC61966-2.1
- KODAKグレースケール変換-ガンマ1.0
- Qoppaソフトウェアグレープロファイル-ガンマ1.4
- Qoppaソフトウェアグレープロファイル-ガンマ1.8
- Agfa：Swop Standard

ページにオーバープリントがあります -ドキュメントのコンテンツのいずれかにオーバープリントプロパティがあるかどうかを表示します。

> **オーバープリントとは何ですか？** -オーバープリントは、ある色を別の色の上に印刷するプロセスです。カラープレートを使用して色を印刷するような高度な印刷機では、重なり合うレイヤーをブレンドして異なる色を作成します。場合によっては、重複するコンテンツが意図しないカラーブレンディング結果をもたらす可能性があります。オーバープリントプロパティは、これらの高度な印刷シナリオでの色の混合を考慮して、物理的な印刷出力を正確に表すように設計されています。

オーバープリントをシミュレートする -オーバープリント出力での色の混合をシミュレートするには、このボックスをオンにします。

> **ノート：** *ドキュメントにオーバープリントコンテンツが含まれていない場合、変更は表示されません。*

ページの背景色を設定する -ページの背景の色を設定して、さまざまな色の用紙への印刷をシミュレートします。

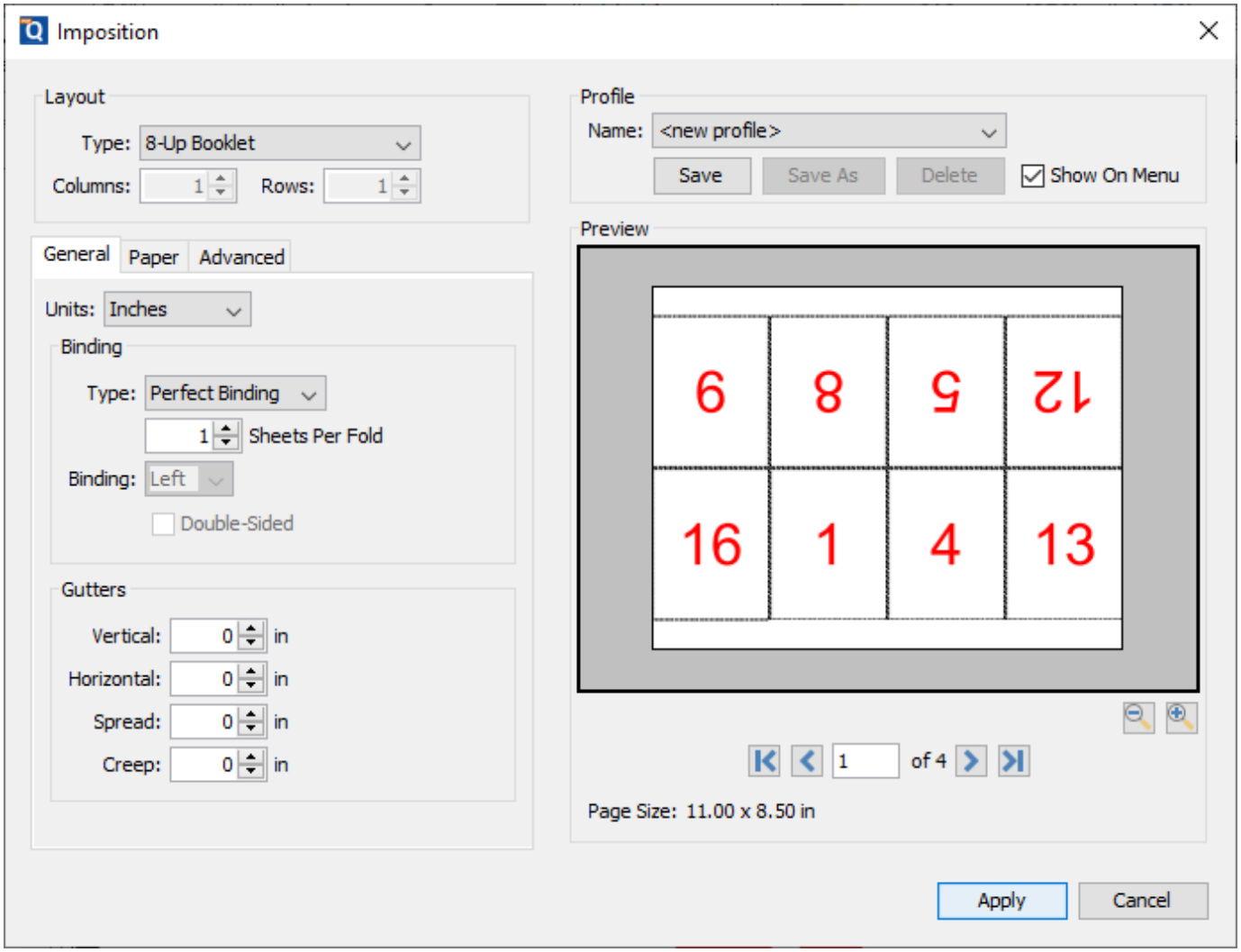
PDF面付け

PDF Studioには、PDF面付けレイアウトをプレビューおよび作成できる新しい高度な面付けモジュールが付属しています。面付けレイアウトは、2、4、および8以上を含む多くの異なる業界標準のレイアウトおよび製本方法を使用して作成できます。 小冊子;スタックをカットします。シーケンシャル、ステップアンドリピート。

面付けとは何ですか？

面付けは、プリプレス印刷プロセスの基本的なステップの1つです。これは、印刷物のページをプリンターのシートに配置することで構成され、より高速な印刷を実現し、製本を簡素化し、紙の無駄を減らします。

正しい面付けは、1枚の用紙あたりのページ数を最大化することで印刷時間を最小限に抑え、印刷時間と材料のコストを削減します。これを実現するには、印刷されたシートを可能な限り完全に埋める必要があります。



PDF面付けツールの起動方法

1. PDFStudioでドキュメントを開きます。
2. に移動します**[ドキュメント]タブ>** **面付け>新しい面付け** ツールバーにあります。これにより、面付け設定が起動します ダイアログ。
3. 必要に応じて設定を変更します。変更は右側のプレビューペインに反映されます
4. ドキュメントの確認が完了したら、[適用]をクリックして、選択した設定を使用して新しいドキュメントを作成します

面付け設定

レイアウト

タイプ -利用可能な面付けレイアウトの選択肢

- 2アップブックレット：1枚のシートに2ページを並べて収まります
- 4アップブックレット：1枚のシートに4ページ（2行と1行あたり2ページ）に収まります
- 8アップブックレット：1枚のシートに8ページ（2行と1行あたり4ページ）に収まります
- スタックのカット：列と行の設定を使用してシートごとにページをフィットさせ、カットした後、各スタックを互いに配置できるようにして、バインドのページ順序を維持します
- シーケンシャル：列と行の設定を使用して、シートごとに複数のページを右から左、上から下に順番にフィットします
- ステップアンドリピート：設定された行と列の数に基づいて、各ページの複数のコピーを別々のシートに作成します

列 -カットスタック、シーケンシャル、ステップアンドリピートの垂直列の数を設定します

行 -カットスタック、シーケンシャル、ステップアンドリピートの水平行数を設定します

プロファイル

名前 -ヘッダーとフッターのプロファイルの名前（作成されている場合）。

セーブ -現在の設定を選択したプロファイルに保存します。新しいプロファイルを作成するには、[<新しいプロファイル>]を選択して[保存]をクリックします。次に、新しいプロファイルの名前を入力します。

名前を付けて保存 -現在の設定のコピーを保存します。これは、現在の設定を現在選択されているプロファイルに保存する[保存]コマンドとは異なります。

削除 -現在選択されているプロファイルを削除します

メニューに表示 -アクセスを高速化するために、この面付け構成を面付けメニューに表示するかどうか。

一般

単位 -面付けの測定単位を選択します

バインディング

タイプ -印刷後にページをどのようにバインドするかを決定します

- 中とじ：雑誌やカタログなど、中央の折り目に沿って各ページをホチキス止めします。
- 製本：シートは「折り目あたりのシート数」で指定されたスタックに分割されます。次に、背表紙の端を各スタックからトリミングし、背表紙に接着剤を塗布して、表紙を背表紙に貼り付けて本を作成します。

折り目あたりのシート -パーフェクトバインディングを使用する場合のスタックあたりのページ数を指定します

バインディング（左/右） -折りたたんだときの小冊子の装丁（折りたたまれた端）を左側にするか右側にするかを決定します

両面 -選択した製本タイプに基づいて、面付けシートごとに表と裏にページが印刷されるようにページを再配置します

側溝

垂直 -ページの各列間のスペース

> **注意**：*8アップページの場合、「スプレッド」値は2番目と3番目の列の間の中央の列に使用されます。*

水平 -ページの各行の間のスペース

展開する -8アップレイアウトにのみ使用されます。これは2列目と3列目の間のスペースです。

忍び寄る -サドルステッチとパーフェクトバウンドレイアウトでの用紙の厚さと折り畳みに対応するために、ページが背表紙から離れる距離を指定します

論文

メディア

メディアの自動サイズ設定 -シートのサイズを変更して、

メディアサイズに合わせる -事前定義された標準サイズのリストからシートサイズを選択したり、シートのカスタムサイズを設定したりできます。

- 縦向き：選択したページの向きのサイズを縦向きに設定します
- 横向き：選択したページサイズの向きを横向きに設定します

> **注意**：*「カスタム」メディアサイズを選択する場合、縦向きと横向きのオプションは使用できません*

幅 -W選択した単位でのページのID

高さ - 高さ選択した単位でのページの

自動回転 -幅と長さがシートに最適になるように、個々のページを回転させます。

オートスケール -用紙に収まるようにページを縮小します。ドキュメント内のページが印刷されている用紙よりも小さい場合は効果がありません。

マージン

上 -上からのマージンの距離

下 -下からのマージンの距離

左 -左からのマージンの距離

正しい -右からのマージンの距離

高度な

プリンターマーク

トリムマーク -ページをトリミングする場所を定義する水平および垂直のマーク。

ブリードマーク -ページにブリードクロップボックスを表示します。ドキュメントにページの端に触れる画像または要素があり、トリムの端を超えて伸び、白い余白がない場合に便利です。

登録マーク -ドキュメント内のページと色分解を揃えるためのページ領域外の小さなターゲット。

ページ情報 -左上隅のシートに、ドキュメント名、ページ番号、日付と時刻のラベルを付けます。

大声で読み上げる-テキスト読み上げ（TTS）

Read Out Loudは、テキスト読み上げ（TTS）ツールです。障害を持つユーザーを支援するために、ドキュメントのテキストを読み上げます。

ノート：テキストコンテンツを含むドキュメントのみを読み上げることができます。スキャンされた画像を含むドキュメントの場合、最初にを実行する必要がありますOCRツール。

読み上げツールの開始方法

読み上げモードは、使用する前に最初にアクティブにする必要があります。 Read Out Loudをアクティブ化/非アクティブ化するには、以下のいずれかの方法を使用します。

ツールバーの使用

- に移動**[表示]タブ** をクリックします**大声で読み上げる**

キーボードショートカット

- **Ctrl + Shift + V**：読み上げモードを切り替えます（アクティブ化/非アクティブ化）

読み上げを使用する

有効にすると、次のオプションを読み上げに使用できます。

ツールバー

読み上げた大音量のツールバーが以下の機能で表示されます。

- **遊ぶ**：現在のページを読み始めます
- **一時停止**：現在の場所で読書を一時停止します
- **止まる**：読み取りを停止し、ページの最初にリセットします
- **スピード**：スライダーを使用して、TTSエンジンの読み取り速度を設定します
- **次のページに進む**：選択すると、TTSエンジンは、ドキュメントの最後に到達するまで次のページを読み続けます

キーボードショートカット

- **Ctrl + Shift + V**：読み上げを大音量で切り替えます（アクティブ化/非アクティブ化）
- **Ctrl + Shift + W**：現在のページを読む

- **Ctrl + Shift + Z**：現在のページからドキュメントの最後まで読む
- **Ctrl + J**：一時停止/再開
- **Ctrl + K**： 止まる

PDFアクセシビリティとは

PDFアクセシビリティ（通常、「ユーザーアクセシビリティ」を表すPDF / UAまたはADAは「障害を持つアメリカ人法」を表す）とは、PDFドキュメントに、障害、失明、障害などの障害を持つ人々がアクセスしやすくする機能が含まれていることを意味します。低視力。

PDF / UA

PDF / UAは、アクセシブルなPDFテクノロジーの国際規格であるISO14289の非公式な名前です。 PDF書き込みおよび処理ソフトウェアを実装する開発者を対象とした技術仕様であるPDF / UAは、PDFドキュメントおよびアプリケーションでのアクセシビリティに関する明確な用語と要件を提供します。適切なソフトウェアを備えている人は、PDF / UAに準拠することで、スクリーンリーダー、画面拡大鏡、ジョイスティック、その他の技術を使用して電子コンテンツをナビゲートおよび読み取る障害者のアクセシビリティが確保されます。

-ウィキペディア：PDF / UA

ADAコンプライアンス

ADAコンプライアンスとは、企業や組織が視覚的および聴覚的に障害のある人を含む障害のある人が教育を受けられるようにするためにあらゆる努力を払うというアメリカ障害者法の要件を指します。

フォーマットの詳細

PDF / UAおよびADAコンプライアンスは、別個のファイル形式ではありませんが、代わりに、Adobe Systemsによって発明されたPDF形式と機能を使用して、すべてのユーザーがドキュメントにアクセスできるようにします。

PDF / UAまたはADA準拠のPDFの機能には次のものがあります。

- 検索可能なテキスト
- 9ページを超えるドキュメントのブックマーク
- ドキュメントタグ
- 視覚障害者に画像を説明するために使用される代替テキスト
- テーブル内の論理的な読み取り順序（左から右）
- 背景画像や透かしはありません
- ページ間で分割されないテーブル行
- ドキュメントのタイトル
- ツールチップ（説明）を含むフォームフィールド

PDFStudioでのアクセシビリティ

PDF Studioに組み込まれているこれらの機能や設定により、ユーザーはPDFドキュメントを読みやすくなります。

- アクセシビリティ表示設定 -ドキュメントの色を変更してコントラストを高め、読みやすくするための追加オプション
- 色反転モード -ドキュメントとテキストの色を反転してコントラストを高め、読みやすくします
- ズーミング -コンテンツを見やすくするために、表示時にドキュメントのサイズを大きくします
- パンとズームツール -ドキュメント内で現在表示されている領域を強調表示するウィンドウを表示します
- ルーペツール -PDFを拡大して拡大表示するドラッグ可能な長方形
- キーボードショートカット -メニューやツールバーなしでアプリケーションツールを起動するためのキーボードホットキー
- フォームフィールドを強調表示 -フォーム内のすべてのフィールドを強調表示して、見つけやすくします
- レイアウトと倍率の設定 -アプリケーション内で開かれたドキュメントのデフォルトビューを設定します
- ナビゲーションツール -ブックマーク、ページサムネイル、キーボードショートカットを使用して、ドキュメントを簡単にナビゲートします

オペレーティングシステムのアクセシビリティツール

Windowsのアクセシビリティツール

Windowsオペレーティングシステムには、コンピューター画面上の情報へのアクセスを増加または代替するツールが組み込まれています。ナレーターは、スクリーンリーダーのライトバージョンです。拡大鏡は画面拡大ツールです。

Windowsのユーザー補助ツールの詳細については、マイクロソフトのアクセシビリティ ウェブサイト。

MacOSのアクセシビリティツール

macOSには、コンピューター画面上の情報へのアクセスを増やす、または代替するツールが組み込まれています。

Macオペレーティングシステムのアクセシビリティツールの詳細については、を参照してください。アップルのアクセシビリティ ウェブサイト。

Linuxのアクセシビリティツール

アクセシビリティツールは、すべてのLinuxディストリビューションで利用できるわけではありません。利用可能なものの詳細については、Linuxバージョンのドキュメントを確認してください。

以下は、アクセシビリティツールを備えた既知のLinuxディストリビューションです。

- Debianのアクセシビリティ
- Fedoraのアクセシビリティ
- Ubuntuのアクセシビリティ
- ArchLinuxのアクセシビリティ

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

アクセシビリティ読み取り機能

PDF Studioに組み込まれているこれらの機能や設定により、ユーザーはPDFドキュメントを読みやすくなります。

- アクセシビリティ設定 -ドキュメントの色を変更してコントラストを高め、読みやすくするための追加オプション
- 色反転モード -ドキュメントとテキストの色を反転してコントラストを高め、読みやすくします
- ズーミング -コンテンツを見やすくするために、表示時にドキュメントのサイズを大きくします
- パンとズームツール -ドキュメント内で現在表示されている領域を強調表示するウィンドウを表示します
- ルーペツール -PDFを拡大して拡大表示するドラッグ可能な長方形
- キーボードショートカット -メニューやツールバーなしでアプリケーションツールを起動するためのキーボードホットキー
- フォームフィールドを強調表示 -フォーム内のすべてのフィールドを強調表示して、見つけやすくします
- レイアウトと倍率の設定 -アプリケーション内で開かれたドキュメントのデフォルトビューを設定します
- ナビゲーションツール -ブックマーク、ページサムネイル、キーボードショートカットを使用して、ドキュメントを簡単にナビゲートします
- 自動スクロール -ドキュメントを自動的にスクロールします
- 大声で読み上げる-テキスト読み上げ（TTS） -障害を持つユーザーを支援するために、ドキュメントのテキストを読み上げます。

アクセシビリティ設定

[一般設定]セクションには、PDFStudioのすべてのユーザー補助設定が含まれています。

[一般設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>アクセシビリティ**
2. 選択する**一般** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

ドキュメントの色を置き換える：使用するユーザー補助オプションを有効にするには、このオプションを選択します。

高コントラストの色を使用する：高コントラストの色の組み合わせの事前定義されたリストから選択します

カスタムカラー：ページの背景とテキストの色に独自の色の組み合わせを設定します

- **Page背景**：表示される背景の色
- **テキストの色**：コンテンツ、注釈、フォームフィールドを含むドキュメント内のすべてのテキストの色

黒のテキストまたは線画の色のみを変更します：チェックすると、現在黒に設定されていないテキストや線画は無視されます

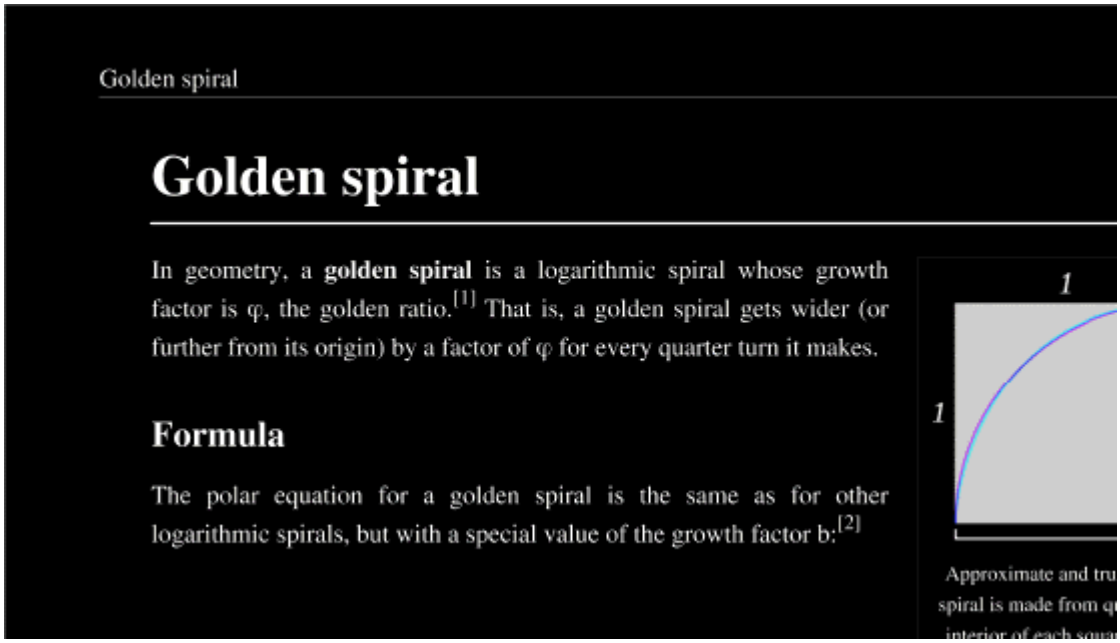
テキストだけでなく線画の色も変更する：チェックすると、上記で指定したテキストの色を使用して、ドキュメント内のパスまたは行の内容も色付けします

色を反転する

を選択してPDFドキュメントをレンダリングするときに色を反転しますタブを表示> **色を反転する** メニューから。

一般的なドキュメントの場合、表示は「白地に黒」から「黒地に白」に変わります。色を反転すると、特に暗い部屋、飛行機、または夜間で作業しているときに、小さな画面で物事がはるかに読みやすくなります。 このモードは、すべてのドキュメントまたは現在開いているドキュメントの色を[表示]メニューから反転する設定として使用できます。

色の反転が有効になっているドキュメントの例：



ズーミング

ドキュメントを表示する場合、ドキュメントをズームイン/ズームアウトする方法はいくつかあります。

マウスの使用

マウスを使用してドキュメントをズームインまたはズームアウトするには、Ctrlキー（Macの場合はAlt）を押しながらマウスホイールを上にスクロールしてズームインし、下にスクロールしてズームアウトします。

キーボードの使用

キーボードを使用して、ショートカットキーを使用してドキュメントをすばやく拡大することもできます。次のショートカットを使用できます。

実際のサイズにズーム	Ctrl + 1	⌘+1
ページに合わせてズーム	Ctrl + 0	⌘+0
幅に合わせてズーム	Ctrl + 2	⌘+2
ズームイン	Ctrl + Plus	Alt + Plus
ズームアウトする	Ctrl+マイナス	Alt+マイナス

ズームツールの使用

ズームツールは下部のツールバーにあり、ドキュメントをズームするために使用できます。

ズームアウトする： ズームアウトしてコンテンツを小さく表示します。

ズーム先/現在のズーム： 現在のズーム値を表示します。プリセットのズーム率を選択するか、カスタムズーム値のフィールドに入力することもできます。

ズームイン： ズームインしてコンテンツを拡大表示します。

ズームツール： ページ内の選択した領域にズームします。クリックしてドラッグし、ズームする長方形の領域を選択します。

- Ctrlキーを押したままにして、ズームツールがアクティブなときにズームアウトします。

ルーペツール： PDFを拡大して細部を表示するズームウィンドウを表示します。

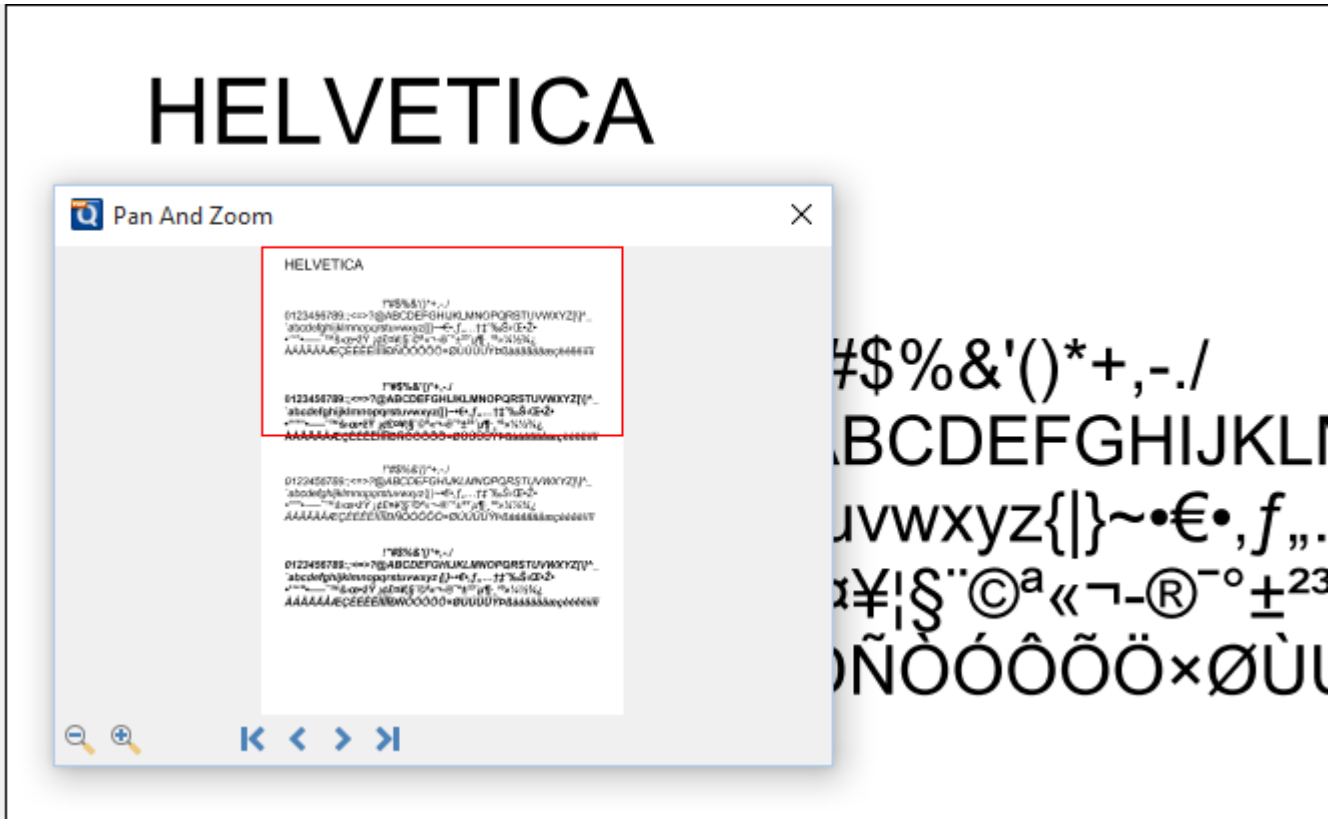
パンとズーム： 現在画面に表示されているページの一部を表示するウィンドウ。赤いボックスをドラッグして、ドキュメントの表示を調整します。

パンとズームツール

パンとズームツールは、現在画面に表示されているページの部分を示す2番目のウィンドウが表示されます。赤いボックスをドラッグして、ドキュメントの表示を調整します。

指示：

1. に移動**[表示]タブ** およびcパンとズームツールをなめる ツールバーのボタン。次に、2番目のウィンドウが表示されます 現在画面に表示されているページの一部を表示します。
2. ドキュメントの表示を調整するには、赤いボックスをドラッグするか、パンおよびズームウィンドウのナビゲーションツールとズームツールを使用します
3. ツールを閉じるのが終わったら、拡大ウィンドウの「x」をクリックするか、キーボードのEscを押します。

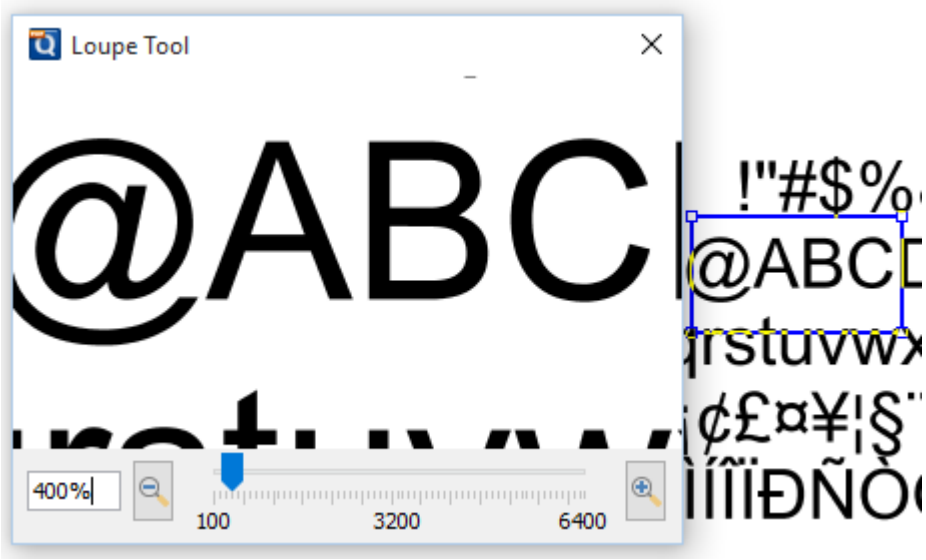


ルーペツール

ルーペツールはドラッグ可能な長方形で、PDFを拡大して細部を表示します。アクティブになると、拡大している現在のコンテンツを示す2番目のウィンドウが表示されます。

指示：

1. に移動**[表示]タブ** およびcルーペツールをなめる ツールバーのボタン
2. 拡大したいページの部分をクリックします。拡大ウィンドウが表示されます。
3. ツールを使用するときに倍率のレベルを変更するには、青いズーム領域の隅にあるハンドルまたは拡大ウィンドウのスライダーを使用します
4. ツールを閉じるのが終わったら、拡大ウィンドウの「x」をクリックするか、キーボードのEscを押します。



キーボードショートカット

各機能のショートカットキーは、ツールバーのアイコンにカーソルを合わせると、アプリケーションに表示されます。関数名とショートカットキーがツールチップに表示されます。

一般的なショートカット

アクション	Windows / Linux	マック
新しいドキュメント	Ctrl + N	⌘+N
開ける	Ctrl + O	⌘+O
保存	Ctrl + S	⌘+S
名前を付けて保存	Ctrl + Shift + S	⌘+シフト+S
近い	Ctrl + W	⌘+W
元に戻す/リロード	Ctrl + Shift + G	⌘+シフト+G
印刷	Ctrl + P	⌘+P
出口	Ctrl + Q	⌘+Q
元に戻す	Ctrl + Z	⌘+Z
やり直し	Ctrl + Y	⌘+シフト+Z
ファイルパスを表示	該当なし	⌘またはCtrlキーを押しながらウィンドウタイトルをクリックします
環境設定を開く	Ctrl + K	⌘+K

ドキュメントのショートカット

アクション	Windows / Linux	マック
ブックマークを作成する	Ctrl + B	⌘+B
空白のページを追加	Ctrl + Shift + B	⌘+シフト+B
クイック検索	Ctrl + F	⌘+F
高度な検索	Ctrl + Shift + F	⌘+シフト+F
ページを回転する	Ctrl + Shift + R	⌘+シフト+R
ページを切り抜く	Ctrl + Shift + C	⌘+シフト+C
ドキュメントのプロパティ	Ctrl + D	⌘+D
プリフライト	Ctrl + Shift + X	⌘+シフト+X
最適化	Ctrl + Shift + O	⌘+シフト+O

ナビゲーション/ビューのショートカット

アクション	Windows / Linux	マック
先頭ページ	家	家

最後のページ	終わり	終わり
次のページ	PgDnまたはスペース	PgDnまたはスペース
前のページ	PgUpまたはShift+Space	PgUpまたはShift+Space
ページに移動	Ctrl + Shift + P	⌘+シフト+P
下へスクロール	スペースまたは↓	スペースまたは↓
スクロールアップする	↑	↑
次のビュー	Alt+→	⌘+[
前のビュー	Alt+←	⌘+]
時計回りに回転します	Ctrl +Shift+→	⌘+シフト+→
反時計回りに回転します	Ctrl +Shift+←	⌘+シフト+←
実際のサイズにズーム	Ctrl + 1	⌘+1
ページに合わせてズーム	Ctrl + 0	⌘+0
幅に合わせてズーム	Ctrl + 2	⌘+2
ズームイン	Ctrl+PlusまたはCtrl+マウスホイールを上に移動	Cmd+PlusまたはAlt+マウスホイールアップ
ズームアウトする	Ctrl+マイナスまたはCtrl+マウスホイールダウン	Cmd+マイナスまたはAlt+マウスホイールダウン
ズームツール	Ctrl+スペースバー-ズームイン Ctrl +Alt+スペースバー-ズームアウト	スペースバー+コマンド-ズームイン スペースバー+コマンド+オプション-ズームアウト
カスケードウィンドウ	Ctrl + Shift + J	⌘+シフト+J
タイル：Windowsを水平方向に	Ctrl + Shift + K	⌘+シフト+K
タイル：Windows垂直	Ctrl + Shift + L	⌘+シフト+L
フォームエディタの開始/終了	Ctrl + Shift + M	⌘+シフト+M
私のコメントペイン	Ctrl + Shift + T	⌘+シフト+T
読書モード	Ctrl + H	⌘+Ctrl+ H
フルスクリーンモード	Ctrl + L	⌘+L
並べて比較する	Ctrl + Shift + N	⌘+シフト+N
自動スクロール	Ctrl + Shift + H	⌘+シフト+H
自動スクロール方向を逆にする	-マイナスキー	-マイナスキー
自動スクロール速度	0-9（0が最も遅い| 9が最も速い）	0-9（0が最も遅い| 9が最も速い）
ルーラー（表示/非表示）	Ctrl + R	Ctrl + R
読み上げを大音量で切り替えます（アクティブ化/非アクティブ化）	Ctrl + Shift + V	Ctrl + Shift + V
大声で現在のページを読み上げる	Ctrl + Shift + W	Ctrl + Shift + W
現在のページからドキュメントの最後まで読む	Ctrl + Shift + Z	Ctrl + Shift + Z
読み上げを一時停止/再開	Ctrl + J	Ctrl + J
大声で読み上げるのをやめる	Ctrl + K	Ctrl + K

ツールの選択/編集

ツール/アクション	Windows / Linux	マック
ハンドツール	EscまたはHoldスペースバー	EscまたはHoldスペースバー
テキストカーソルを選択	Ctrl + T	⌘+T
長方形のテキスト選択	Ctrl+カーソルをドラッグ	Cmd+ドラッグカーソル
インタラクティブオブジェクトの編集	Ctrl + I	⌘+私
コンテンツを編集する	Ctrl + Shift + E	⌘+シフト+E
墨消しツール	Ctrl + Shift + Y	⌘+シフト+Y
すべてのテキストを選択	Ctrl + A	⌘+A
すべてのテキストの選択を解除	Ctrl + Shift + A	⌘+シフト+A
すべてのフォームフィールドをフラット化	Ctrl + Shift + D	⌘+シフト+D
スナップショットツール	Ctrl + G	⌘+G

注釈のショートカット

注釈	Windows / Linux	マック
領域	Ctrl + Alt + E	⌘+Alt+ E
エリア蛍光ペン	Ctrl + Alt + I	⌘+Alt+ I
矢印	Ctrl + Alt + A	⌘+Alt+ A
ファイルを添付する	Ctrl + Alt + F	⌘+Alt+ F
叫ぶ	Ctrl + Alt + V	⌘+Alt+ V
サークル	Ctrl + Alt + C	⌘+Alt+ C
クラウド	Ctrl + Alt + B	⌘+Alt+ B
テキストを消す	Ctrl + Alt + O	⌘+Alt+ O
距離	Ctrl + Alt + M	⌘+Alt+ M
テキストボックス	Ctrl + Alt + T / Ctrl + Alt + Shift + T	⌘+Alt+ T
ハイライトテキスト	Ctrl + Alt + H	⌘+Alt+ Shift + H
画像を挿入	Ctrl + Shift + I	⌘+シフト+I
テキストを挿入	Ctrl + Alt + X	⌘+Alt+ X
ライン	Ctrl + Alt + L / Ctrl + Alt + Shift + L	⌘+Alt+ L
鉛筆	Ctrl + Alt + P	⌘+Alt+ P
リンク	Ctrl + Alt + K	⌘+Alt+ K
周囲	Ctrl + Alt + R	⌘+Alt+ R
ポリゴン	Ctrl + Alt + G	⌘+Alt+ G
ポリライン	Ctrl + Alt + Y	⌘+Alt+ Y
テキストを置き換える	Ctrl + Alt + Z	⌘+Alt+ Z
音	Ctrl + Alt + S / Ctrl + Alt + Shift + S	⌘+Alt+ S
四角	Ctrl + Alt + Q	⌘+Alt+ Shift + R
波線の下線	Ctrl + Alt + J	⌘+Alt+ J

付箋	Ctrl + Alt + N	⌘+Alt+ N
下線テキスト	Ctrl + Alt + U	⌘+Alt+ U
タイプライター	Ctrl + Alt + W	⌘+Alt+ W

テキスト注釈のショートカット

これらは、タイプライター、コールアウト、およびテキストボックスの注釈でテキストを編集する場合にのみ使用されます。

アクション	Windows / Linux	マック
大胆な	Ctrl + B	⌘+B
イタリック	Ctrl + I	⌘+私
下線を引く	Ctrl + U	⌘+U
フォントサイズを大きくする	Ctrl + Shift +>	⌘+シフト+>
フォントサイズを小さくする	Ctrl + Shift + <	⌘+シフト+<
左揃え	Ctrl + L	⌘+L
センターアライン	Ctrl + E	⌘+E
右揃え	Ctrl + R	⌘+R

コンテンツ編集のショートカット

これらは、PDFのコンテンツを編集する場合にのみ使用されます。

アクション	Windows / Linux	マック
前に持ってくる	Ctrl +Shift+↑	⌘+シフト+↑
最背面へ	Ctrl +Shift+↓	⌘+シフト+↓
転送する	Ctrl+↑	⌘+↑
後方に送信	Ctrl+↓	⌘+↓

フォームフィールドの強調表示

PDF Studioは、フォーム内のすべてのフィールドを強調表示できるため、簡単に見つけることができます。強調表示すると、明るい色のボックスがドキュメント内の各フィールドに配置されます。このオプションはデフォルトで有効になっていますが、を実行することでオフまたはオンに戻すことができます。 以下。

> **注意**：*非表示のフィールドはドキュメントで強調表示されません。非表示のフィールドを表示するには、次の場所にいる必要がありますPDFフォームの作成 モード。*

フォームフィールドの強調表示を有効にする方法

ページ上のフィールドを強調表示する方法は2つあります。

- 選択する**タブを表示>** **フィールドを強調表示** メニューから。同じ手順で、フィールドのハイライトをオフに切り替えます。
- 選択する**[フォーム]タブ>** **フィールドを強調表示** メニューから。同じ手順で、フィールドのハイライトをオフに切り替えます。

表示設定

[表示設定]セクションには、PDFStudioのすべての表示設定が含まれています。

[表示設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**画面** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

ルックアンドフィール -PDF Studioのルックアンドフィール（テーマ）を変更します。再起動を適用する必要があります。

テーマ

- 自動:(デフォルト）OSで設定されたテーマに一致するように明るい色または暗い色のテーマを設定します
- ライト：モダンなライトスタイルのフラットユーザーインターフェイス
- ダーク：モダンなダークスタイルのフラットユーザーインターフェイス

アイコンの色

- カラー：フルカラーのモダンなフラットアイコン
- モノクロ：グレースケールのモダンなフラットアイコン、ダークモードに適しています

フルスクリーンの外観

- 背景：PDFStudioがドキュメントを表示しているときに使用されるオプションを設定します
  フルスクリーンモード

レイアウトと倍率 -ドキュメントを表示するためのレイアウトと倍率のデフォルトを設定します。

デフォルトでは、PDF Studioは、ドキュメント内で設定された初期ビュー設定を使用して、ドキュメントを開くときに左側のパネルを表示します。 PDFドキュメントの初期表示設定で設定が設定されていない場合、デフォルトで[ページ]パネルが開きます。いずれかのオプションで[ドキュメント設定を無視]を選択すると、PDF Studioはドキュメントの設定を無視し、選択したオプションを使用します。

ナビゲーションタブ- PDFドキュメントを開くときのナビゲーションタブのデフォルトの動作を設定します。

- デフォルト：PDFStudioのデフォルト設定を使用します
- なし（ドキュメントのみ）：ナビゲーションタブは表示されません
- ブックマークパネル：ドキュメントを開いたときにブックマークパネルを表示します
- ページパネル：ドキュメントを開いたときにページパネルを表示します

・ 添付ファイルパネル：ドキュメントを開いたときに添付ファイルパネルを表示します

ページレイアウト - PDFドキュメントを開くときのページレイアウトのデフォルトの動作を設定します。

・ デフォルト：PDFStudioのデフォルト設定を使用します
・ シングル：一度に1つの個別のページのみを表示します
・ 単一連続：連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します
・ 見開き：一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
・ 連続向き：すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
・ 表紙：見開きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます
・ Cover Continuous：Facing Continuousを使用する場合と同じようにドキュメントを表示し、最初のページのみが単独で表示されます

倍率- PDFドキュメントを開くときに使用するデフォルトの倍率を設定します。

・ デフォルト：PDFStudioのデフォルト設定を使用します
・ 実際：スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致する1：1の比率でドキュメントを表示します
・ ページに合わせる：PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します
・ 幅に合わせる：PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します
・ %：指定した数値にズームを設定します

最後のページを復元- 有効にすると、PDF Studioは、同じPDFを再度開いたときに表示された最後のページに再度開きます。

> **ノート：** 「デフォルト」および「なし（ドキュメントのみ）」オプションは、PDF内で設定された初期ビュー設定を使用します。他のオプションが選択されている場合は、PDFドキュメントの初期表示設定内の設定の代わりにPDFStudio設定が使用されます。

色を反転 -PDFStudioを常にデフォルトに設定します色反転モード。

バインディング -左側または右側のバインディングでPDFファイルを表示するかどうかを指定します。この設定は、見開きページのページの表示に影響します-連続レイアウトとサムネイルの横並びの表示。

ドキュメントの解決 -PDFを表示するときに使用する解像度を設定します。これは、画面に表示されているときのドキュメントのサイズにのみ影響します。理想的には、ズームが100%に設定されたときに、印刷されたドキュメントと同じサイズになるような値に設定する必要があります。

・ システム設定：システムによって設定された解像度を使用します。
・ カスタム解像度：使用するカスタム解像度を設定できます。

- デフォルトでは、PDF Studioは、100%ズームでPDFサイズを最も正確に表示する解像度値を設定します。カスタム値が変更された場合は、「リセット」ボタンを使用して、PDFStudioで計算されたデフォルトを復元します。

レンダリング：ドキュメントコンテンツ表示のオプション

- 細い線を強調する：すべての線を1pxの最小幅に変換します

ナビゲート

PDF Studioには、PDFドキュメントをナビゲートするために使用できるさまざまな方法があります。

マウスの使用

PDFドキュメント内を移動するための主な方法は、マウスを使用することです。 PDF Studioは、すべての標準マウスと互換性があり、マウスに通常見られる2つのボタンとスクロールホイールを使用して次のアクションをサポートします。

> *ノート： Macでは、ボタンが1つだけのマウスを使用している場合は、Ctrlキーを押しながらマウスボタンをクリックして右クリックできます。*

マウスの左ボタン

- クリックしてアイテムを選択
- 押し続けるとアイテムをドラッグします

スクロールホイール

- ドキュメント内のページをスクロールします

マウスの右ボタン

- 追加オプション付きのコンテキストメニューを表示します

ページのパン/移動

手工具で 選択したクリックアンドドラッグでページの任意の場所に移動し、ドキュメントをパンします

マウスのスクロールホイールを使用して、ドキュメントを上下に移動できます

垂直スクロールバーと水平スクロールバーを使用して、スクロールバーをクリックしてドラッグすることでドキュメントをパンすることもできます。

キーボードの使用

キーボードを使用して、ショートカットキーを使用してドキュメントをすばやくナビゲートすることもできます。次のショートカットを使用できます。

アクション	Windows / UNIX	マック
先頭ページ	家	家
最後のページ	終わり	終わり
次のページ	PgDnまたはスペース	PgDnまたはスペース
前のページ	PgUpまたはShift+Space	PgUpまたはShift+Space
ページに移動	Ctrl + Shift + P	⌘+シフト+P
下へスクロール	スペースまたは↓	スペースまたは↓
スクロールアップする	↑	↑
次のビュー	Alt+→	⌘+[
前のビュー	Alt+←	⌘+]

ナビゲーションツールの使用

ナビゲーションツールは下部のツールバーにあり、ドキュメントをナビゲートするために使用できます。

先頭ページ： ドキュメントの最初のページに移動します。

前のページ： ドキュメントの前のページに移動します。

1 of 12 **ページ番号：** 現在表示されているページと総ページ数を表示します。フィールドに数字を入力し、「Enter」を押してそのページに直接移動します。を使用したドキュメントページラベル 正確なページラベルを入力する必要があります（つまり、iv、vなど）。

次のページ： ドキュメントの次のページに移動します。

最後のページ： ドキュメントの最後のページに移動します。

前のビュー： ドキュメント内の最後のビューに移動します。

次のビュー： ドキュメント内の次のビューに移動します。

ページサムネイルの使用

ページのサムネイルは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます 画面左側のページボタン

ページのサムネイルには、ドキュメント内のすべてのページのミニチュアバージョンが表示されます。

・ サムネイルをクリックして、そのページに直接移動します。

・ 左←と右を使用します→前のページと次のページに移動するための矢印キー

ブックマークの使用

ブックマークペインは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます 画面左側のブックマークボタン。

ブックマークの使用は、多くのページを含む大きなPDFをナビゲートするときに役立ちます。多くの場合、ブックマークは、ドキュメント内の章またはセクションにラベルを付けるために配置されます。ブックマークをクリックして、ドキュメント内のその場所に直接ジャンプします。

ノート：*次のアイコン* *宛先のない無効なブックマークを示します。*

宛先の使用

宛先ペインは、PDFStudioウィンドウの左側にあります。表示されていない場合は、を使用してペインを開くことができます 画面左側の宛先ボタン。

宛先の使用は、多くのページを含む大きなPDFをナビゲートするときに役立ちます。宛先は、ドキュメント内の特定の場所またはセクションにラベルを付けるために配置された追加のナビゲーションツールです。宛先名をクリックして、ドキュメント内のその場所に直接ジャンプします。

ドキュメントの自動スクロール

PDF Studioの自動スクロール機能を使用すると、キーストロークを押さなくてもページをスクロールできます。これは、障害のある人に役立つだけでなく、長いPDFをスクロールして必要な情報を簡単に見つけることができます。

自動スクロールの使用方法

以下のショートカットキーを使用してください

- 使用する**Ctrl + Shift + H** （（**コマンド+シフト+H** Macの場合）自動スクロールを開始および停止します
- マイナスキー「-」はスクロール方向を逆にします
- 数字キー0〜9は、スクロール速度を制御します（0が最も遅い、9が最も速い）
- 下にスクロールしている間（通常の読み取り方向）、下矢印はスクロール速度を上げ、上矢印は下がります。
- 上にスクロールしている間、矢印の速度制御が逆になり、予想される動作に一致します。
- 左矢印キーと右矢印キーを使用して、次または前のページにジャンプします

大声で読み上げる-テキスト読み上げ（TTS）

Read Out Loudは、読み上げを行うText-to-Speech（TTS）ツールです。 障害を持つユーザーを支援するために、ドキュメントのテキストを大声で出力します。この機能はでのみ利用可能です**英語** 現時点では。

ノート：*テキストコンテンツを含むドキュメントのみを読み上げることができます。スキャンしたドキュメント画像の場合、最初にテキストを追加する必要がありますOCRツール。*

読み上げツールの開始方法

読み上げモードは、使用する前に最初にアクティブにする必要があります。 Read Out Loudをアクティブ化/非アクティブ化するには、以下のいずれかの方法を使用します。

ツールバーの使用

- に移動**[表示]タブ** をクリックします**大声で読み上げる**

キーボードショートカット

- Ctrl + Shift + V：読み上げモードを切り替えます（アクティブ化/非アクティブ化）

読み上げを使用する

有効にすると、次のオプションを読み上げに使用できます。

ツールバー

読み上げた大音量のツールバーが以下の機能で表示されます。

- **遊ぶ**：現在のページを読み始めます
- **一時停止**：現在の場所で読書を一時停止します
- **止まる**：読み取りを停止し、ページの最初にリセットします
- **スピード**：スライダーを使用して、TTSエンジンの読み取り速度を設定します
- **次のページに進む**：選択すると、TTSエンジンは、ドキュメントの最後に到達するまで次のページを読み続けます

キーボードショートカット

- **Ctrl + Shift + W**：現在のページを読む

- **Ctrl + Shift + Z**：現在のページからドキュメントの最後まで読む
- **Ctrl + J**：一時停止/再開
- **Ctrl + K**： 止まる

アクセシブルなPDFの作成

これらの機能を使用すると、スクリーンリーダーやその他の支援デバイスなどの他のアプリケーションと互換性のある、よりアクセスしやすいPDFを作成できます。

- PDF / UA検証Pro -ドキュメントをPDF / UA（PDFユーザーアクセシビリティ）標準に照らしてチェックします
- PDFドキュメントタグ -ドキュメントタグの作成/編集Pro
  - ドキュメントにタグが付いているかどうかを確認します -ドキュメントがタグ付きとしてマークされているか、タグが含まれているかどうかを確認する方法
  - タグ冒険者 パネル -ドキュメントのタグツリー構造を表示しますPro
  - ドキュメントタグを作成する -新しいドキュメントレベルタグを作成しますPro
  - コンテンツタグを作成する -既存のドキュメントコンテンツからタグを作成しますPro
  - タグを編集する -ドキュメント内の既存のタグを編集しますPro
  - 代替テキストを設定する -図、図形、またはその他の言語の代替テキストを設定しますPro
  - 標準のPDFタグタイプ -PDF仕様で定義されている標準タグタイプのリスト
- ブックマーク作成/編集 -ブックマークを作成/編集して、ユーザーがドキュメントをナビゲートできるようにします
- OCR PDFPro -検索可能でスクリーンリーダーで読むことができるテキストをドキュメントに追加します
- フィールドタブの順序を設定するPro -ユーザーがドキュメントをタブで移動しているときに次に表示されるフィールドを指定して、入力を簡単にします
- フォームフィールドのツールチップPro -フォームの記入に関する追加情報を含むフィールドの説明を設定します
- 一般的なドキュメントのプロパティ -スクリーンリーダーのタイトル、作成者、キーワードなどのプロパティを設定します
- ドキュメントの初期ビュー -開いたときにドキュメントが最初に表示される方法を設定します
- 高度なドキュメントプロパティ -ユーザーのアクセシビリティのニーズに合わせて、バインディングや言語などの読み取りオプションを設定します

PDF / UA検証

PDF Studioは、PDF / UA（PDFユーザーアクセシビリティ）のプリフライトとコンプライアンス検証を提供します。検証が完了すると、結果を確認したり、ドキュメントに追加したり、必要に応じてエクスポートしたりできます。見るPDFアクセシビリティとは 詳細については。

PDF / UAコンプライアンスを検証する方法

1. 確認するドキュメントを開きます
2. 選択する**[ドキュメント]タブ>** **プリフライト** またはショートカットキーを使用します Ctrl + Shift + X（Mac：⌘+ Shift + X）を押して、[プリフライト]ダイアログを表示します。
3. 検証する規格を選択します。
4. クリック**確認** 検証プロセスを開始するには

飛行前の検証結果

結果リスト -選択したプロファイルに準拠していないドキュメントのコンテンツと、それを修正できるかどうかの詳細プリフライト変換。

-準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテムプリフライト変換。

展開 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

プリフライト結果オプション

注釈とレポート

検証が完了したら、次のオプションを使用して、コメントを追加したり、結果をドキュメントに追加したりできます。使用する結果オプションを選択し、[適用]をクリックして選択したオプションを追加します。

- **プリフライトエラーのコメントを追加** -チェックすると、注釈コメントにエラーの詳細を含む各プリフライトエラーの注釈が追加されます
- **レポートを含める** -テストされたドキュメントにプリフライト結果レポートを追加/追加するかどうかを選択します。

書き出す

プリフライトの結果は、さまざまな形式にエクスポートできます。これを行うには、結果リストの上部にあるエクスポートボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- すべての飛行前レポート情報を含む単純なテキストファイル（.txt）
- **XML**- すべてのプリフライトレポート情報を含むExcelファイルに類似したファイル形式
- **PDF**- プリフライト結果を含む新しいPDFドキュメントを作成します

印刷

飛行前の結果は、必要に応じて印刷できます。これを行うには、結果リストの上部にある印刷ボタンをクリックします。次に、次のいずれかのオプションから選択します。

- **テキスト**- プリフライト結果のプレーンテキストリスト
- **木** - プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

PDFドキュメントタグ

PDF形式は、PDFに適用できるタグタイプの標準セットを定義します。これらの標準タイプは、スクリーンリーダーなどのアクセシビリティソフトウェアがドキュメント構造を理解して、ユーザーに理解しやすい形で情報を提示できるように設計されています。 仕方。

PDFStudioのタグ付け機能：

ドキュメントにタグが付いているかどうかを確認します -ドキュメントがタグ付きとしてマークされているか、タグが含まれているかどうかを確認する方法

タグパネルエクスプローラー -ドキュメントのタグツリー構造を表示します

ドキュメントタグを作成する -新しいドキュメントレベルタグを作成します

コンテンツタグを作成する -既存のドキュメントコンテンツからタグを作成します

アーティファクトタグを作成する -装飾的な画像にマークを付けて、無視されるようにします

タグを編集する -ドキュメント内の既存のタグを編集します

代替テキストを設定する -図、図形、またはその他の言語の代替テキストを設定します

標準のPDFタグタイプ -PDF仕様で定義されている標準タグタイプのリスト

ドキュメントにタグが付いているかどうかを確認します

タグ付きPDFは、PDF内の各コンテンツ要素に関する追加のメタデータ情報を含むPDFファイルです。この情報は、スクリーンリーダーなどのアクセシビリティソフトウェアがドキュメント構造を理解して、 理解しやすい方法でユーザーに情報を提供します。

PDF内のタグの詳細については、を参照してください。標準のPDFタグ。

ドキュメントにタグが付いているかどうかを確認する方法

次のいずれかのオプションを使用して、ドキュメントがタグ付けされているかどうかを確認します。

PDF / UA検証

を実行しますPDF / UA検証 ドキュメントが正しくタグ付けされていることを確認するためのPDFStudioのツール。

ドキュメントのプロパティ

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. クリックしてください**一般** タブ
3. 確認してください**タグ付きPDF** 左下の列のプロパティは言う**はい**

タグパネル

[タグ]ペインをクリックしてアクセスします **タグ**PDFStudioの左側にあるボタン。次に、以下を確認します。

- ペインには、ページコンテンツの論理的な順序を示すタグツリー構造があります。
- クリックしてください **オプション** ボタンを押して、**ドキュメントはタグ付きPDFです** オプションがチェックされています。

タグパネル

タグパネルを使用すると、ドキュメントのタグツリー構造を表示できます。これらには、PDF内の見出し、段落、表などのコンテンツ項目が含まれます。 PDFタグは、ユーザー補助ツール（スクリーンリーダーなど）がドキュメントを表示するために使用します 論理的かつ理解しやすい方法でユーザーにコンテンツ。

タグパネルを開く方法

1. ドキュメントを開く
2. クリックしてください PDFStudioウィンドウの左側にある[タグ]ボタン
3. ロードされると、左側のペインにドキュメントタグツリーが表示されます

タグの表示/ナビゲート

タグツリーを使用して、ドキュメント内のタグを表示およびナビゲートします。 +アイコンと-アイコンを使用してアイテムを展開または折りたたみ、タグをクリックしてページ上のタグ付きコンテンツを強調表示します。

ザ・ 展開して すべてのボタンを折りたたむことも表示に使用できます タグツリー内のすべての子を一度に非表示にします。

タグのプロパティの表示

ツリー内の任意のタグを右クリックし、[プロパティ]オプションを選択して、選択したタグの詳細を表示します。

タグパネルオプション

タグコンテンツ -作成するツールを起動しますコンテンツタグ

新しいタグを作成する -作成することができますドキュメントタグ

タグを削除 -選択したタグを削除します

オプション -追加のタグオプション

- ドキュメントはタグ付きPDF：ドキュメントに「タグ付きドキュメント」フラグを設定します
- コンテンツを強調表示：ページ上で選択したタグコンテンツを強調表示するオプション
- プロパティ：選択したタグの詳細を表示します

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

ドキュメントレベルのタグを作成する

ドキュメントレベルのタグは、ページ上のどのコンテンツにも関連付けられていない埋め込みメタデータです。これらのタイプのタグは、PDFのタグツリー構造に追加の編成を提供するために使用されます。

PDFに変換するときは、オーサリングアプリケーションによってドキュメントにタグを付けることを強くお勧めします。元のオーサリングアプリケーションは、変換中にドキュメント要素をより完全に解釈して、タグを適切に適用できるようになります。 ドキュメント内の論理構造。

ただし、元のドキュメントまたはオーサリングアプリケーションが利用できない場合は、PDF Studioを使用して、ドキュメント内にドキュメントレベルのタグを手動で作成できます。これを行うには、以下の手順に従います。

ドキュメントレベルのタグを作成する方法

1. [タグ]ペインをクリックしてアクセスします **タグ**PDFStudioの左側にあるボタン
2. クリックしてください **新しいタグを作成する** ボタン
3. タグの種類とタイトルを設定する
4. [OK]をクリックして変更を適用すると、新しいタグが[タグ]パネルに表示されます。
5. 追加すると、次のことができます編集 ツリー構造をより適切に整理するためのタグ

コンテンツタグオプション

タイプ -ドロップダウンからタグ付けされているコンテンツのタイプを選択します。見る標準のPDFタグタイプ それぞれの説明について

題名 -タグ付けされている要素のタイトル。これは、タグのタイプをさらに識別するための追加のラベルです

コンテンツタグを作成する

コンテンツタグは、PDFファイルのページレベルのコンテンツを囲む埋め込みメタデータです。これらには、段落スタイル、レイアウト、表などを含めることができます。この情報は、スクリーンリーダーなどのアクセシビリティソフトウェアがドキュメントの構造を理解するのに役立つために使用されます。 理解しやすい方法でユーザーに情報を提示するため。

PDFに変換するときは、オーサリングアプリケーションによってドキュメントにタグを付けることを強くお勧めします。元のオーサリングアプリケーションは、変換中にドキュメント要素をより完全に解釈して、タグを適切に適用できるようになります。 ドキュメント内の論理構造。

ただし、元のドキュメントまたはオーサリングアプリケーションが利用できない場合は、PDFStudioを使用してドキュメント内にコンテンツタグを手動で作成できます。これを行うには、以下の手順に従います。

コンテンツタグを作成する方法

1. [タグ]ペインをクリックしてアクセスします **タグ**PDFStudioの左側にあるボタン
2. クリックしてください **タグコンテンツ** ツールを起動するためのボタン
3. カーソルを使用して、タグ付けするコンテンツを選択してから
   - テキストをクリックしてマウスをドラッグしてテキストを選択します
   - カーソルで画像をクリックして画像コンテンツを選択します
4. コンテンツをダブルクリックするか、右クリックして選択してタグを作成します**タグコンテンツ**
5. タグの種類とタイトルを設定する
6. [OK]をクリックして変更を適用すると、新しいタグが[タグ]パネルに表示されます。

コンテンツタグオプション

タイプ -ドロップダウンからタグ付けされているコンテンツのタイプを選択します。見る標準のPDFタグタイプ それぞれの説明について

題名 -タグ付けされている要素のタイトル。これは、タグのタイプをさらに識別するための追加のラベルです

アーティファクトタグを作成する

アーティファクト作成されたコンテンツの一部ではないグラフィックオブジェクトまたはその他のマーキングです。アーティファクトの例には、ページヘッダーまたはフッター情報、ページのセクションを区切る線またはその他のグラフィック、または装飾画像が含まれます。この 情報は、スクリーンリーダーなどのアクセシビリティソフトウェアがドキュメントの構造を理解して、ユーザーにわかりやすい方法で情報を提示できるようにするために使用されます。

PDFに変換するときは、オーサリングアプリケーションによってドキュメントにタグを付けることを強くお勧めします。元のオーサリングアプリケーションは、変換中にドキュメント要素をより完全に解釈して、タグを適切に適用できるようになります。 ドキュメント内の論理構造。

ただし、元のドキュメントまたはオーサリングアプリケーションが利用できない場合は、PDFStudioを使用してドキュメント内にアーティファクトタグを手動で作成できます。これを行うには、以下の手順に従います。

コンテンツタグを作成する方法

1. [タグ]ペインをクリックしてアクセスします **タグ**PDFStudioの左側にあるボタン
2. クリックしてください**アーティファクト** タブ
3. クリックしてください **タグアーティファクト**ツールを起動するためのボタン
4. カーソルを使用して、タグ付けするコンテンツを選択してから
   - テキストの上にマウスをクリックしてドラッグし、テキストを選択します
   - カーソルで画像をクリックして画像コンテンツを選択します
5. コンテンツをダブルクリックするか、右クリックして選択してタグを作成します**タグアーティファクト**
6. タグの種類とタイトルを設定する
7. [OK]をクリックして変更を適用すると、新しいタグが[タグ]パネルに表示されます。

タグを編集する

ドキュメント内の既存のタグは、必要に応じて以下のオプションを使用して編集できます。

タグのプロパティを変更する

1. 編集するタグを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。
2. 使用するタグプロパティオプションを設定します
3. [OK]をクリックして変更を適用します

タグプロパティオプション

タイプ -ドロップダウンからタグ付けされているコンテンツのタイプを選択します。見る標準のPDFタグタイプ それぞれの説明について

題名 -タグ付けされている要素のタイトル。これは、タグのタイプをさらに識別するための追加のラベルです

実際のテキスト -ページコンテンツに表示される実際のテキスト

代替テキスト -テキストまたは画像のコンテンツに関連する追加の説明テキスト（つまり、画像のキャプション）

ID -タグの一意の識別子

言語-ドキュメント全体の言語を設定します。ドキュメント内の特定のテキストの言語設定の詳細については、PDFのタグ付けを参照してください。

> **注意**：*言語がドロップダウンリストに表示されない場合は、言語のISO639コードを[言語]フィールドに入力できます。*

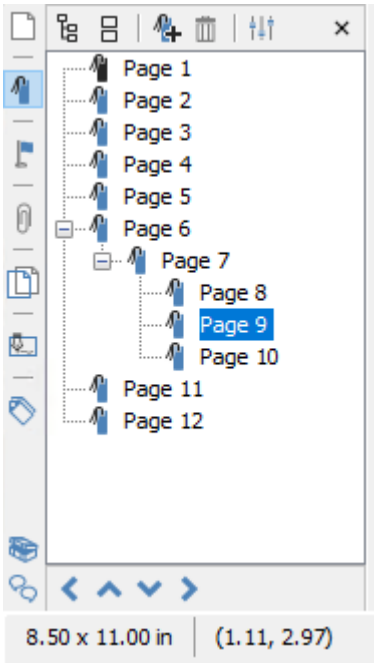
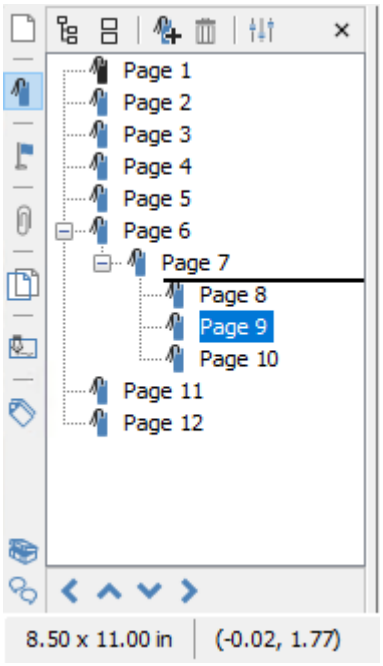
タグを移動する

タグは、ドラッグアンドドロップまたはカットアンドペースト機能を使用して移動できます。

> **注意**：*ShiftキーまたはCtrlキー（Macの場合はCommand）を押したままにして、複数のタグを編集します。*

ドラッグアンドドロップの使用

タグは、ツリー内の目的の場所にドラッグアンドドロップするだけで再編成できます。タグをターゲットにドラッグすると、画面のターゲットタグの下に黒い水平線が表示されます。黒い線の長さは、 ドラッグされたタグは、ターゲットタグの下に挿入されるか、子としてターゲットタグに追加されます。

このタグは6ページの子になります。	このタグは7ページの子になります。
	
長い行は、タグが6ページの子として7ページの下に挿入されることを示します。	短い行は、タグが7ページの子として追加されることを示します

カットアンドペーストの使用

カットアンドペーストを使用して、タグを再編成することもできます。ツリーからタグを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して[切り取り]を選択するか、キーボードショートカットのCtrl + X（Mac：Cmd + C）を使用してタグを切り取ることができます。次に、右クリックしてタグを新しい親に貼り付けます （Mac：Ctrl +クリック）既存のタグを選択して[貼り付け]を選択するか、キーボードショートカットのCtrl + V（Mac：Cmd + V）を使用します。

タグを削除する

タグを削除する方法は3つあります。

- マウスでタグを選択し、キーボードのDeleteキーを押します
- マウスでタグを選択し、削除ボタンをクリックします タグパネルの上部にあります
- タグツリーのタグを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）し、マウスメニューの[削除]オプションを選択します。

注意：*Shiftキーまたは*Ctrl*キー（Macの場合は*Command*）を押したままにして、複数のタグを編集します。*

tml>

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

代替テキストを設定する

PDFのすべてのコンテンツにタグを付ける必要がありますが、ドキュメントを完全に準拠させるために追加情報が必要になる場合があります。図や図形などのタグには、ユーザーに画像を説明するのに役立つ追加の代替テキストを含める必要があります。代替案 テキストを使用して、タグ付けされたテキストコンテンツに追加の説明（別の言語のテキストの一部など）を提供することもできます。

タグに代替テキストを設定するときは、スクリーンリーダーなどのアクセシビリティツールが代替テキストの内容をどのように解釈するかを確実に理解できるように、言語値を設定することが重要です。

以下の手順に従って、PDF内のタグ付きコンテンツに代替テキストを設定します。

代替テキストを設定する方法

1. [タグ]ペインをクリックしてアクセスします **タグ**PDFStudioの左側にあるボタン
2. 編集するタグを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、マウスメニューの[プロパティ]を選択します。
3. タグプロパティダイアログで、使用する代替テキストを設定します
4. [OK]をクリックして変更を適用します

標準のPDFタグタイプ

以下は、PDF形式で定義されているタグタイプの標準セットのリストです。これらの標準タイプは、スクリーンリーダーなどのアクセシビリティソフトウェアがドキュメント構造を理解して、障害を持つユーザーに情報を提示できるように設計されています。 理解できる方法で。

> **注意**：*PDF Studioは、PDF標準で定義された標準タイプの作成または編集のみをサポートしますが、追加のアプリケーションは、標準タイプの一部ではないカスタムタグ値を設定することを選択できます。この場合、PDFスタジオはオーサリングアプリケーションによって設定されたカスタムタグ値の名前を表示するだけです。*

コンテナ

コンテナ要素は、タグ構造の最上位要素です。

資料 -ドキュメントのタグツリーのルート要素。

部 -ドキュメントの大きな分割。分割、記事、セクションなど、コンテンツの小さな単位をグループ化する場合があります 要素。

分割 -汎用ブロック要素または要素のグループ。

論文 -単一の物語と見なされる自己完結型のテキスト本文。

セクション -通常、PartまたはArticle要素のコンポーネントである一般的なコンテナ要素タイプ

見出しと段落

見出しと段落は、特定のレベルの見出しと段落タグを含むブロック要素です。

H1に **H6** -テキストコンテンツ内のセクションのタイトルまたは見出し

P -文章の個別のセクション。通常は単一のテーマを扱い、改行で示されます。 またはインデント

ラベルとリスト

ラベル要素とリスト要素は、リストや箇条書きなどのコンテンツをマークするために使用されます

リスト -互いに関連している類似したアイテムのグループ。

リストアイテム -リスト要素の単一のアイテム。ラベル要素（オプション）が含まれる場合があり、リスト本文要素が必要です。 子どもの頃

ラベル -リスト内の他の要素から要素を識別する箇条書き、名前、番号などのマーカー

リストアイテム本文 -リストアイテムの説明が含まれています

特別テキスト

特別なテキスト要素は、見出しまたは段落と見なされないコンテンツをマークします

ブロック見積もり -他の著者の作品を参照するテキストの大部分

キャプション -ページ上の表または図を説明するために使用されるテキスト

インデックス -内の特定のキーワードの場所をリストする、通常はドキュメントの最後にあるアイテムのリスト ドキュメント

目次-特定の場所を見つけるためのページ番号を含む、場合によっては階層的なアイテムのリスト ドキュメント内のアイテム

目次アイテム-目次要素で見つかった特定のアイテム

テーブル

テーブル要素は、行と列に編成されたコンテンツのセクションを定義します

テーブル -セルの行と列に配置されたテキストや画像などのデータ。

テーブルヘッダー-列の内容を説明するヘッダーラベルを含むデータテーブルのセル

テーブル行-テーブル内のセル要素の単一行

テーブルデータセル-atテーブル内の単一のデータセル内に格納されている要素

列をなして

インラインレベルの要素は、特定のフォーマットまたは動作を持つテキストのスパンを識別します。それらはブロックレベルの要素とは区別されます。インラインレベルの要素は、ブロックレベルの要素に含まれる場合と含まれる場合があります。

参考文献エントリ -引用されたテキストが見つかる場所をユーザーに示すテキスト情報

見積もり -別の著者の作品を参照するテキストの一部。単一であるという点でブロック引用とは異なります。 他のテキストとインラインで見つかったテキストの文字列。

スパン -通常は強調するために、周囲のテキストとは異なる形式のテキストのインラインセグメント 太字や斜体など。

特別なインライン

インラインレベルの要素と同様に、特別なインラインレベルの要素は、特別なフォーマットまたは動作を持つテキストのインライン部分を記述します。

コード -コンピュータプログラミング言語に使用されるテキスト

図 -テキストで参照されている画像またはグラフィック

形 -フォームの記入に使用される編集可能なPDFフィールド

式 -科学的または数式の要素

リンク -クリックすると、現在または別のWebサイトまたは場所にユーザーを移動できるハイパーリンク要素 PDFファイル

注意 -前のテキストで参照されている、文末脚注や脚注などの追加のテキストまたは情報

参照 -ドキュメントの他の場所にあるデータを参照したテキスト引用

ブックマーク

PDF Studioには、PDF内のブックマークを作成、編集、または管理するために使用できる次のオプションがあります。

ブックマークの作成：PDFでブックマークを作成する方法

ブックマークの削除：PDFのブックマークを削除する方法

ブックマークの移動：PDF内のブックマークを移動または再配置する方法

選択したテキストをブックマークする：現在選択されているテキストのブックマークを追加します

ブックマークの名前を変更する：ブックマーク名の編集または変更

ブックマークの場所を設定する：クリックしたときのブックマークの場所を設定します

ブックマークアクションの編集：ブックマークに関連付けられているアクションを編集します

カスタムブックマークアクション：ブックマークに設定できるすべての利用可能なアクションのリスト

ブックマークの外観の編集 ：ブックマークの外観を編集する

ブックマークを自動的に作成する：PDF内にブックマークを自動的に作成します

OCR PDF

PDF Studioは、利用可能なOCR言語のいずれかを使用してドキュメントをOCRし、ドキュメントにテキストを追加することができます。 OCRを使用すると、スキャンしたドキュメントまたは画像にテキストを追加して、他のテキストドキュメントと同じようにドキュメントを検索またはマークアップできます。 PDFスタジオ2021年 また、2つの言語で同時にOCRを実行する機能も導入されています。 2つの言語を使用したOCRの詳細については、を参照してください。 OCR設定。

OCRとは何ですか？

> *光学式文字認識（OCR）は、入力または印刷されたテキストの画像を機械でエンコードされた検索可能なテキストデータに機械的または電子的に変換することです。*

既存のドキュメントから

OCRを使用して既存のドキュメントにテキストを追加できます

1. PDF Studioを起動し、検索可能なテキストを追加するPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**[ドキュメント]タブ>OCR** ツールバーから
3. [言語]ドロップダウンから、使用する言語を選択します
   - *ノート：OCRを初めて使用する場合は、言語パックをダウンロードする必要があります。これを行うには、「OCR言語のダウンロード」をクリックし、使用する言語を選択して「ダウンロード」をクリックします。。*
4. 使用するページ範囲と解像度を選択します
   - *ノート：300 DPIの解像度では、ほとんどの画像で良好なOCR結果が得られます。ノイズを含むスキャンを処理する場合は、低いDPI設定を使用してノイズを取り除き、より良いOCR結果を取得してみてください。。*
5. 追加のオプションを選択してください
   - 非表示のテキストを破棄-ページに追加された以前のOCRテキストを削除します。
   - 自動デスキュー画像 -チェックすると、ドキュメントのテキスト/画像が一方向に大きく傾いているか、位置がずれている場合、PDF Studioは、位置合わせが修正されるようにドキュメントを自動回転しようとします。
6. 「OK」をクリックしてOCRプロセスを開始します
7. 処理中の現在のページを示す進行状況ダイアログが表示されます。完了したら、[OK]をクリックしてダイアログを閉じます
8. これで、ドキュメントを検索、編集、またはハイライトでマークアップしたり、下線を引いたり、取り消し線を引いたり、キャレット注釈を付けて使用したりする準備が整いました。

ドキュメントをスキャンするとき

OCRは、PDFStudioでスキャンされると同時にドキュメントにテキストを追加できます

1. を開始しますスキャンダイアログ 普段通り
2. スキャンダイアログには、スキャン後にドキュメントをOCRするオプションが表示されます
3. [言語]ドロップダウンから、使用する言語を選択します

- *ノート：OCRを初めて使用する場合は、言語パックをダウンロードする必要があります。これを行うには、「OCR言語のダウンロード」をクリックし、使用する言語を選択して「ダウンロード」をクリックします。。*

4. すべてのスキャンとOCR設定を設定したら、[スキャン]をクリックしてドキュメントのスキャンを開始します
5. スキャンが完了すると、OCRプロセスが開始され、現在処理中のページを示す進行状況ダイアログが表示されます。完了したら、「OK」をクリックしてダイアログを閉じます
6. これで、ドキュメントを検索、編集、またはハイライトでマークアップしたり、下線を引いたり、取り消し線を引いたり、キャレット注釈を付けて使用したりする準備が整いました。

利用可能なOCR言語

次の言語辞書ファイルは、PDFStudioOCR関数内から直接ダウンロードできます。適切な言語ファイルを使用すると、OCR結果の精度が向上します。見るOCR結果を改善するためのヒント追加情報について

- アフリカーンス語
- アルバニア語- shqip
- アラビア語-アラビア語
- アゼルバイジャン- azərbaycan
- バスク語- euskara
- ベラルーシ語-беларуская
- ベンガル語- বাংলা
- ブルガリア語- български
- カタロニア語-カタロニア語
- チェロキー
- 中国語（簡体字）-中文（简体中文）
- 中国語（繁体字）-中文（繁體）
- クロアチア語- hrvatski
- チェコ語-čeština“ da”>デンマーク語- dansk
- デンマーク語- Dansk
- デンマーク語（フラクトゥール）- Dansk（フラクトゥール）
- オランダ語-オランダ語
- 英語
- エストニア語- eesti
- フィンランド語-Suomalainen
- フランス語-Français
- ガリシア語-ガレゴ
- ドイツ語-ドイツ語
- ギリシャ語-Ελληνικά
- ヘブライ語-עברית
- ヒンディー語-हिन्दी
- ハンガリー語- magyar
- アイスランド語-íslenska
- インドネシア語-インドネシア語
- イタリア語-イタリア語
- イタリア語（旧）-italino vecchio
- 日本語-日本語
- カンナダ語-ಕನ್ನಡ
- 韓国語-한국어
- ラトビア語-latviešu
- リトアニア語-lietuvių
- マケドニア語-македонски
- マレー語- Bahasa Melayu
- マラヤーラム語-മലയാളം
- マルタ語-マルタ
- 数学/方程式
- ノルウェー語-Norsk
- ポーランド語-Polskie
- ポルトガル語-Português
- ルーマニア語-română
- ロシア語-русский
- セルビア語-српски
- スロバキア語-slovenčina
- スロバキア語（フラクトゥール）-slovenčina（フラクトゥール）
- スロベニア語-slovenščina
- スペイン語-Español
- スペイン語（旧）-español（Antiguo）
- スワヒリ語- Kiswahili
- スウェーデン語-Svensk
- タガログ語
- タミル語-தமிழ்
- テルグ語-తెలుగు
- タイ語-ไทย
- トルコ語-Türkçe
- ウクライナ語-українська
- ベトナム語-TiếngViệt

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

フィールドタブ順序の編集

PDF Studioでは、ドキュメント内のフィールドのタブ順序を設定できます。これにより、ユーザーがドキュメントをタブで移動しているときに次に表示されるフィールドを指定して、入力を簡単にすることができます。以下の手順に従って、 PDF形式のフィールドタブの順序。

> **注意：** *デフォルトでは、タブの順序はフィールドが作成された順序で作成されます。通常、フィールドを正しい順序で作成するか、後で再配置することをお勧めします。タブを押したときにページのまったく別のセクションに移動すると、多くのユーザーが混乱するためです。*

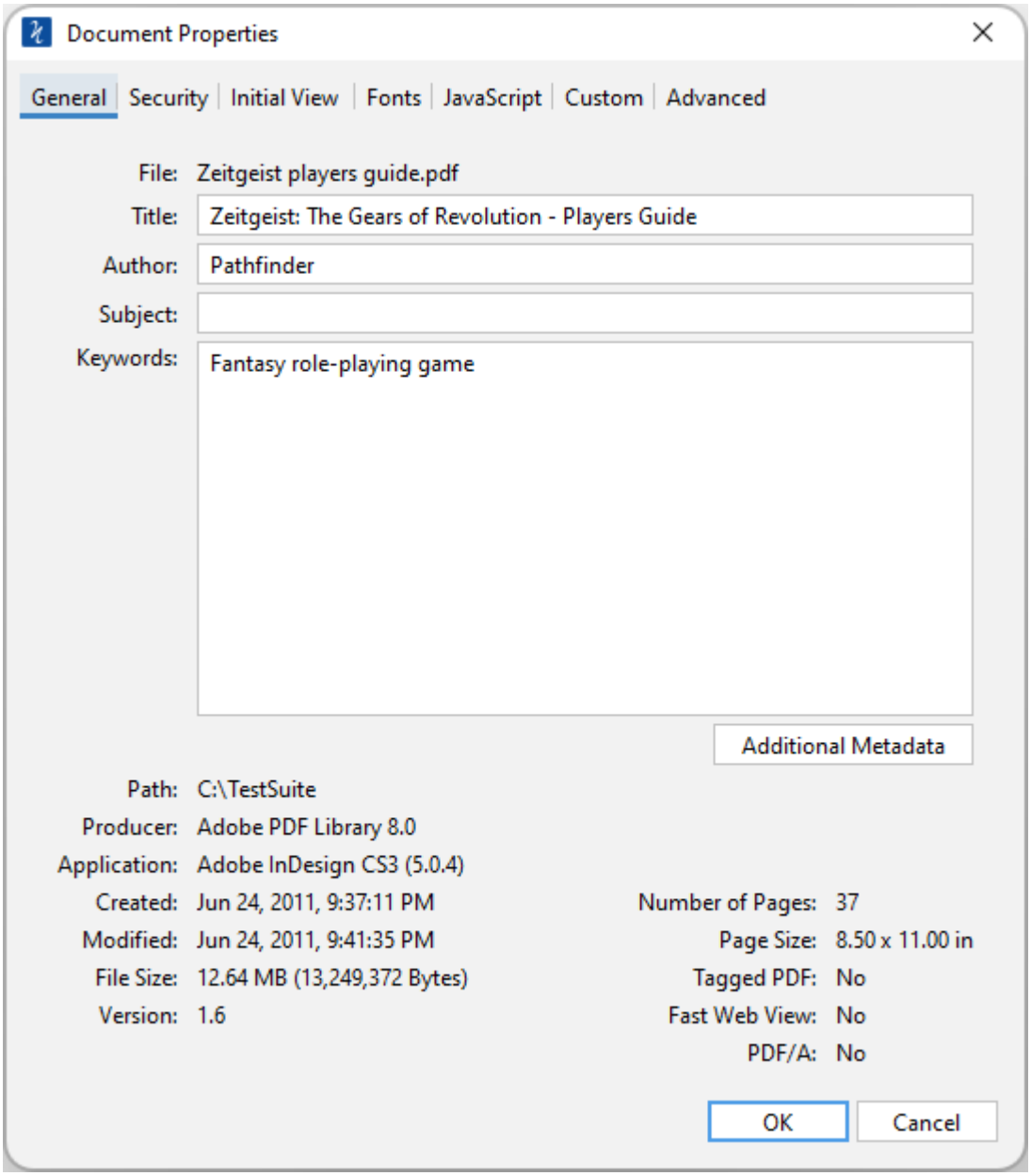
フィールドタブの順序の変更

1. に移動して、フォーム編集モードを開始します。**[フォーム]タブ**
2. PDF Studioフレームの左側には、フィールドペインがあります
   - **注意：** *ペインを開くには、[フィールド]ボタンをクリックする必要がある場合があります*
3. このペインには、ドキュメント内のページごとのすべてのフィールドのリストが表示されます。ドキュメント内のフィールドタブの順序は、フィールドツリーの上部からフィールドツリーの下部に移動します。フィールドのタブ順序を編集するには、リストの最初から一番上、最後から順に、フィールドをタブにする順序にアイテムをドラッグアンドドロップします。
   - **注意：***あなたはすることを選ぶことができます*[フィールドタブの順序を表示](#) *ページのフィールドにタブの順序を直接表示するオプション*
4. 完了したら、[フォーム編集の停止]をクリックしてツールバーを閉じます
5. ドキュメントを保存すると、フィールドを使用できるようになります

一般的なドキュメントのプロパティ

[一般的なドキュメントのプロパティ]タブには、ドキュメントの作成者によって設定されたタイトル、作成者、件名、キーワードなど、ドキュメントに関する基本情報が表示されます。プロデューサー、作成日、変更日、ファイルサイズ、ページサイズ、ファイルメタデータなどの追加のファイル詳細もこのページに表示されます。編集できるのは、タイトル、著者、著者タイトル、件名、ライター、キーワードのみです（ただし、ドキュメントのセキュリティ 設定されています）

> **ノート：** *これらのフィールドはPDFの必須情報ではないため、空白のままにすることができます。*



一般的なドキュメントのプロパティを表示する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. クリックしてください**全般的** タブ

ドキュメントのプロパティ

ファイル-システムに保存されているファイルの名前

題名-ドキュメントの現在のタイトルを表示します。

著者 -ドキュメントの現在の作成者を表示します。

主題 -ドキュメントの現在の件名を表示します。

キーワード -ドキュメントの現在のキーワードを表示します。

道 -PDFファイルがコンピュータに保存されている場所の完全なアドレス

> **ノート：** *PDF Studioで作成された新しいドキュメントの場合、ファイルが保存されるまでこれは空白になります*

プロデューサー -PDFファイルを生成したアプリケーションの名前

> **ノート：** *アプリケーションがファイルのプロパティに名前を含めることができなかった場合、この値は空になる可能性があります*

作成した -ドキュメントが作成された日付

変更 -ドキュメントが最後に変更された日付

ファイルサイズ -PDFを保存するために必要なファイルスペースの量

バージョン -PDFドキュメントのPDF標準バージョン

ページ数 -ドキュメントのページ数

ページサイズ -ローカル設定に応じて、ドキュメントの高さと幅をインチまたはミリメートルで表示します

> **ノート：** *複数のページサイズを持つドキュメントの場合、この値は表示されている現在のページのサイズを示します*

タグ付きPDF -ドキュメントがアクセシビリティのためにタグ付けされているかどうか

高速Webビュー -ドキュメントがを使用して保存されているかどうか高速Webビュー （線形化）形式

PDF / A -ドキュメントがPDF/A基準を満たしているかどうか

追加のメタデータ

クリックすると、新しいダイアログが開き、著作権、XMLツリー、生のXMPメタデータ出力などの追加の内部ドキュメントメタデータが表示されます。次の追加の詳細にアクセスできます。

説明

説明

題名-ドキュメントの現在のタイトルを表示します。

著者 -ドキュメントの現在の作成者を表示します。

著者のタイトル-ドキュメントの現在の作成者タイトルを表示します。

説明-ドキュメントの現在の説明を表示します。

説明ライター -説明を書いた人の名前を表示します

キーワード -ドキュメントの現在のキーワードを表示します。カンマを使用してキーワードを区切ることができます。

著作権

著作権ステータス-ドキュメントの著作権の現在のステータスを表示します

著作権表示-著作権情報の詳細を表示します

著作権情報URL-可能な場合は、著作権情報にアクセスするためのURLを表示します。フィールドの右側にあるアイコンをクリックして、デフォルトのWebブラウザでWebページを開きます。

メタデータ

作成した -ドキュメントが作成された日付

変更 -ドキュメントが最後に変更された日付

応用-PDFファイルを生成したアプリケーションの名前

> **ノート：** *アプリケーションがファイルのプロパティに名前を含めることができなかった場合、この値は空になる可能性があります*

フォーマット-現在開いているファイルのMimetype

高度

このタブには、必要に応じて探索するツリー構造を使用して、ドキュメント内で見つかった追加のメタデータが表示されます。このセクションは参照用です。

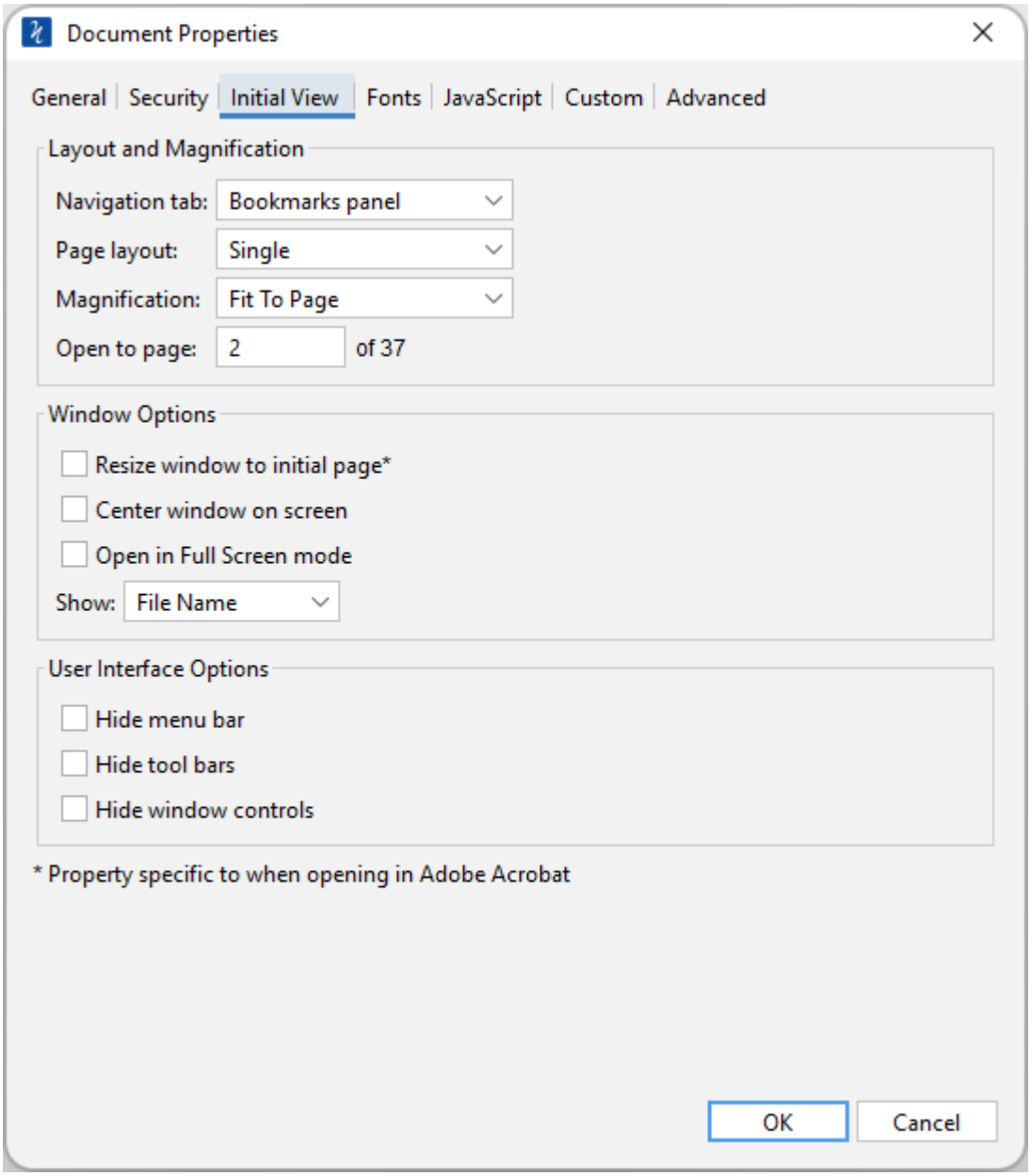
XMPメタデータ

このタブには次のように表示されます生のXMPメタデータ出力 ドキュメント内に保存されているのと同じように、XML形式で。この情報は、必要に応じて選択およびコピーできますが、編集することはできません。

ドキュメントの初期ビュー

[初期ビュー]タブには、開いたときにドキュメントが最初にどのように表示されるかを決定する初期ビュー設定が表示されます。これらの設定を変更して、次に開いたときにドキュメントがどのように表示されるかを制御できます。

> *ノート：のいずれかのオプションで[ドキュメント設定を無視する]が設定されている場合表示設定、PDF Studioは、ドキュメントの設定を無視し、ドキュメントの初期表示設定で設定されたオプションの代わりに、選択されたオプションを使用します*



初期表示設定を表示/編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [初期ビュー]タブをクリックします
3. 使用する初期ビュー設定を選択します
4. [OK]をクリックして設定を行います
5. ドキュメントを保存して、新しい初期ビュー設定を保存します

> **ノート：** *ビューの初期設定を行うには、ドキュメントを保存する必要があります。ドキュメントのプロパティで設定するだけでは、ドキュメントには適用されません。*

初期ビュー設定

レイアウトと倍率

ナビゲーションタブ -ドキュメントを開いたときのナビゲーションタブのデフォルトの動作を設定します

- デフォルト：ドキュメントが開かれているアプリケーションのデフォルト設定を使用します
- なし（ドキュメントのみ）：ナビゲーションタブは表示されません
- ブックマークパネル：ドキュメントを開いたときにブックマークパネルを表示します
- ページパネル：ドキュメントを開いたときにページパネルを表示します
- 添付ファイルパネル：ドキュメントを開いたときに添付ファイルパネルを表示します
- フルスクリーンモード：開いたときにドキュメントをフルスクリーンモードで表示します

ページレイアウト -ドキュメントを開いたときのページレイアウトのデフォルトの動作を設定します

- デフォルト：ドキュメントが開かれているアプリケーションのデフォルト設定を使用します
- シングル：一度に1つの個別のページのみを表示します
- 単一連続：連続的にスクロールできる単一の列にドキュメントのすべてのページを表示します
- 見開き：一度に2ページだけを並べて表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
- 連続向き：すべてのドキュメントページを2列に表示し、左側に奇数ページ、右側に偶数ページを表示します
- 表紙：見開きを使用する場合と同じようにドキュメントを表示します最初のページのみが単独で表示されます
- Cover Continuous：Facing Continuousを使用する場合と同じようにドキュメントを表示し、最初のページのみが単独で表示されます

倍率 -開いたときのドキュメントのデフォルトの倍率を設定します

- デフォルト：ドキュメントが開かれているアプリケーションのデフォルト設定を使用します
- 実際：スケーリングなしで印刷した場合のドキュメントの外観に一致する1：1の比率でドキュメントを表示します
- ページに合わせる：PDFStudioフレームのドキュメントの幅に合わせてビューを拡大縮小します

- 幅に合わせる：PDFStudioフレーム内のドキュメント全体に合うようにビューを拡大縮小します
- %：指定した数値にズームを設定します

ページを開く -ドキュメントを開いたときに表示されるページ番号を設定します

ウィンドウオプション

ウィンドウのサイズを最初のページに変更* -設定すると、ウィンドウのサイズが変更され、最初のページサイズが100%に一致します。これはAcrobatのみの機能です。

画面の中央のウィンドウ -アプリケーションフレームをモニター/画面の中央に配置します

フルスクリーンモードで開く -ファイルを直接開きますフルスクリーンモード

見せる -PDFStudioアプリケーションフレームのタイトルバーにファイル名とドキュメントタイトルのどちらを表示するかを選択します

ユーザーインターフェイスオプション

メニューバーを非表示 -ドキュメントを開いたときにトップメニューバーを非表示にします。

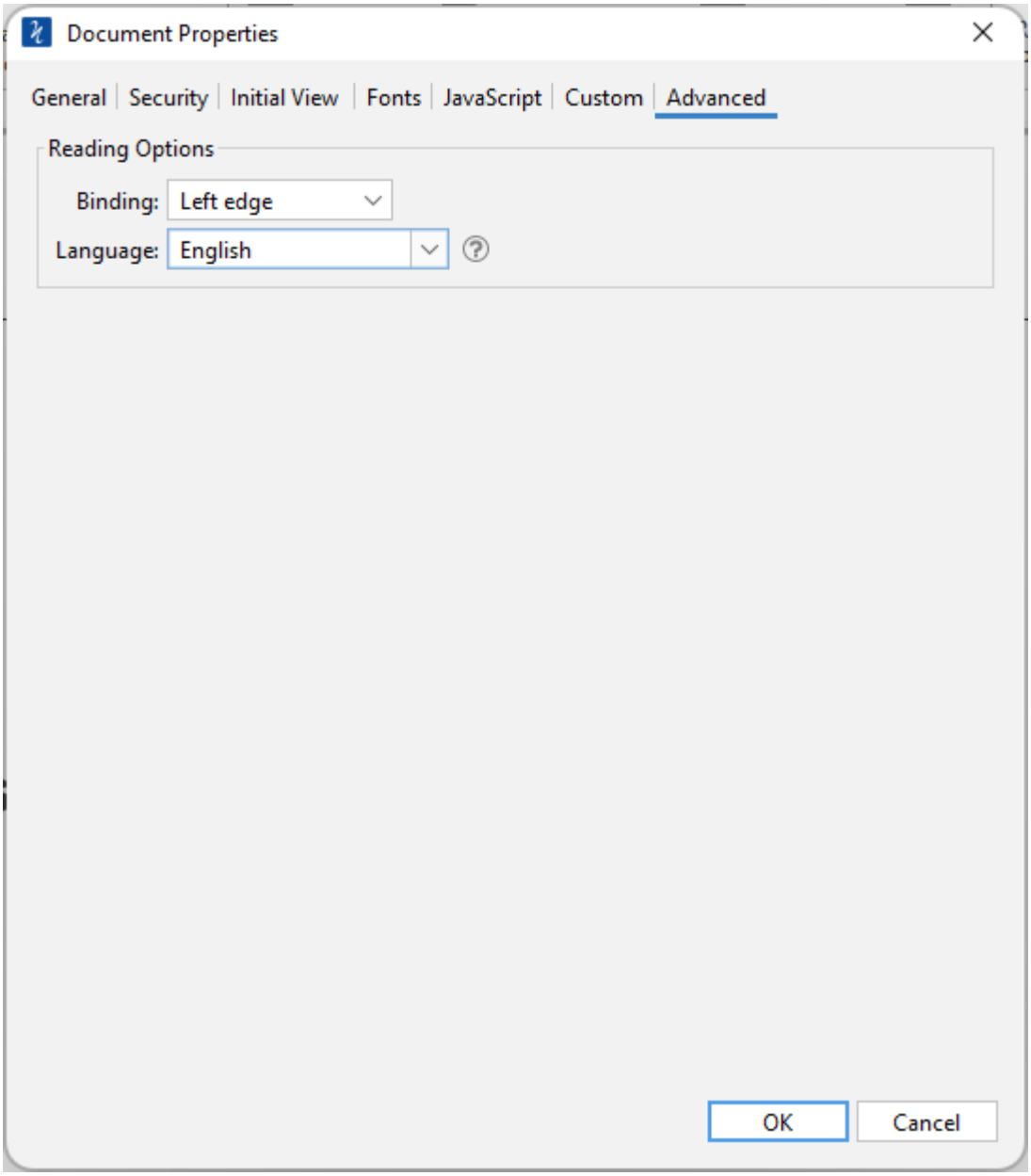
ノート：メニューバーは、を使用している場合にのみ表示されますクラシックツールバー

ツールバーを非表示にする -ドキュメントを開いたときにツールバーを折りたたむ。タブ名またはをクリックすると、ツールバーを再度開くことができます。 ツールバーの下矢印アイコン

ウィンドウコントロールを非表示 -ドキュメント表示領域からスクロールバーを非表示にします

高度なドキュメントプロパティ

[詳細設定]タブでは、ドキュメントに追加のオプションを設定できます。これらには、ユーザーのアクセシビリティのニーズに対応するバインディングや言語などの読み取りオプションが含まれます。 PDFでドキュメントの言語を設定すると、一部のスクリーンリーダーを適切なものに切り替えることができます 言語。



ドキュメントの詳細設定を表示/編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ> [プロパティ]**または、ショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. クリックしてください**高度な** タブ
3. 使用したい設定を選択してください

4. [OK]をクリックして変更を適用します
5. ドキュメントを保存して、新しい詳細ドキュメント設定を保存します

オプション

バインディング-見開きモードまたは表紙ビューモードでページを表示する順序を設定します。

- 左端：左から右に読むドキュメントの場合（英語、フランス語など）
- 右端：右から左に読むドキュメント（アラビア語、ヘブライ語など）

> **Note**：*これは、サムネイルペインのページ順序には影響しません。*

言語-ドキュメント全体の言語を設定します。ドキュメント内の特定のテキストの言語設定の詳細については、PDFのタグ付けを参照してください。

> **注意**：*言語がドロップダウンリストに表示されない場合は、言語のISO639コードを[言語]フィールドに入力できます。*

PDFをRTFドキュメントに変換する

PDF Studioは、PDFドキュメントに含まれるテキストをRTF形式のドキュメントに変換できます。このプロセス中、PDF Studioはテキストデータのみを抽出し、それを新しい.rtfファイルにエクスポートします。 RTFファイルは、RTF形式をサポートする任意のワードプロセッサで編集できます。

ノート：PDF Studioは現在、RTF変換での画像のエクスポートをサポートしていません。

PDFからテキストを抽出する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動the **[変換]タブ>[変換先]>** **リッチテキスト**ツールバー上
3. .rtfドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
4. [保存]をクリックして、変換プロセスを開始します

ノート：フォント文字を使用したテキストを含むドキュメントのみを抽出できます。 PDFに、を使用して作成されたドキュメントまたはテキストのスキャン画像が含まれている場合パスコンテンツ あなたは最初にする必要がありますPDFをOCRする テキストを抽出できるようにするため。

アクションの管理

アクションの管理ツールを使用して、使用可能なアクションのリストを表示し、必要に応じて既存のアクションを変更します。アクションマネージャダイアログから、アクションの編集、名前変更、コピー、エクスポート/インポートを行うことができます。

アクションを編集する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[アクションウィザード]** をクリックします アクションの管理
2. 次のダイアログで、変更するアクションを選択し、オプションの1つから選択します

アクションオプションの編集

編集-アクションエディタを開いて、シーケンスまたはアクション設定を変更します

名前の変更-アクションの名前または説明を変更します

コピー-名前に「（コピー）」を追加するアクションの複製を作成します。その後、必要に応じて新しいコピーを編集/名前変更できます

削除-アクションを削除します

上に移動-選択したアクションをリストの上に移動して、アクションの順序を並べ替えるのに使用します

下に移動-選択したアクションをリストの下に移動して、アクションの順序を並べ替えるのに使用します

エクスポート-選択したアクションをエクスポートして、別のデバイスに移動したり、他のデバイスと共有したりします

インポート-以前にエクスポートされたアクションをインポートできます（PDF Studioアクションファイルのみをサポートします）

PowerPoint©をPDFに変換する

PDF Studioは、PowerPoint©ドキュメントをPDFに変換できます。 .pptx（PowerPoint2007©以降）拡張子のみがサポートされています。デフォルトでは、PowerPointドキュメント内のフォントは作成されたPDFに埋め込まれます。これらのオプションを変更したい場合は、を参照してください。フォント設定。

指示：

ウェルカム画面の使用

1. PDFStudioを起動します
2. を使用してウェルカム画面 cなめる**MSOfficeから**「PDFの作成」の下のオプション
3. PowerPoint©ファイルに移動します（* pptx） 隠蔽して「開く」をクリックします

ツールバーから

1. に移動**タブを変換>** **PowerPointから**

2. PowerPoint©ファイルに移動します（* pptx） 隠蔽して「開く」をクリックします

[ファイル]タブから

1. に移動**[ファイル]タブ>[作成]>** **MSOfficeから**
2. PowerPoint©ファイルに移動します（* pptx） 隠蔽して「開く」をクリックします

ドラッグアンドドロップ

1. 秘密にしたいPowerPoint©ファイル（* pptx）をPDF Studioに直接ドラッグアンドドロップして、ファイルをPDFに変換します。

ファイルを開くと、PDF StudioはドキュメントをPDFドキュメントに自動的に変換し、新しいPDFドキュメントとして保存できます。

ツール設定

[ツール設定]セクションには、PDFStudioのすべてのツール設定が含まれています。

[ツール設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**ツール** これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

全般的

ハンドツールにマウスホイールズームを使用させる -チェックすると、マウスホイールの動作がドキュメントのスクロールからドキュメントのズームイン/ズームアウトに変わります。

アクティブツール

デフォルトのツール -新しいドキュメントを開くとき、またはEscキーを使用してアクティブなツールを終了するときに使用されるデフォルトのツール。

新しく開いたドキュメントに対して現在のツールをアクティブにしておく -チェックすると、現在アクティブなツールは、新しいファイルを開いたときにアクティブなままになります。

スナップショット

名前を付けて保存 -選択すると、取得したスナップショットによって画像がファイルシステムに保存されます。

- フォーマット：保存する画像ファイルのフォーマット（JPG、PNG、GIF、TIF）
- フォルダ：スナップショットを保存する宛先ディレクトリ

常にダイアログを表示 -スナップショットを撮るときに、画像形式を選択して場所を保存するためのダイアログを常に表示することを選択します。

スキャン設定
このページを完全なコンテキストで表示するには、ここをクリックしてください

スキャン設定

[スキャン設定]セクションには、のすべてのスキャン設定が含まれています PDFスタジオ。

[スキャン設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ> [設定]**
2. 選択する**スキャン** から 表示する設定ダイアログの左側にあるパネル またはこれらの設定を変更します。

設定

PDFにスキャン- スキャン時に使用するデフォルトのスキャナーを設定できます。

複数のドキュメント -セット 作成時にスキャンしたPDFファイルを保存するデフォルトの宛先 1回のスキャンで複数のドキュメント。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

Copyright©2002-現在のQoppaソフトウェア。全著作権所有。

画像コンテンツを追加する

画像コンテンツの追加ツールを使用すると、PDFドキュメントに新しい画像コンテンツを追加/作成できます。これは、たとえば、新しい参照画像またはテーブルをレポートに追加する必要がある場合に役立ちます。

テキストコンテンツの追加ツールを起動する

1. [画像の追加]ツールをクリックして開始します。 に**[ドキュメント]タブ**ツールバーの
2. 画像を配置したいページをクリックします
3. 終了するには、Escキーを押すか、ドキュメントの他の場所をクリックします

必要なすべての画像コンテンツをページに追加し終えたら、PDFコンテンツの編集 必要に応じてさらに変更するためのツール。

画像コンテンツのプロパティ

画像コンテンツのプロパティにアクセスするには、ツールバーボタンを右クリック（Mac：Ctrl+クリック）して、[デフォルトのツールプロパティ]をクリックします。次のデフォルト設定は、画像コンテンツに適用できます。

外観

透明性 -テキスト注釈の透明度を設定します

圧縮：任意の画像をJPEG、JPEG2000、FLATE、またはJBIG2のいずれかに変換します。

- **JPEG** -画質とサイズを低下させる不可逆圧縮
- **JPEG2000** -サイズと品質を低下させる非可逆圧縮
- **FLATE** -可逆圧縮は品質を低下させませんが、ファイルサイズを常に低下させるとは限りません
- **JBIG2** -黒と白の色空間のみをサポートできる可逆圧縮。カラー画像は白黒に変換されます。画像のないスキャンされたドキュメントに最適

行動

クリエーションショー後

新しいコンテンツアイテムがドキュメントに追加されるたびに、プロパティダイアログを表示するかどうかを決定します。

フィールドタブの順序を表示
このページを完全なコンテキストで表示するには、ここをクリックしてください

フィールドタブの順序を表示

PDF Studioを使用すると、フィールドのタブ順序をページに直接表示できます。 このオプションを有効にすると、フォームフィールドに直接数値が表示されます ユーザーがタブを使用してフォームフィールドをナビゲートしたときの順序を表示するキー。

> **注意：** *フィールドタブの順序のみが表示されます にフォーム編集モード 支援するフィールドタブ順序の編集。*

フィールドタブの順序を表示する方法

- 選択する**[フォーム]タブ>** **タブオーダーを表示** から フィールドタブの注文番号のオンとオフを切り替えるメニュー。

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

Copyright©2002-現在のQoppaソフトウェア。全著作権所有。

プリフライトプリファレンス

プリフライト設定セクションには、PDF Studioのすべてのプリフライト設定（PDF/AおよびPDF/Xの変換と検証を含む）が含まれています。

[プリフライト設定]ダイアログを開くには：

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**プリフライト**これらの設定を表示または変更するには、設定ダイアログの左側にあるパネルから。

設定

PDF/A変換 -ドキュメントをPDF/Aに変換するときに適用される設定

- サポートされていない注釈：サポートされていない注釈が検出されたときに削除するか警告するか。
- 透明度：画像で透明度が検出されたときに削除するか警告するか。
- 埋め込みファイル：埋め込みファイルが検出されたときに削除するか警告するか。

PDF/X変換 -ドキュメントをPDF/Xに変換するときに適用される設定

- サポートされていない注釈：サポートされていない注釈が検出されたときに削除するか警告するか。
- 透明度：画像で透明度が検出されたときに削除するか警告するか。
- 画像圧縮：この設定の値は、色空間や現在の圧縮タイプがpdf / xに準拠していないため、変更が必要な画像にのみ使用されます。すでに有効な色空間を持ち、異なるがpdf / x準拠の圧縮タイプを持つ画像は、この圧縮タイプを使用するように変換されません。
- 出力プロファイル：画像を変換するときに設定するICCプロファイルを選択します。
- 埋め込みファイル：埋め込みファイルが検出されたときに削除するか警告するか。

オプション -追加の飛行前変換設定

- 情報ダイアログを表示：変換を開始する前に、以下のオプションがどのように処理されるかを説明するダイアログを表示するかどうか
- 元のファイルへの保存を有効にする：変更すると、PDFStudioはドキュメントからPDF/Aタグをクリアします。このオプションは、元のファイルをタグなしで上書きできるようにする「保存」ボタンを有効にします。それ以外の場合は、「名前を付けて保存」のみが有効になり、PDF/Aタグのない元のドキュメントが上書きされないようにします。
- [保存]または[名前を付けて保存]でPDF/A形式を保持する：変更すると、PDFStudioはドキュメントからPDF/Aタグをクリアします。このオプションを有効にすると、PDFStudioはドキュメントを同じPDF/ Aタグバージョンに再変換しようとします（サポートされている場合）。

テキストコンテンツを追加する

テキストコンテンツの追加ツールを使用すると、PDFドキュメントに新しいテキストコンテンツを追加/作成できます。これは、たとえば、リストに新しいラインアイテムを追加したり、テーブルの新しい行を追加したりする必要がある場合に役立ちます。

テキストコンテンツの追加ツールを起動する

1. [テキストの追加]ツールをクリックして開始します。 に**[ドキュメント]タブ**ツールバーの
2. テキストを追加したいページをクリックしてください
3. 追加するテキストを入力します
4. 終了するには、Escキーを押すか、ドキュメントの他の場所をクリックします

必要なすべてのテキストコンテンツをページに追加し終えたら、PDFコンテンツの編集 必要に応じてさらに変更するためのツール。

テキストコンテンツのプロパティ

テキストコンテンツのプロパティにアクセスするには、**[プロパティ]タブ** ツールバーで、またはツールバーボタンを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[デフォルトのツールプロパティ]をクリックします。次のデフォルト設定は、テキストコンテンツに適用できます。

外観

テキストの色 -テキストの色を設定します

フォント -テキストのフォントを設定します

サイズ -テキストのフォントサイズを設定します

B -すべてのテキストを作成します**大胆な**

私 -すべてのテキストを作成します*イタリック*

U -選択した注釈テキストを作成します<u>下線付き</u>

S -選択した注釈テキストを~~取り消し線~~

透明性 -テキスト注釈の透明度を設定します

行動

粘着性 -ツールが「スティッキー」の場合、新しいコンテンツがドキュメントに追加された後、ツールがオフになるまでツールは選択されたままになります。これにより、ツールを再選択することなく、複数のコンテンツアイテムを作成できます。アクティブになったら、Escキーを押すか、ツールバーのボタンをもう一度クリックして、ツールを非アクティブにします。

クリエーションショー後

新しいコンテンツアイテムがドキュメントに追加されるたびに、プロパティダイアログを表示するかどうかを決定します。

シェイプコンテンツを追加する

図形コンテンツの追加ツールを使用すると、PDFドキュメントに新しい図形コンテンツを追加/作成できます。これは、たとえば、ページコンテンツに新しい仕切り線またはマーカーを追加する必要がある場合に役立ちます。

図形コンテンツの追加ツールを起動する

1. [形状の追加]ツールをクリックして開始します。 に**[ドキュメント]タブ**ツールバーの
2. 描きたい形を選びます
3. ページをクリックしてドラッグし、必要なサイズで新しい図形を作成します
4. 終了するには、Escキーを押すか、ドキュメントの他の場所をクリックします

必要なすべての図形コンテンツをページに追加し終えたら、PDFコンテンツの編集 必要に応じてさらに変更するためのツール。

利用可能なコンテンツ形状タイプ

- 円-円の形を作成します。
- 正方形-正方形を作成します。
- ポリライン-ポリライン形状を作成します。
- ポリゴン-ポリゴンシェイプを作成します。

- 雲-雲の形を作成します。
- Line-線の形状を作成します。
- 矢印-矢印の形を作成します。
- 鉛筆-鉛筆の形を作成します。

シェイプコンテンツのプロパティ

シェイプコンテンツのプロパティにアクセスするには、ツールバーボタンオプションを右クリック（Mac：Ctrl +クリック）して、[デフォルトのツールプロパティ]をクリックします。それぞれの形にはoがあります

外観

線幅 -境界線の幅を設定します

スタイル -境界線のスタイルを設定します（つまり、点線、破線、雲など）

色 -境界線の色を設定します

塗りつぶしの色 -塗りつぶしの色を設定します

透明性 -形状の透明度を設定します

行動

粘着性 -ツールが「スティッキー」の場合、新しいコンテンツがドキュメントに追加された後、ツールがオフになるまでツールは選択されたままになります。これにより、ツールを再選択することなく、複数のコンテンツアイテムを作成できます。アクティブになったら、Escキーを押すか、ツールバーのボタンをもう一度クリックして、ツールを非アクティブにします。

クリエーションショー後

新しいコンテンツアイテムがドキュメントに追加されるたびに、プロパティダイアログを表示するかどうかを決定します。

クイックプロパティツールバー

クイックプロパティツールバーを使用すると、オブジェクトのプロパティダイアログにアクセスしなくても、選択したオブジェクトのプロパティを編集できます。クイックプロパティツールバーオプションは、選択したオブジェクトの使用可能なオプションに基づいて有効または無効になります。複数のオブジェクトのプロパティを同時に編集することもできます。

クイックプロパティツールバーの使用

1. ハンドツールの使用 またはオブジェクト選択ツール 編集するオブジェクト（注釈、マークアップ、またはフォームフィールド）を選択します
   - **注意：** *一度に複数のオブジェクトを選択して、同様のすべてのプロパティを一度に編集できます*
2. ツールバーのボタンを使用して、変更したい利用可能なプロパティをすばやく編集します
   - **注意：** *クイックプロパティツールバーオプションは、選択したオブジェクトの使用可能なオプションに基づいて有効または無効になります。*

クイックプロパティオプション

外観

塗りつぶしの色： 選択したオブジェクトの塗りつぶしの色を選択できます。

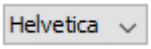
ボーダの色： 選択したオブジェクトの境界線の色を選択できます。

 線幅： 選択したオブジェクトの境界線の幅を設定します。

透明性： 選択したオブジェクトの透明度を設定します。

テキスト

テキスト注釈を編集する場合、プロパティは注釈全体またはコメント内の個々の文字または単語のいずれかに適用できます。



フォント： 選択した注釈のフォントを設定します。

サイズ： 選択した注釈のフォントサイズを設定します。

テキストの色： 選択した注釈のフォントの色を設定します。

大胆な： 選択した注釈テキストを作成します**大胆な**。

イタリック： 選択した注釈テキストを作成します*イタリック*。

下線を引く：選択した注釈テキストを作成します下線付き

取り消し線：選択した注釈テキストを取り消し線

水平方向の配置： 選択した注釈のテキストの配置を設定します。

アクションを実行する

アクションを使用すると、日常的なタスクを自動化することにより、ドキュメントで実行される作業を合理化できます。アクションが作成されると、シングルクリックで開始して単一（または複数）のドキュメントを処理できます。

アクションを実行する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[アクションウィザード]** をクリックします アクションを実行する
2. リスト内のアクションをクリックして、プロセスを開始します
3. 開始すると、PDFスタジオウィンドウの右側にアクションペインが開きます
4. （オプション）アクションで指定されたデフォルトのファイル/フォルダーに加えて、をクリックして処理するファイルを追加できます **追加ファイル**
   - 下矢印をクリックします 代わりに**フォルダーを追加** また**開いているファイルを追加する**
   - 必要に応じて、他のいずれかを選択することもできますサポートされているファイルタイプ 処理する（つまり、WordファイルをPDFに変換する）。の設定に基づくファイルタイプのデフォルトの変換設定を使用してアクションが開始されると、すべてのファイルがすぐにPDFに変換されます。環境設定。
   - **ノート**：クラウドドライブファイルは、アクションで処理する前にローカルに保存する必要があります。
5. すべてのファイルが選択されたら、をクリックします**始める**
6. （オプション）プロンプトが表示されたら、アクションステップ中に必要な追加の入力または設定を完了します。各ファイルは、処理が完了すると自動的に保存されます。
7. すべてのファイルが処理されたら、**終わり**ボタンが表示されます

追加のアクション機能

ステータスアイコン

処理中-現在処理中のファイル

完了-このファイルのすべてのアクションが完了しました

失敗-ファイルのエラーのためにアクションを完了しませんでした

一時停止/再開

オプションダイアログを閉じるか、現在アクティブなアクションツールを終了することにより、アクションステップをいつでも一時停止できます。アクションを再開するには、をクリックします**履歴書** アクションパネルのボタンをクリックして、残りのステップとファイルの処理を続行します。

実行中のアクションを終了します

次の手順を実行することで、実行中のアクションをいつでも停止して完了することができます。

- をクリックします **終了アクション** アクションパネルの右上にあるボタン
- PDFStudioアプリケーションを完全に終了する

ドキュメントがまだ保存されていない場合は、アクションシーケンスを終了するときに保存するように求められます。

ファイルリストの変更

アクションファイルリストは、アクションシーケンス中の任意の時点で変更できます。これは、プロセスの開始後に追加のドキュメントを処理する必要がある場合、またはリスト内のドキュメントの1つが不要になったことに気付いた場合に役立ちます。

- **ファイルの追加** -をクリックすると、追加のファイルをリストに追加できます **追加ファイル** プロセスの実行中にボタンをクリックします。
  - 下矢印をクリックします 代わりに**フォルダーを追加** また**開いているファイルを追加する**

ノート： *アクションが開始されると、ドキュメントは処理リストのENDにのみ追加できます。*

- **ファイルの削除** -アイテムを選択してDeleteキーを押すと、処理されていないファイルをリストから削除できます。

PDFの保存

PDFを作成または変更した後、変更を元のPDFドキュメントに保存するか、ファイルの新しいコピーとして保存できます。変更されてまだ保存されていないドキュメントは、アプリケーションのタイトルバーのファイル名の横にアスタリスク「*」でマークされます。

さらに、PDFドキュメントは、画像、HTML、Wordなどを使用して他の形式にエクスポートまたは変換することもできます。変換ツール PDFStudioで利用できます。

PDFを保存

[保存]を使用して、元のファイルに加えた変更を書き込みます。保存機能は、PDFStudioが開いているドキュメントへの変更を検出した場合にのみ有効になります。

以下のオプションのいずれかを使用して、編集プロセス中いつでもドキュメントを保存できます。

- 保存ボタン にクイックアクセスツールバー
- 保存オプション の[ファイル]タブでリボンツールバー
- Ctrl+Sショートカットキー

PDFのコピーを保存する

[名前を付けて保存]オプションを使用すると、現在のファイルのコピーを別のファイル名で保存できます。この機能は常に有効であり、ドキュメントに変更が加えられていない場合でも実行できます。

以下のオプションのいずれかを使用して、編集プロセス中いつでもドキュメントを保存できます。

- [名前を付けて保存]ボタン にクイックアクセスツールバー
- [名前を付けて保存]オプション の[ファイル]タブでリボンツールバー
- Ctrl + Shift+Sショートカットキー

ドキュメントの回復の自動保存

自動保存はPDFStudioで利用できる新機能で、作業中にドキュメントを自動的に保存します。この機能はデフォルトで有効になっており、指定された時間間隔（デフォルトは5分）に基づいて現在の変更のバックアップを作成します。

自動保存間隔タイマーは、最初のドキュメント変更が完了するまで開始されません。指定された自動保存間隔では、元のファイルは変更されず、代わりに、ドキュメントの変更のみを保存する別の一時ファイルが作成されます。このファイルは、ドキュメントが閉じられるか、保存されるか、元に戻されるまで、各間隔で更新されます。その時点で、一時ファイルが削除されます。

ノート：時間間隔の間に行われた変更は保存されません。自動保存間隔が20分に設定されていて、19分に何かが発生した場合、作業は最後の自動保存に戻されます。設定した5分のデフォルトは、パフォーマンスと作業の損失の防止のバランスが取れています。

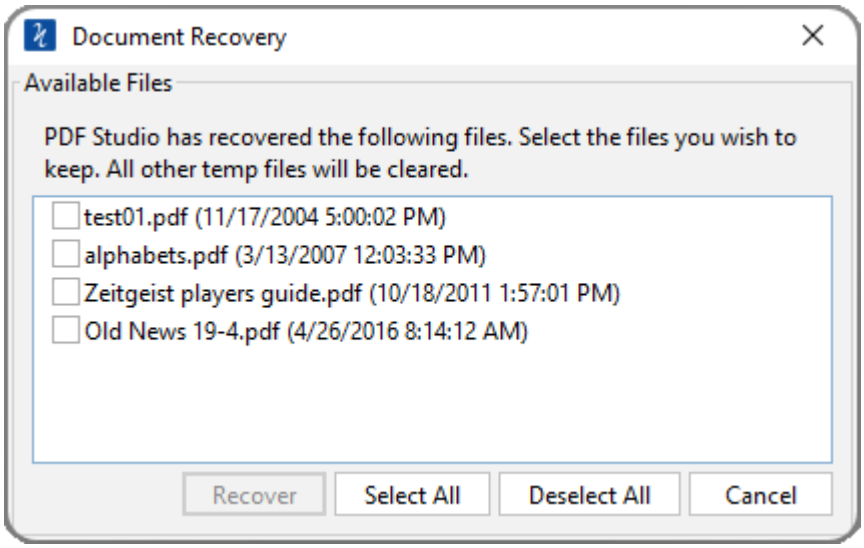
自動保存を有効/無効にする

自動保存機能は、最初のインストール時にデフォルトで有効になります。ただし、以下の手順に従って、自動保存を有効/無効にしたり、自動保存の頻度を調整したりできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[設定]**
2. 選択する**応用**設定ダイアログの左側のパネルから
3. 自動保存オプションをオン/オフにして、機能を有効/無効にします
4. 保存の頻度を調整するには、[間隔]フィールドを使用します

失われた編集の回復

PDF Studioは、起動するたびに自動保存されたファイルを検索します。 PDF Studioは、自動保存の一時ファイルを検出すると、保存された変更を回復するかどうかを選択するためのドキュメント回復ウィンドウを開きます。回復したら、一時ファイルが削除されるため、ファイルを保存する必要があります。



または、自動保存ファイルを復元しないことを選択することもできます。その時点で、すべての一時ファイルが削除されます。

自動保存ファイルを復元する方法

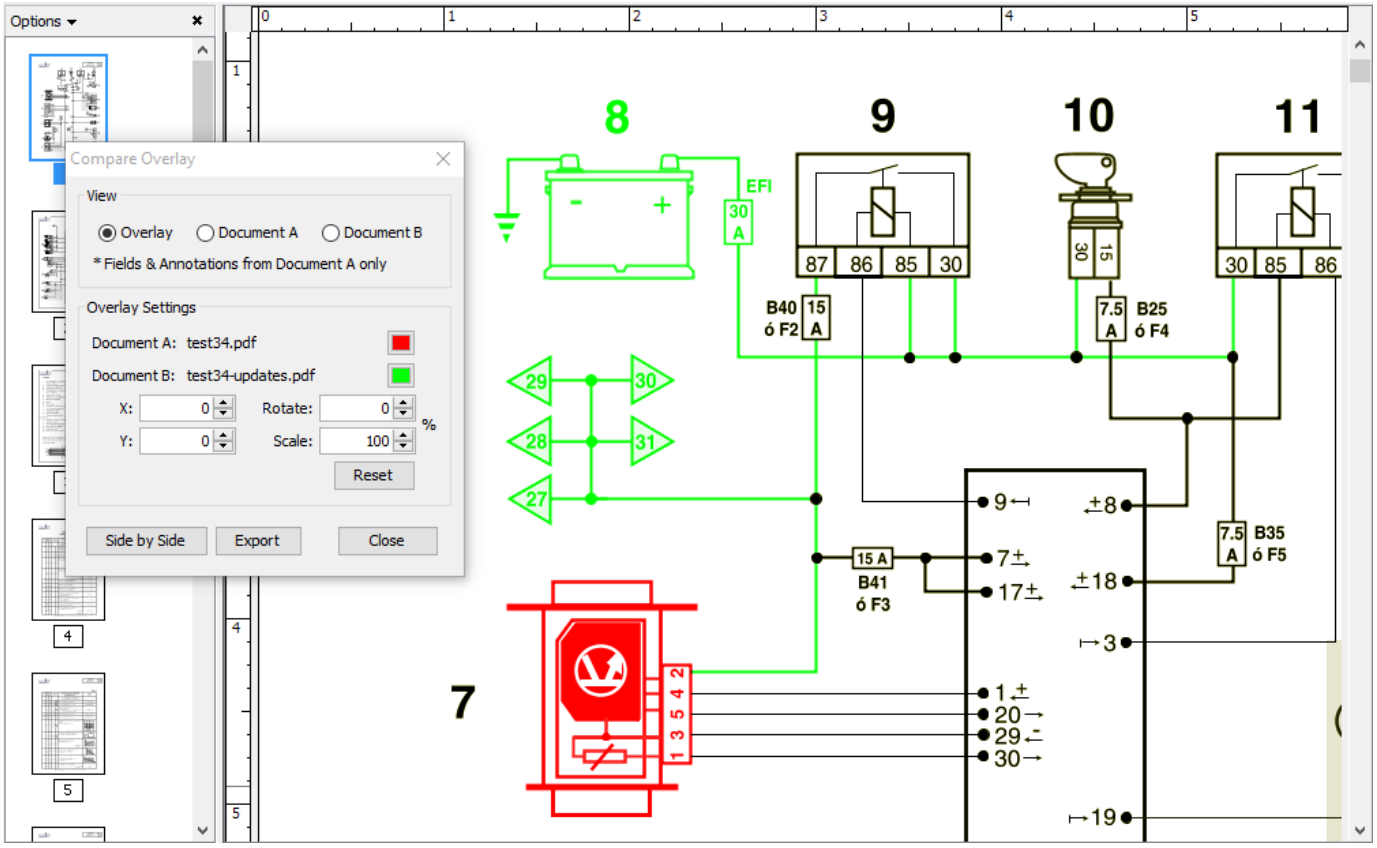
1. PDF Studioを起動または完全に終了して再起動し（[ファイル]タブ-> [終了]）、自動保存検索を開始します
2. プロンプトが表示されたら、復元するファイルを選択して[OK]をクリックします
3. ドキュメントは最後に保存された編集で復元されます
4. 変更が再び失われないように、必ずファイルを保存してください

ノート：*自動保存一時ファイルには変更または変更のみが保存されるため、ファイルを回復するには、編集されていない元のファイルが引き続き使用可能である必要があります。元のファイルが存在しない場合、ファイルを復元することはできません。*

ライブオーバーレイ比較モード
このページを完全なコンテキストで表示するには、ここをクリックしてください

ライブオーバーレイの比較 モード

PDF Studioには、ライブPDFオーバーレイ比較機能が付属しています。 2番目のドキュメントを最初のドキュメントにリアルタイムでオーバーレイできます。 簡単な違いの比較。



ライブオーバーレイ比較を使用して2つのドキュメントを比較する方法

1. PDFStudioで最初または最初のドキュメントを開きます。これは**ドキュメントA** 比較で
2. に移動**タブを表示>** **並べて比較 側...** ツールバーで。
3. ドキュメントと比較する2番目のドキュメントを選択します A.これは**ドキュメントB** 比較で
4. ドキュメントA（左側）とドキュメントB（左側）が表示されます。 右）同じPDFStudioウィンドウで並べて開きます。
5. クリックしてください **ライブオーバーレイモード** 表示領域の右上にあるボタン
6. これで、ドキュメントBがドキュメントAと比較にオーバーレイされます。 配置を変更するために使用できるオーバーレイダイアログ 正しく一致させる必要がある場合は、ドキュメントBに（リアルタイムで） ドキュメント。

> **注意：***オーバーレイビューも印刷できます オーバーレイビューが有効になっているときにドキュメントを印刷します。*

画像オーバーレイオプション：

見る

両方または各ドキュメントを個別に表示することを選択します

クリックしてください オーバーレイの比較を最小限に抑えるアイコン 設定ダイアログ。 PDFの右下隅にドッキングされます スタジオウィンドウ。ドッキングされたボタンをクリックして、ダイアログを復元します。

設定

色 -の色を選択します 各ドキュメント（デフォルトの色は通常、最良の結果を提供します）。 見るオーバーレイPDFの色の選択 比較。

X＆Y -Xとを調整します ドキュメントBを左、右、上、または下に移動するためのY値

回転する-回転を調整します 必要に応じてドキュメントBの

規模 -ドキュメントBを小さくします 必要に応じてそれ以上。

> **注意**：*スケールオプションには最低1つあります 最大値は999です。*

追加オプション

注釈とマークアップ - 比較中はいつでも、注釈またはマークアップのみが可能です。 ドキュメントAの変更*

> **注意：** *すべてが注目に値する注釈およびテキストマークアップツール、 と同様に他のPDF編集ツールは、比較しながらまだアクティブです オーバーレイビュー。元のPDFをマークアップおよび変更できます。 1 オーバーレイ比較ビューを簡単に切り替えることもできます および並べて比較ビュー（2つのドキュメントが表示されます） 同期された方法で並べて）。並べて比較すると、 付箋やテキストを追加するために2番目のドキュメントに注釈を付けることができます ハイライト（右クリックのコンテキストメニューの下を見てください）。*

比較モードの切り替え - また、私たちに切り替えることができます側 サイド比較 をクリックしてモード **並んで** オーバーレイ比較のボタン ダイアログ。前後に切り替えると、スケール値が記憶されます 比較のために新しいドキュメントが開かれるまで。

エクスポート -完了したら 比較を使用して、比較を単一のドキュメントにエクスポートできます。 ベースレイヤーとしてのオーバーレイ比較ビューとドキュメントA＆ ドキュメント内のレイヤーとしてのB。比較が完了した場合 比較モードを終了したい場合は、比較ツールを閉じて ドキュメントAに戻ります。

- オーバーレイの比較-レイヤー1（デフォルトでオン）で、ラスタライズされます （ページごとの画像に変換されます）。
- 元のドキュメントA-レイヤー2
- 元のドキュメントB-レイヤー3

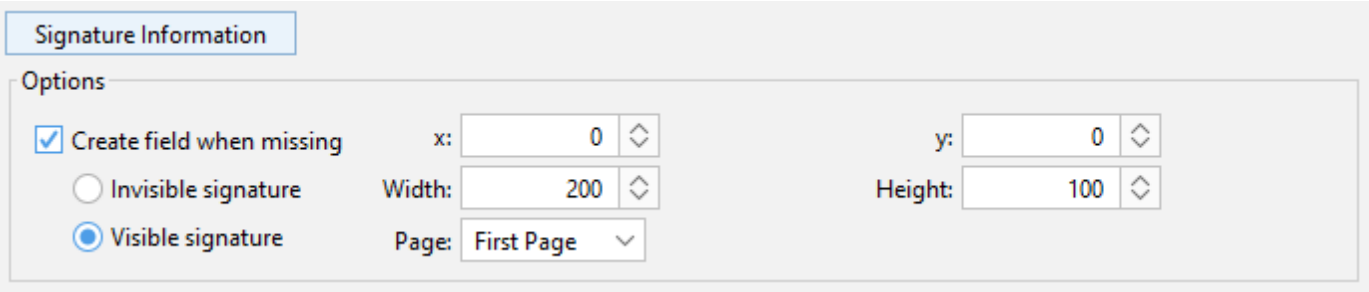
> **注意**：*オーバーレイビューも印刷できます オーバーレイビューが有効になっているときにドキュメントを印刷します。*

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

Copyright©2002-現在のQoppaソフトウェア。全著作権所有。

バッチサイン

バッチ署名により、デジタル署名を適用する 一度に複数のPDFドキュメント。これにより、リスト内のすべてのドキュメントにまったく同じ署名が使用されます。



PDFのバッチにサインオンする方法

1. ツールバーバーで、 **バッチタブ>** **サイン**
2. バッチプロセスのオプションを設定します。各設定の詳細については、以下をご覧ください。
   - ドキュメントに設定するデジタル署名設定を設定します
   - ファイルリストを使用して、処理する必要のあるファイルを選択します
   - 処理されたバッチファイルの宛先設定を設定します
   - 必要に応じて、ファイルの処理時に試行されるオープンパスワードを設定します
3. すべての設定が完了したら、[開始...]をクリックしてバッチプロセスを開始します。

バッチサイン設定

オプション

欠落しているときにフィールドを作成する -ドキュメントに署名フィールドがない場合でも署名を作成するには、このオプションをオンにします

- 目に見えない署名を作成する -ドキュメント内に非表示の署名を作成します
- で目に見える署名を作成する -以下に指定された場所に署名を作成します

位置 -追加の場所の詳細を入力します

- バツ：署名の左上隅の「X」の位置
- Y：署名の左上隅の「Y」の位置
- 幅：署名のピクセル単位の幅
- 身長：署名のピクセル単位の高さ
- ページ：ドキュメントに署名を配置するページ。最初のページ、指定されたページ、または最後のページを設定できます。

ファイルリスト

追加ファイル -個々のファイルをリストに追加するためのファイルチューザーを表示します。

フォルダーを追加 -ディレクトリの内容をリストに追加するファイルチューザを表示します。

デフォルトのバッチディレクトリを設定する -オンにすると、バッチダイアログが開かれるたびに、デフォルトのバッチディレクトリのすべてのファイルがファイルリストに追加されます。

サブフォルダを含める -オンにすると、選択したデフォルトのbartchディレクトリのサブフォルダ内にあるサポートされているファイルタイプがすべて含まれます。

-選択したファイルをリストから削除します。

-選択したファイルをリストの上位に移動します。

-選択したファイルをリストの下に移動します。

-選択したファイルをリストの一番上に移動します。

-選択したファイルをリストの一番下に移動します。

ファイルの保存先

移動先フォルダ

ソースフォルダを使用する -このオプションを選択すると、PDFドキュメントの元のフォルダー（バッチプロセス内）が出力ファイルの保存に使用されます。

移動先フォルダ -このオプションを使用すると、処理されたすべてのファイルを配置する宛先フォルダーを設定できます。宛先を手動で入力するか、「...」ボタンをクリックしてディレクトリチューザを開き、宛先フォルダを設定できます。

- フォルダ構造を保持する：オンにすると、出力ファイルは、ファイルの親ディレクトリ名を使用して、新しいフォルダ（指定された宛先フォルダ内）に配置されます。

ファイル名パターン

ソースファイル名を使用 -同じ元の名前を使用してドキュメントを保存します。ディレクトリに別のファイルが存在する場合は、ファイル名の重複を避けるために、出力ファイル名に番号が追加されます。

新しいファイル名 -このオプションを選択した場合、出力ファイルに使用する新しいファイル名を入力する必要があります。各ドキュメント名には、このフィールドに入力されたファイル名にゼロから始まる増分カウンターが追加されます。カスタム変数を使用して、各ファイル区切りをさらに区別することもできます。使用可能な変数は次のとおりです。

- $filename-ドキュメントを開いたファイル名（拡張子なし）
- $counter-自動的に増加する数値

- $day-その月の日
- $ month-2桁を使用して、現在の月
- $ year-4桁を使用して、現在の年
- $ shortyear-2桁を使用して、現在の年
- $second-現在の秒
- $minute-現在の分
- $ hour-現在の時間、1〜12
- $ampm-午前または午後
- $ longhour-現在の時間、0〜23

ファイルを上書きする -設定すると、同じ名前のファイルがディレクトリにすでに存在する場合、新しく出力されたドキュメントで上書きされます。

> *ノート： これは、元に戻すことはできません。バッチプロセスを開始する前に、すべての設定が正しいことを確認してください*

ドキュメントを開くときに試すパスワード

パスワードを設定するには、パスワードフィールドまたは[編集]ボタンをクリックします。次に、使用するパスワードを入力します。バッチプロセス中にパスワードで保護されたPDFを試すには、最大4つのパスワードに対してこれを実行します。

> *ノート： ここに入力されたパスワードは、このバッチプロセスでのみ使用され、他の場所には保存されません。新しいバッチプロセスごとにパスワードを入力する必要があります。*

PDFからPDF/X-1aへの変換

PDF Studioには、PDF/X-1a形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / X-1aは、ISOPDF仕様の厳密なサブセットです。標準のPDFファイルには適用されない一連の印刷関連の要件。これらは行われますドキュメントが保存されたときとまったく同じように印刷されることを意図して。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/X-1a形式に変換しようとします。

- ベクトル（パスとテキスト）およびラスター（画像）グラフィックスオブジェクトの色および/または色空間は、PDF/X出力インテントのカラープロファイルと互換性があるように変換できます。
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除されます
- 注釈は削除またはフラット化される場合があります
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- 画像のエンコード/圧縮タイプは変更される可能性があります

PDFをPDF/X-1aに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**タブを変換>** **PDF / X> PDF / X-1a** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / X-1a

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/X変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / X-1aの要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/X設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。

PDF / X-1a変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/X-1a変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / X変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。

- **回避策**：ユーザーは、PDF/X変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Xに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / X変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/X-1aに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / X-1a準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/X-1a準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/X-1aへの準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/X-1aコンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/X」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/X-1aプリフライト検証 ドキュメントがPDF/X-1a標準に準拠していることを確認する

PDFからPDF / A-1Bへの変換
このページを完全なコンテキストで表示するには、ここをクリックしてください

PDFからPDF / A-1bへの変換

PDF Studioは、ファイルをPDF / A-1b形式に変換する機能を提供します。 PDF / A-1bは、作成に使用されるISOPDF仕様の厳密なサブセットです。 常にレンダリングすることを目的としたドキュメントのアーカイブバージョン それらが保存されたときとまったく同じです。 PDF / A-1bの人気が高まっています 国際政府、図書館、新聞、法制度として デジタル文書を一貫して保存する必要性を認識する 長期間フォーマットします。

PDFに変換する場合、StudioはPDFをに変換しようとします ドキュメントに次の変更を加えることによるPDF / A-1b形式

- グラフィックはデバイスに依存しない形式に変換されます。もしあれば デバイスに依存する色空間が使用され、それらは埋め込みによって定義されます これらの色空間のカラープロファイル。
- フォントが埋め込まれます。
- 透明度が削除される場合があります。
- サポートされていないコメント（動画、音声、3Dなど）は削除される場合があります。
- JavaScript（主にFormsで使用）は削除されます。
- 埋め込まれたファイルと外部ハイパーリンクは削除される場合があります。
- フォームフィールドはフラット化されます

PDFをPDF / A-1bに変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**[変換]タブ> [変換] >へ** **PDF / A-1b** ツールバー上
3. 変更を示すダイアログが表示されます ドキュメントに作成されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / A-1b

PDF / A変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / A-1bが原因です 要件一部のファイルは変換できない場合があります。変換する場合 失敗すると、変換の理由を示すダイアログが表示されます 失敗しました。赤 記号が横に表示されます PDF / Aに準拠しておらず、PDFStudioで修正できないアイテム PDF / A変換。

> **注意**：*変換が成功した場合 変換プロセスが完了して保存されると、ダイアログが表示されます 新しいドキュメントを正しく*

PDF / A-1b変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF / A-1b中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。 変換。

- PDFドキュメントには、埋め込まれていない、標準ではないシステムフォントが含まれています。 のみ標準14 PDFフォント 埋め込むことができます。非標準のシステムフォントは 埋め込まれていません。
  - **回避策**： 有る これを修正してからPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません 異なるフォントを使用します。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーはすべき PDF / A変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアしてください。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーはすべき PDF / A変換を実行する前に、ユーザー権限をクリアしてください。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Aへの変換 デジタル署名を無効にします。

- **回避策**：ユーザーはすべき PDF / Aを実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除します 変換。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。 多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、ページがあります 正しくレンダリングされません。
  - **回避策**：ユーザーは 無効なページを削除できます。

既存のドキュメントがPDF / A-1bに準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / A-1bに準拠しているドキュメントを開くと、青い通知が表示されます 「このドキュメントはPDF / A-1b準拠としてタグ付けされています」と表示されます PDFStudioウィンドウの下部にあります。 PDF / A-1bも確認できます ドキュメントのプロパティダイアログでのコンプライアンス。

1. に移動します **[ファイル]タブ> [プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（Macの場合はCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅にあります 次の場合に「はい」と表示される「PDF / A」ラベルになります ドキュメントはPDF / A-1bコンプライアンス基準を満たしています

プリフライト検証の使用

また、使用することができますPDF / A-1bプリフライト 検証 ドキュメントがPDF / A-1bに準拠していることを確認する 標準

手頃な価格の強力なPDFソフトウェア/ Windows、macOS、Linux用のPDFエディター

Copyright©2002-現在のQoppaソフトウェア。全著作権所有。

PDFからPDF/X-3への変換

PDF Studioには、PDF/X-3形式のファイルを変換する機能があります。 PDF / X-3は、ISOPDF仕様の厳密なサブセットです。標準のPDFファイルには適用されない一連の印刷関連の要件。これらは行われますドキュメントが保存されたときとまったく同じように印刷されることを意図して。PDF/X-3は受け入れます 校正済み RGB と CIELAB PDF / X-1aの他の制限のほとんどを保持しながら、色。

PDFに変換する場合、Studioは、ドキュメントに次の変更を加えることにより、PDFをPDF/X-3形式に変換しようとします。

- ベクトル（パスとテキスト）およびラスター（画像）グラフィックスオブジェクトの色および/または色空間は、PDF/X出力インテントのカラープロファイルと互換性があるように変換できます。
- フォントが埋め込まれます
- 透明度が削除されます
- 注釈は削除またはフラット化される場合があります
- JavaScript（主にフォームで使用）は削除されます
- 画像のエンコード/圧縮タイプは変更される可能性があります

PDFをPDF/X-3に変換する方法

1. 変換したいPDFドキュメントを開きます
2. に移動します**タブを変換**> **PDF / X> PDF / X-3** メニューに
3. ドキュメントに加えられる変更を示すダイアログが表示されます
4. ドキュメントを保存するファイル名と場所を選択します
5. [保存]をクリックして、ドキュメントをに変換します PDF / X-3

プリフライト変換中に問題が発生した場合、修正できなかったコンテンツアイテムを示す結果リストが表示されます。変換が正常に完了すると、問題リストは表示されず、新しく変換されたドキュメントが開きます。

PDF/X変換結果

PDF Studioはすべてのファイルを変換しようとしますが、PDF / X-3の要件により、一部のファイルは変換できない場合があります。変換が失敗した場合、変換が失敗した理由を示すダイアログが表示されます。

結果リスト -選択したプロファイルで変換されなかったドキュメント内のコンテンツを一覧表示します。

-PDFStudioで修正できなかったアイテム。

-のユーザー設定のために修正されなかったアイテムPDF/X設定。

拡大 -結果ツリーを展開して、すべてのプリフライトエラー結果を表示します

崩壊 -結果ツリーを折りたたんで、飛行前のエラーカテゴリのみを表示します

印刷 -プリフライト結果リストに表示されているとおりにツリー全体を印刷します

ノート：変換が成功すると、変換プロセスが完了し、新しいドキュメントが正しく保存されたため、ダイアログは表示されません。

PDF / X-3変換でサポートされていない機能：

以下は、PDF/X-3変換中にエラーを引き起こす可能性のある機能のリストです。

- PDFドキュメントには、システムに存在しない非埋め込みフォントが含まれています
  - **回避策**：これを修正してから、別のフォントを使用してPDFドキュメントを再作成するための回避策はありません。
- PDFドキュメントは、パスワードと権限で保護/暗号化されています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / X変換を実行する前に、ドキュメントのセキュリティをクリアする必要があります。
- PDFドキュメントではユーザー権限が有効になっています。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF/X変換を実行する前にユーザー権限をクリアする必要があります。
- PDFドキュメントにはデジタル署名が含まれています。 PDF / Xに変換すると、デジタル署名が無効になります。
  - **回避策**：ユーザーは、PDF / X変換を実行する前に、デジタル署名フィールドをクリアまたは削除する必要があります。
- PDFドキュメントには、サポートされていないPDFコマンドまたは演算子が含まれています。多くの場合、これらのドキュメントはPDF Studioでレンダリングできないか、正しくレンダリングされないページが含まれます。
  - **回避策**：ユーザーが無効なページを削除できる場合があります。

既存のドキュメントがPDF/X-3に準拠していることを確認します

ドキュメントまたはドキュメントのプロパティの表示

PDF / X-3準拠のドキュメントを開くと、「このドキュメントはPDF/X-3準拠としてタグ付けされています」という青い通知がPDFStudioウィンドウの下部に表示されます。ドキュメントのプロパティダイアログでPDF/X-3への準拠を確認することもできます。

1. に移動**[ファイル]タブ>[プロパティ]** メニューから、またはショートカットキーCtrl + D（MacではCmd + D）を使用します。
2. [全般]タブをクリックします
3. 一般的なドキュメントプロパティの右下隅に、ドキュメントがPDF/X-3コンプライアンス基準を満たしている場合に「はい」と表示される「PDF/X」ラベルがあります。

飛行前検証の使用

また、使用することができますPDF/X-3プリフライト検証 ドキュメントがPDF/X-3標準に準拠していることを確認する

新しいアクションを作成する

カスタムアクションを作成して、PDFに対して実行する必要のある一連のルーチンタスクを自動化することにより、PDFStudioで実行される作業を合理化できます。アクションが作成されると、シングルクリックで開始して単一（または複数）のドキュメントを処理できます。

保存されたアクションは、を使用してエクスポートおよびインポートすることもできますアクションの管理 他の人と共有する必要がある場合。

新しいアクションシーケンスを作成する方法

1. に移動**[ファイル]タブ>[アクションウィザード]** をクリックします 新しいアクションを作成して、新しいアクションウィザードを開きます
2. 処理するファイルを選択します
   - デフォルトで現在開いているファイル：現在開いているファイルを使用してアクションを開始します
   - 単一ファイル：アクションの処理を開始する特定のファイル
   - フォルダ：指定されたフォルダで見つかったすべてのPDFファイルに対するアクションの処理を開始します
3. 左側のツールリストからツールを選択し、をクリックします**追加>** アクションにステップを追加するには
4. 選択したアクションに使用する設定を選択します
   - 設定の指定：ツールダイアログを開き（該当する場合）、そのステップで使用するデフォルト設定を指定します
   - プロンプトユーザー：チェックすると、アクションの処理時にツール設定ダイアログがユーザーに表示されます
5. 必要に応じてツールを追加し続けます
6. 完了したら、[保存]をクリックして、新しいアクションの名前と説明を指定します

新しいアクションオプション

新しいアクションを作成するときは、次のオプションを使用できます。

処理するファイル

アクションの実行時に使用するデフォルトのファイルを選択します。何も選択されていない場合は、現在開いているファイルをデフォルトとして使用できます。必要に応じて、他のいずれかを選択することもできますサポートされているファイルタイプ 処理する（つまり、Wordファイルを PDFに変換する）。の設定に基づくファイルタイプのデフォルトの変換設定を使用してアクションが開始されると、すべてのファイルがすぐにPDFに変換されます。環境設定。

- デフォルトで現在開いているファイル：現在開いているファイルを使用してアクションを開始します
- 単一ファイル：アクションを開始するときに使用する特定のファイルを選択します
- フォルダ：指定されたフォルダで見つかったすべてのPDFファイルに対するアクションの処理を開始します

デフォルトオプション -アクションの実行時にファイルを追加するためのデフォルトのボタンの動作を定義します

- ファイルの追加-処理するファイルのリストに個々のファイルを追加するためのファイルチューザーを表示します
- フォルダの追加-ディレクトリの内容を処理するファイルのリストに追加するファイルチューザを表示します
- 開いているファイルの追加-アクションが開始される前に開いていたファイルを、処理するファイルのリストに追加します

ステップオプション

追加> -選択したツールをアクションで実行するステップのリストに移動します

設定の指定-使用可能な場合、選択したツールのアクションで使用するデフォルト設定を指定できます

ユーザーにプロンプトを表示-チェックすると、アクションのステップを完了する前にユーザーに入力を求めるプロンプトが表示されます

上に移動-選択したアクションをリストの上に移動します

下に移動-選択したアクションをリストの下に移動します

削除-選択したアクションをリストから削除します

追加するアクションツール

以下は、アクションのステップとして追加できるツールのリストです。

コメントコメント

コメントを削除：コメントをすべて削除する 現在のページまたはドキュメント全体

コメントをフラット化：コメントをフラット化 それらが属するページに直接表示されるため、編集できなくなります。

スタンプを追加： ドキュメントにラバースタンプを配置するために使用されます。

書類

OCR：スキャンしたドキュメントまたは画像にテキストを追加して、他のテキストドキュメントと同じようにドキュメントを検索またはマークアップできるようにします。

最適化：PDFファイルのサイズを小さくするために、画像を圧縮するか、オブジェクトを削除します。

プリフライト：ドキュメントがISOPDF標準で定義されているさまざまなアーカイブコンプライアンスを満たしていることを確認するためのコンプライアンス検証。

初期ビュー -PDFのバッチの初期ビュー設定を設定します

ドキュメントのセキュリティ：PDFドキュメントのパスワードと権限を変更する

署名文書：次のことができますデジタル署名 現在のPDF

サニタイズ：PDFドキュメントをサニタイズして、PDFからすべての隠された機密情報を削除します

墨消しのマーク：ドキュメントに編集注釈を追加すると、編集後にドキュメントがどのように表示されるかをプレビューできます。

墨消しを適用する：注釈を「焼き付け」、注釈の領域の下にあるドキュメントからテキスト、画像、注釈、フォームフィールド、または図面を削除します。

ページ

ページの切り抜き： あなたがすることができます作物 PDFページ

ページを削除：現在のPDFからページを削除する

ヘッダーとフッター：ヘッダーとフッターを追加または削除します

ページのサイズ変更：ページのサイズを指定したサイズに変更します。

ページを回転する：ページを90度刻みで回転させるオプション。

透かし：ドキュメントの透かしを追加または削除します

印刷-を使用して現在のドキュメントを印刷しますPDFStudioプリンターダイアログ。システム印刷ダイアログを使用するには、を参照してください。印刷設定。

スプリット：さまざまな方法でPDFドキュメントを分割するためのツール。

スキャンを修正：スキャンしたドキュメントに対してさまざまな修復機能を実行します。

に変換

画像のエクスポート：PDFドキュメントのページを次の画像形式に変換します.jpg、.png、.tif、.gif

HTML5 / SVG：PDFドキュメントをHTML5Webページに変換します。

ラスタライズ PDF-ベクトルコマンドの代わりにページの画像を使用してドキュメントを再作成します

テキストを抽出する：PDFドキュメントに含まれるすべてのテキストをプレーンテキストの.txtファイルに抽出します。

フォーム

フォームのエクスポート：現在のドキュメントのフォームデータをFDF、XFDF、XDP、またはXML形式のファイルにエクスポートします。

平らにするフォーム：フォーム内のすべてのフィールドをフラット化して、編集できなくなるようにします。

リセットフォーム：フォームのすべてのフィールドのデータをリセットします

保存

保存：ドキュメントを保存します

名前を付けて保存：新しいファイルを使用してドキュメントを保存します